

Tokushima University

ラーニングライフ

第9回学生の学修に関する実態調査報告書



令和6年3月
徳島大学

まえがき

「ラーニングライフー第9回学生の学修に関する実態調査報告書ー」をお届けいたします。徳島大学では、これまでほぼ2年ごとに「学生生活に関する実態調査」を行い、学生の生活全般にわたる状況を調査・報告し教育や学生指導に役立ててきました。これに加え、16年前から「学生の学習に関する実態調査」（平成28年度実施分からは「学生の学修に関する実態調査」に変更）を実施し、本年度は第9回目の調査結果報告となります。なお、本調査は令和2年から実施形態を見直し、大学IRコンソーシアムの学生調査と合同して学部1年生及び3年生を対象に毎年実施しております。

本報告書は、徳島大学における学修環境や修学の実態に関する包括的な調査の結果をまとめたものであり、大学生活において学生が直面する様々な課題や期待に焦点を当てています。この調査は、学生の学習環境、学業への取り組み、サポート体制の充実度などを包括的に評価し、徳島大学全体の学修環境の向上に寄与することを目的としています。

そのことから、本報告書では、学生自身のこと・全般的な学修状況・英語の学修状況・大学生活に対する考えや満足度・入学前について（1年生）・将来について（3年生）等全体で152項目の質問により調査されたアンケート結果をまとめています。続いて、それらの結果の分析から明らかになった各学部の現状と課題、提言により構成されています。

令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行し、やっとコロナ前の日常がキャンパスに戻ってきました。しかし、今回のアンケート結果も昨年度と同様に少なからず4年間続いたコロナ禍の影響を受けているものと感じます。

ポストコロナ時代における高等教育では、オンライン教育の深化、ハイブリッド教育の普及、AIやARのデジタル技術の活用、学修経路の個別化、グローバル教育の変容などが期待されます。学生の学修をより深め、学びの質を高めるように、本学においても柔軟性、アクセシビリティ、技術活用の面で、教職員一同が連携して取り組んで参ります。

本調査の実施ならびに報告書の作成にあたり、教育の質に関する専門委員会及び高等教育研究センター教育改革推進部門の先生方、及び学務部職員の皆様にはアンケート項目の設定にはじまり、調査の実施、集計、結果の分析まで精力的に遂行し、報告書としておまとめいただきました。教育の質に関する専門委員会委員長常山幸一教授をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。併せて、調査にご協力下さいました学生の皆様に感謝いたします。本報告書が徳島大学の発展と共に進化する学修環境に向けた一歩となることを願っております。

徳島大学理事（教育担当）副学長
大学教育委員会委員長
河野文昭

目 次

まえがき	1
------	---

序 章 学生の学修に関する実態調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査の組織	3
3 調査の対象及び方法	3
4 調査の時期	3
5 調査の内容	3
6 調査票の回収状況	4
7 図中の%表示	4
令和5年度 学生の学修に関する実態調査回答率	5

第1章 設問・調査結果

1 1年生調査 設問	6
2 1年生調査 結果	19
3 3年生調査 設問	110
4 3年生調査 結果	123

第2章 学部等の現状と課題

1 総合科学部	214
2 医学部医学科	216
3 医学部医科栄養学科	218
4 医学部保健学科	221
5 歯学部	223
6 薬学部	231
7 理工学部	235
8 生物資源産業学部	239
9 教養教育（全学共通教育）	243
10 FD（Faculty Development）の観点から	247
11 eラーニング	249
12 附属図書館	252

第3章 まとめと提言	254
------------	-----

序章 学生の学修に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の組織

教育の質に関する専門委員会委員の次の委員及び高等教育研究センター教育の質保証支援室が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	部局	職名
委員長	常山 幸一	医学部	教授
委員	山口 裕之	総合科学部	教授
委員	工藤 保誠	歯学部	教授
委員	石田 竜弘	薬学部	教授
委員	石田 徹	理工学部	教授
委員	田井 章博	生物資源産業学部	教授
委員	渡部 稔	教養教育院	教授
委員	吉田 博	高等教育研究センター	准教授
委員	松浦 健二	情報センター	教授
委員	吉永 哲哉	医学部	教授
委員	赤川 貢	医学部	教授
	塩川 奈々美	高等教育研究センター	助教

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する1年生（1,435人）及び3年生（1,310人）（令和5年10月1日に在籍するものから留年・休学・退学者を除いたもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会委員の協力を得て調査票を配布し、教務システム上（Web）で実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和5年10月1日から10月31日まで実施し、10月1日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学生の学修意識や学修に関する実態を把握する目的に基づき、IRコンソーシアムの学生調査項目及び「教育の質に関する専門委員会」委員・高等教育研究センター教育改革推進部門が作成した、全152項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者1年生1,435人及び3年生1,310人のうち回答数は、1年生860人及び3年生734人で、回収率は1年生60%及び3年生56%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。
択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

令和5年度 学生の学修に関する実態調査回答率

1年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	93	170	55%
医学部医学科	105	116	91%
医学部医科栄養学科	36	53	68%
医学部保健学科（看護）	66	73	90%
医学部保健学科（放射）	39	39	100%
医学部保健学科（検査）	19	20	95%
歯学部歯学科	20	37	54%
歯学部口腔保健学科	8	15	53%
薬学部薬学科	76	89	85%
工学部理工学科（数理科学）	28	31	90%
工学部理工学科（自然科学）	15	39	38%
工学部理工学科（社会基盤デザイン）	38	104	37%
工学部理工学科（機械科学）	79	134	59%
工学部理工学科（応用化学システム）	60	90	67%
工学部理工学科（電気電子システム）	27	123	22%
工学部理工学科（知能情報）	38	98	39%
工学部理工学科（光システム）	17	55	31%
工学部理工学科（医光/医工融）	26	33	79%
生物資源産業学部	70	110	64%
合計	860	1435	60%

3年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	70	169	41%
医学部医学科	108	114	95%
医学部医科栄養学科	41	49	84%
医学部保健学科（看護）	68	70	97%
医学部保健学科（放射）	36	36	100%
医学部保健学科（検査）	15	16	94%
歯学部歯学科	28	40	70%
歯学部口腔保健学科	8	15	53%
薬学部薬学科	67	77	87%
薬学部創製薬科学科	1	4	25%
工学部理工学科（社会基盤デザイン）	42	87	48%
工学部理工学科（機械科学）	53	124	43%
工学部理工学科（応用化学システム）	41	70	59%
工学部理工学科（電気電子システム）	38	109	35%
工学部理工学科（情報光）	41	165	25%
工学部理工学科（応用理数）	40	61	66%
生物資源産業学部	37	104	36%
合計	734	1310	56%

※理工学部の学生数には、夜間主の学生数も含まれています。

1年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30分未満
2. 30分以上－1時間未満
3. 1時間以上－1時間30分未満
4. 1時間30分以上－2時間未満
5. 2時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱんにあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんぱんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1
[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1

[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全 然 な い	1 時 間 未 満	1 2 時 間	3 5 時 間	6 10 時 間	11 15 時 間	16 20 時 間	20 時 間 以 上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく 増えた	増えた	変化 なし	減った	大きく 減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1

[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1
[62]	職業人・社会の一員として求められる倫理観	5	4	3	2	1
[63]	生涯学び続け、教養・専門性を高める能力	5	4	3	2	1
[64]	必要な情報を収集・取捨選択する能力	5	4	3	2	1
[65]	データを読み、理解し、活用する能力	5	4	3	2	1
[66]	新しいことに積極的に挑戦する姿勢	5	4	3	2	1
[67]	ストレスに対処する能力	5	4	3	2	1
[68]	柔軟に発想し、表現する能力	5	4	3	2	1

[69] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[70] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

1. 一般知識・教養
2. 専門的知識
3. 課題発見・解決力
4. チームで目標を達成するマネジメント能力
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力
7. 語学力
8. 情報機器を活用する力
9. 論理的な文章を書く能力

[71] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[72] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献(電子版含む)
6. 講義ノート

[73] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[74] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)


1. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
2. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
3. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
4. 自分の興味あるテーマの探究
5. 資格取得や受験に備えた学修
6. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等
7. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない

[75] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

[76] 聞く力		①入学時	②現在	
		↓	↓	
レベル 低  高	A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1	1
	A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2	2
	B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3	3
	B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4	4
	C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5	5

C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6	6
----	--	---	---

〔77〕 読む力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	2	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。	3	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。	5	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6	6

〔78〕 会話力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けるのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8	8

〔79〕 表現力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にことめさせることができる。	6	6

〔80〕 書く力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3

B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4		4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5		5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6		6

[81] どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールを利用している
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
4. TOEIC、TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して勉強している
5. TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
8. 特に何もしていない

[82] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[83] 徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門教育の英語の時間を増やしてほしい
7. 専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
8. 専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いづらか うまく いった	あまり うまくいか なかった	まったく うまくいか なかった
--	-------------------	--------------------	----------------------	-----------------------

[84]	大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[85]	大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[86]	効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[87]	大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1
[88]	時間を効果的に使う	4	3	2	1
[89]	大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[90]	他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
[91]	自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[92]	日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[93]	現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[94] あなたの学生生活は充実していますか。

4. 充実している 3. まあまあ充実している
2. あまり充実していない 1. 充実していない

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満	
[95]	共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[96]	SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業	5	4	3	2	1
[97]	初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[98]	授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[99]	日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[100]	将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[101]	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[102]	学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[103]	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1

[104]	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[105]	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[106]	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[107]	1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[108] 教養教育科目の選択はどのような基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

[109] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[110] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[111] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

[112] 教養教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

[113] 専門教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[114] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[115] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[116] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[117] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[118] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[119] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[120] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[121] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[122] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[123] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[124] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談（SSS）
2. 授業サポートナビ（各講義の参考図書、関連情報提供サービス）
3. 学修に関するイベント（講習会等）
4. 文献複写サービス 5. 本の購入リクエスト 6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談 8. 利用していない

[125] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない 4. 読書の必要性を感じない

[126] 自分の成績や成績の分布が教務システムを通して確認できるようになっていることを知っていますか。（ただし、受講者が10名以下の授業では、個人が特定されることのないよう成績分布は表示されません）。

1. 知っており、確認したことがある
2. 知っているが、確認したことはない
3. 知らない

[127] 問126で「1. 知っており、確認したことがある」を回答した人のみご回答ください。自分の成績や成績分布は、自身の成績の相対的な位置を把握することや今後の学修に役立っていますか。

1. おおいに役立っている 2. 多少は役立っている 3. 役立っていない
4. 役立っているかどうかわからない

[128] あなたの所属する学科・コース・専攻で「カリキュラムマップ」が設定されていることを知っていますか。カリキュラムマップとは、卒業に必要な授業科目の配置や学修順序等を図示したものの

で、履修の手引や徳島大学のウェブページ等で閲覧できます。

1. 知っており、見たことがある 2. 知っているが、見たことはない 3. 知らない

[129] 徳島大学で開講されている授業科目に「科目ナンバリング」が付与されていることを知っていますか。科目ナンバリングとは、学部の授業科目を識別し、学問分野や難易度等を表すために付与された番号やアルファベットのことで、学修の段階や順序を整理し、科目選択の指針として役立てることができます。シラバスに記載されており、教務システム等で確認することができます。

1. 知っており、見たことがある 2. 知っているが見たことはない 3. 知らない

[130] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
 2. 気になった時に時々確認している
 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
 5. 全く見ていない

[131] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学） 2. Manaba（全学） 3. スーパー英語（全学）
 4. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
 5. 利用したことはない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に そう思う	そう思う	どちら でもない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[132] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[133] 本学が提供しているようなeラーニングによる学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に そう思う	そう思う	どちら でもない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[134] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[135] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91 2. 90-81 3. 80-71 4. 70-61 5. 60-51 6. 50-0

[136] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1つ選んで回答してください。

1. 就職する 2. 大学院に進学する 3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する 5. 専門学校に入学する 6. まだわからない
7. その他

[137] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
4. 将来の見通しを持っていない

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

[138] あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

1. 現役 2. 浪人 3. その他（留学生、社会人など）

[139] あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

1. 第1志望だった 2. 第1志望ではなかった

[140] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方 2. 中の上くらい
3. 中くらい 4. 中の下くらい
5. 下位の方 6. その他（わからない、覚えていない、など）

あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

	ひんばん にした	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった
[141] 授業中に質問した	4	3	2	1

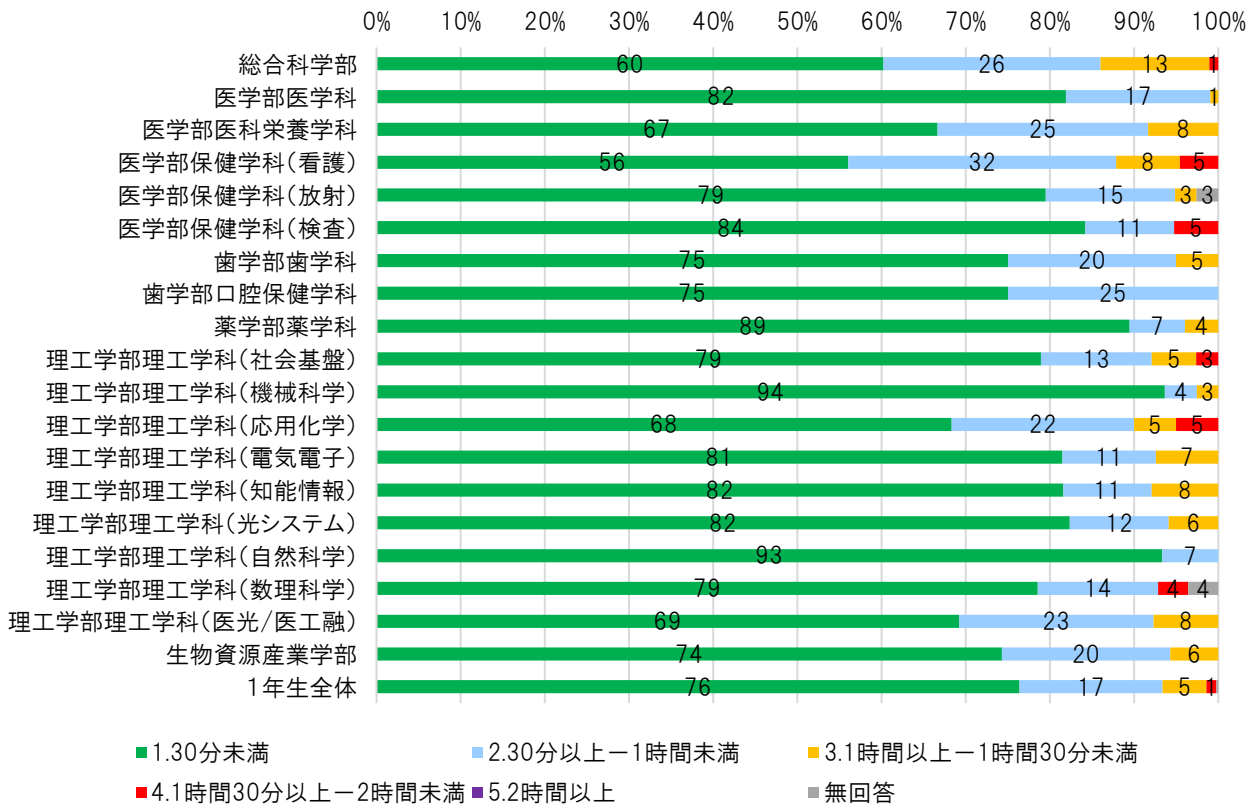
[142]	自分の意見を論理的に主張した	4	3	2	1
[143]	問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した	4	3	2	1
[144]	科学的研究の記事や論文を読んだ	4	3	2	1
[145]	自発的に作文の練習をした	4	3	2	1
[146]	インターネット上の情報が事実かどうか確認した	4	3	2	1
[147]	授業の予習や復習、宿題をした	4	3	2	1
[148]	授業以外に興味のあることを自分で勉強した	4	3	2	1
[149]	自分の失敗から学んだ	4	3	2	1
[150]	困難なことにあえて挑戦した	4	3	2	1
[151]	自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた	4	3	2	1
[152]	読書をした（マンガ・雑誌を除く）	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

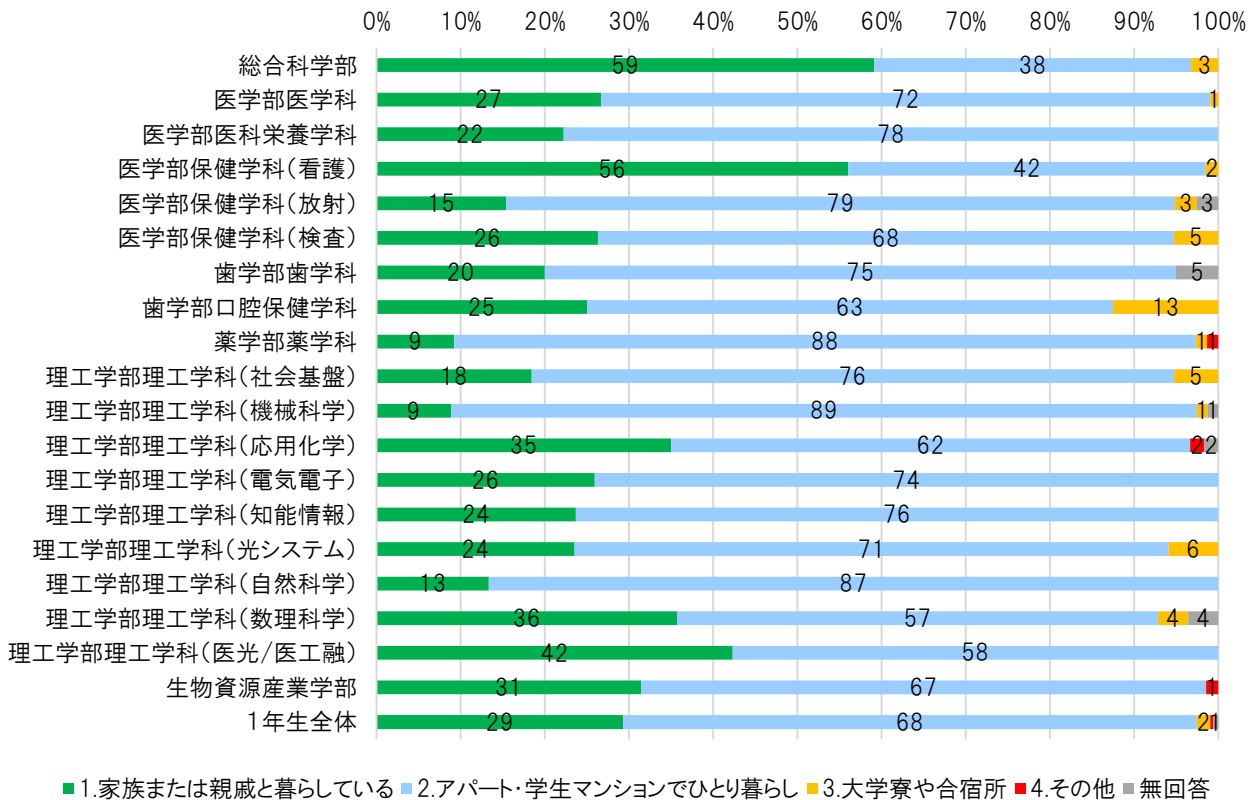
1年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[2]あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



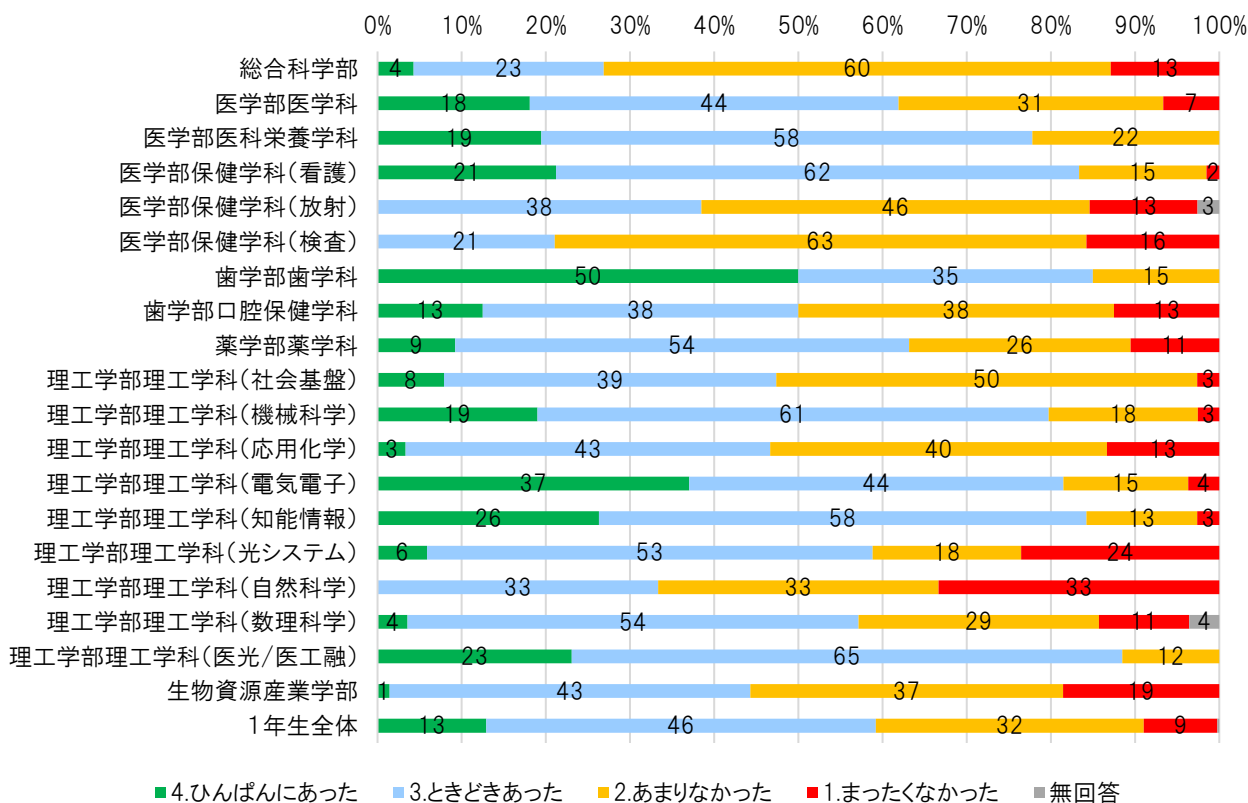
[3]あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



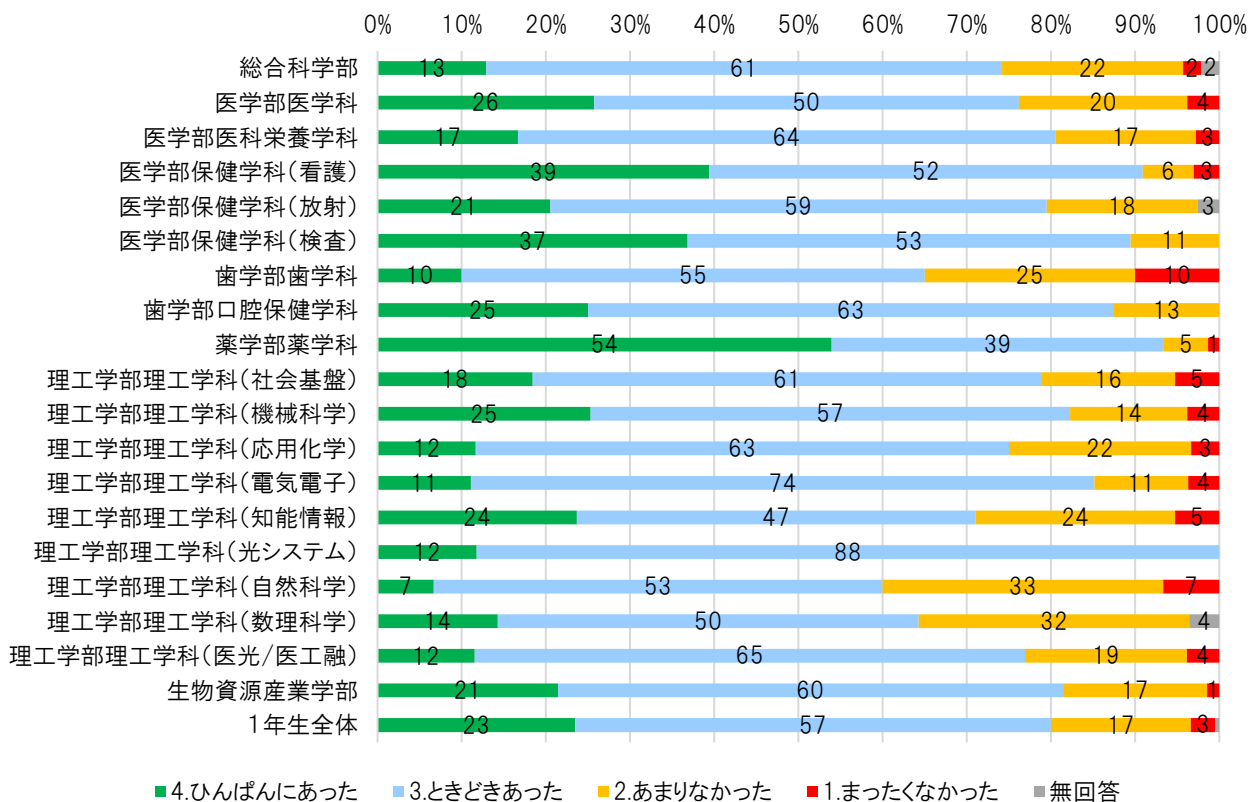
II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会は何のくらいありましたか。

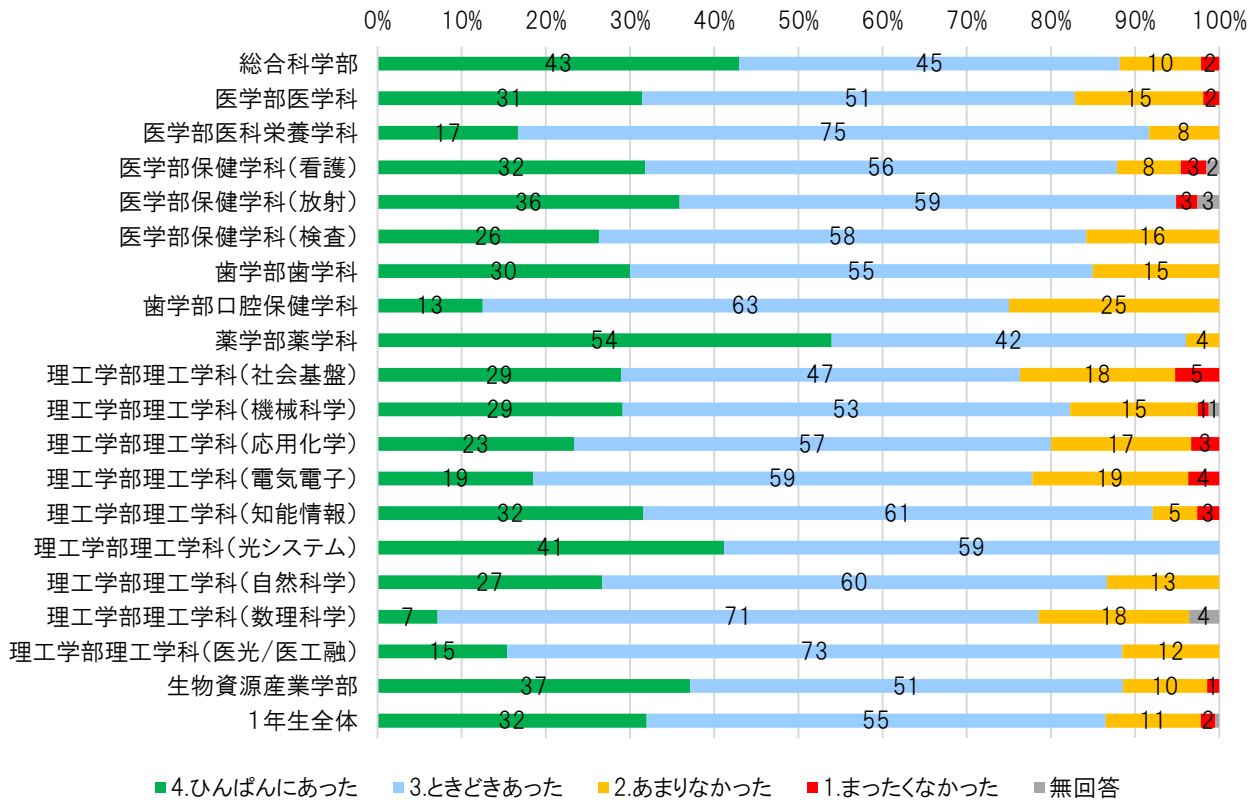
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



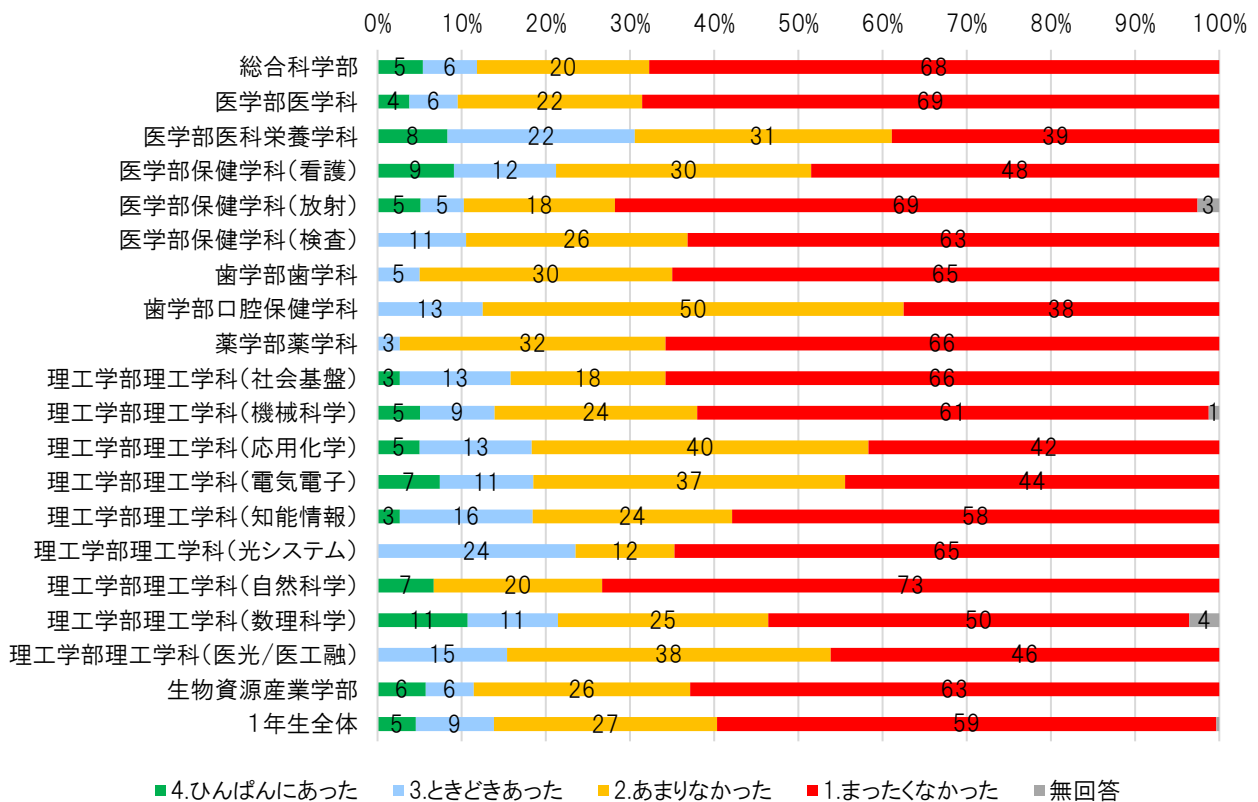
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



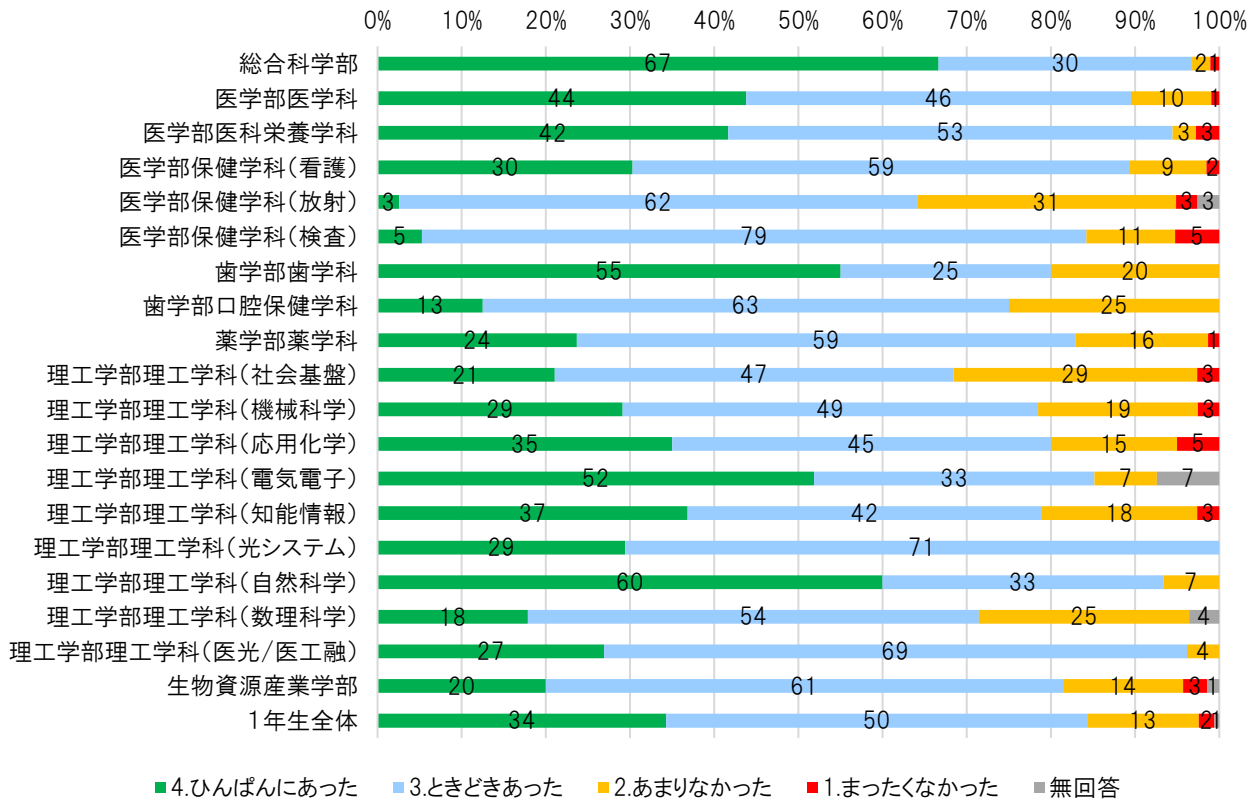
〔6〕授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



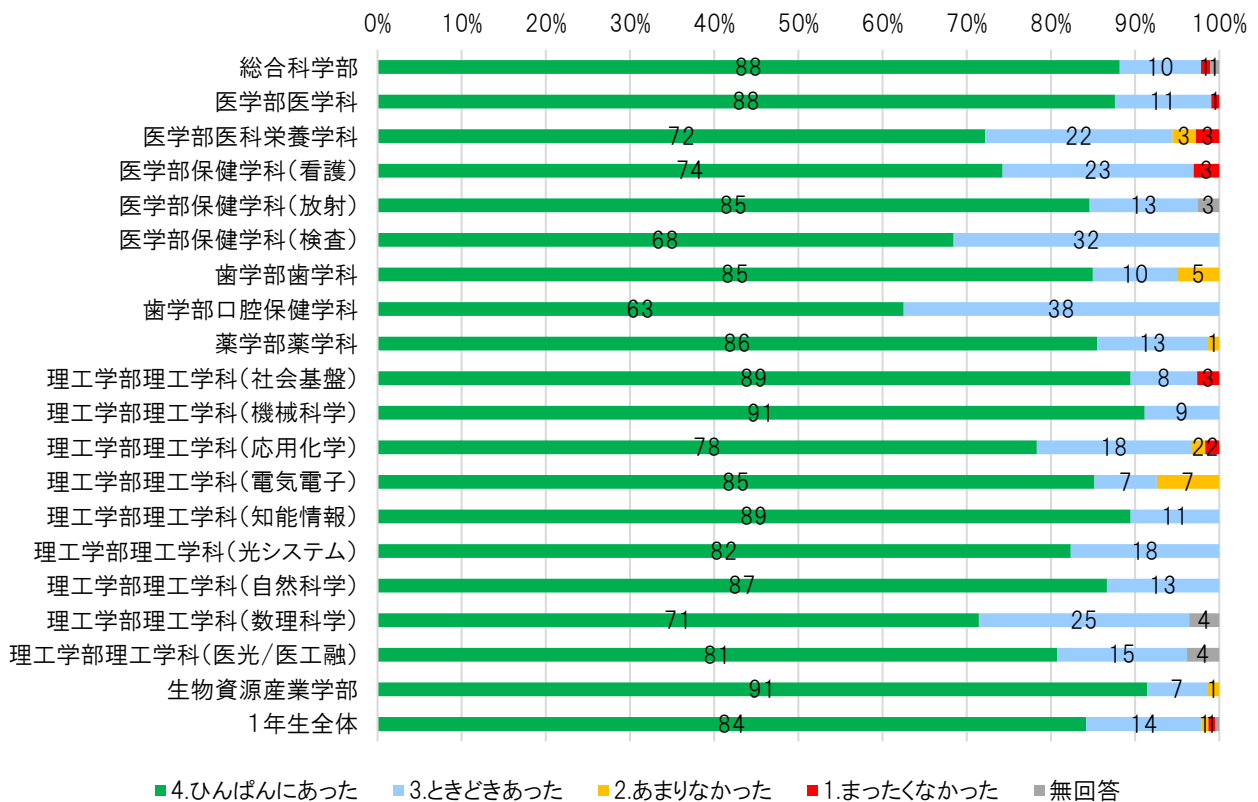
〔7〕授業の一環でボランティア活動をする



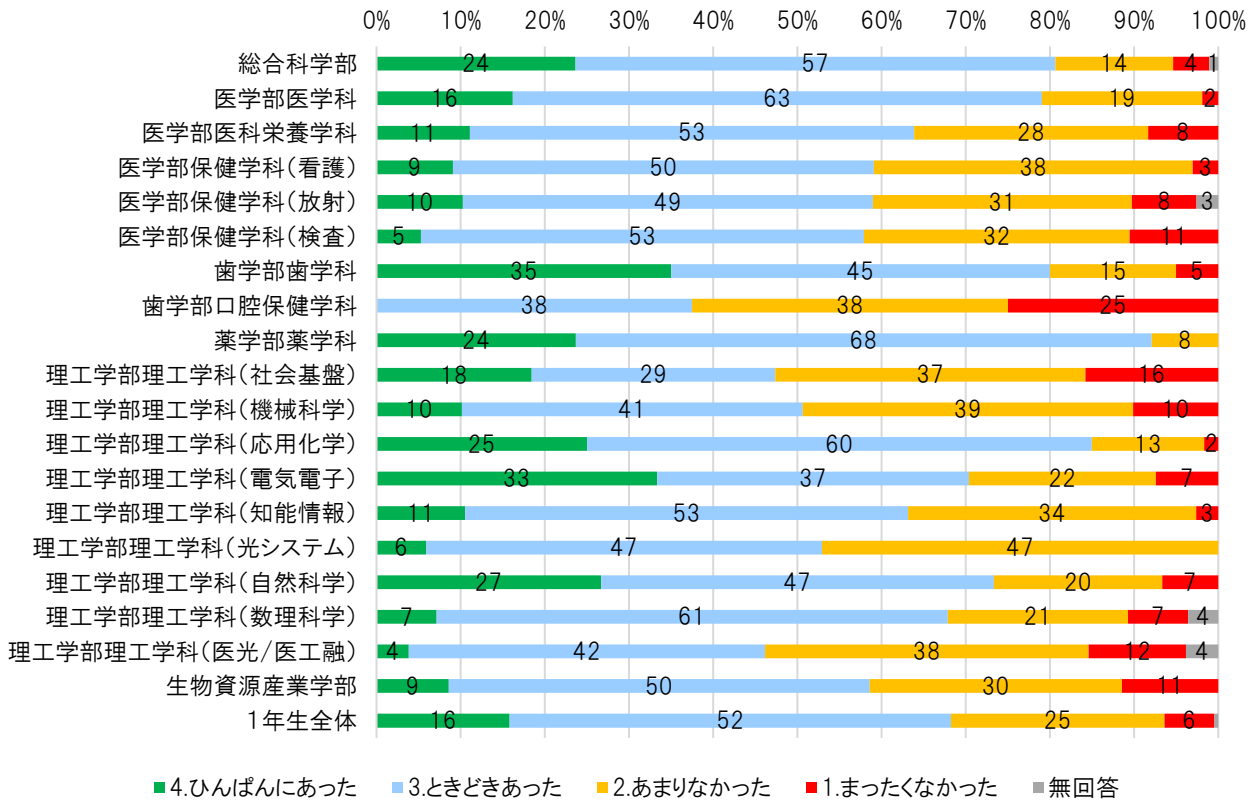
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



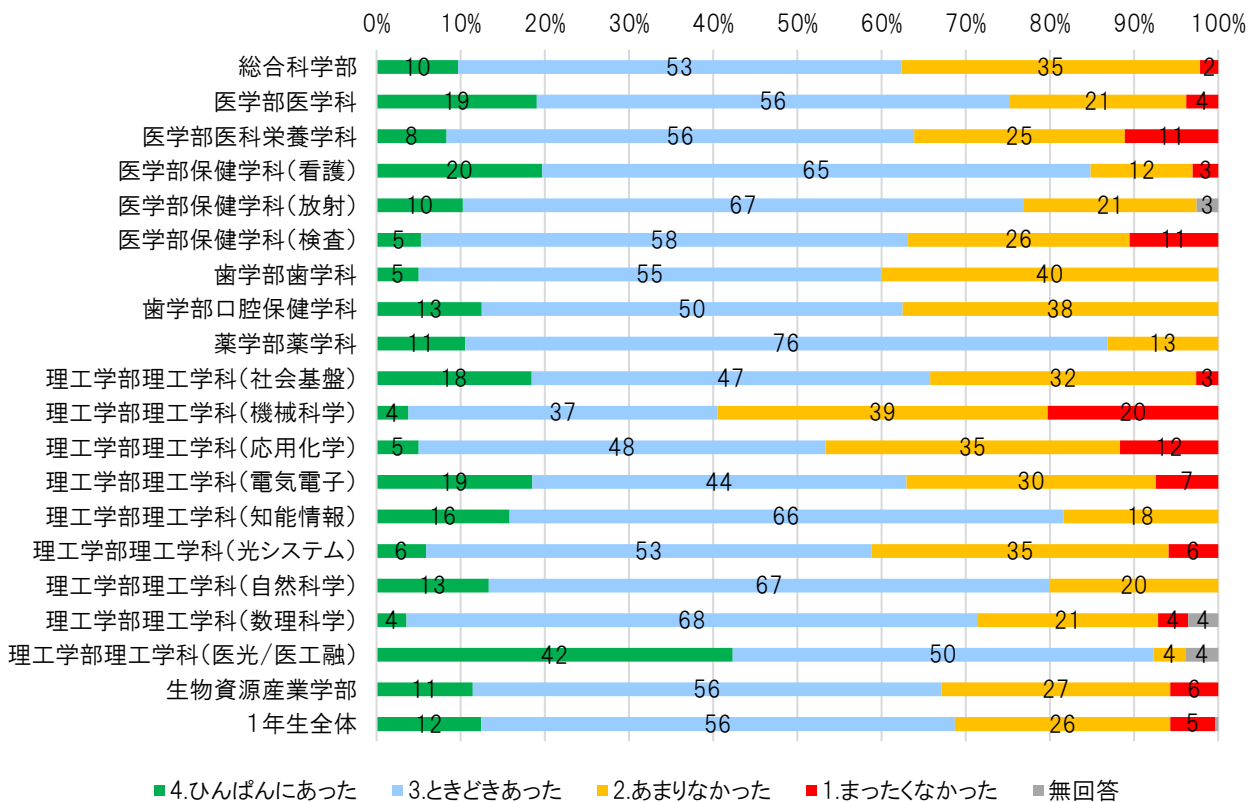
[9] 定期的の小テストやレポートが課される



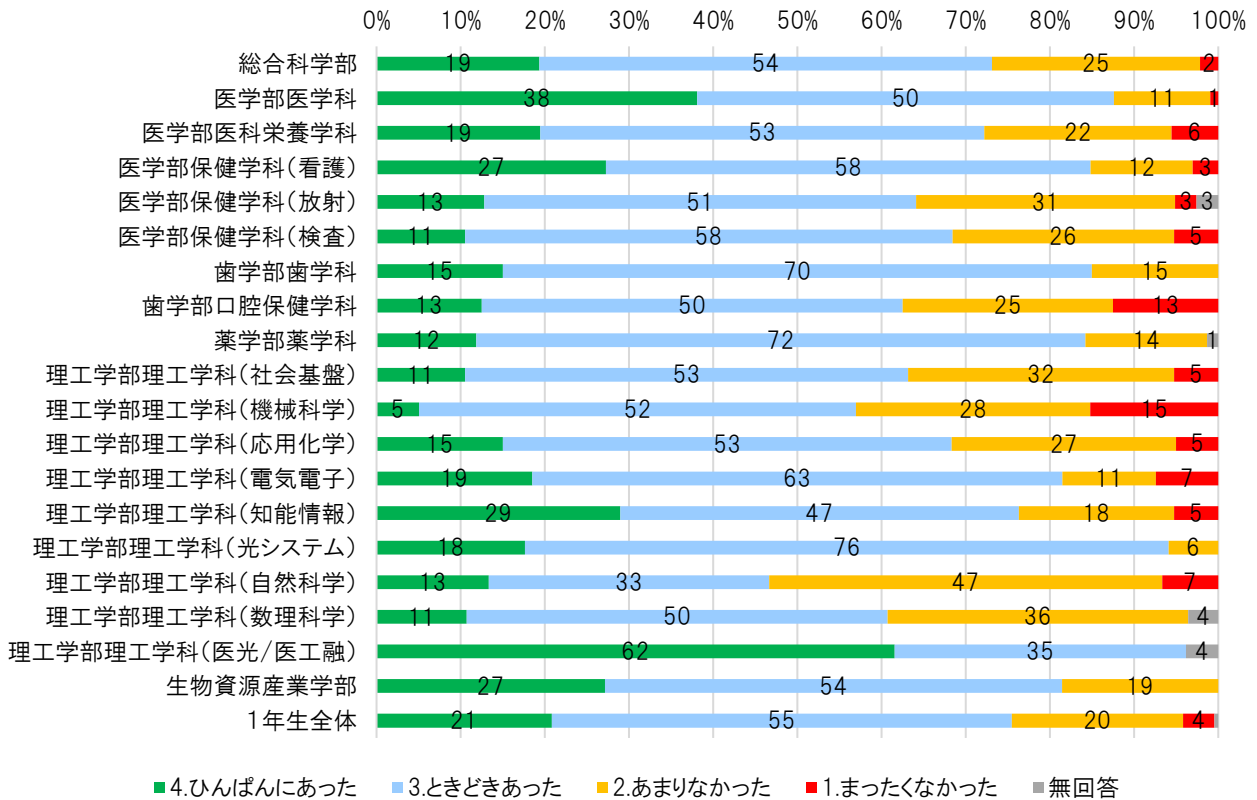
〔10〕教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



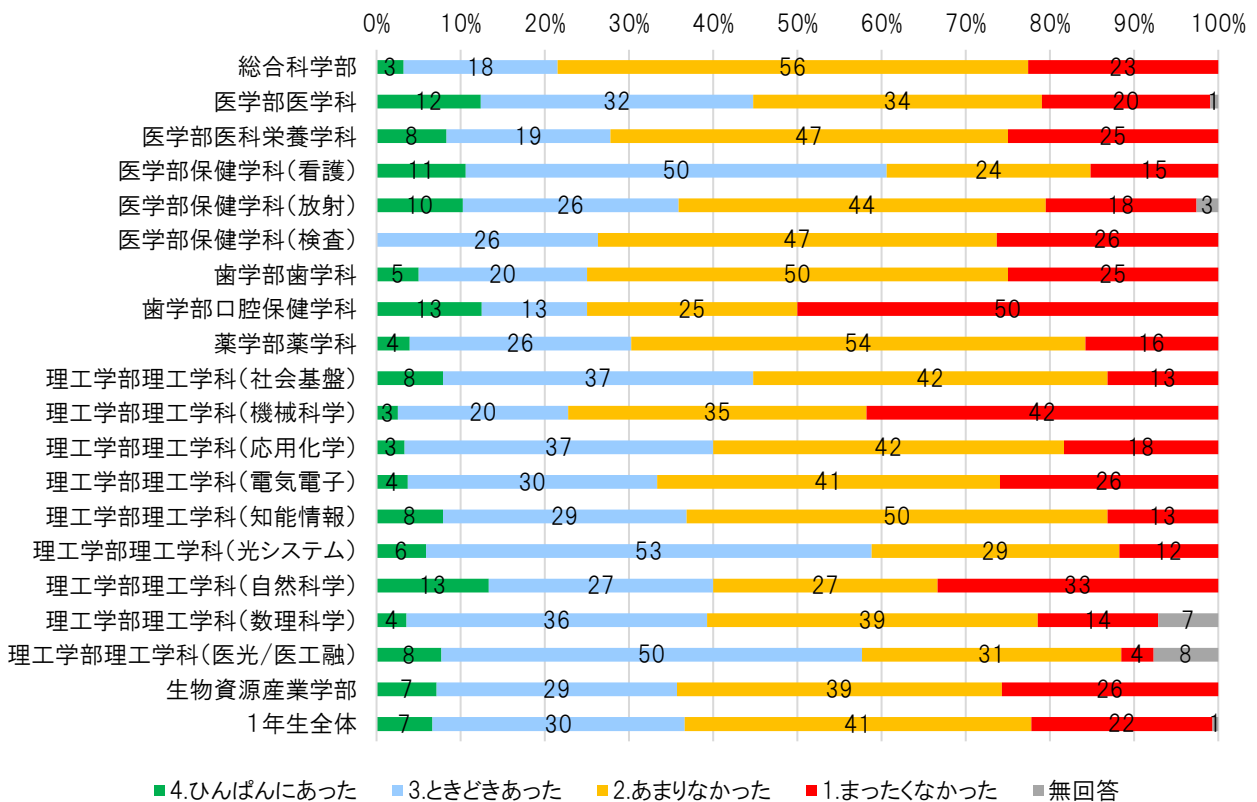
〔11〕学生が自分の考えや研究を発表する



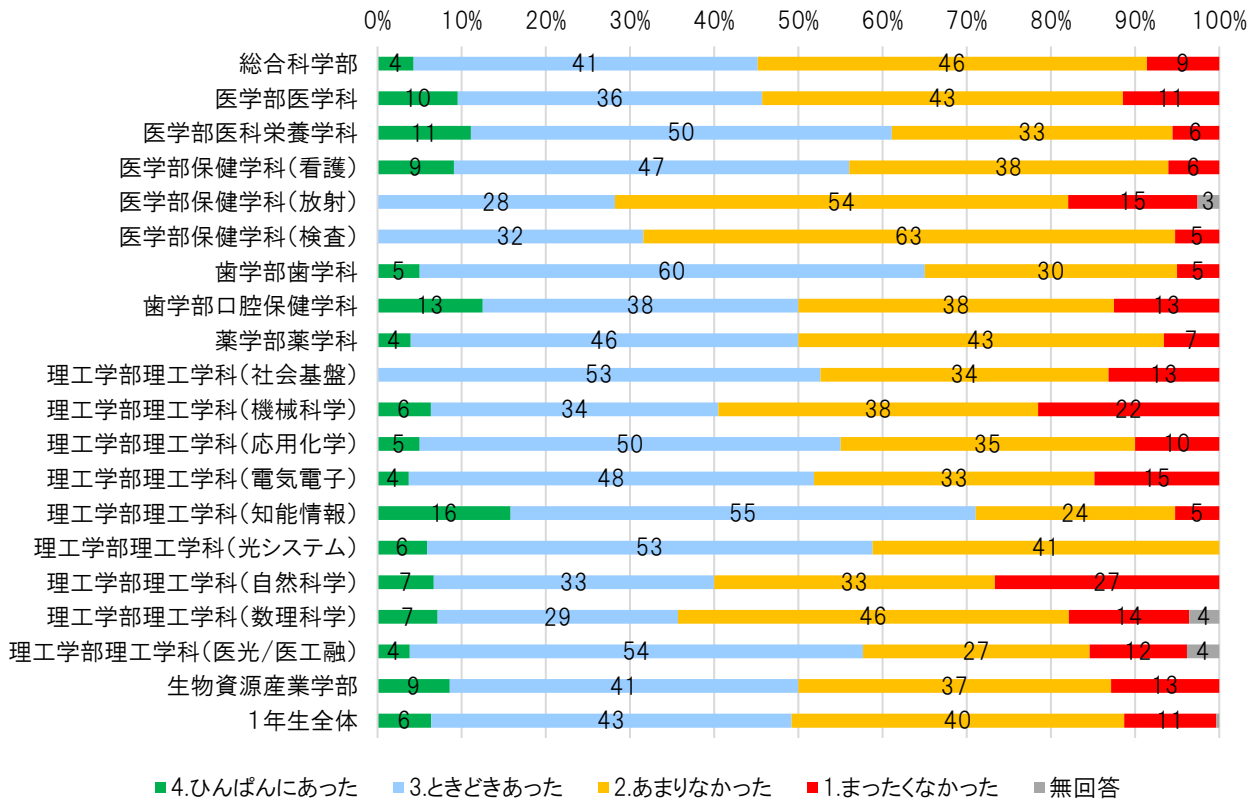
[12]授業中に学生同士が議論をする



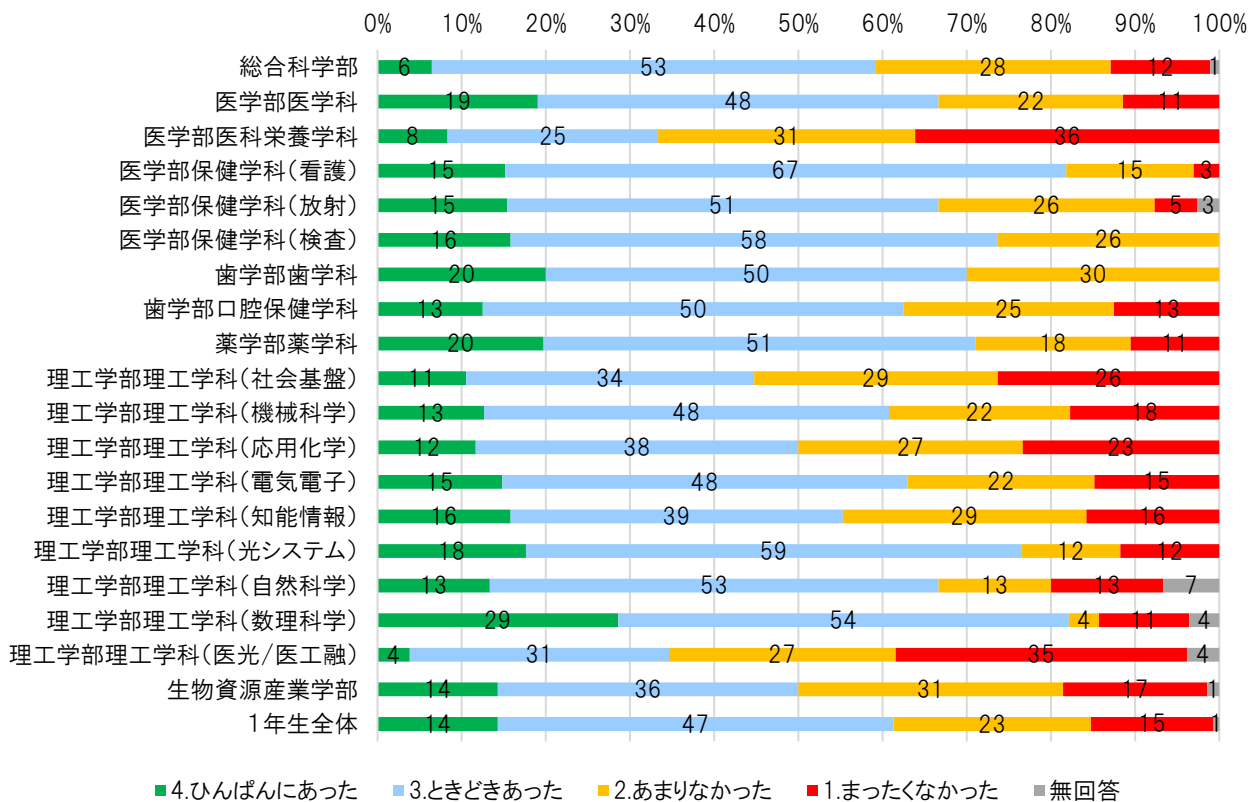
[13]授業で検討するテーマを学生が設定する



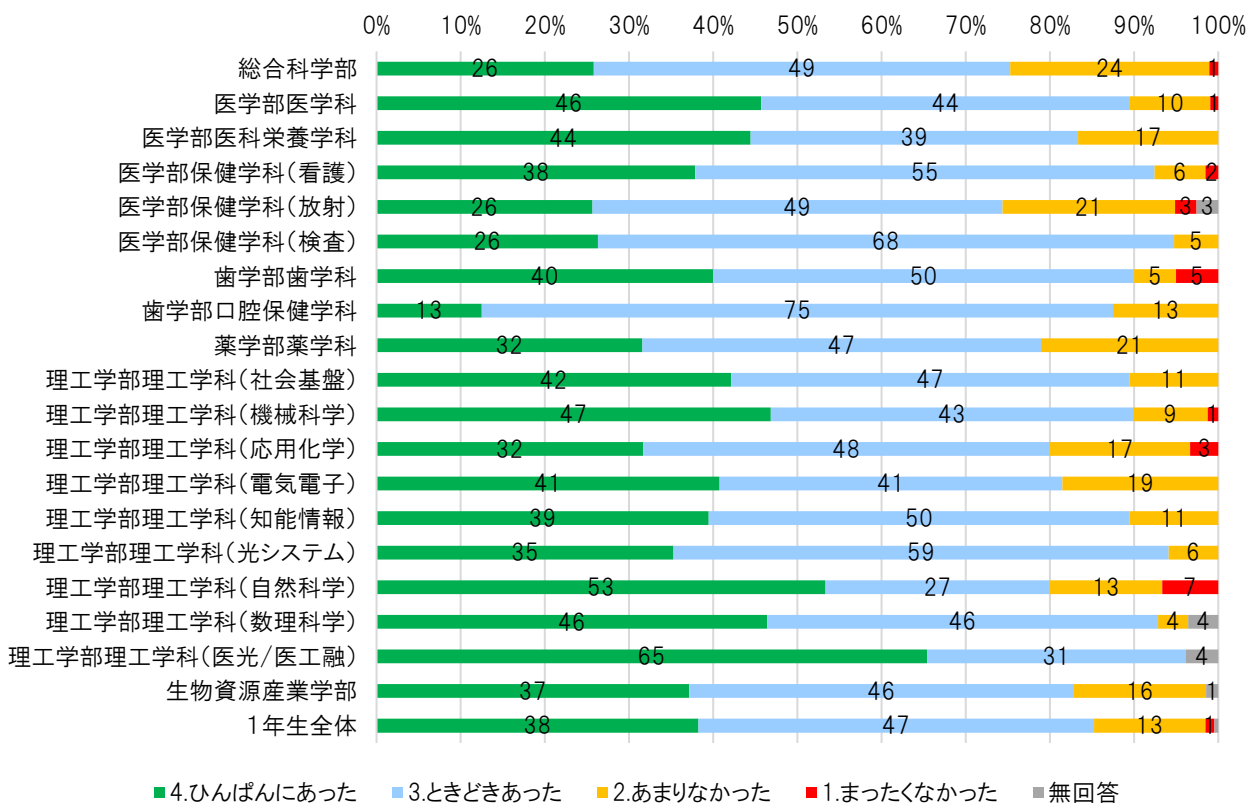
[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



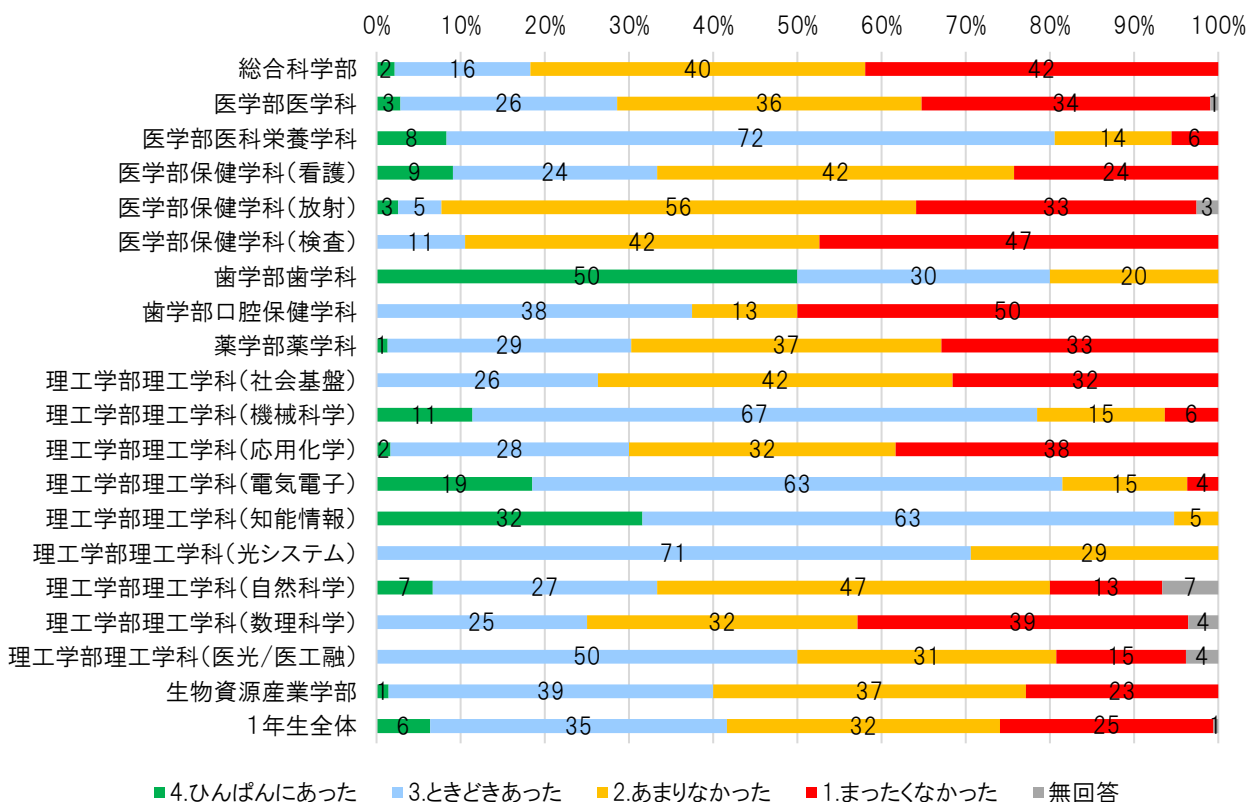
[15]取りたい授業を履修登録できなかった



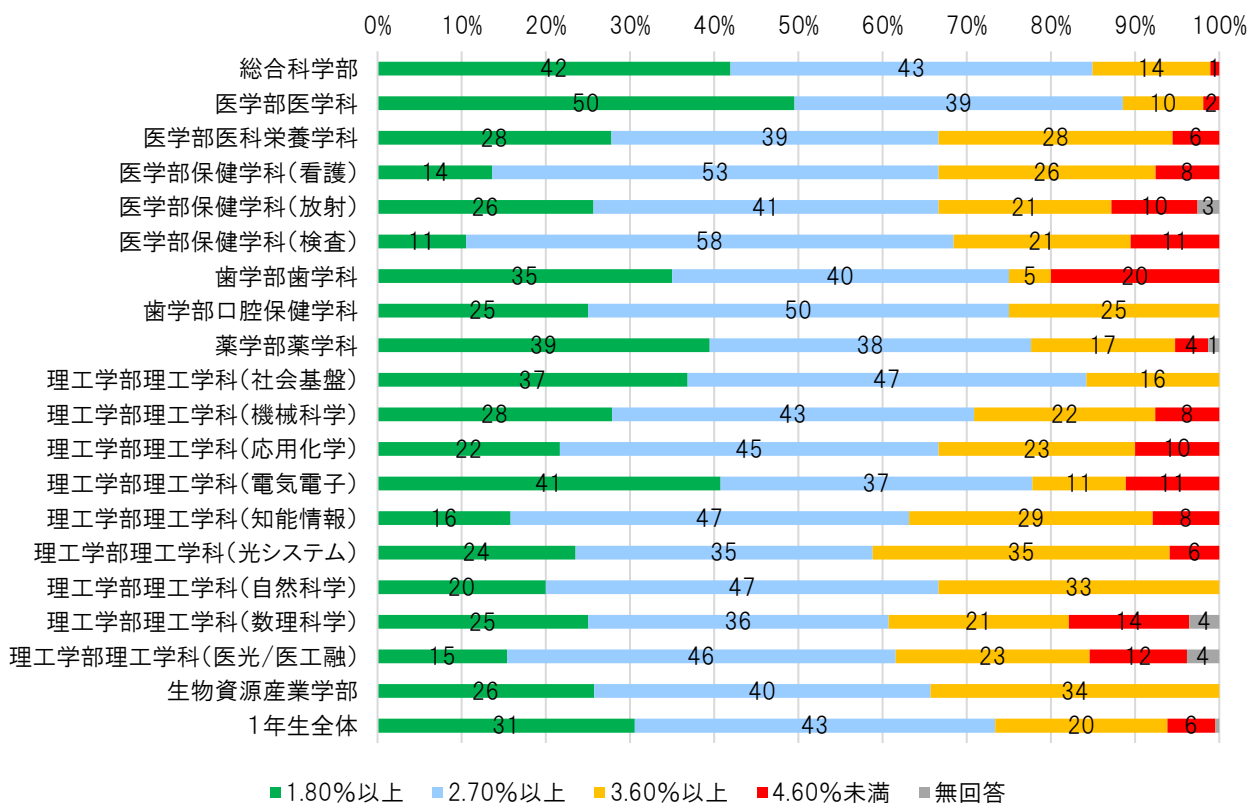
[16]出席することが重視される



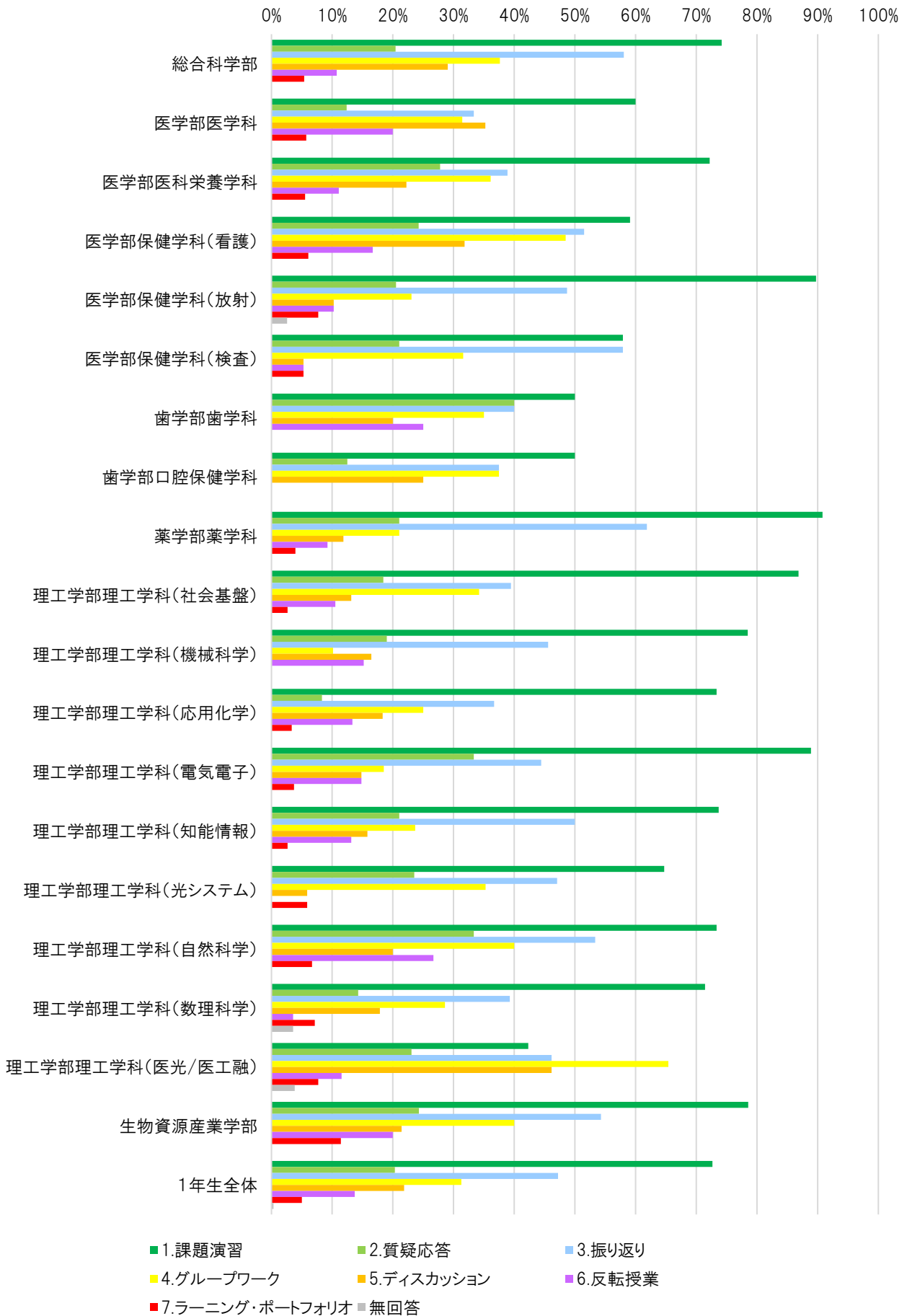
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



〔18〕授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

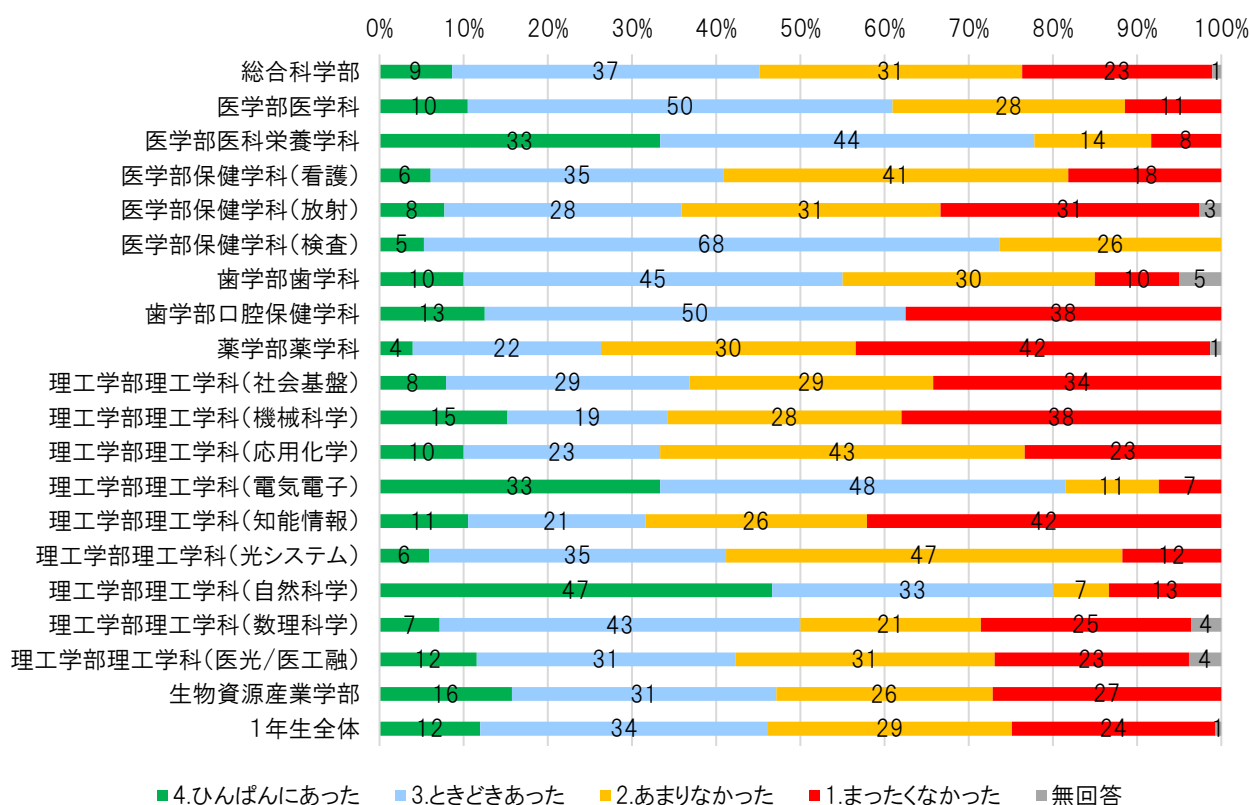


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

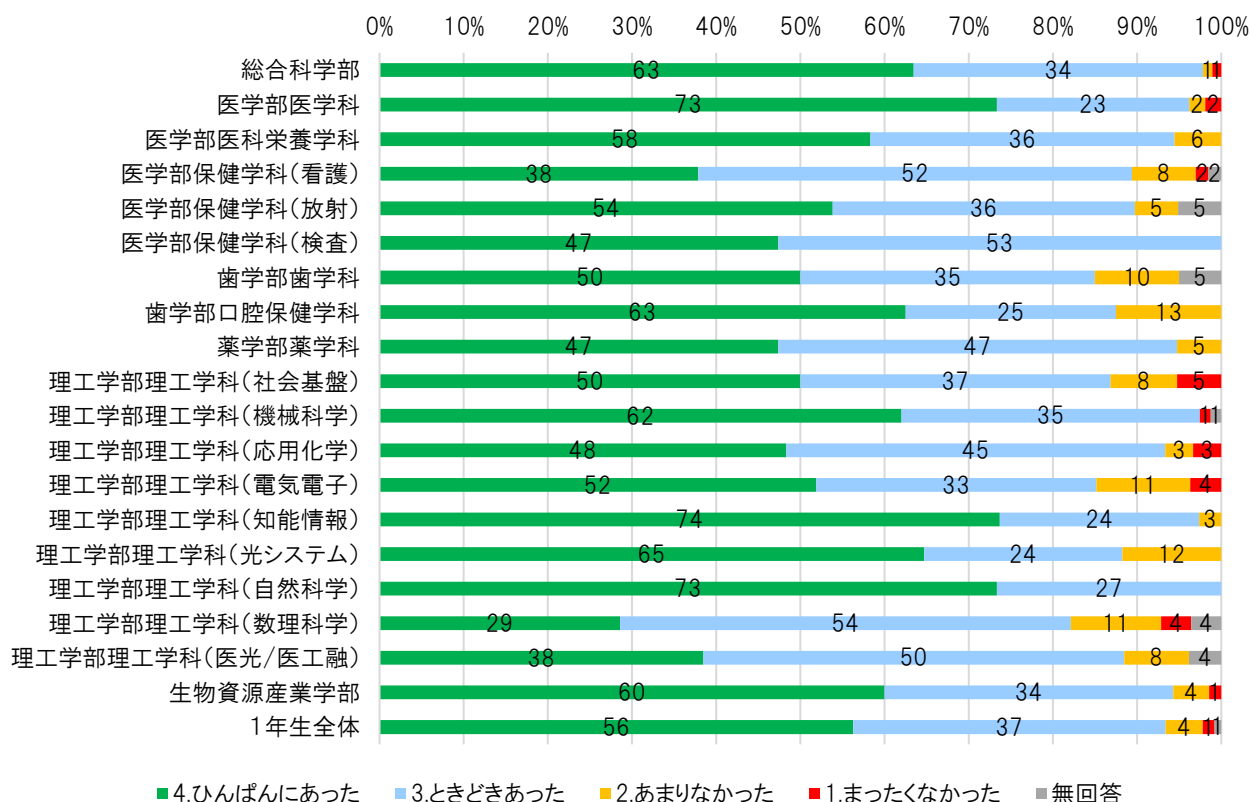


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

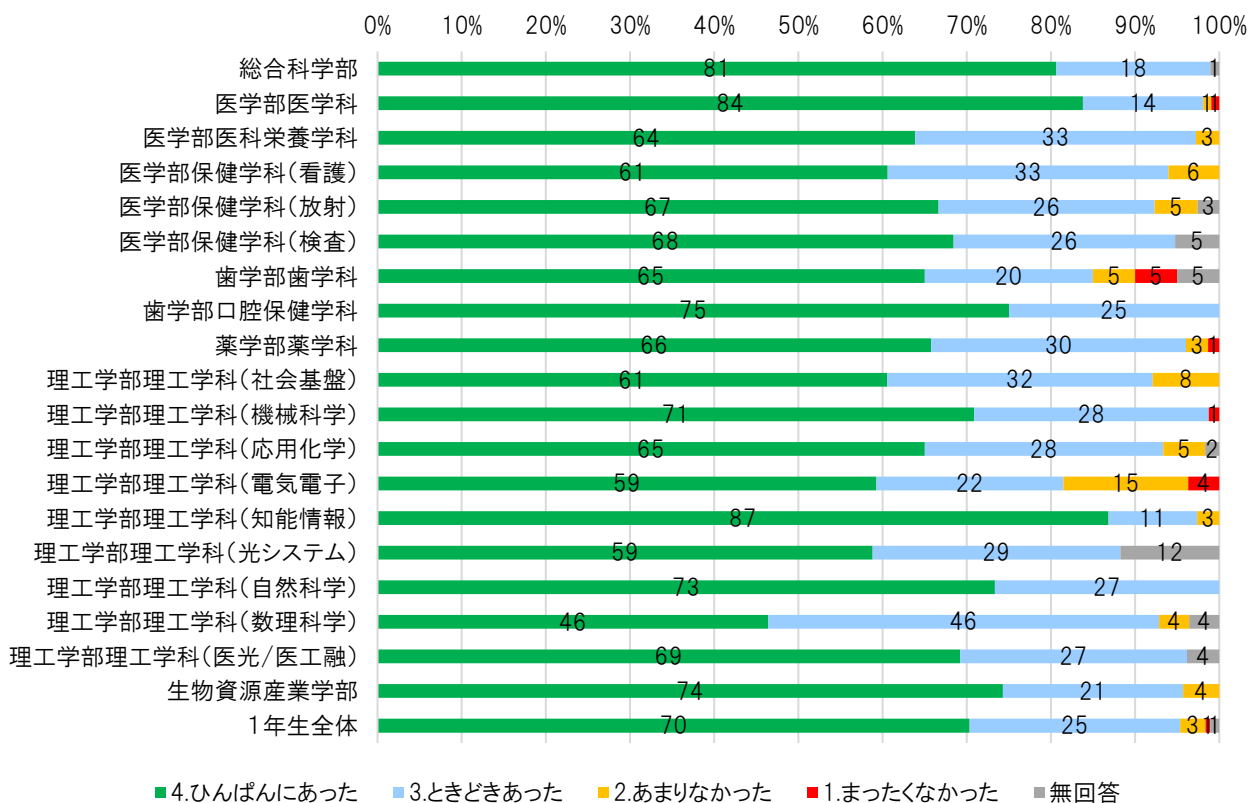
〔20〕授業課題のために図書館の資料を利用した



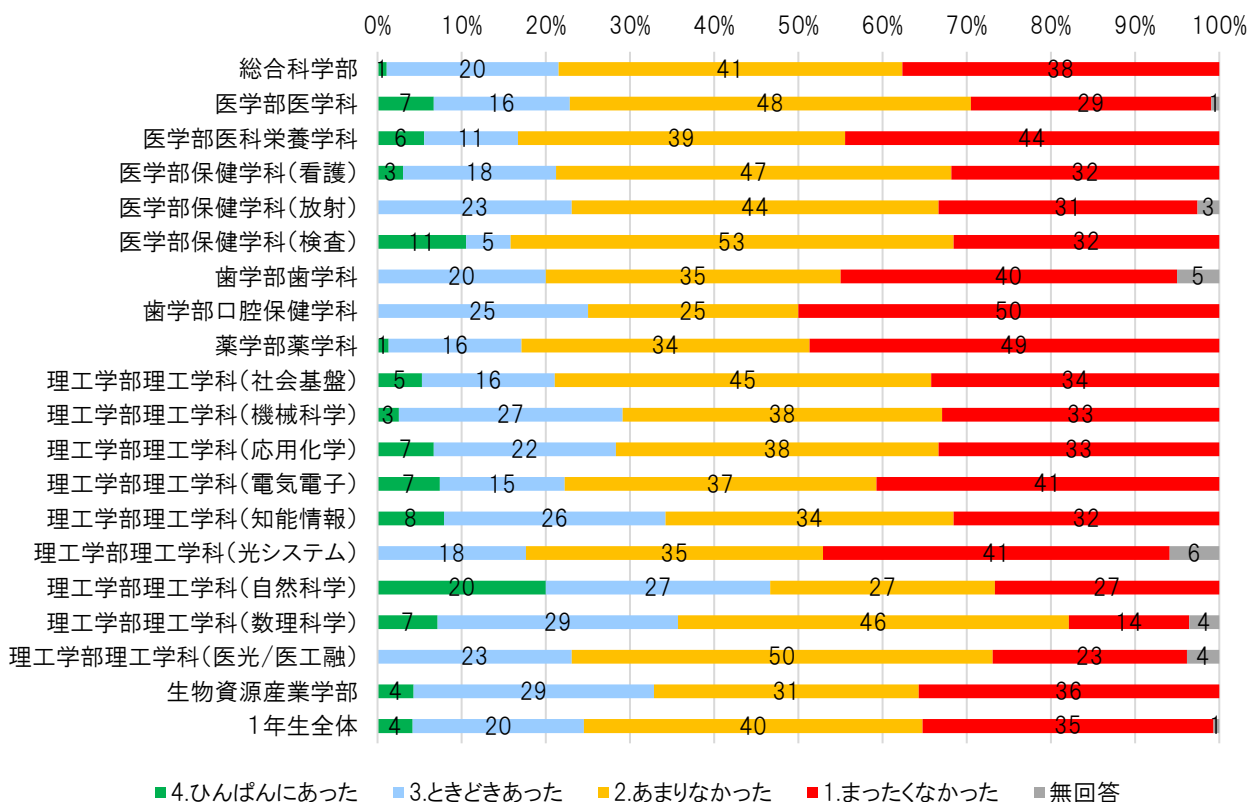
〔21〕授業課題のためにWeb上の情報を利用した



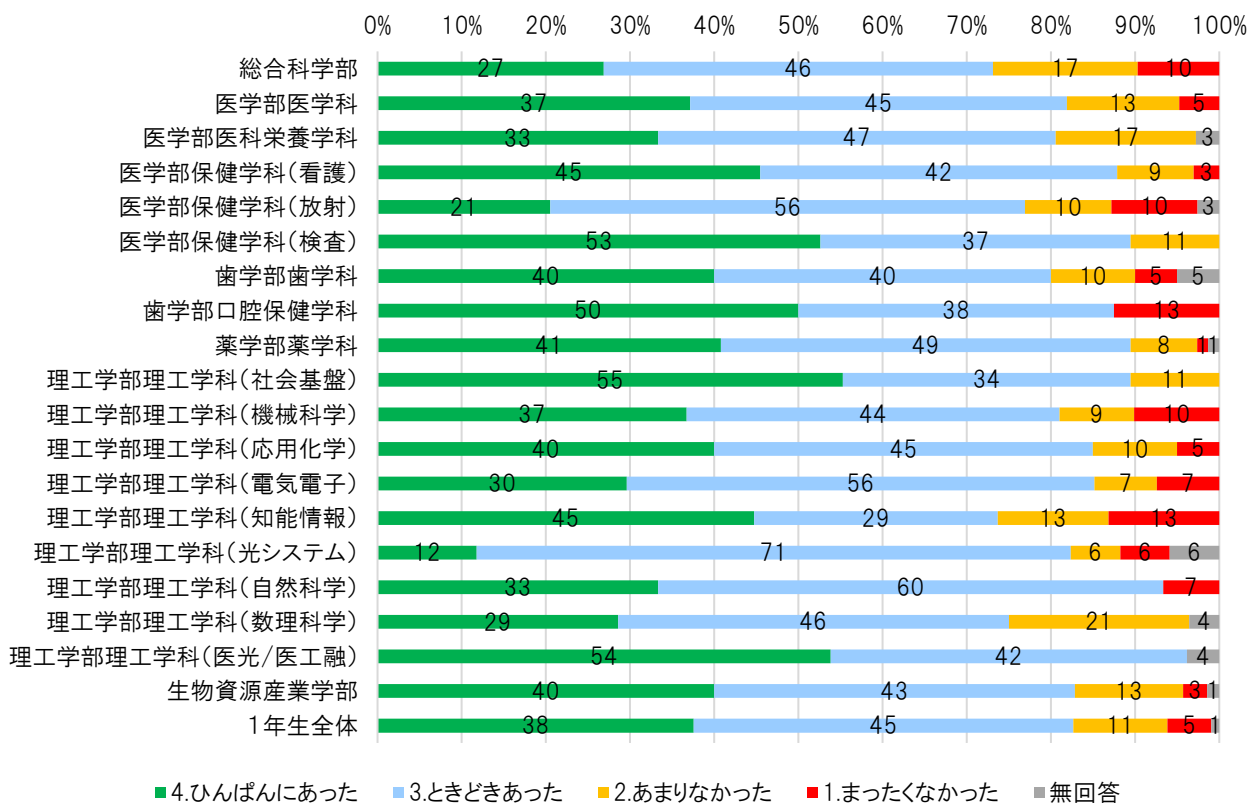
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



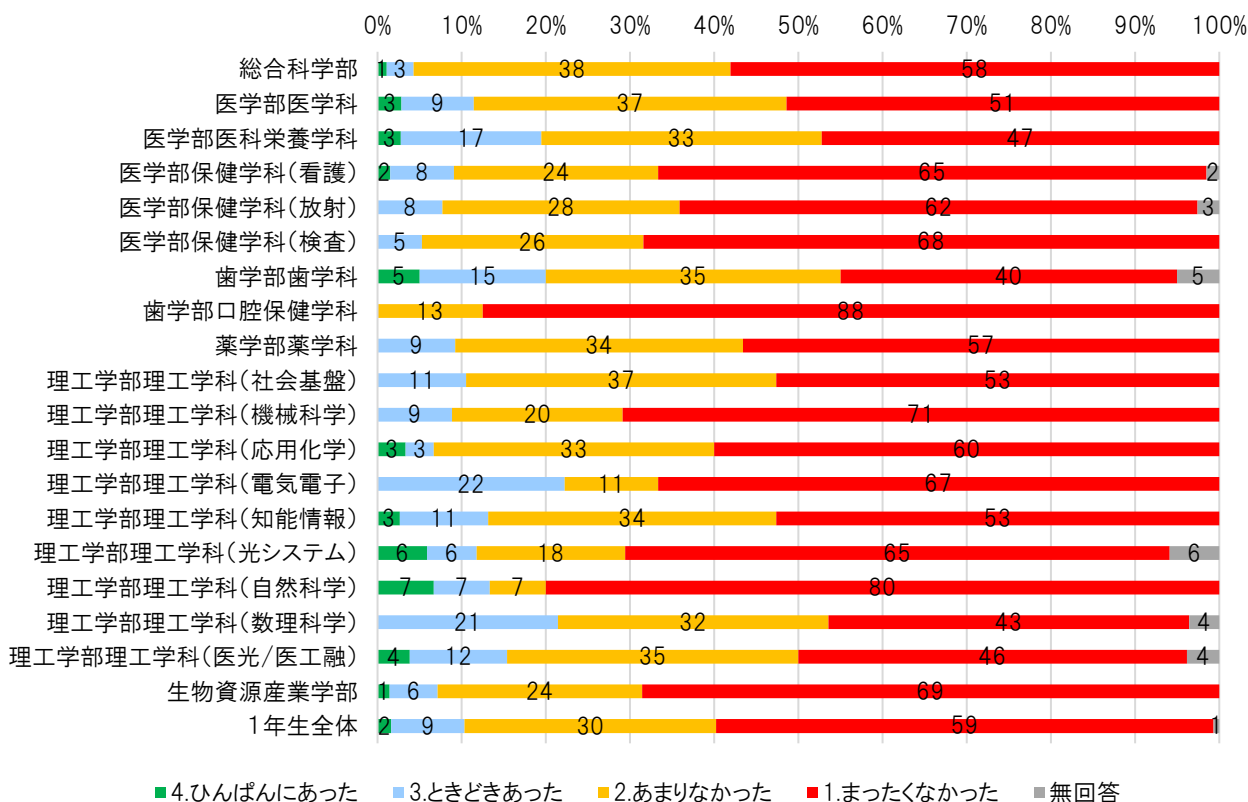
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



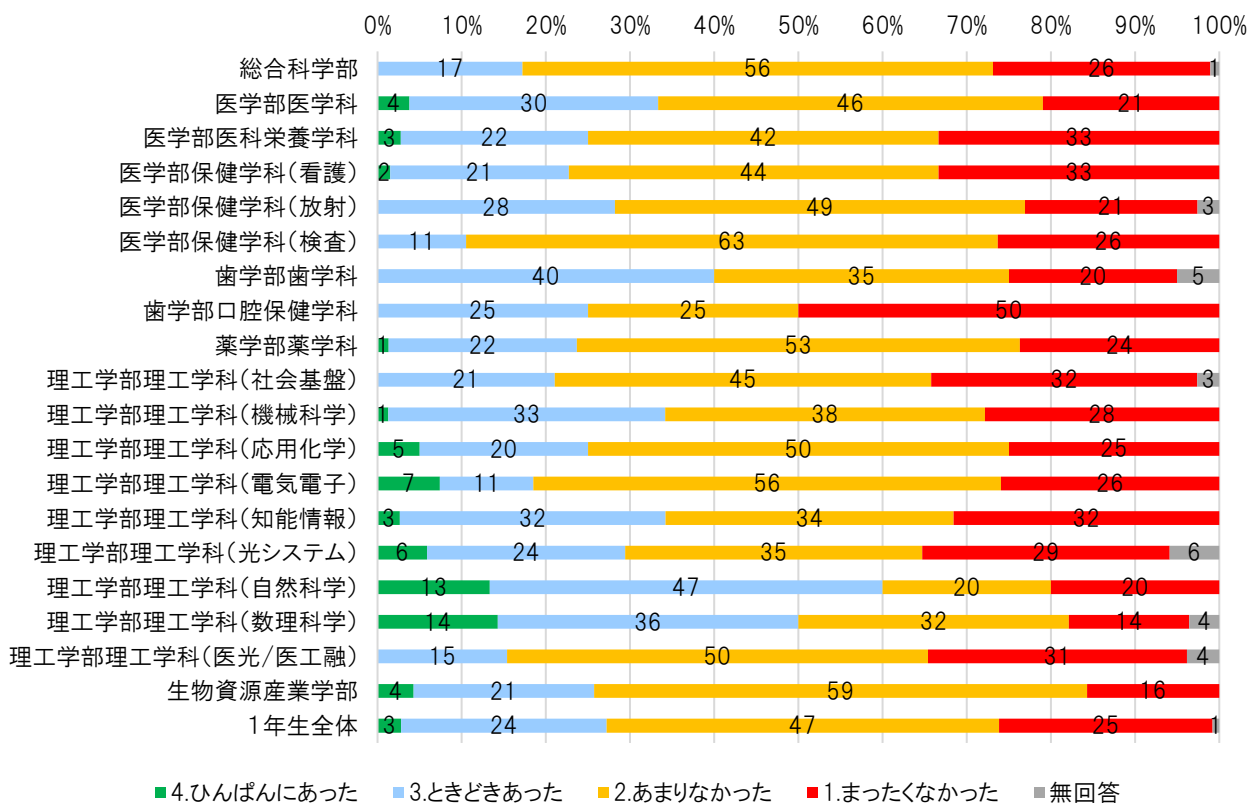
〔24〕授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



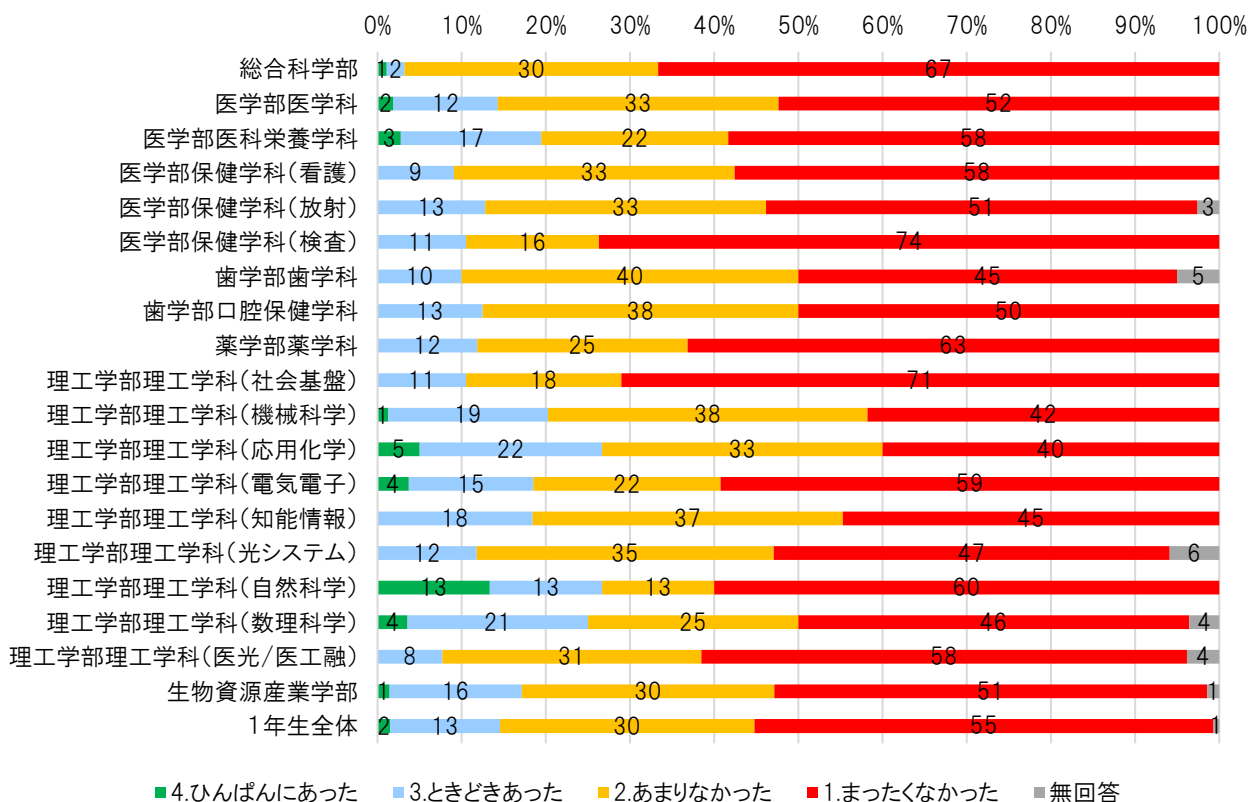
〔25〕授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



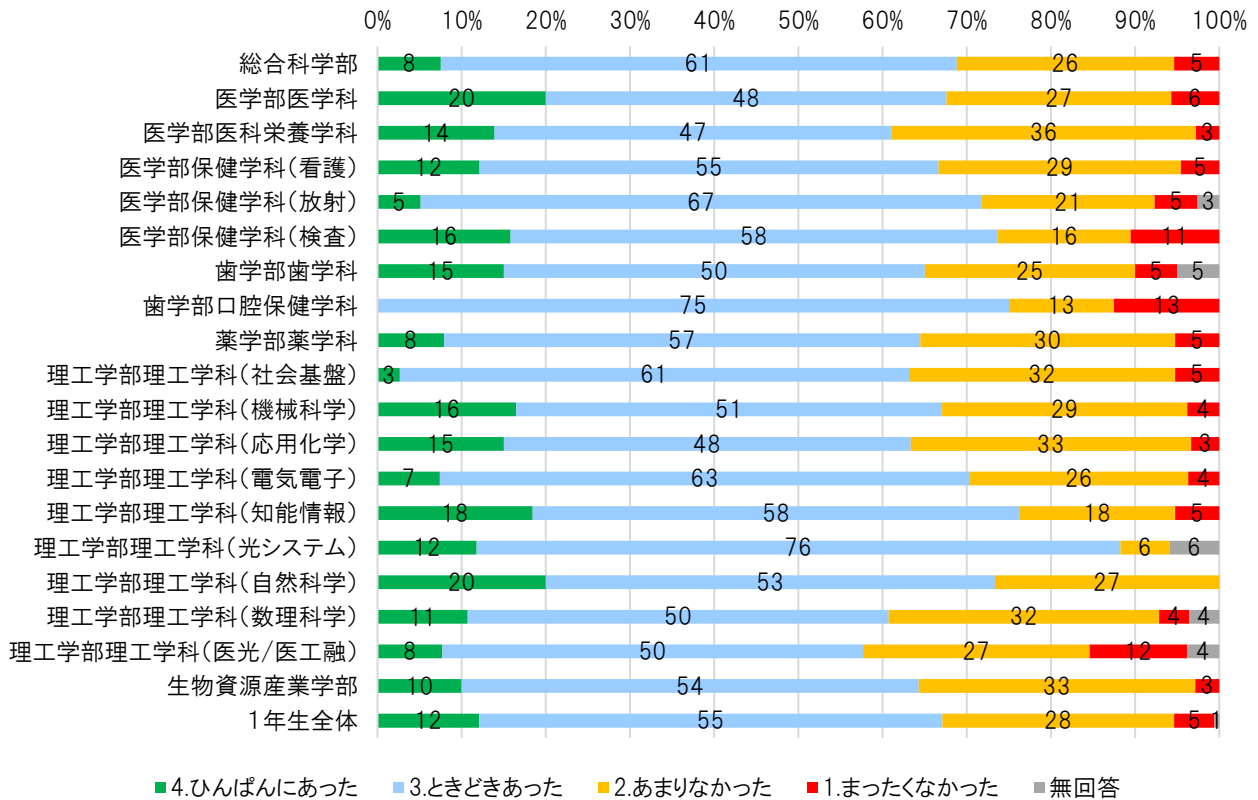
[26]授業を欠席した



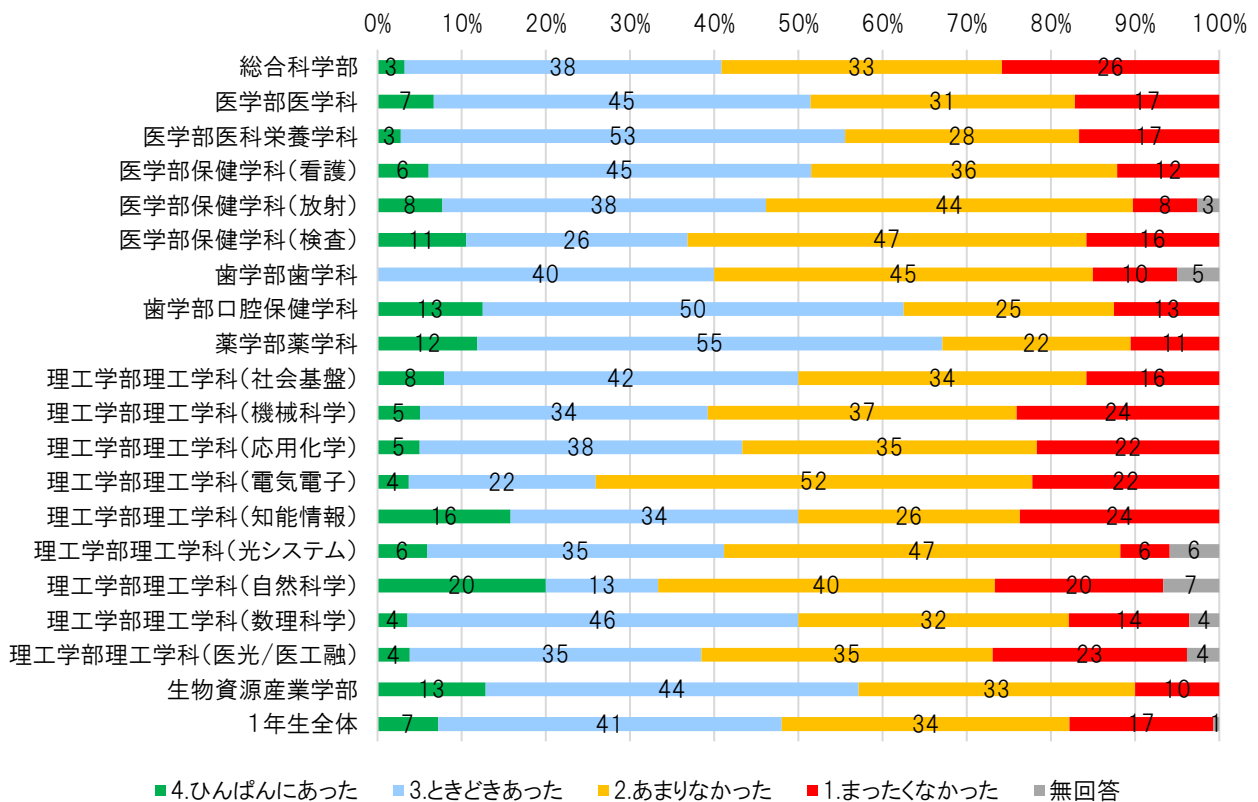
[27]授業に遅刻した



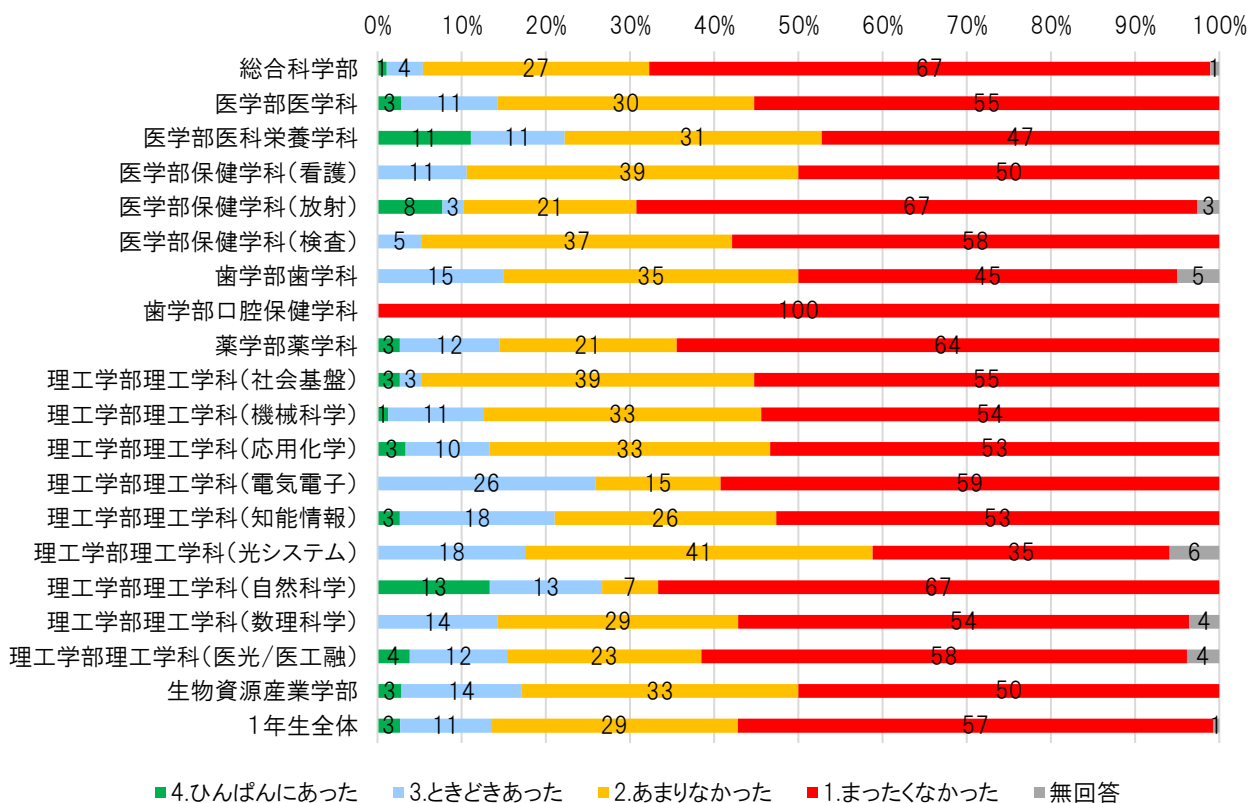
[28]授業をつまらなく感じた



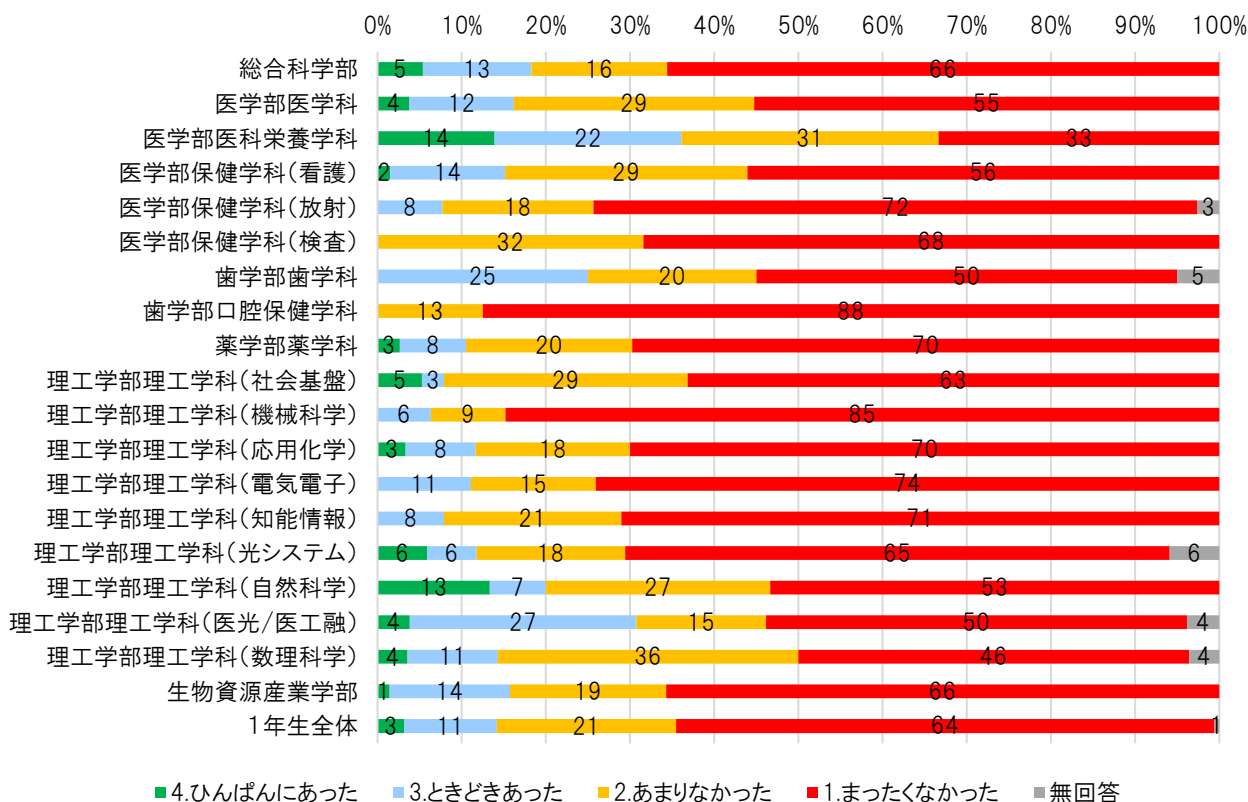
[29]授業中に居眠りをした



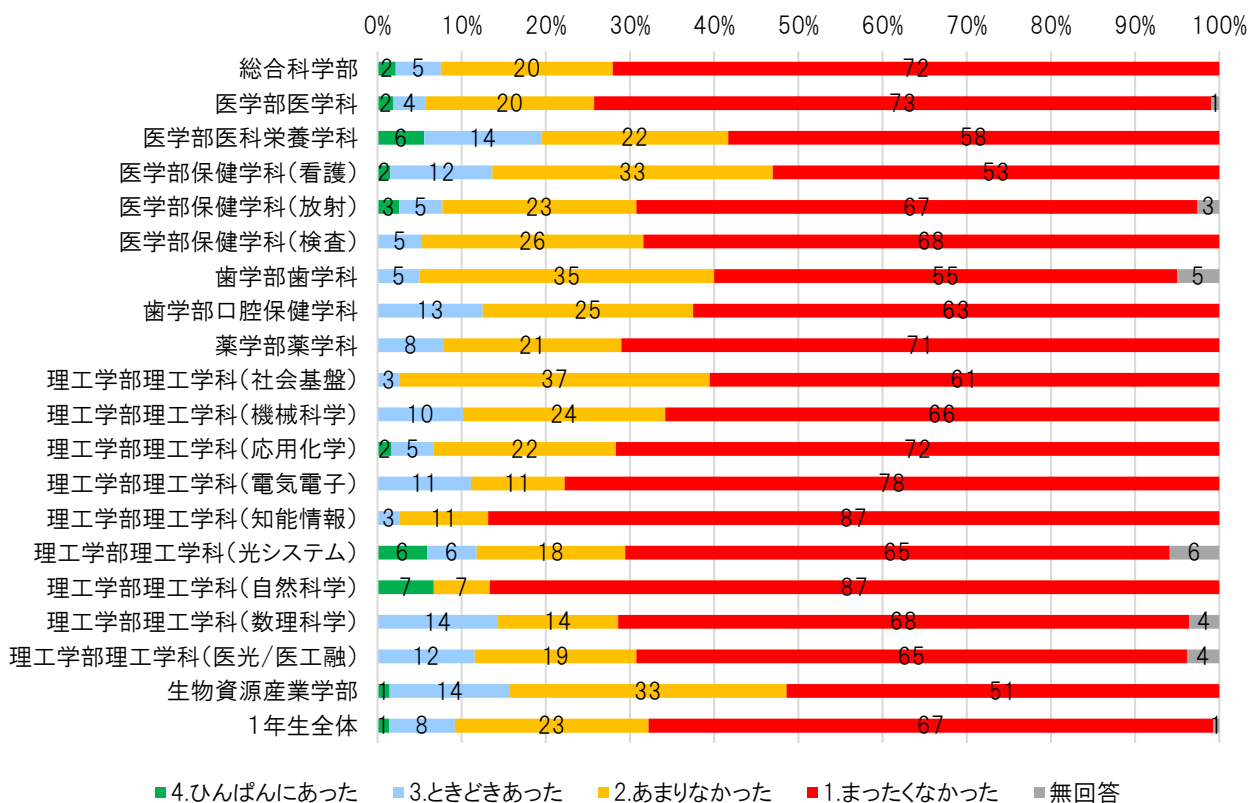
[30]学内で学習支援を受けた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)



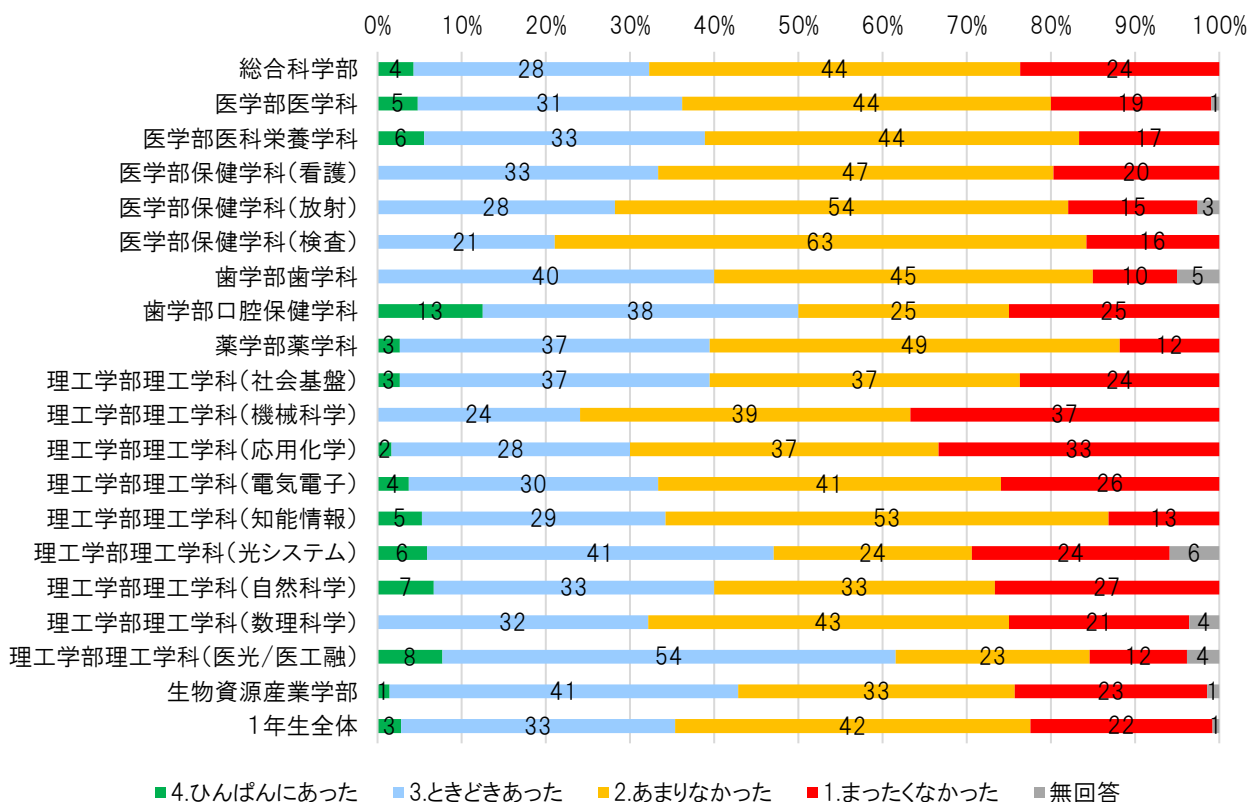
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

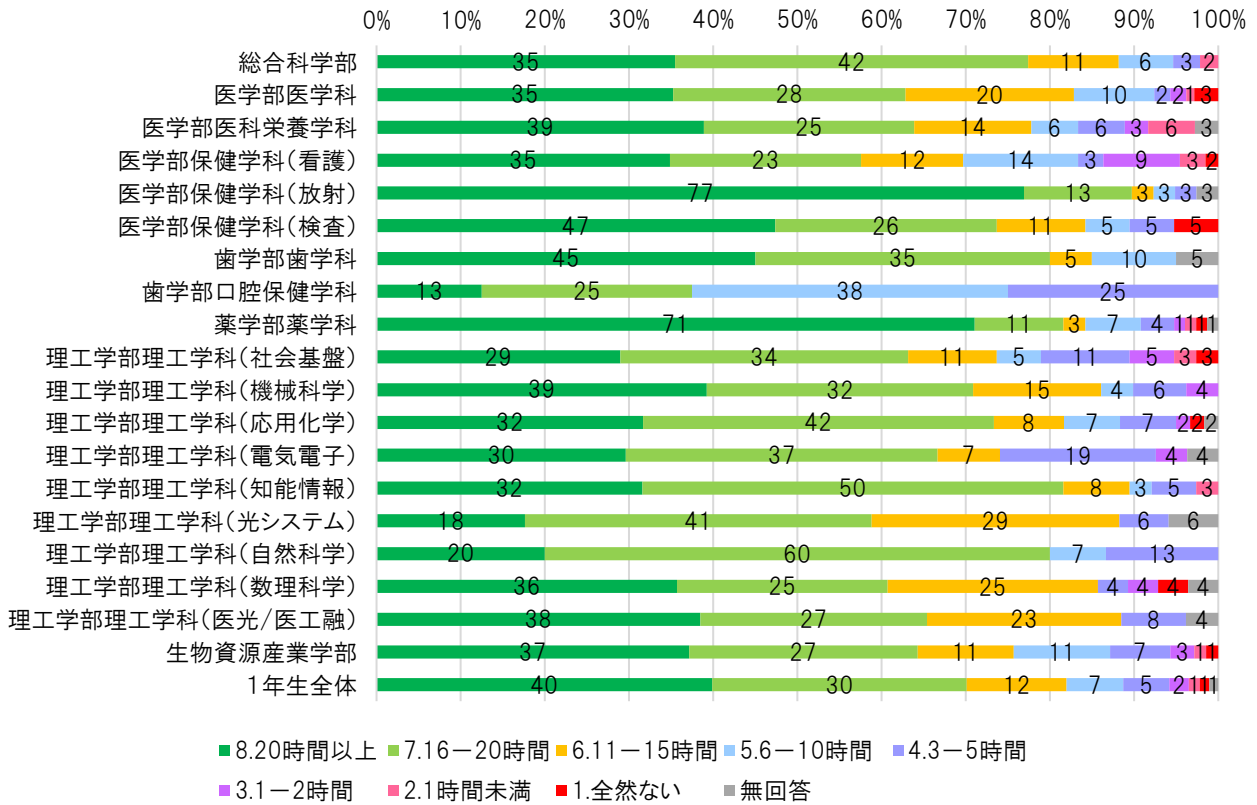


[33]教員に親近感を感じた

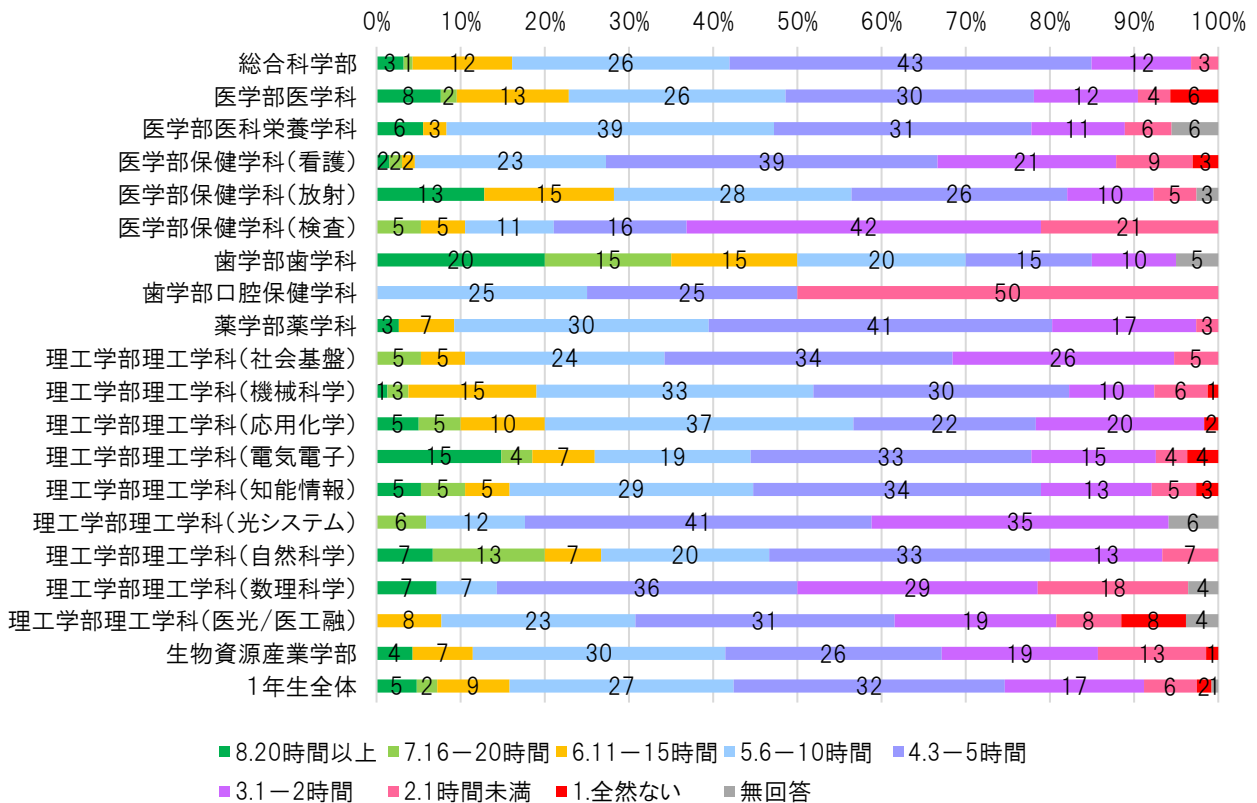


入学以来、あなたは次の活動に 1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

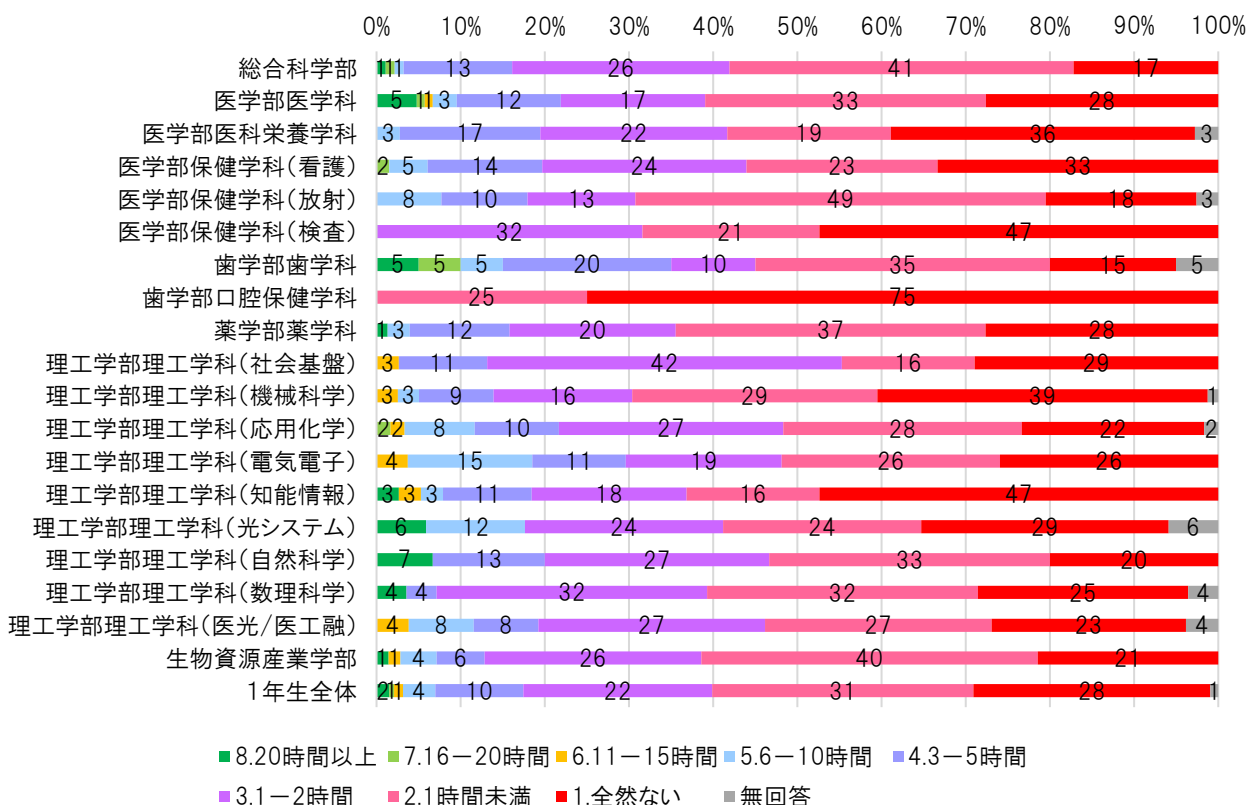
[34] 授業や実験に出る



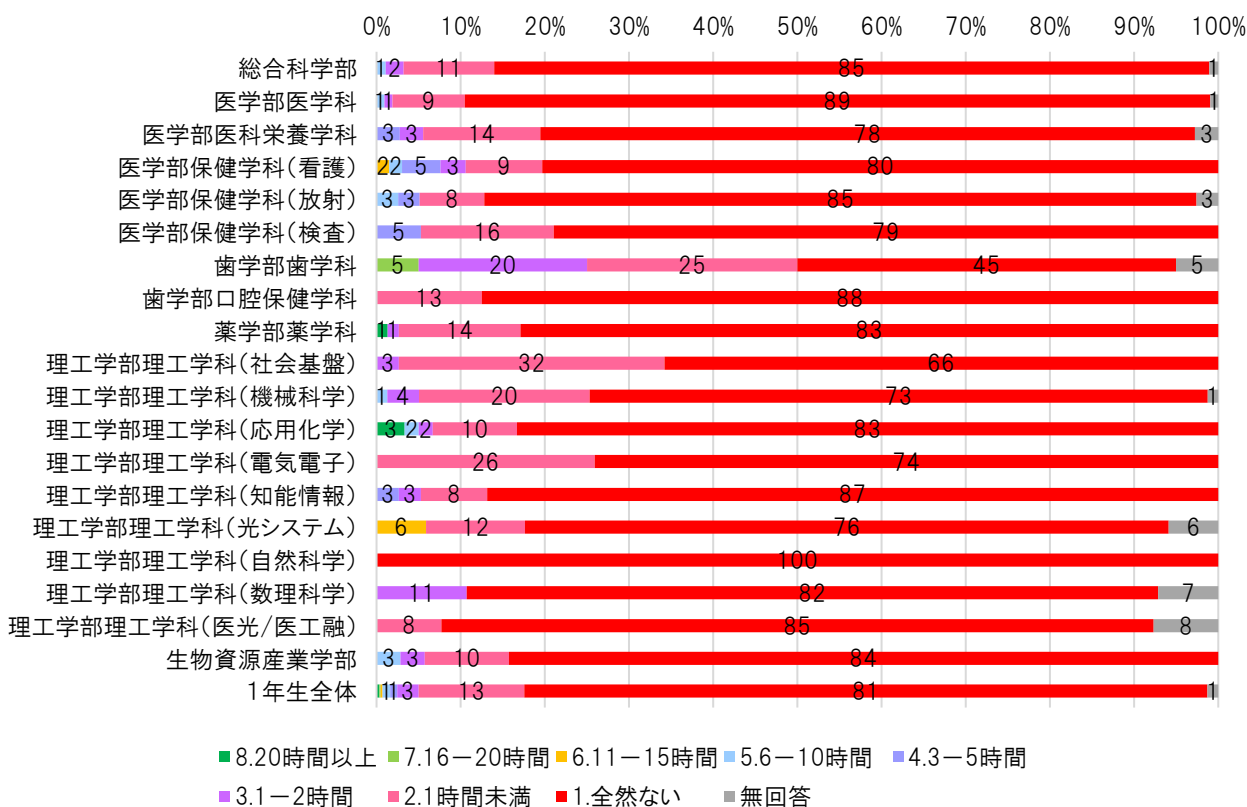
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



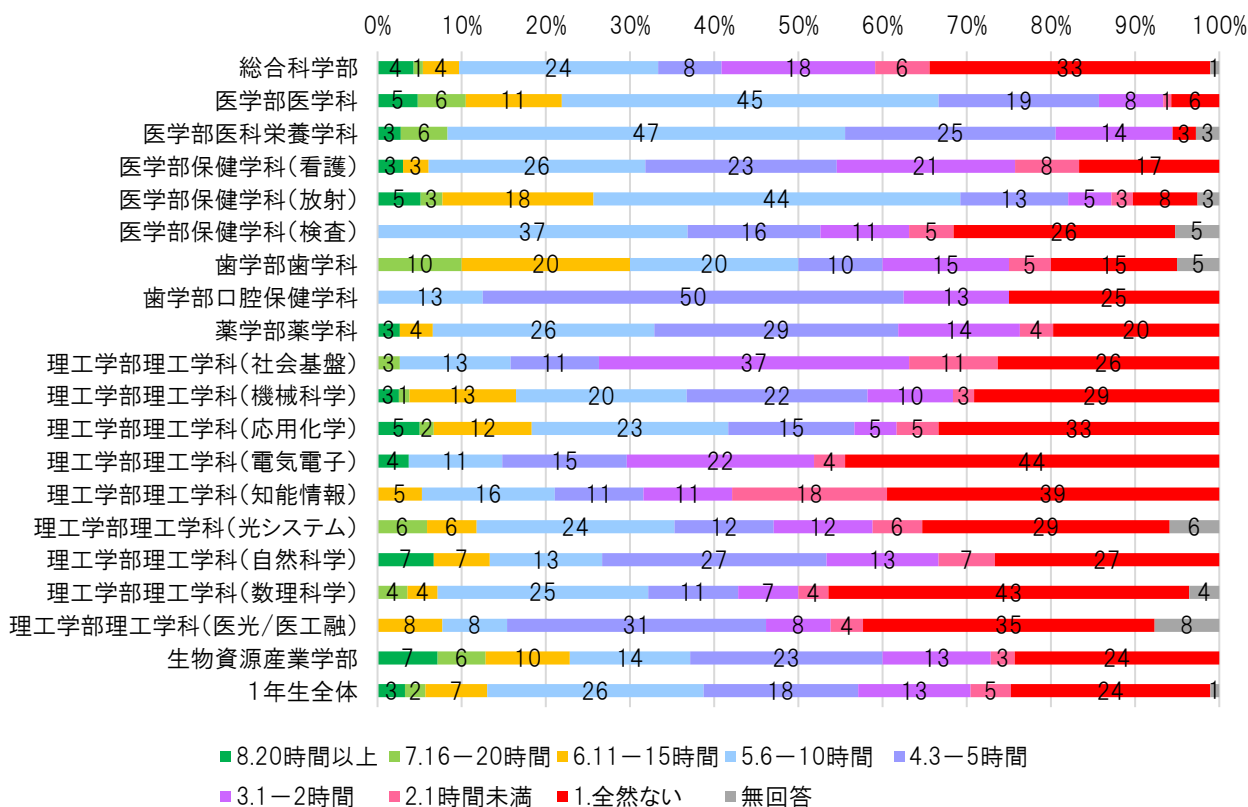
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



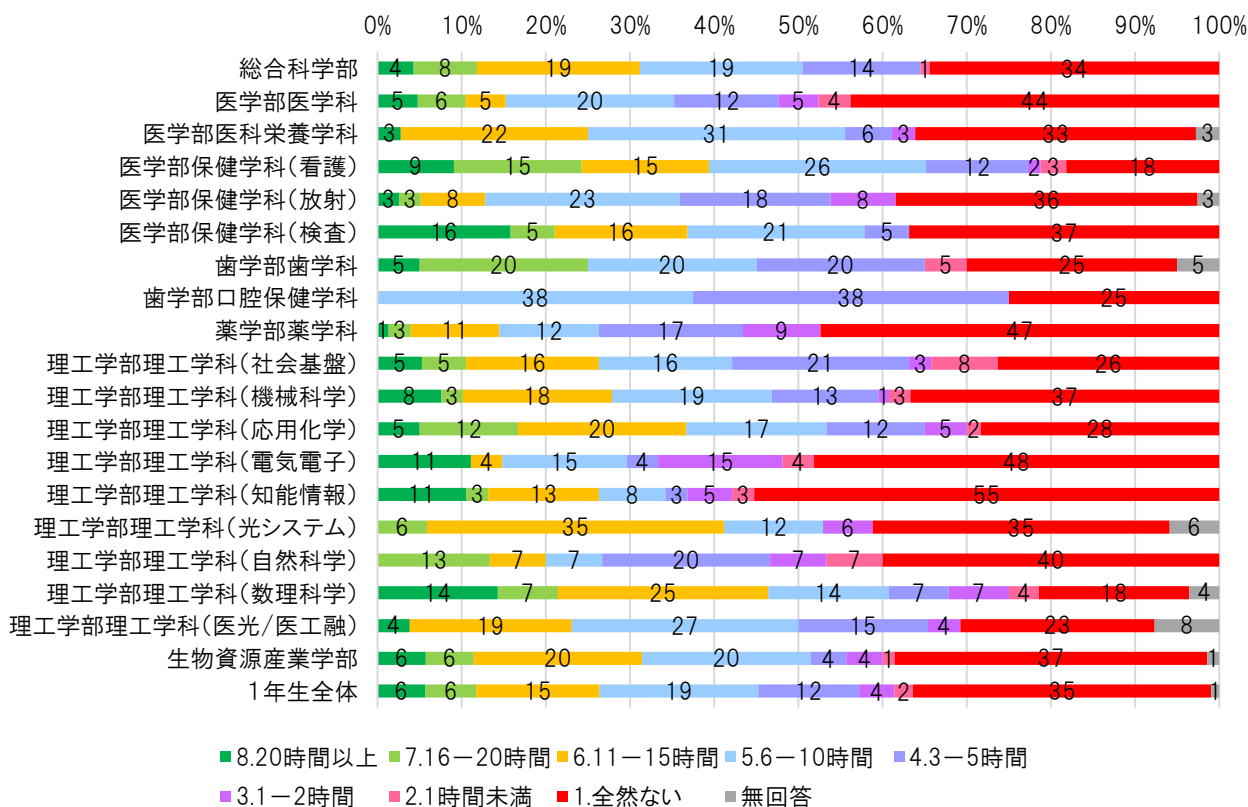
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



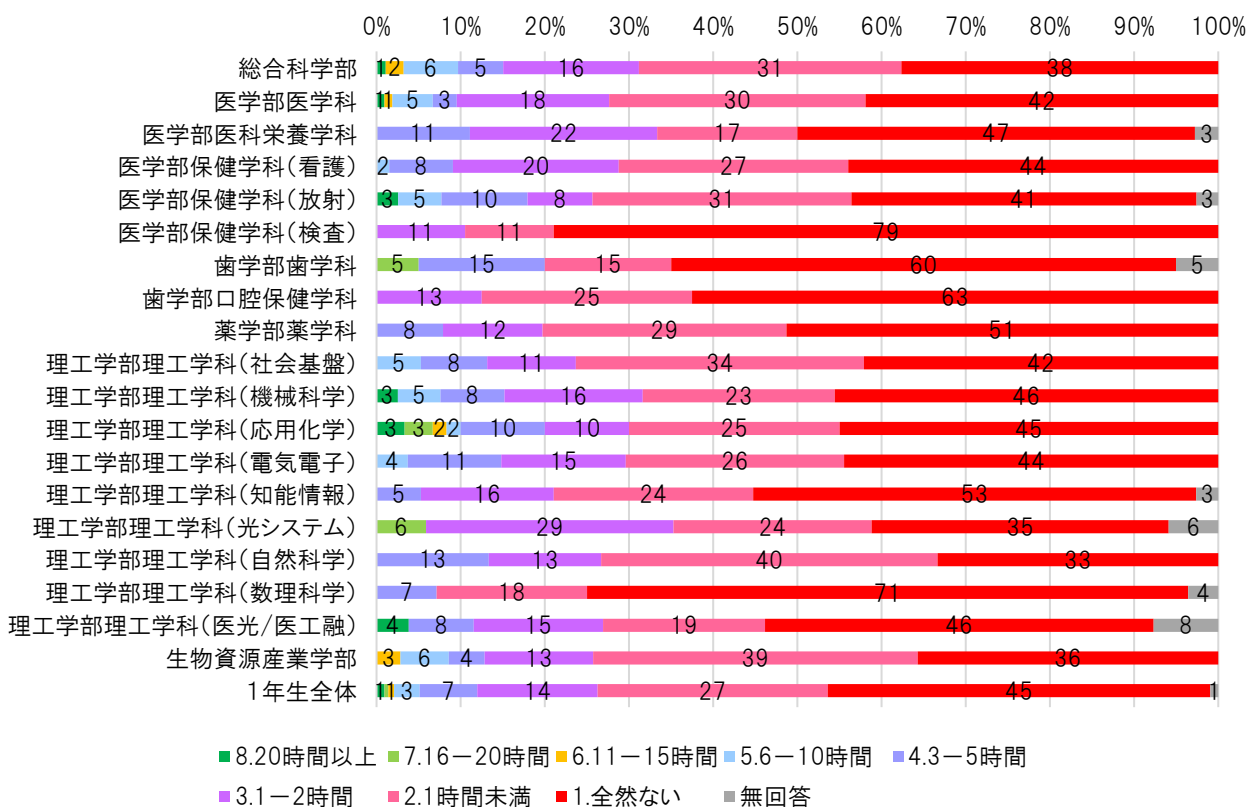
[38]部活動や同好会に参加する



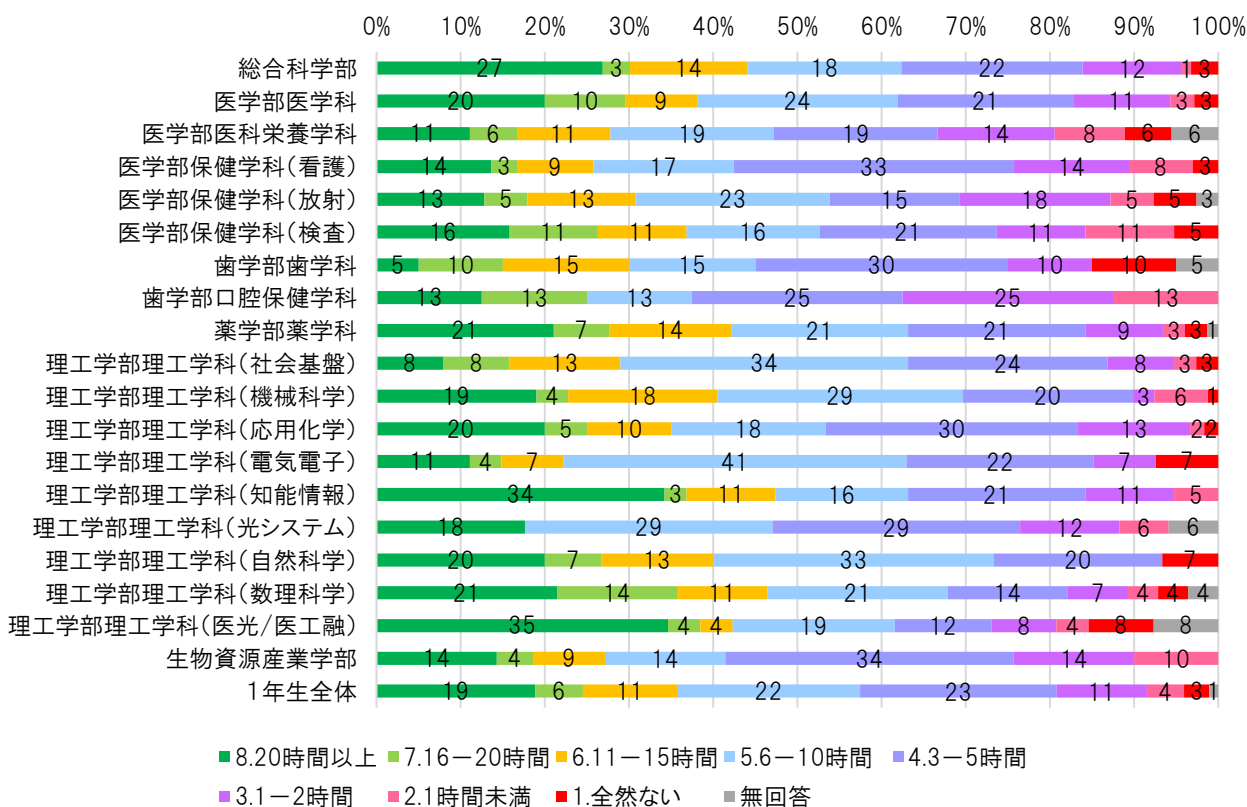
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40] 読書をする(マンガ・雑誌を除く)

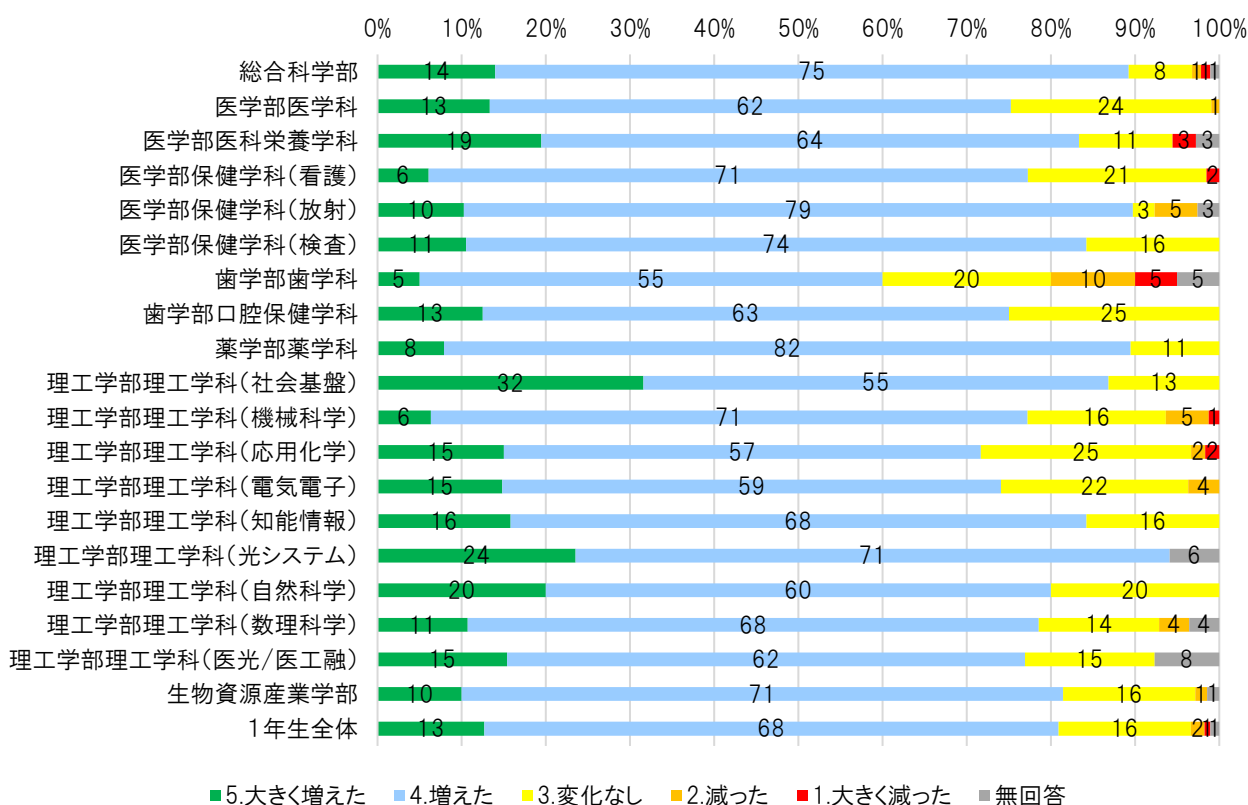


[41] 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

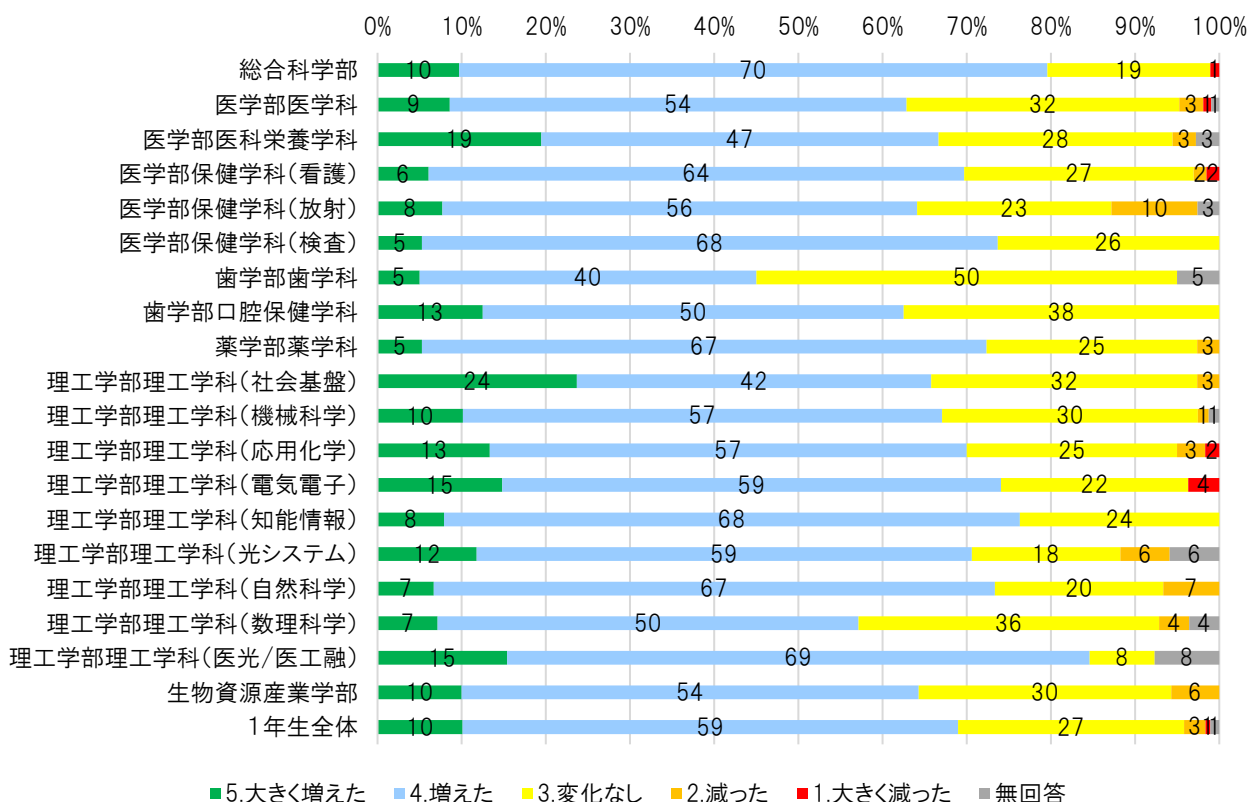


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

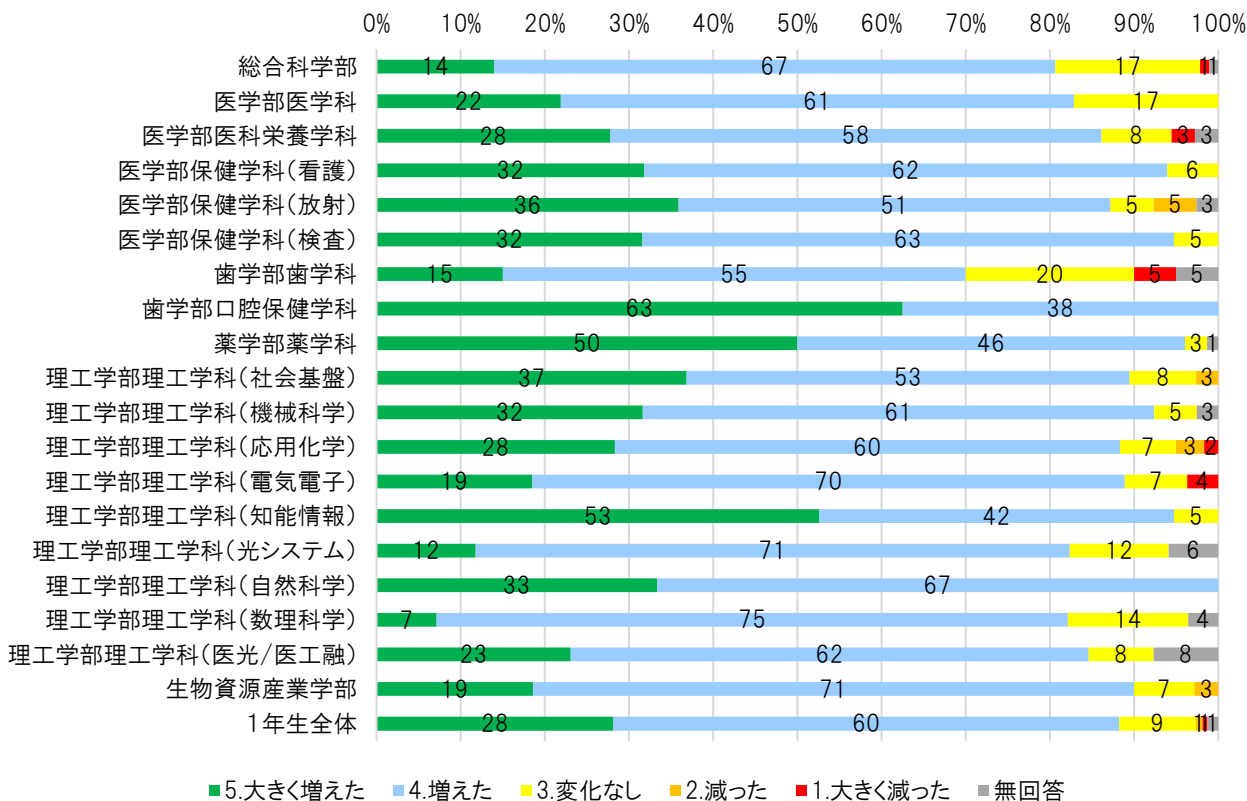
[42]一般的な教養



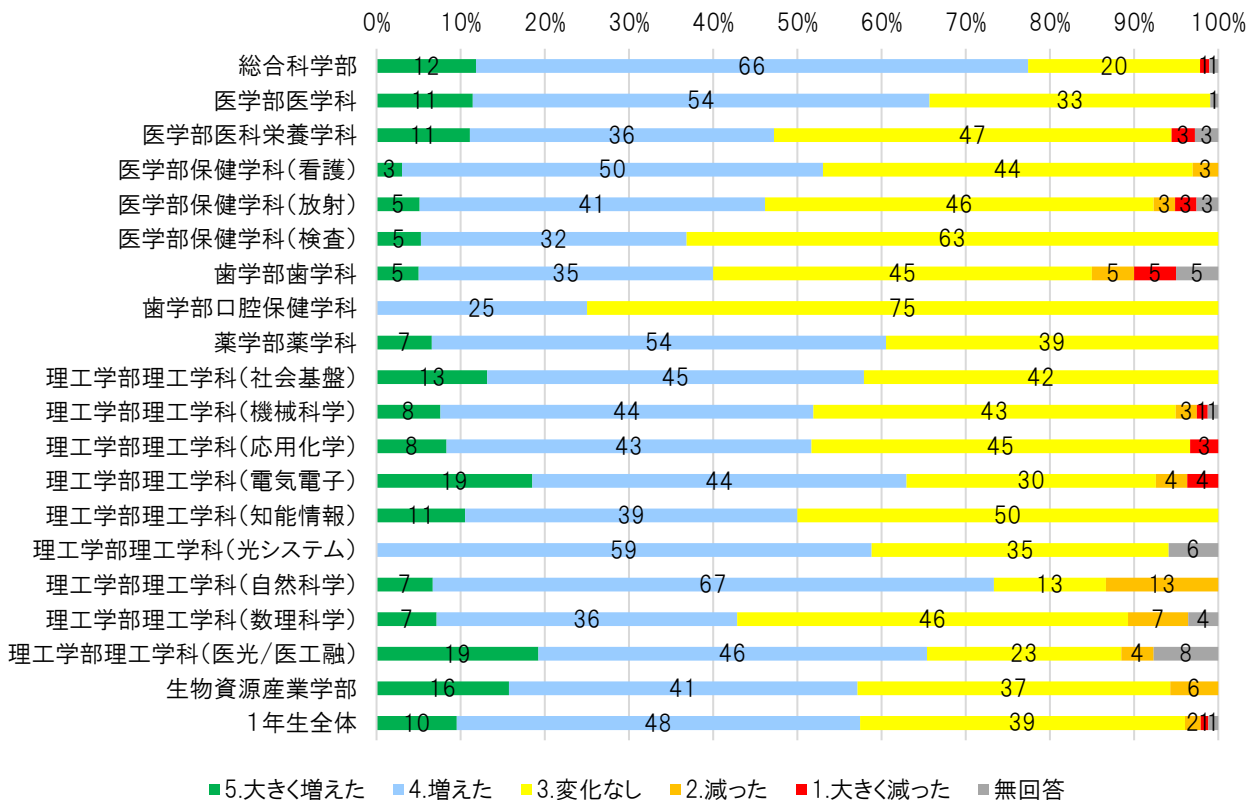
[43]分析力や問題解決能力



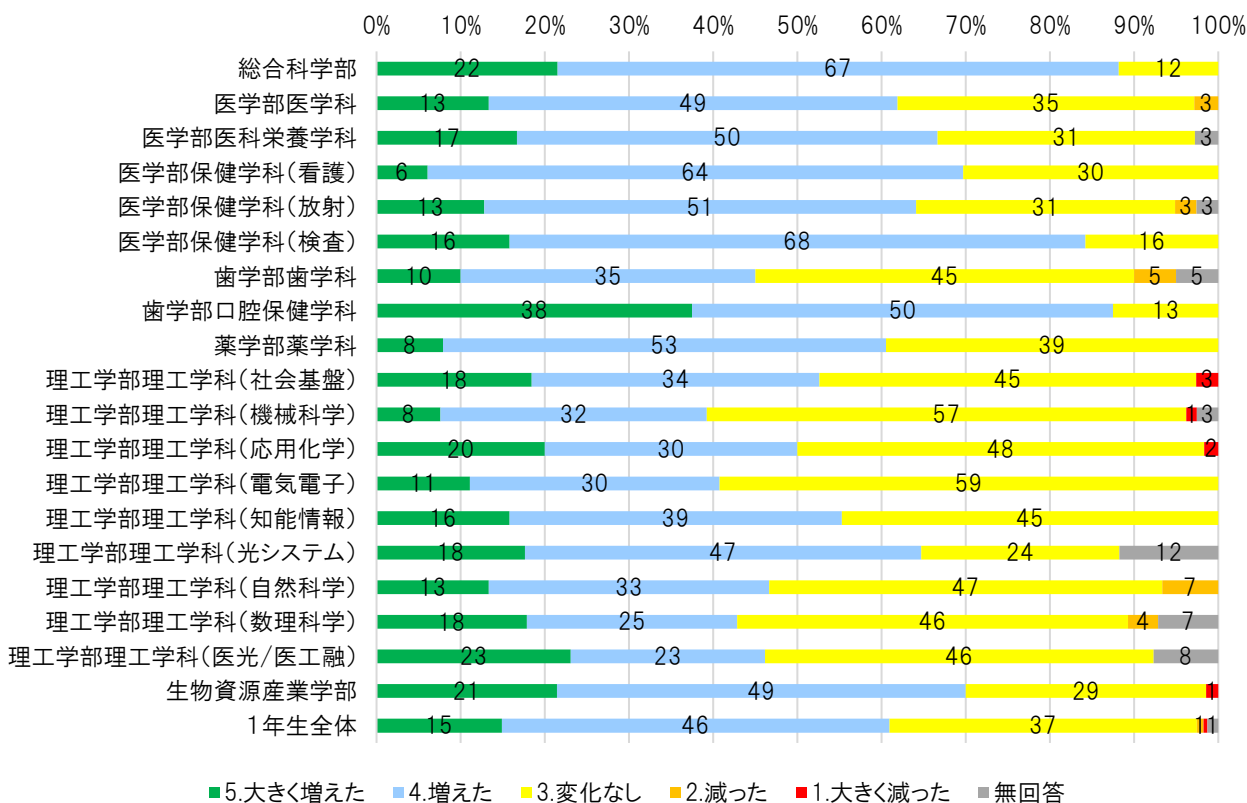
[44] 専門分野や学科の知識



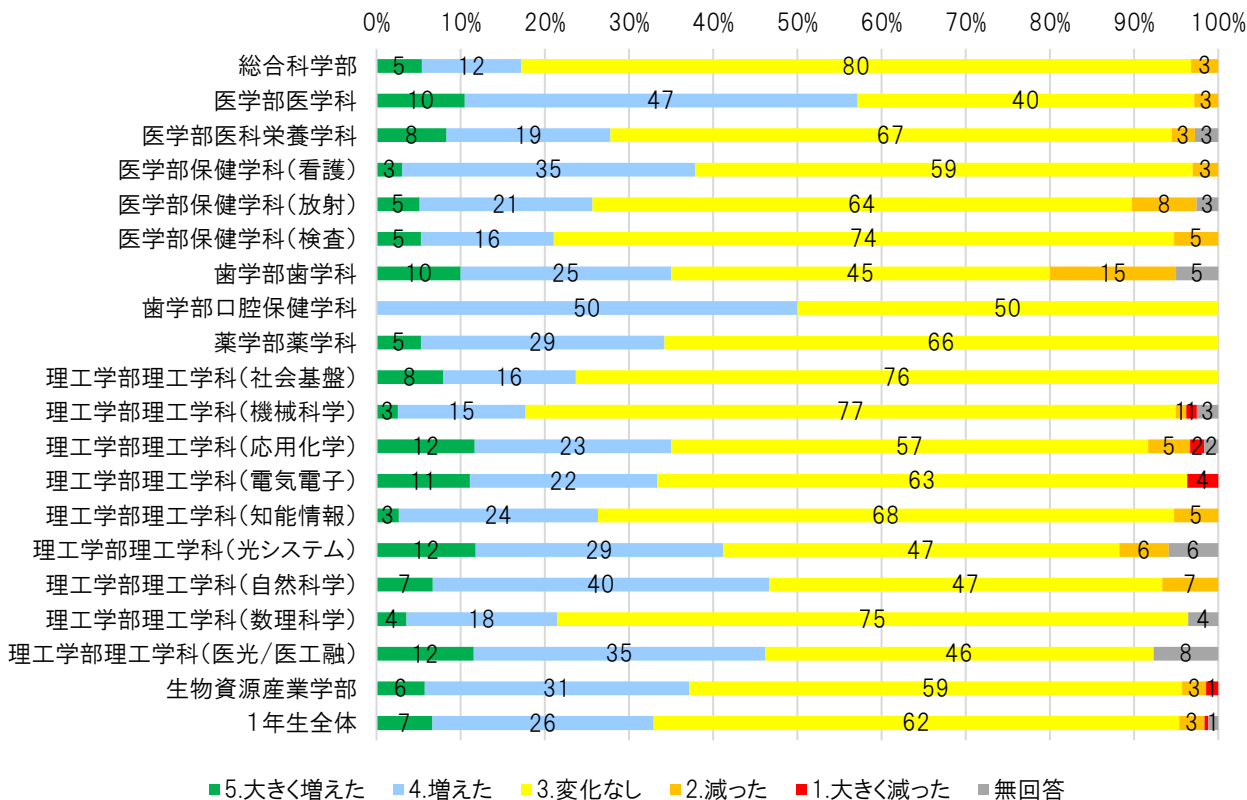
[45] 批判的に考える能力



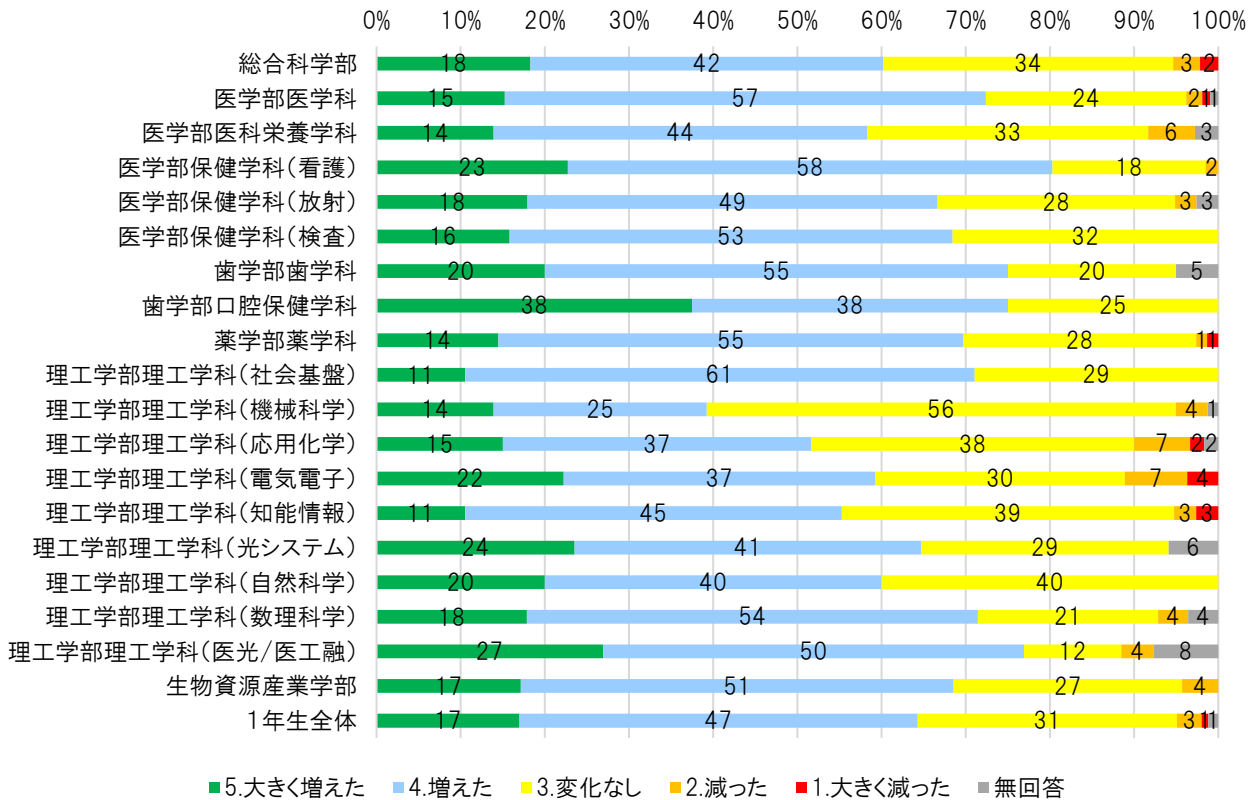
[46]異文化の人々に関する知識



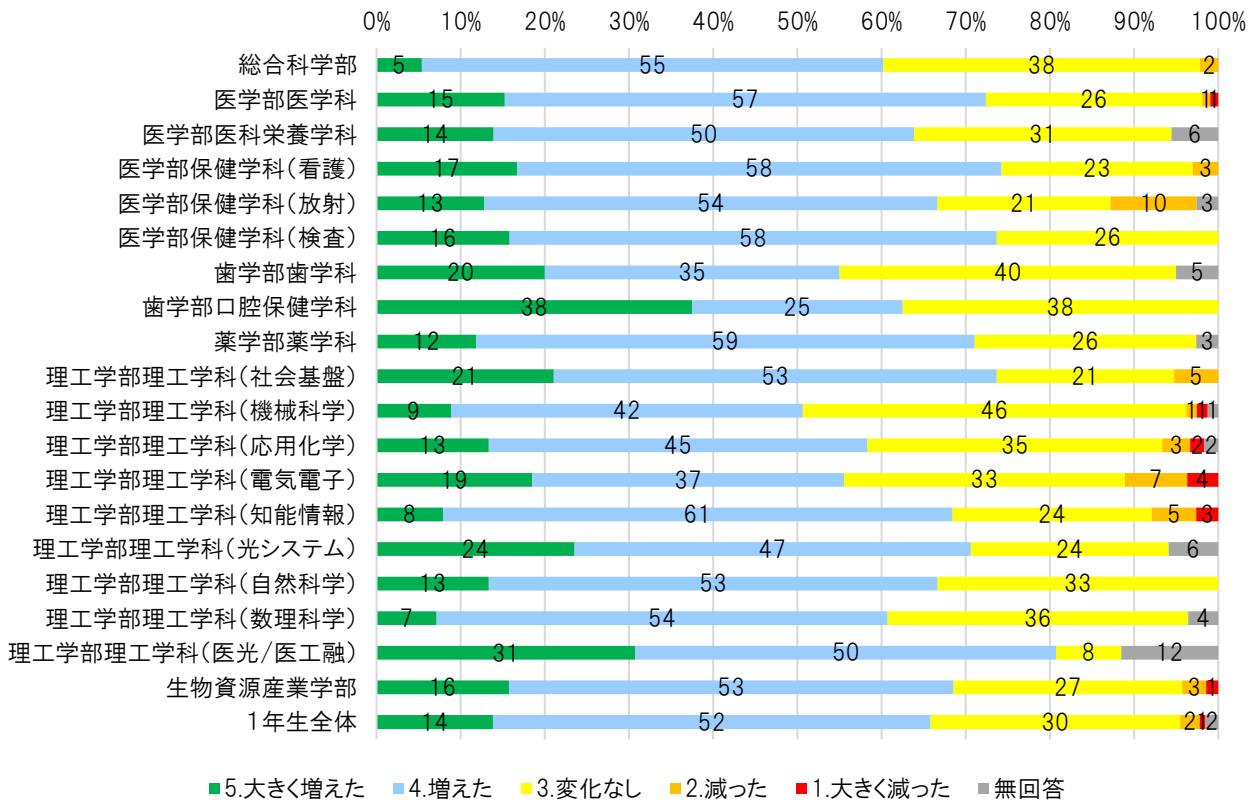
[47]リーダーシップの能力



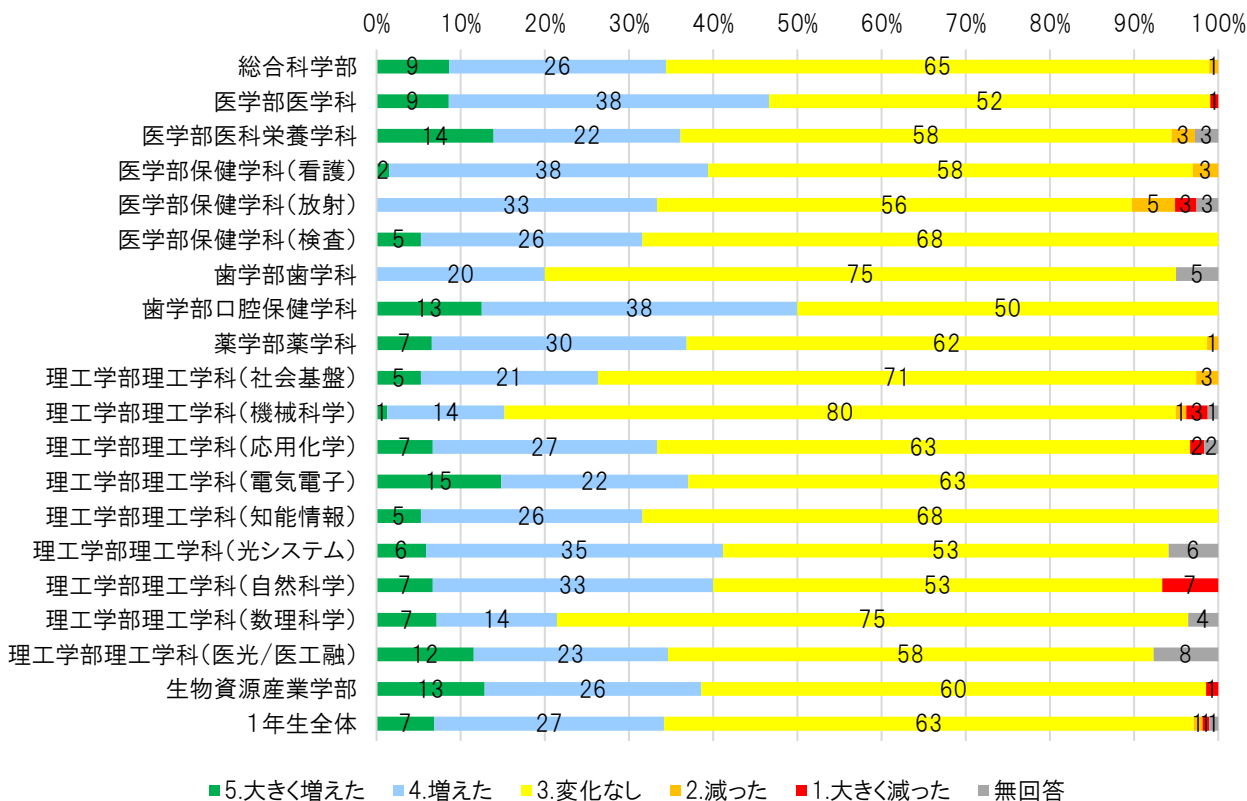
[48]人間関係を構築する能力



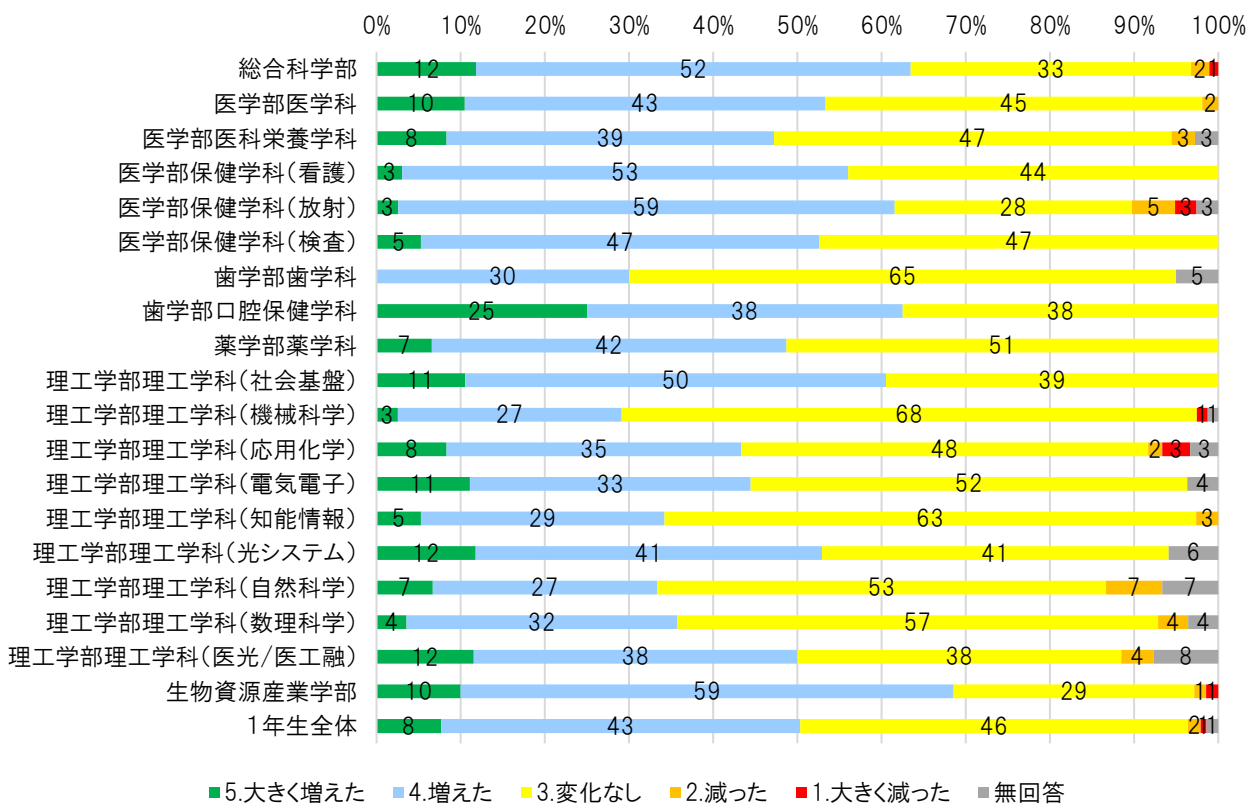
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



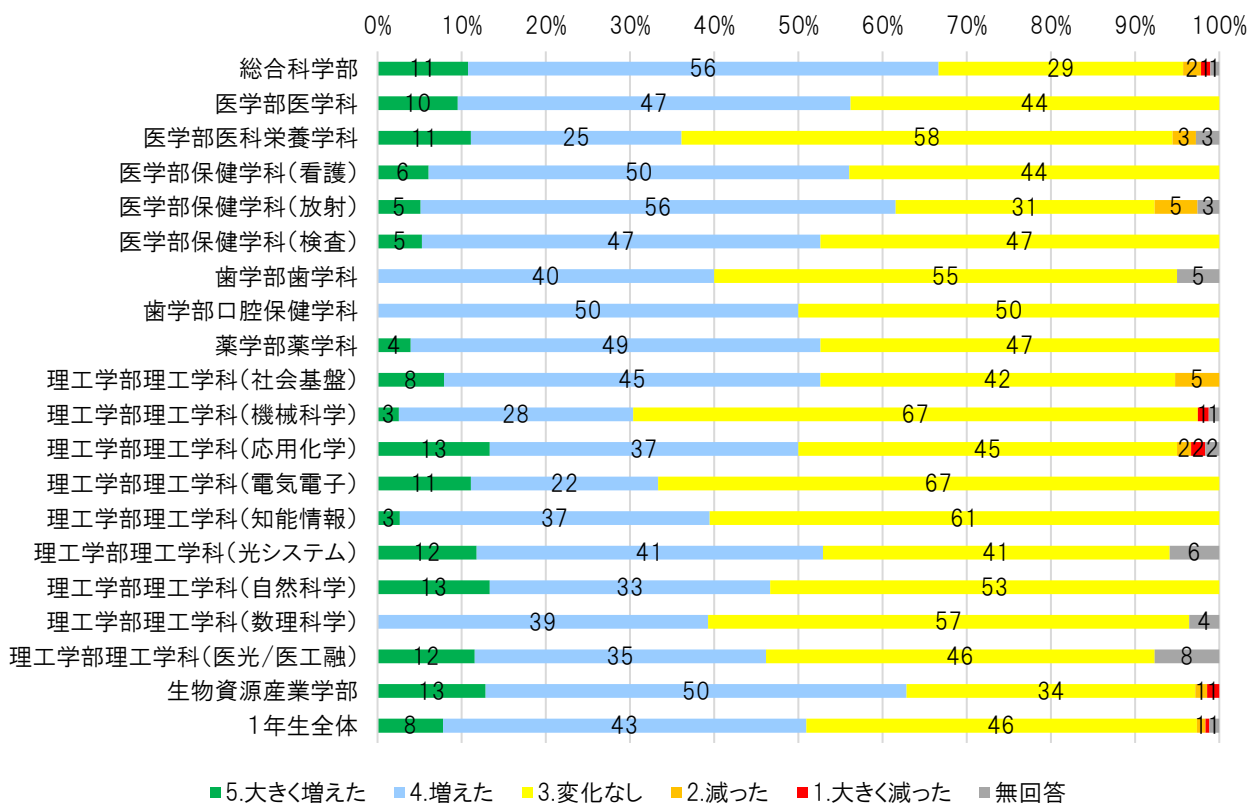
[50]異文化の人々と協力する能力



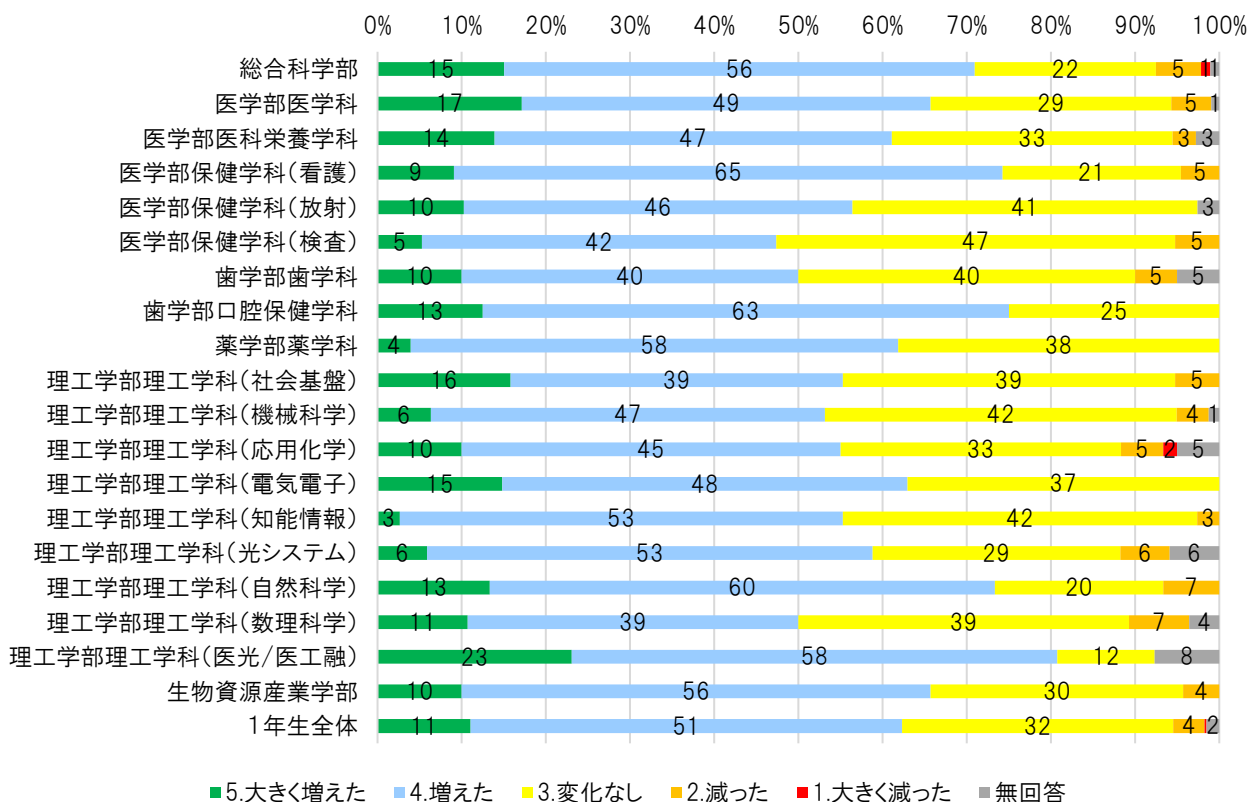
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



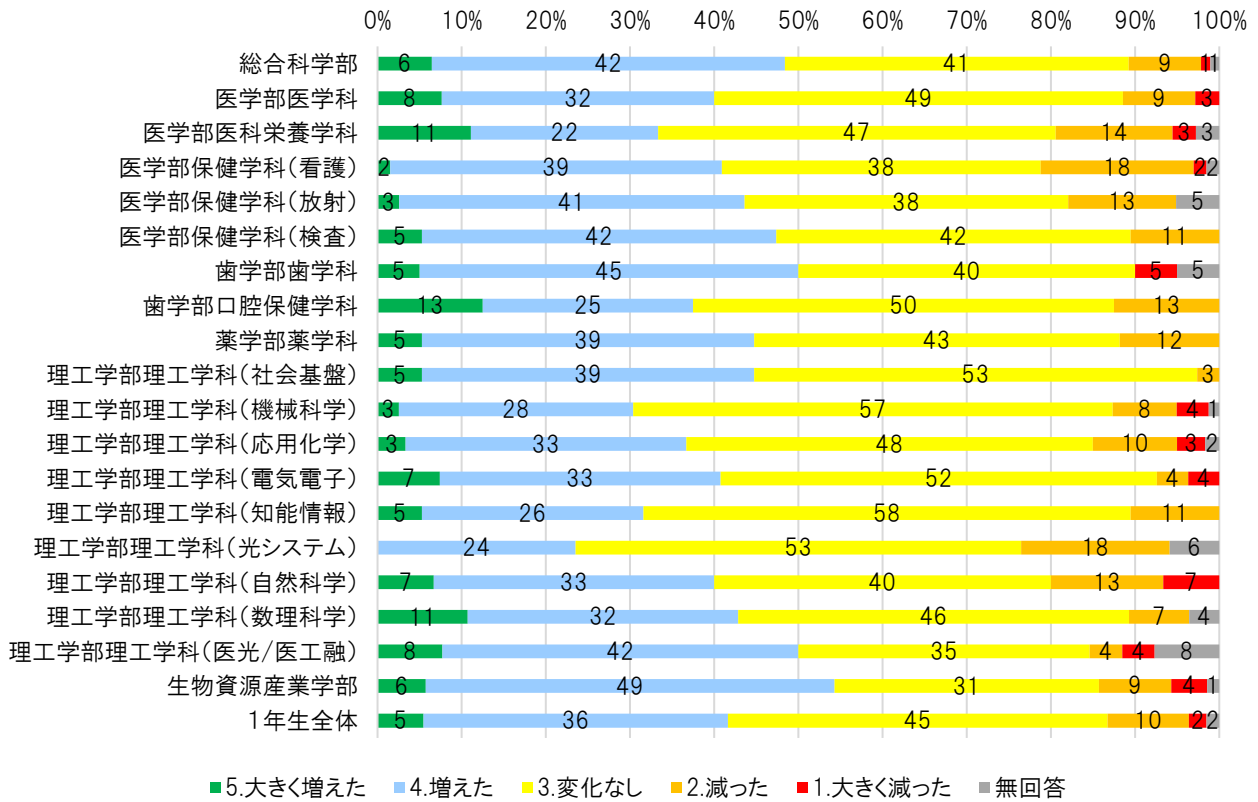
[52] 国民が直面する問題を理解する能力



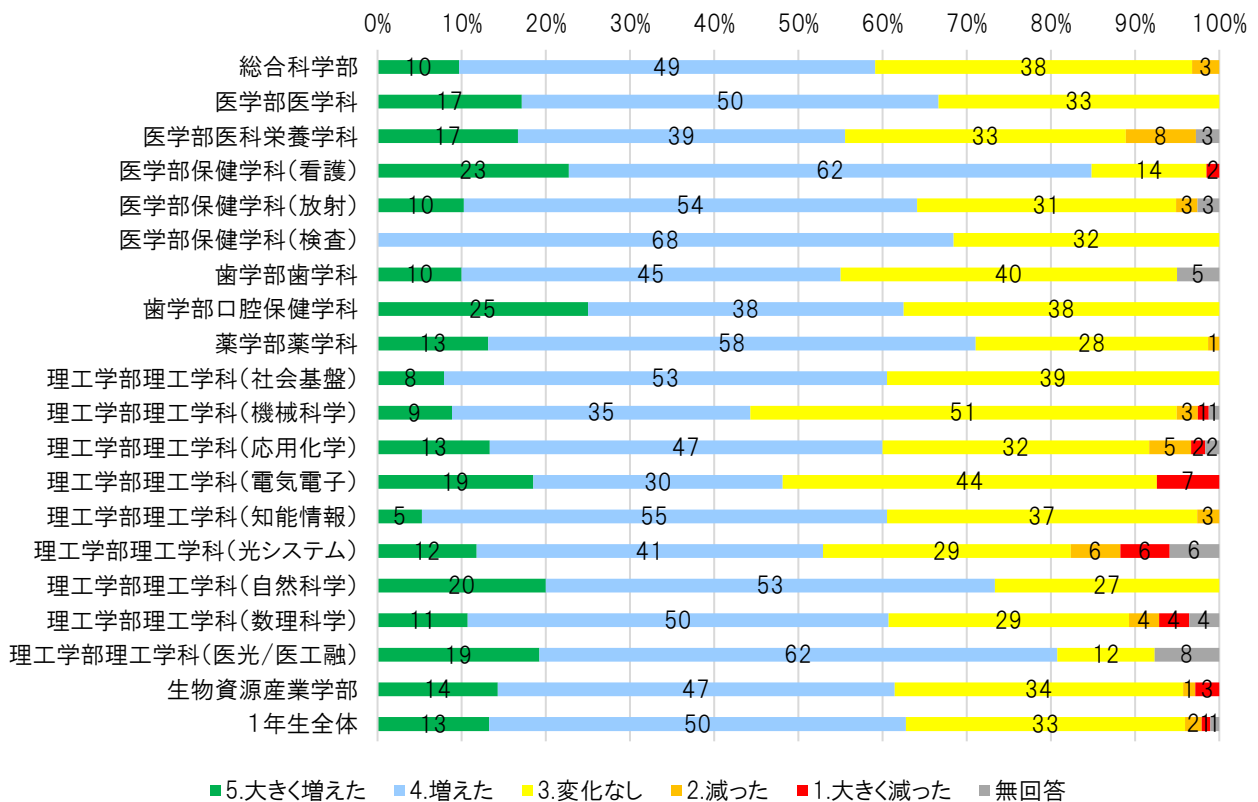
[53] 文章表現の能力



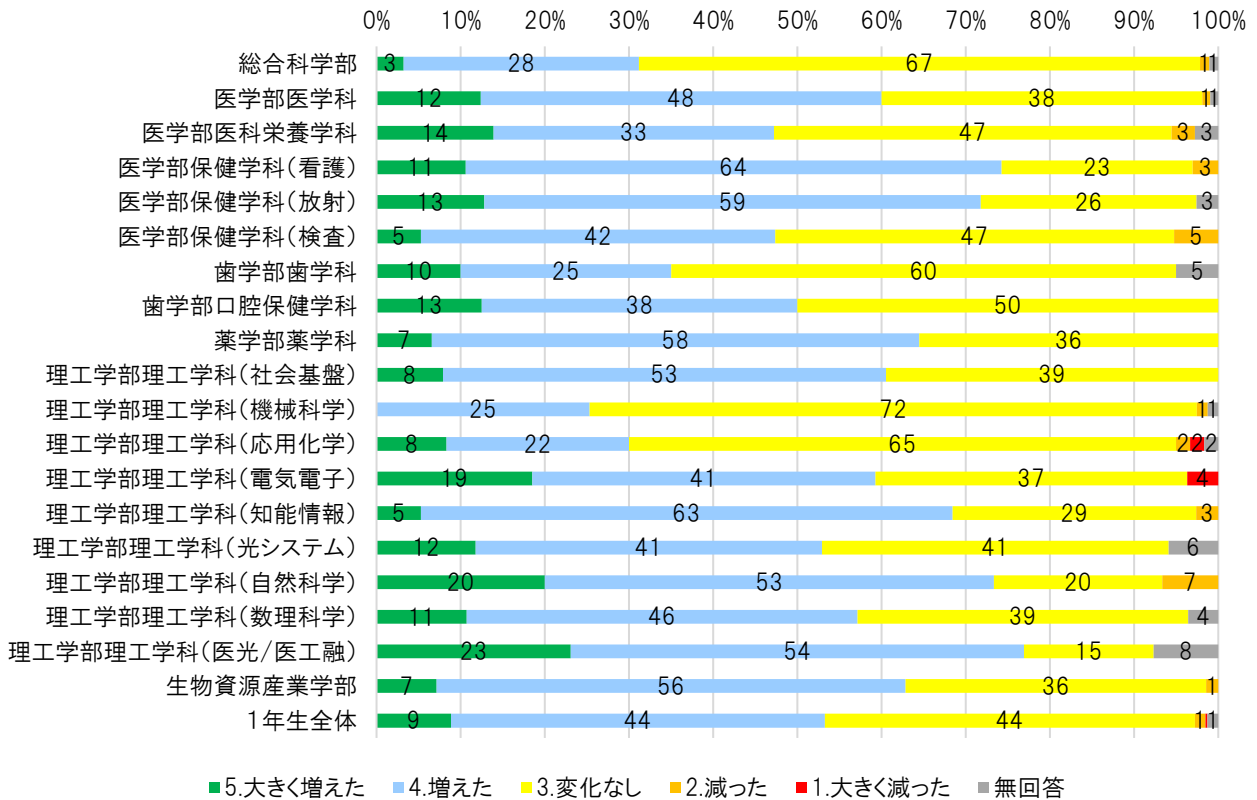
[54]外国語の運用能力



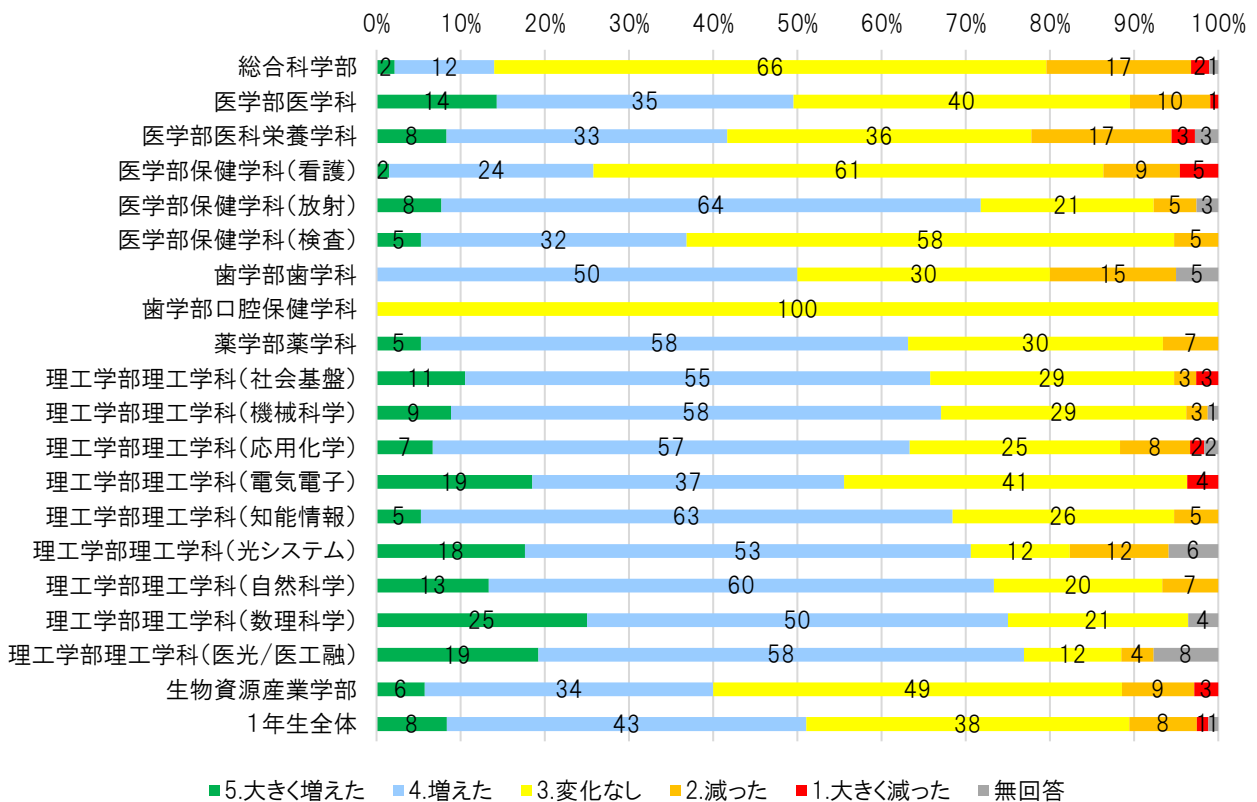
[55]コミュニケーションの能力



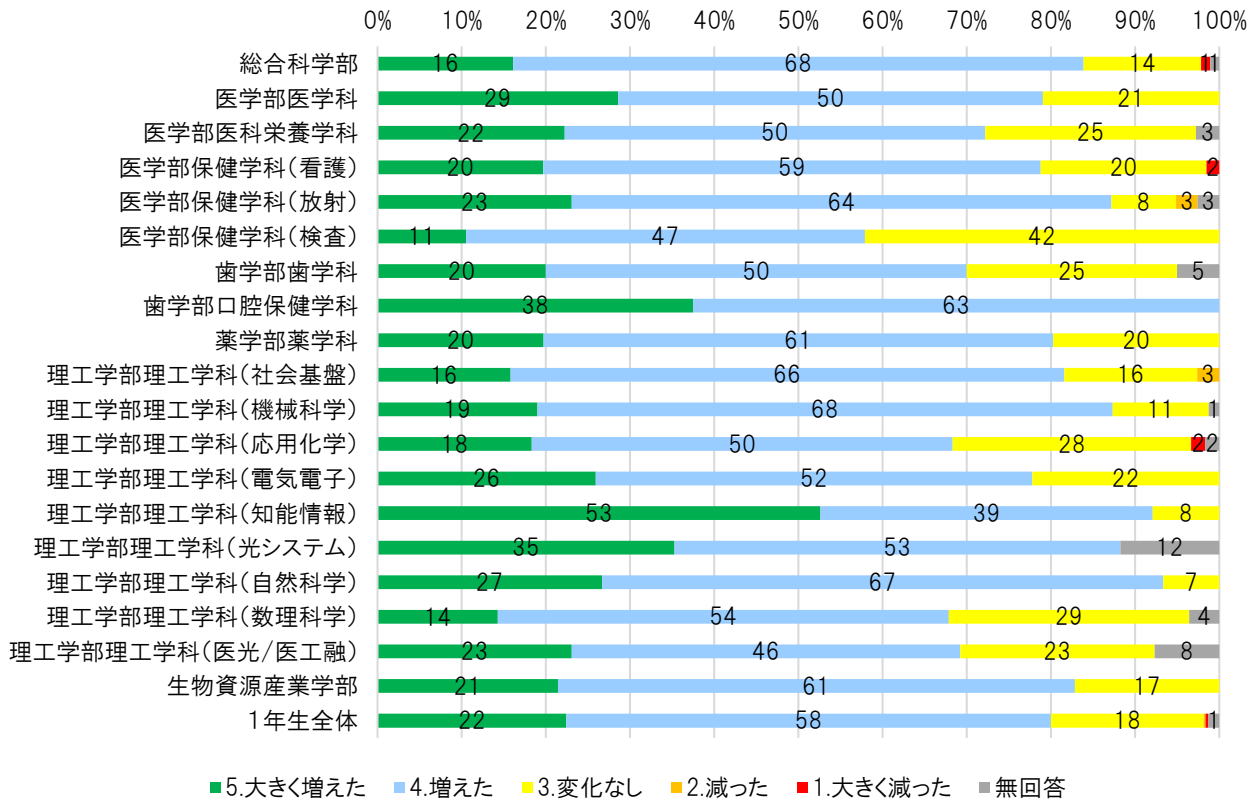
[56]プレゼンテーションの能力



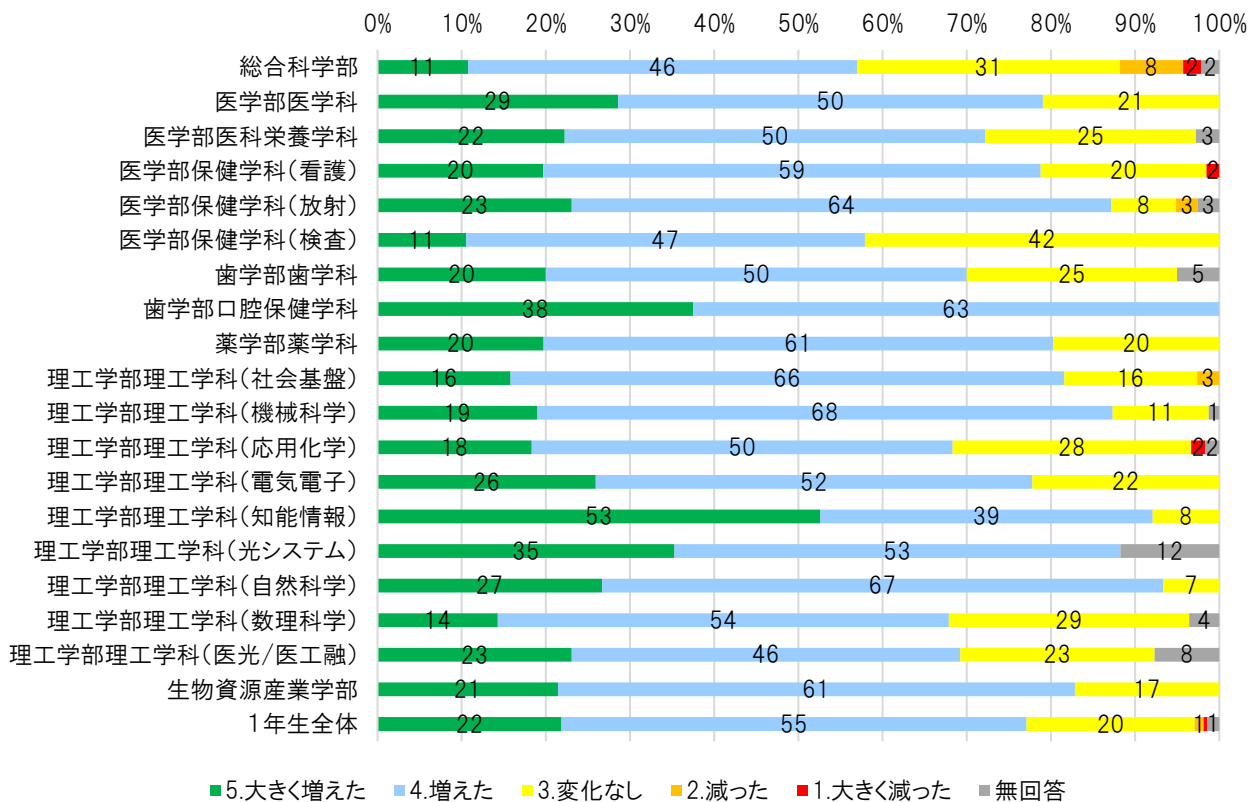
[57]数理的な能力



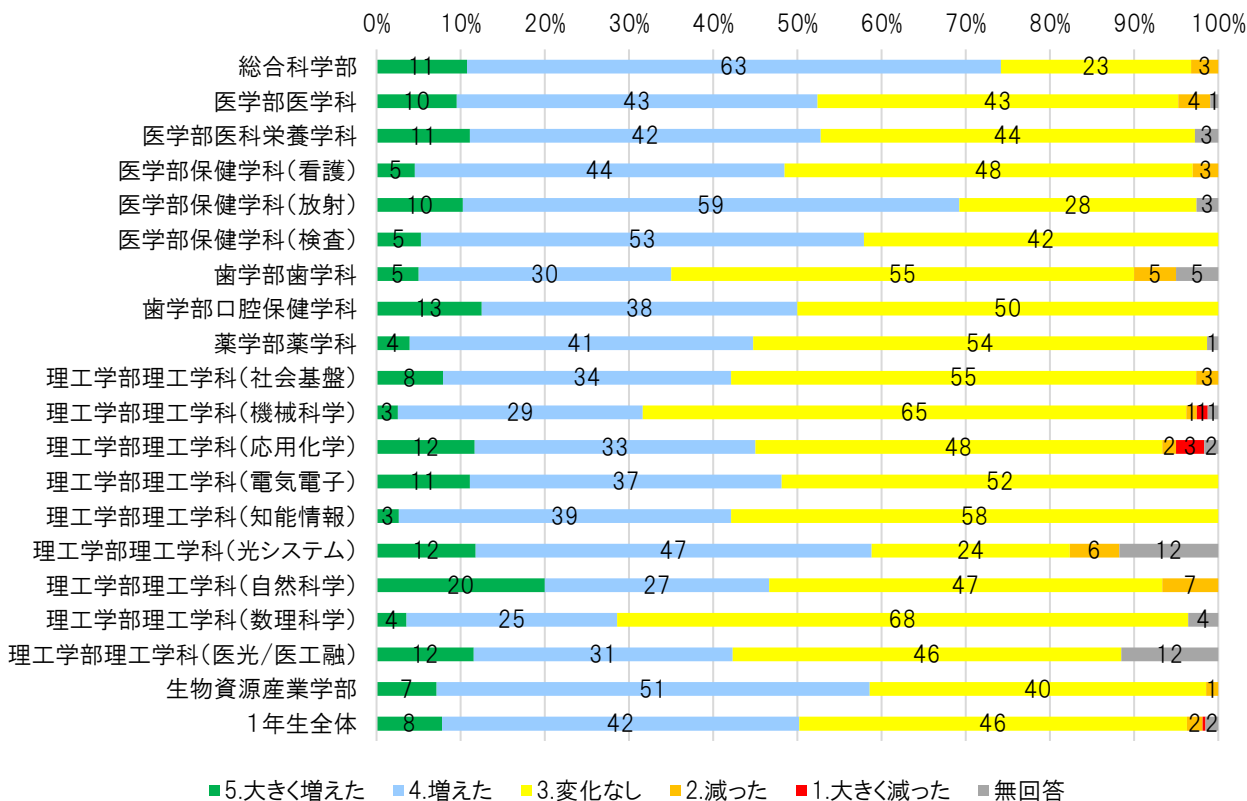
[58] コンピュータの操作能力



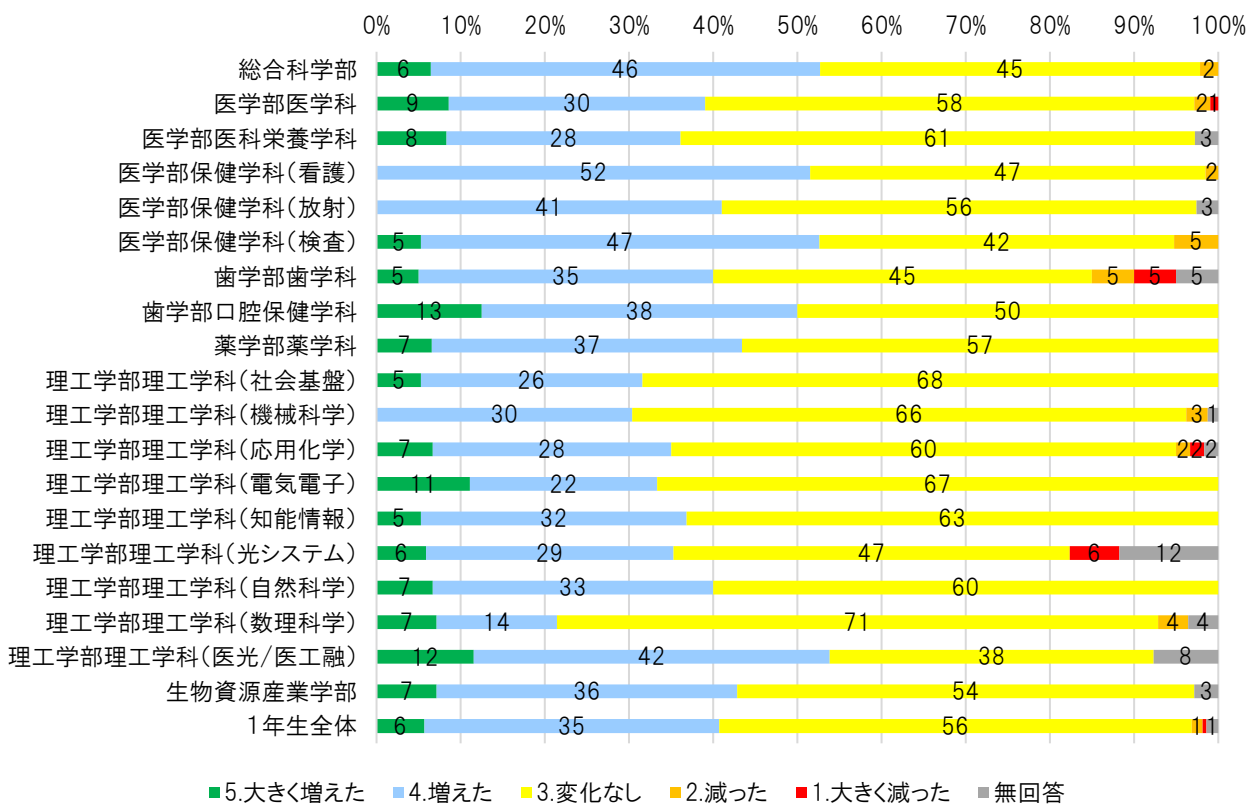
[59] 時間を効果的に利用する能力



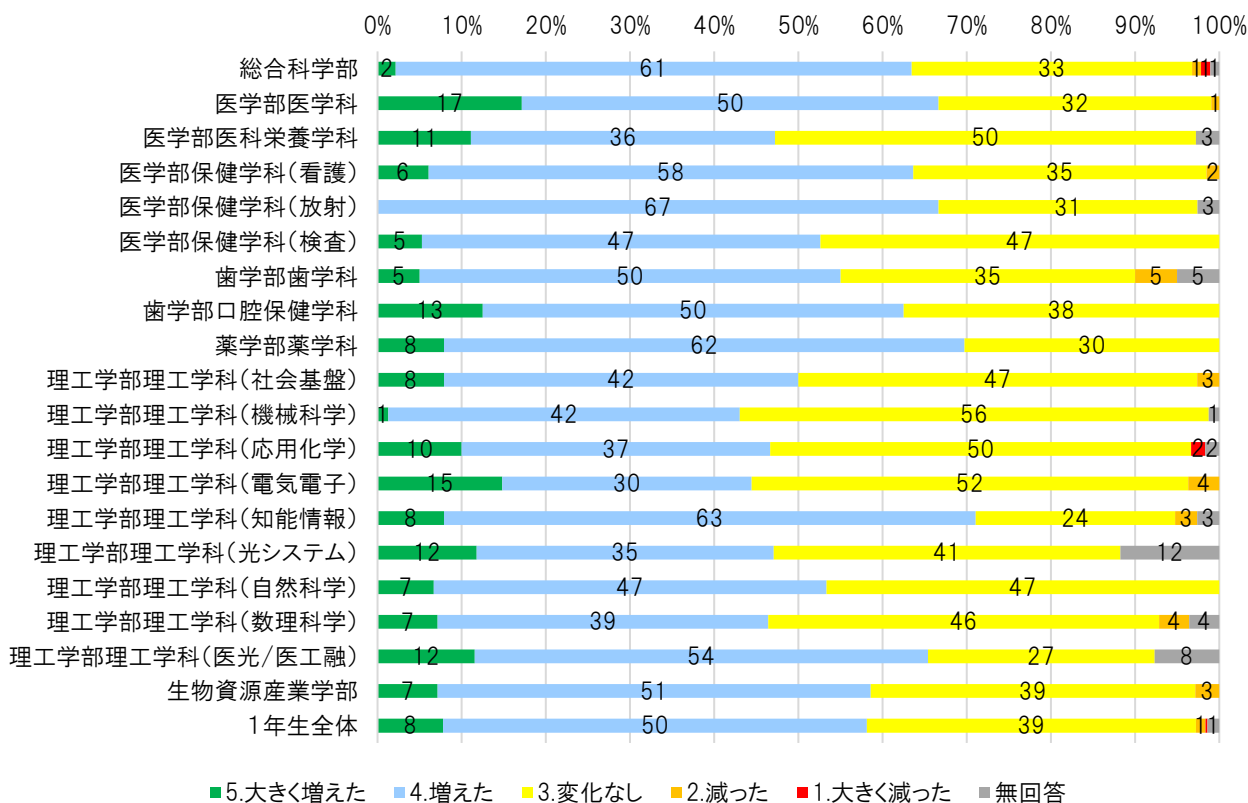
[60]グローバルな問題の理解



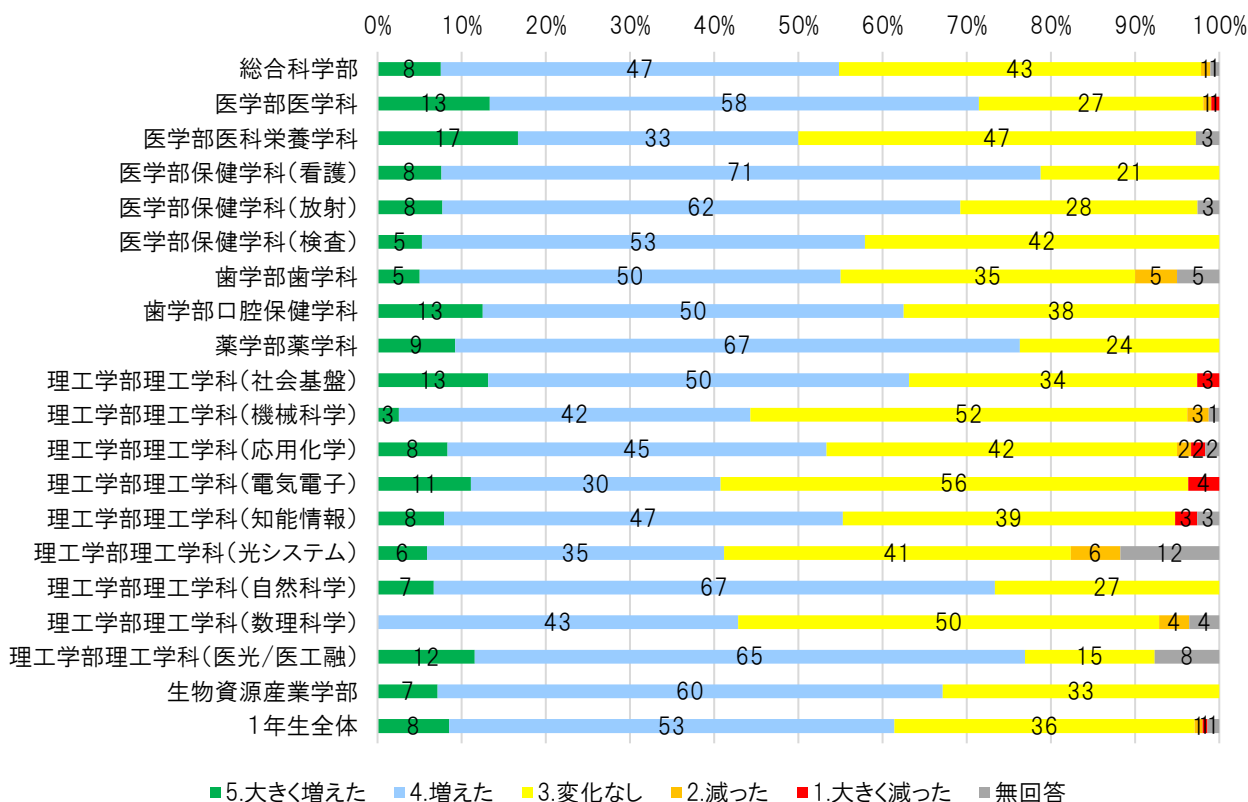
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



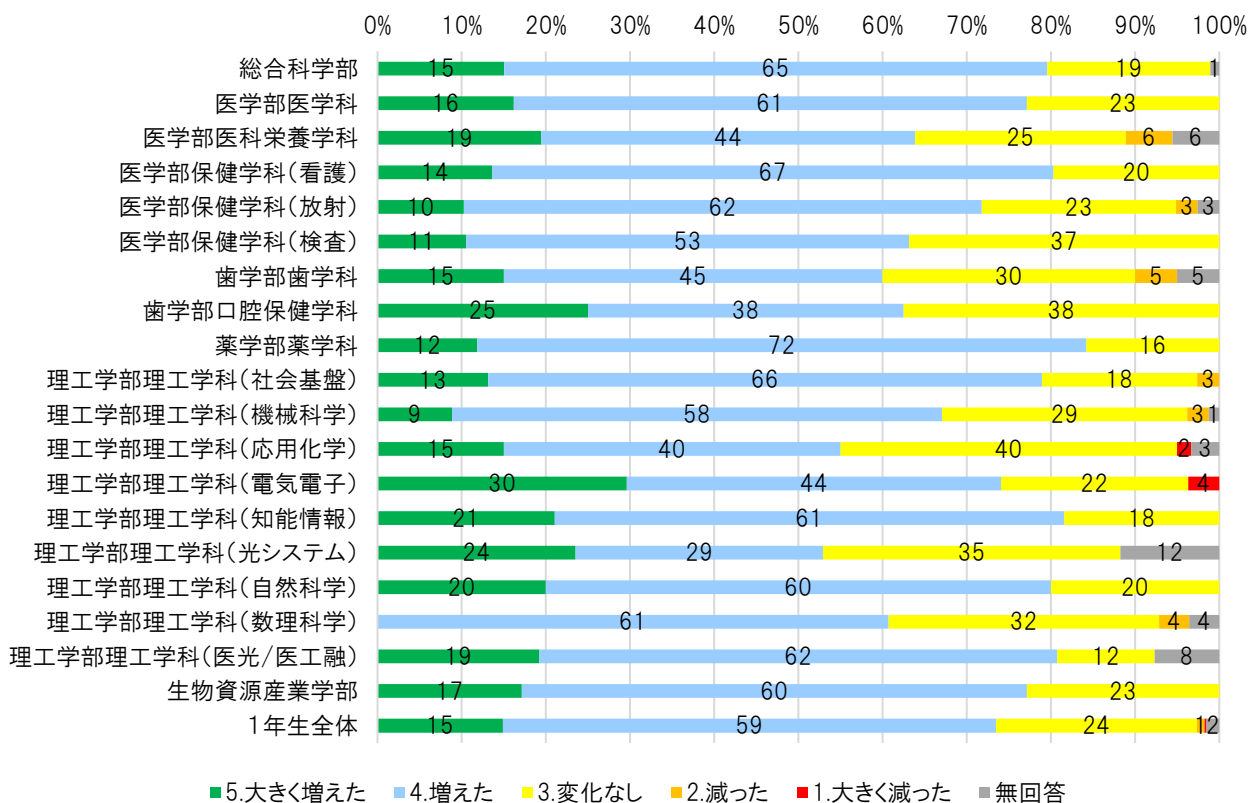
[62]職業人・社会の一員として求められる倫理観



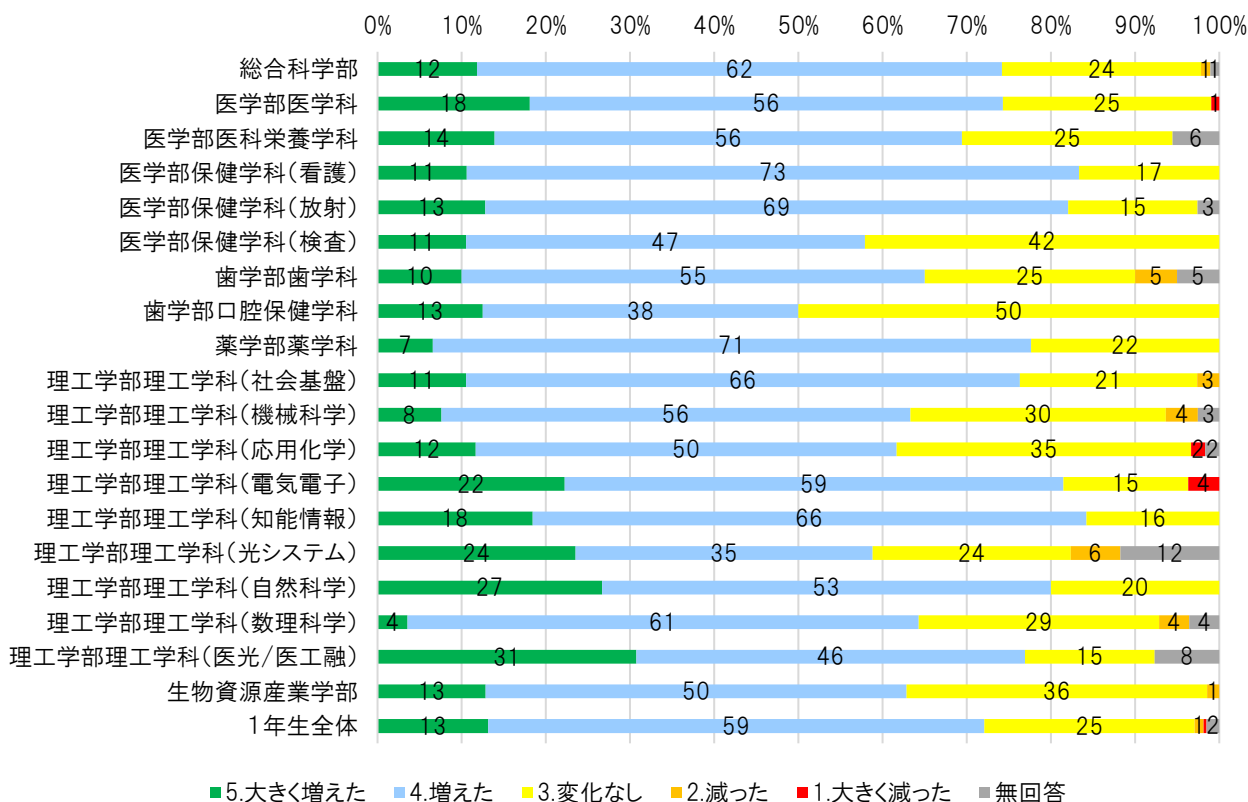
[63]生涯学び続け、教養・専門性を高める能力



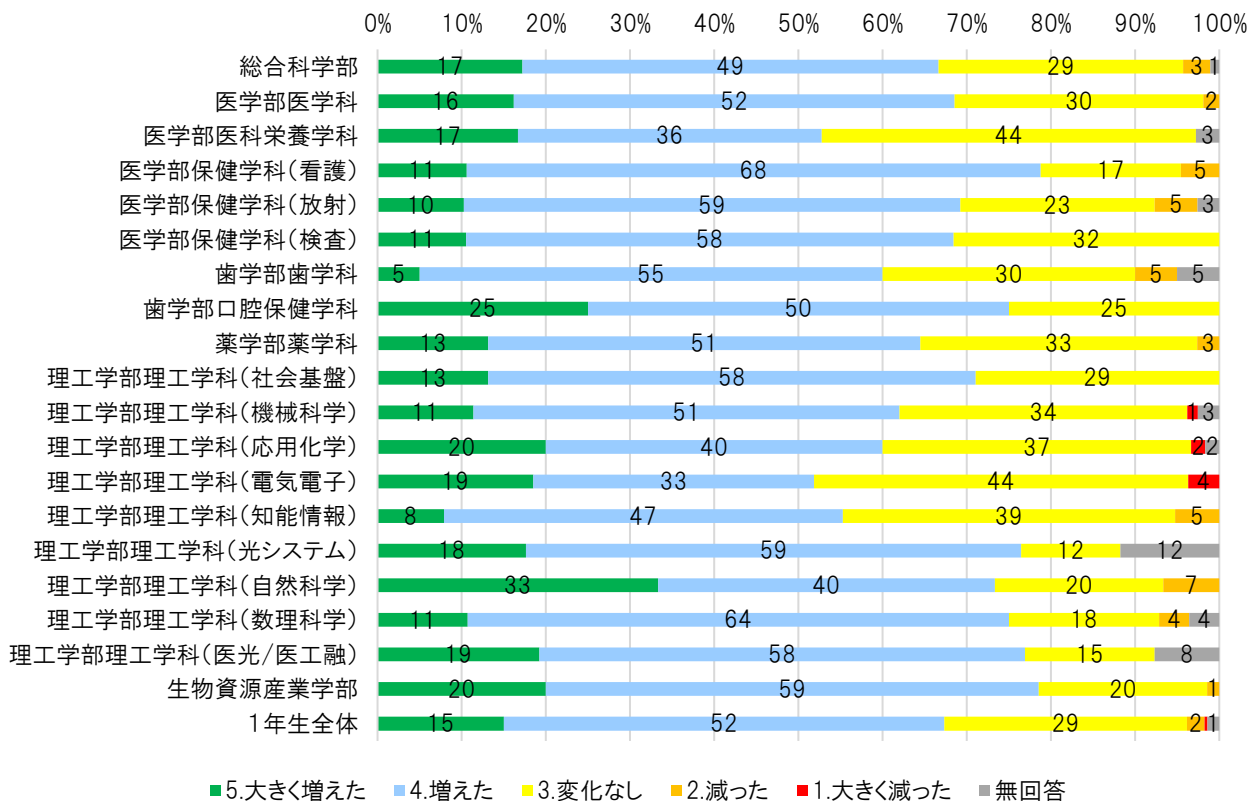
[64] 必要な情報を収集・取捨選択する能力



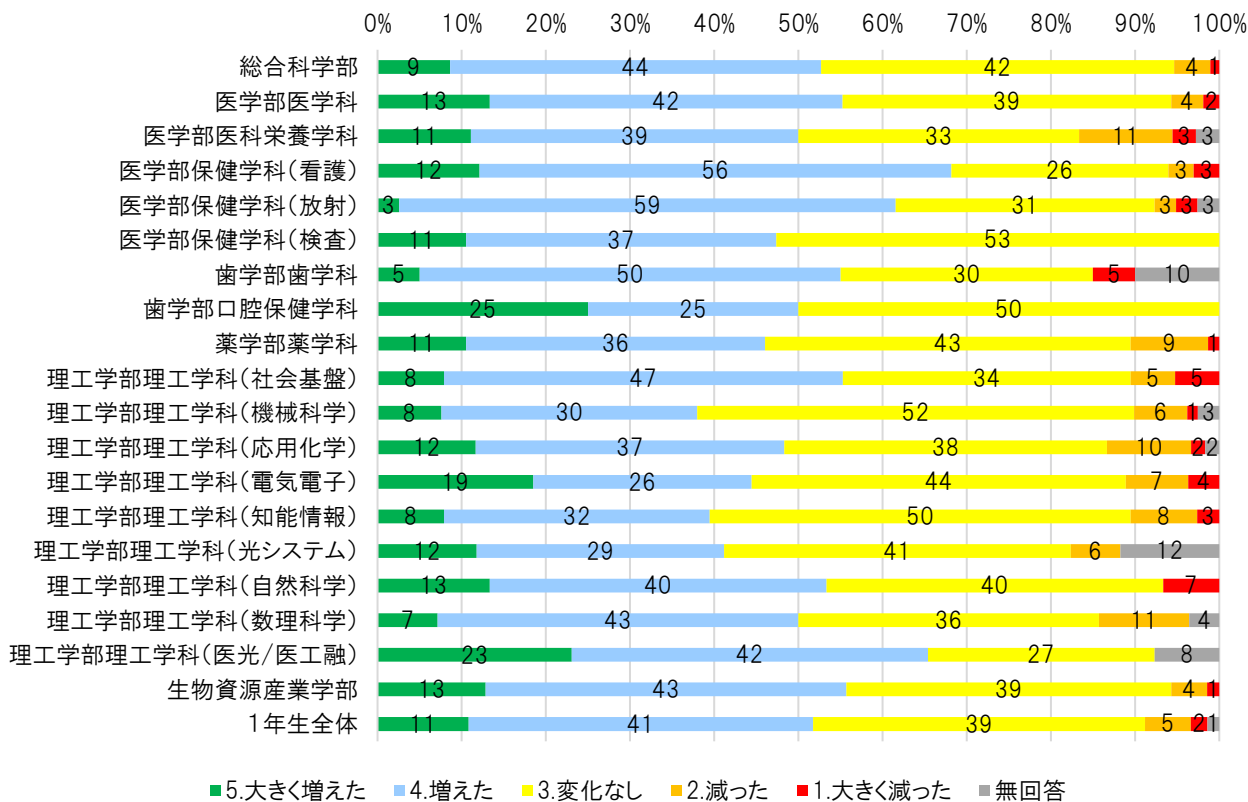
[65] データを読み、理解し、活用する能力



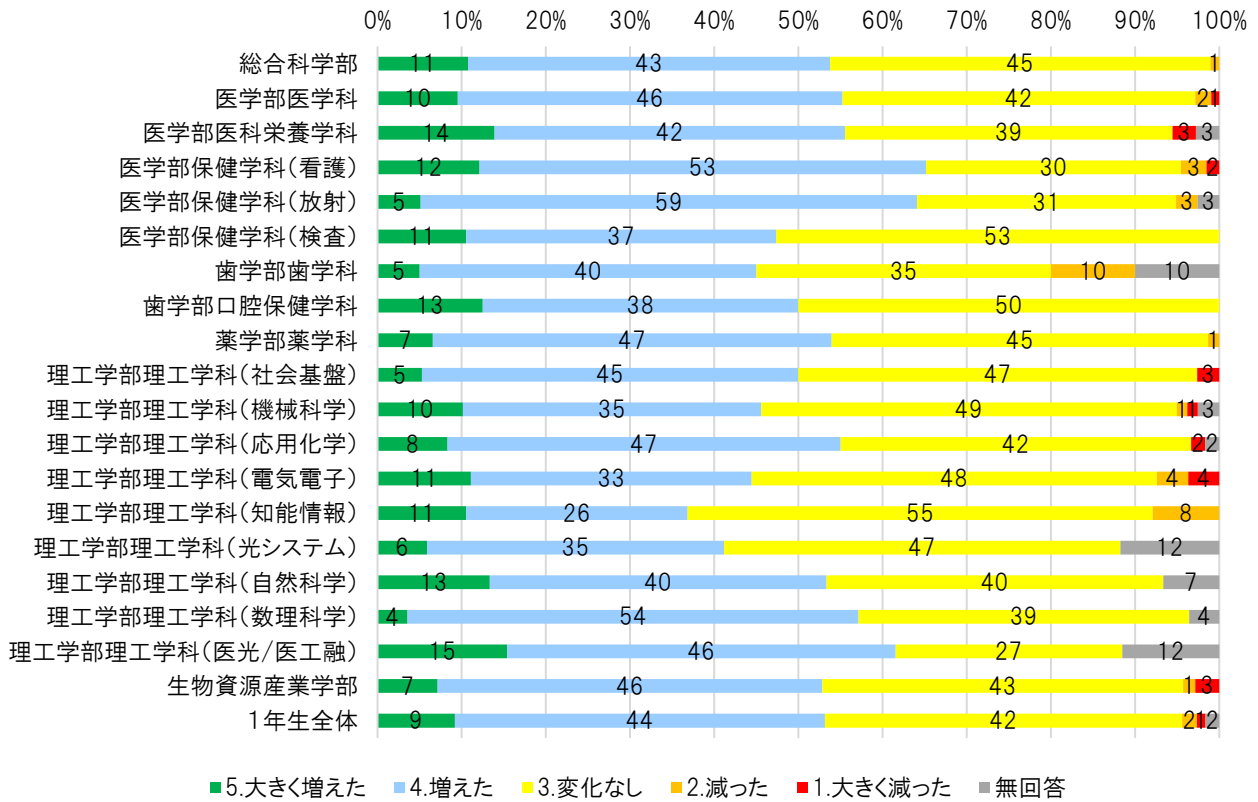
[66]新しいことに積極的に挑戦する姿勢



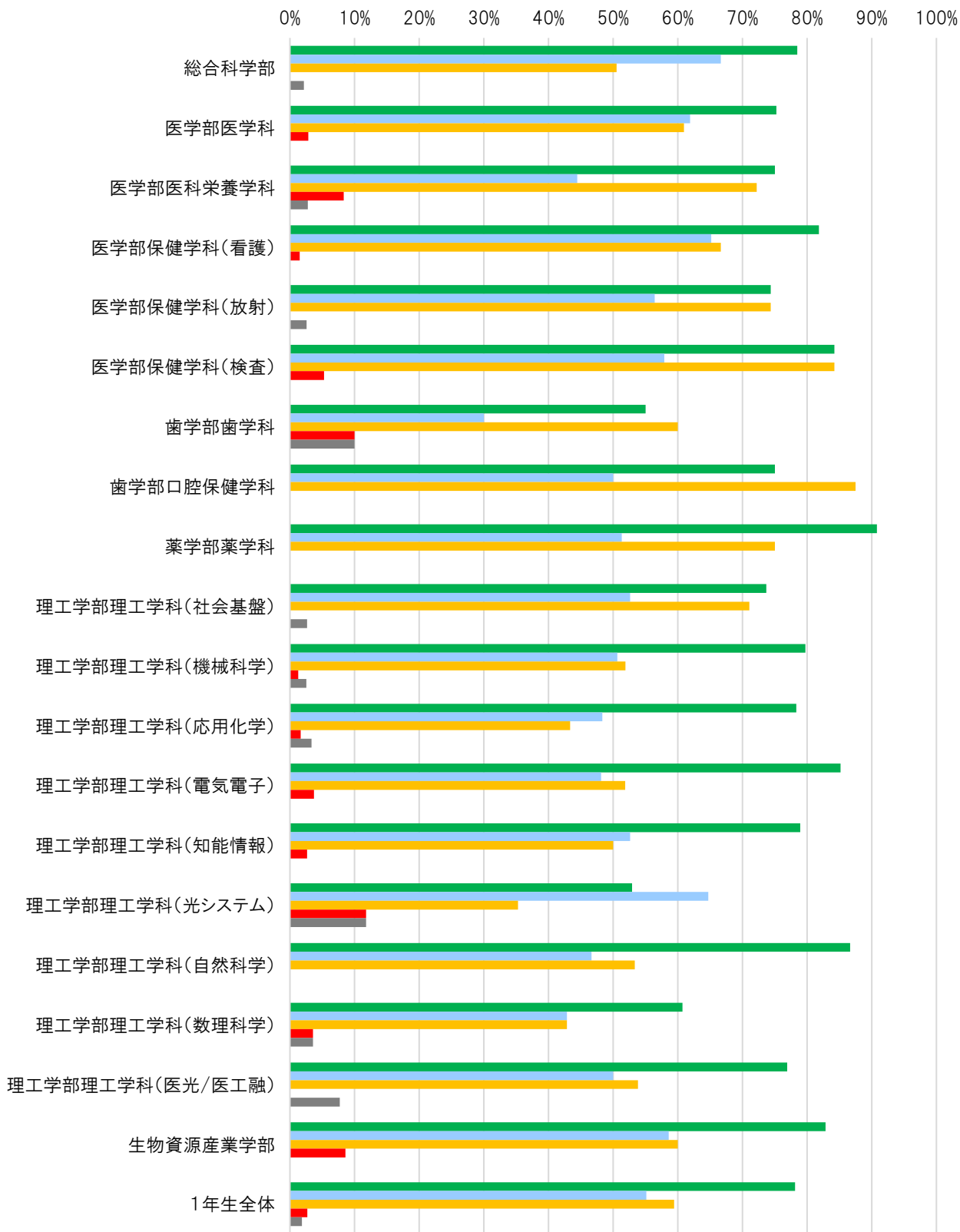
[67]ストレスに対処する能力



[68]柔軟に発想し、表現する能力

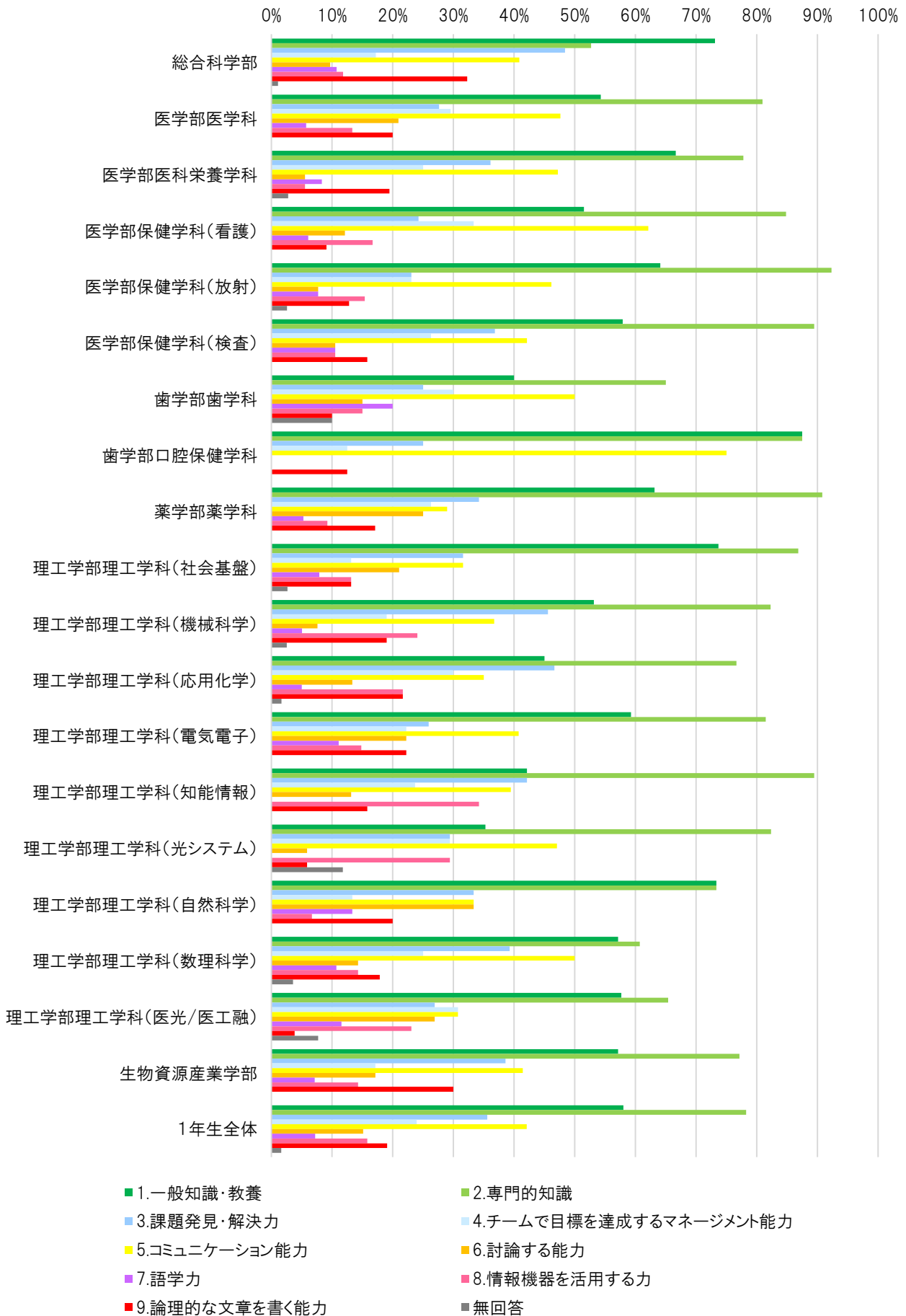


[69]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答)

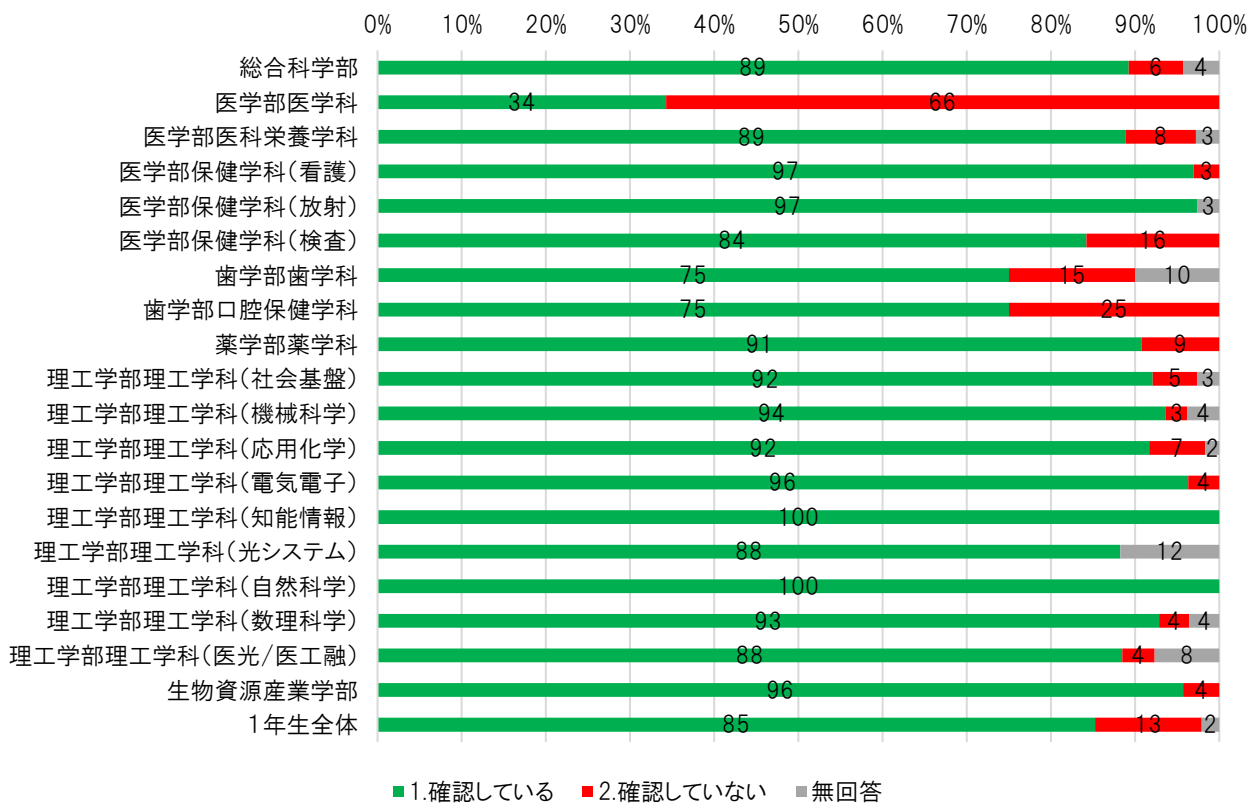


- 1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
- 2. 人生を支える幅広い教養
- 3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
- 4. 特に期待するものはない
- 無回答

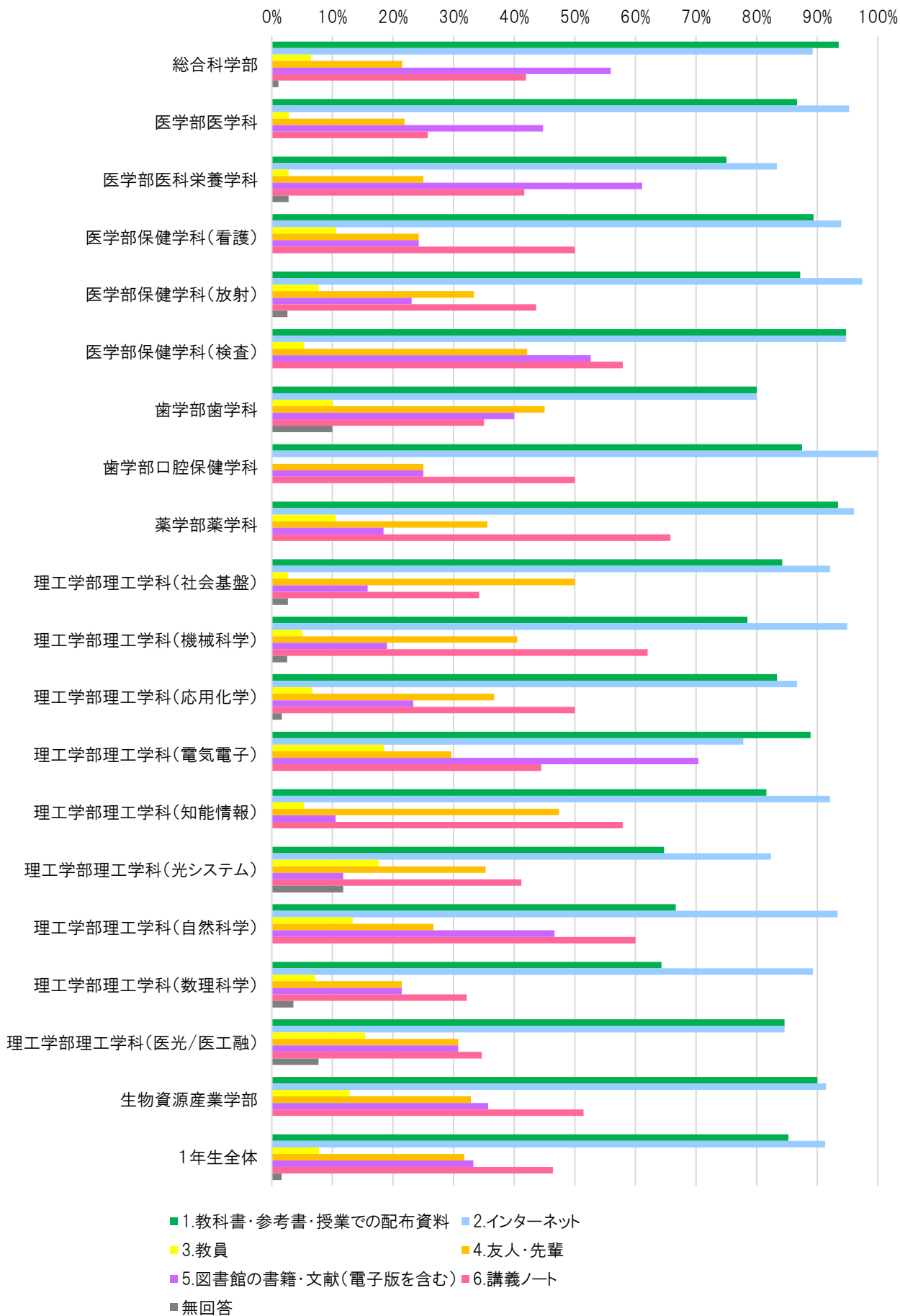
[70]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。(複数回答)



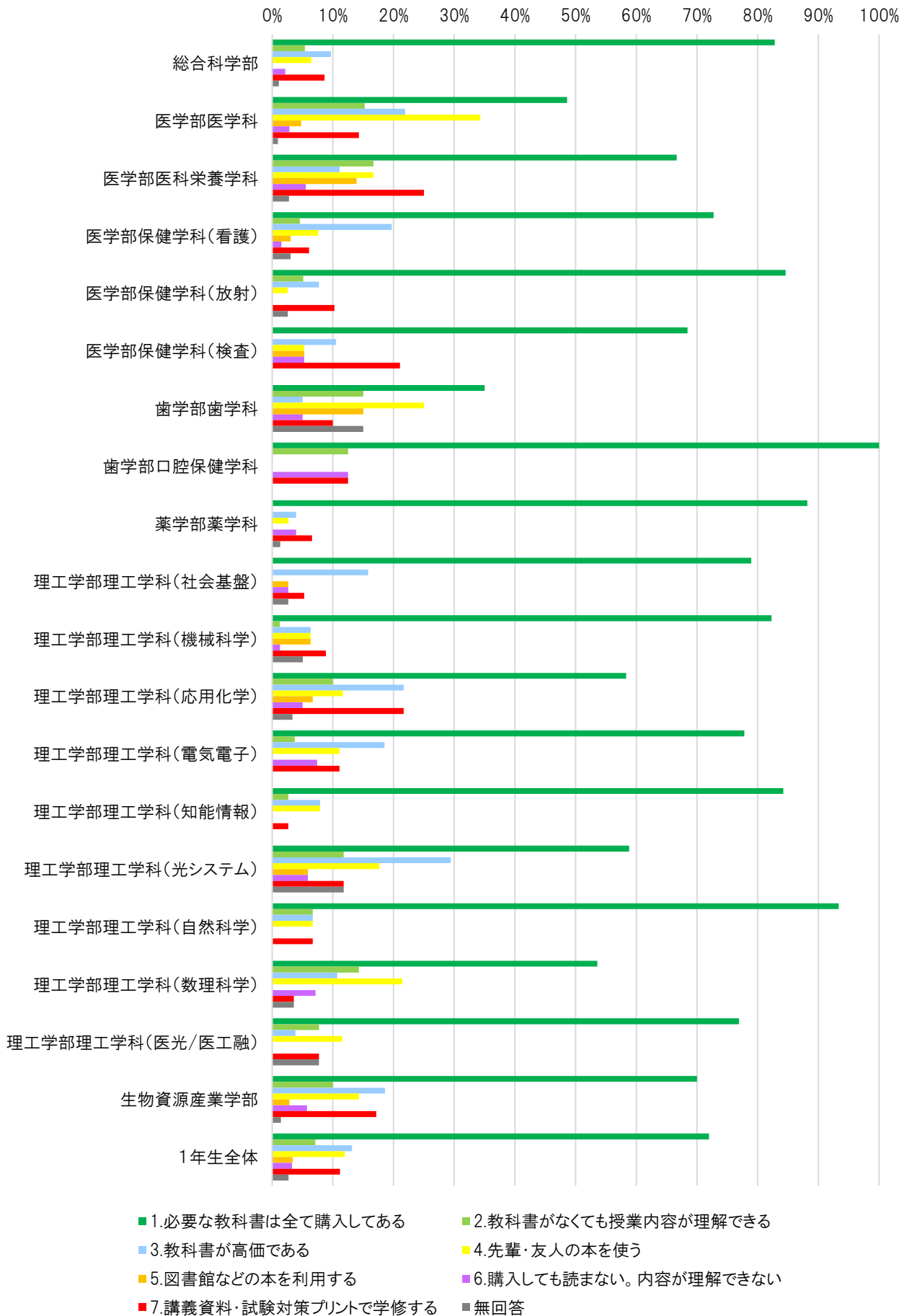
[71]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載していません。自身の「GPA」について確認していますか。



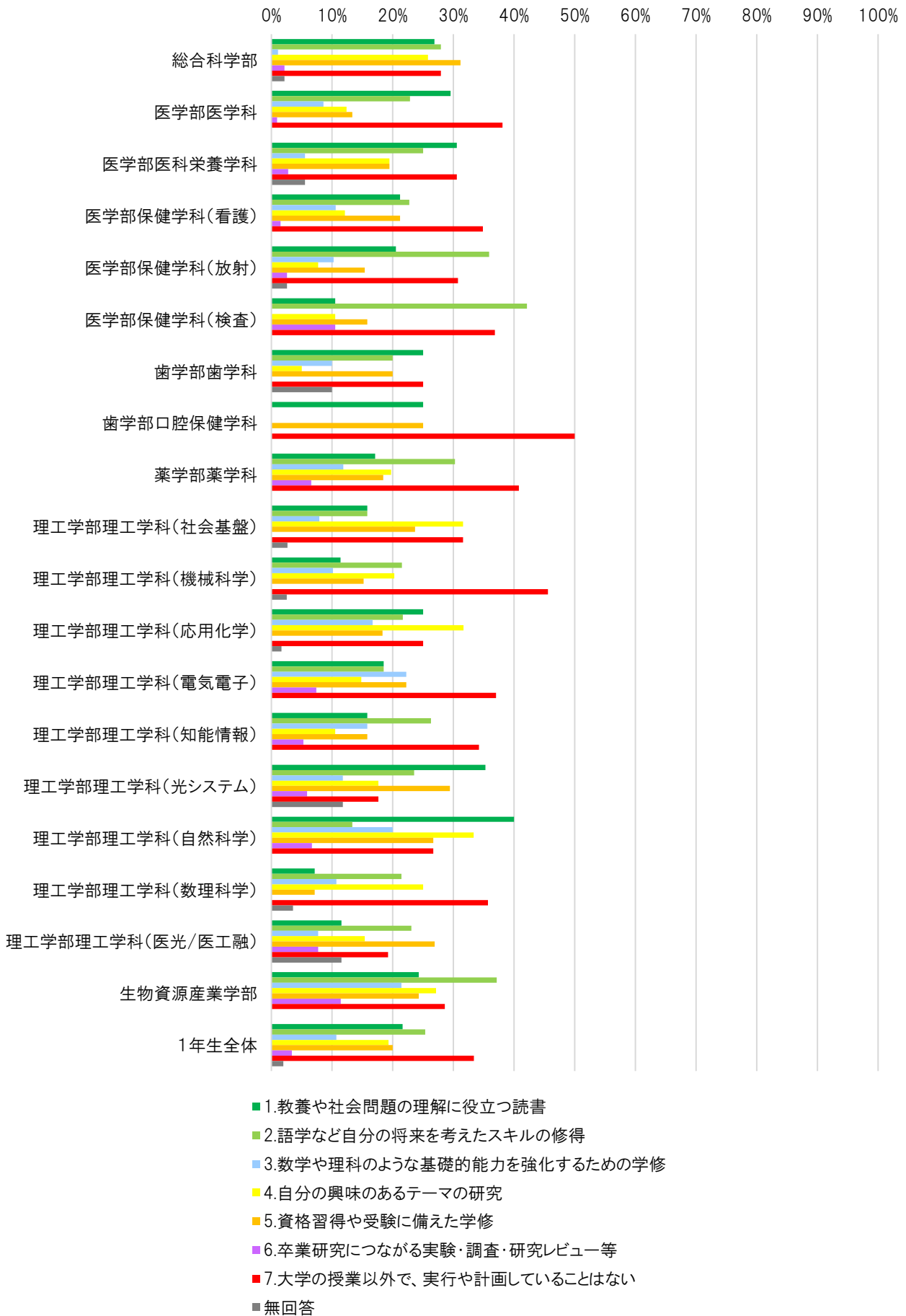
[72]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



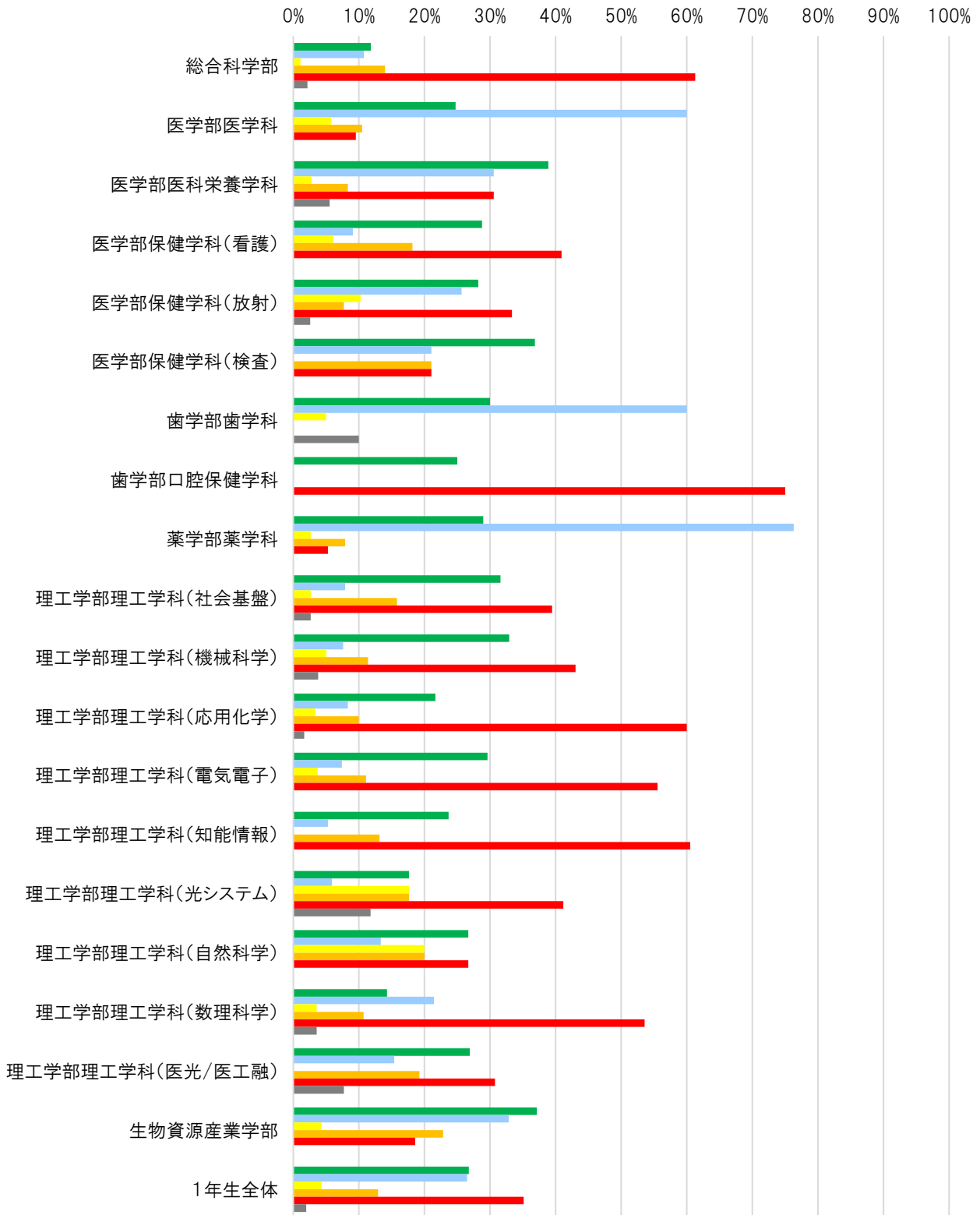
[73]教科書を購入していない場合の理由はなんですか。(複数回答可)



[74]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



[75]高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



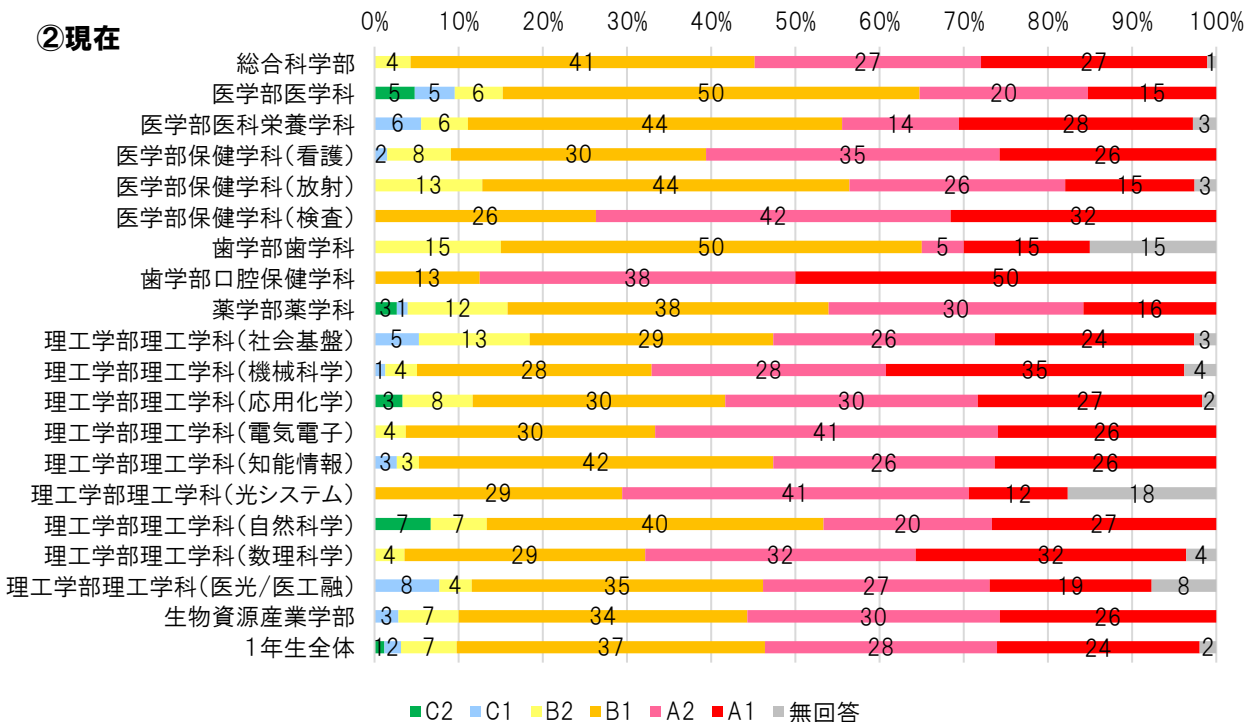
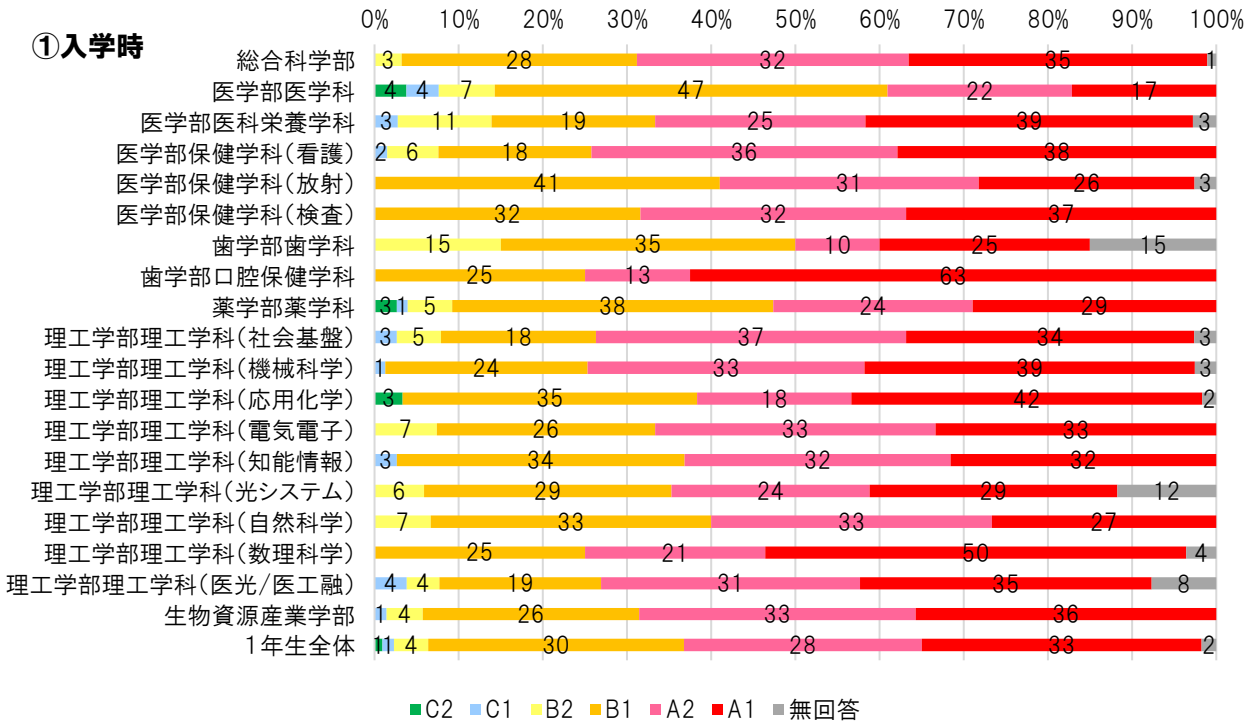
- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない
- 無回答

Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ教えてください。

[76]聞く力

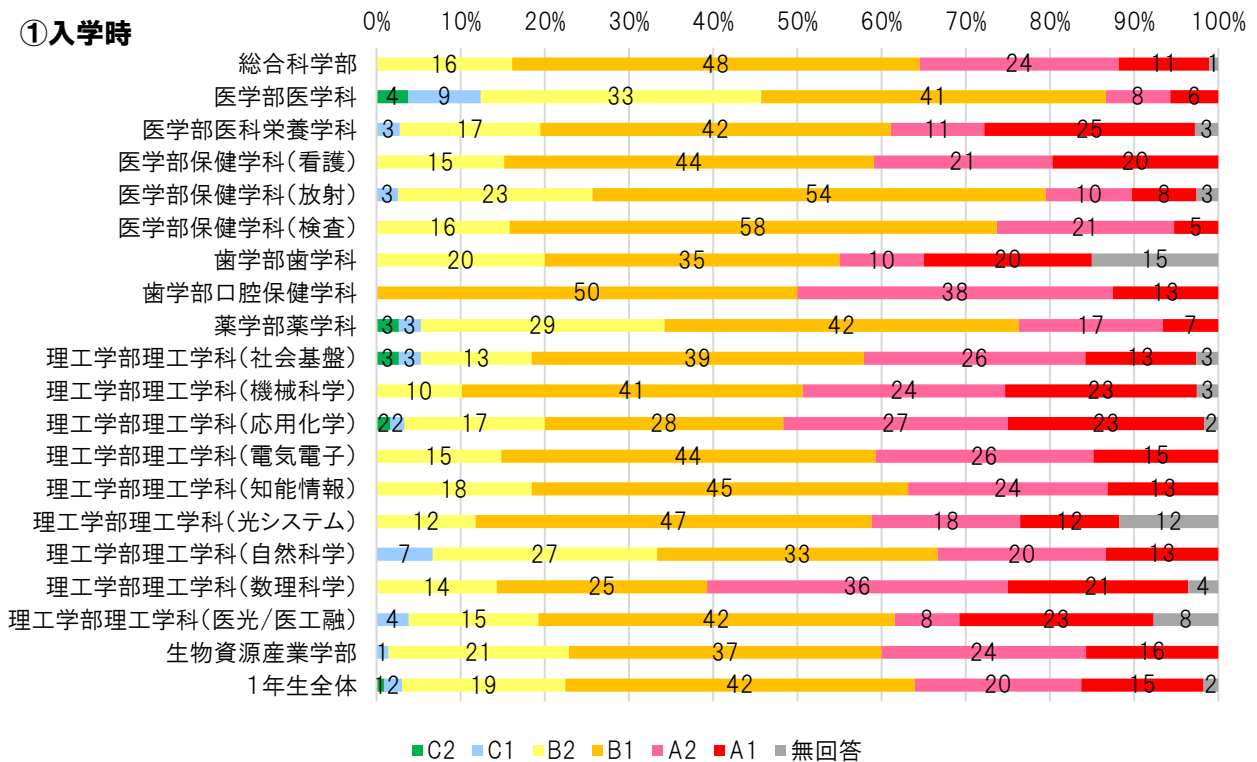
- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



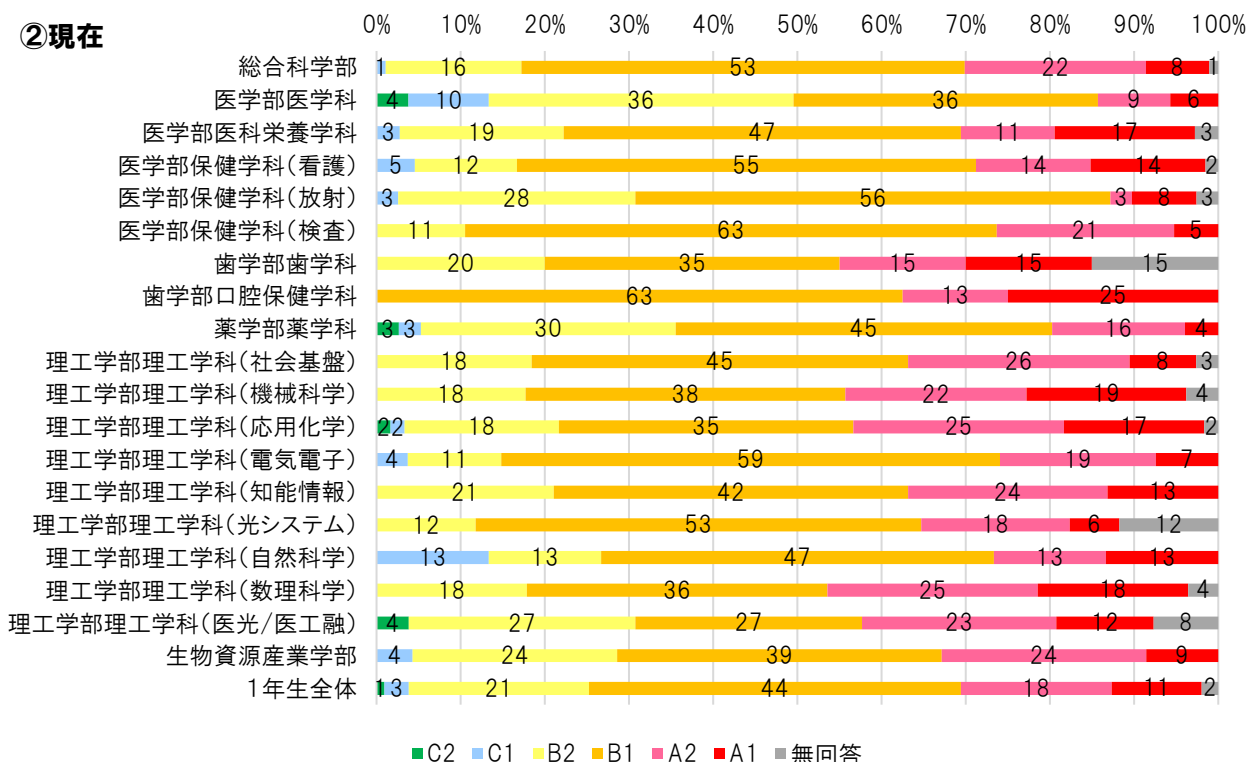
〔77〕読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中がよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
 A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
 B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
 B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
 C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
 C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。

①入学時



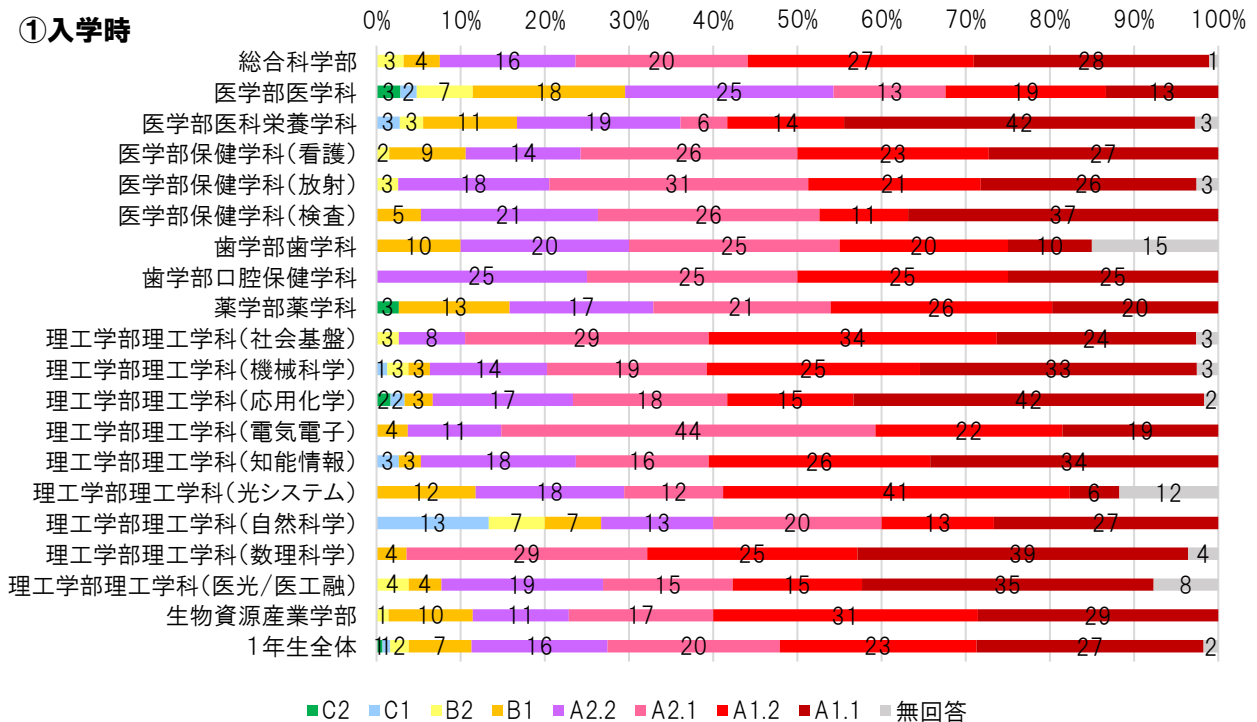
②現在



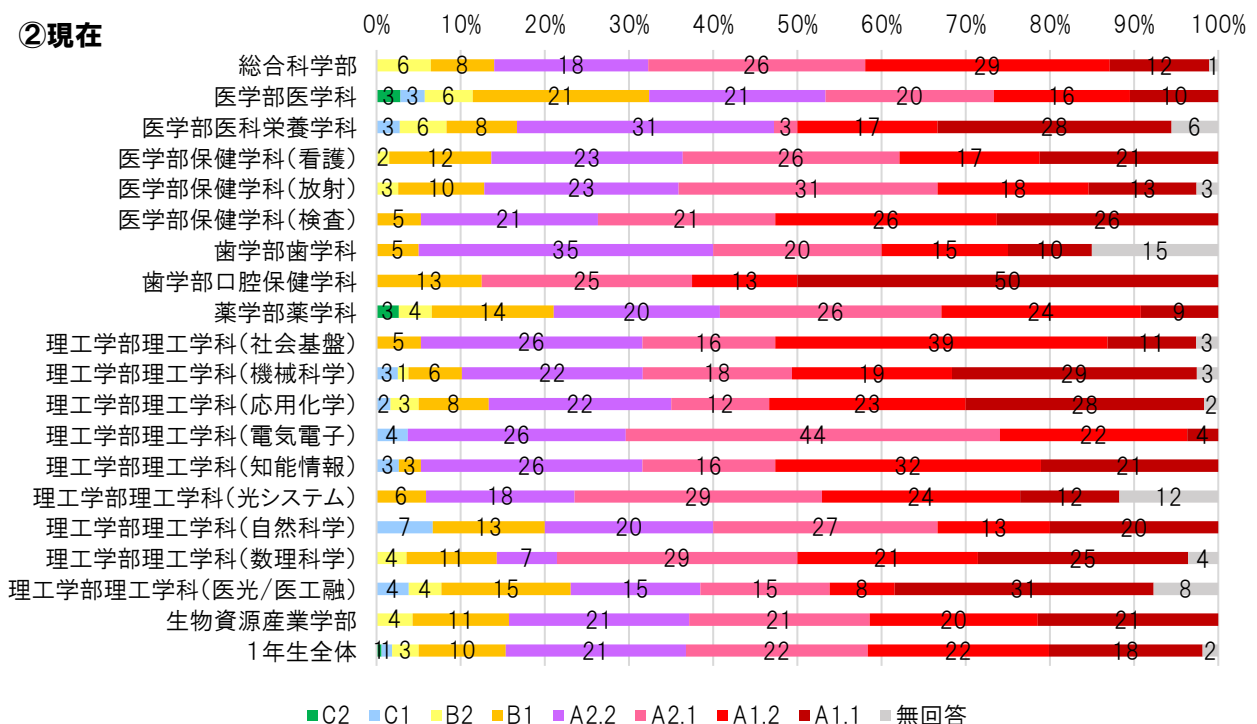
[78]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。

①入学時



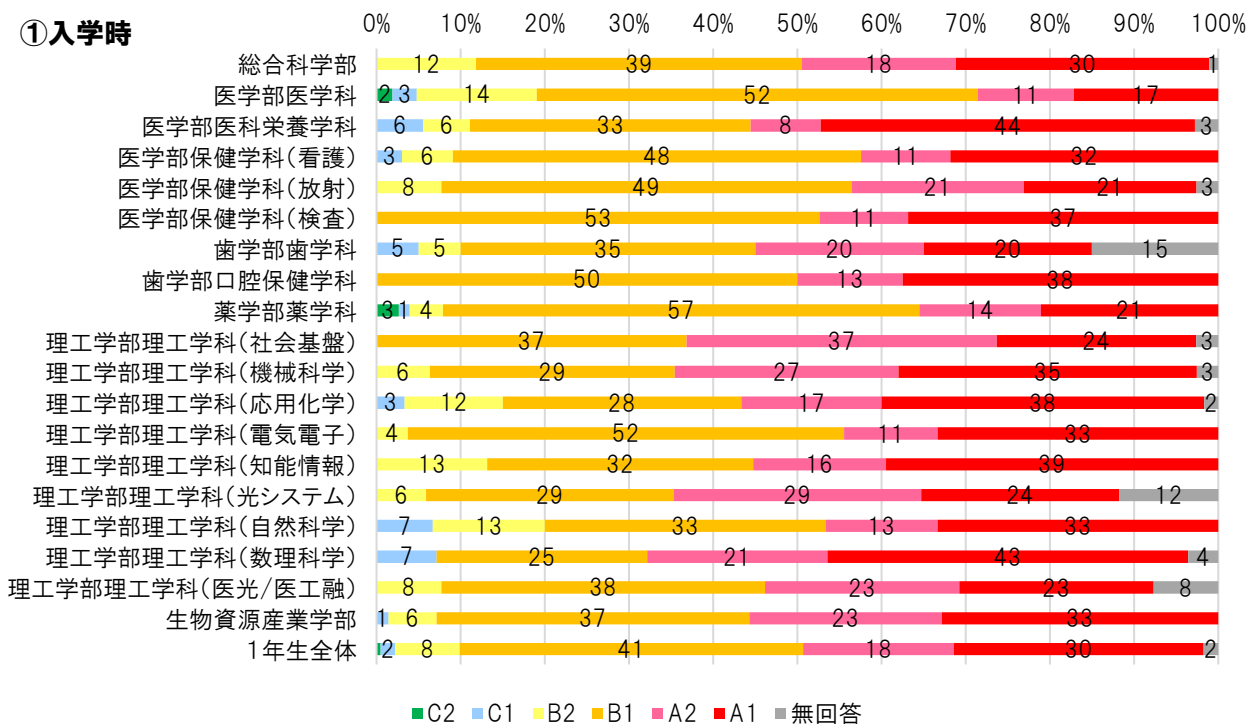
②現在



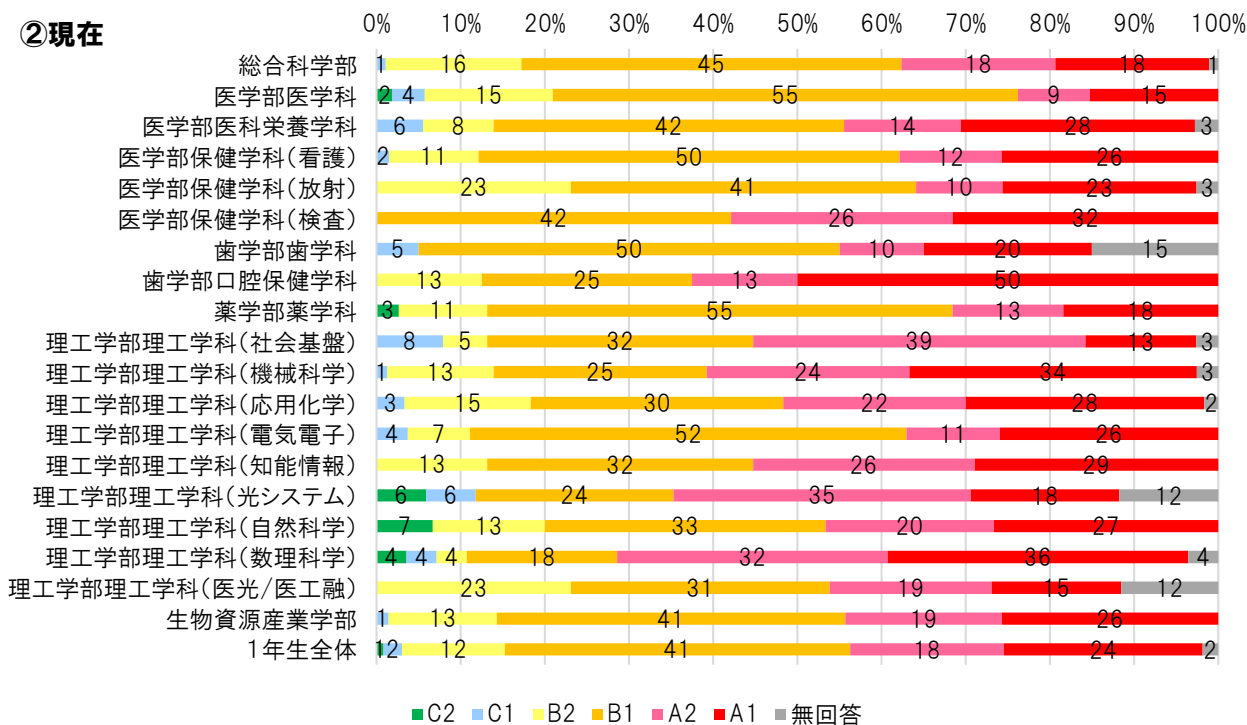
〔79〕表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
 A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
 B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。
 B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
 C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
 C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

①入学時



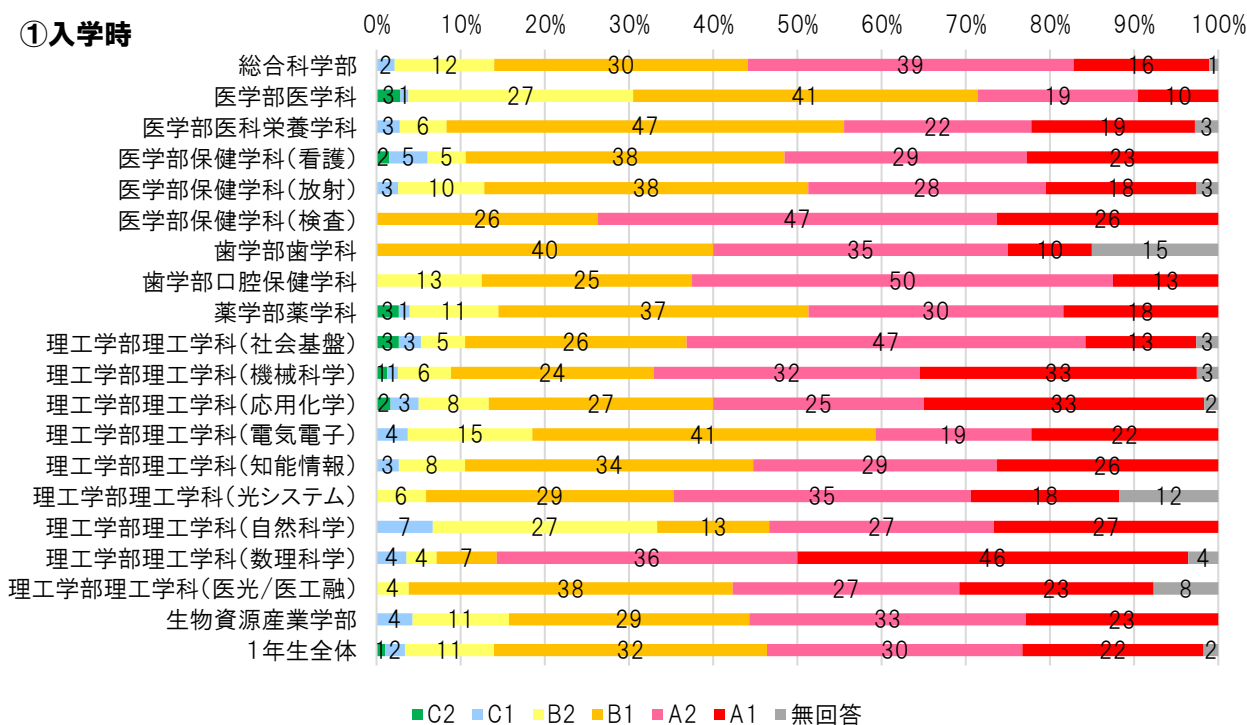
②現在



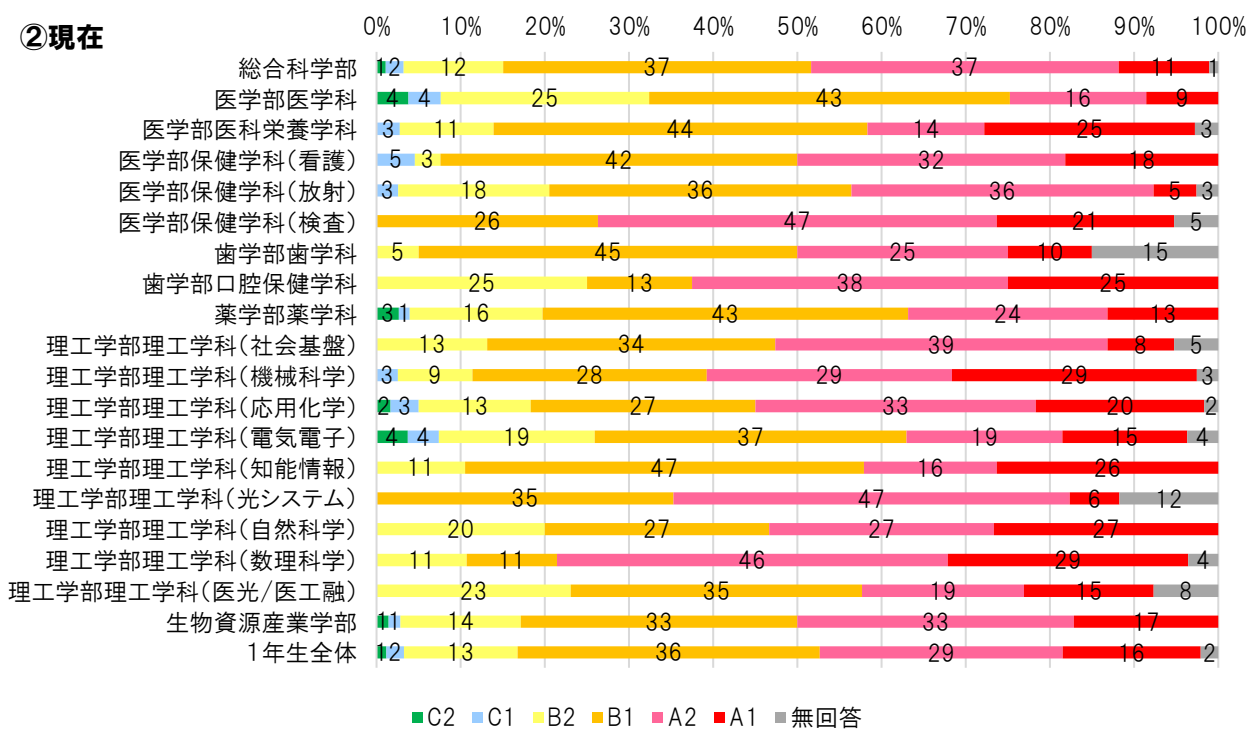
[80]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

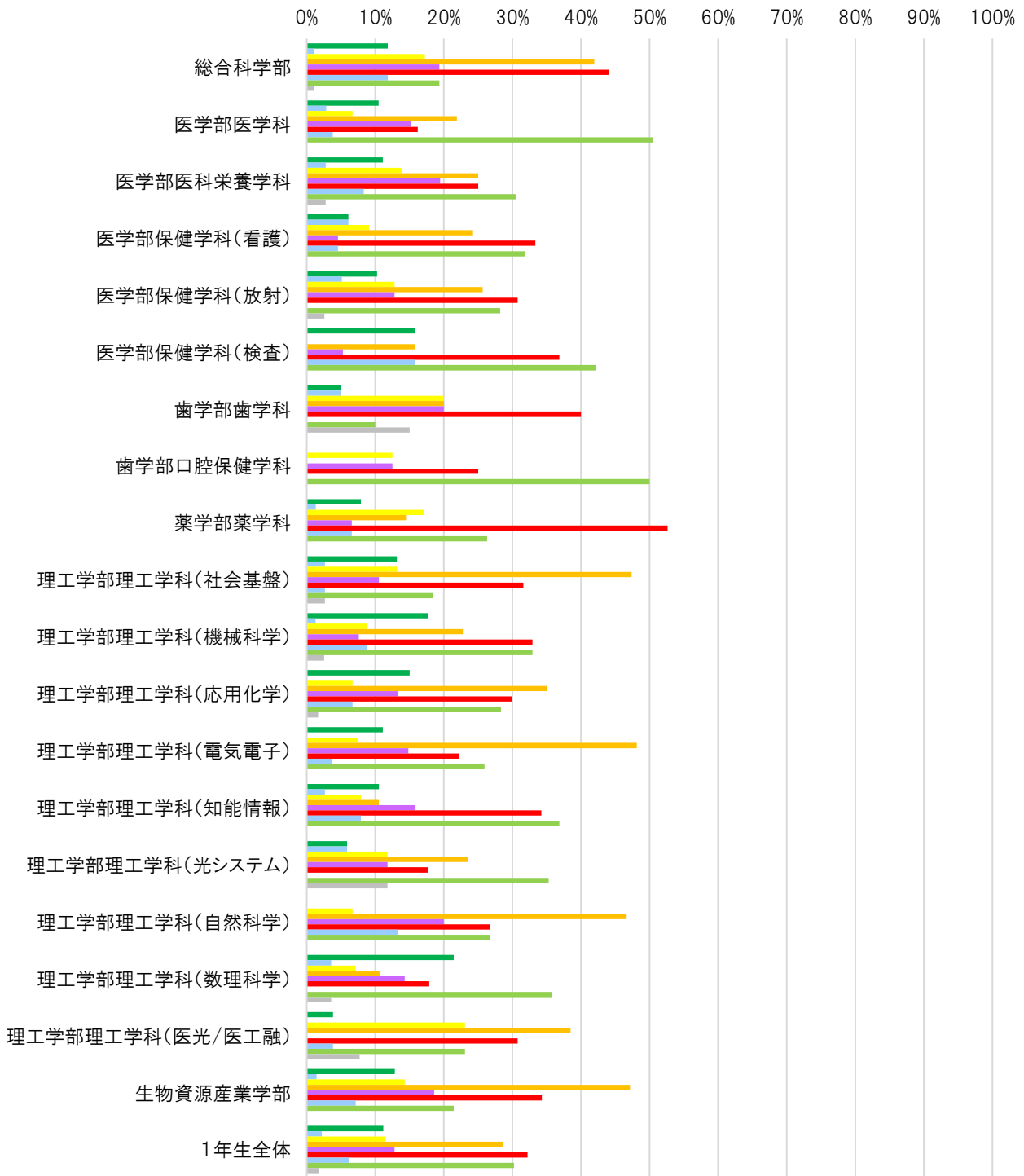
①入学時



②現在

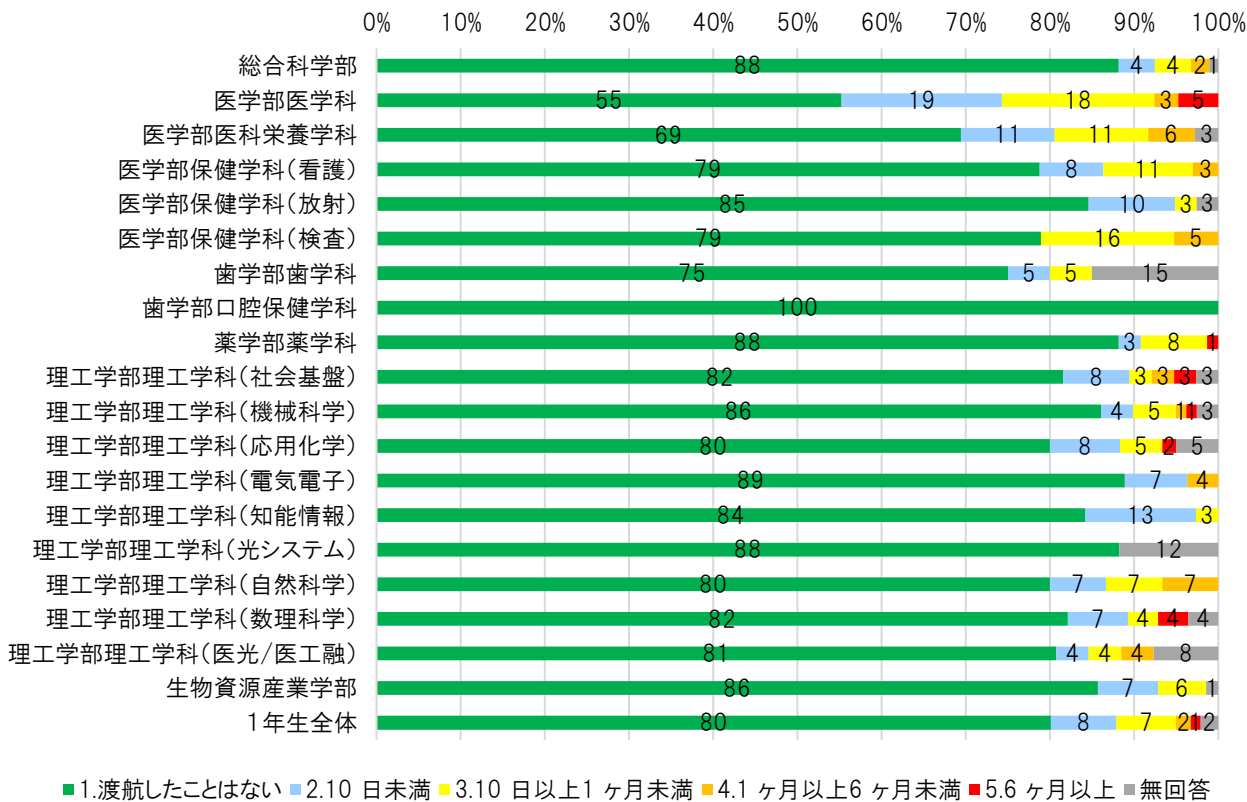


[81]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

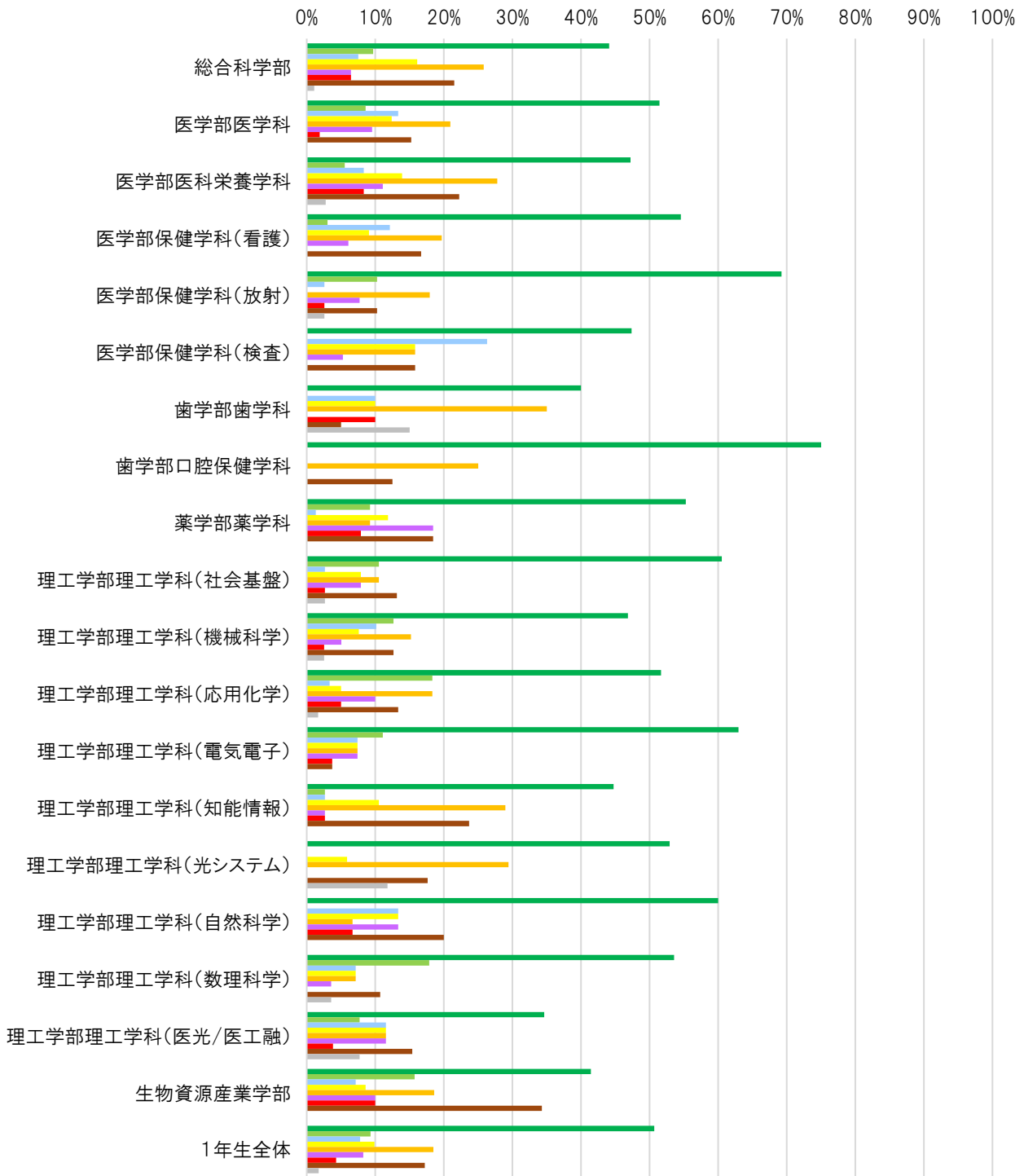


- 1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2. 英会話スクールを利用している
- 3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
- 4. TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している
- 5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
- 6. 授業で使用している教科書, 英語論文を勉強している
- 7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
- 8. 特に何もしていない
- 無回答

[82]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



[83]徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

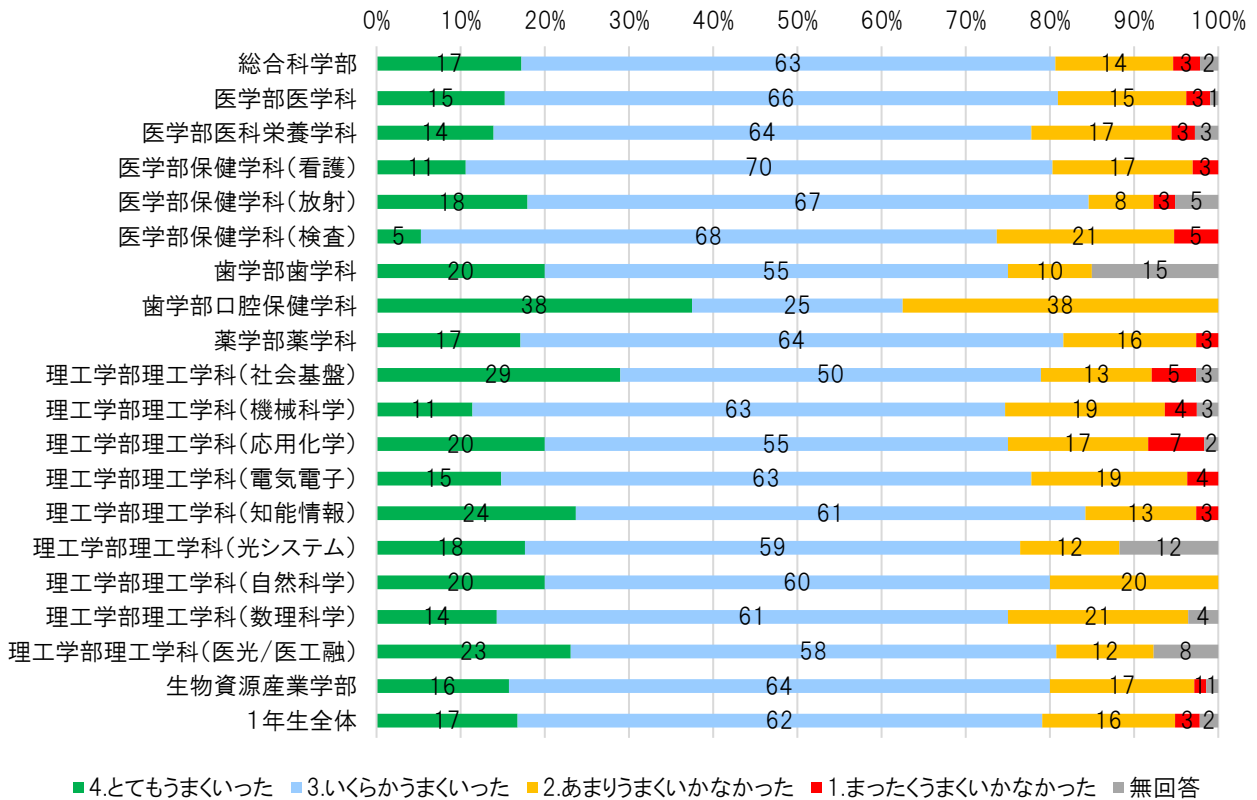


- 1.教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2.もっと授業数を増やしてほしい
- 3.もっと授業数を減らしてほしい
- 4.もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5.ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6.専門教育の英語の時間を増やしてほしい
- 7.専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
- 8.専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 無回答

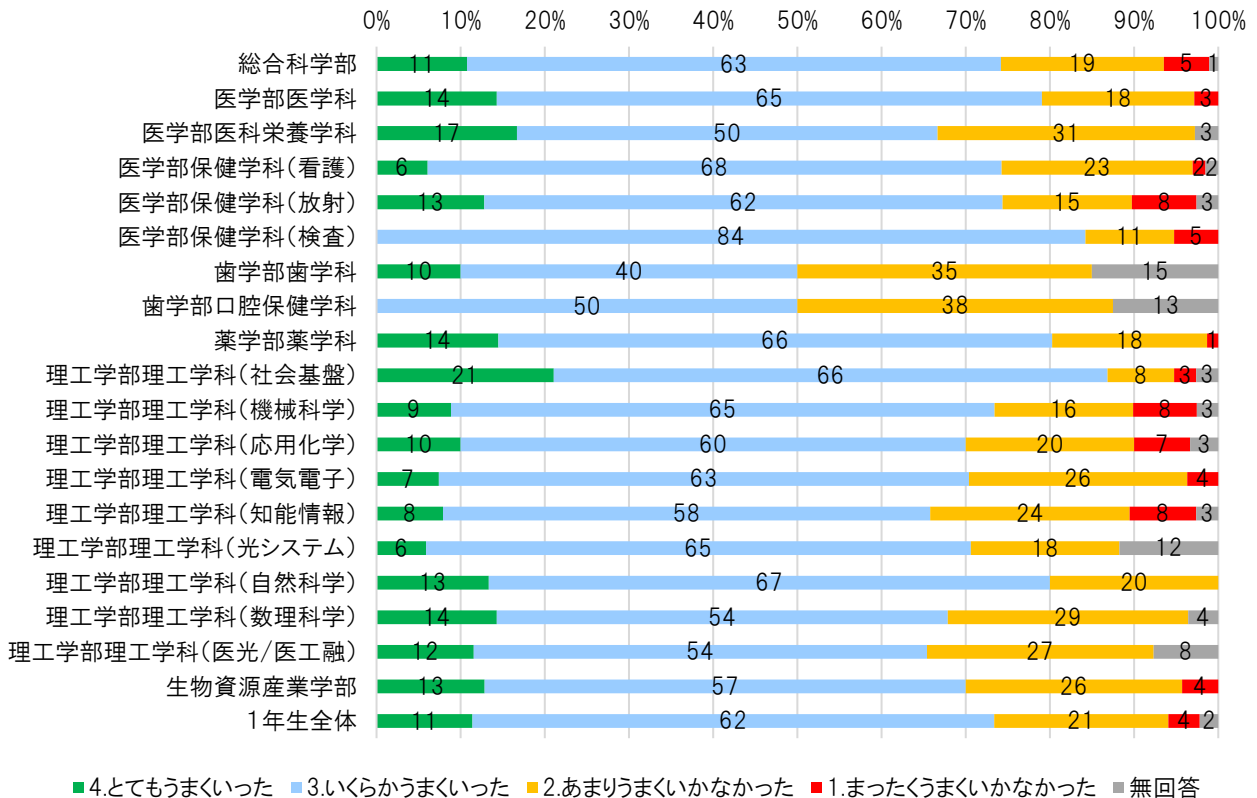
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

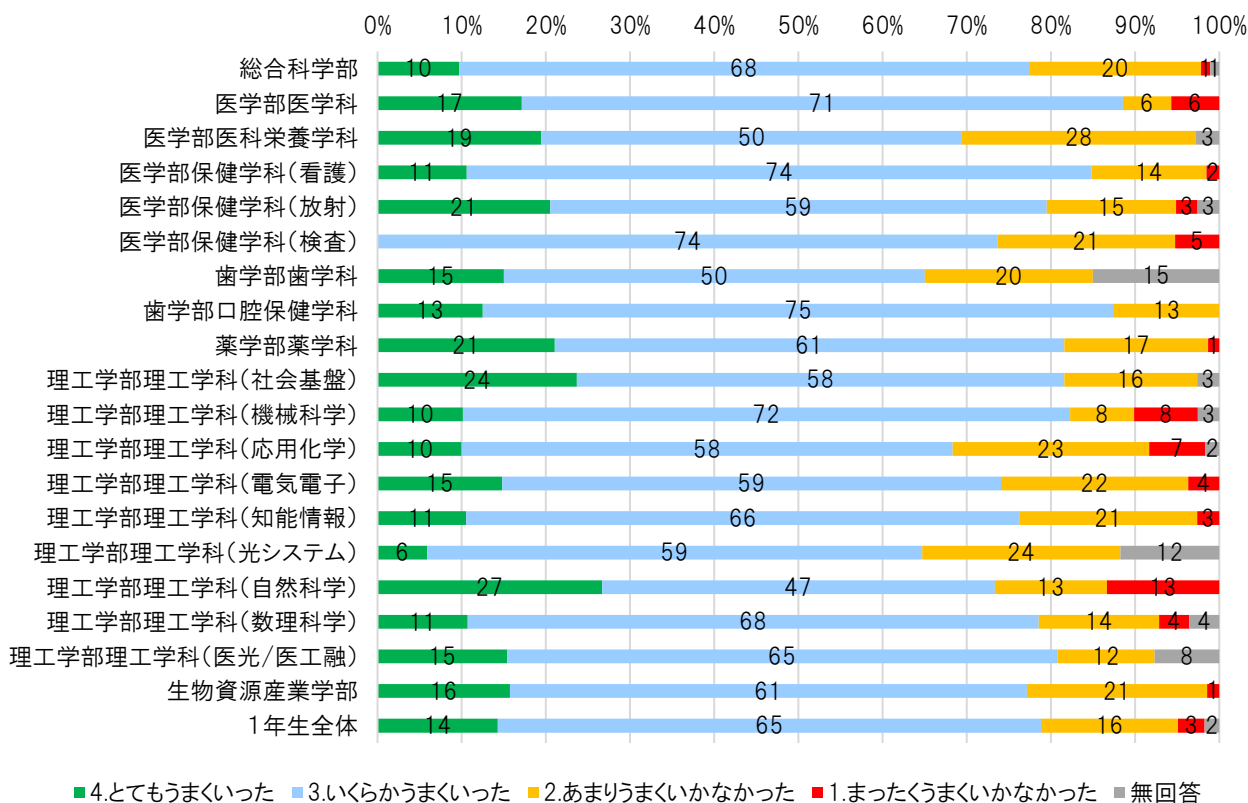
[84]大学の学生向けサービスを上手に利用する



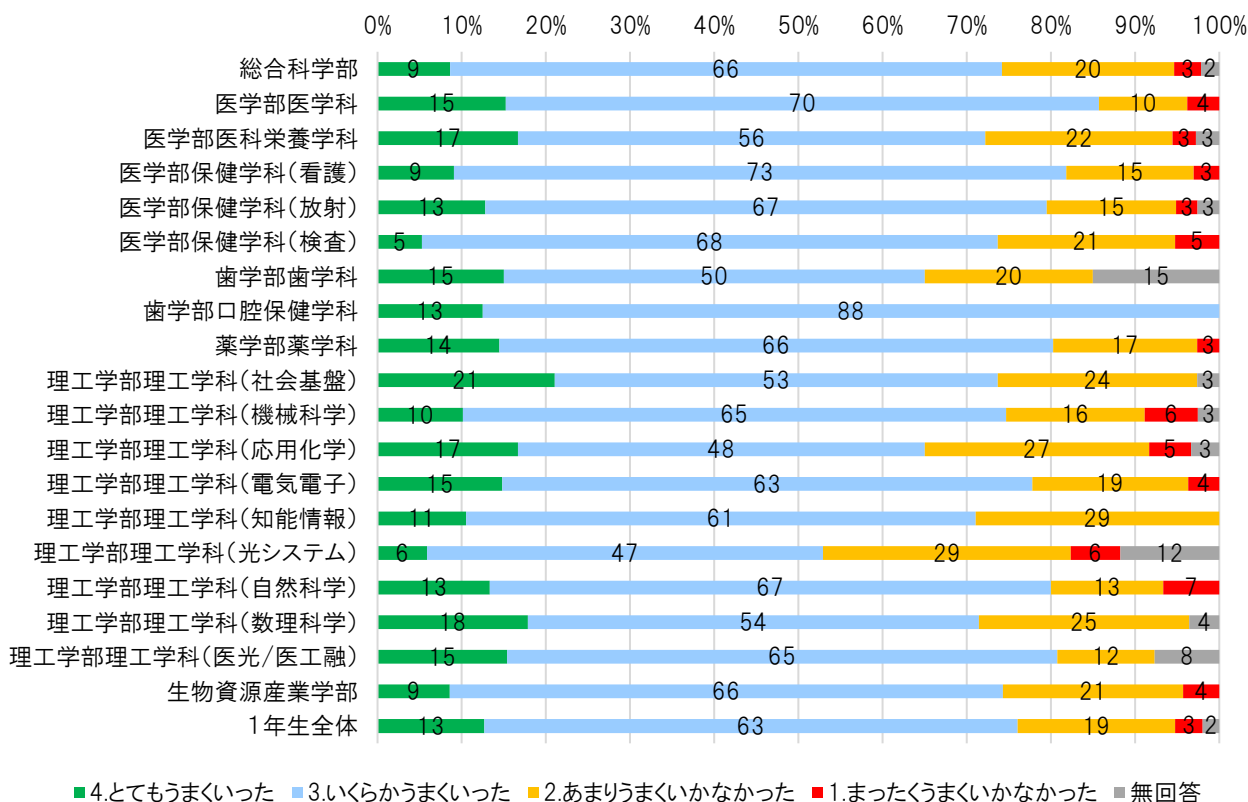
[85]大学教員の学問的な期待を理解する



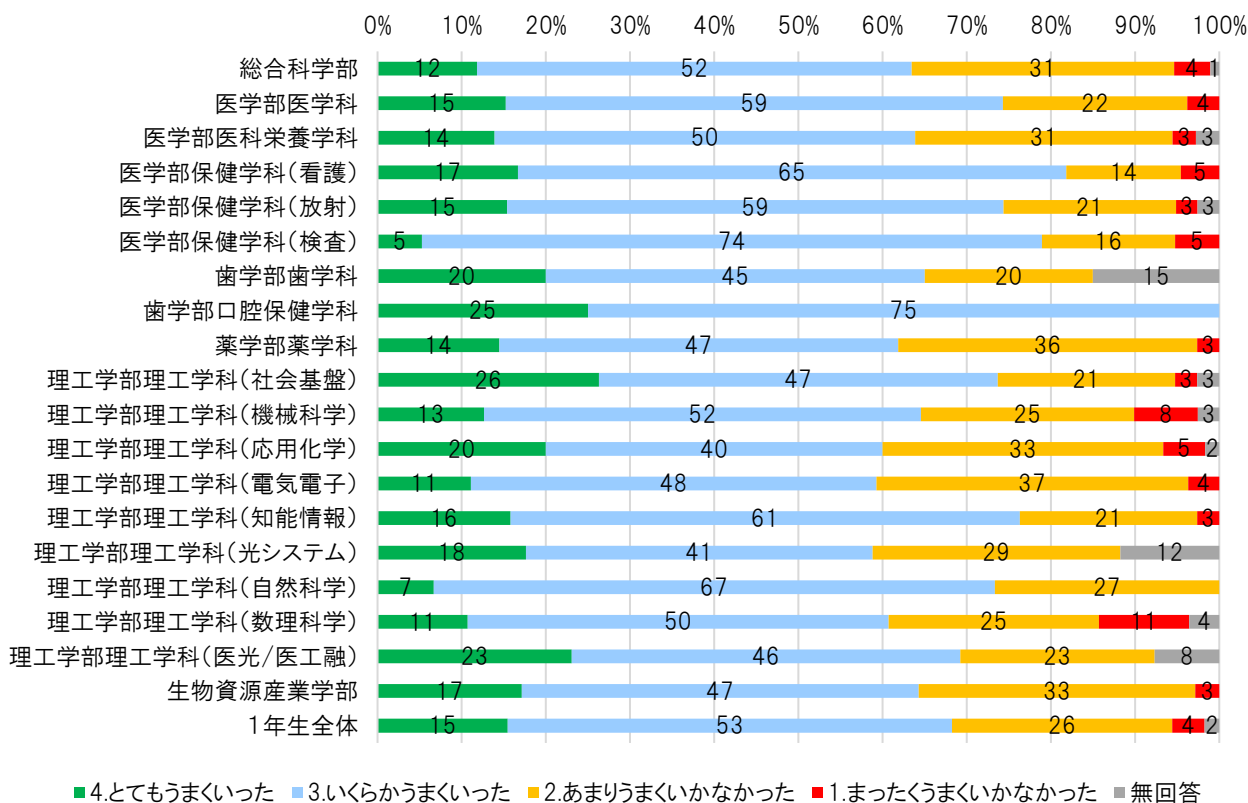
[86]効果的に学習する技能を修得する



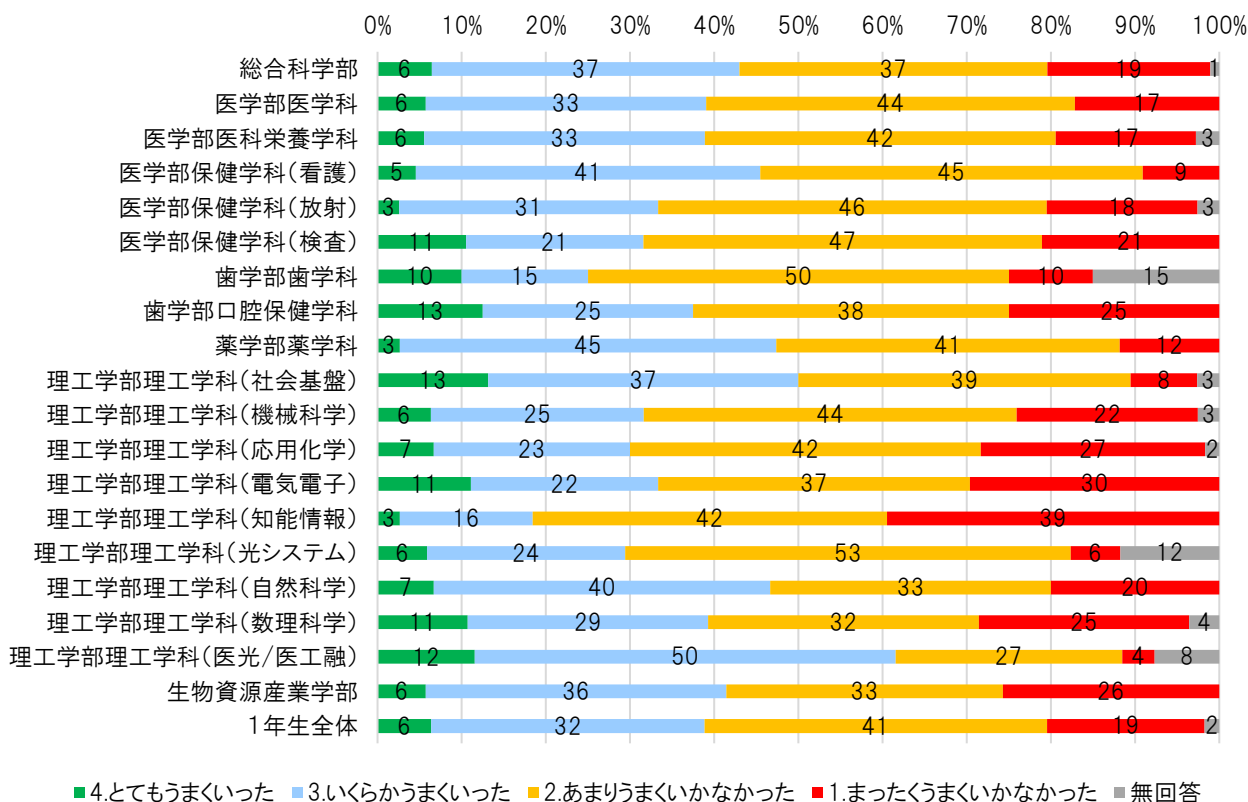
[87]大学が求める水準に応じて学習する



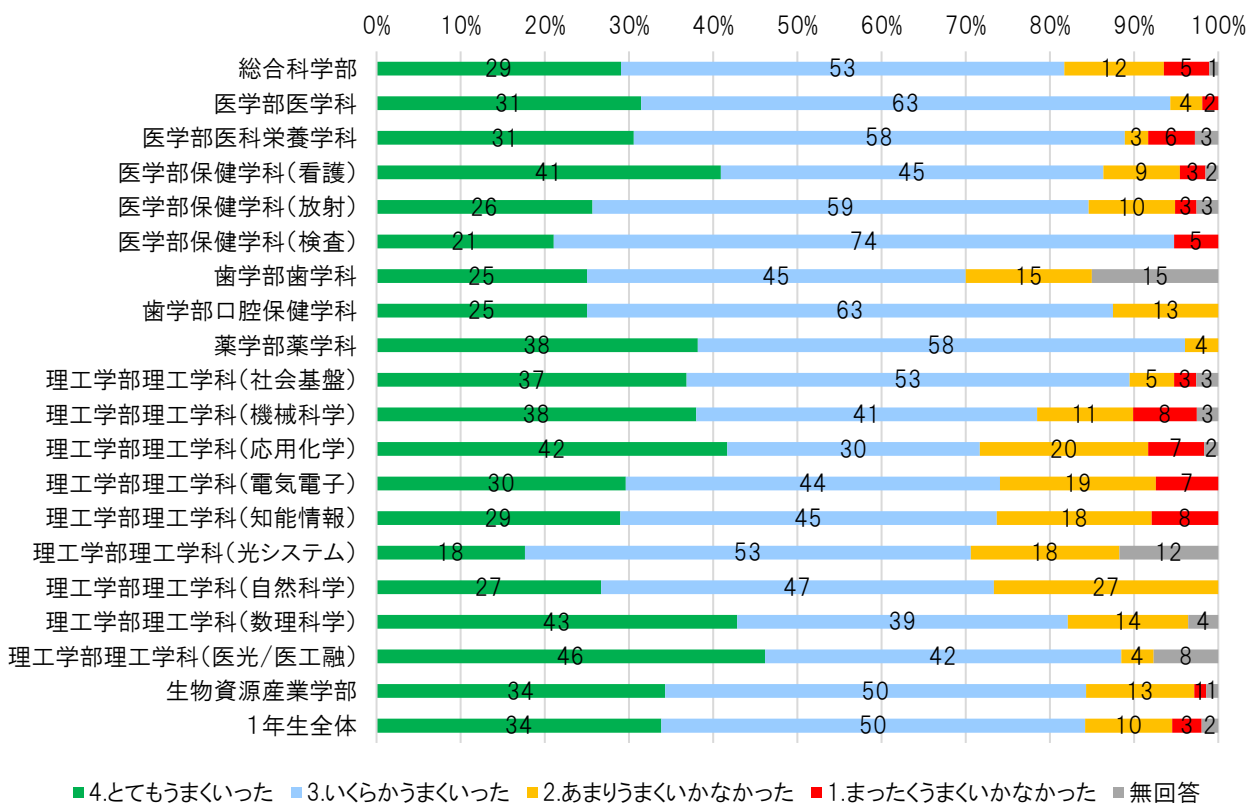
[88]時間を効果的に使う



[89]大学教員と顔見知りになる

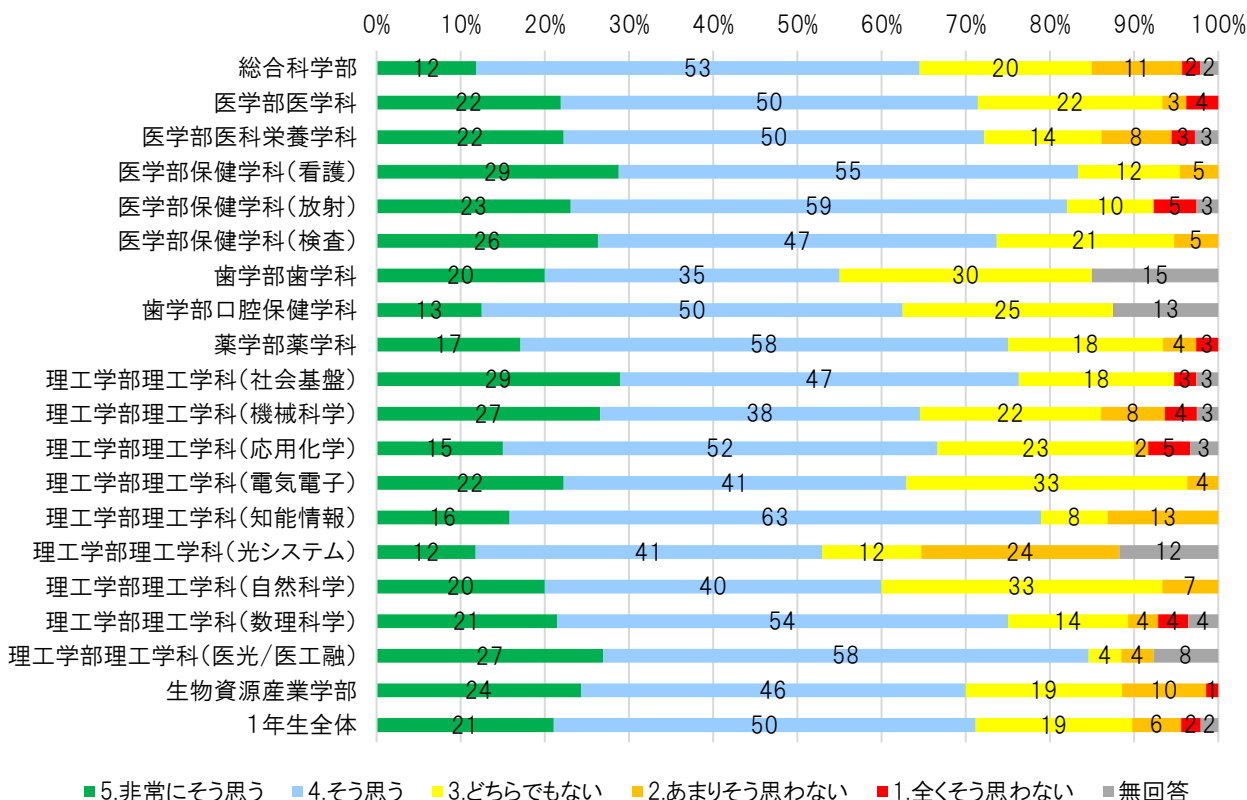


[90]他の学生との友情を深める

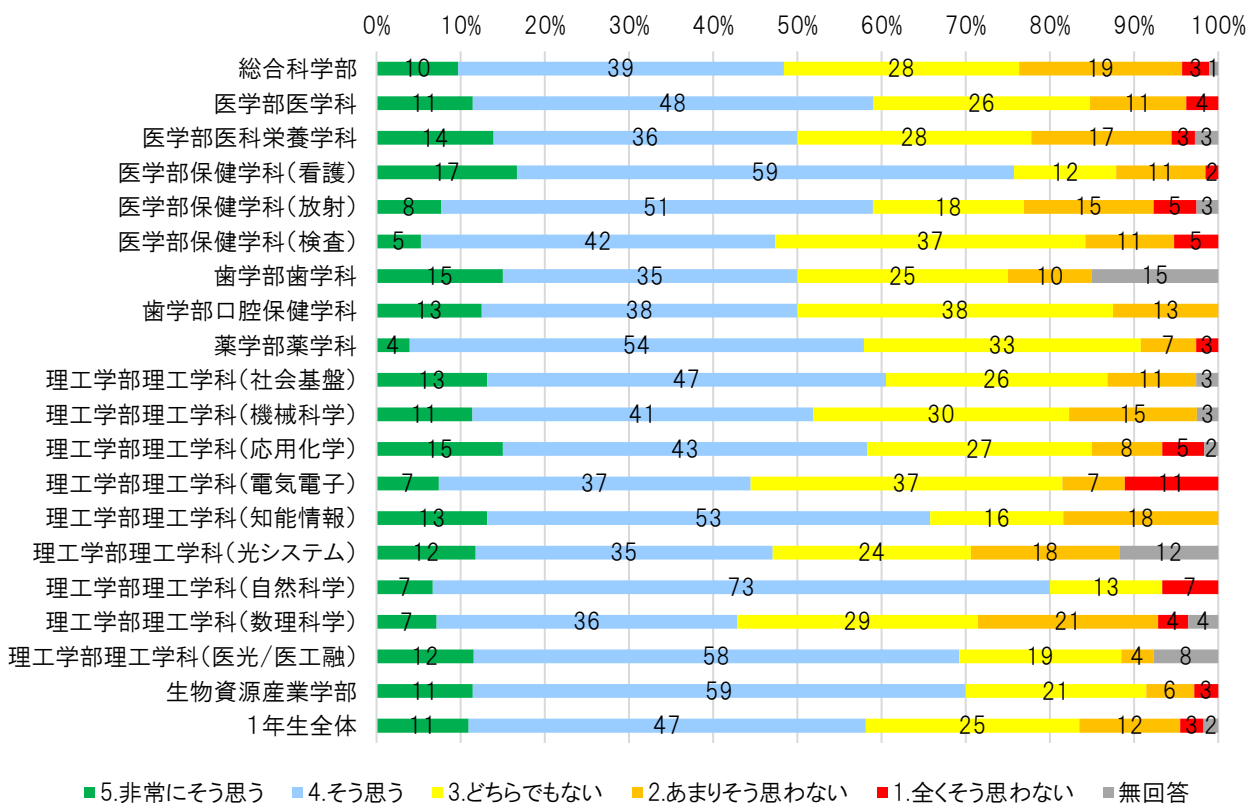


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

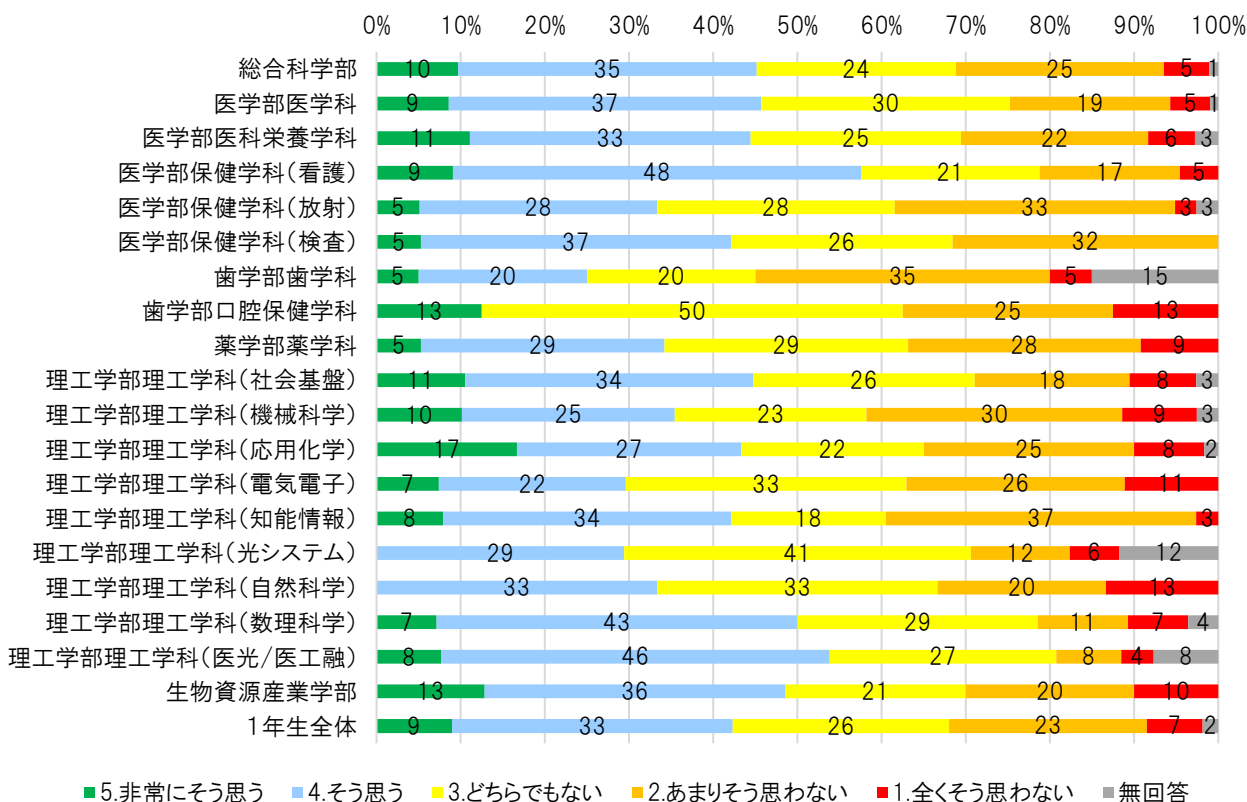
[91]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



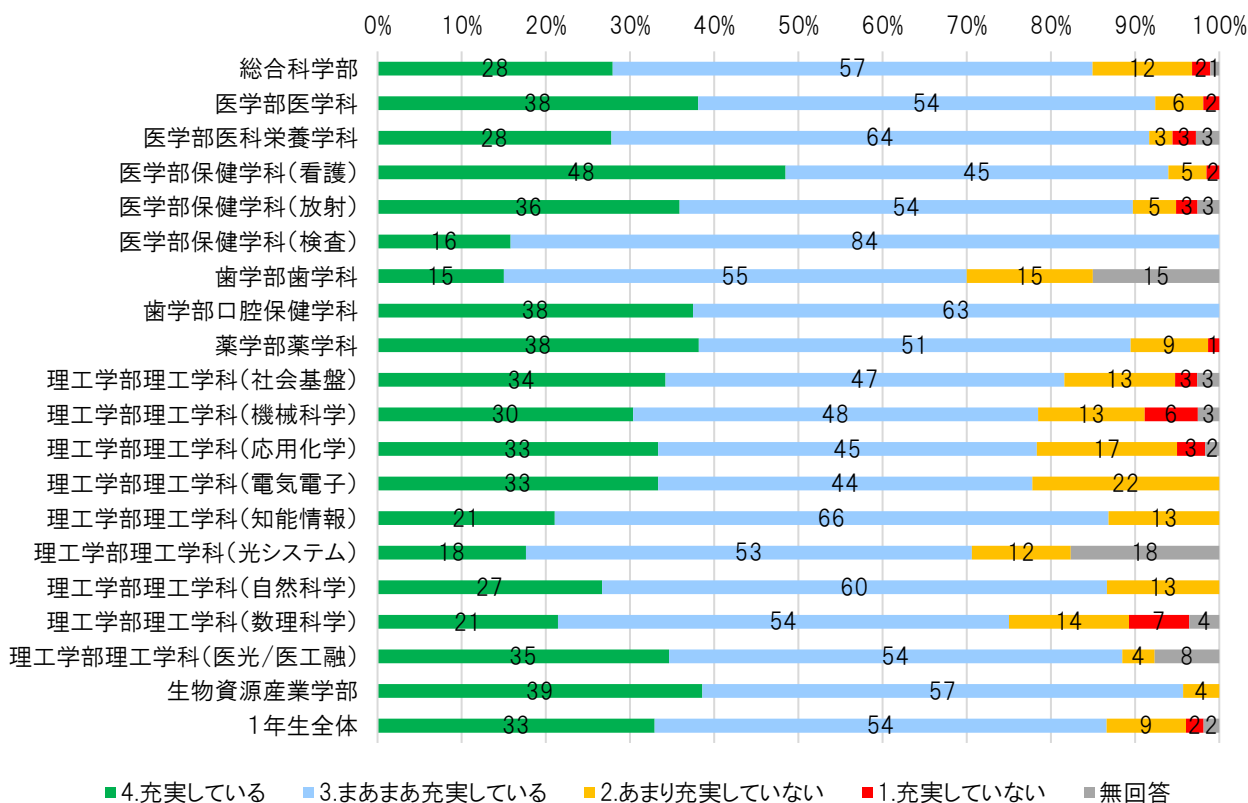
[92]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[93]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

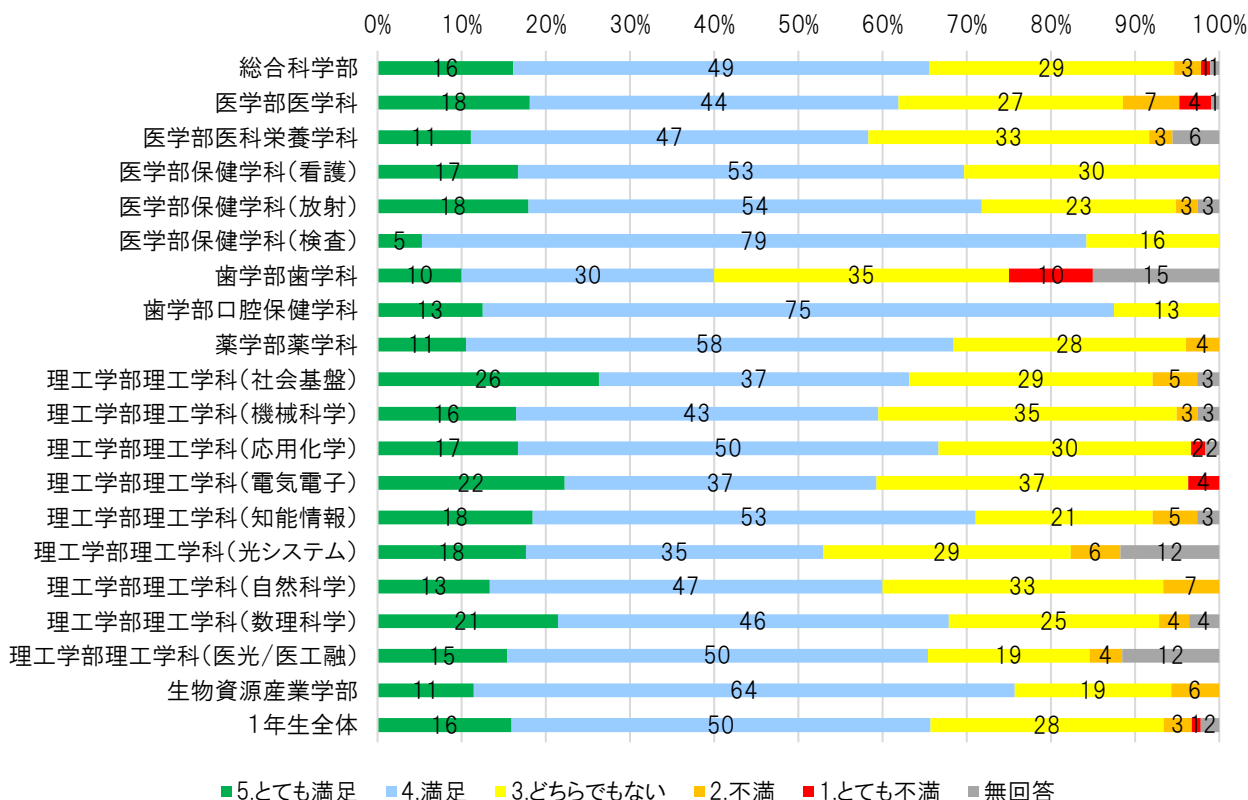


[94]あなたの学生生活は充実していますか。

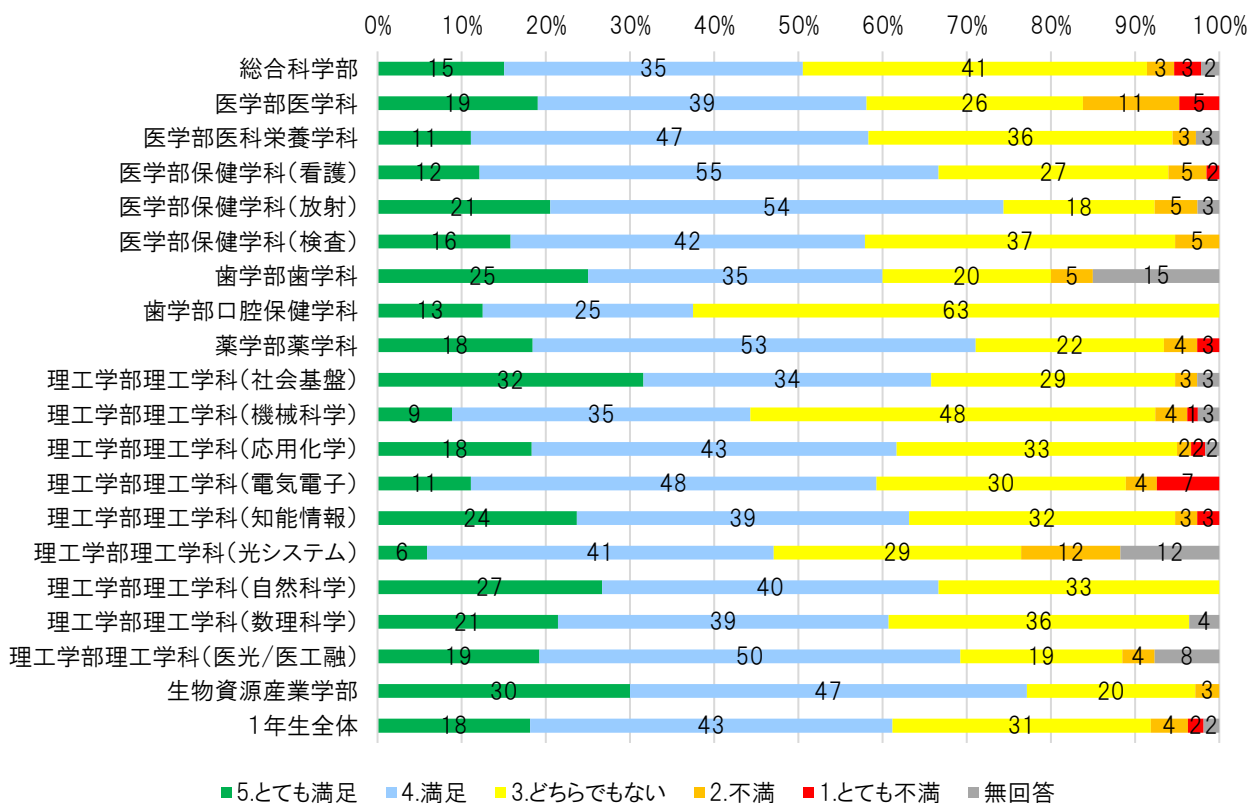


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

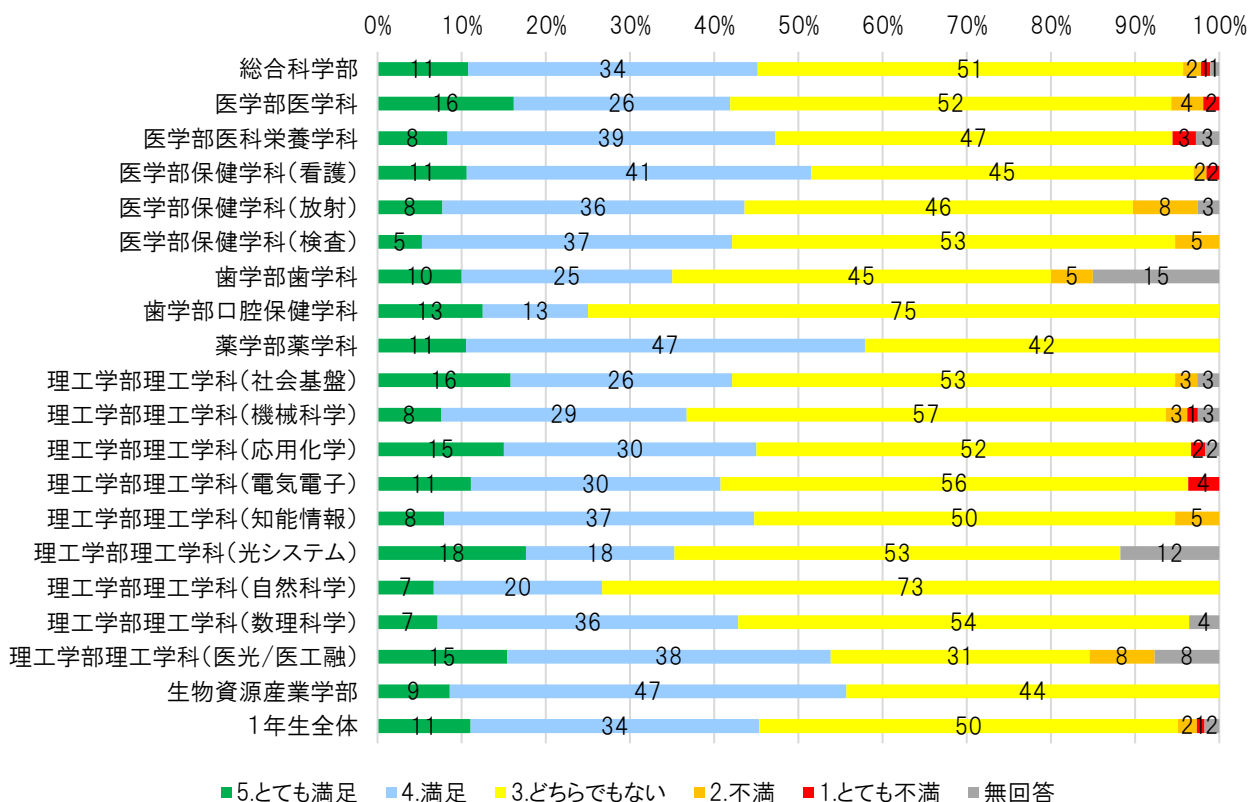
[95]共通教育あるいは教養教育の授業



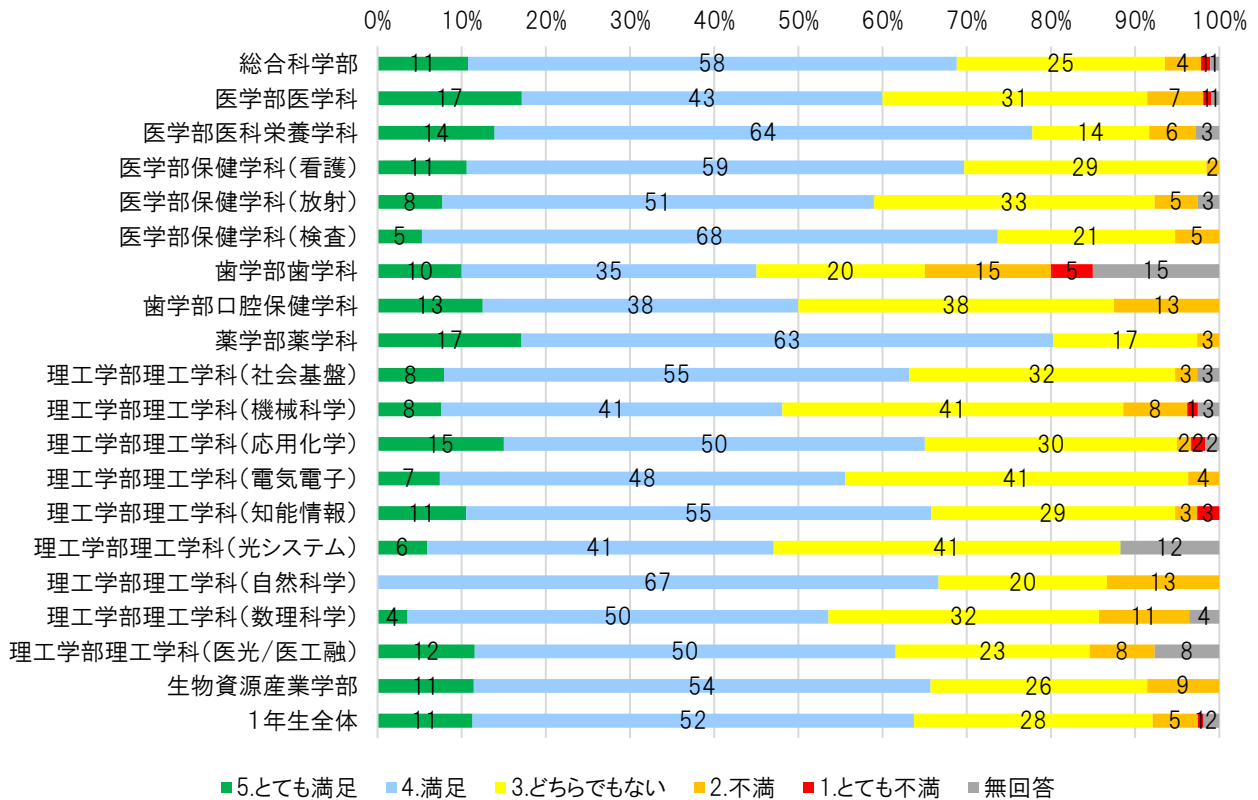
[96]SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業



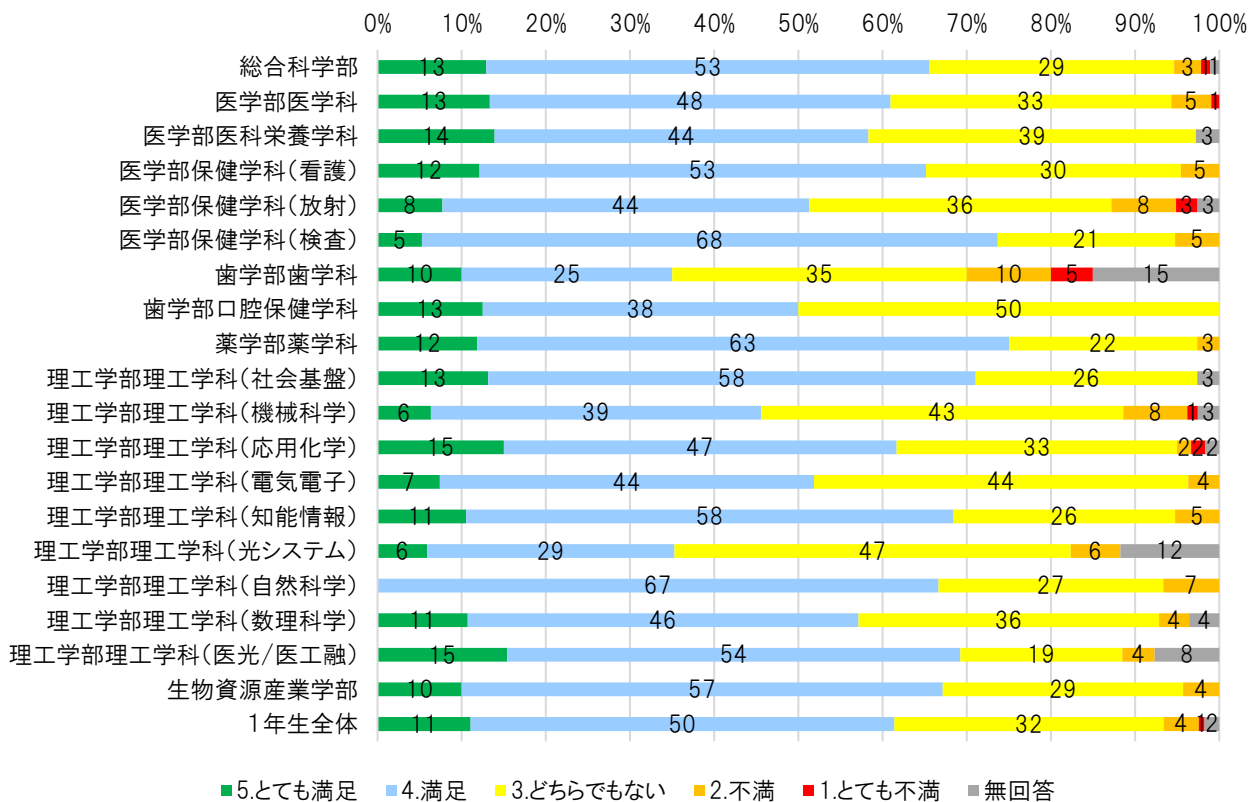
[97]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



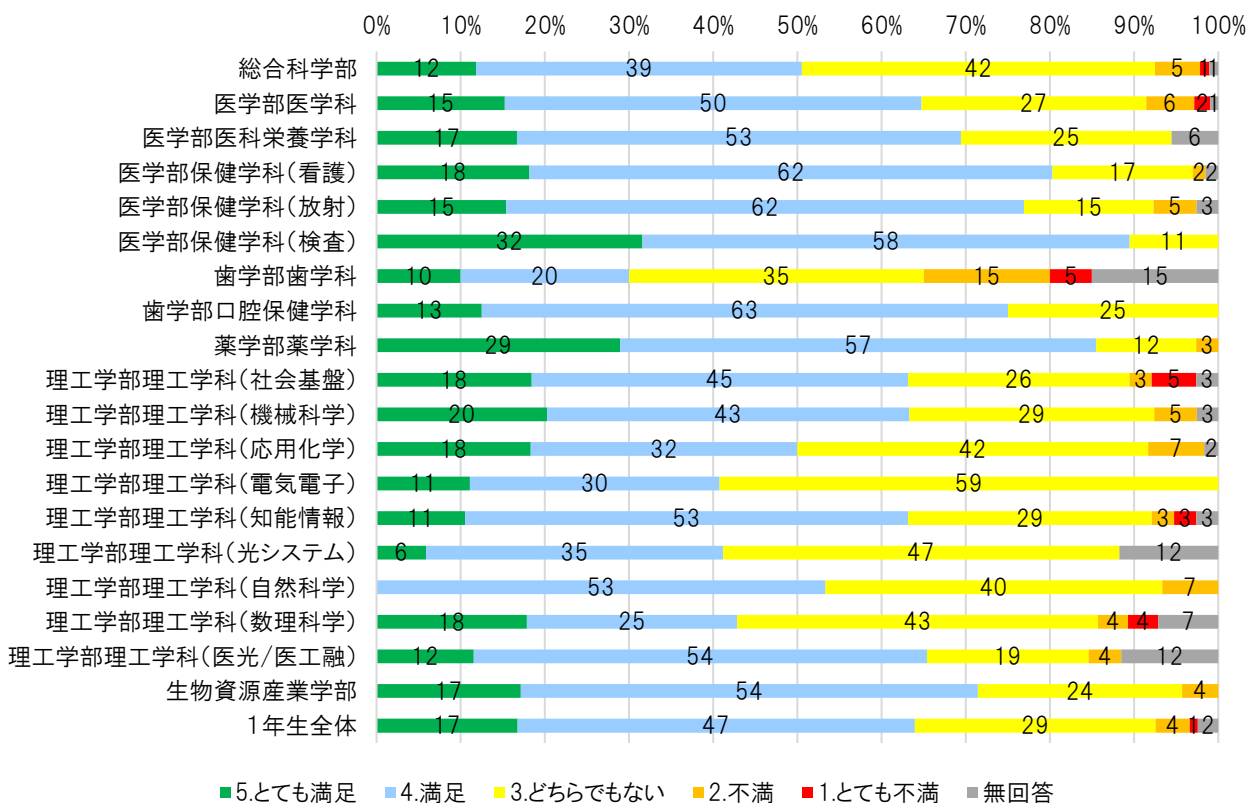
[98]授業の全体的な質



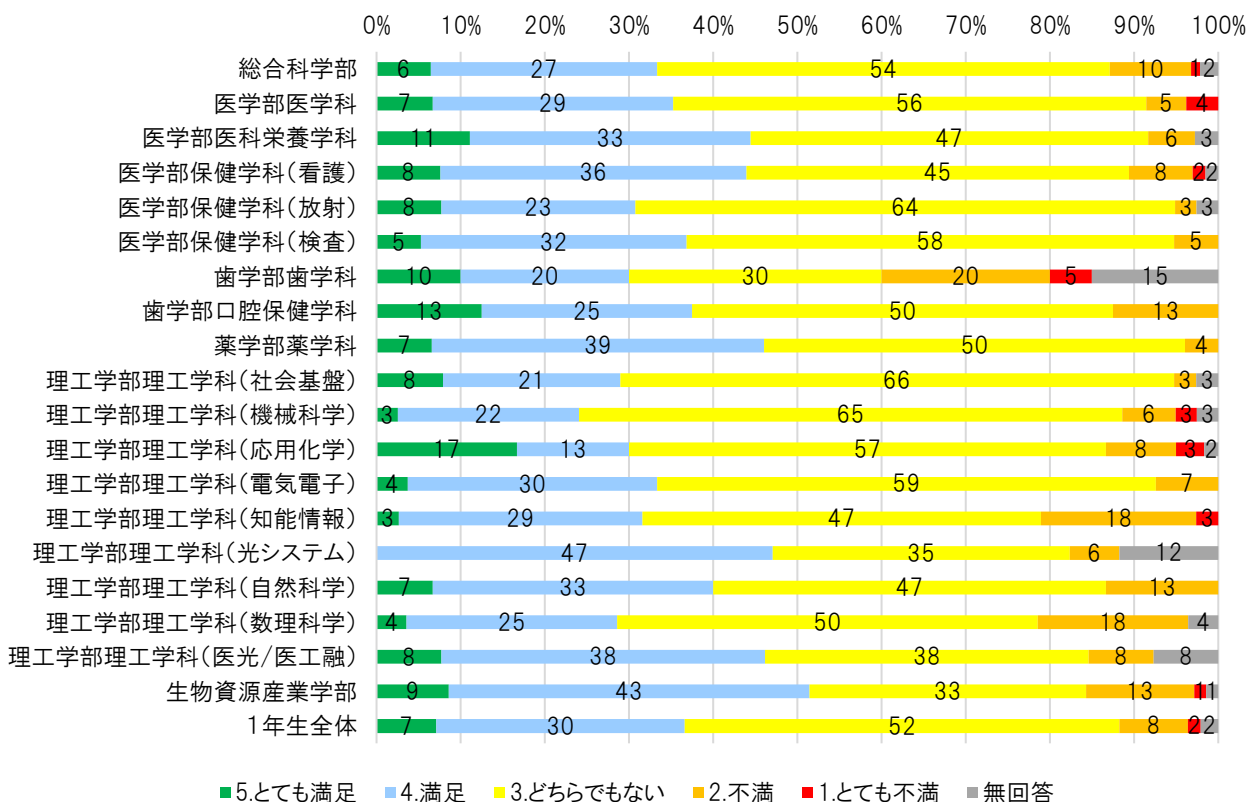
[99]日常生活と授業内容との関連



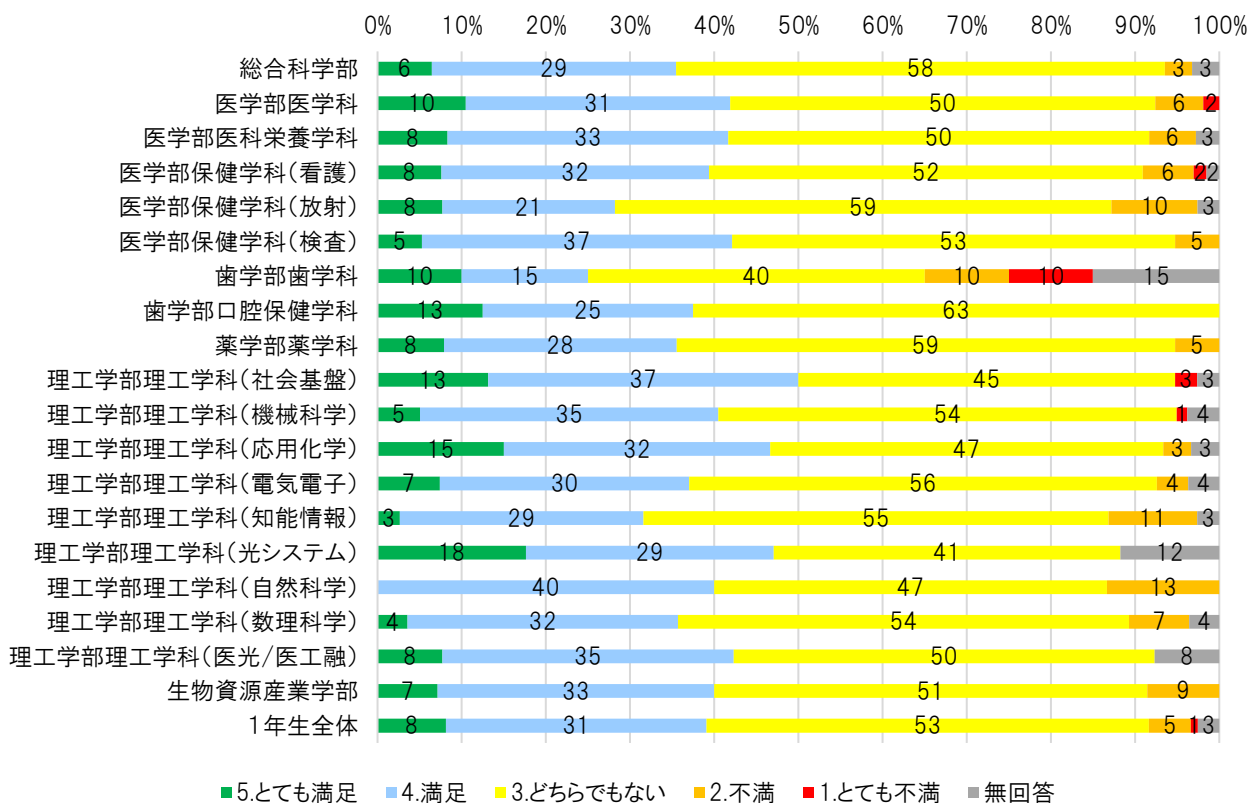
[100] 将来の仕事と授業内容の結びつき



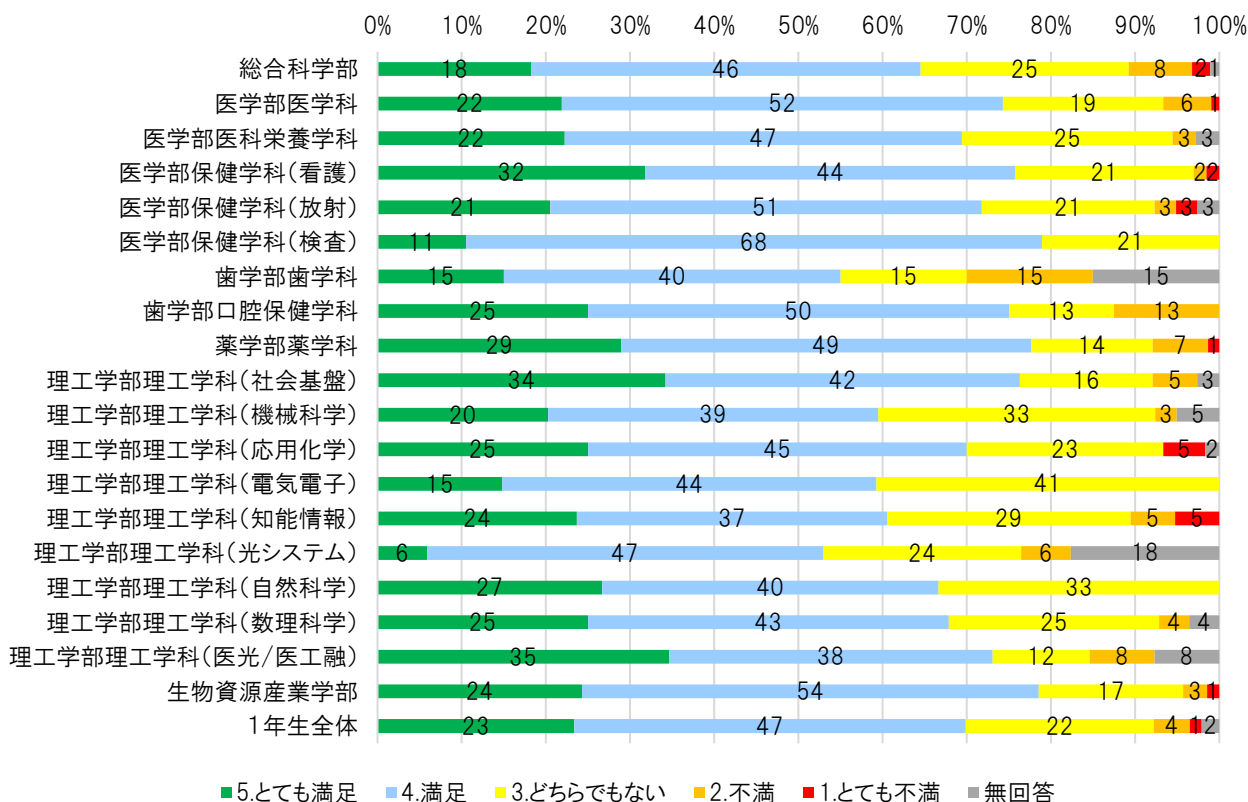
[101] 教員と話をする機会



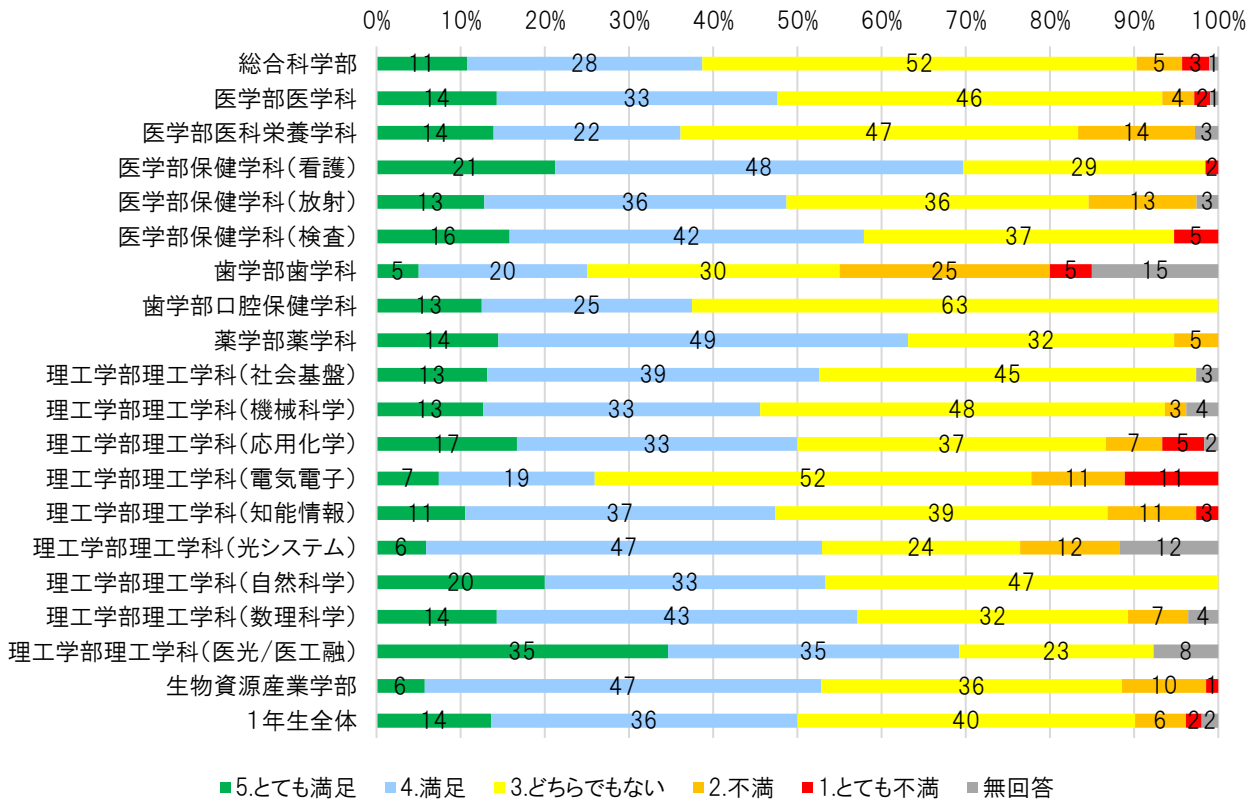
[102]学習支援や個別の学習指導



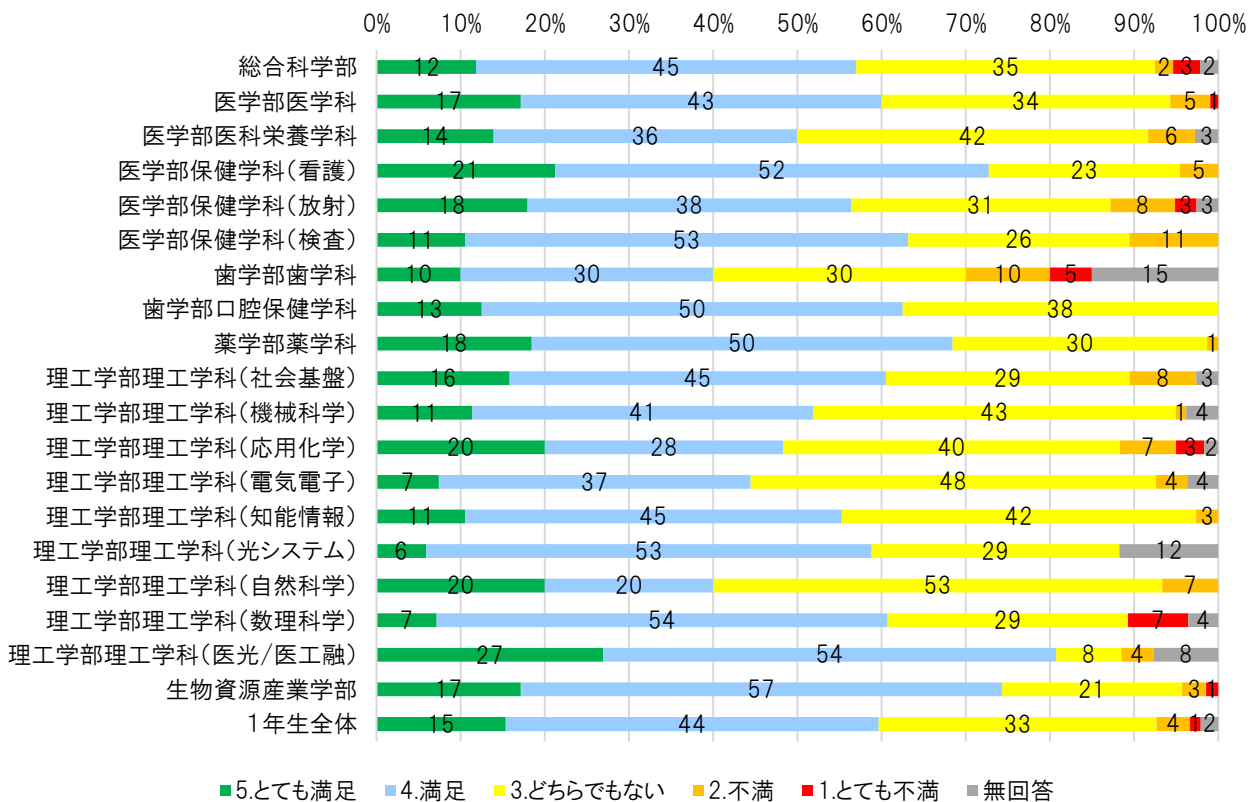
[103]他の学生と話をする機会



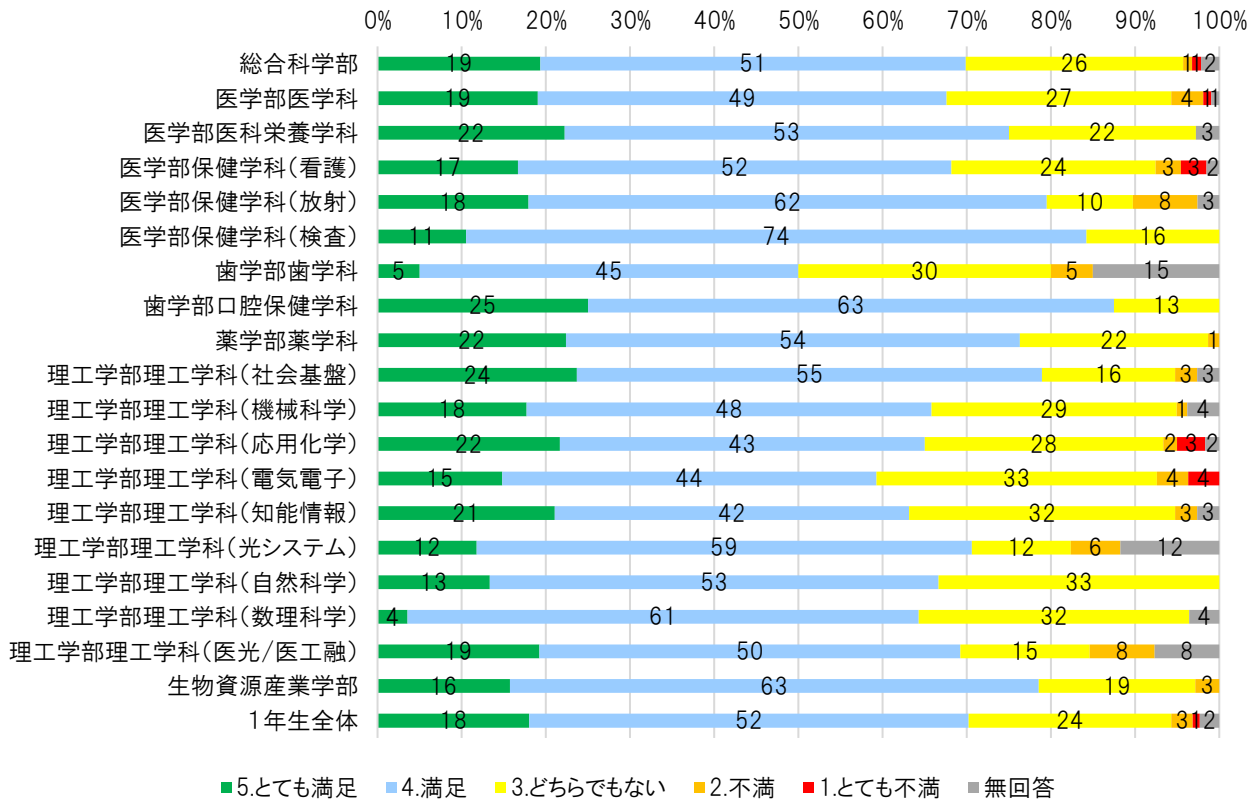
[104]大学のなかでの学生同士の一体感



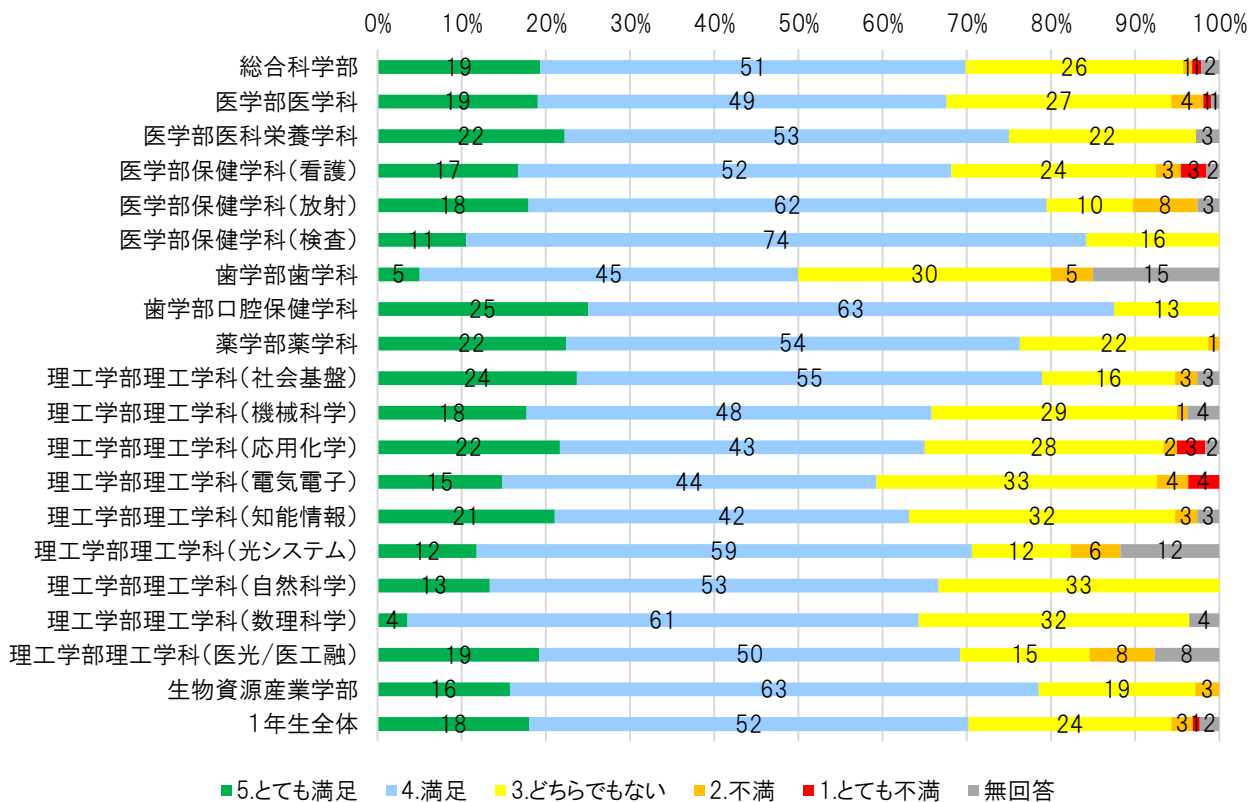
[105]多様な考え方を認め合う雰囲気



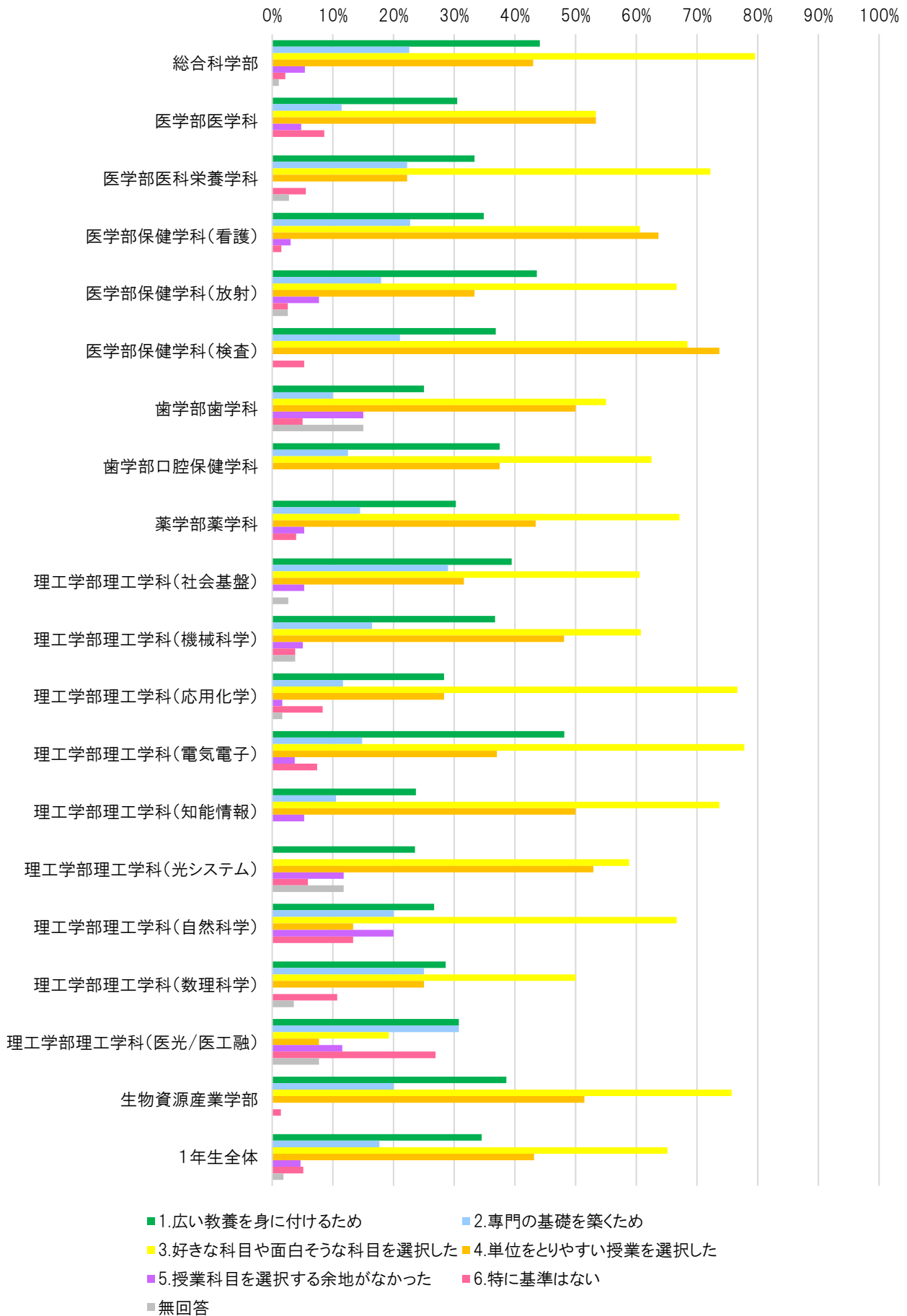
[106]大学での経験全般について



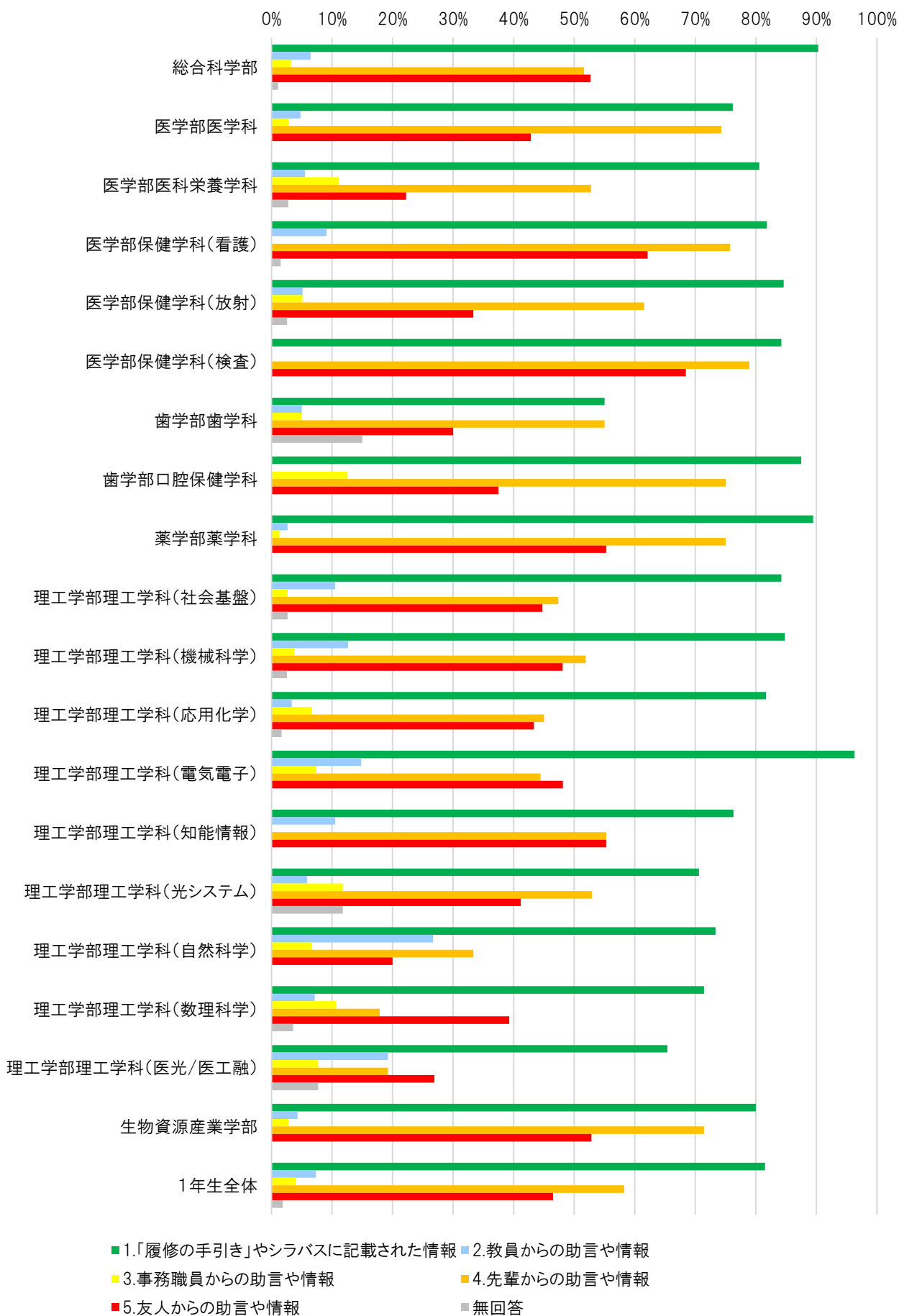
[107]1つの授業を履修する学生数



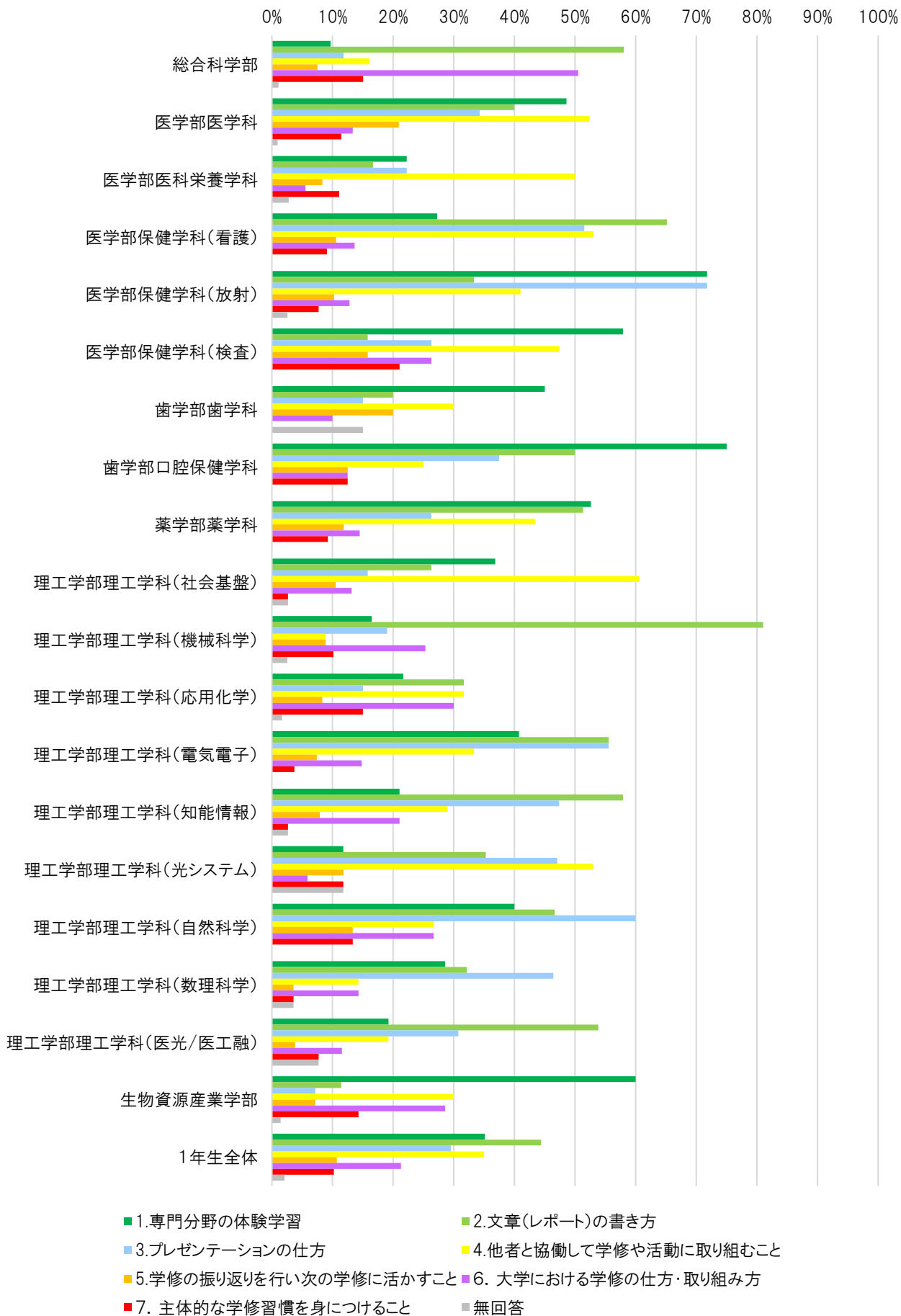
[108]教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



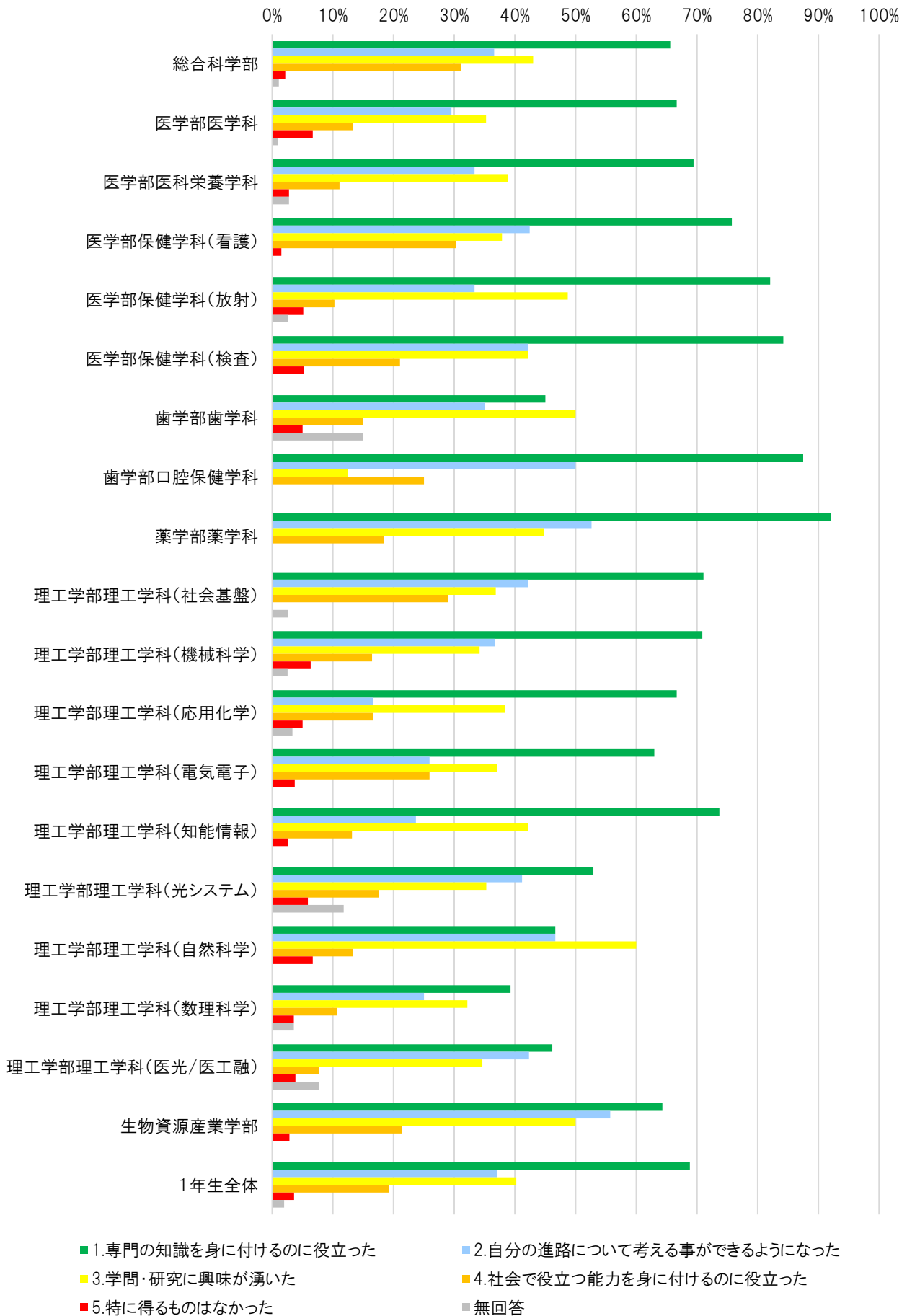
[109]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



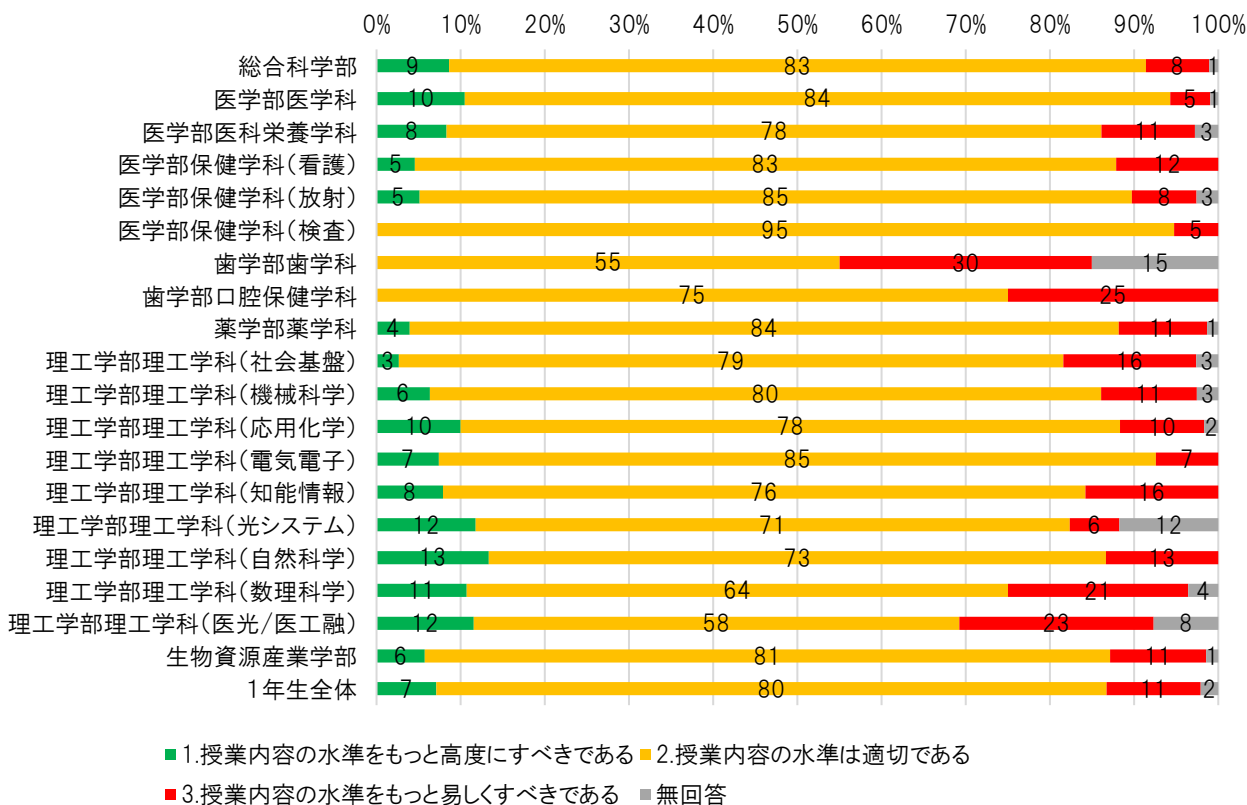
〔110〕「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



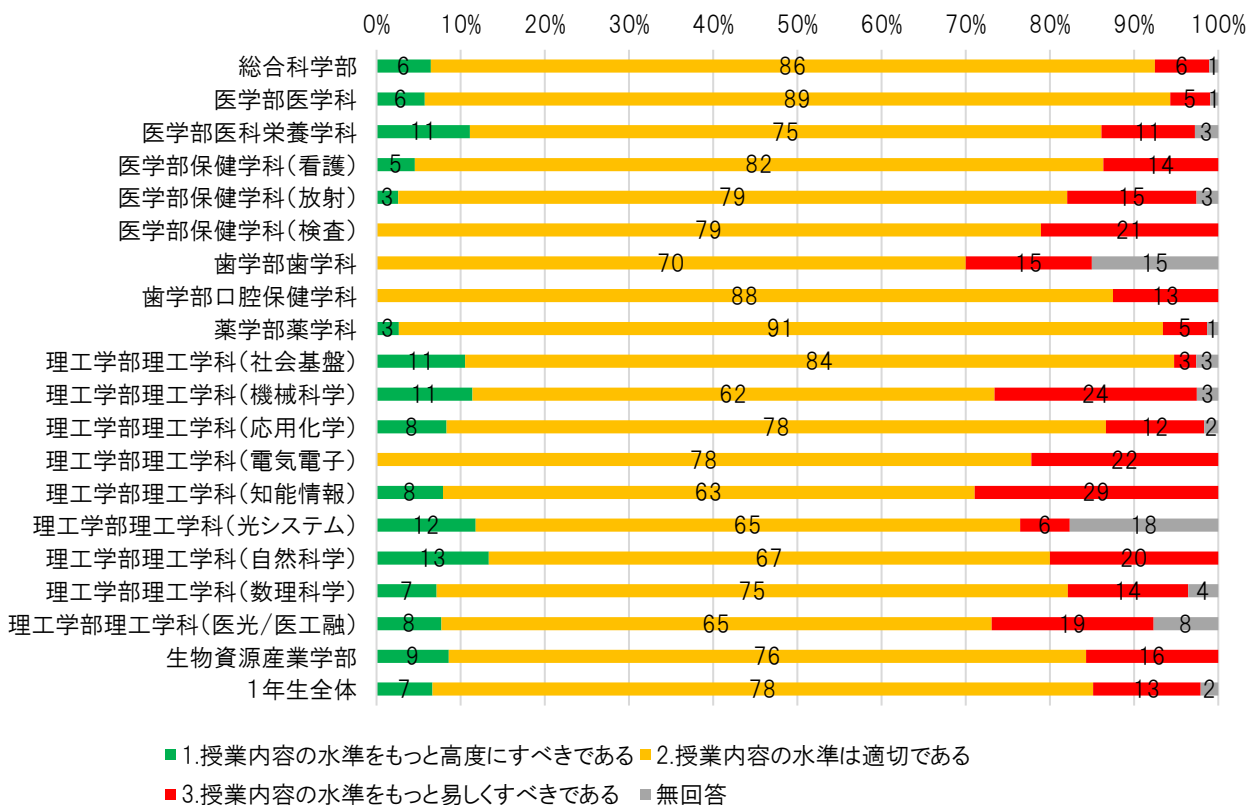
[111]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)



[112]教養教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

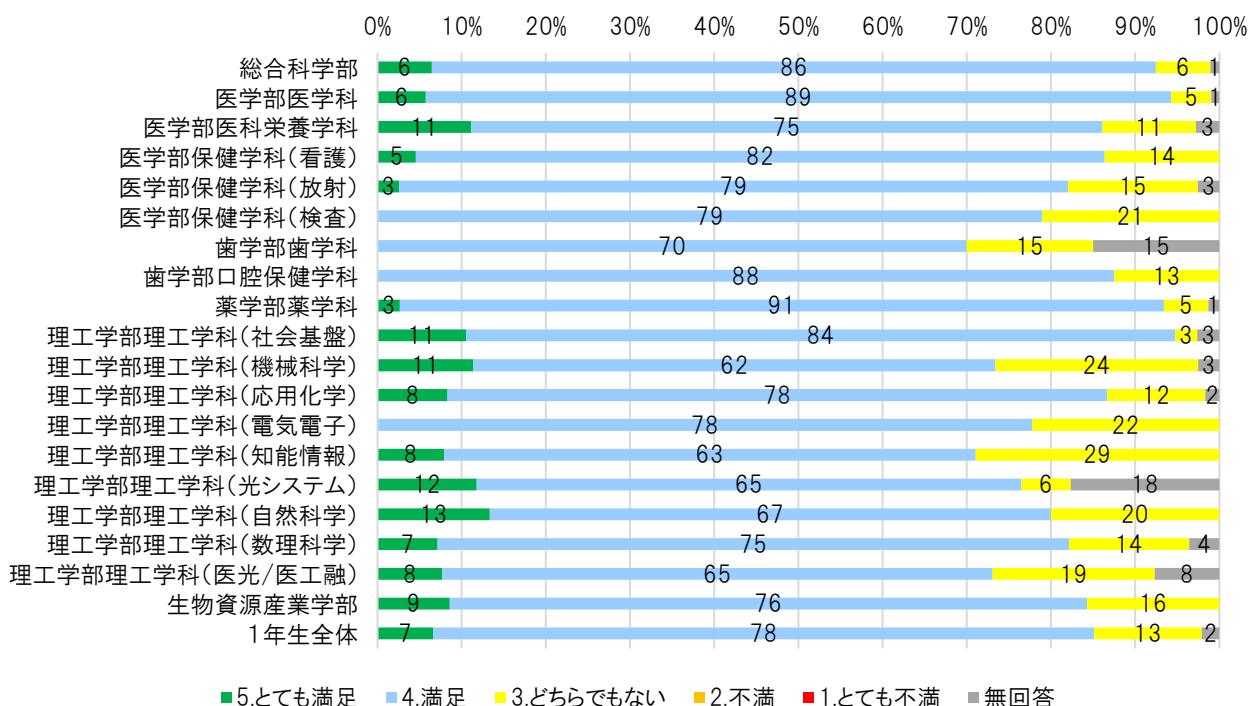


[113]専門教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

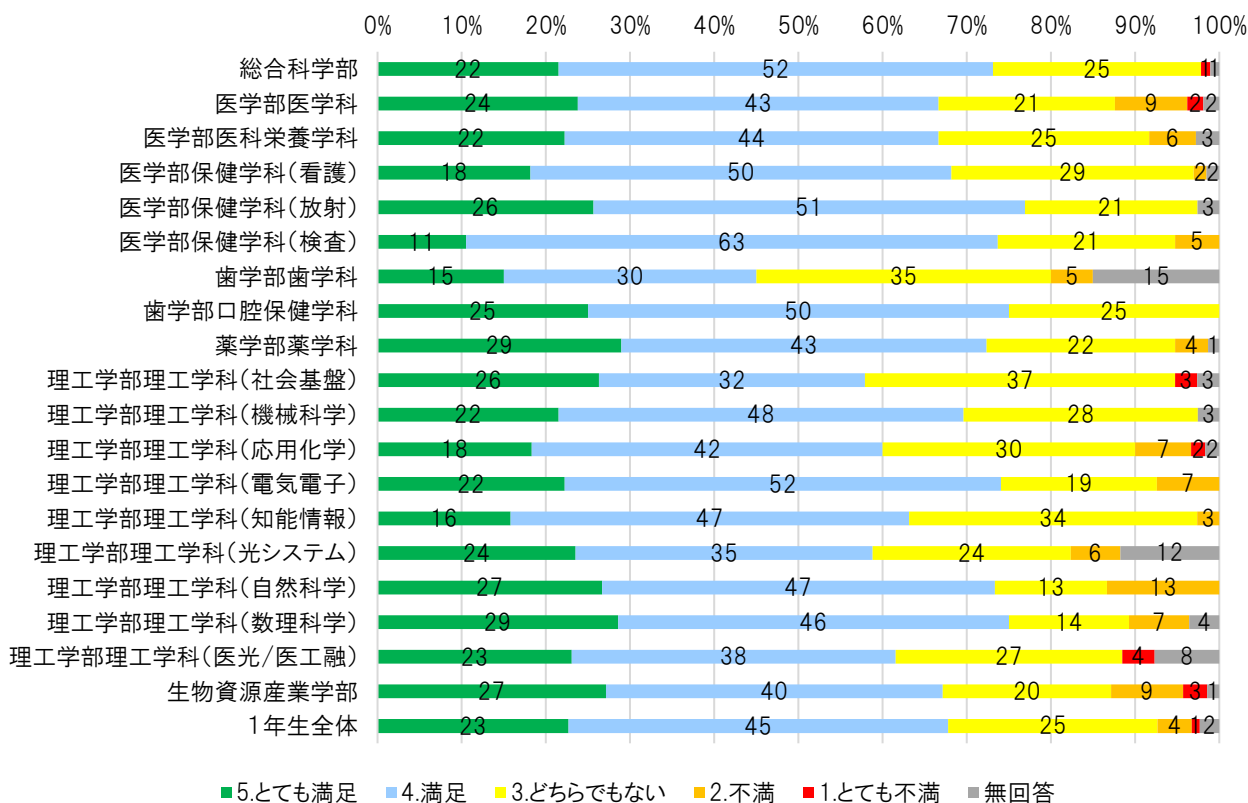


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

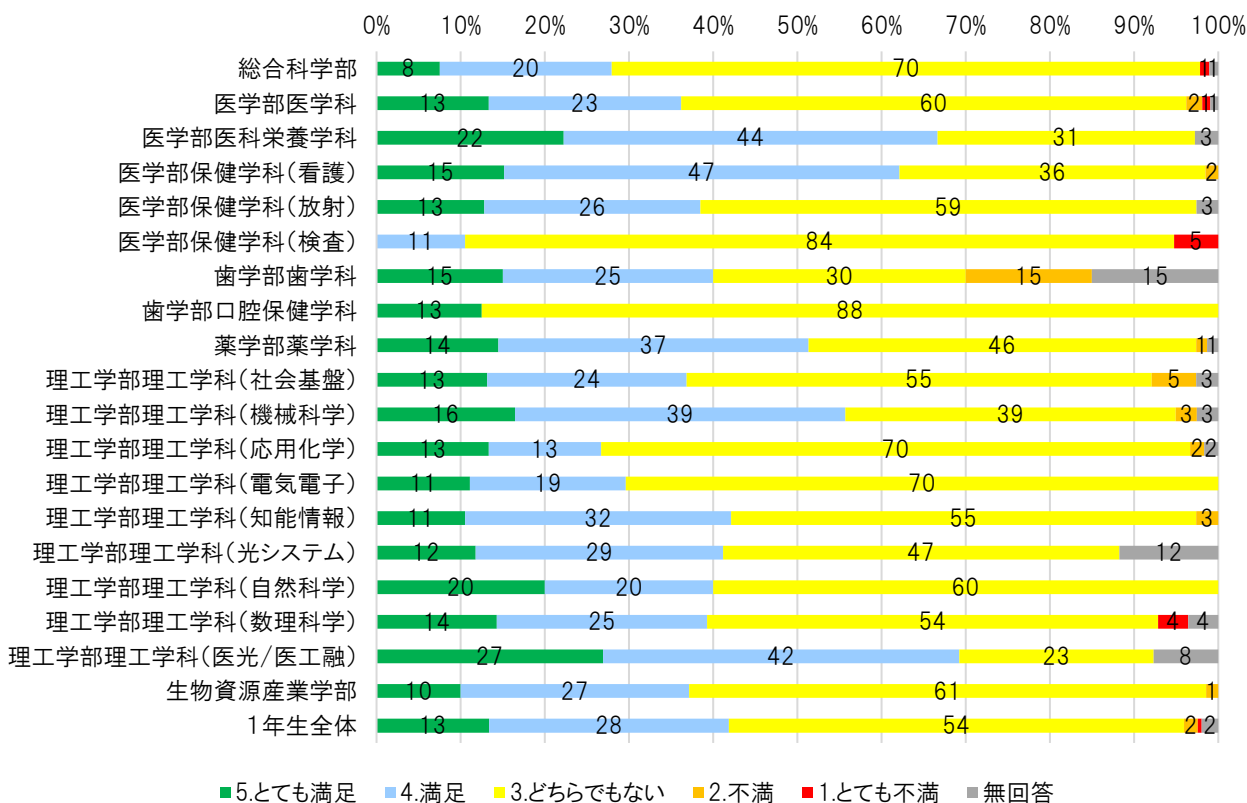
[114]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



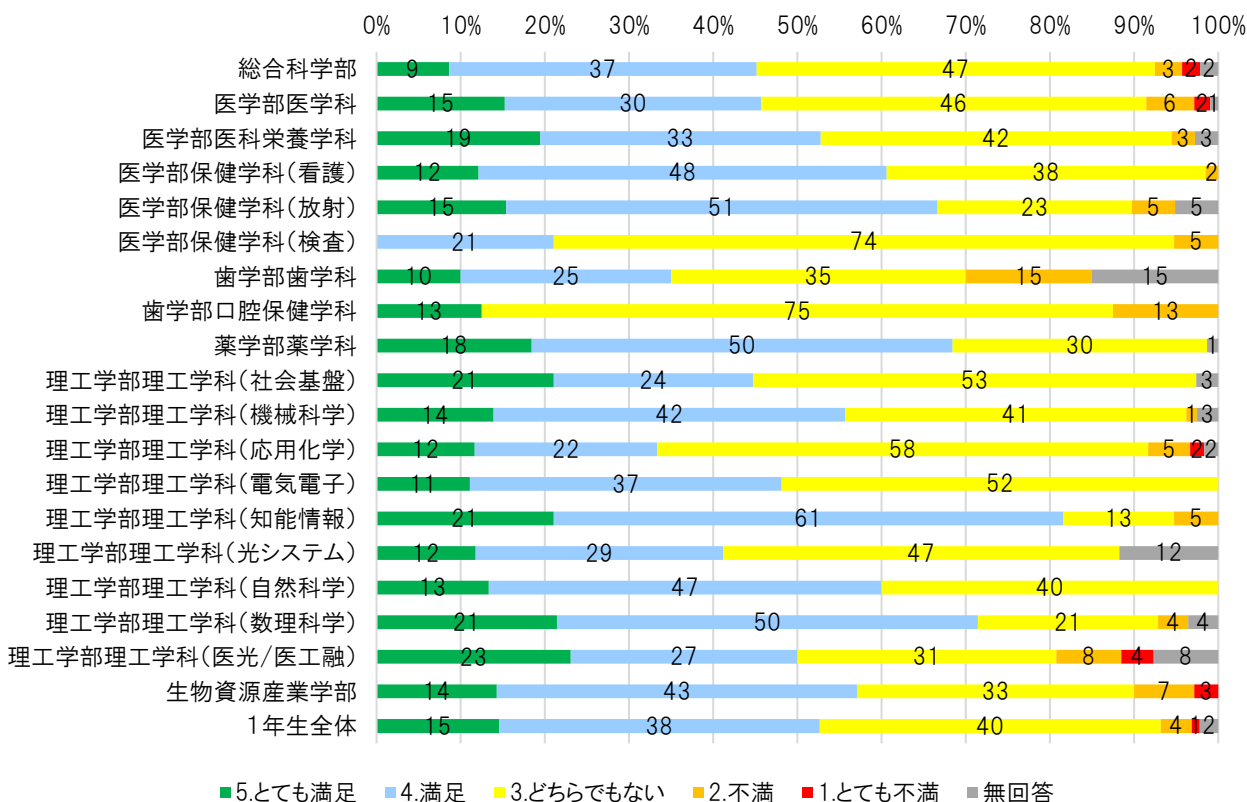
[115]実験室の設備や器具



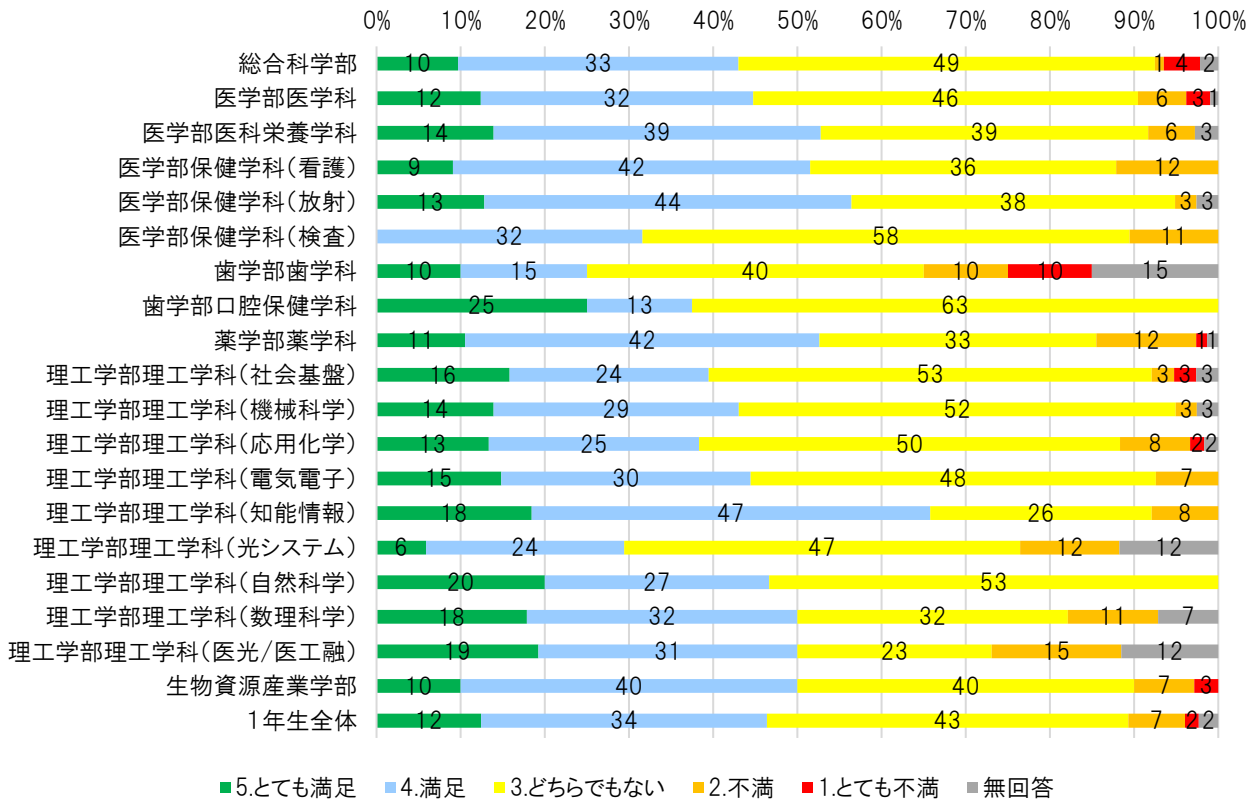
[116]コンピュータの施設や設備



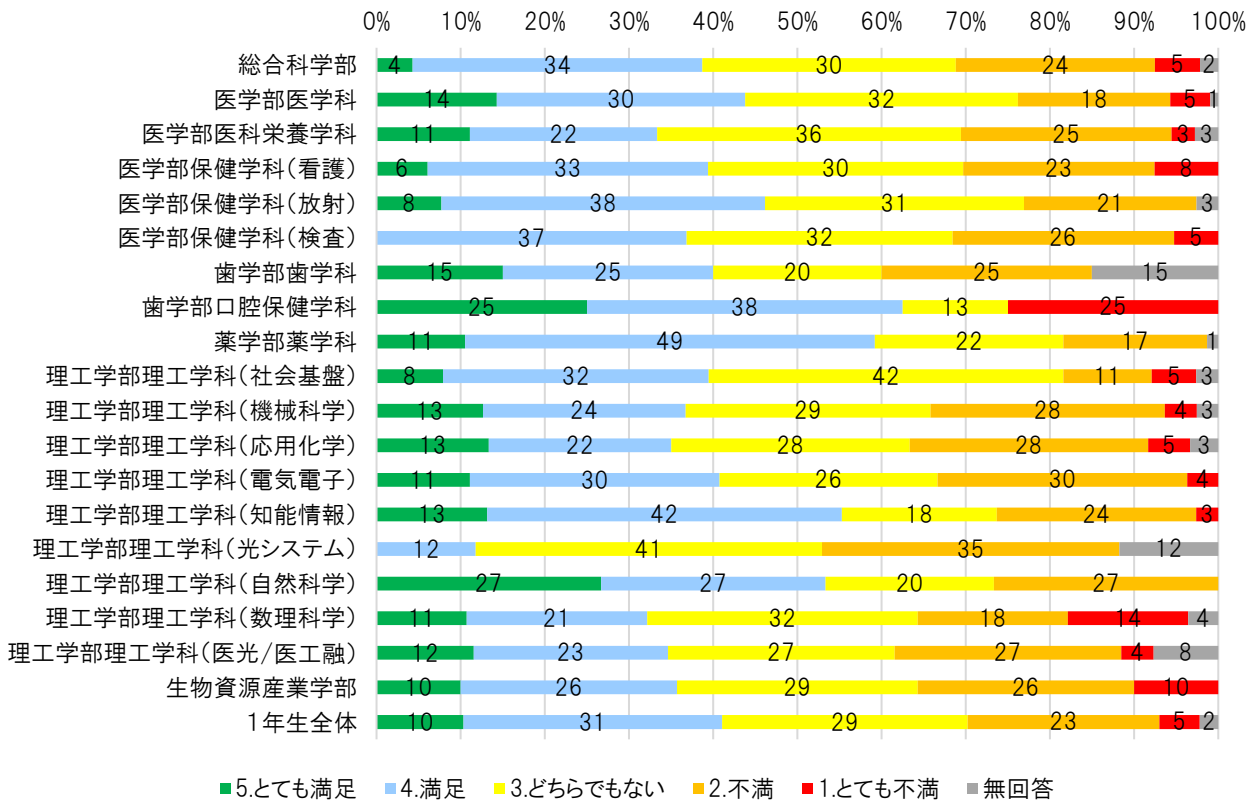
[117]コンピュータの訓練や援助



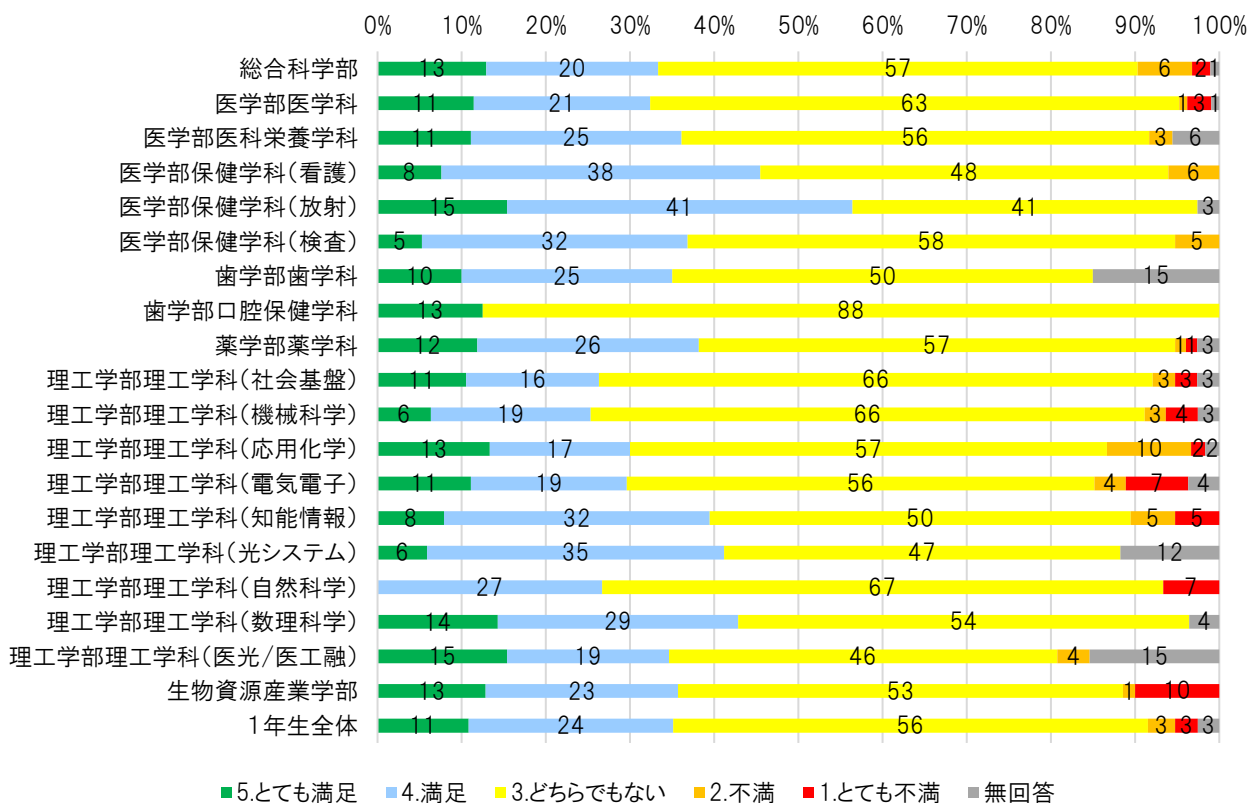
[118]インターネットの使いやすさ



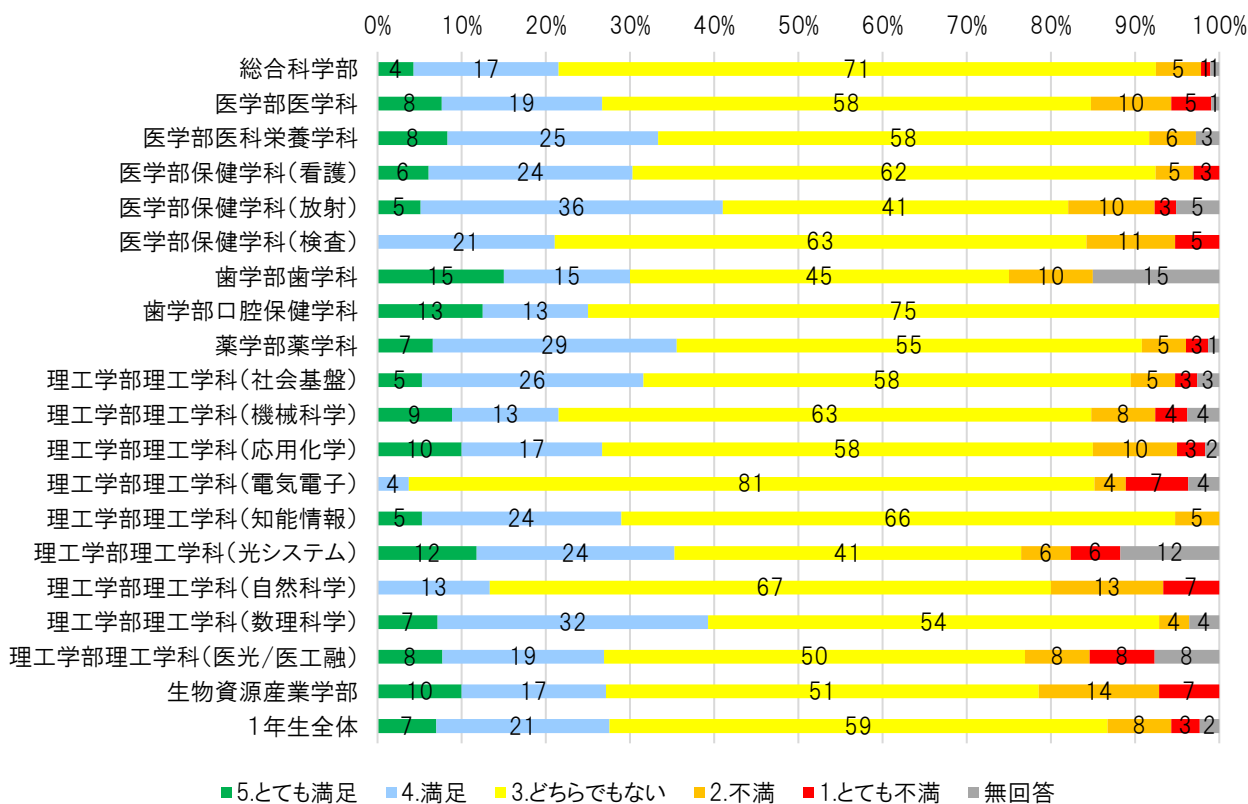
[119]奨学金など学費援助の制度



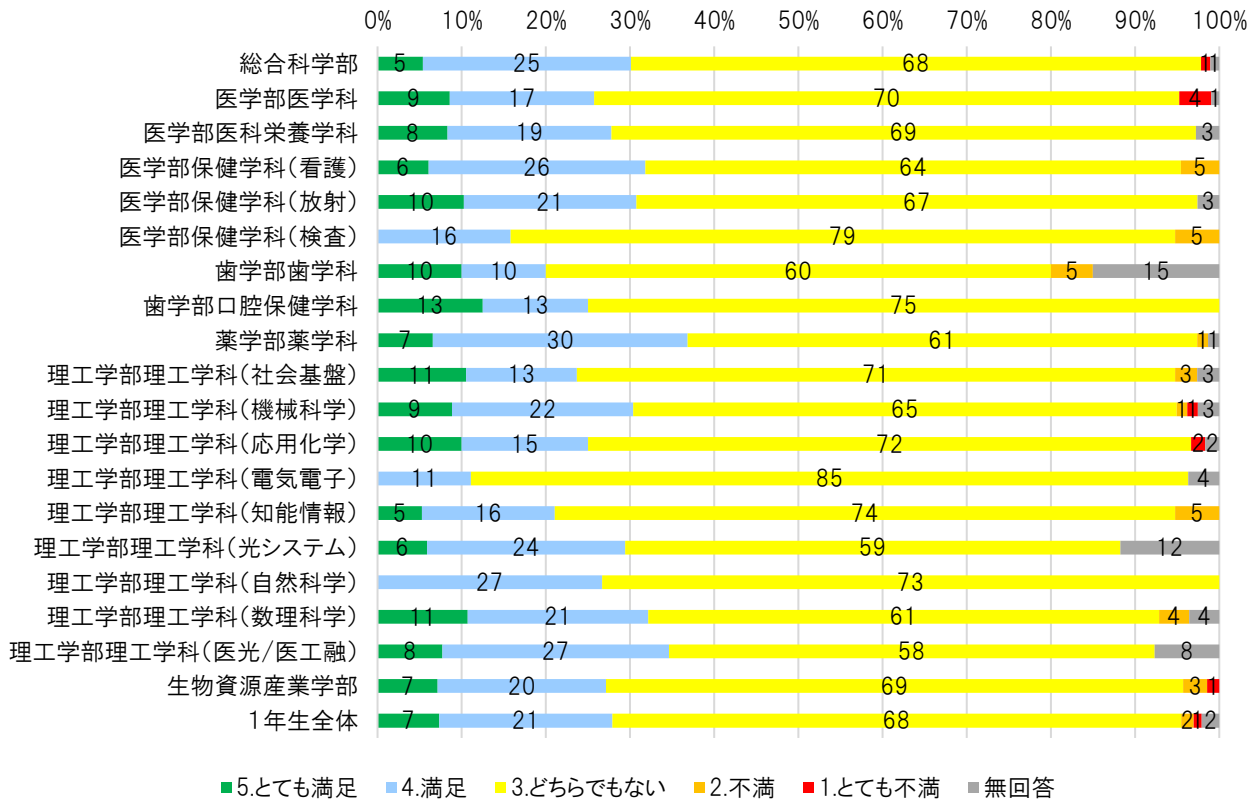
[120]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



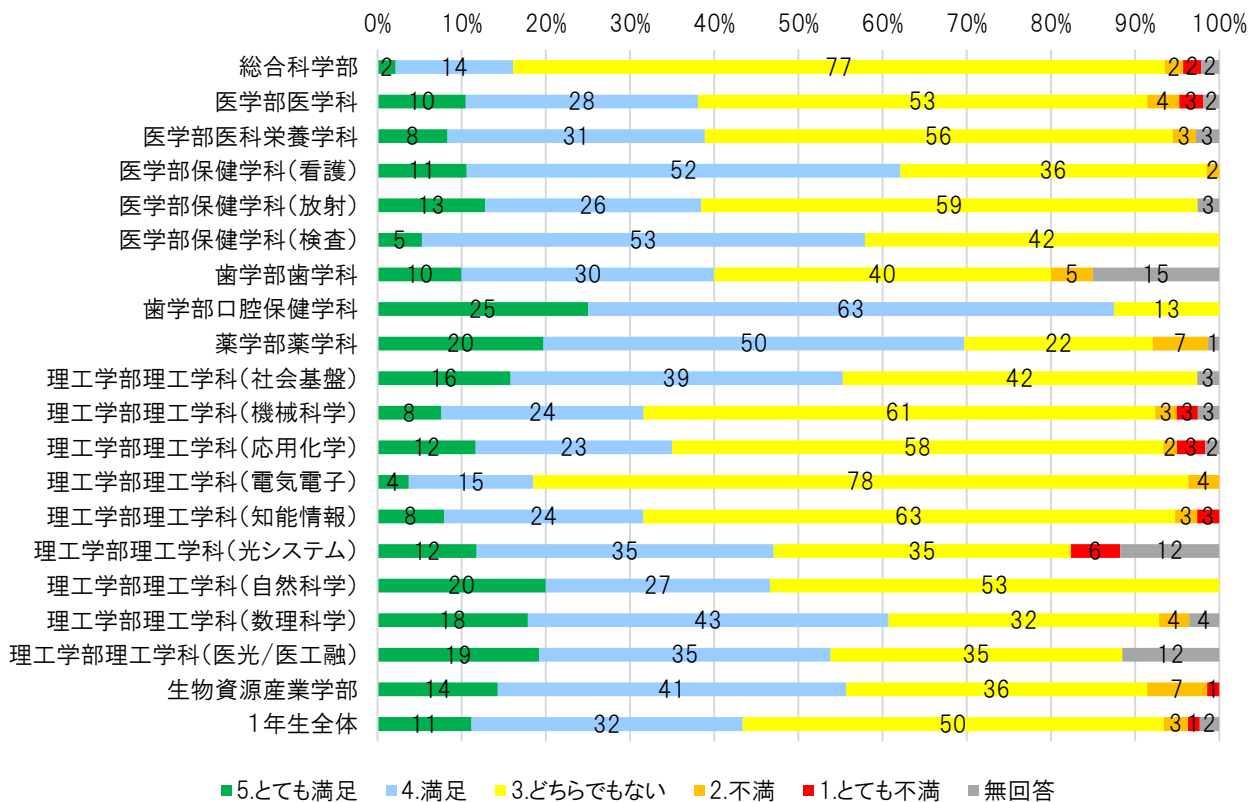
[121]レクリエーション施設(ジムの設備など)



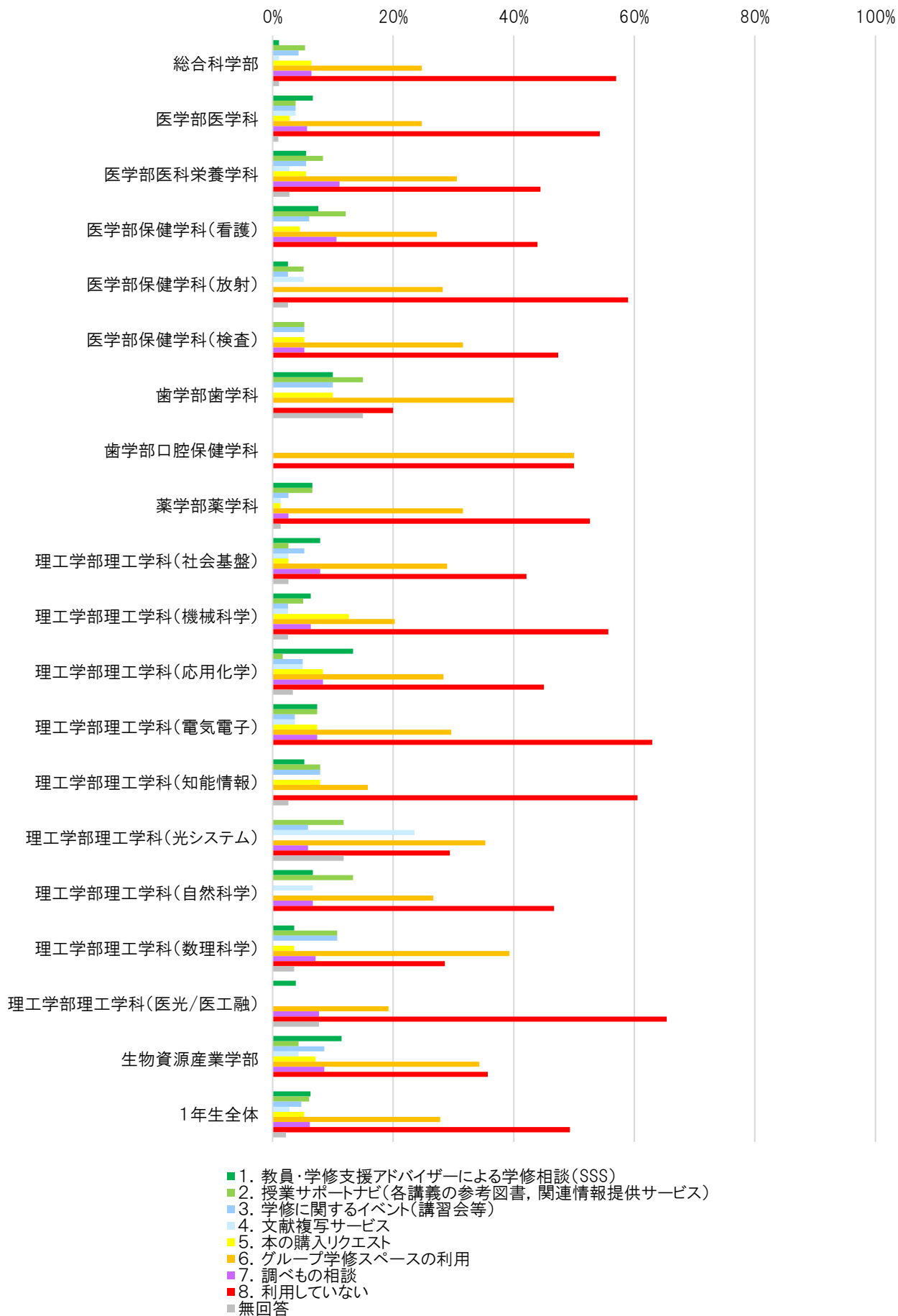
[122]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



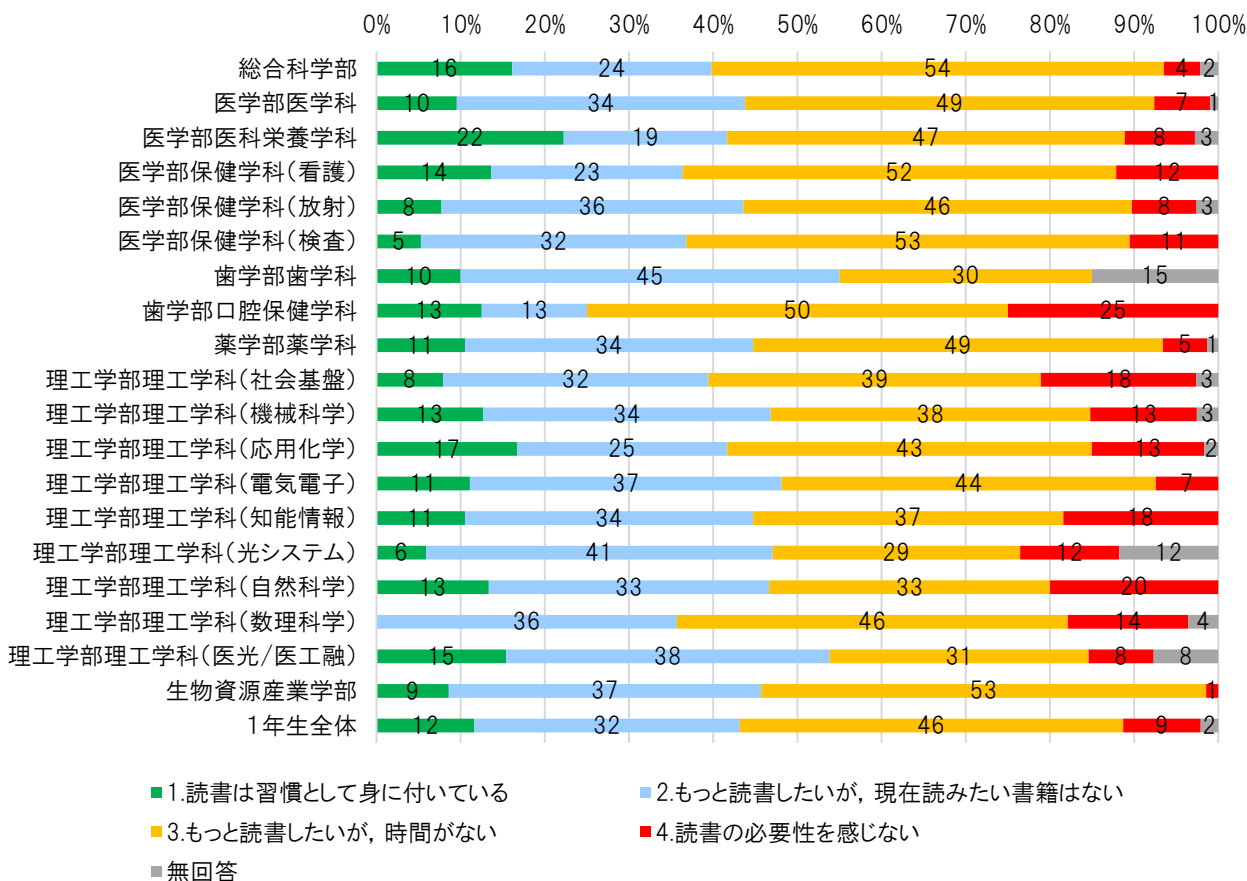
[123]クラス担任制度



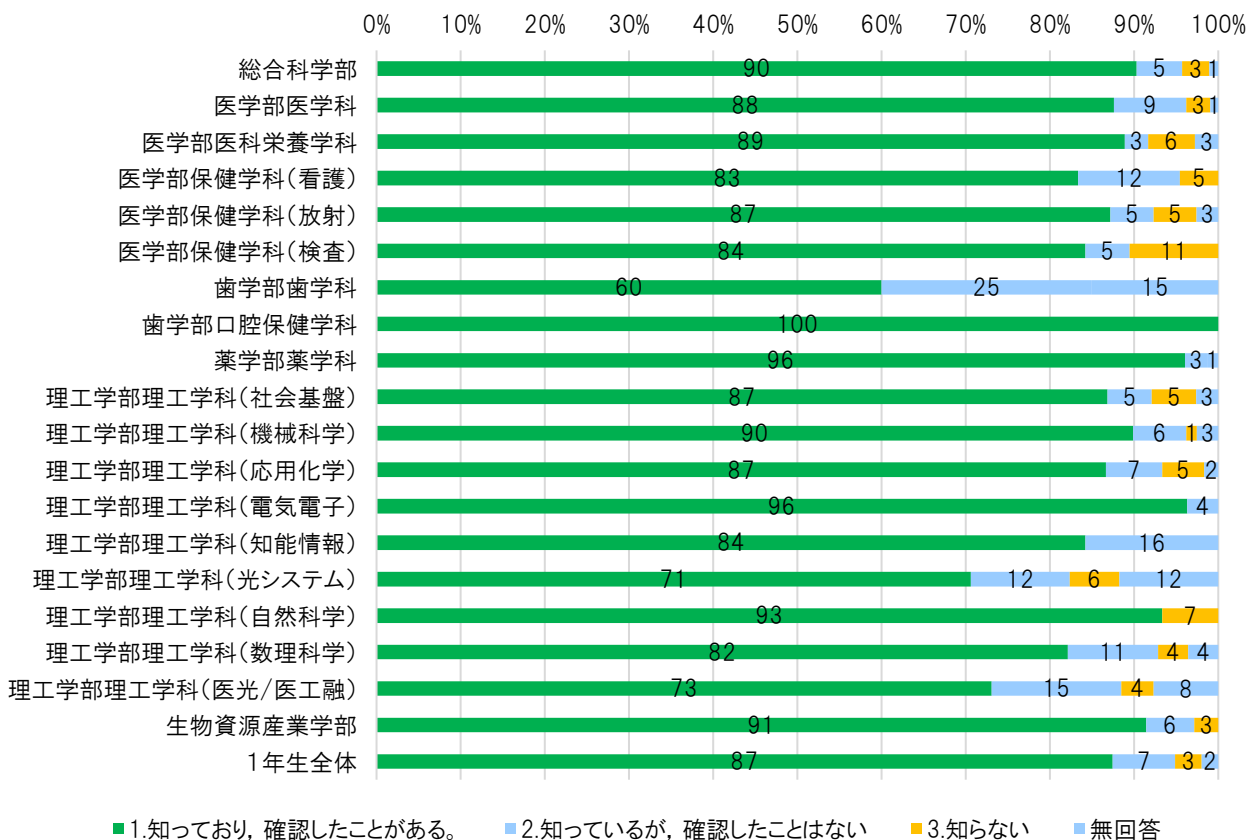
[124]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



[125]あなたは、読書についてどのように考えていますか。

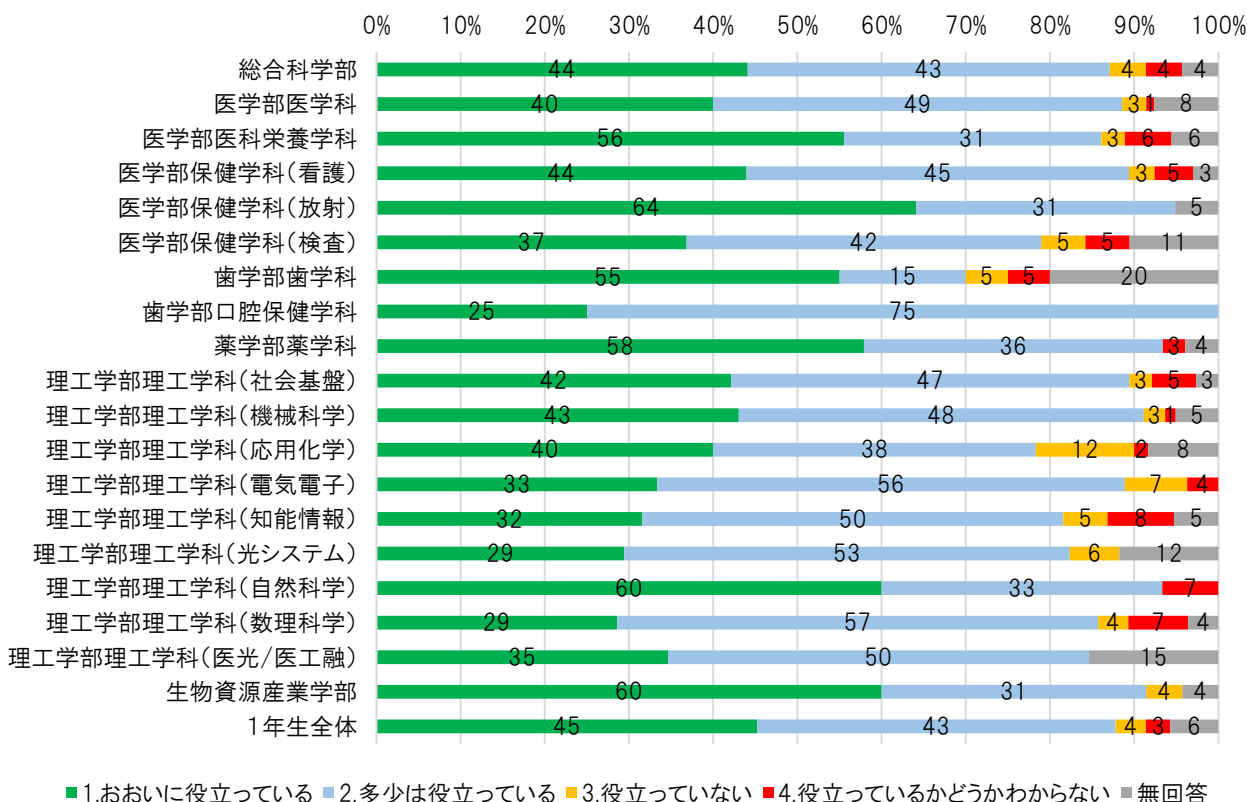


[126]自分の成績や成績の分布が教務システムを通して確認できるようになっていることを知っていますか。(ただし、受講者が10名以下の授業では、個人が特定されることのないよう成績分布は表示されません)。



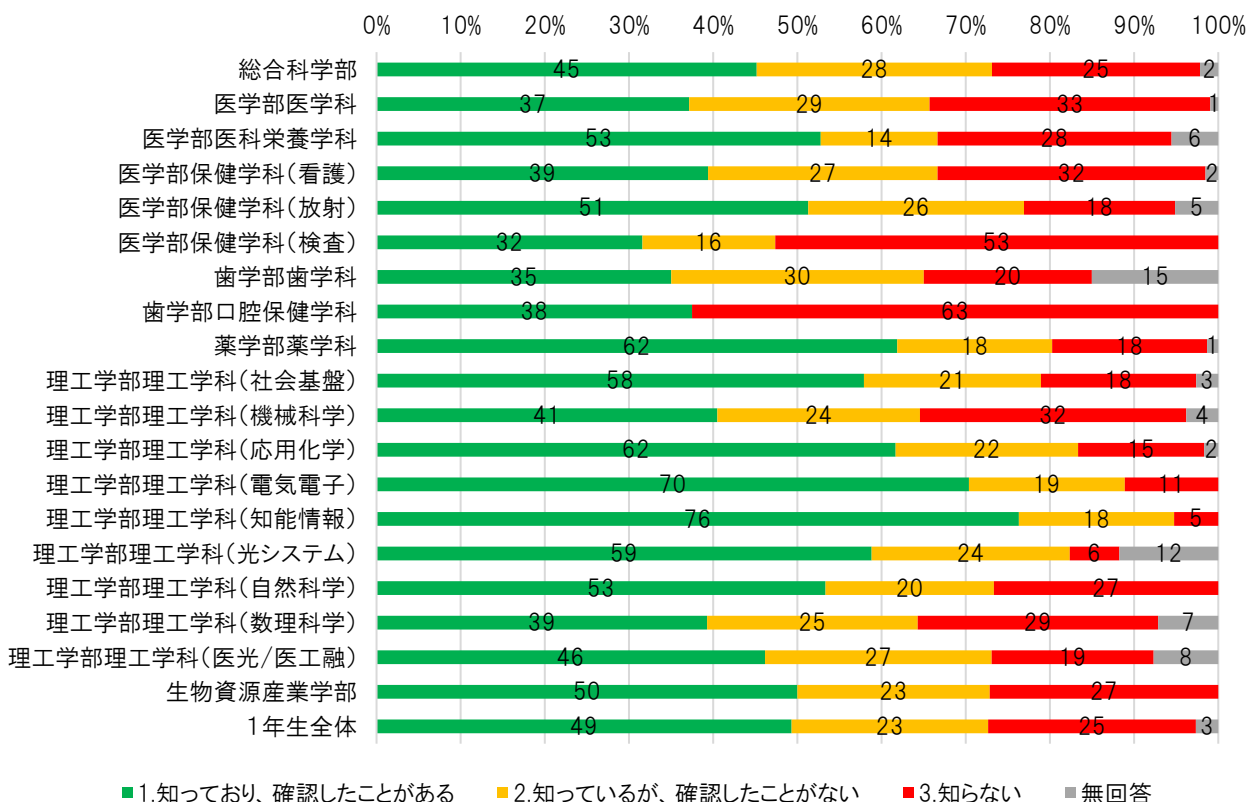
[127]問 126 で「1. 知っており、確認したことがある」を回答した人のみご回答ください。

自分の成績や成績分布は、自身の成績の相対的な位置を把握することや今後の学修に役立っていますか。



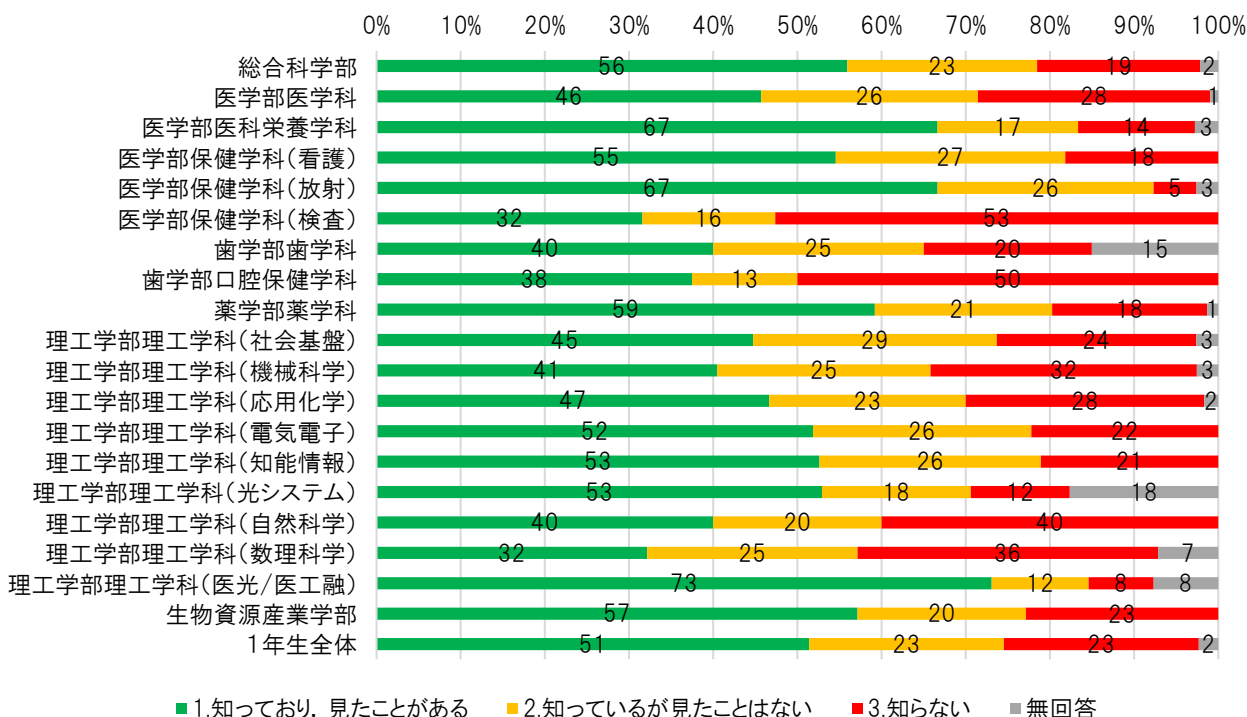
■ 1. おおいに役立っている ■ 2. 多少は役立っている ■ 3. 役立っていない ■ 4. 役立っているかどうか分からない ■ 無回答

[128]あなたの所属する学科・コース・専攻で「カリキュラムマップ」が設定されていることを知っていますか。カリキュラムマップとは、卒業に必要な授業科目の配置や学修順序等を図示したもので、履修の手引や徳島大学のウェブページ等で閲覧できます。

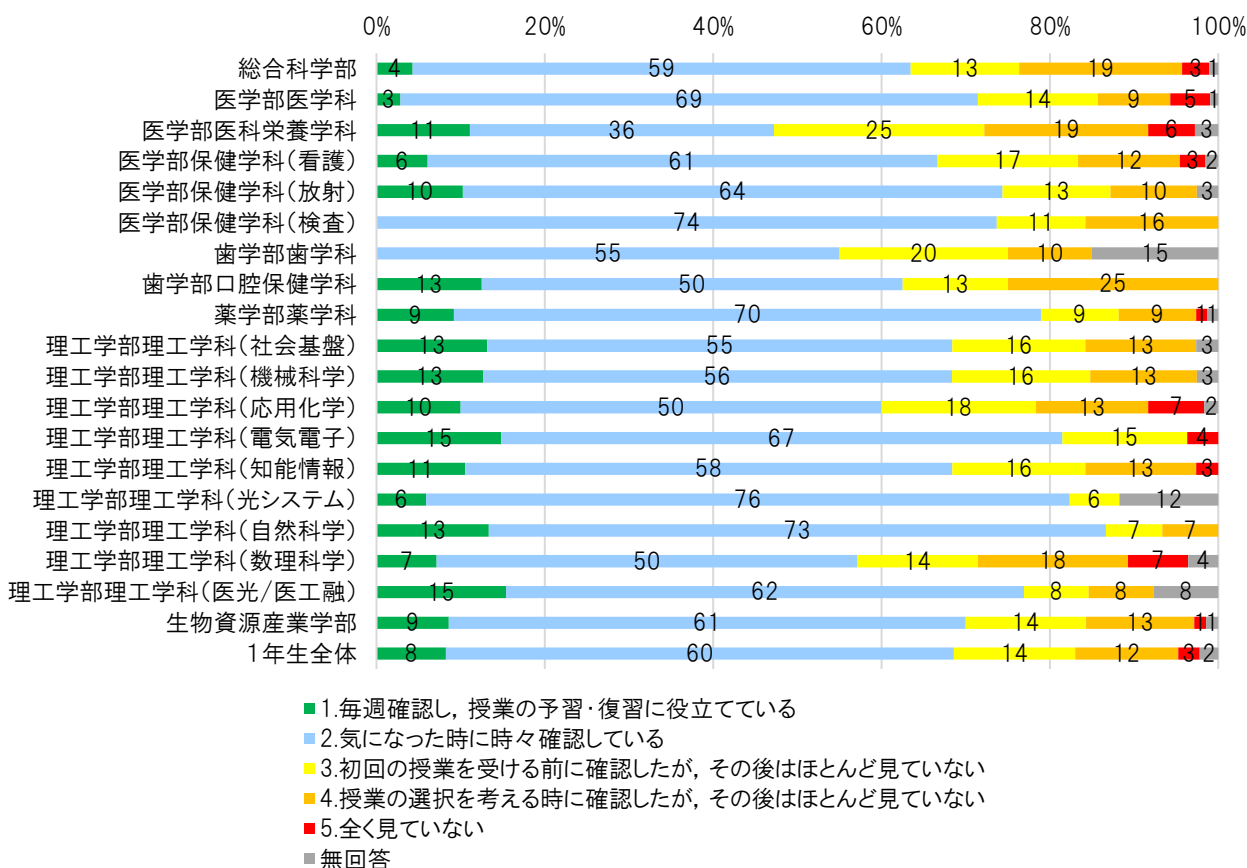


■ 1. 知っており、確認したことがある ■ 2. 知っているが、確認したことがない ■ 3. 知らない ■ 4. 無回答

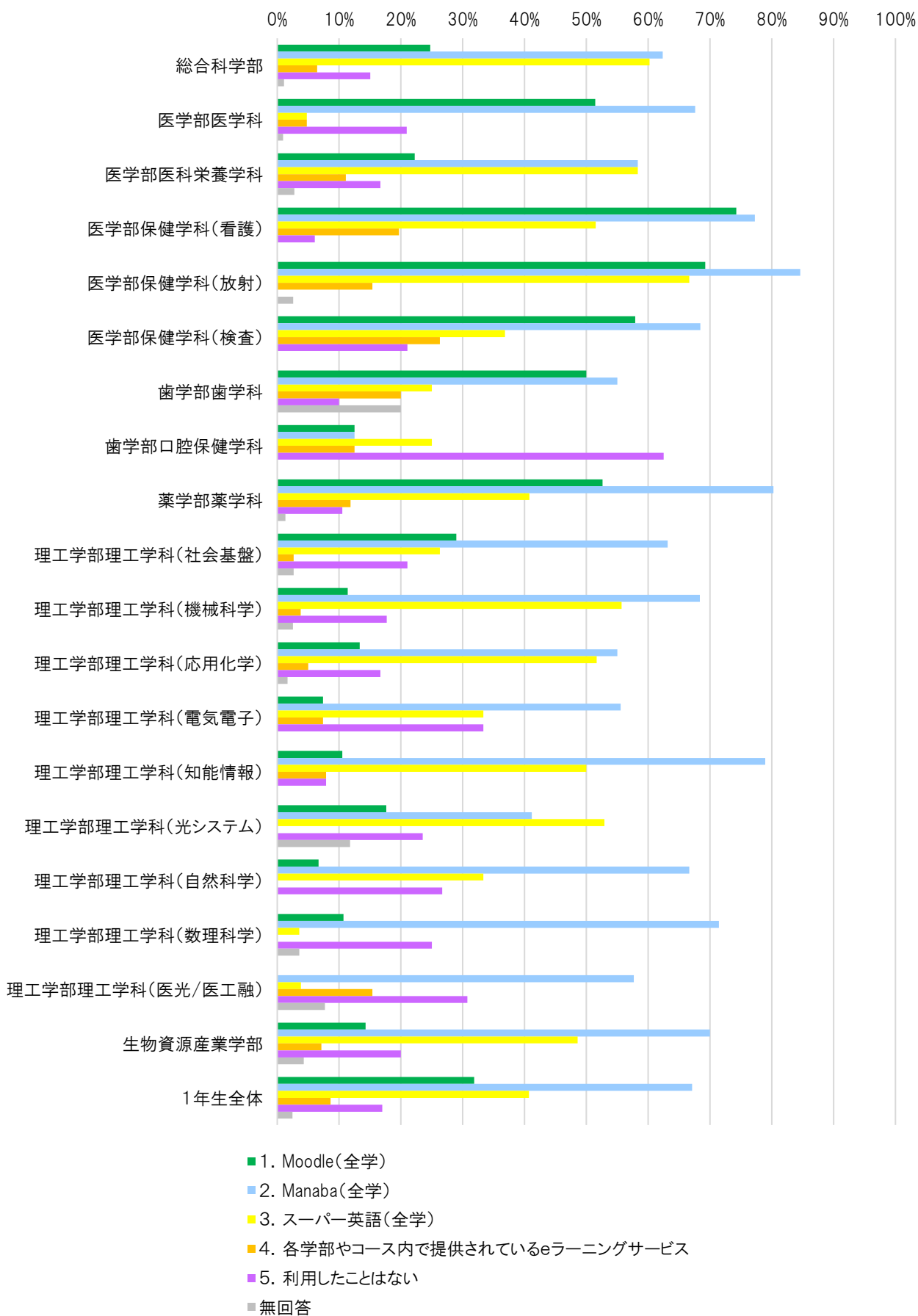
[129]徳島大学で開講されている授業科目に「科目ナンバリング」が付与されていることを知っていますか。科目ナンバリングとは、学部の授業科目を識別し、学問分野や難易度等を表すために付与された番号やアルファベットのことで、学修の段階や順序を整理し、科目選択の指針として役立てることができます。シラバスに記載されており、教務システム等で確認することができます。



[130]シラバスはどのように利用していますか。

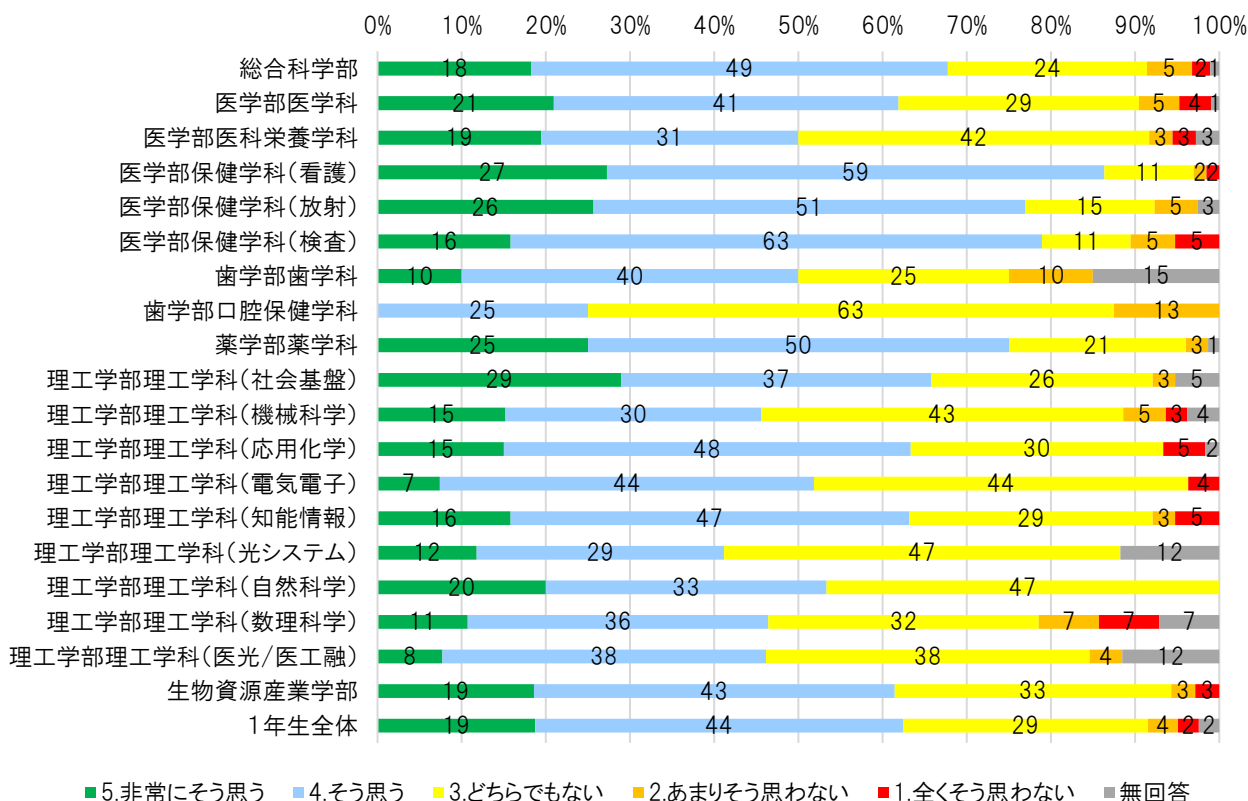


[131]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)

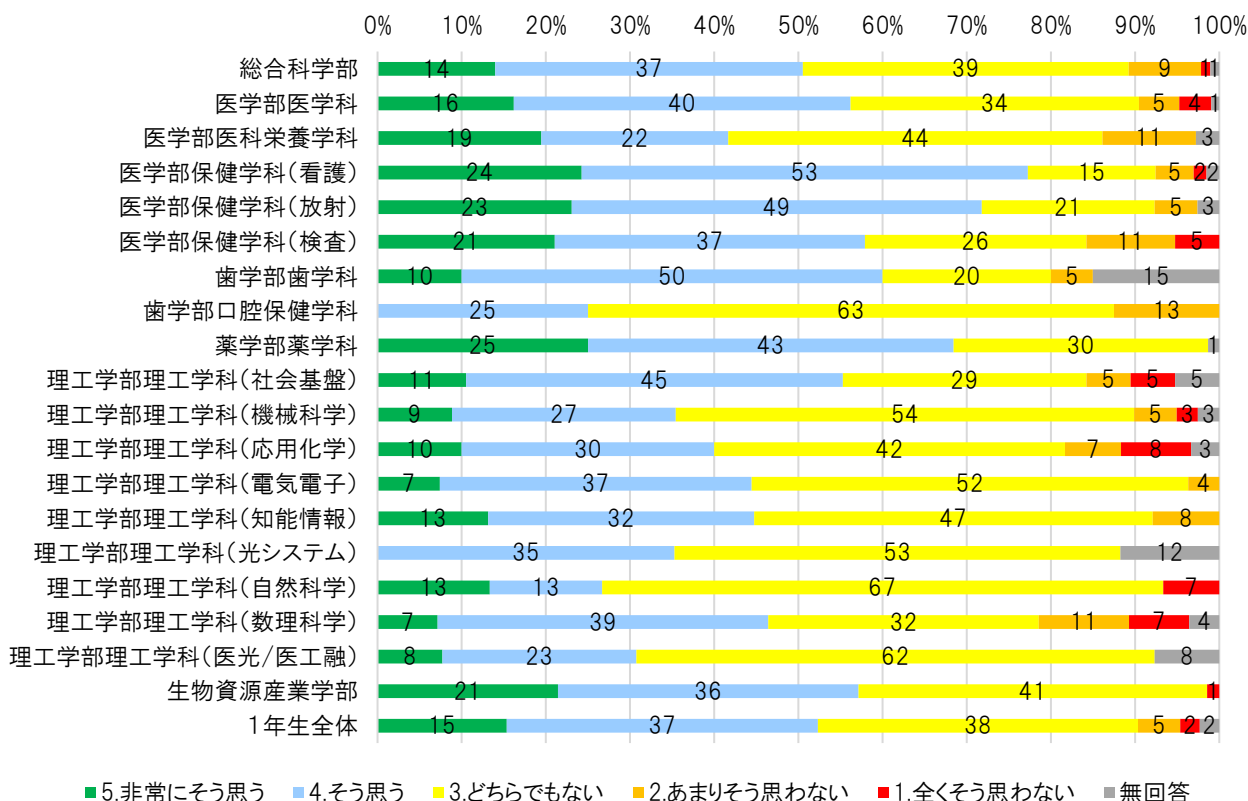


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[132]本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

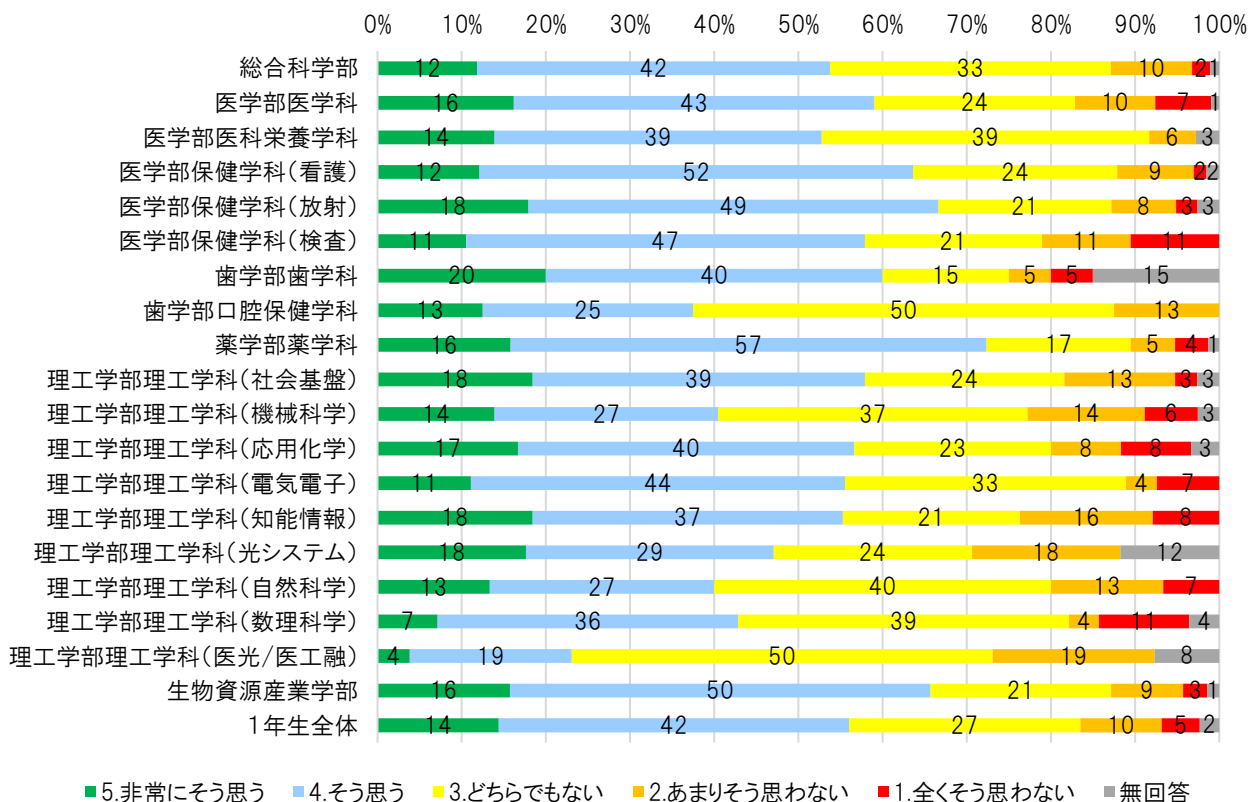


[133]本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

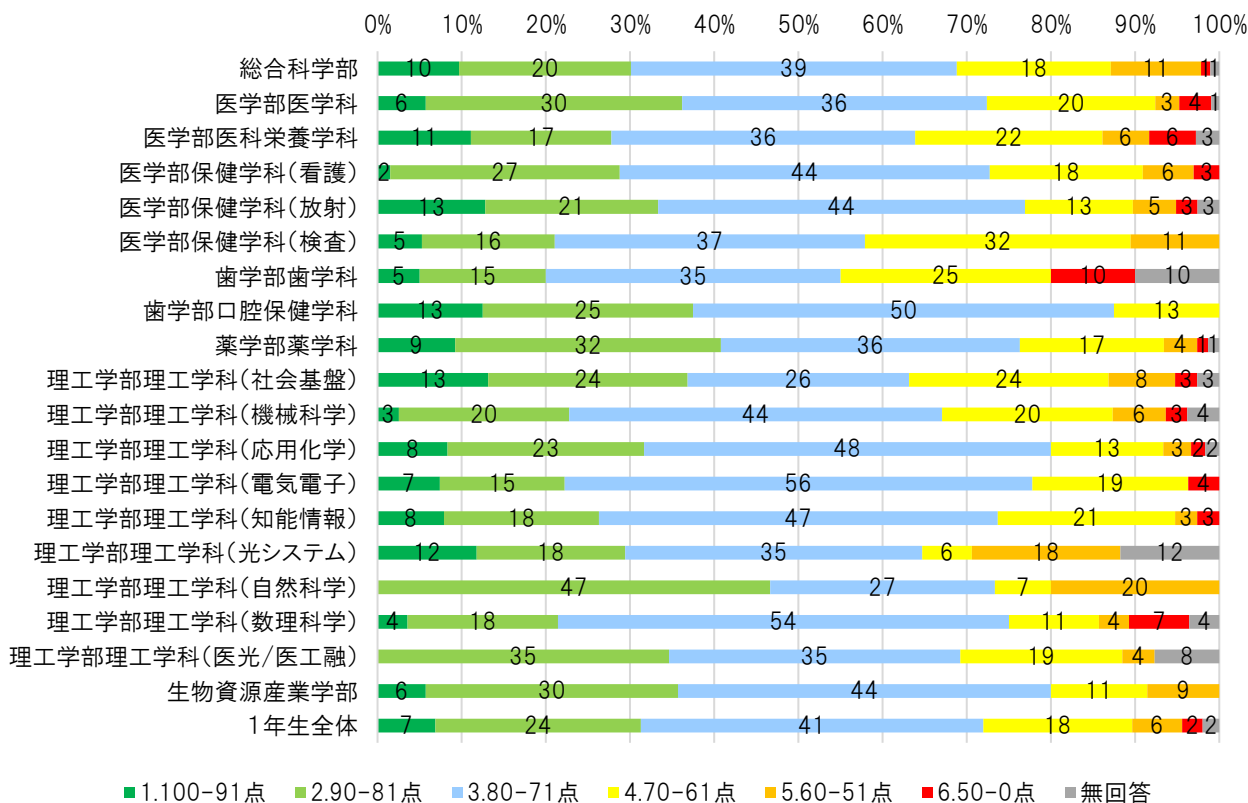


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

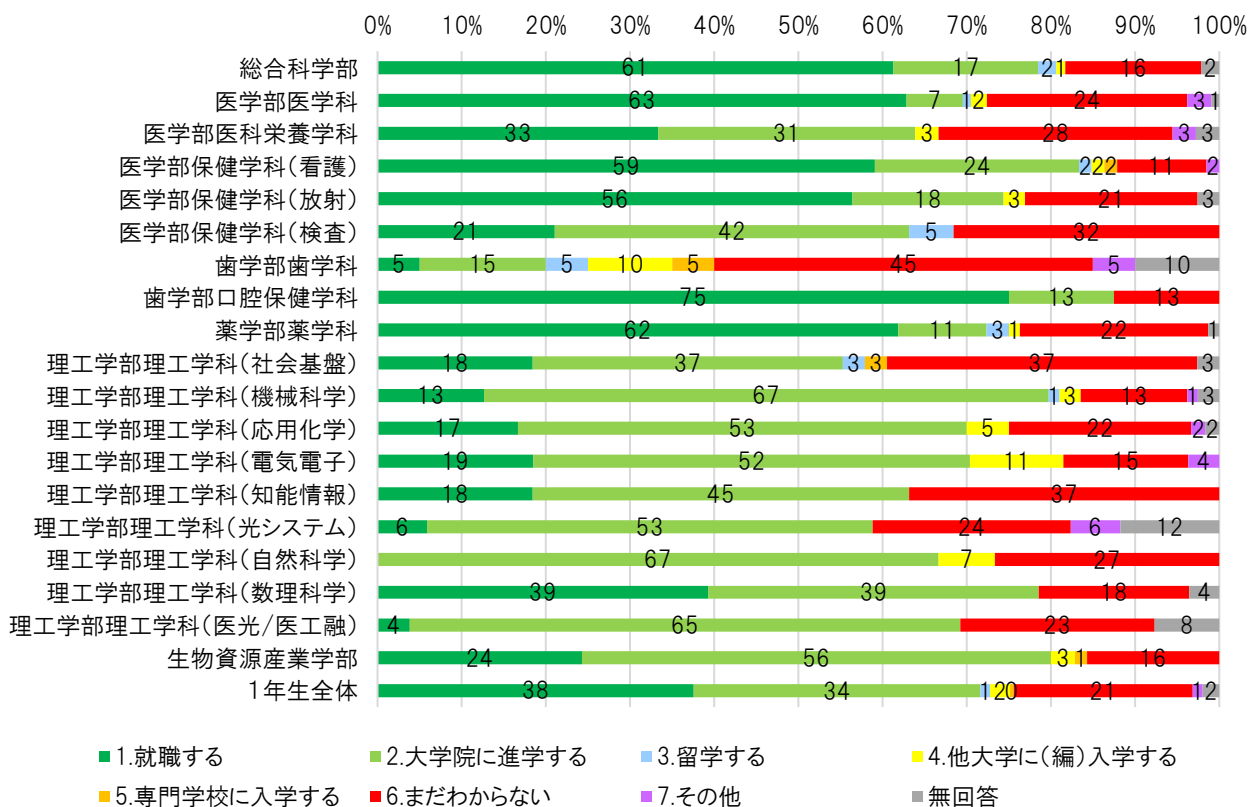
[134]「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である



[135]大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

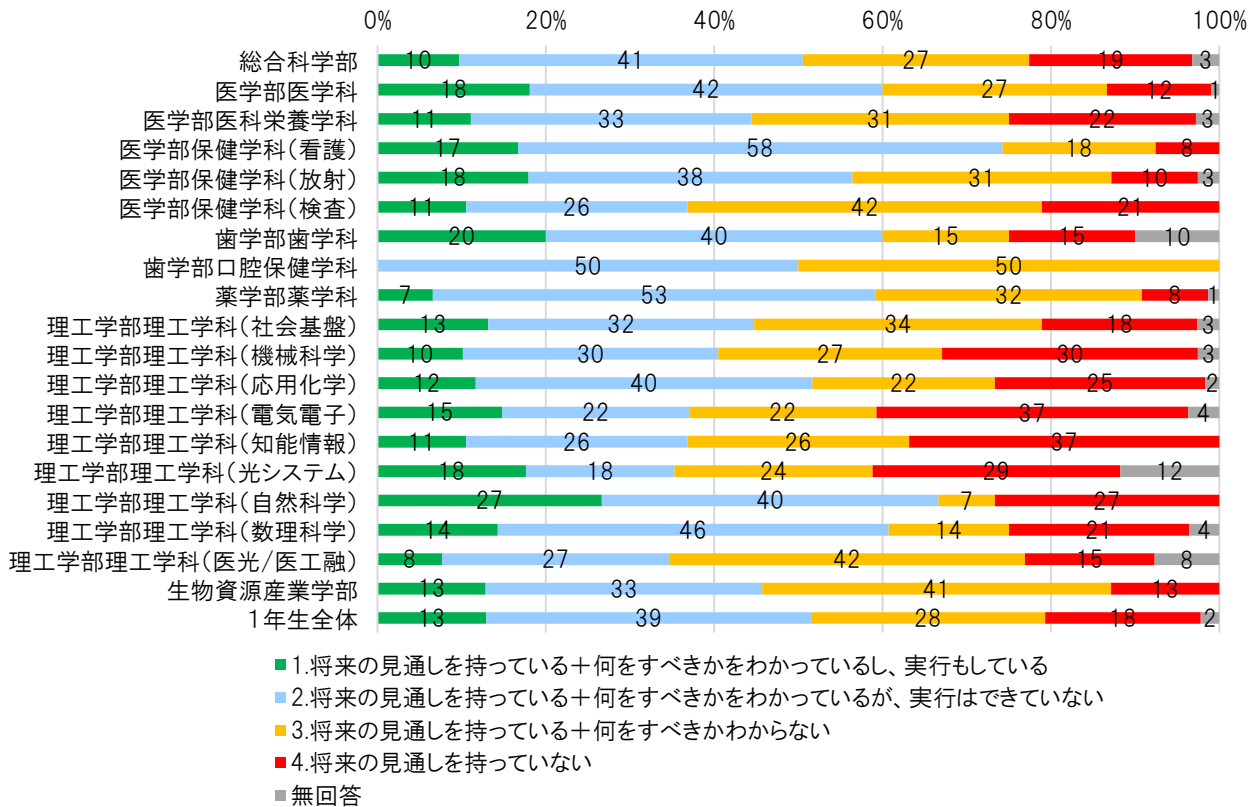


[136]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



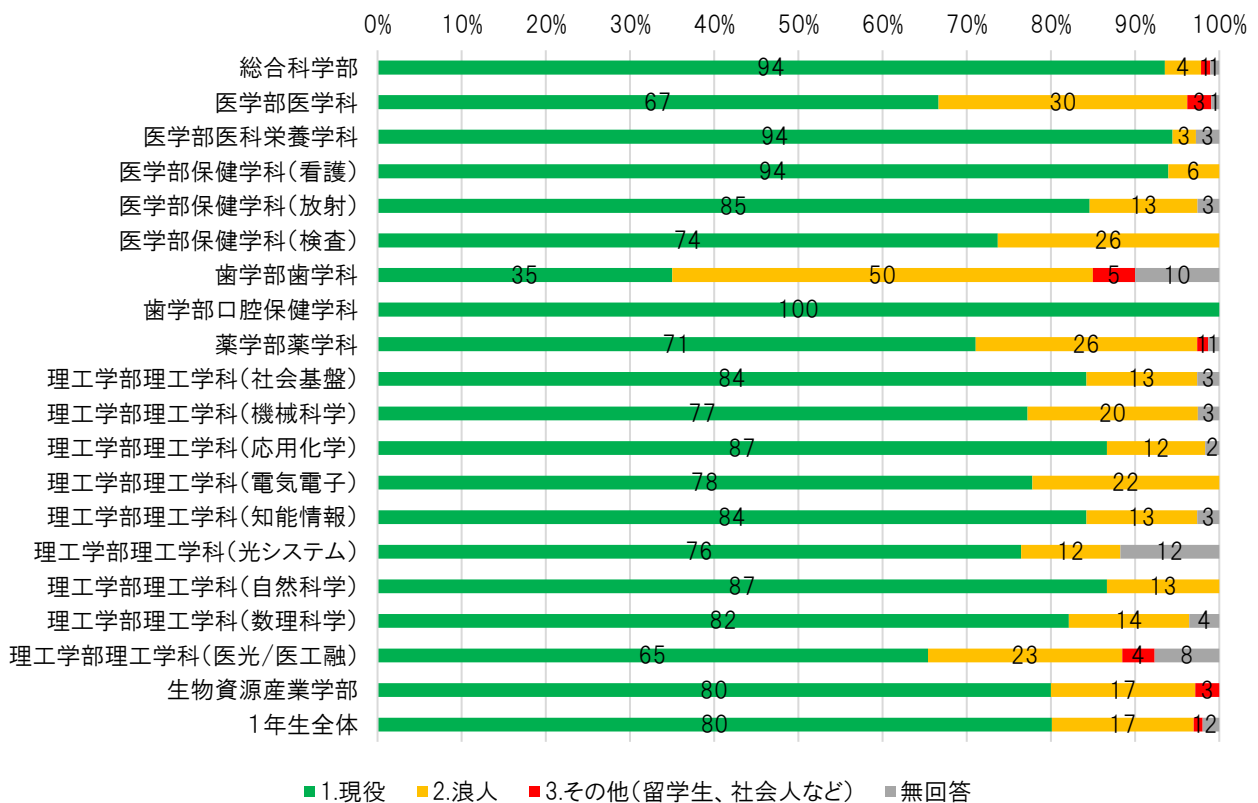
[137] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。
- その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

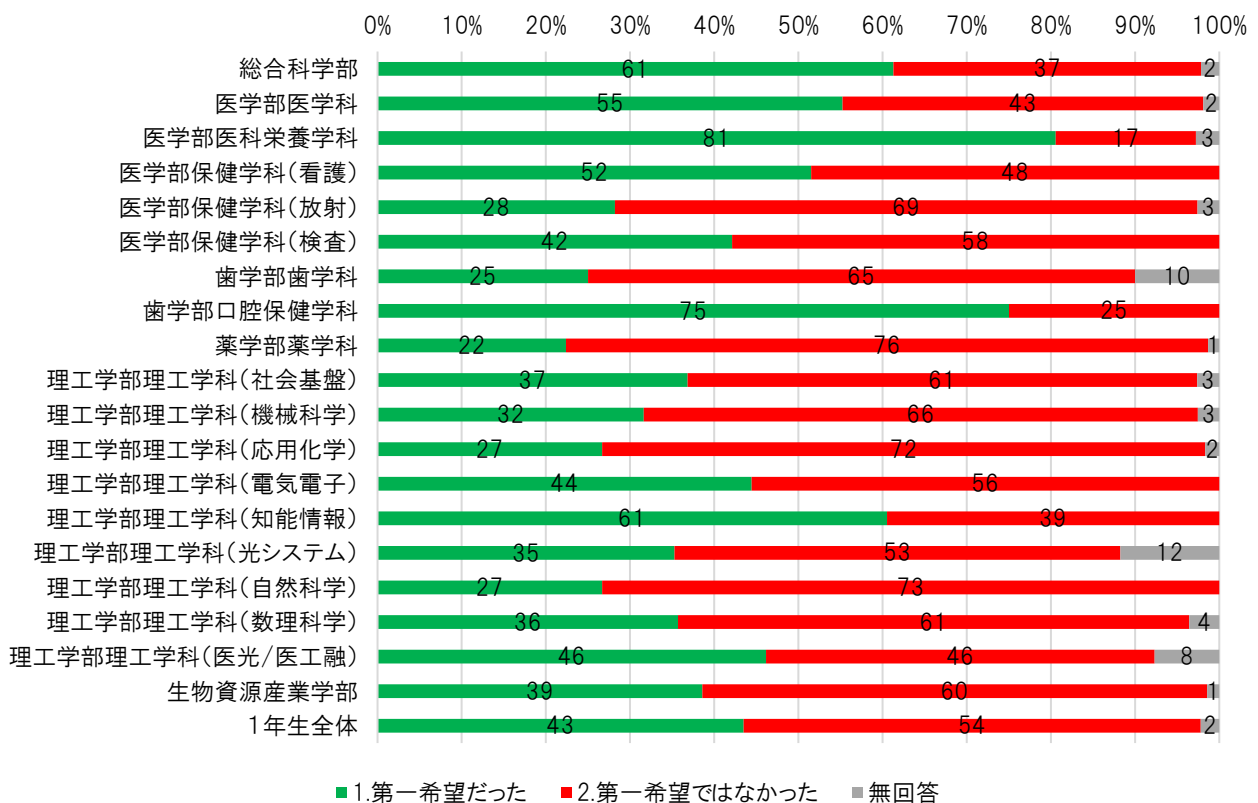


V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

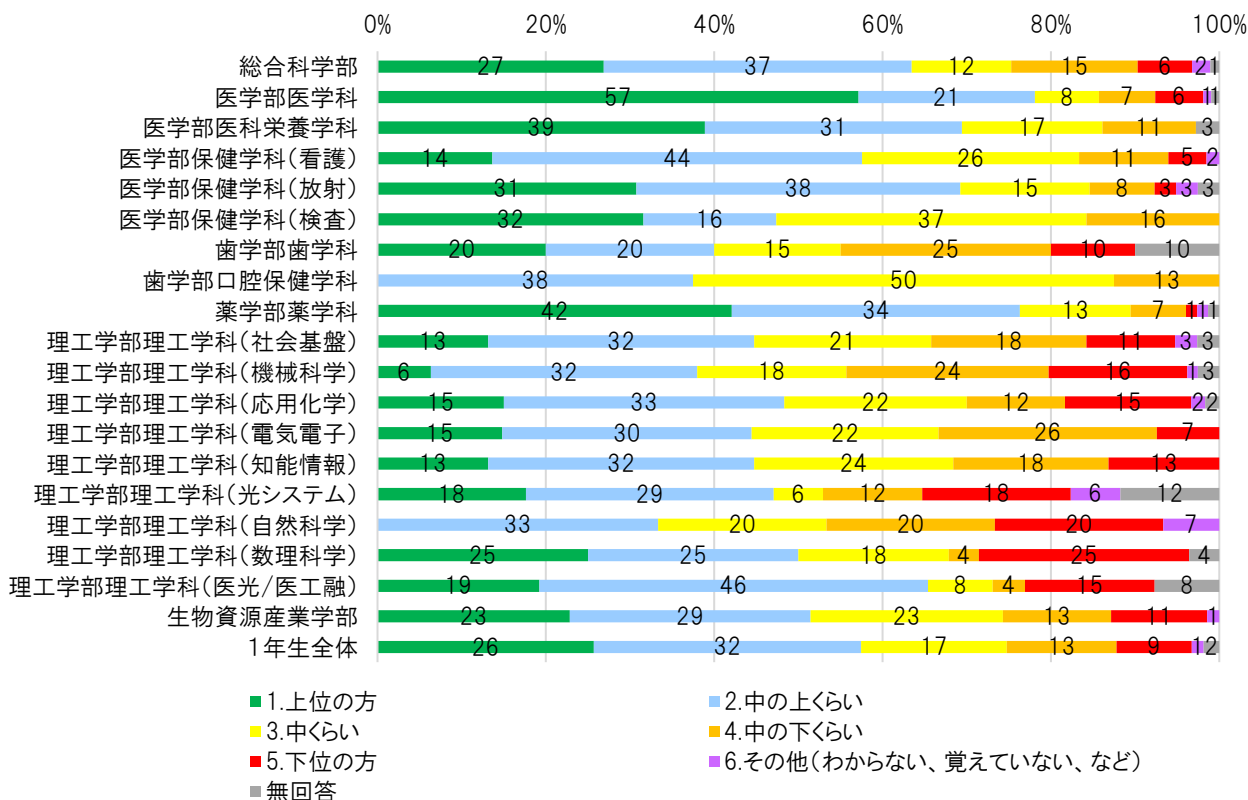
[138]あなたは現役で本学に入学しましたが、それとも浪人しましたか。



[139]あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

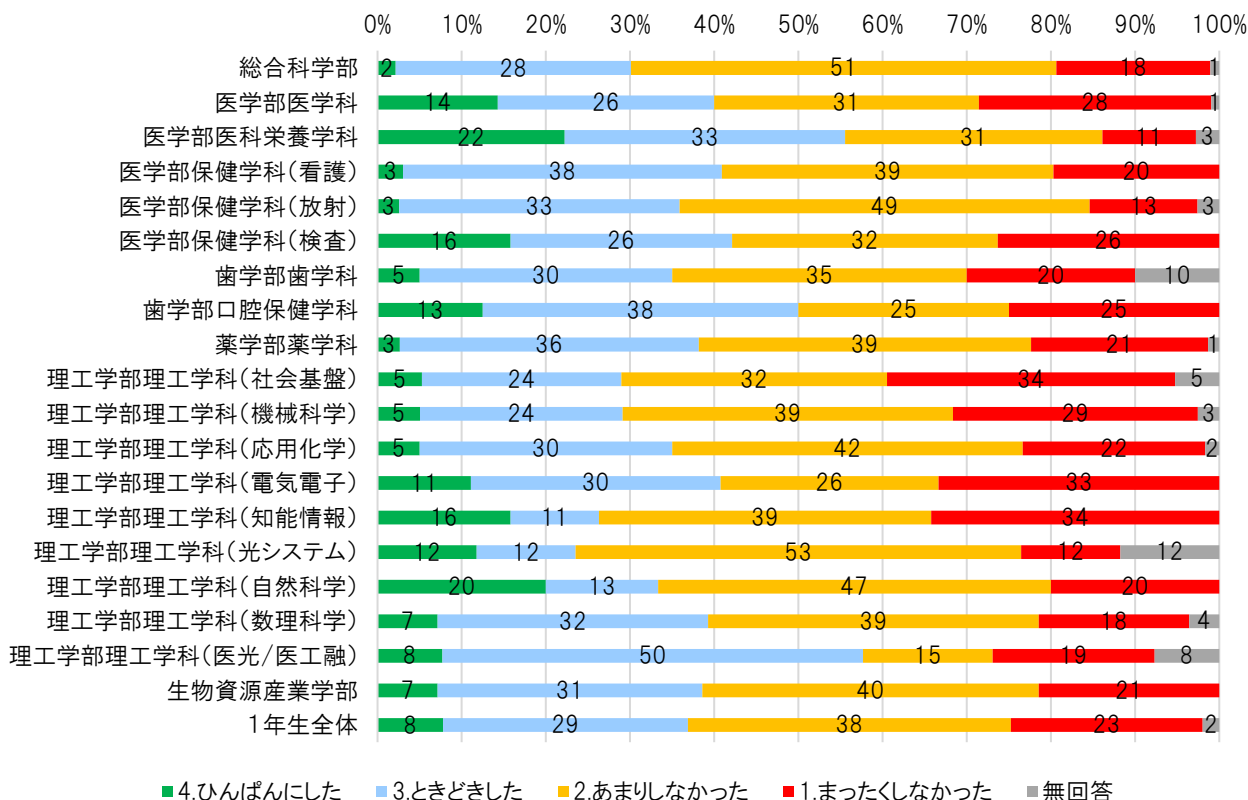


[140]あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

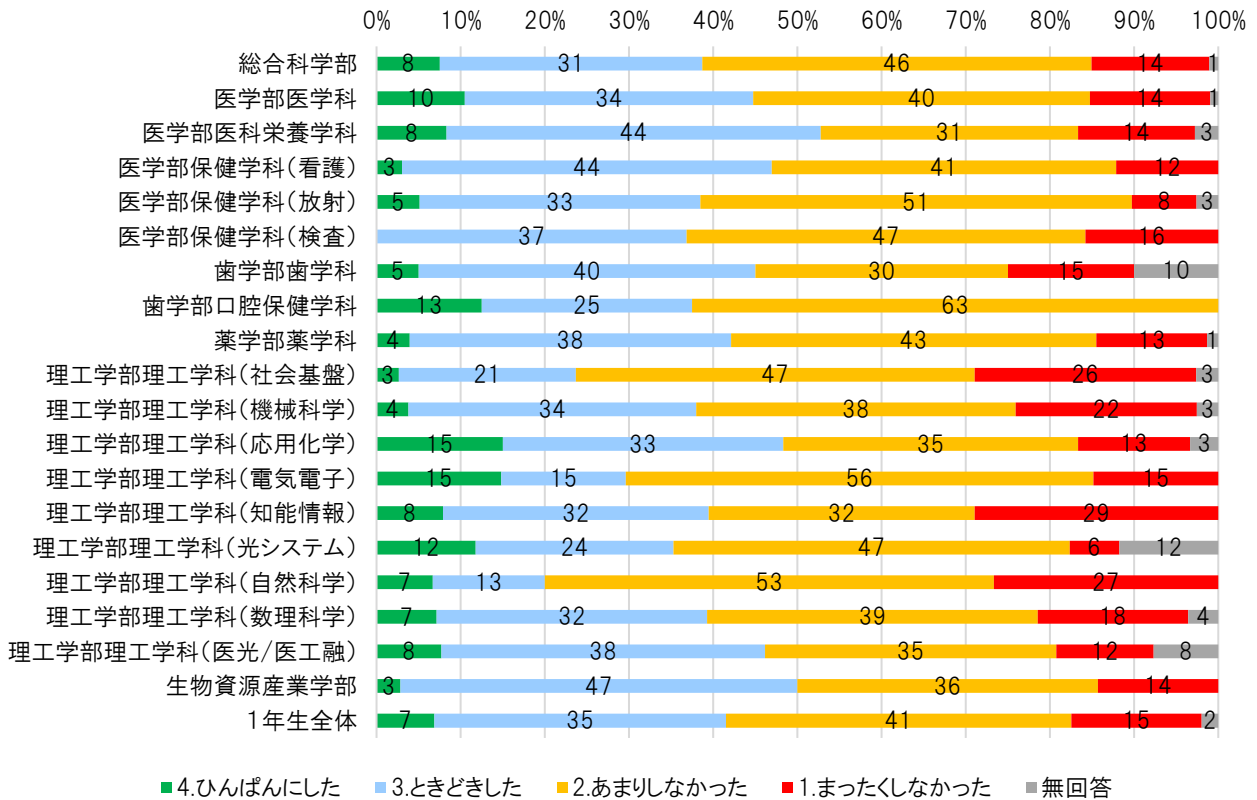


あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

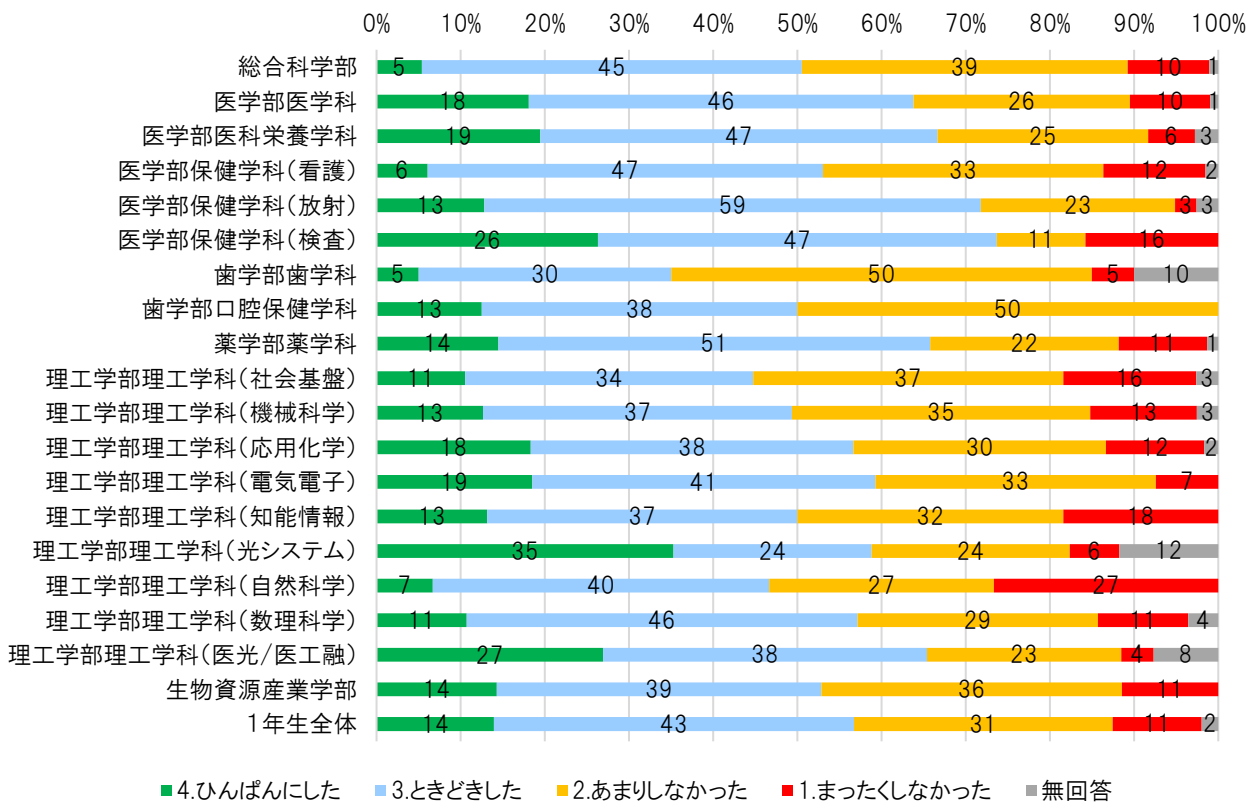
[141]授業中に質問した



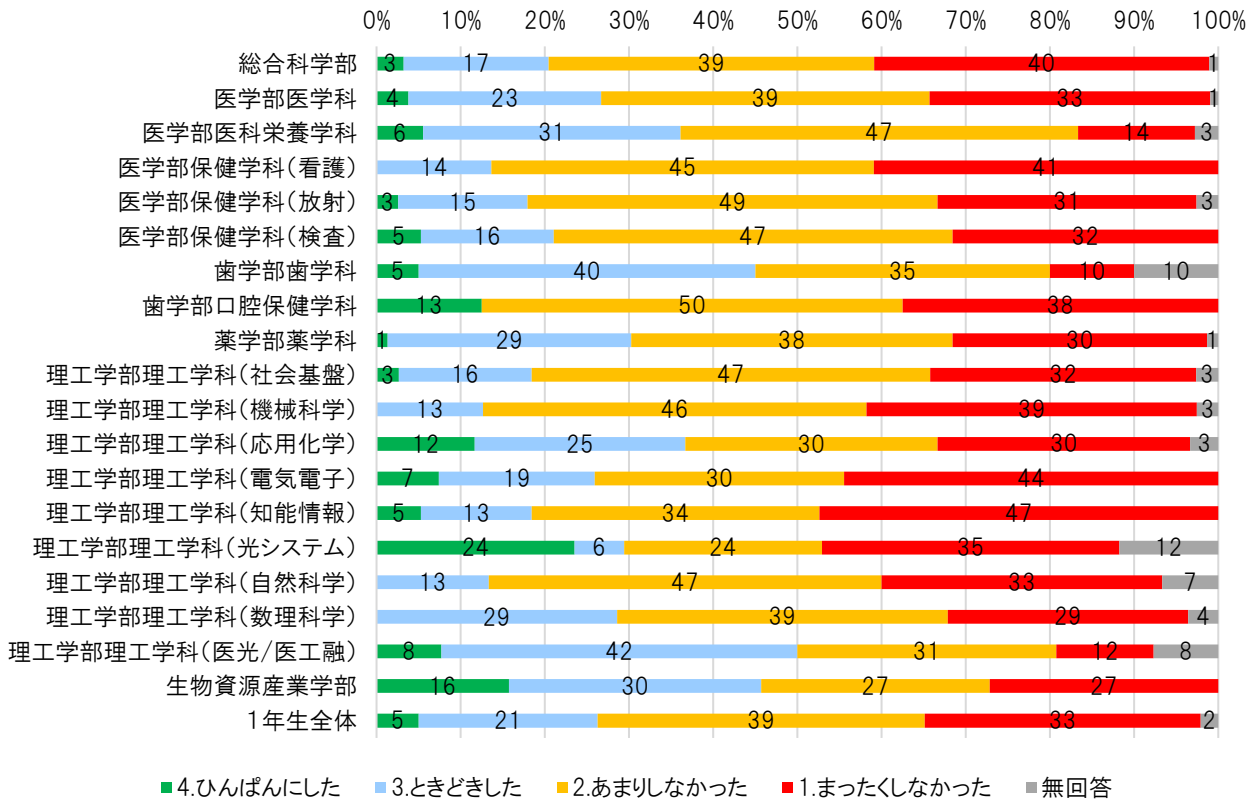
[142]自分の意見を論理的に主張した



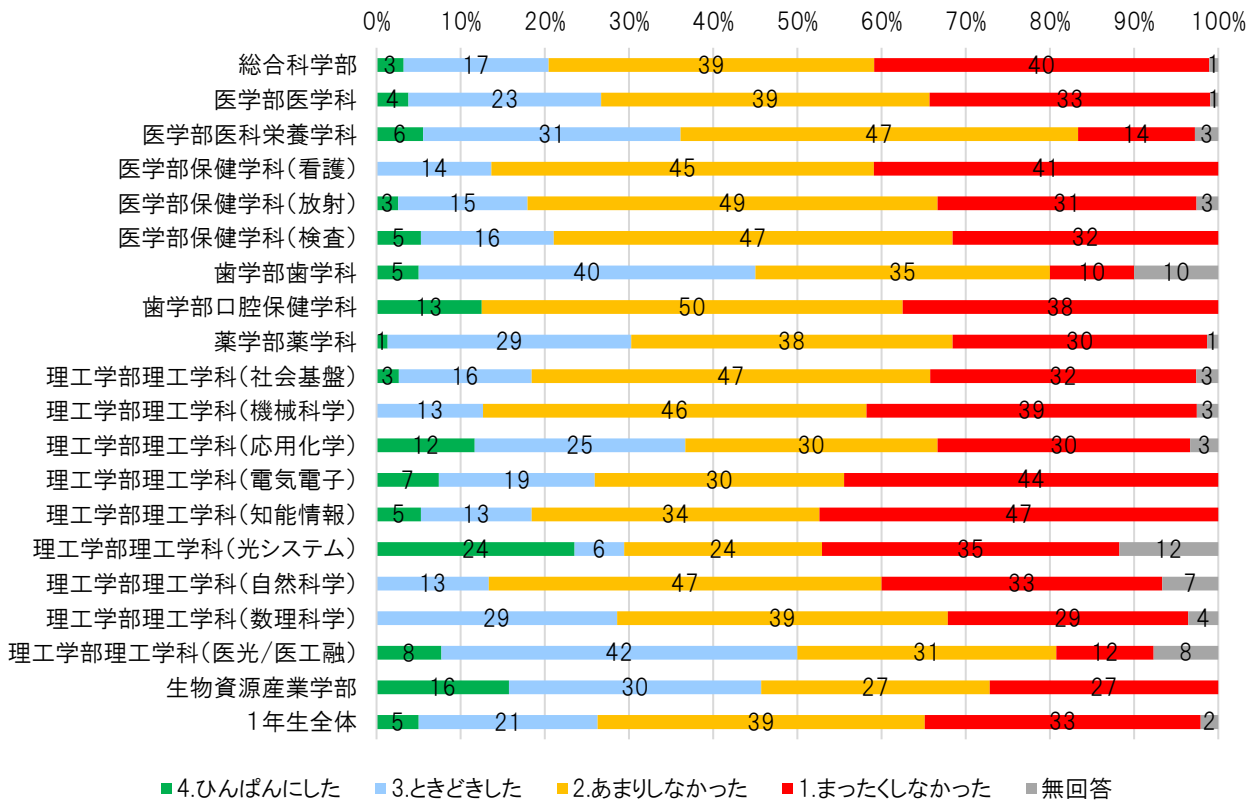
[143]問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した



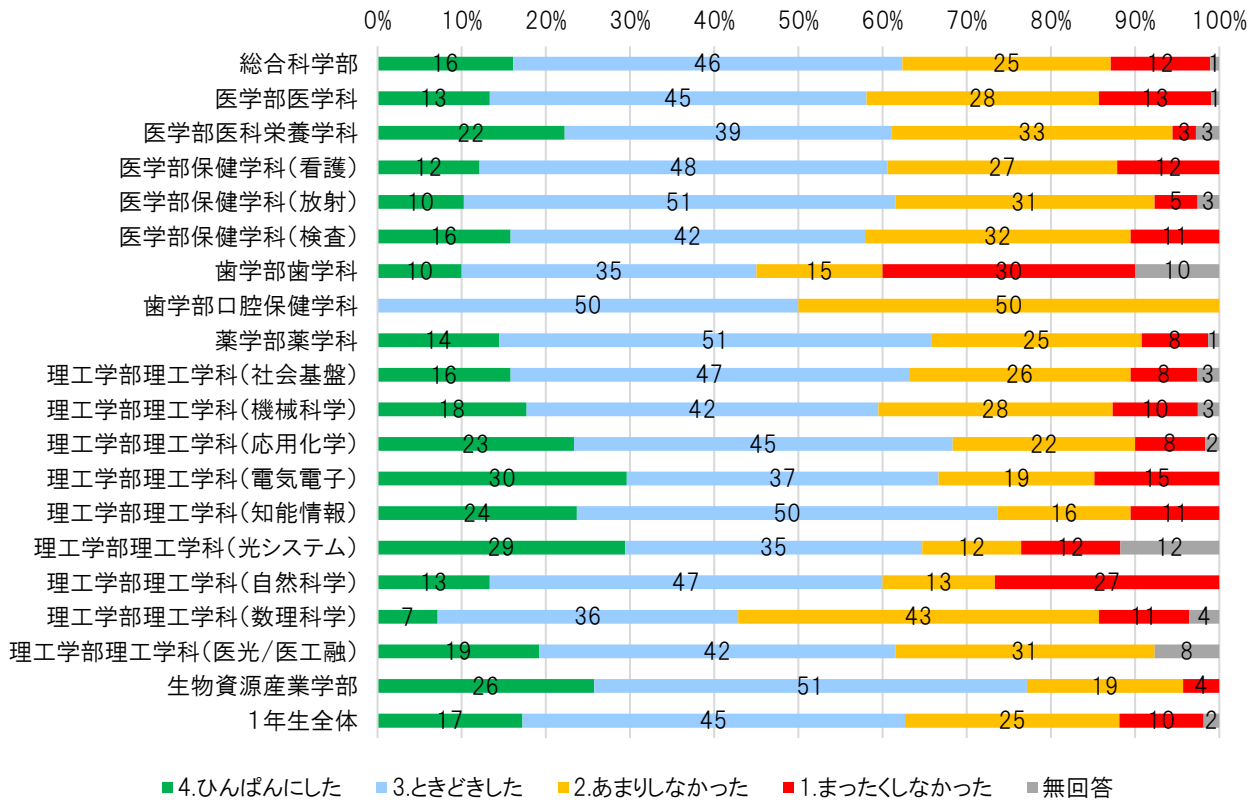
[144] 科学的研究の記事や論文を読んだ



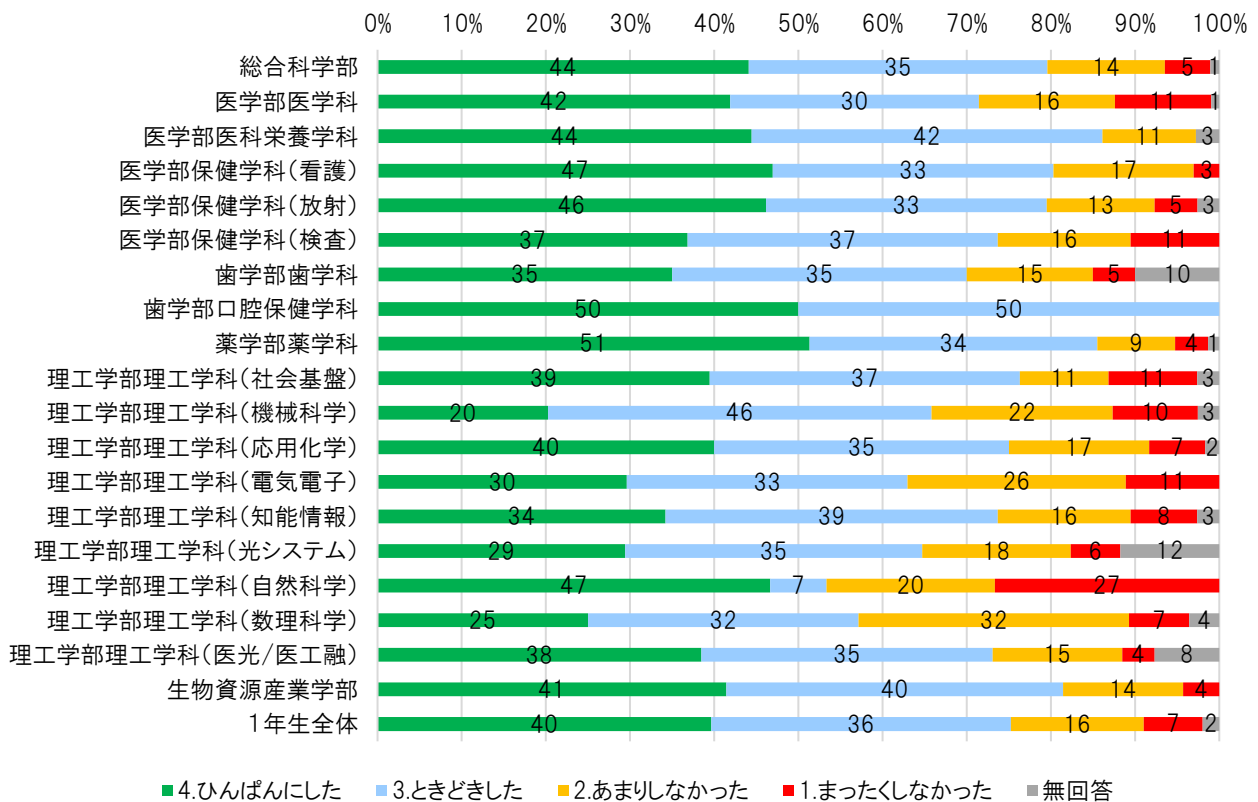
[145] 自発的に作文の練習をした



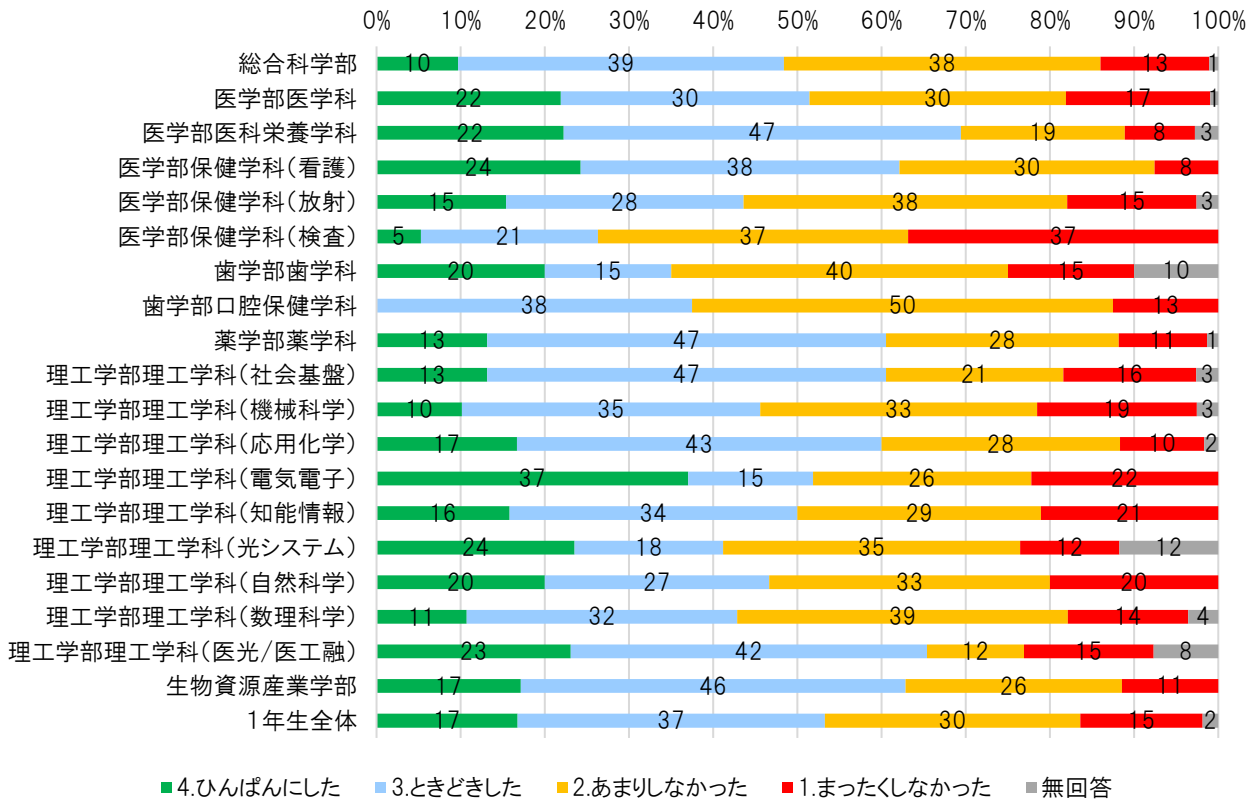
[146]インターネット上の情報が事実かどうか確認した



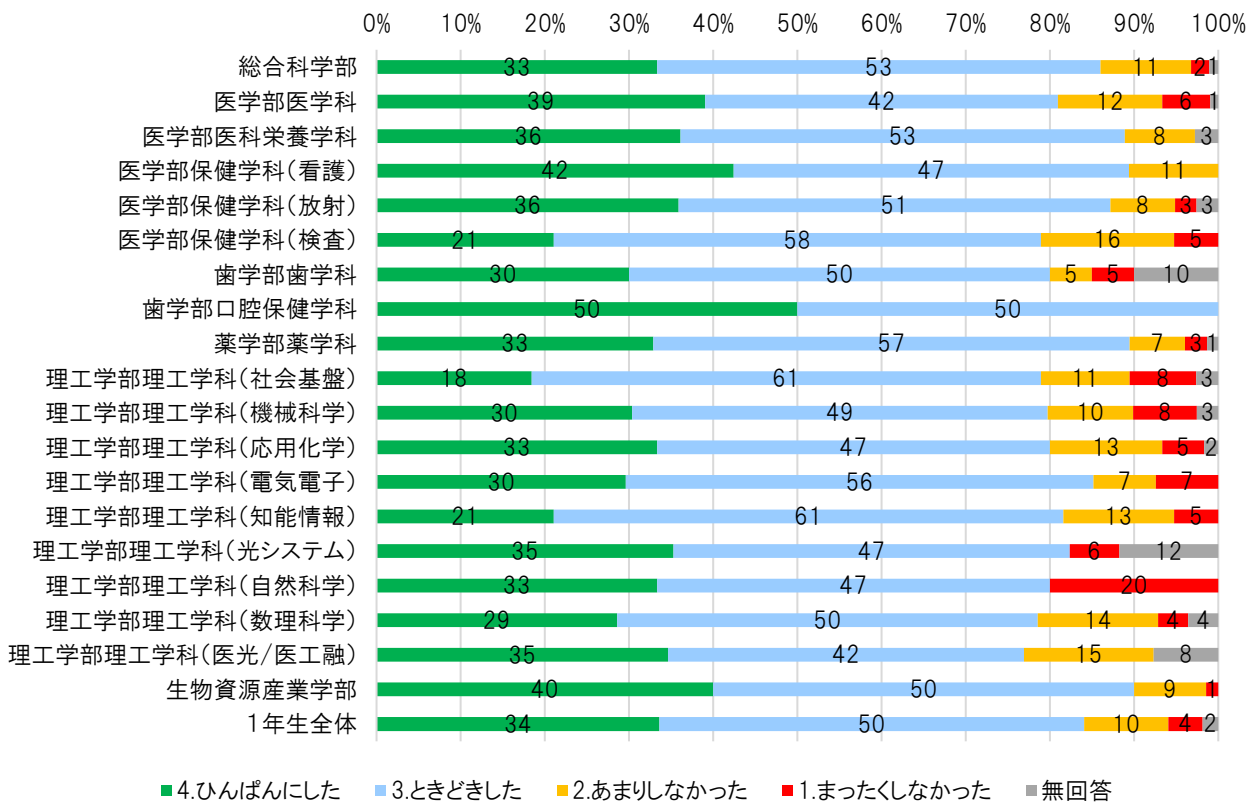
[147]授業の予習や復習、宿題をした



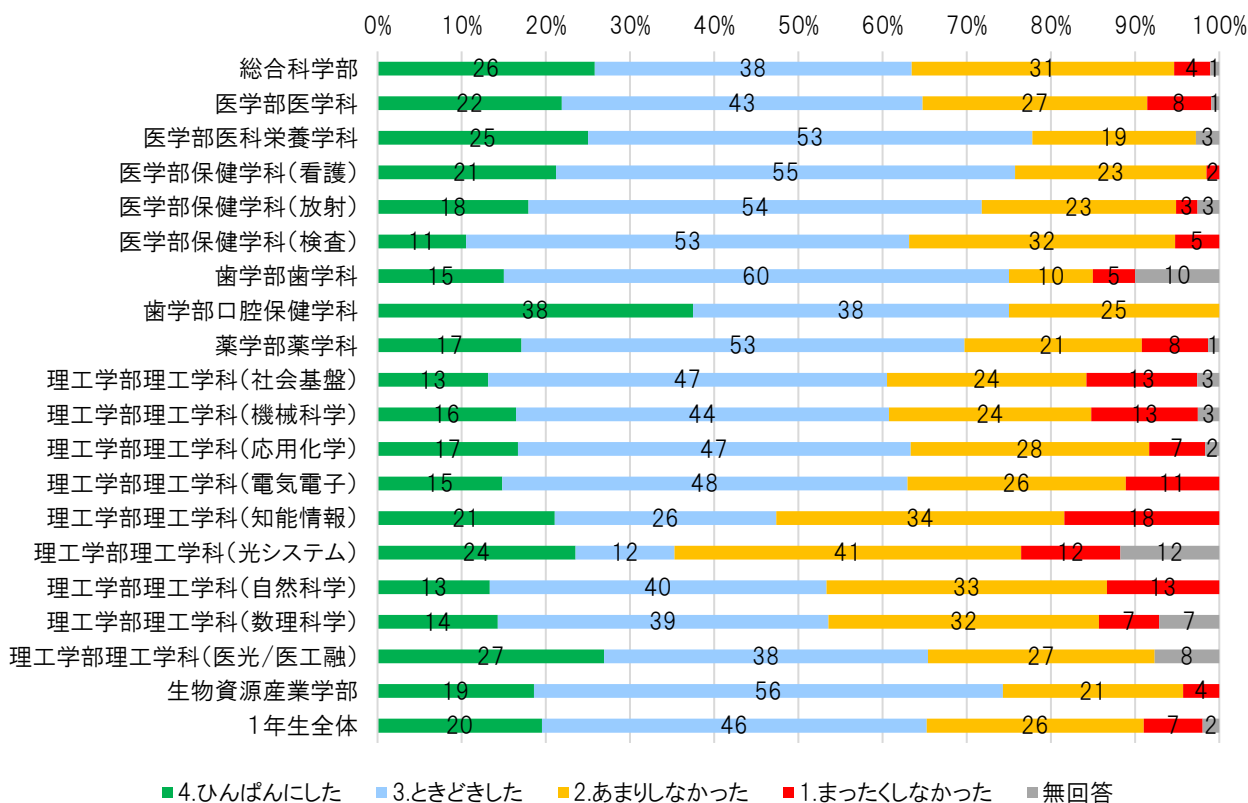
[148]授業以外に興味のあることを自分で勉強した



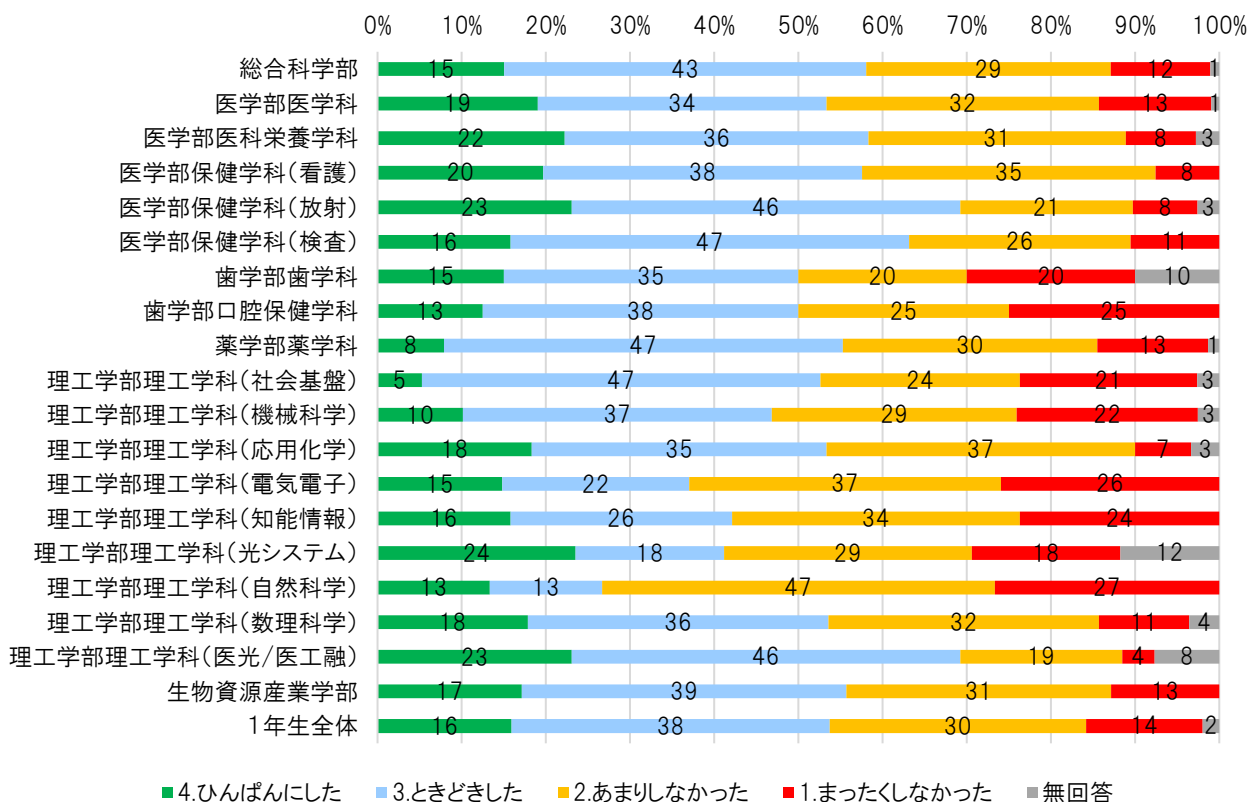
[149]自分の失敗から学んだ



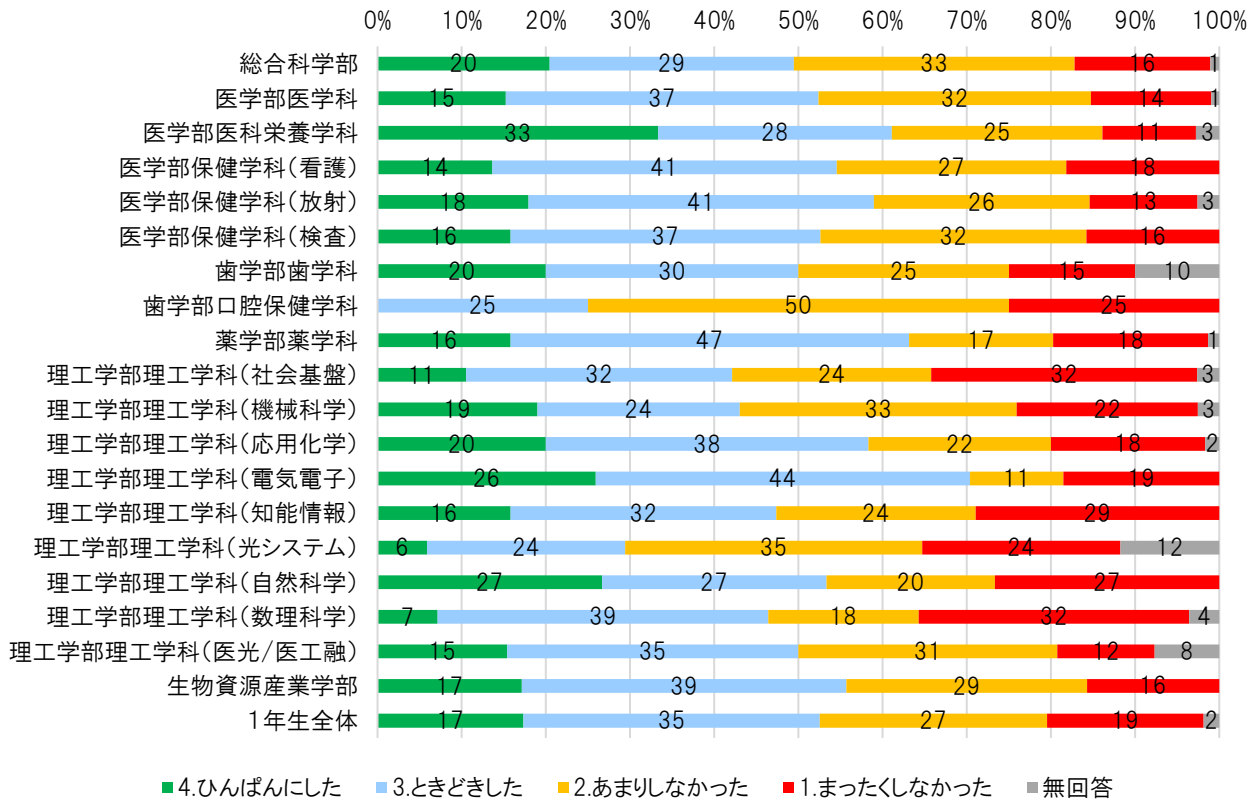
[150] 困難なことにあえて挑戦した



[151] 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



[152]読書をした(マンガ・雑誌を除く)



3年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30 分未満
2. 30 分以上－1 時間未満
3. 1 時間以上－1 時間 30 分未満
4. 1 時間 30 分以上－2 時間未満
5. 2 時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんばん にあった	ときどき あった	あまり なかった	まったく なかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、 学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、 教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1

[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1
[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

今年度になってから、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1

[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1
[62]	職業人・社会の一員として求められる倫理観	5	4	3	2	1
[63]	生涯学び続け、教養・専門性を高める能力	5	4	3	2	1
[64]	必要な情報を収集・取捨選択する能力	5	4	3	2	1
[65]	データを読み、理解し、活用する能力	5	4	3	2	1
[66]	新しいことに積極的に挑戦する姿勢	5	4	3	2	1
[67]	ストレスに対処する能力	5	4	3	2	1
[68]	柔軟に発想し、表現する能力	5	4	3	2	1

[69] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[70] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

1. 一般知識・教養
2. 専門的知識
3. 課題発見・解決力
4. チームで目標を達成するマネジメント能力
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力
7. 語学力
8. 情報機器を活用する力
9. 論理的な文章を書く能力

[71] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[72] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献(電子版含む)
6. 講義ノート

[73] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[74] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
2. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
3. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
4. 自分の興味あるテーマの探究
5. 資格取得や受験に備えた学修
6. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等
7. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない

[75] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育(全学共通教育)で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを1つずつ答えてください。

レベル	[76] 聞く力	回答欄
低	A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	↓ 1
	A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2
	B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3
高	B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4

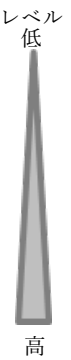
C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5
C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6



〔77〕読む力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

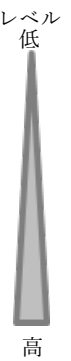
A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門の記事も理解できる。	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6



〔78〕会話力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6
7
8

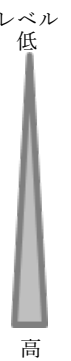
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8



〔79〕表現力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6



〔80〕書く力

回答欄
↓
1
2
3

A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3

B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6

[81] どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールを利用している
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
4. TOEIC、TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して勉強している
5. TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
8. 特に何もしていない

[82] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[83] 徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門教育の英語の時間を増やしてほしい
7. 専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
8. 専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらほどどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いづらか うまく いった	あまり うまくいか なかった	まったく うまくいか なかった
--	-------------------	--------------------	----------------------	-----------------------

[84]	大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[85]	大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[86]	効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[87]	大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1
[88]	時間を効果的に使う	4	3	2	1
[89]	大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[90]	他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

		非常に そう思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[91]	自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[92]	日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[93]	現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[94] あなたの学生生活は充実していますか。

4. 充実している 3. まあまあ充実している
2. あまり充実していない 1. 充実していない

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

		とても 満足	満足	どちら でもない	不満	とても 不満
[95]	共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[96]	1年生の時に受講した「SIH 道場～アクティブラーニング入門～」の授業	5	4	3	2	1
[97]	初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[98]	授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[99]	日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[100]	将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[101]	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[102]	学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[103]	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[104]	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1

[105]	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[106]	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[107]	1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[108] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

[109] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[110] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章(レポート)の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[111] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
5. 特に得るものはなかった

[112] 教養教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易くすべきである

[113] 専門教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易くすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[114] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[115] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[116] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[117] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[118] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[119] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[120] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[121] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[122] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[123] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[124] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談（SSS）
2. 授業サポートナビ（各講義の参考図書、関連情報提供サービス）
3. 学修に関するイベント（講習会等）
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[125] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[126] 自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。（ただし、受講者が10名以下の授業では、個人が特定されることのないよう成績分布は表示されません）。

1. 知っており、確認したことがある
2. 知っているが、確認したことはない
3. 知らない

[127] 問126で「1. 知っており、確認したことがある」を回答した人のみご回答ください。自分の成績や成績分布は、自身の成績の相対的な位置を把握することや今後の学修に役立っていますか。

1. おおいに役立っている
2. 多少は役立っている
3. 役立っていない
4. 役立っているかどうかわからない

[128] あなたの所属する学科・コース・専攻で「カリキュラムマップ」が設定されていることを知っていますか。カリキュラムマップとは、卒業に必要な授業科目の配置や学修順序等を図示したもので、履修の手引きや徳島大学のウェブページ等で閲覧できます。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[129] 徳島大学で開講されている授業科目に「科目ナンバリング」が付与されていることを知っていますか。科目ナンバリングとは、学部の授業科目を識別し、学問分野や難易度等を表すために付与された番号やアルファベットのことで、学修の段階や順序を整理し、科目選択の指針として役立てることができます。シラバスに記載されており、教務システム等で確認することができます。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[130] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

[131] 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）の研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

1. 関心の深い研究内容であったから
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 教員の人柄に魅力を感じたから
5. 研究室の雰囲気
6. やむを得ず入った
7. どこでもよかった

[132] 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何が得られると思いますか。（複数回答可）

1. 専門的知識や技術
2. 進路を考えるための広い視野
3. 学問・研究への興味や知的好奇心
4. コミュニケーション能力や対人関係能力
5. 課題発見能力や問題解決能力
6. プレゼンテーション能力
7. 文章作成能力
8. 大学院への進学意欲の向上
9. 特に得るものがない

[133] 研究を進めるための設備、スペース、物品等は確保されていますか。

1. 設備、スペース、物品等ともに十分である
2. 設備、スペースともに十分であるが、物品等が足りない
3. 設備は十分であるが、スペース、物品等が足りない
4. 設備、物品等は十分であるが、スペースが足りない
5. スペースは十分であるが、設備、物品等が足りない
6. スペース、物品等は十分であるが、設備が足りない

7. 物品等は足りているが、設備、スペースが足りない
8. 設備、スペース、物品等すべて足りない

[134] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. スーパー英語（全学）
4. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
5. 利用したことはない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に そう思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わな い	全く そう 思わな い
[135] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[136] 本学が提供しているようなeラーニングによる学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に そう思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わな い	全く そう 思わな い
[137] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[138] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91
2. 90-81
3. 80-71
4. 70-61
5. 60-51
6. 50-0

V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

[139] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。

1. 就職する
2. 大学院に進学する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他

[140] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
4. 将来の見通しを持っていない

あなたが大学（学部）卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いませんか。

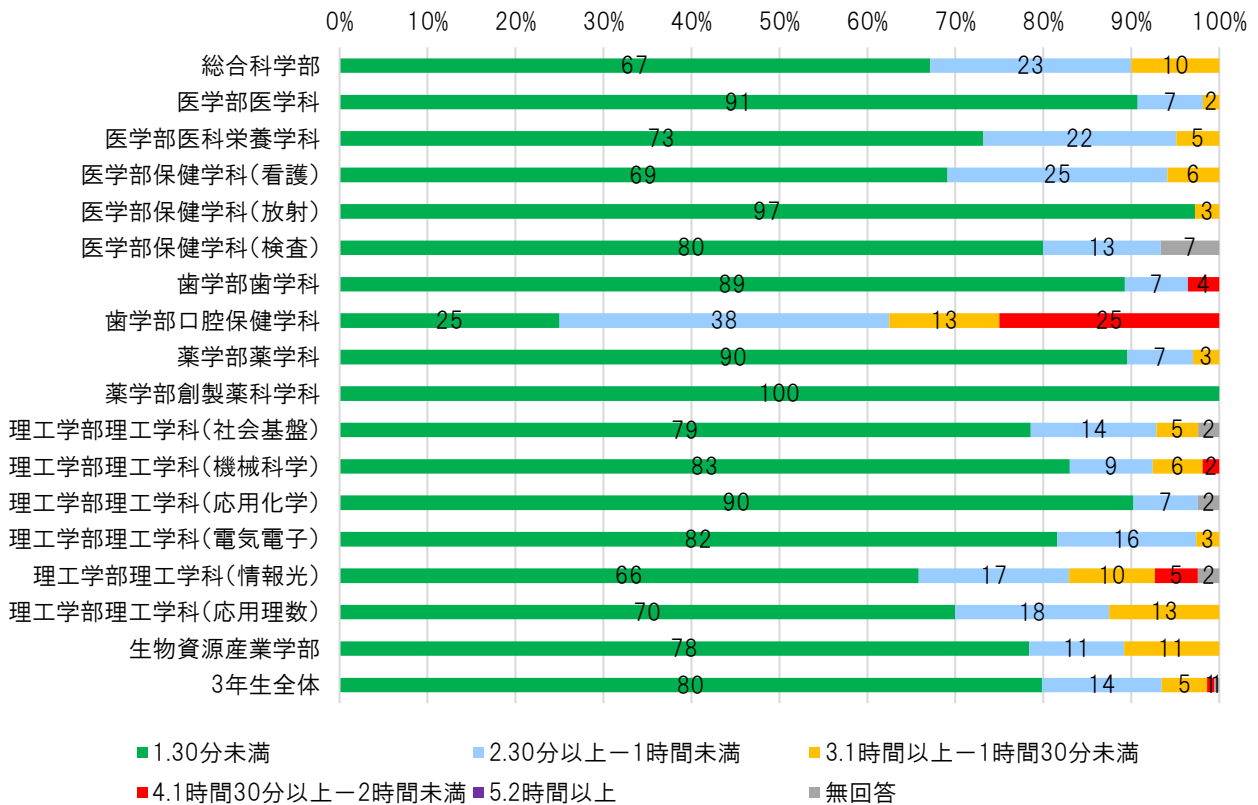
	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
[141] 専門分野をしっかり身につける	4	3	2	1
[142] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる	4	3	2	1
[143] 職業意識の形成につながる教育を受ける	4	3	2	1
[144] 企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ	4	3	2	1
[145] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける	4	3	2	1
[146] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける	4	3	2	1
[147] ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける	4	3	2	1
[148] 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける	4	3	2	1
[149] レポートや論文指導により、文書作成能力を高める	4	3	2	1
[150] 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する	4	3	2	1
[151] 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする	4	3	2	1
[152] 本学の教職員以外の大人と話をする	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

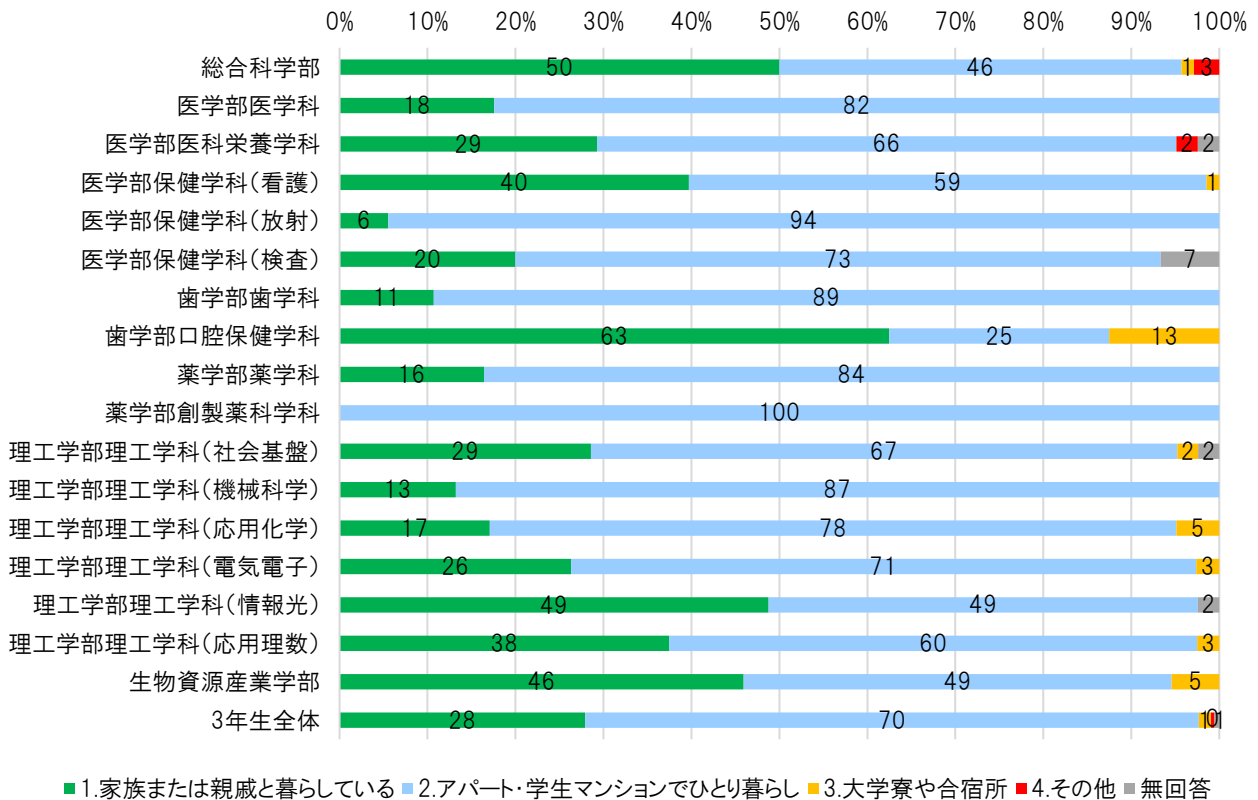
3年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[2]あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



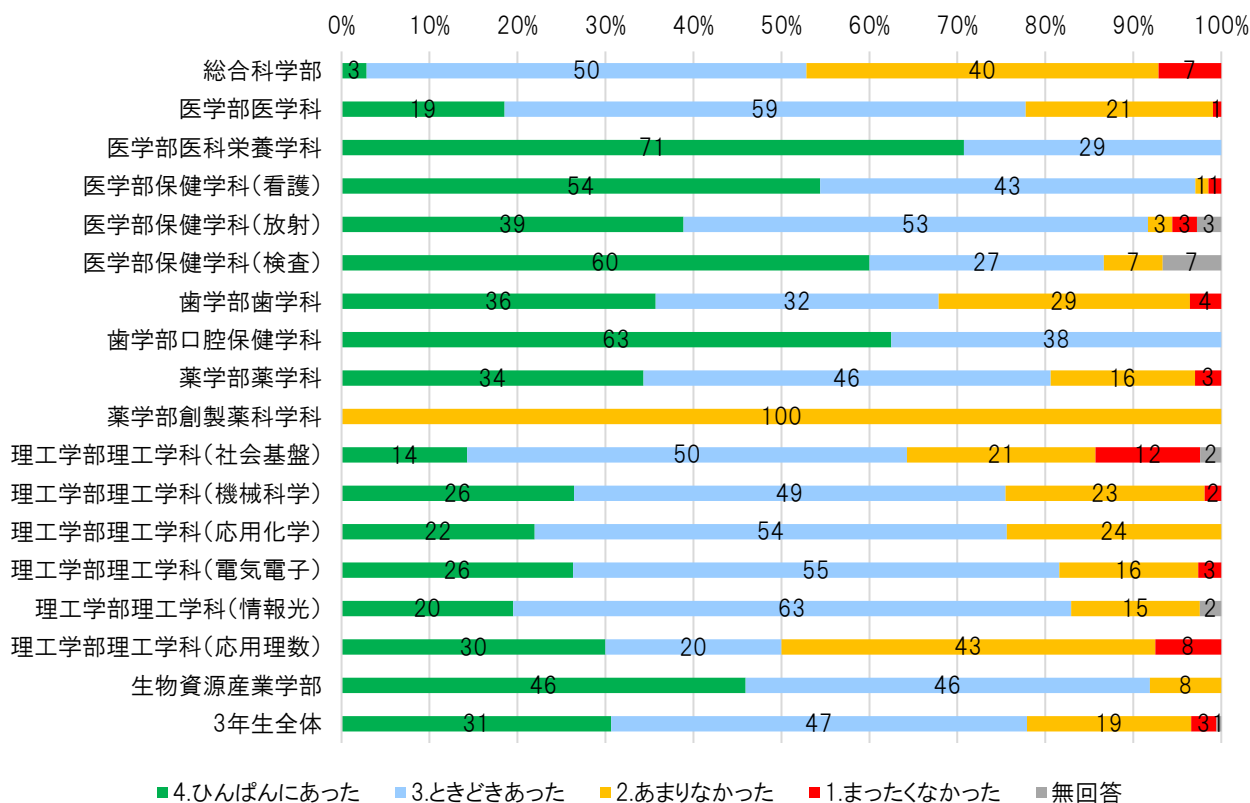
[3]あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



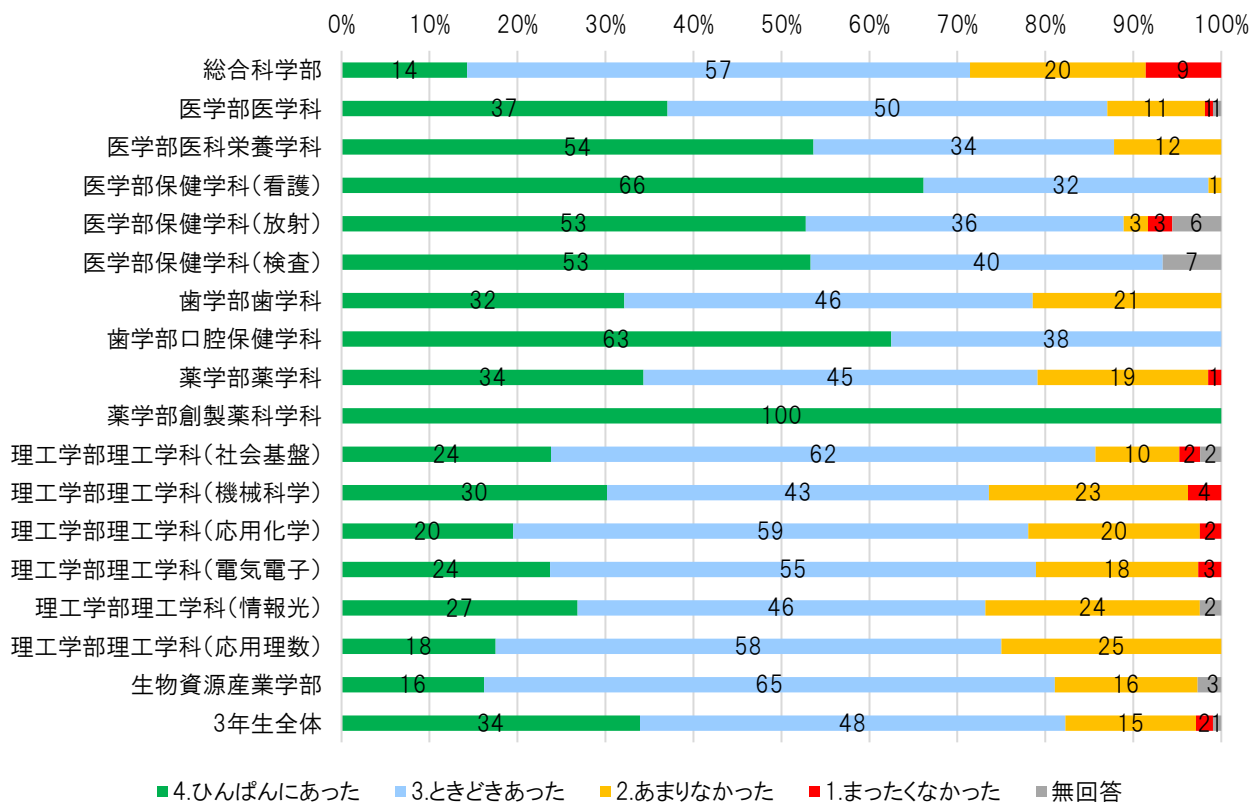
II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

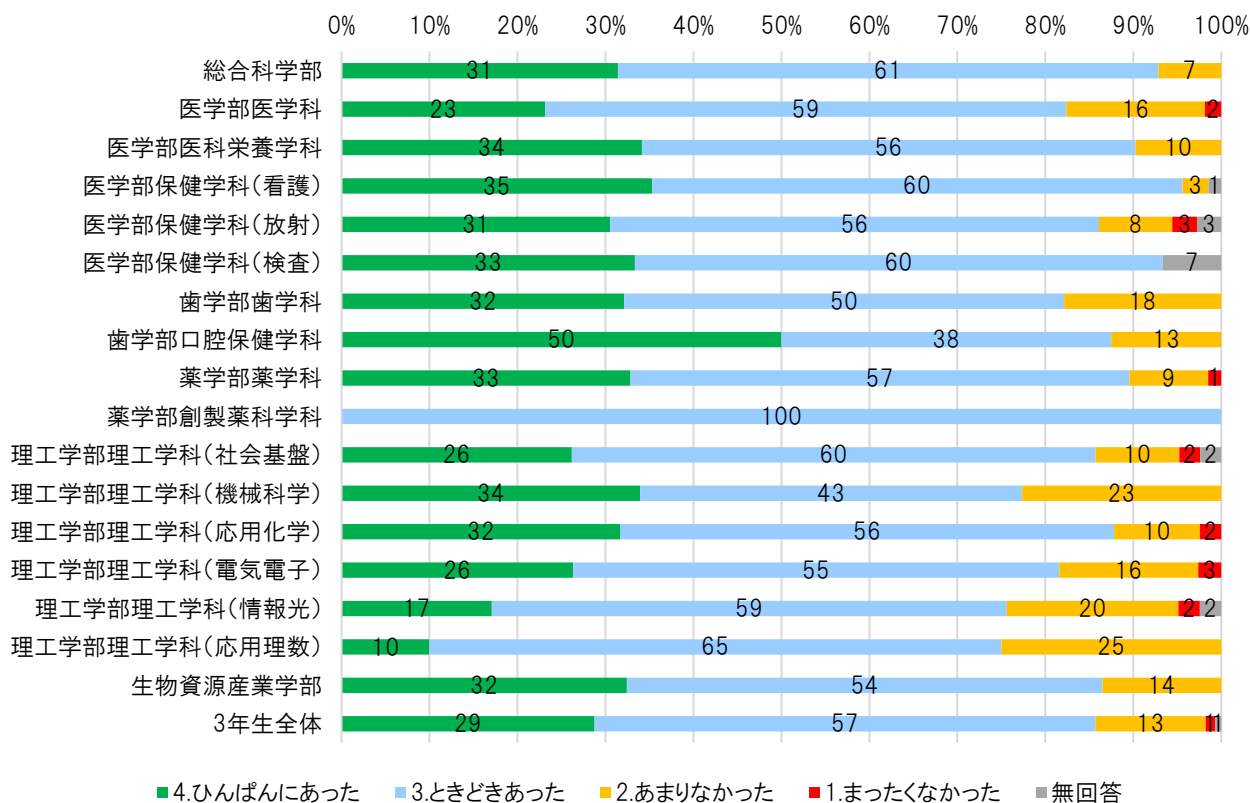
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



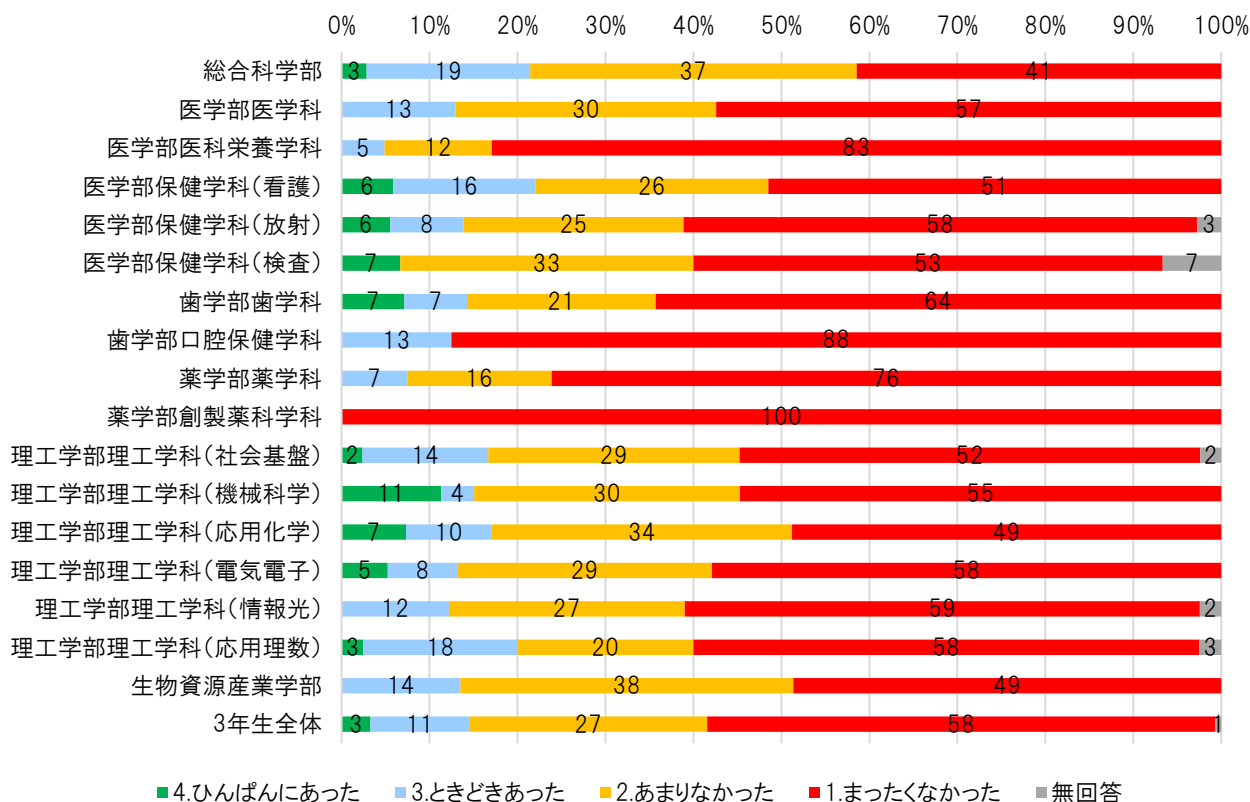
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



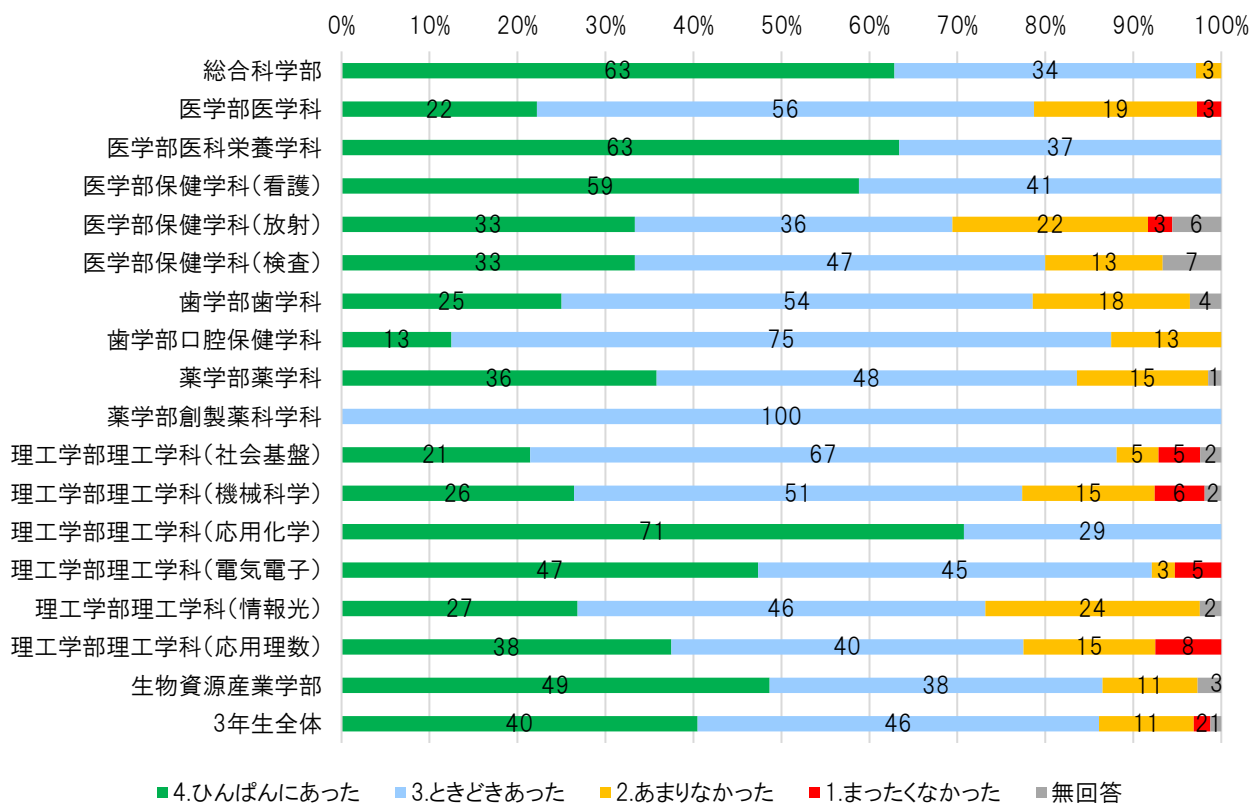
〔6〕授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



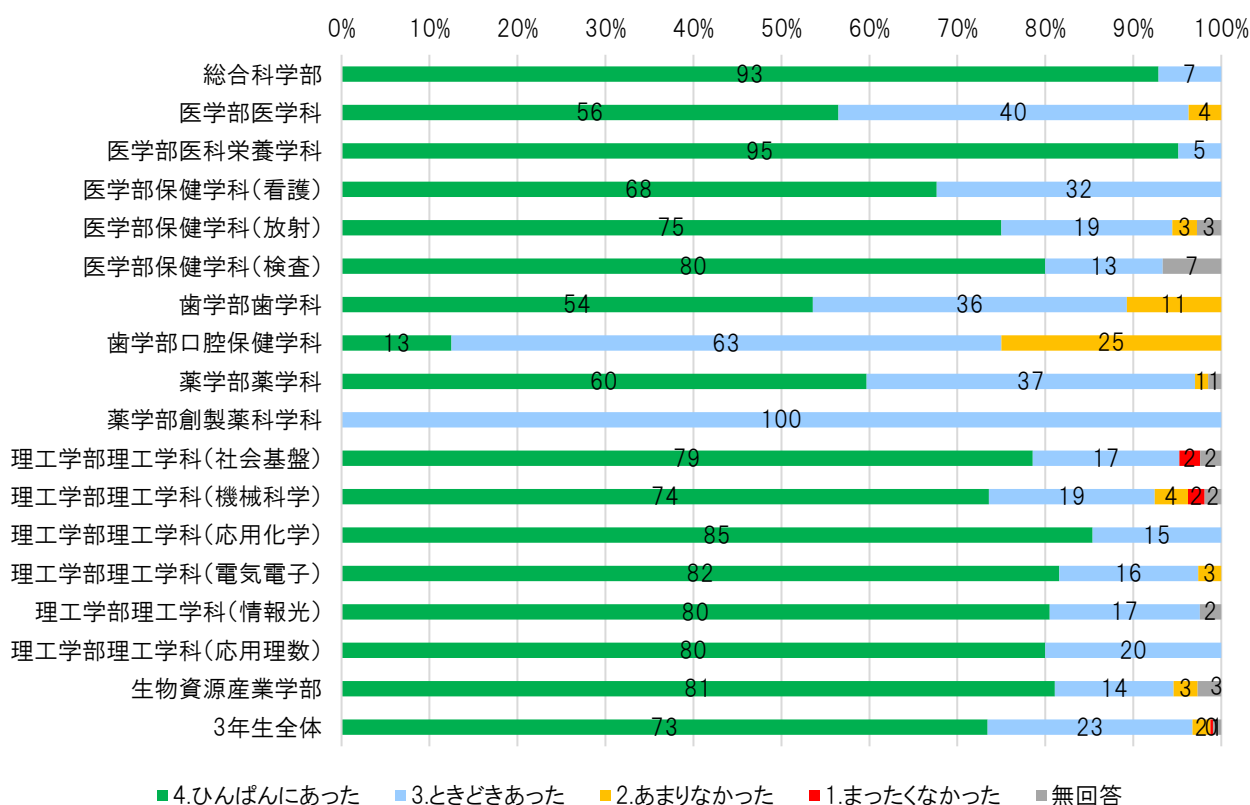
〔7〕授業の一環でボランティア活動をする



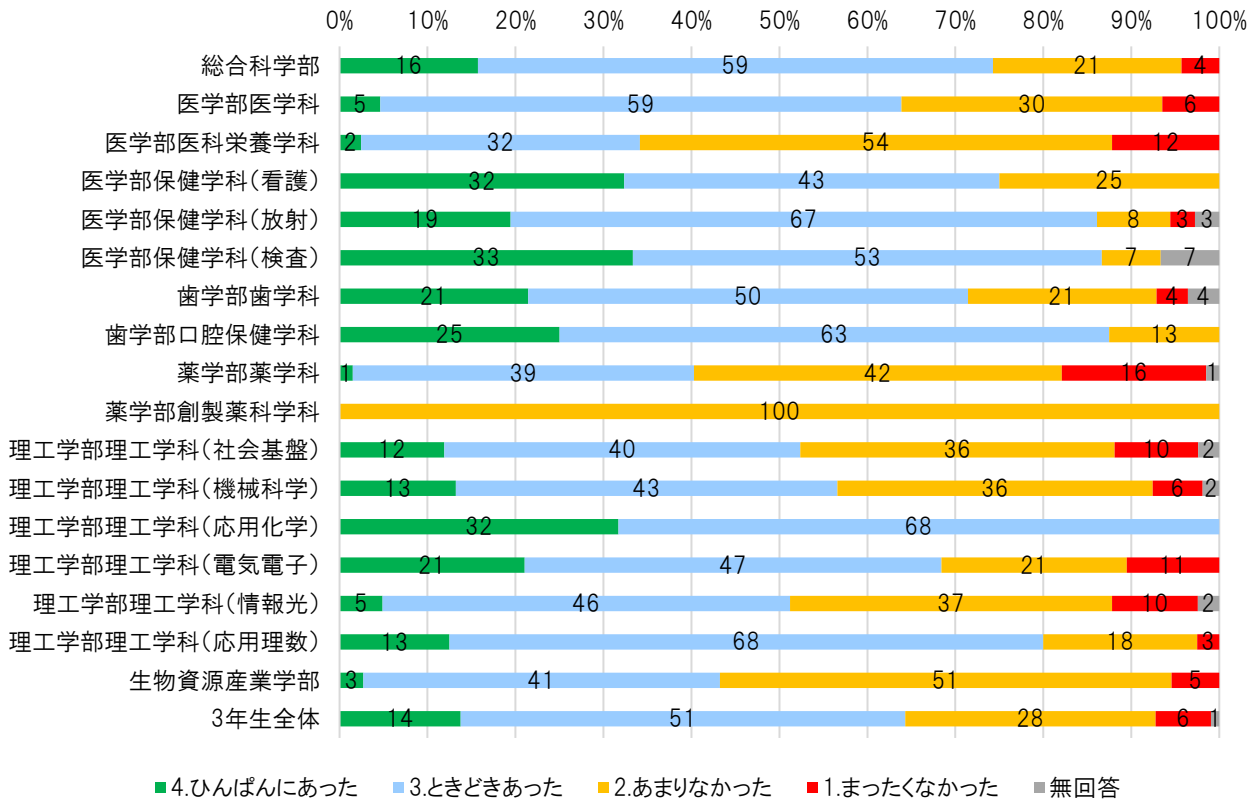
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



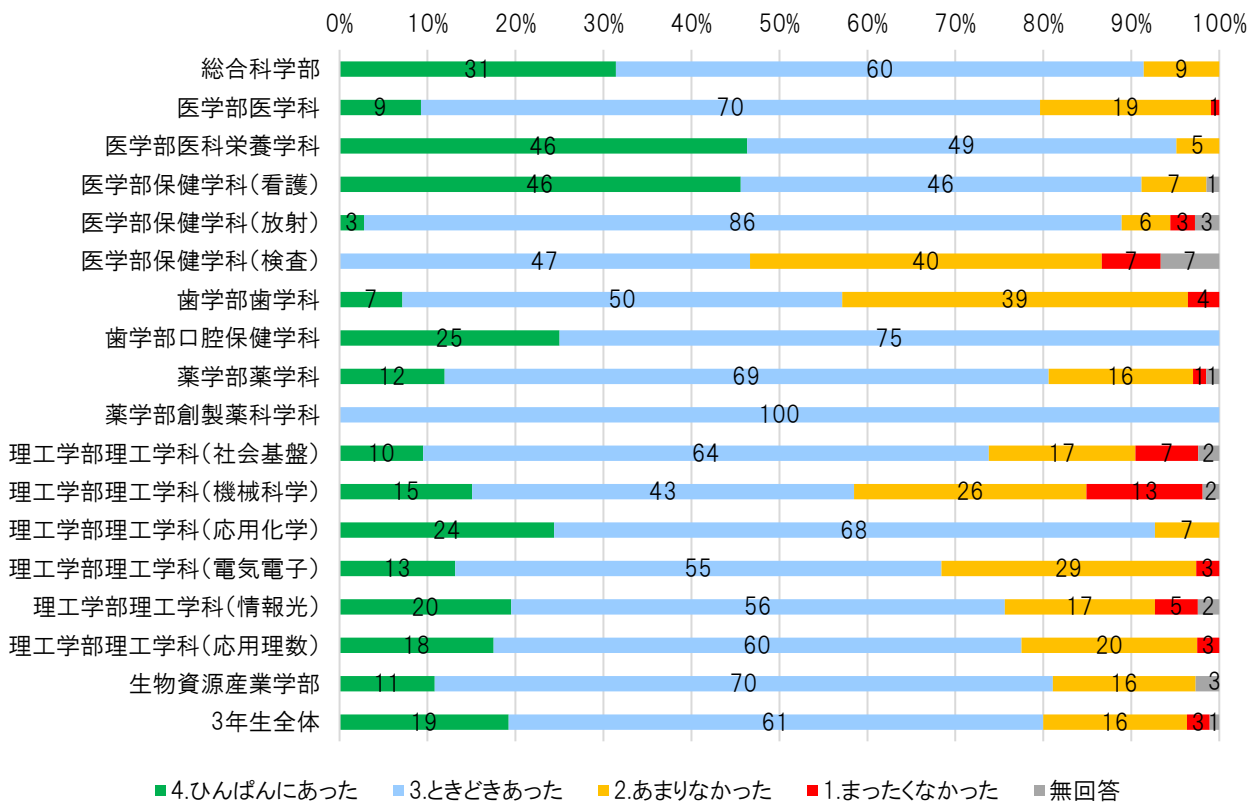
[9] 定期的の小テストやレポートが課される



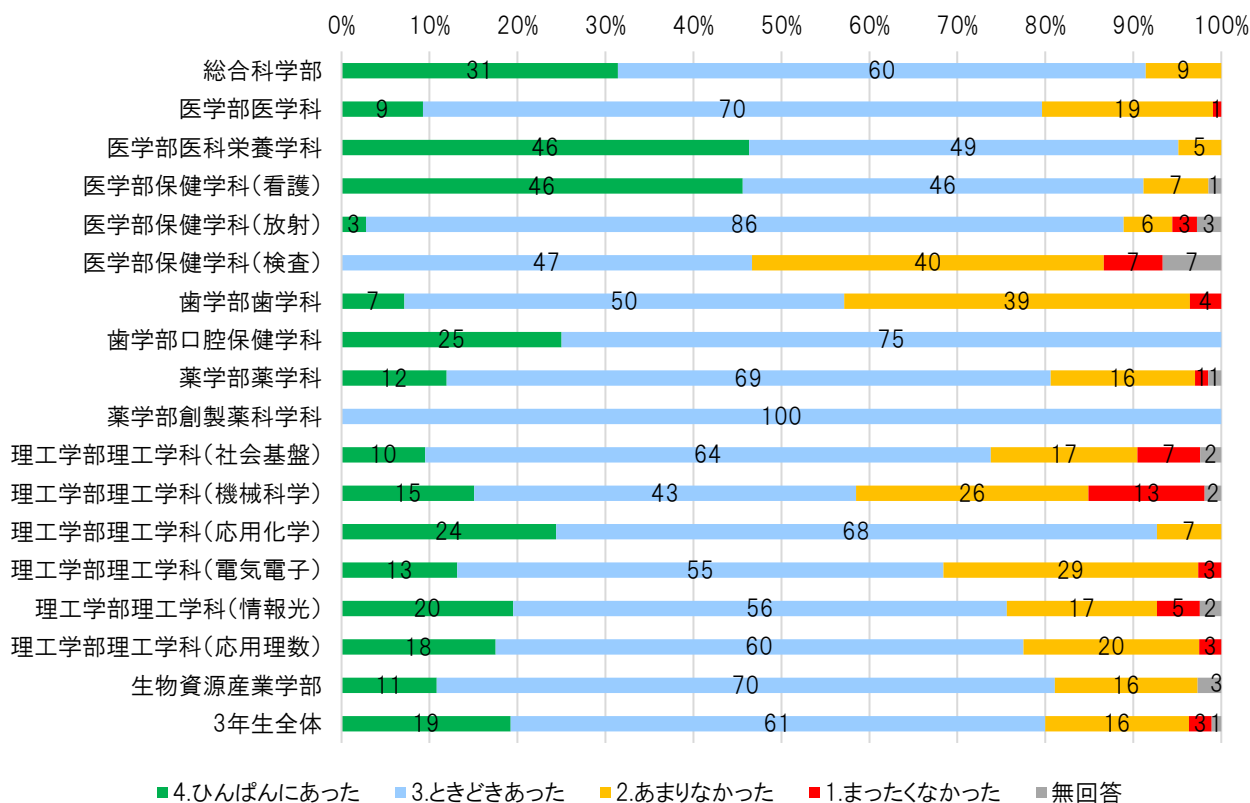
[10]教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



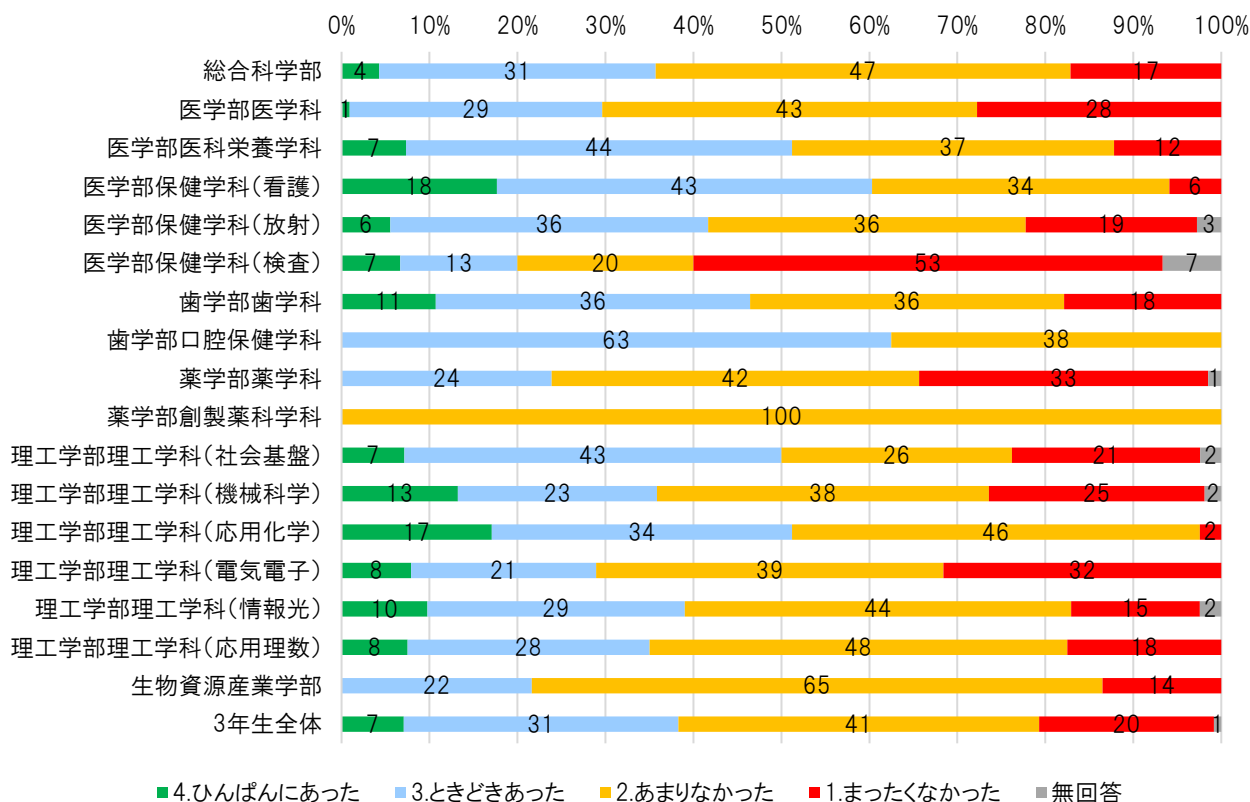
[11]学生が自分の考えや研究を発表する



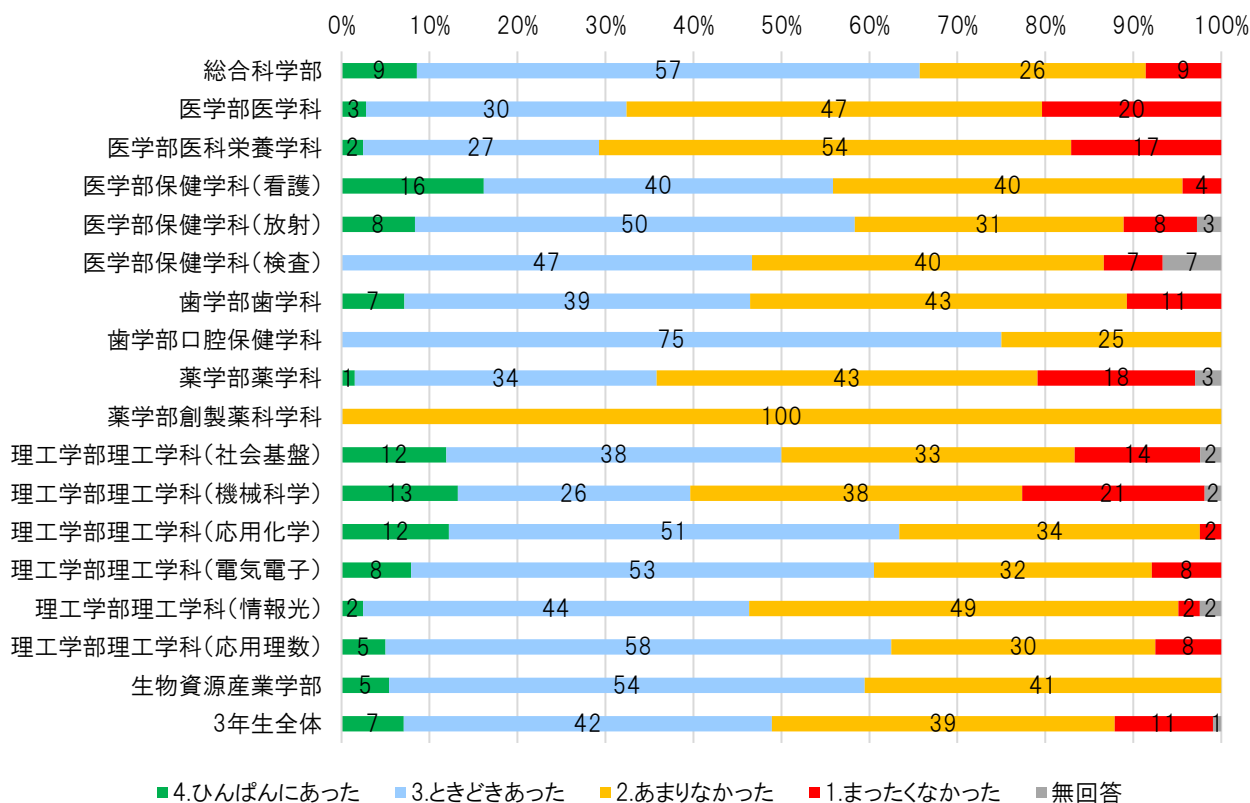
[12]授業中に学生同士が議論をする



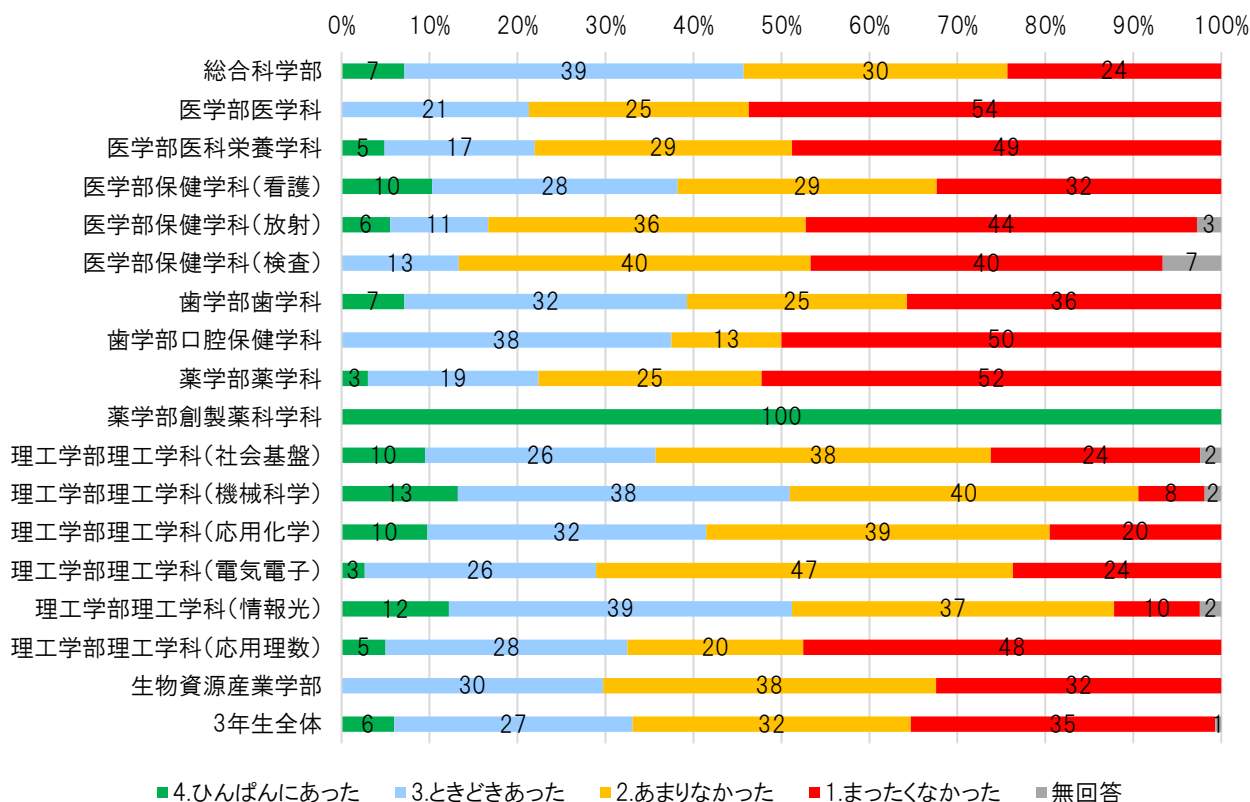
[13]授業で検討するテーマを学生が設定する



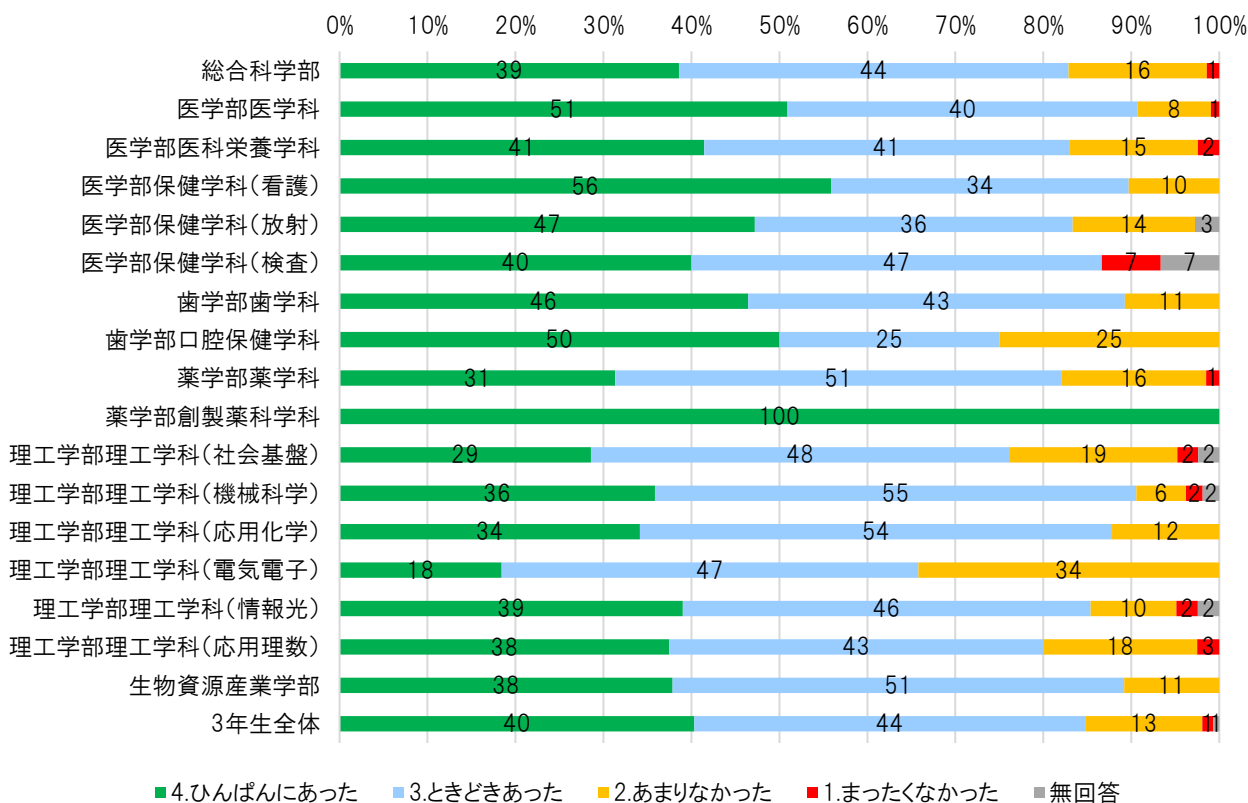
[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



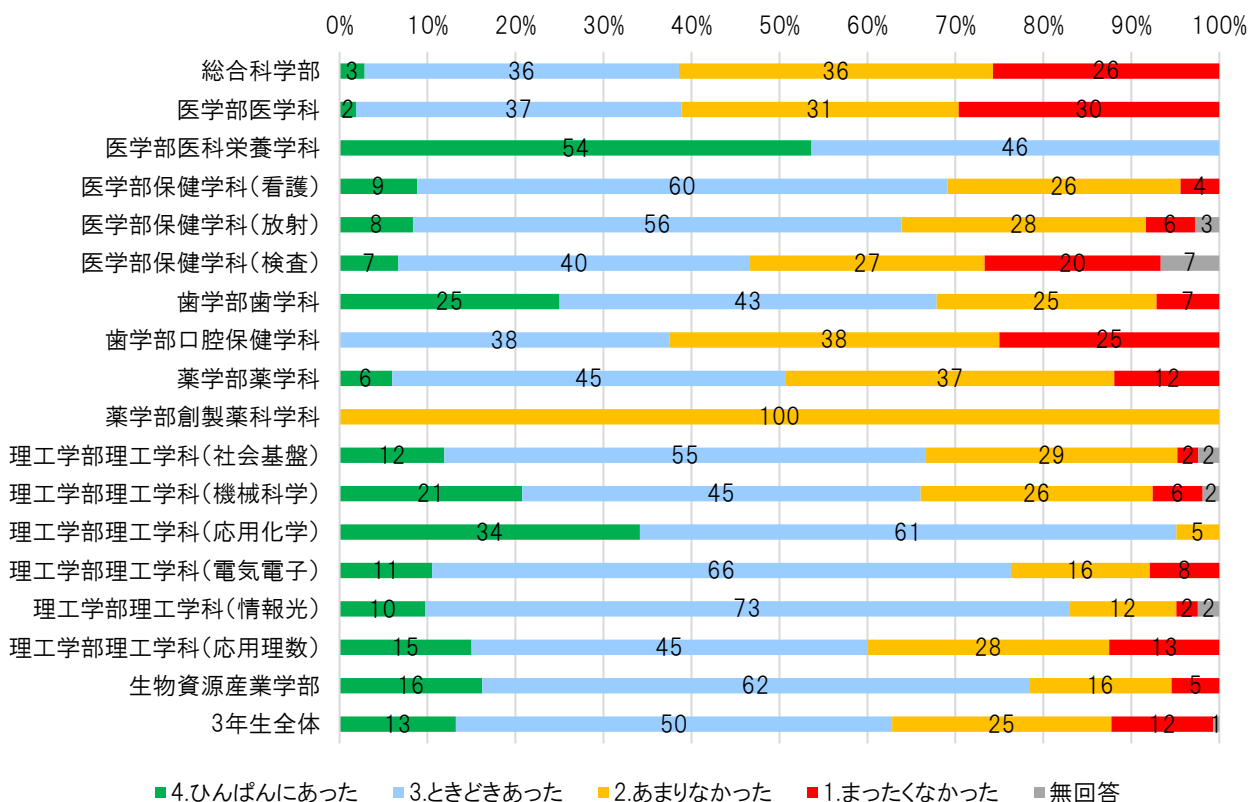
[15]取りたい授業を履修登録できなかった



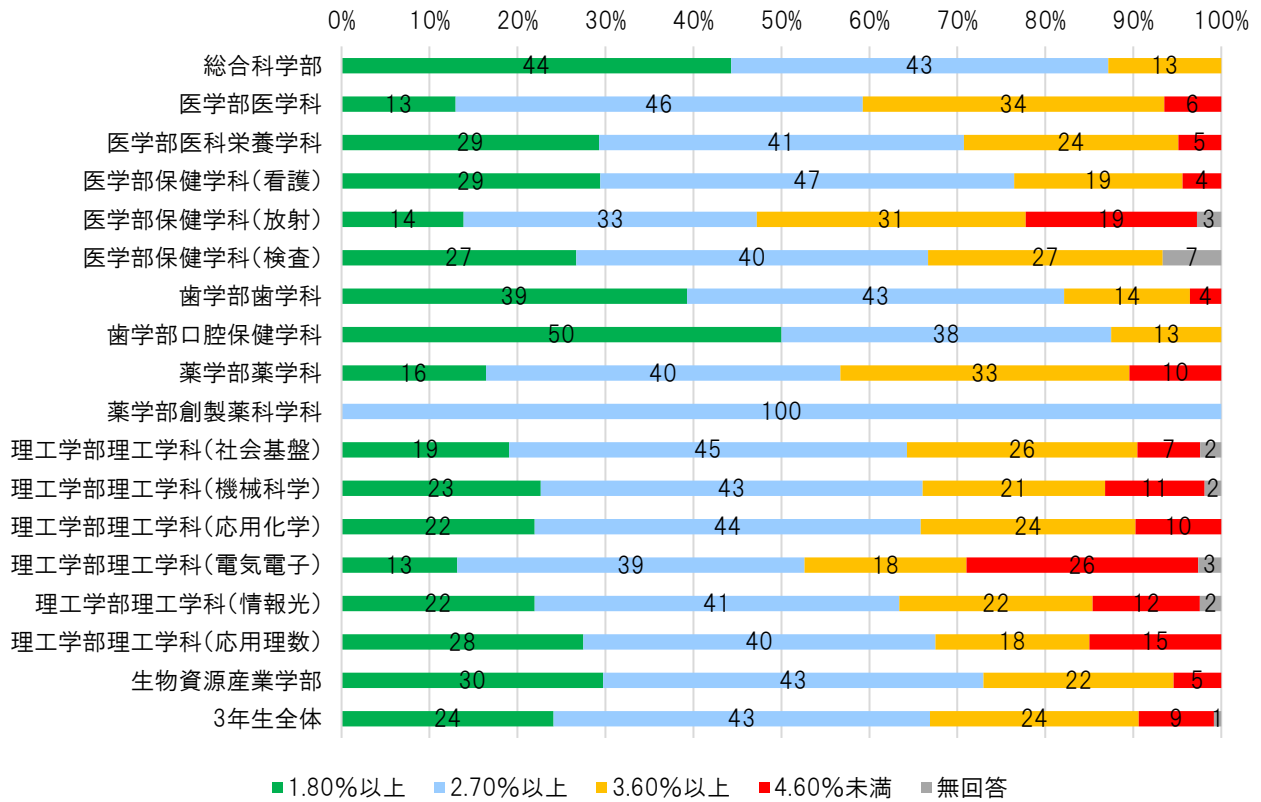
[16]出席することが重視される



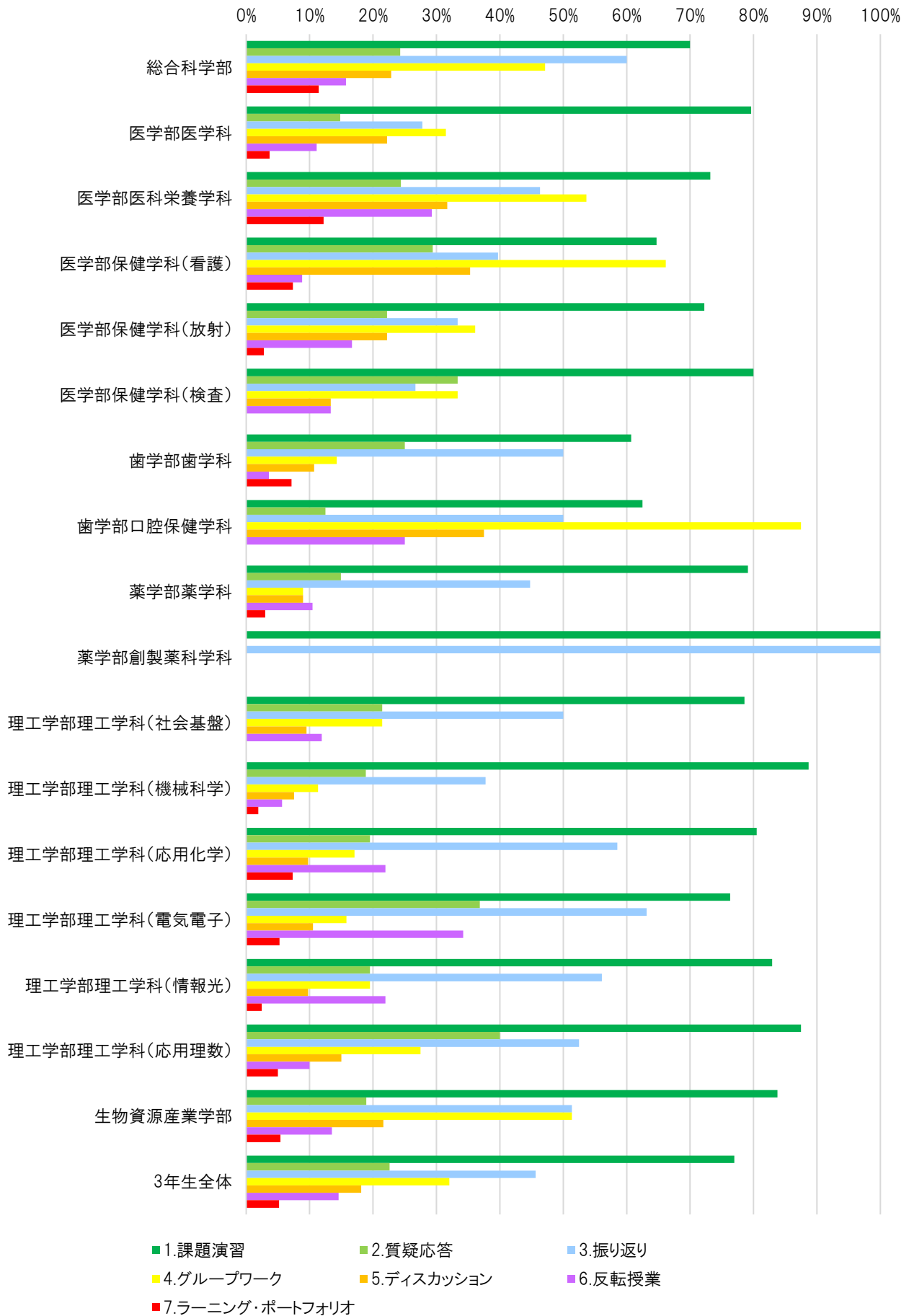
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

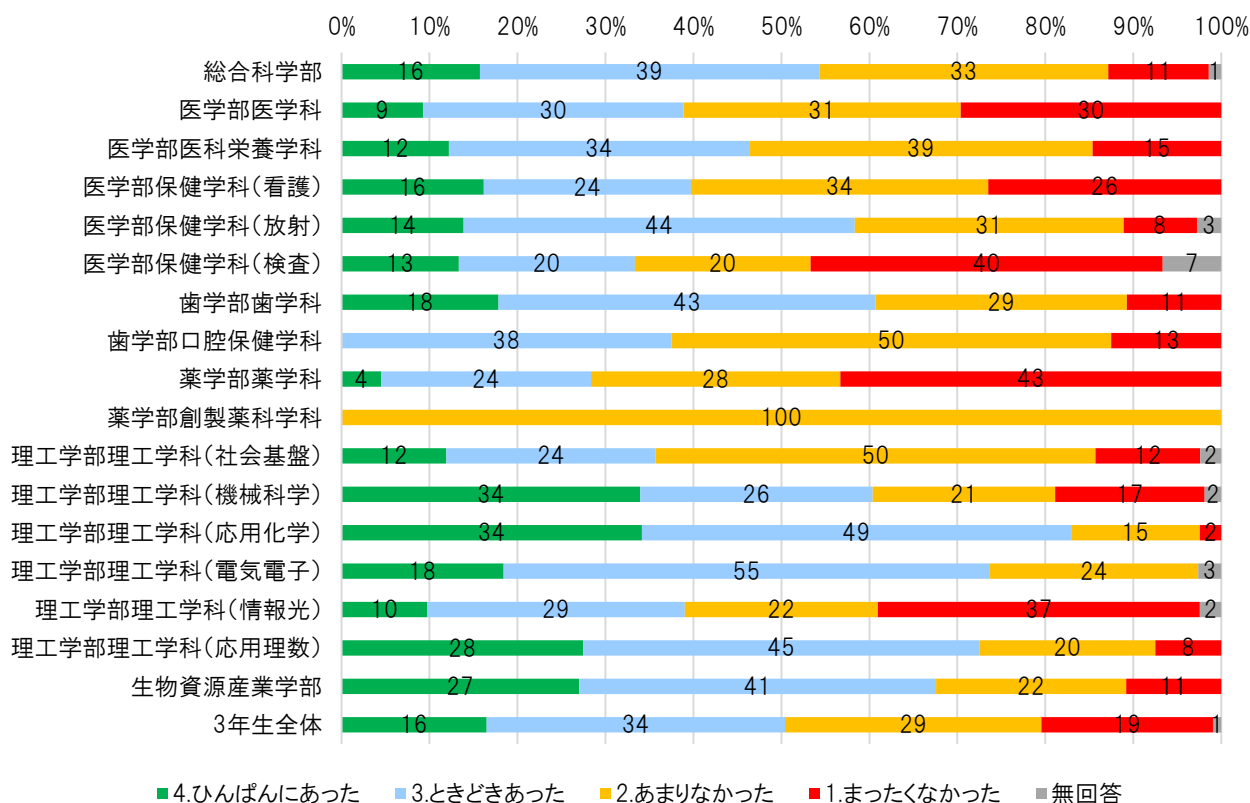


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答)

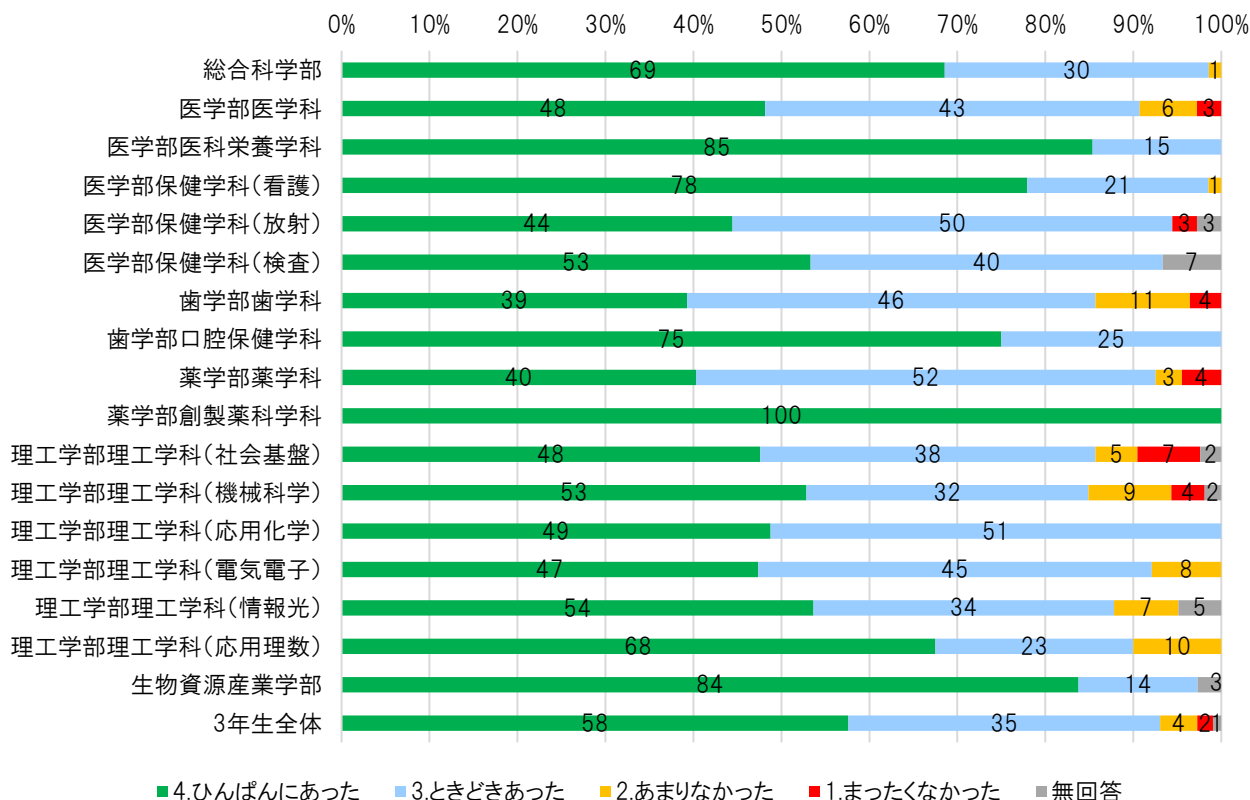


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

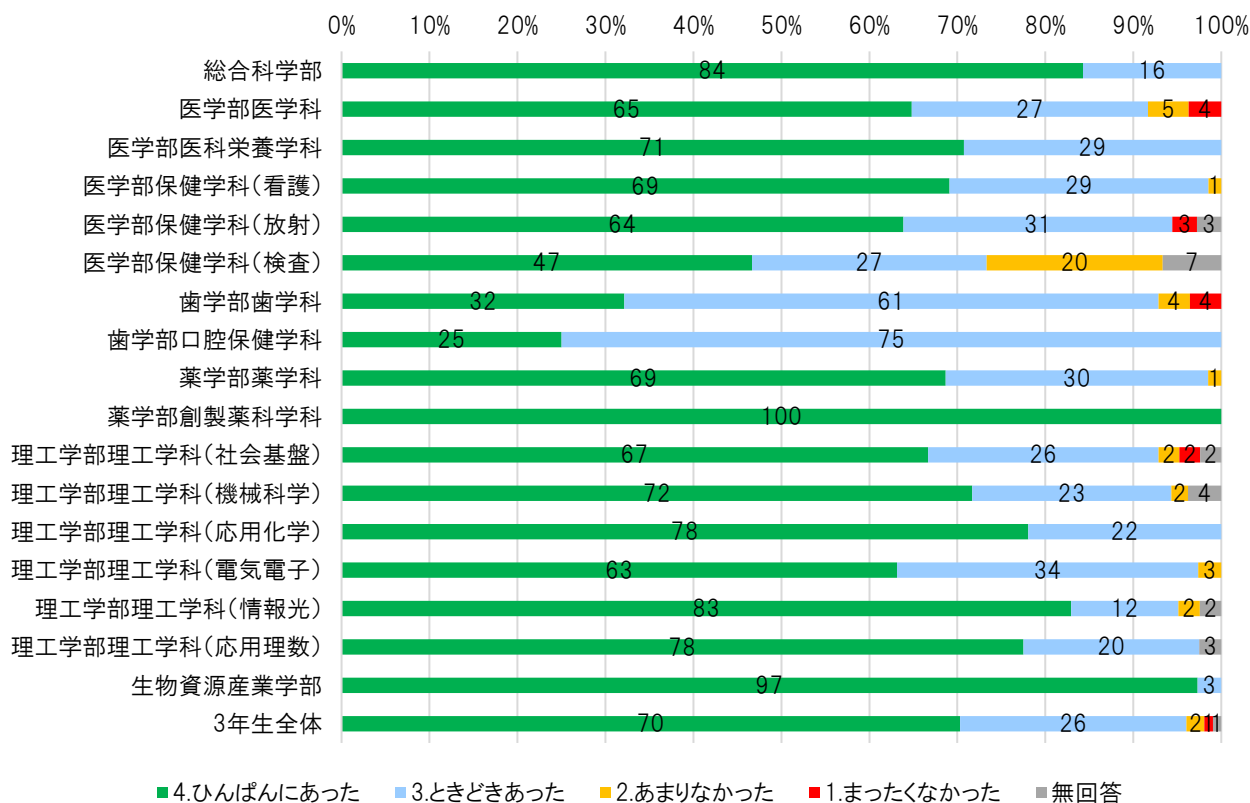
〔20〕授業課題のために図書館の資料を利用した



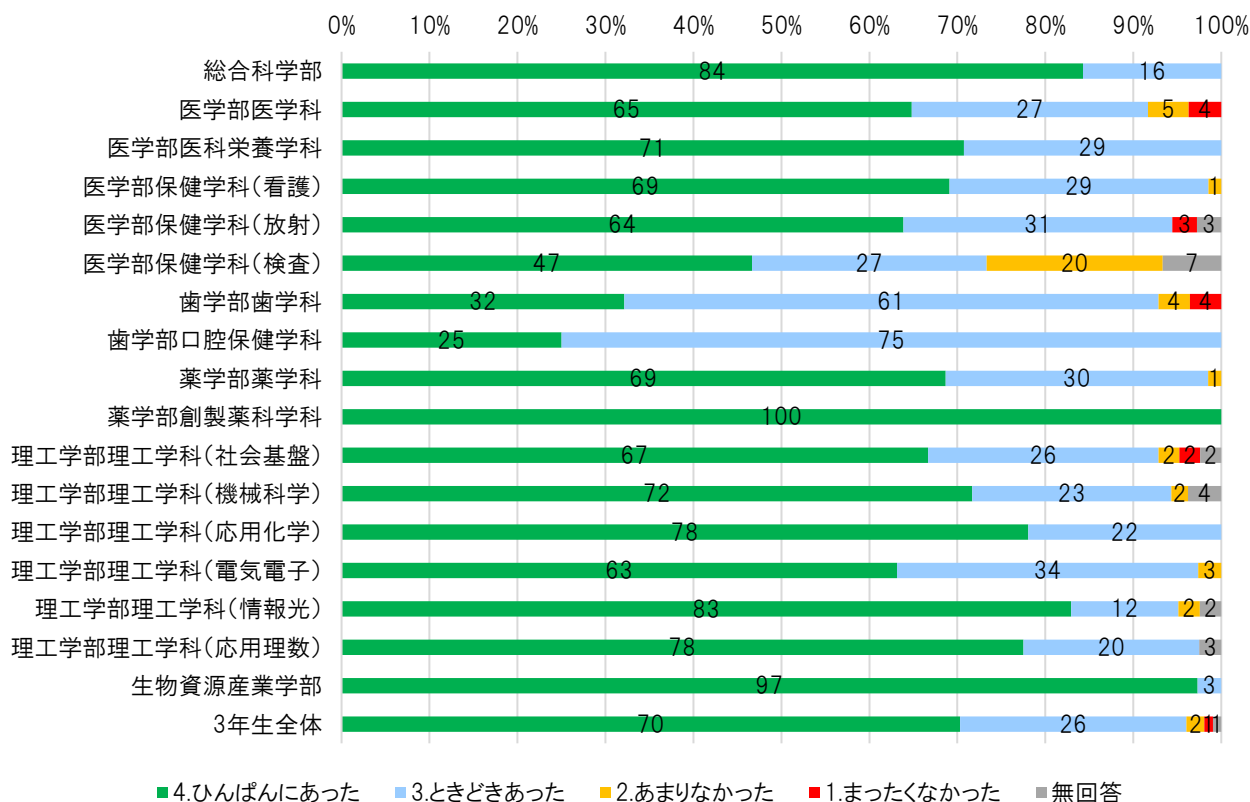
〔21〕授業課題のためにWeb上の情報を利用した



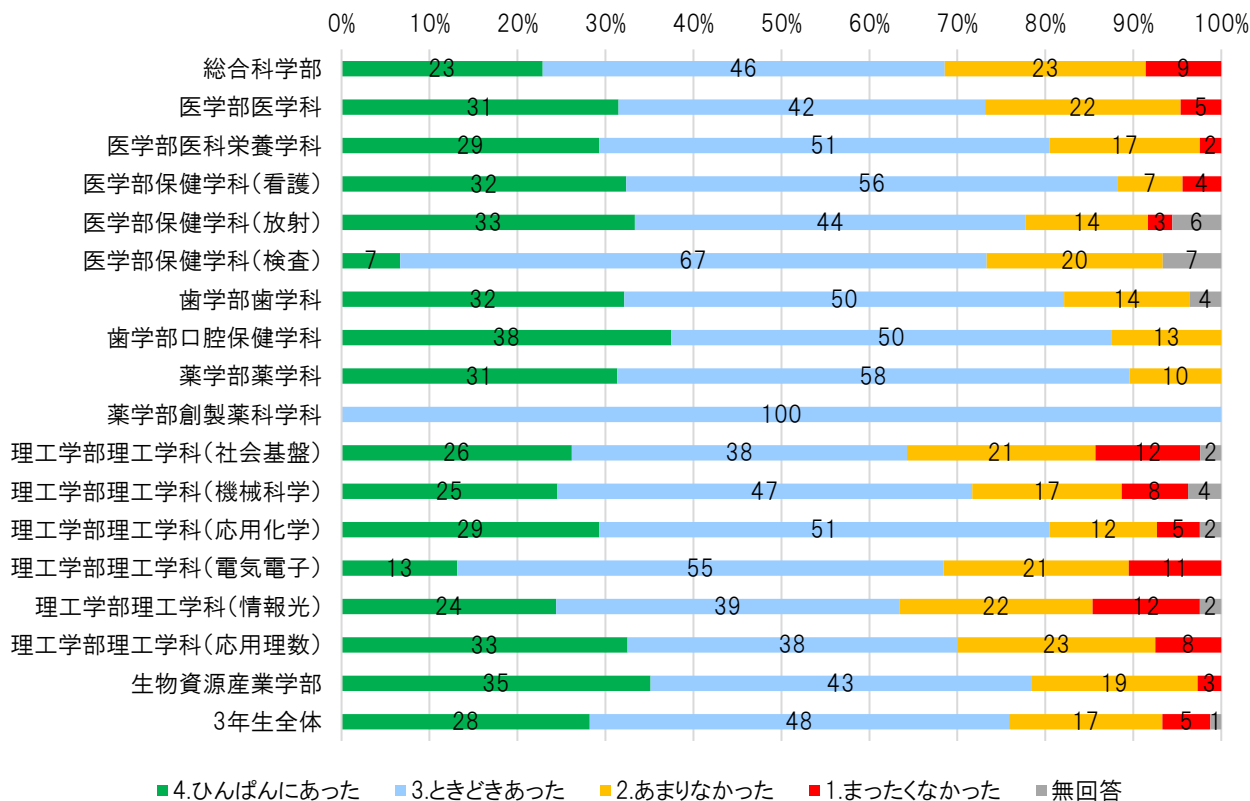
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



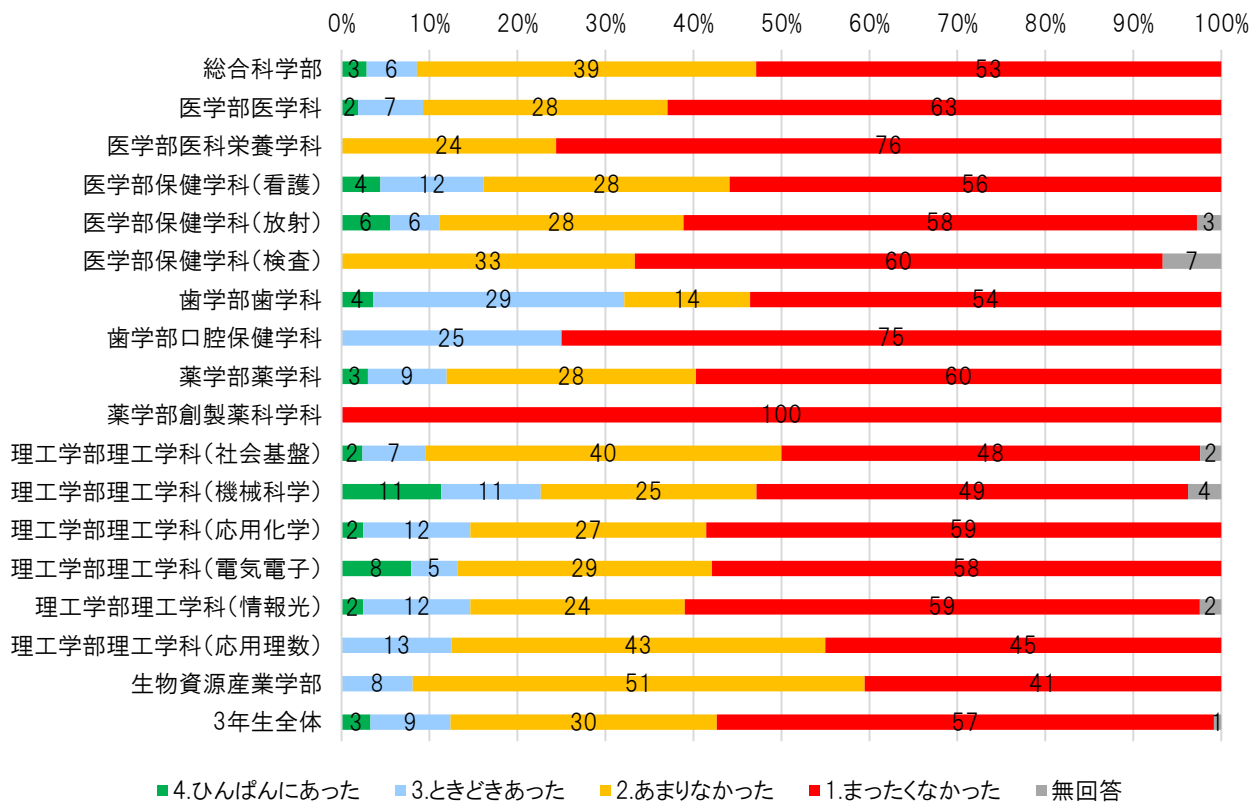
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



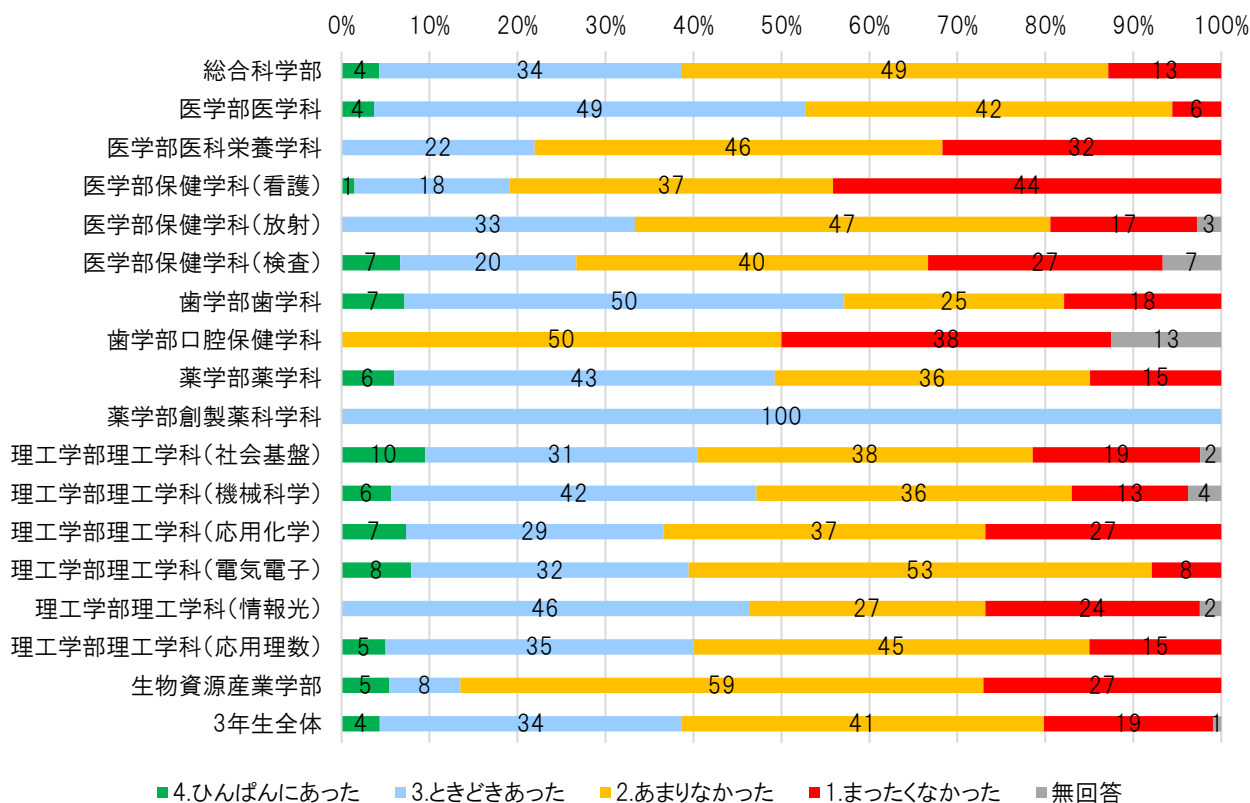
〔24〕授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



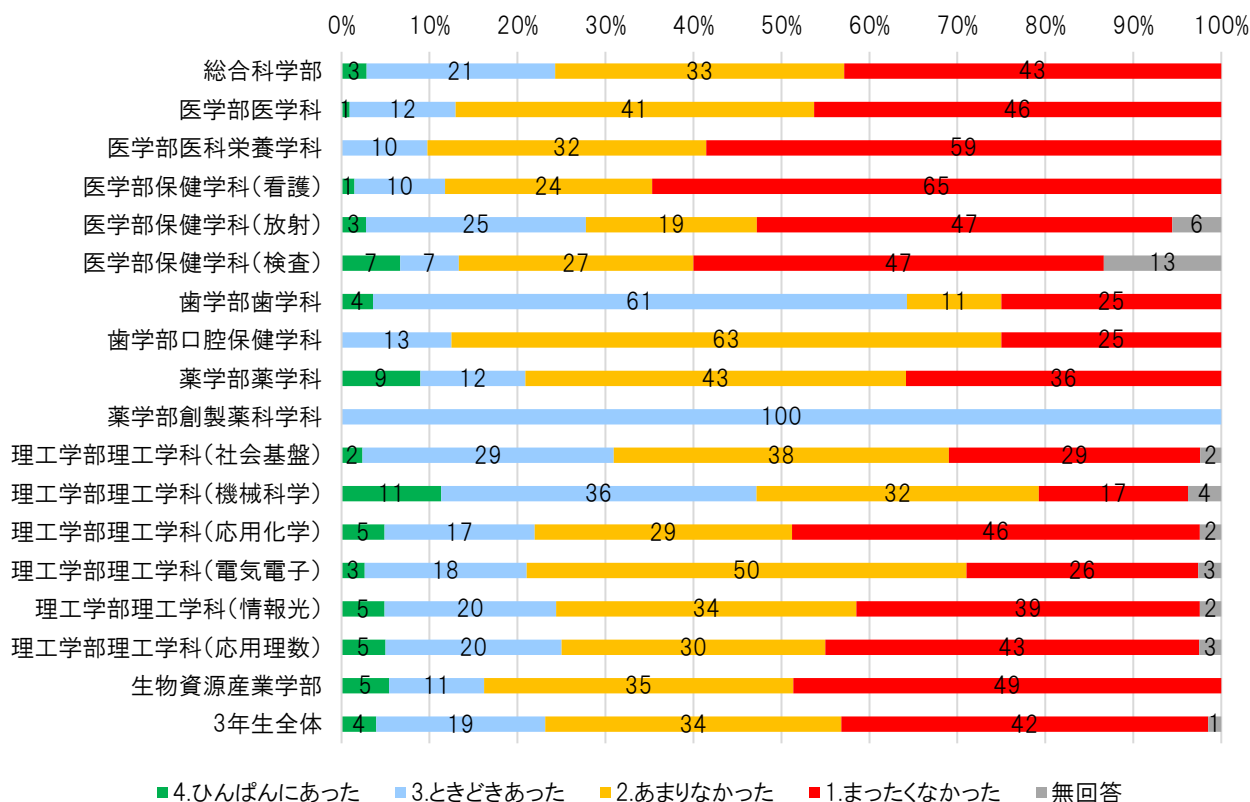
〔25〕授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



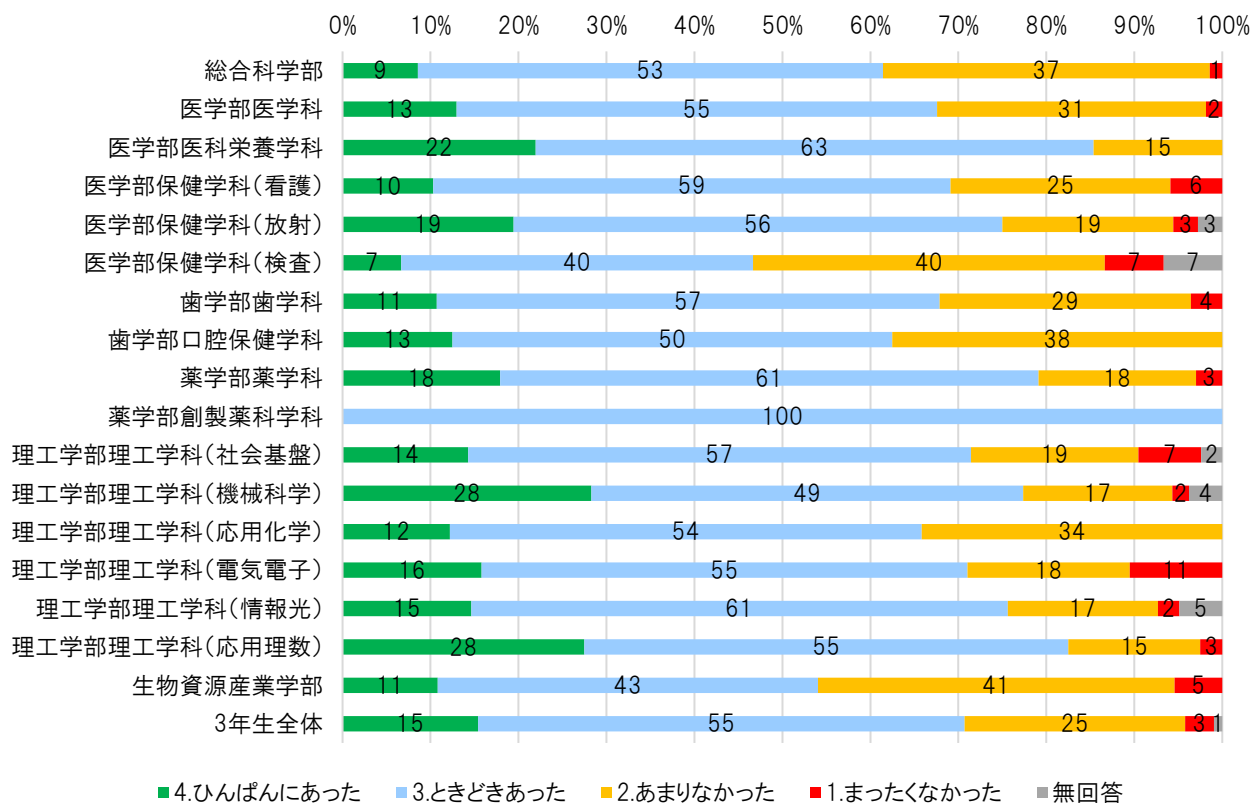
[26]授業を欠席した



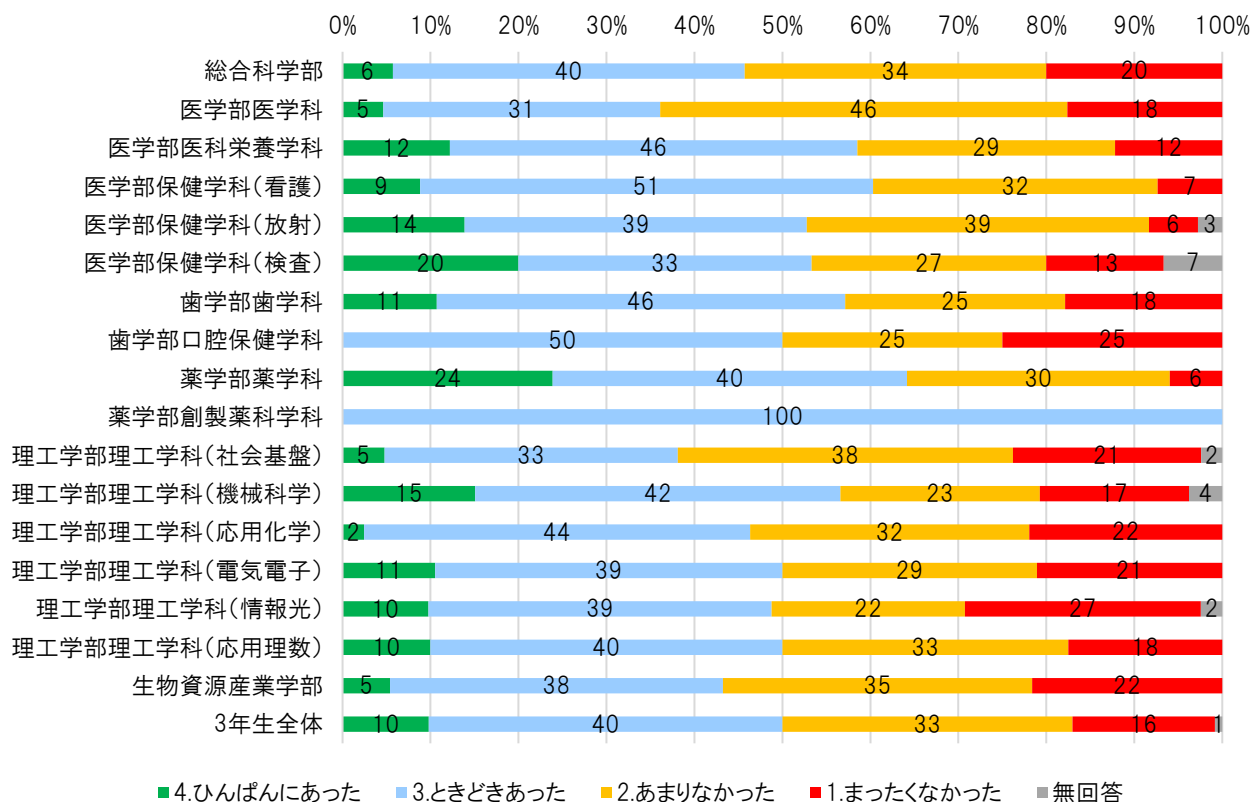
[27]授業に遅刻した



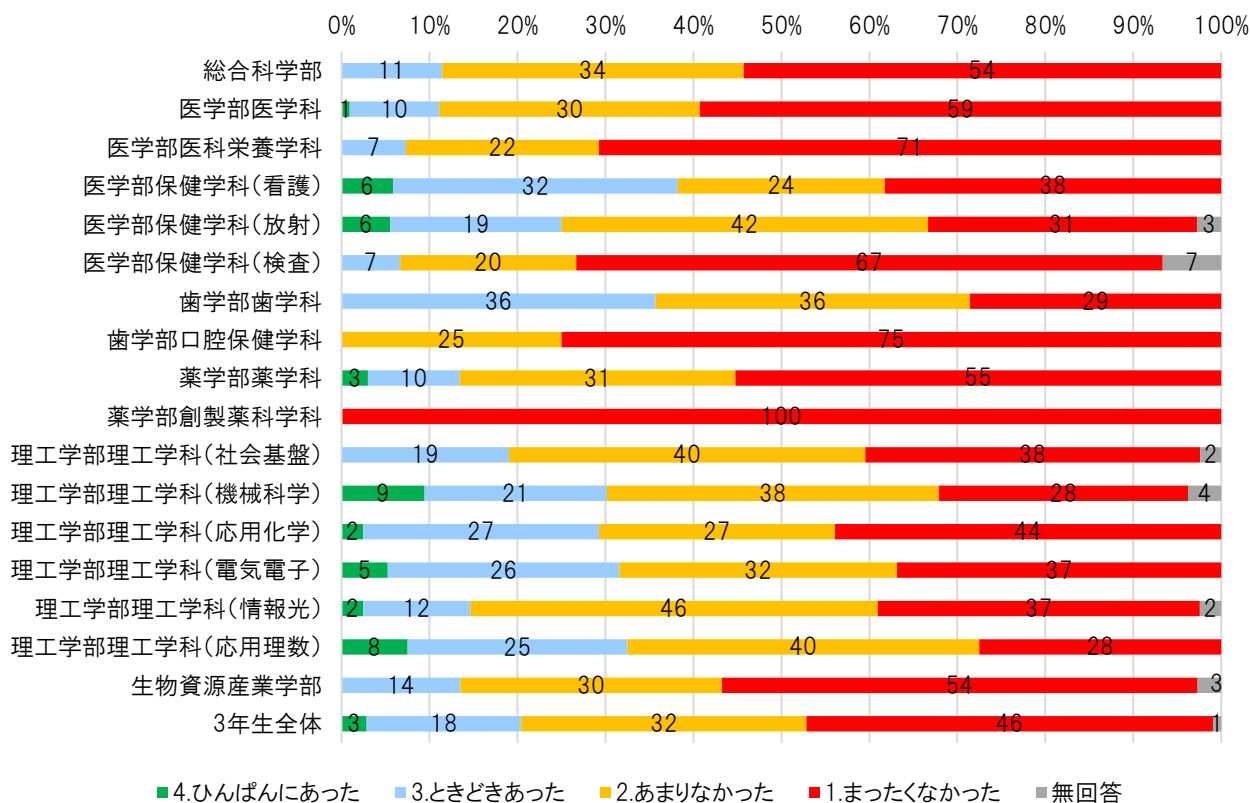
[28]授業をつまらなく感じた



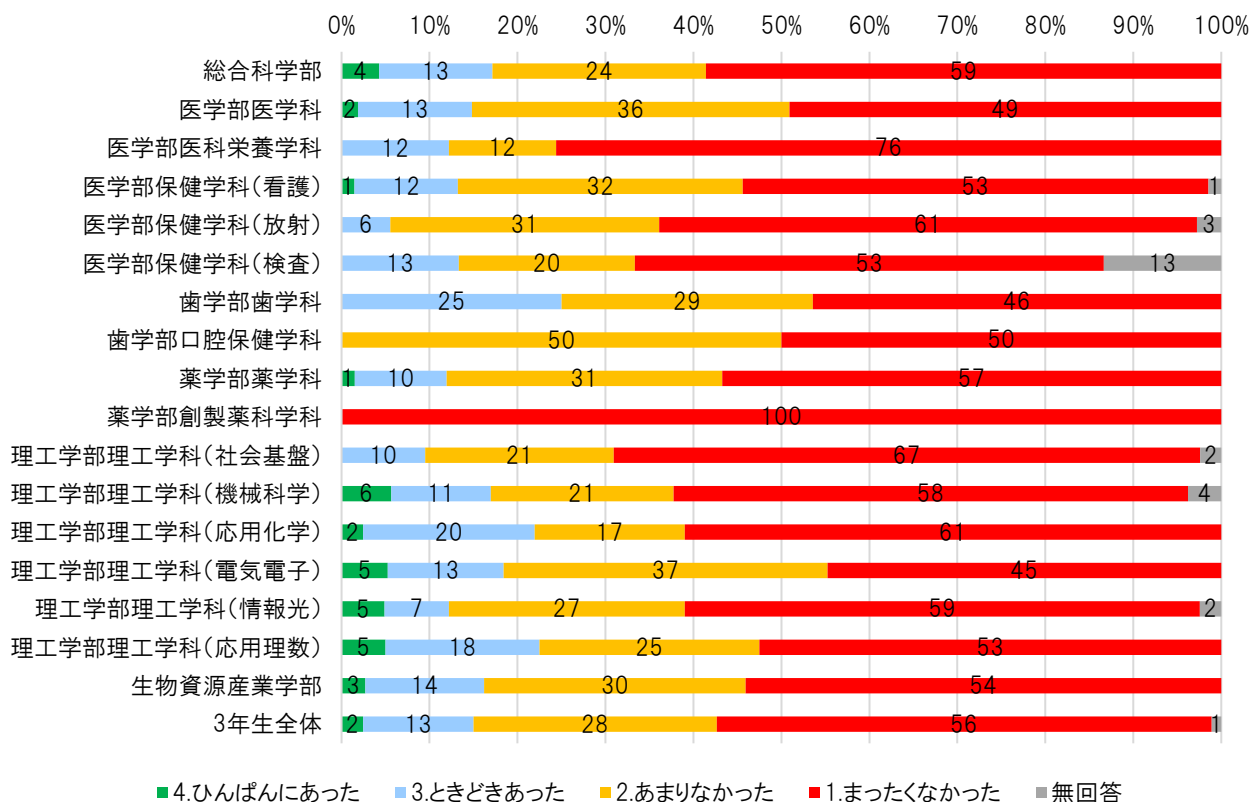
[29]授業中に居眠りをした



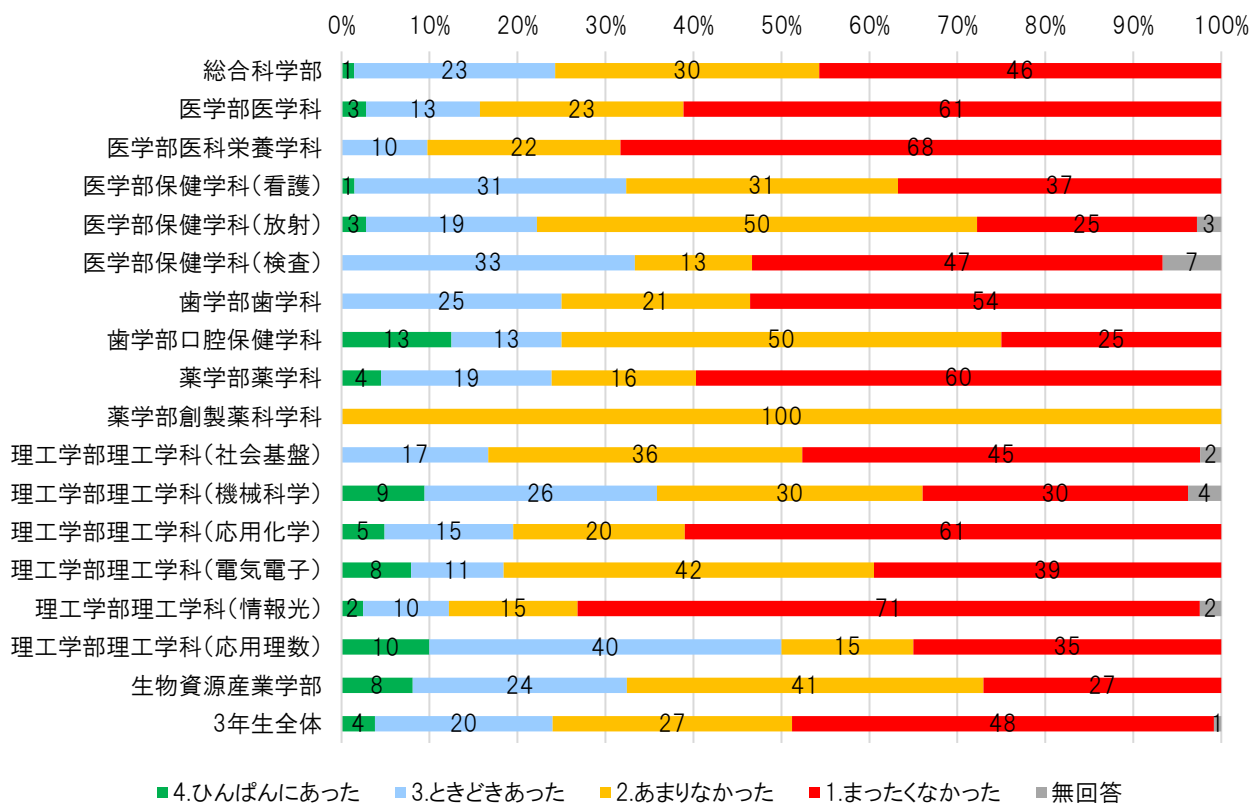
[30]学内で学習支援を受けた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)



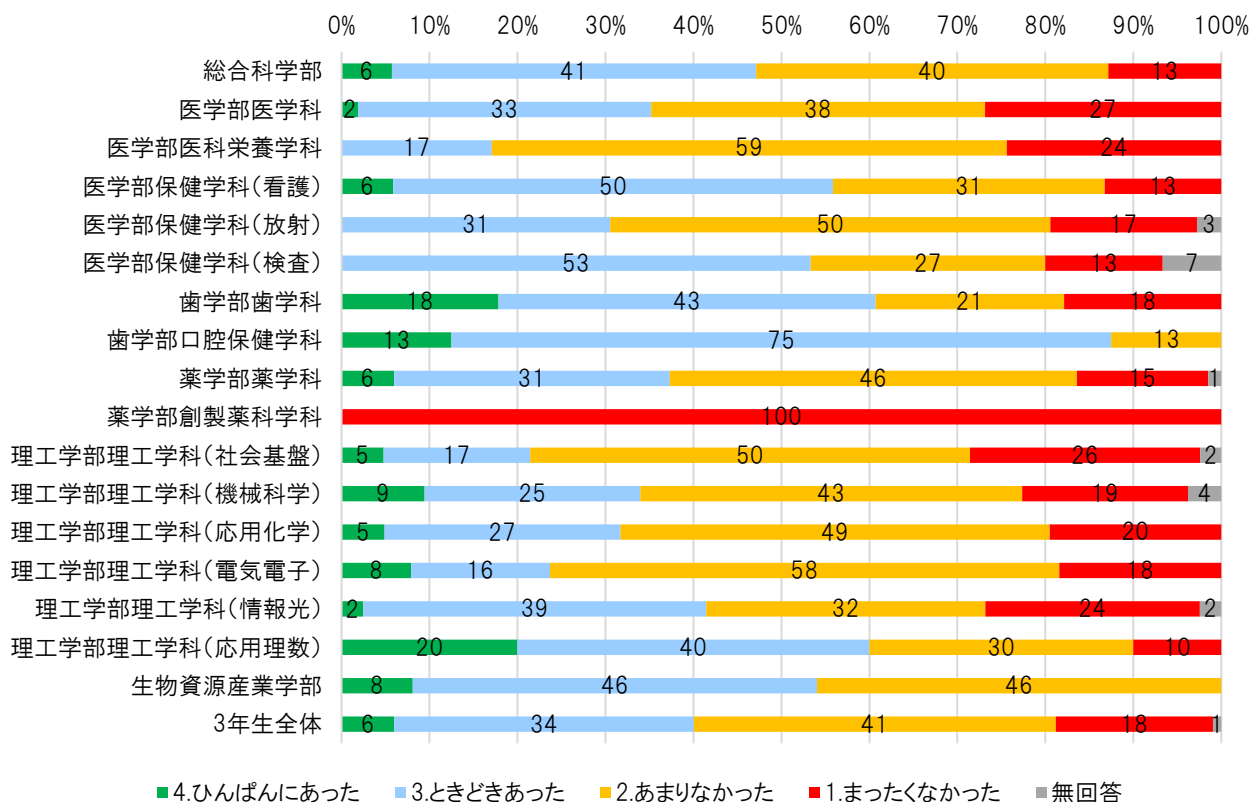
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

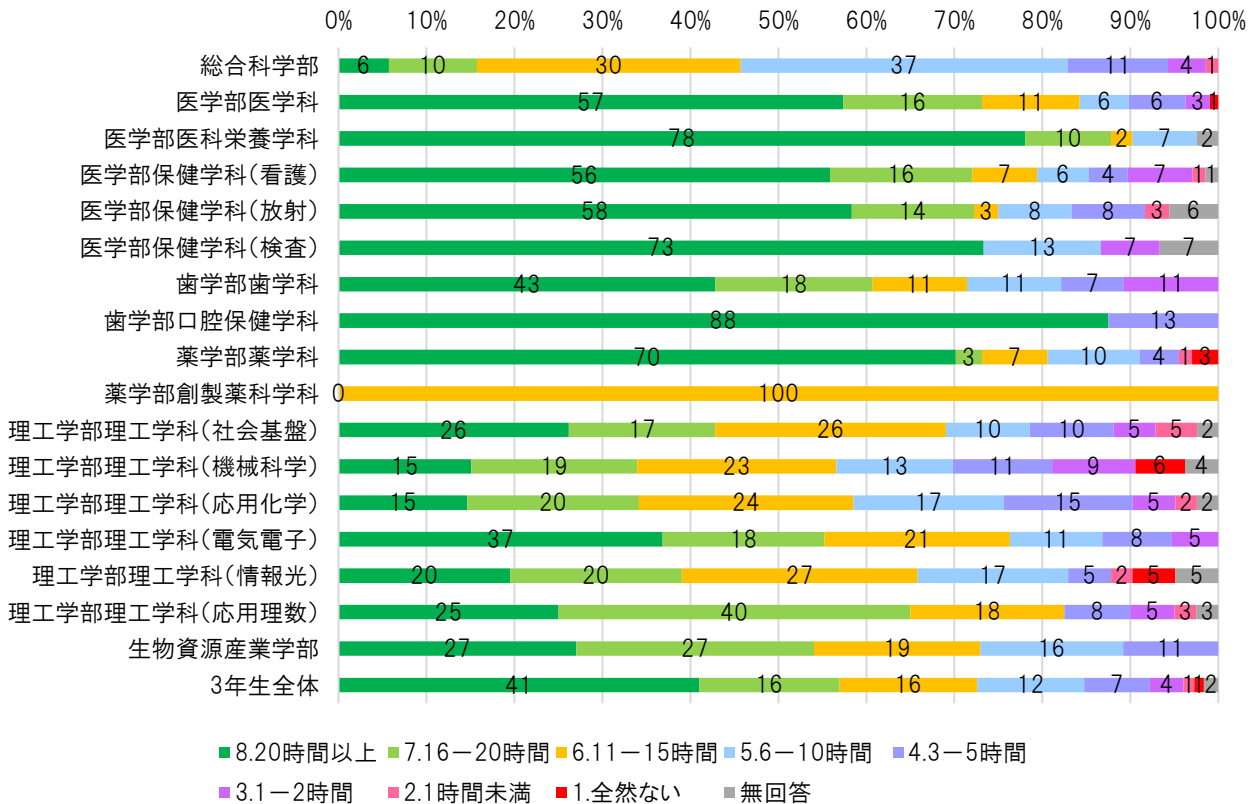


[33]教員に親近感を感じた

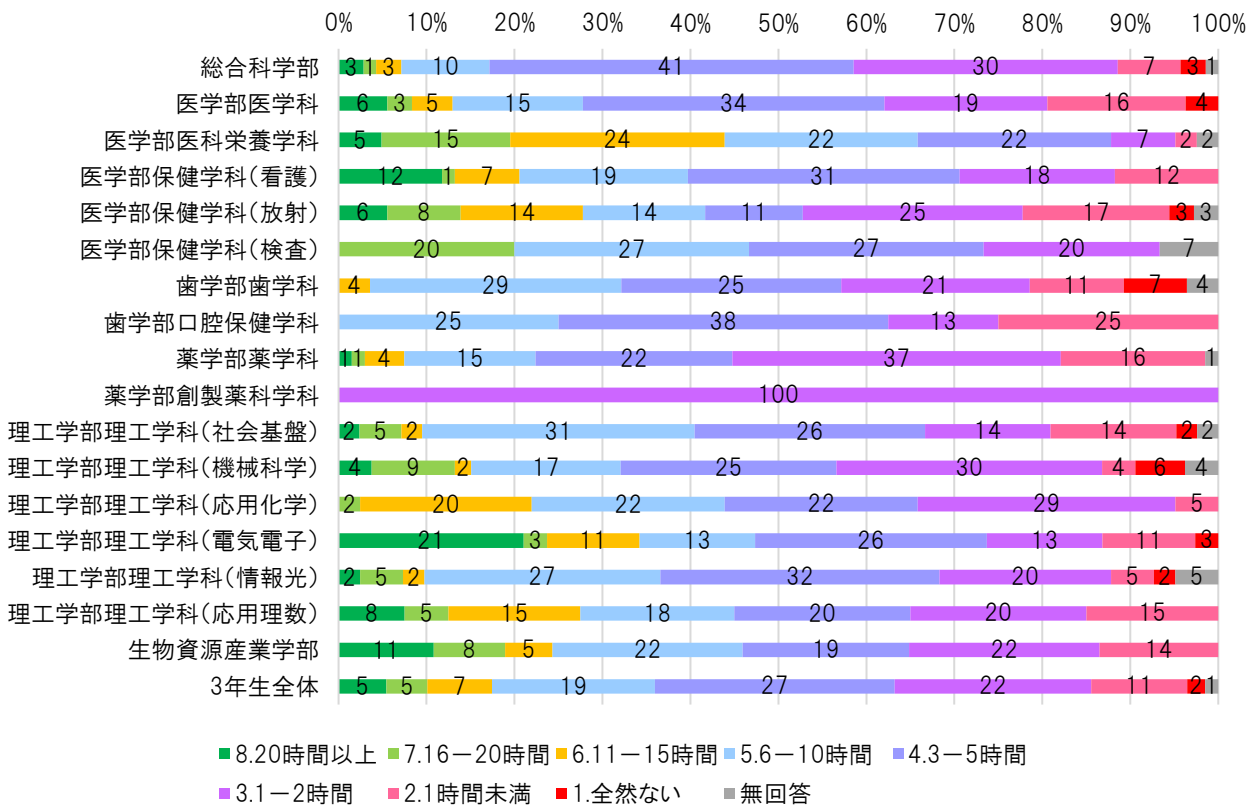


入学以来、あなたは次の活動に 1 週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

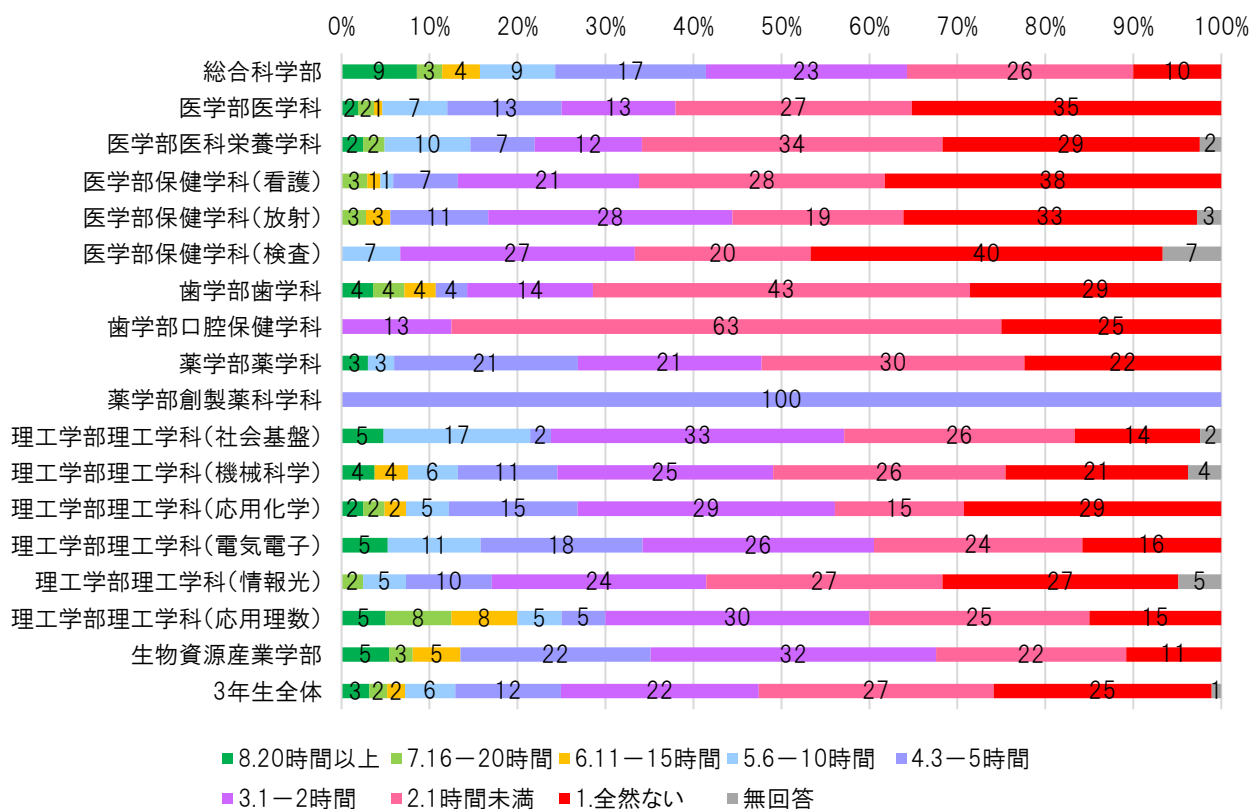
[34]授業や実験に出る



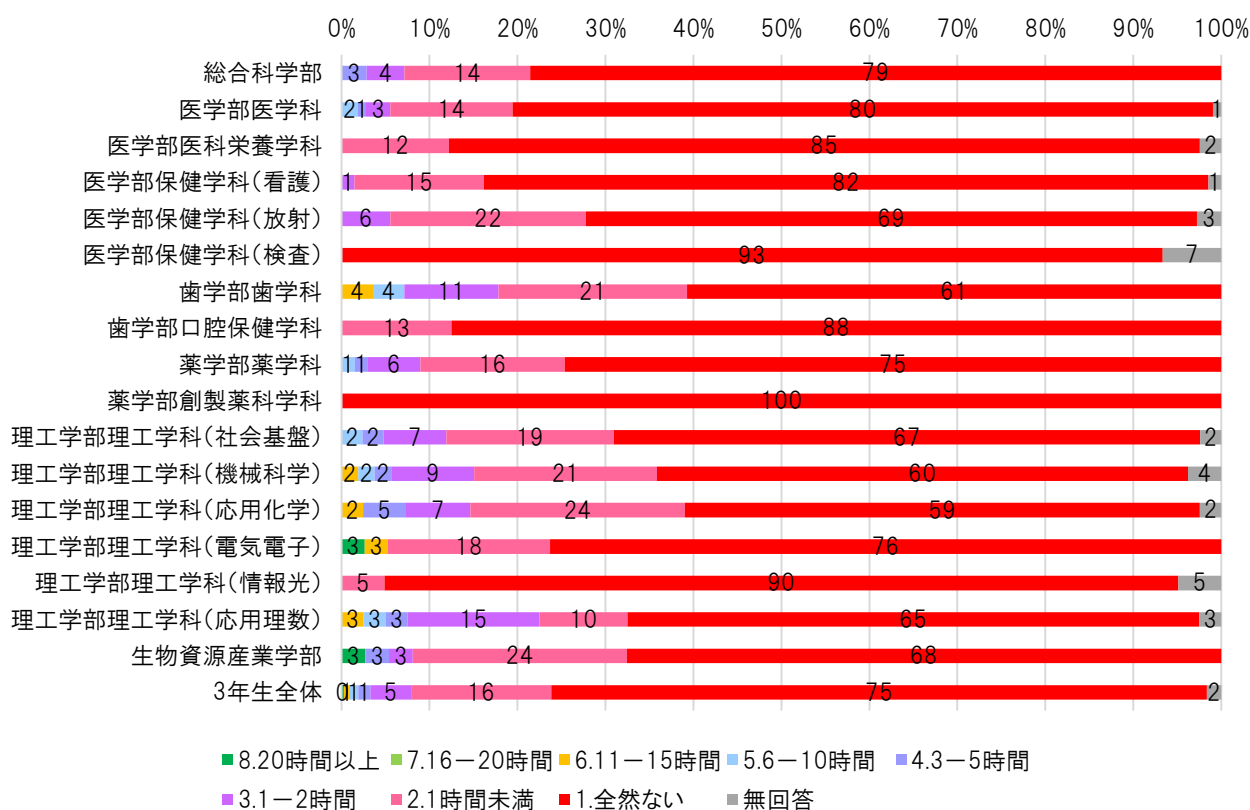
[35]授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



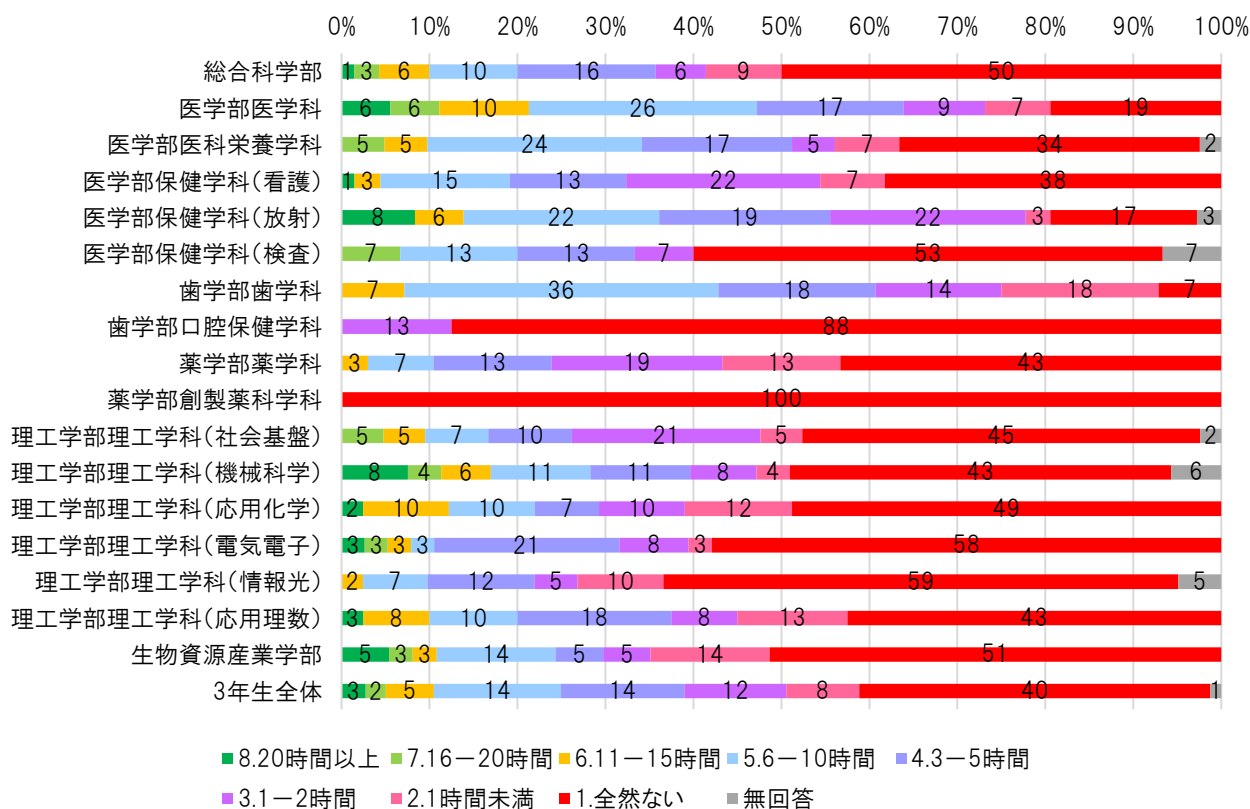
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



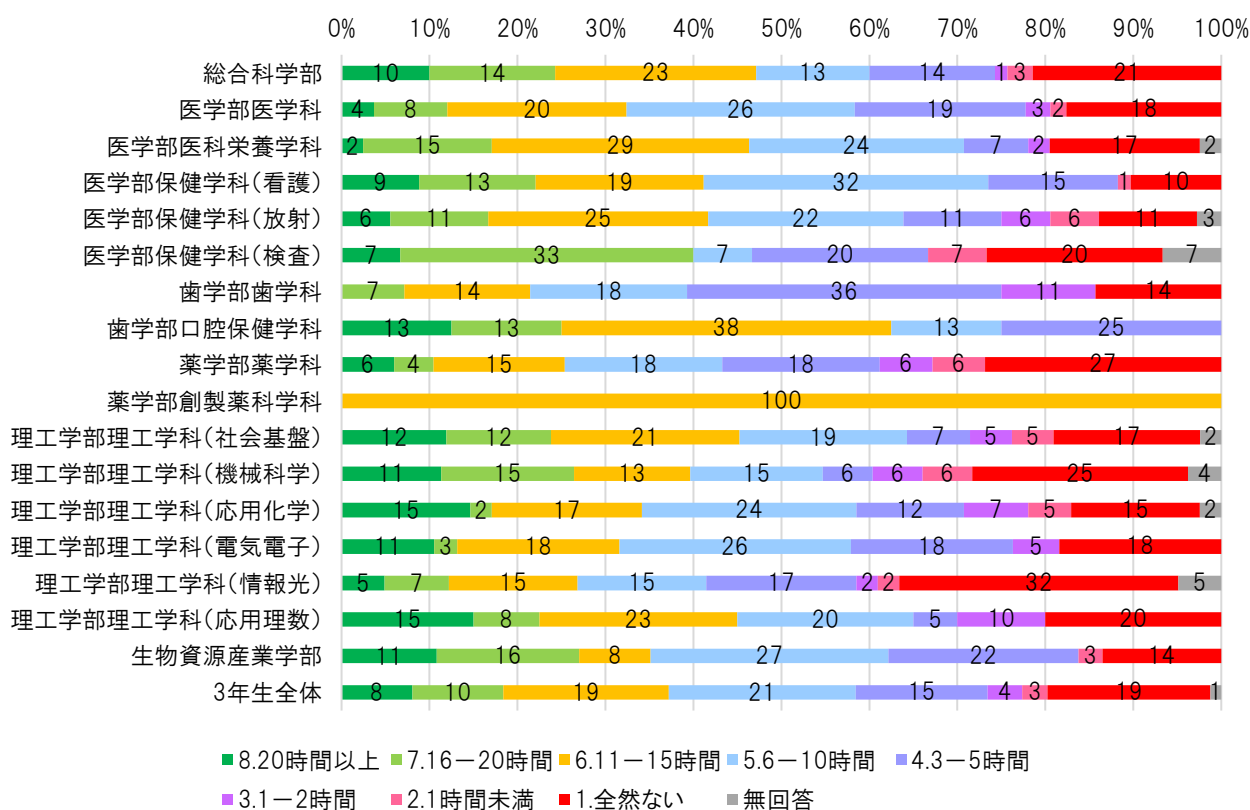
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



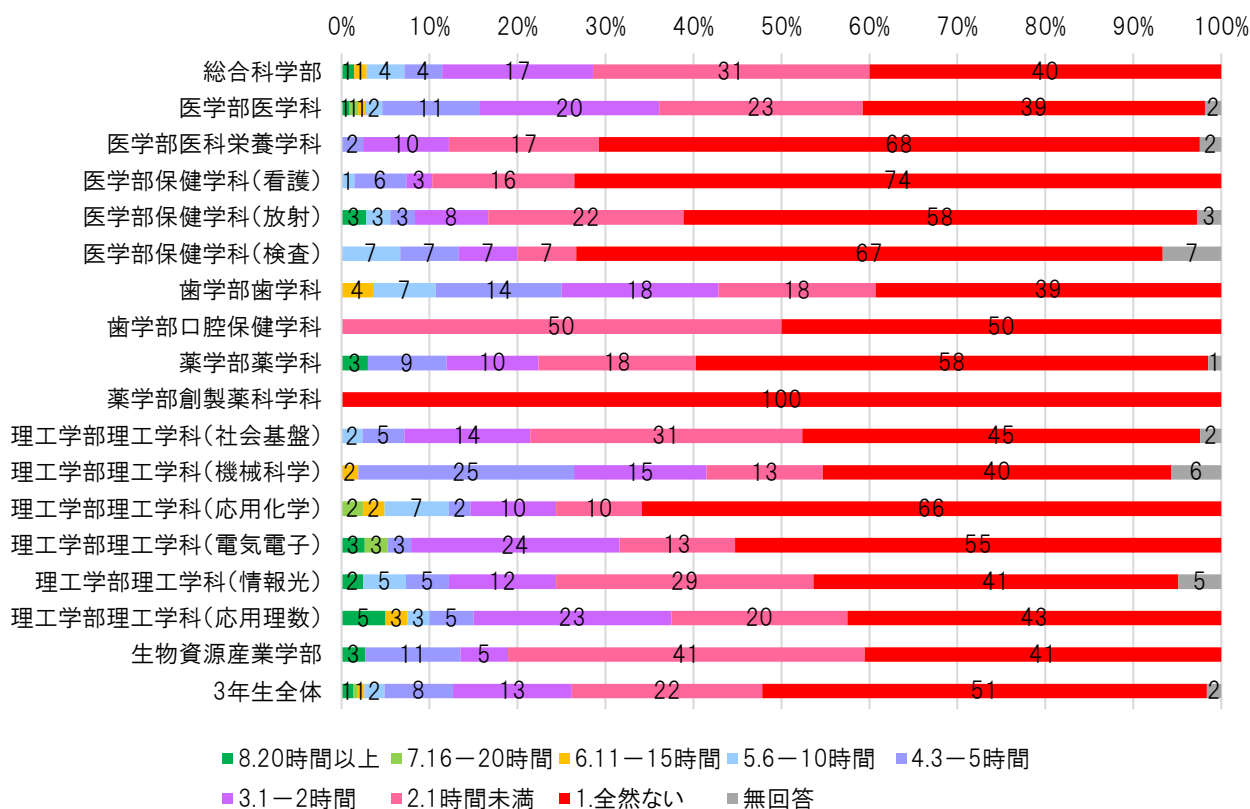
[38]部活動や同好会に参加する



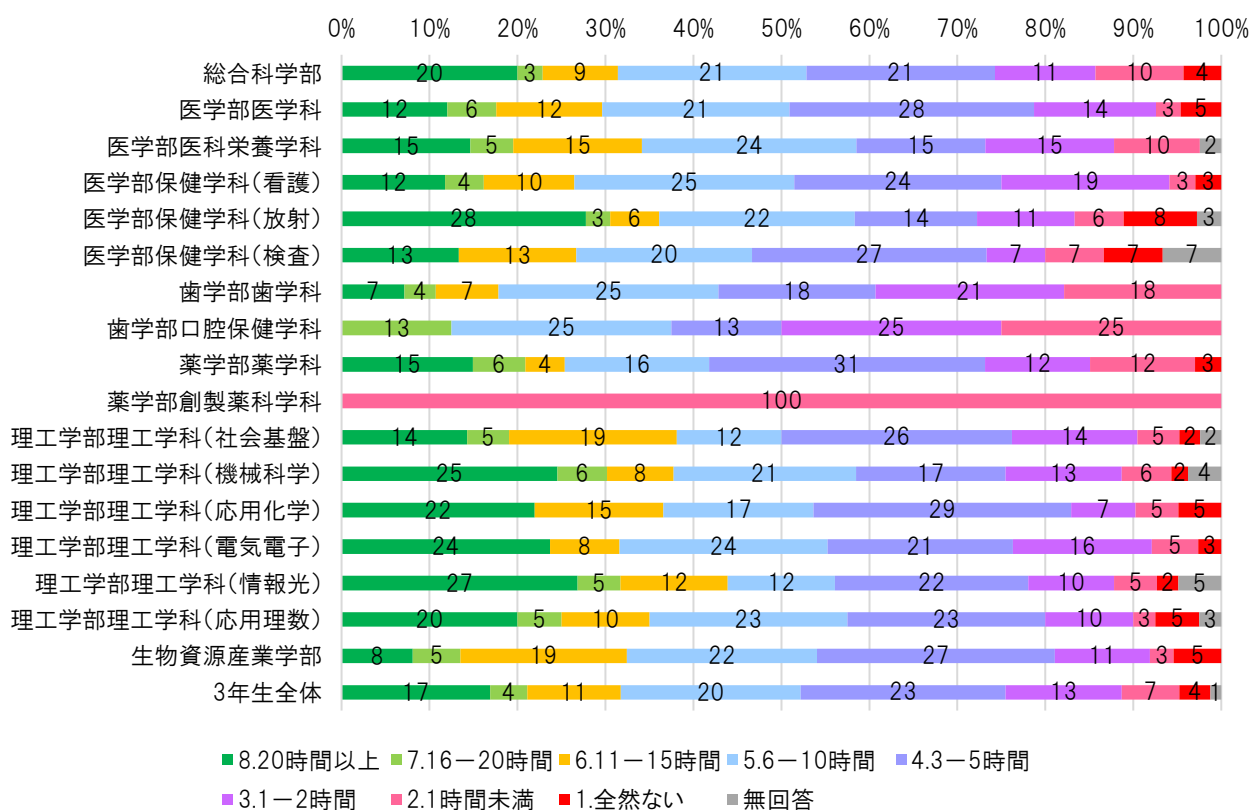
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40] 読書をする(マンガ・雑誌を除く)

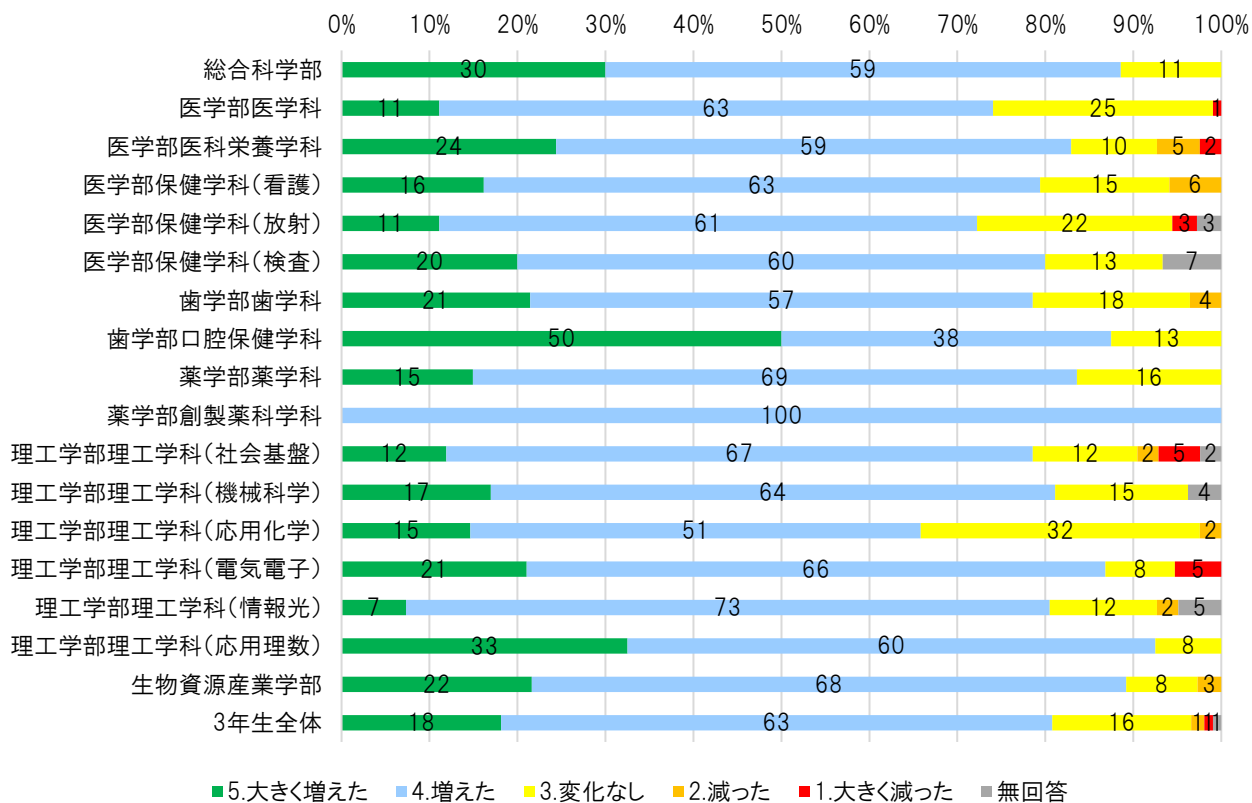


[41] 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

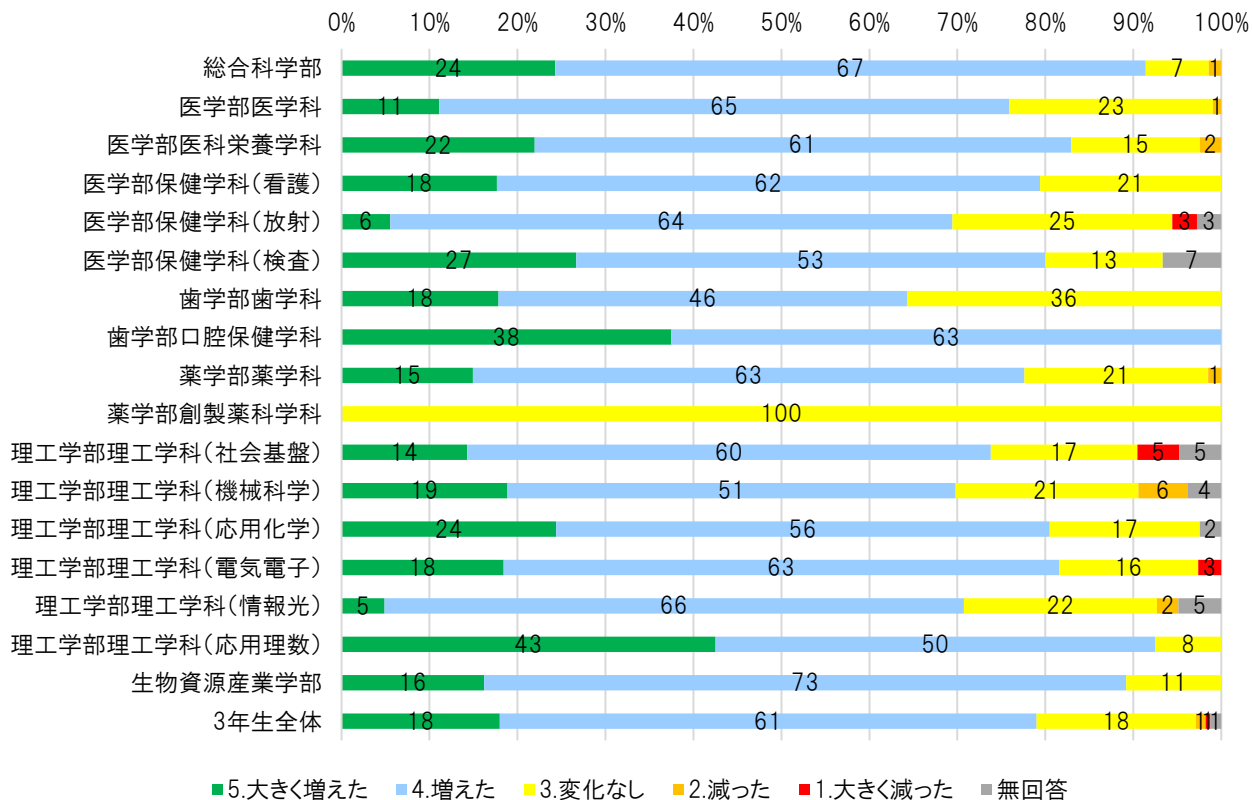


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

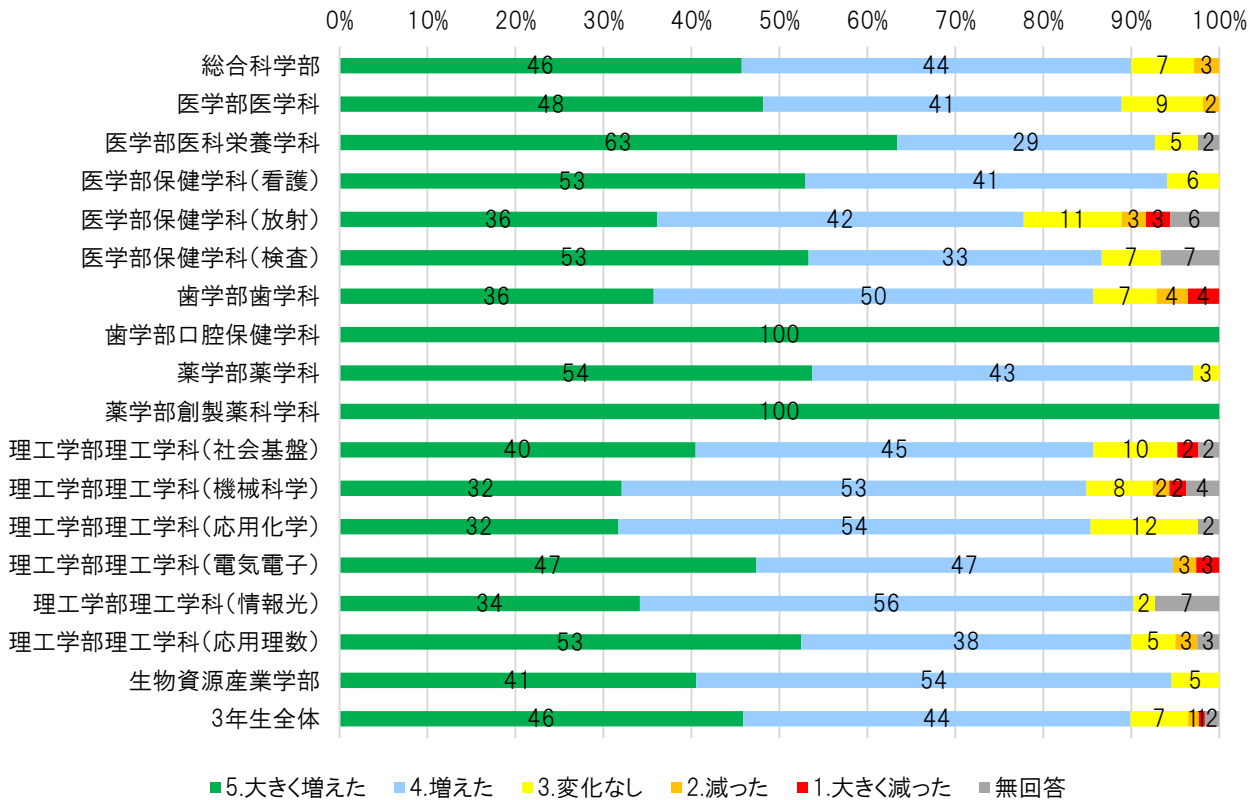
[42]一般的な教養



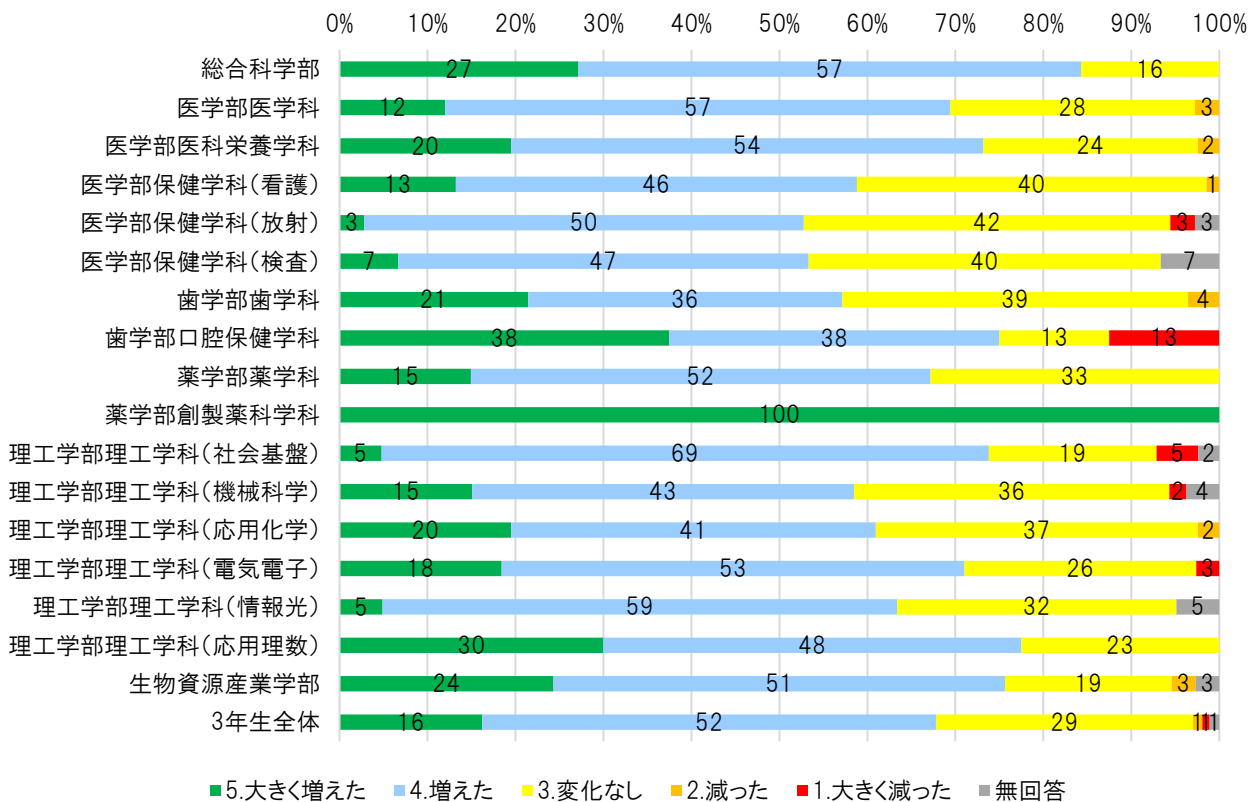
[43]分析力や問題解決能力



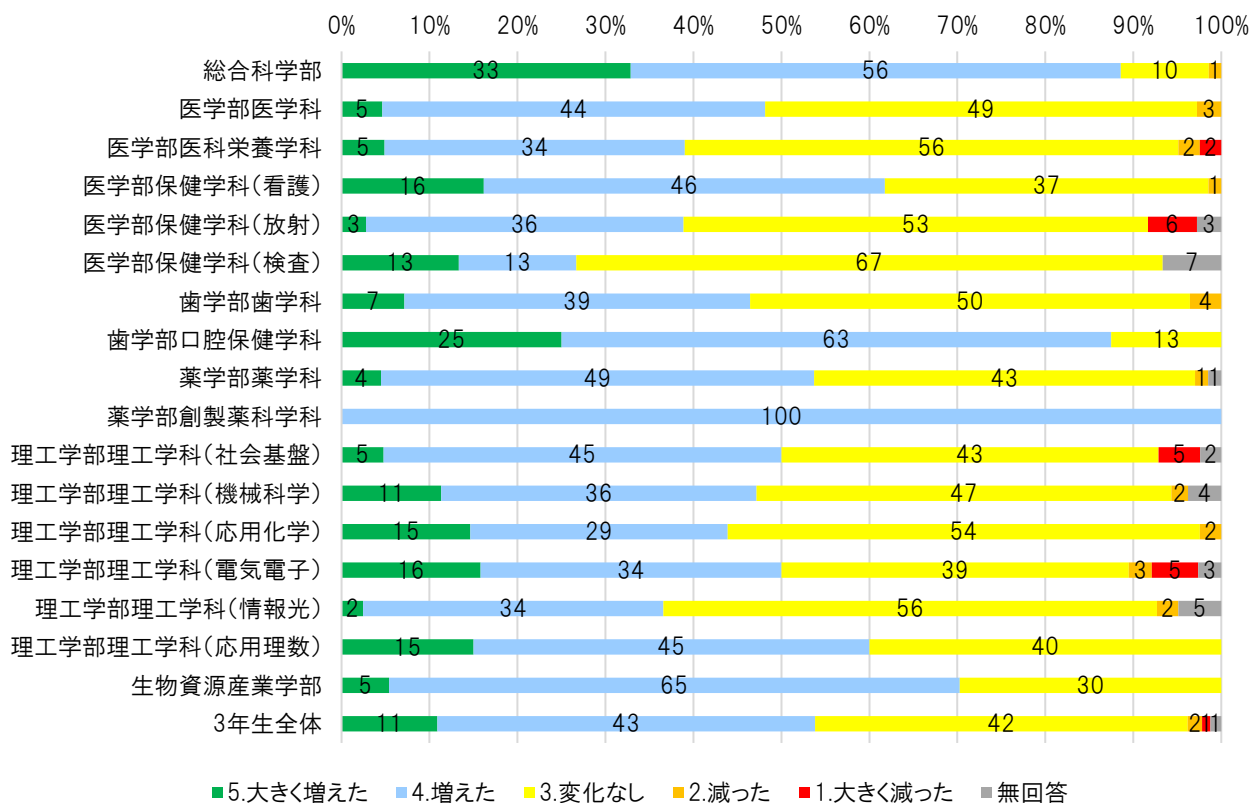
[44] 専門分野や学科の知識



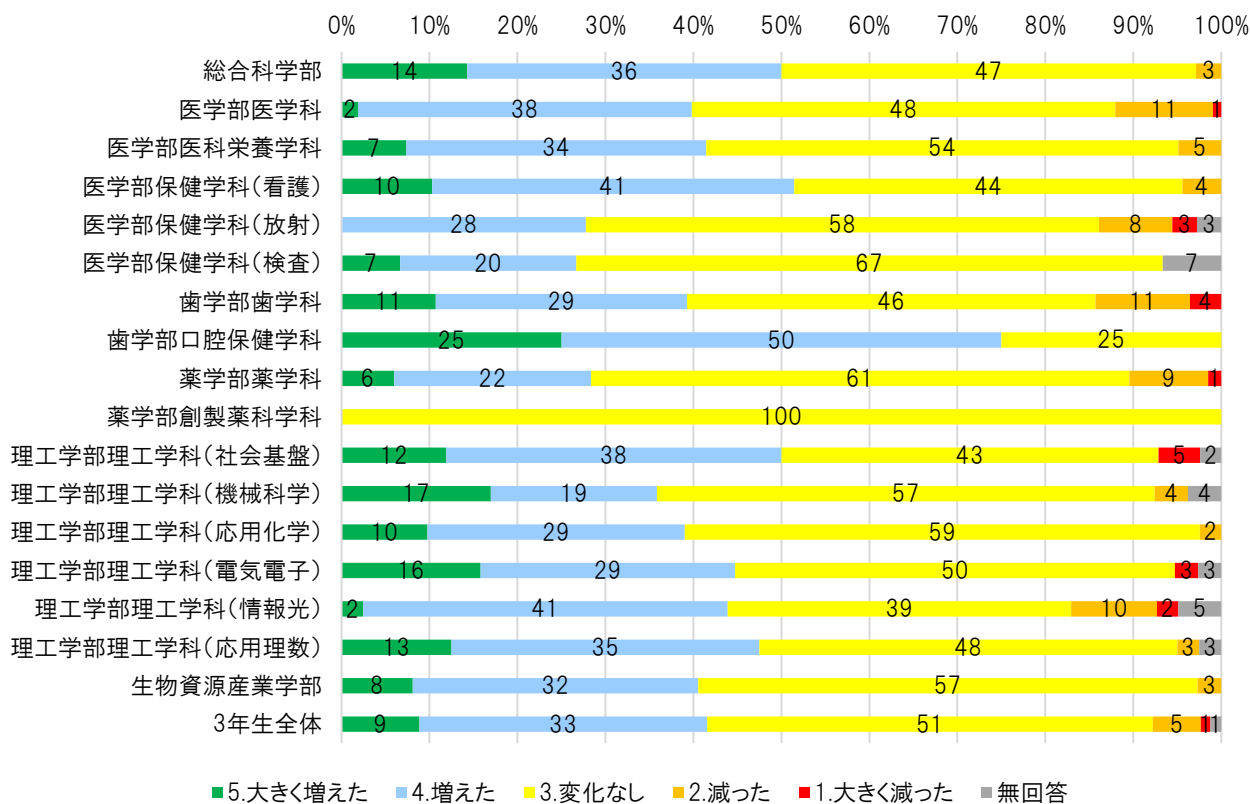
[45] 批判的に考える能力



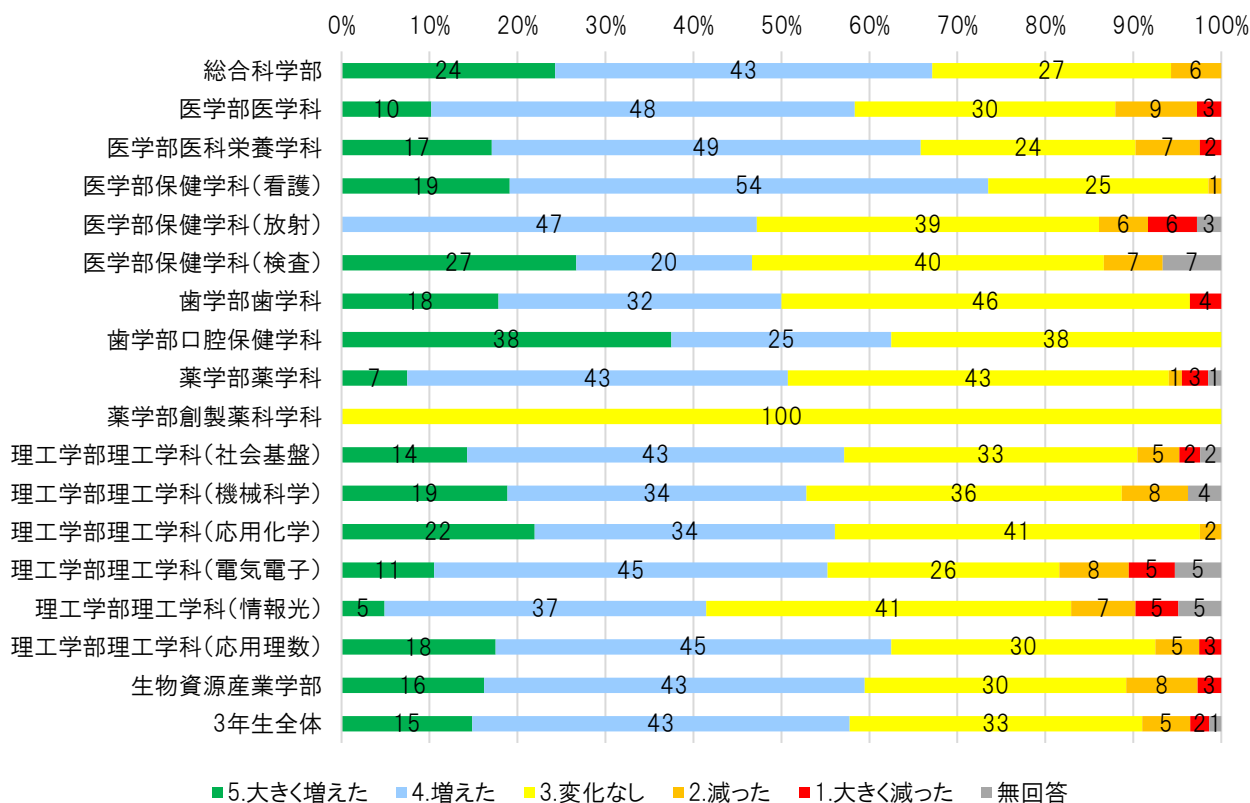
[46]異文化の人々に関する知識



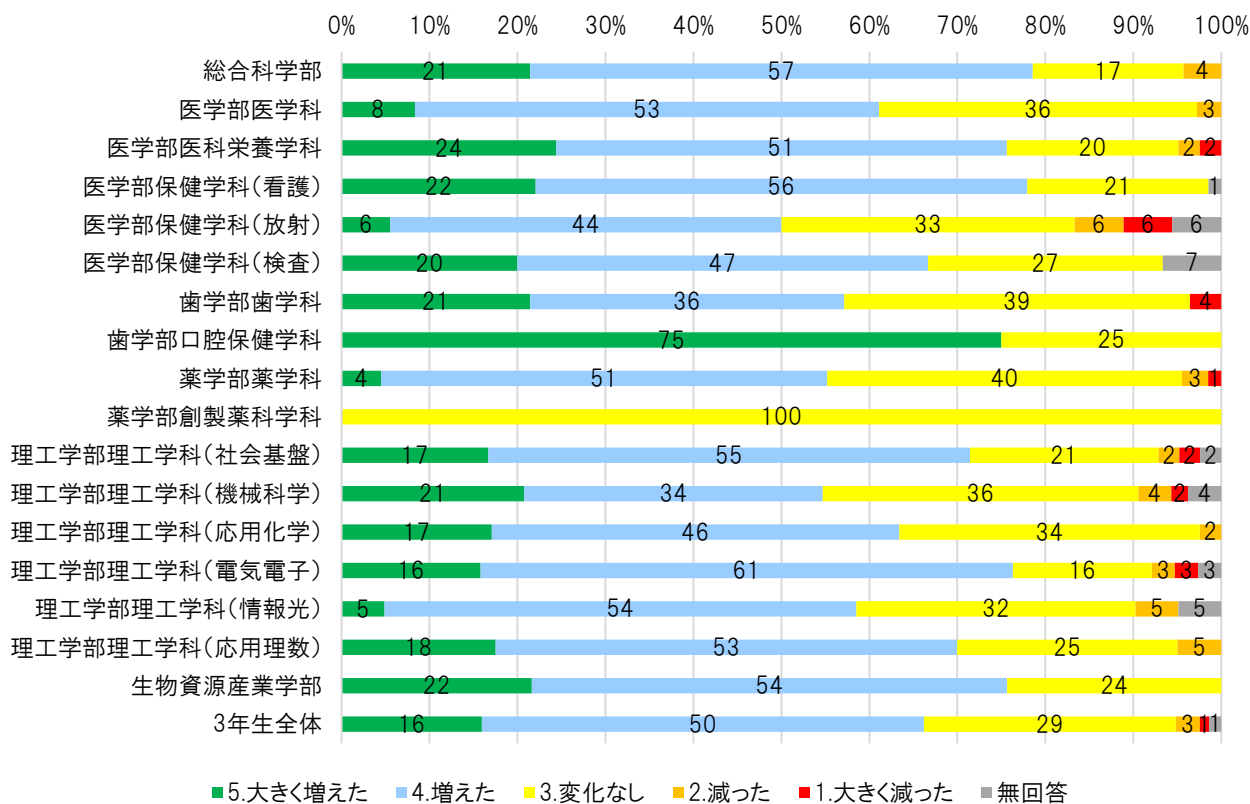
[47]リーダーシップの能力



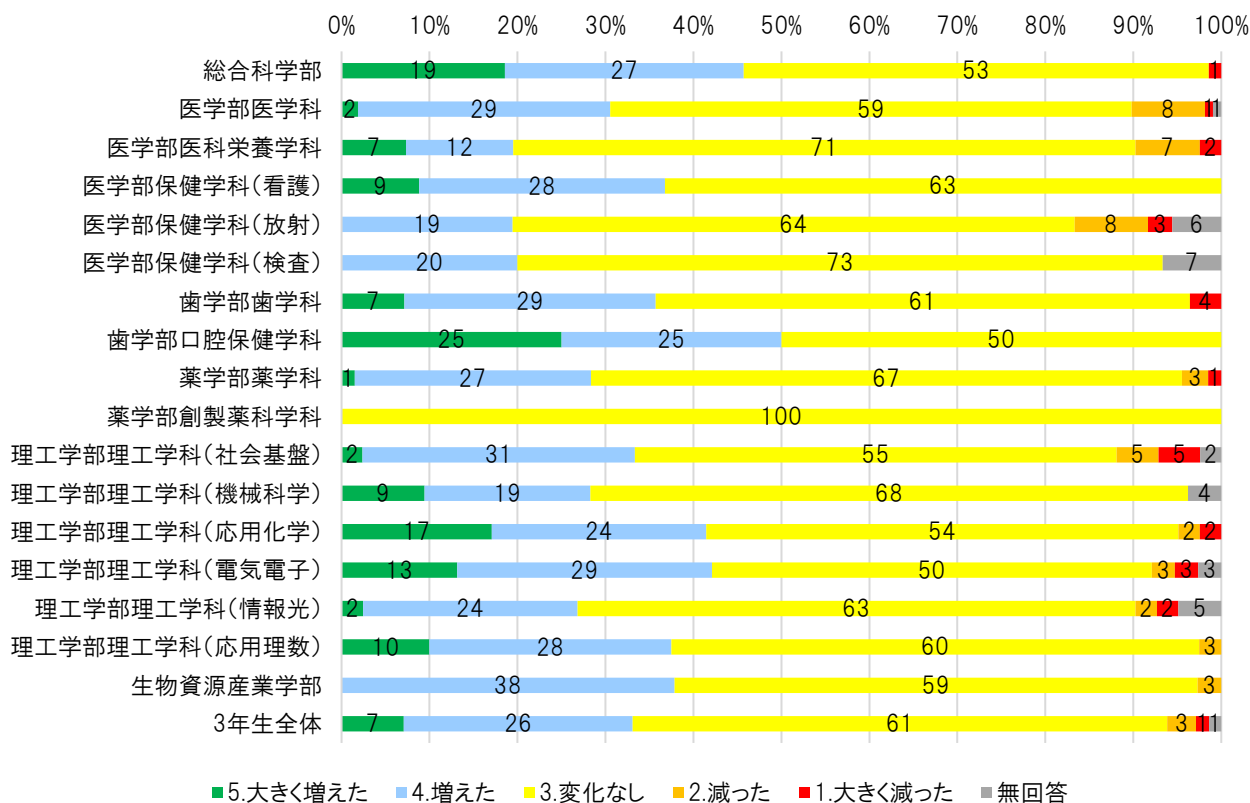
[48]人間関係を構築する能力



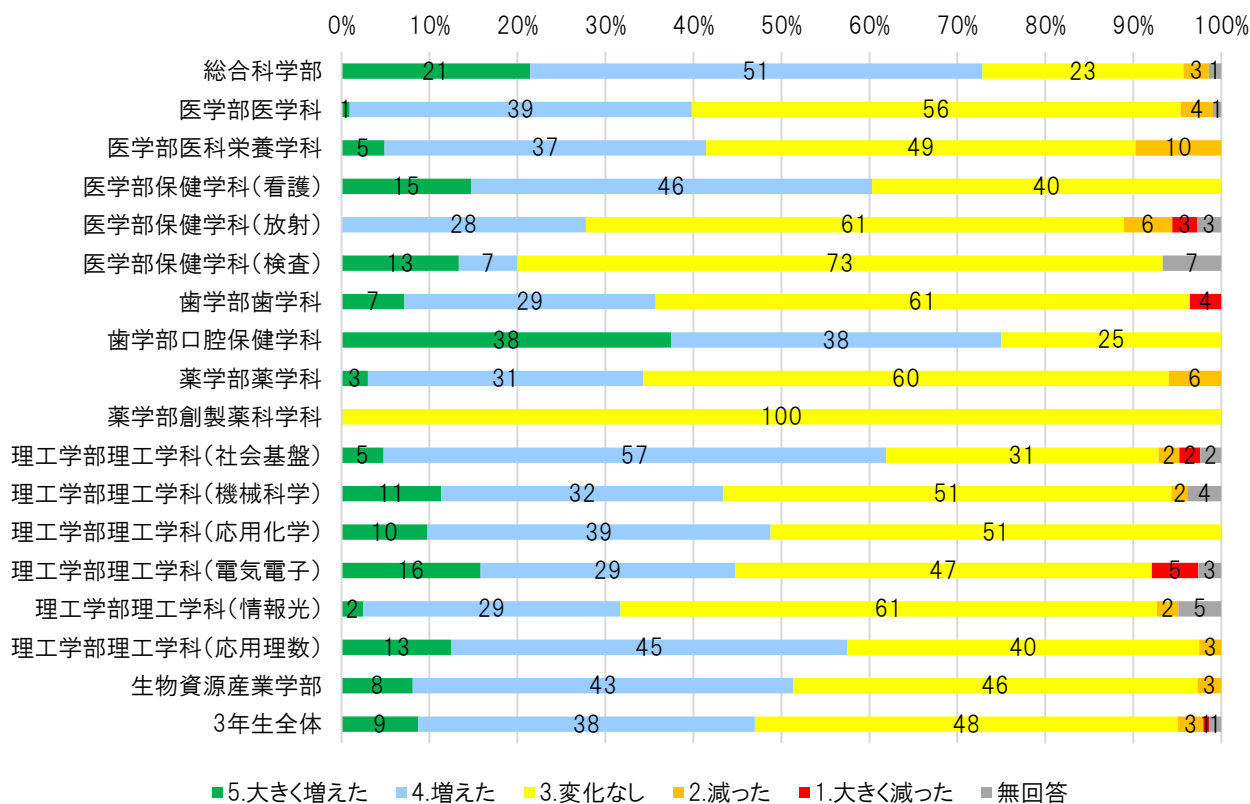
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



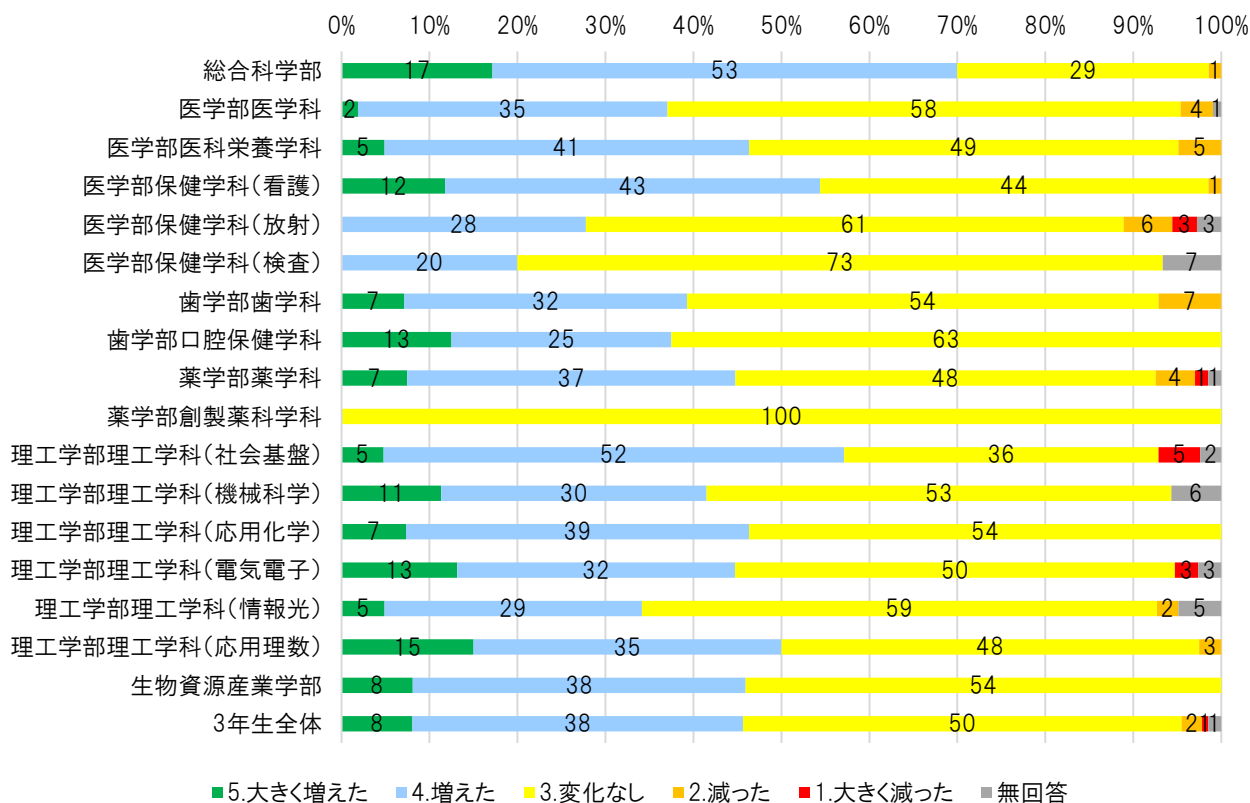
[50]異文化の人々と協力する能力



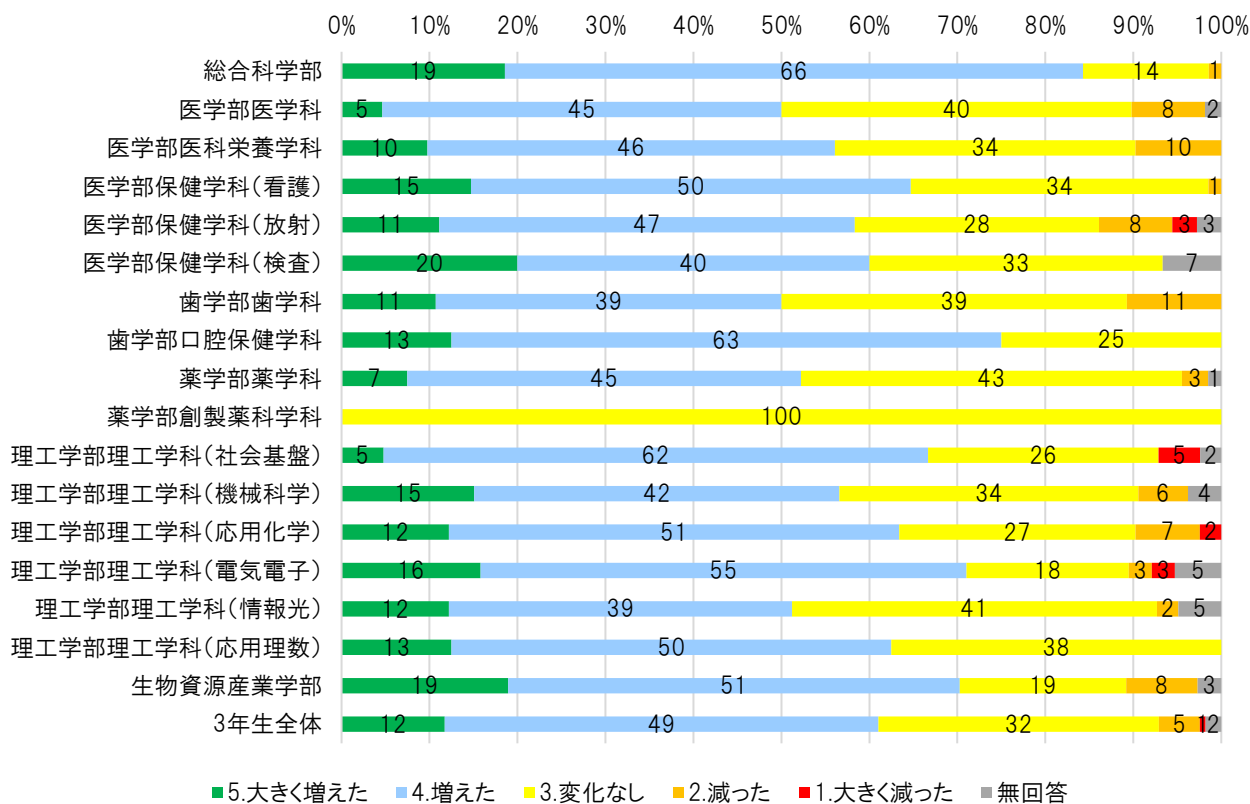
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



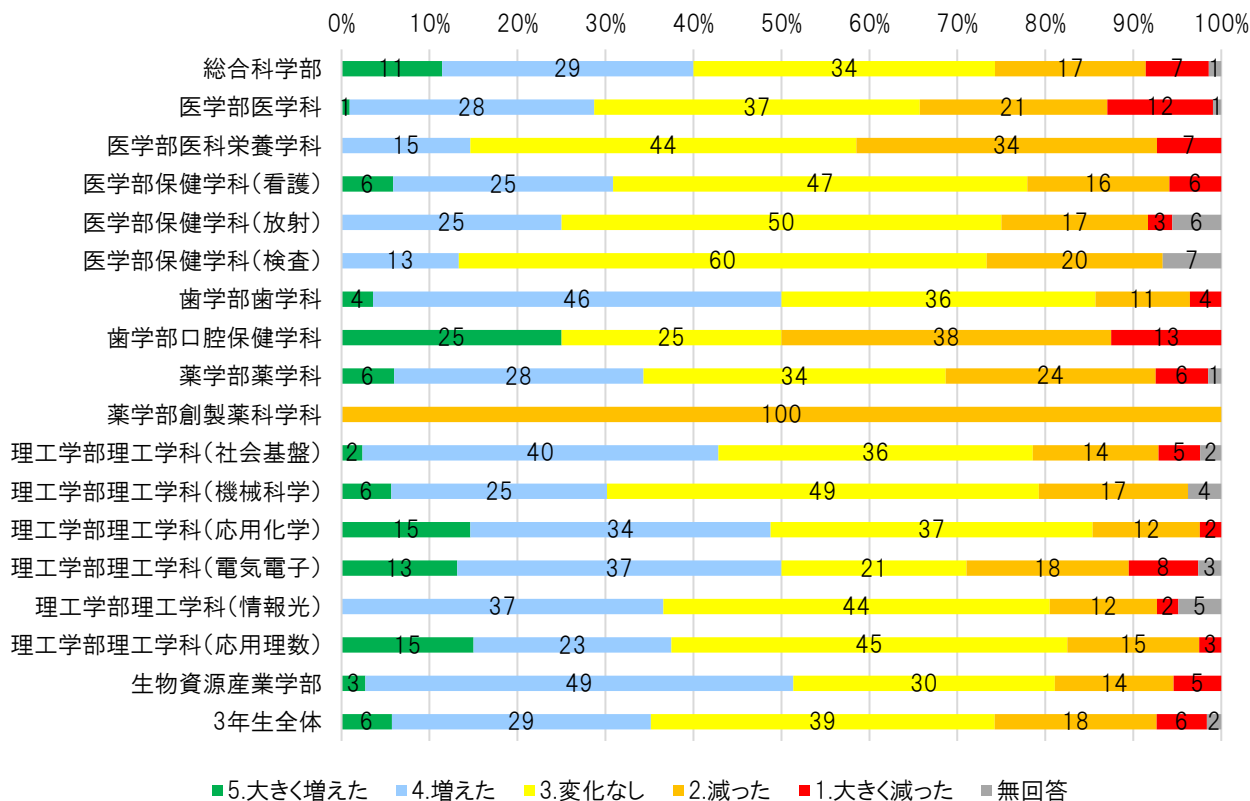
[52]国民が直面する問題を理解する能力



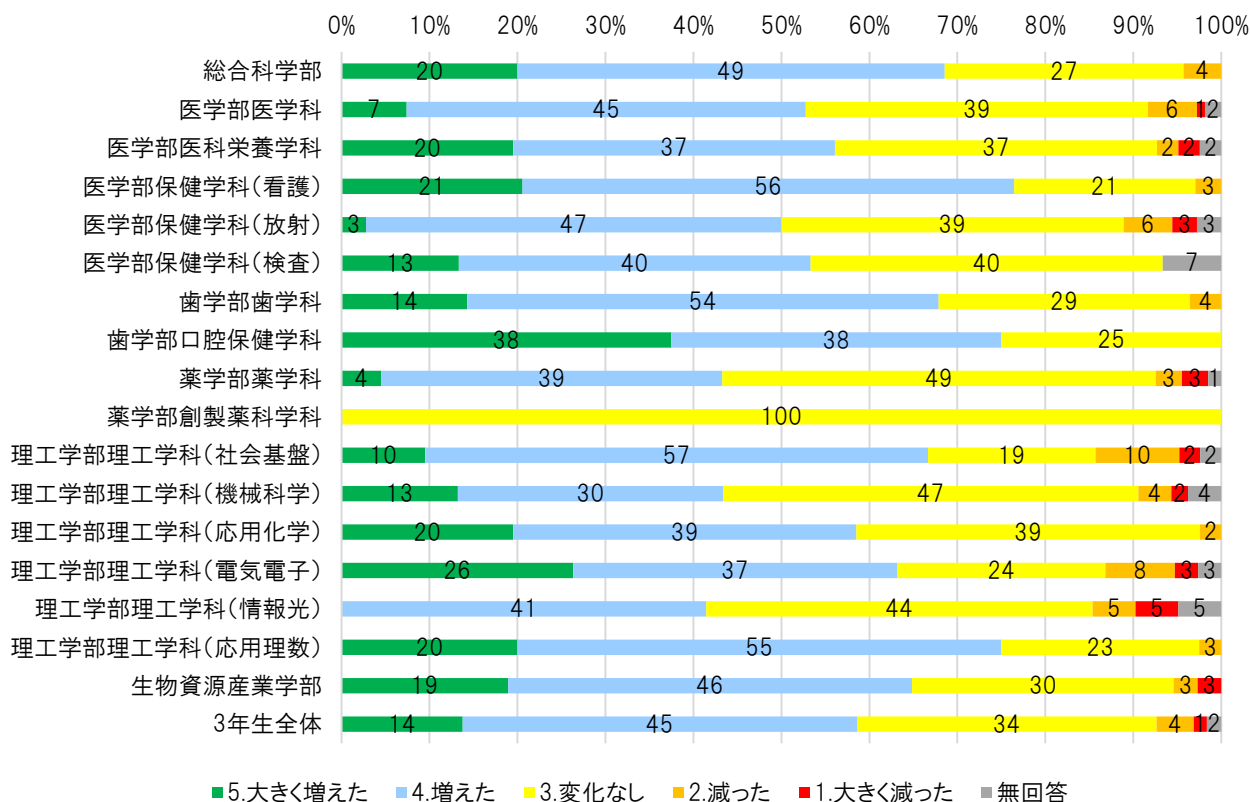
[53]文章表現の能力



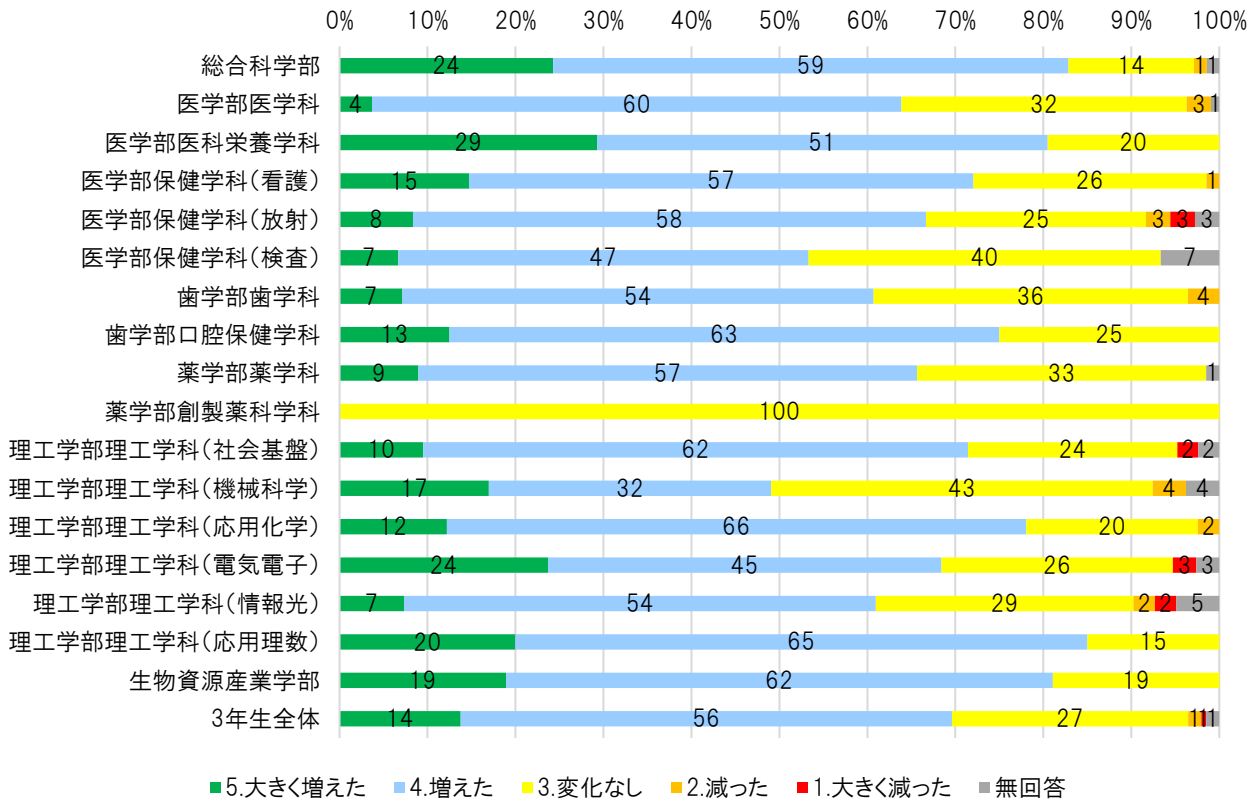
[54]外国語の運用能力



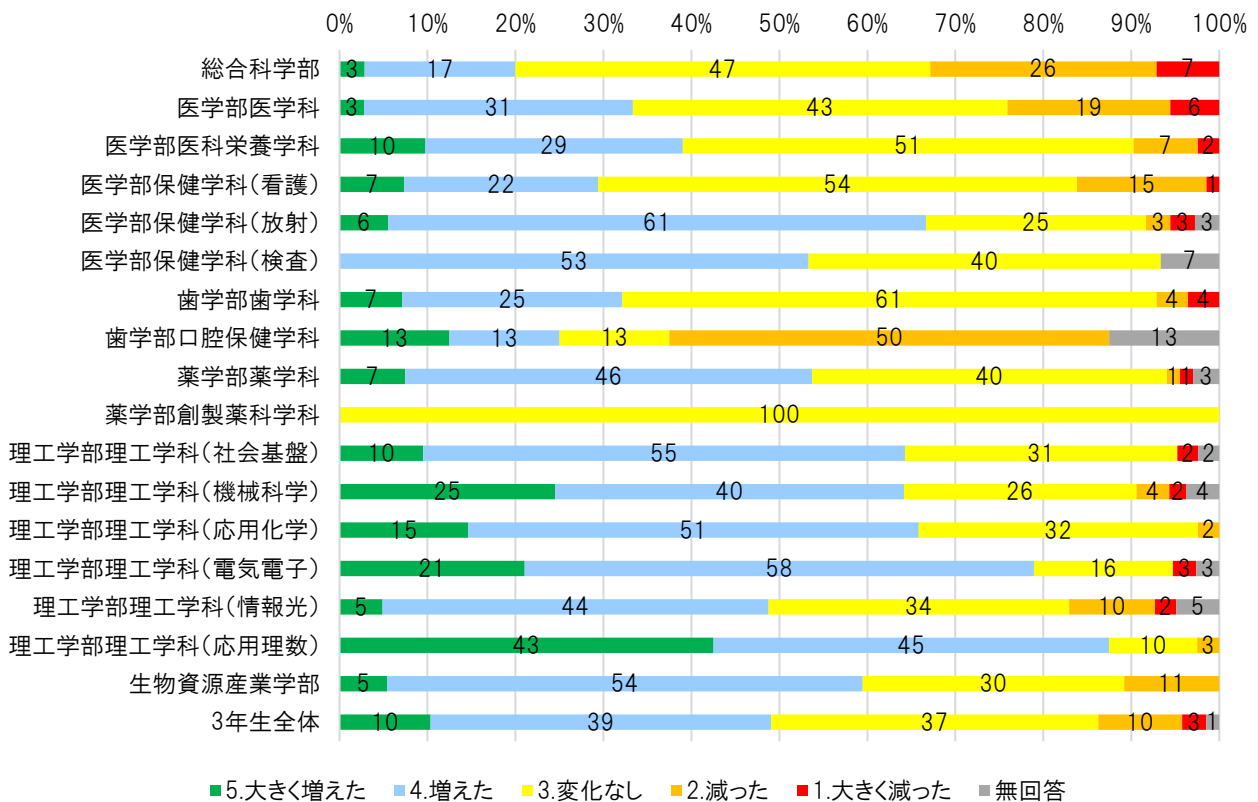
[55]コミュニケーションの能力



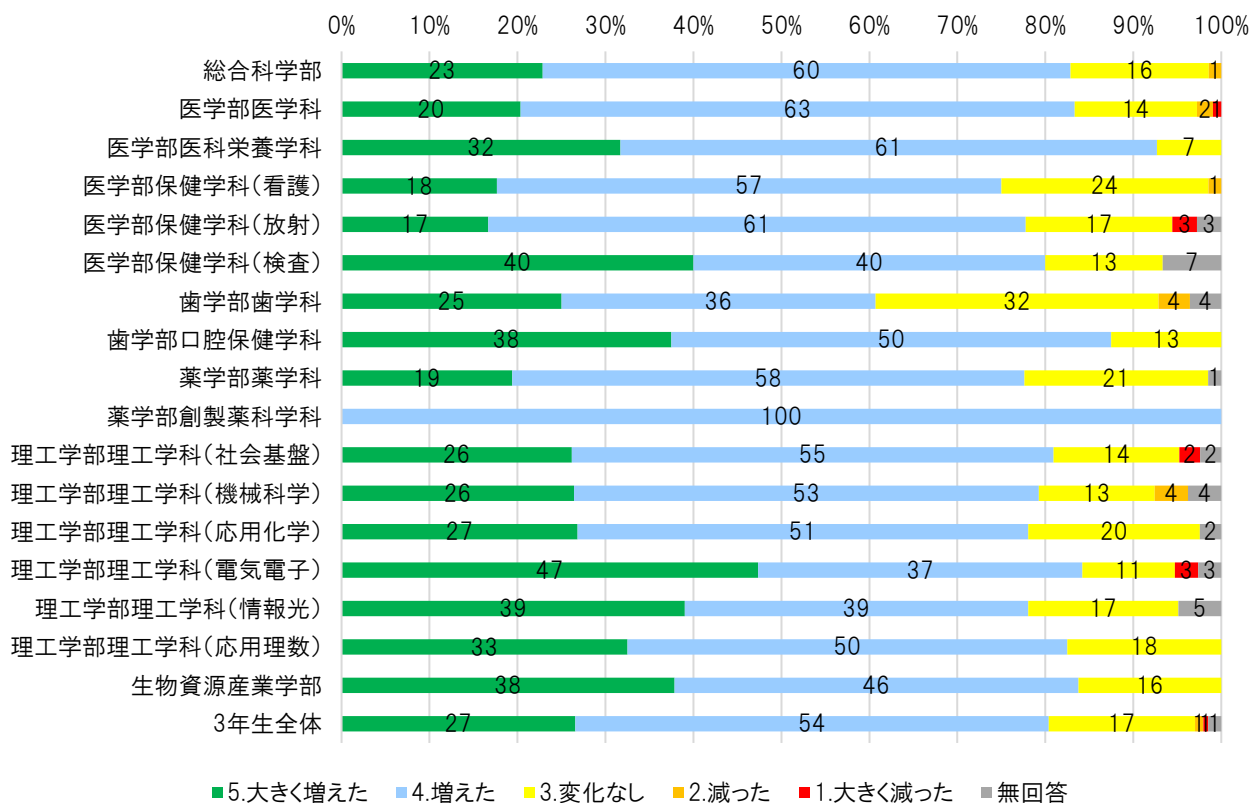
[56]プレゼンテーションの能力



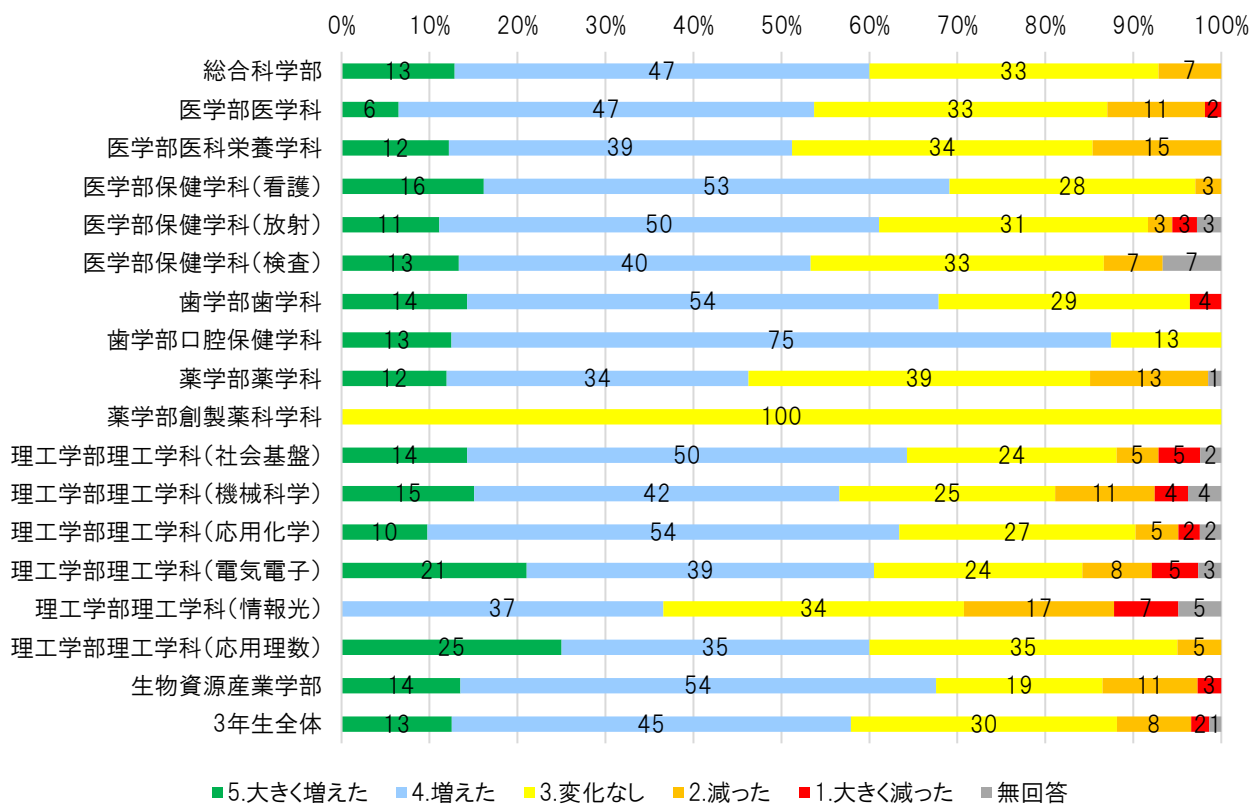
[57]数理的な能力



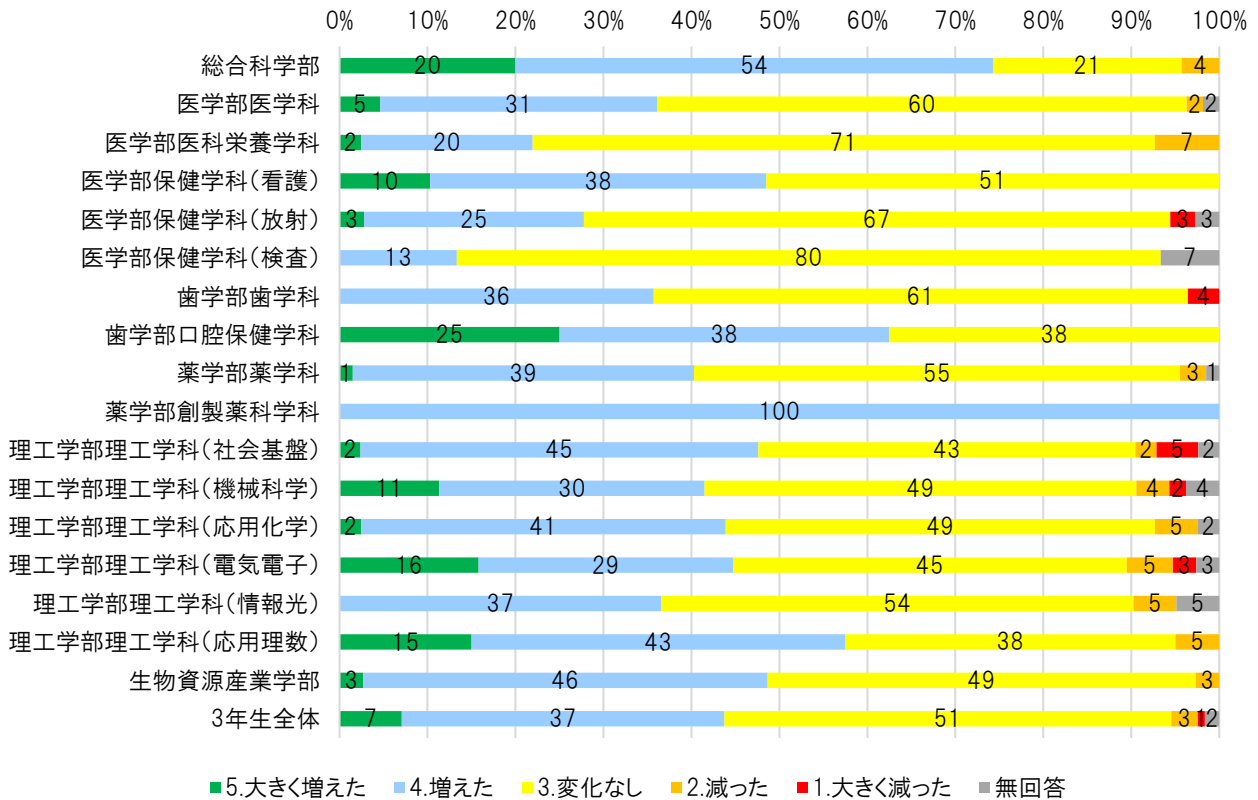
[58] コンピュータの操作能力



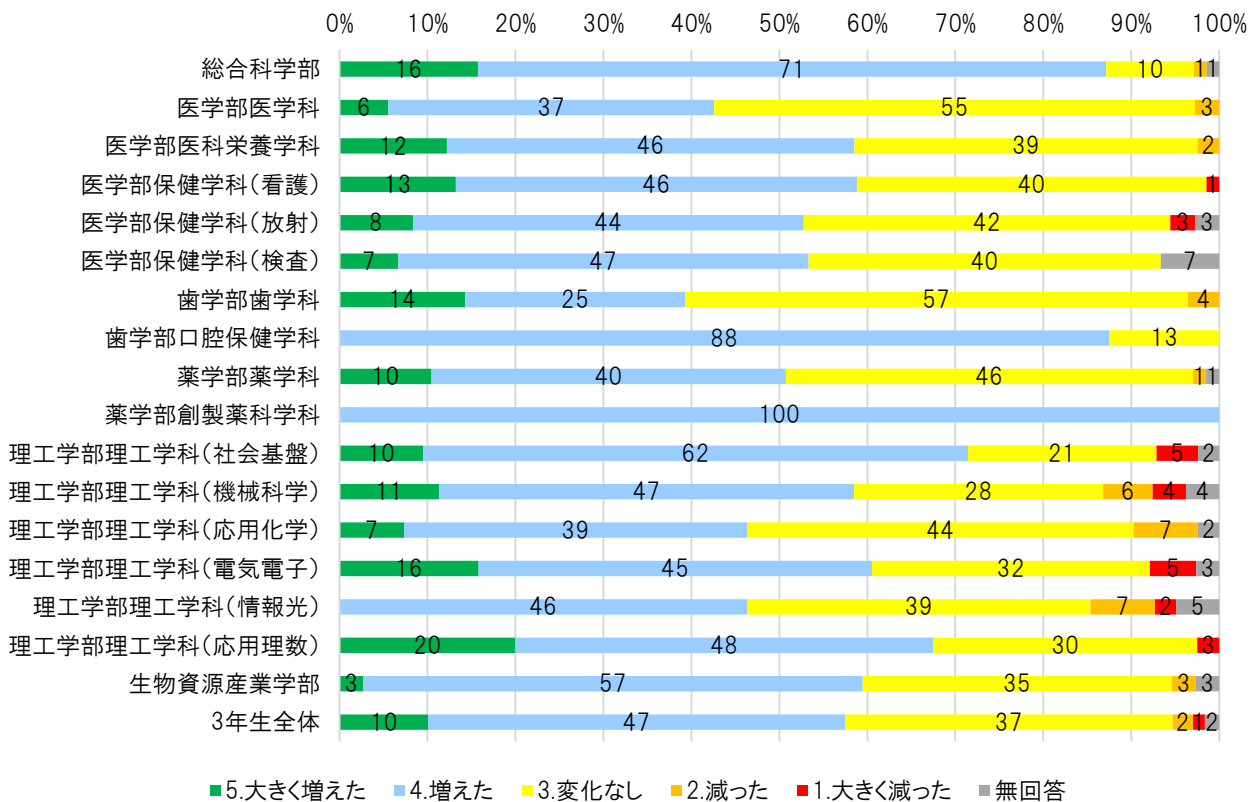
[59] 時間を効果的に利用する能力



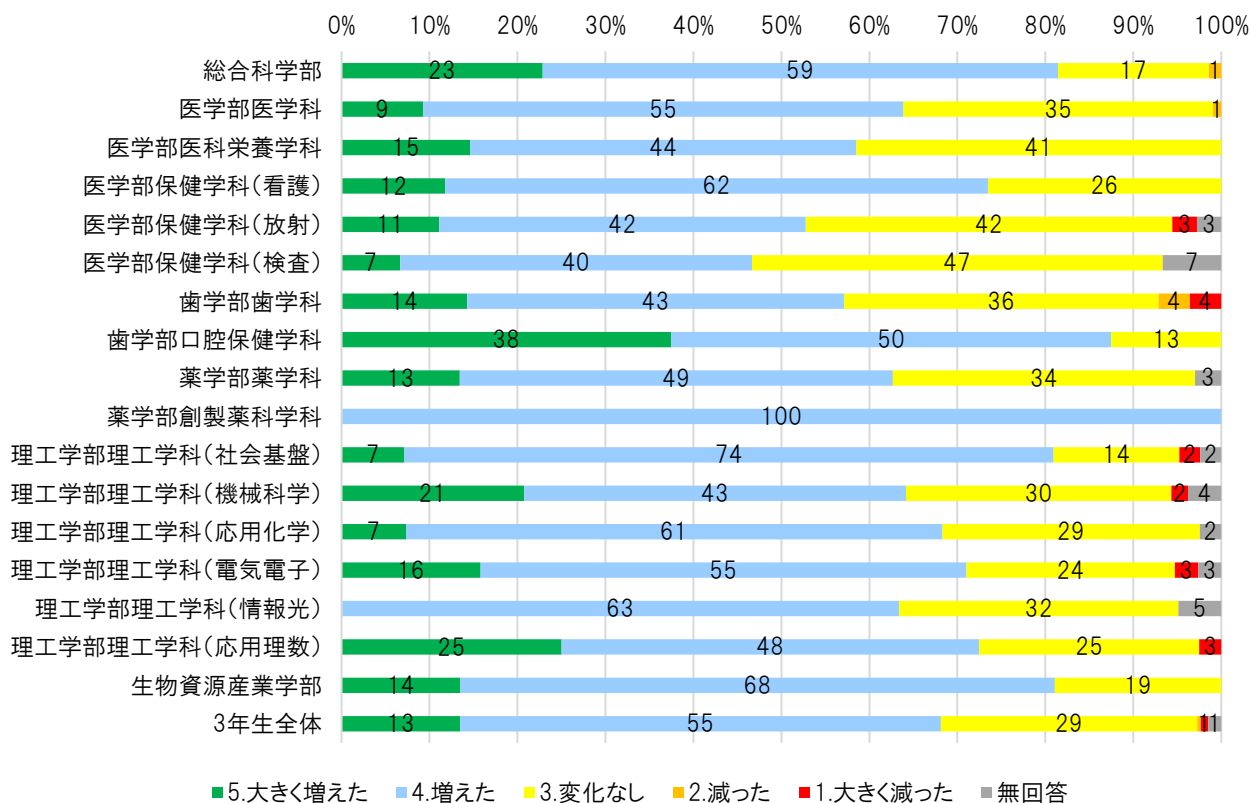
[60]グローバルな問題の理解



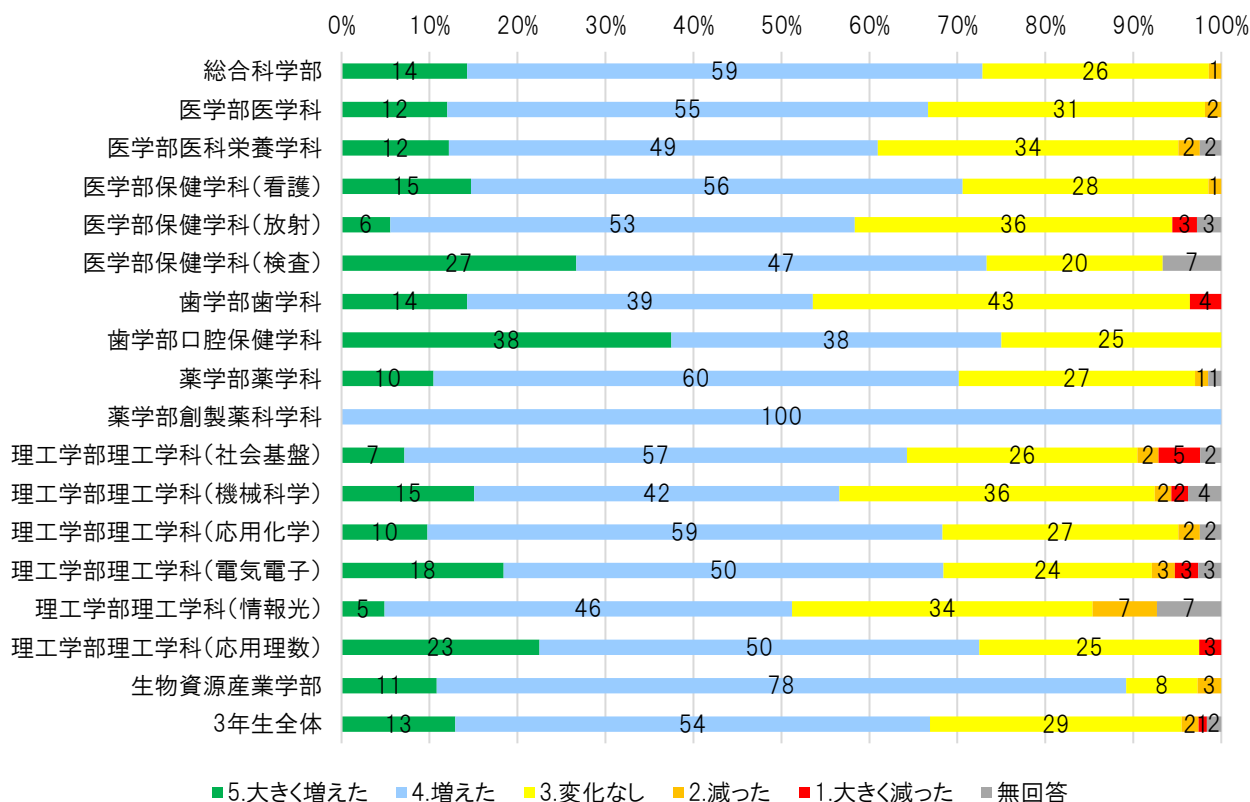
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



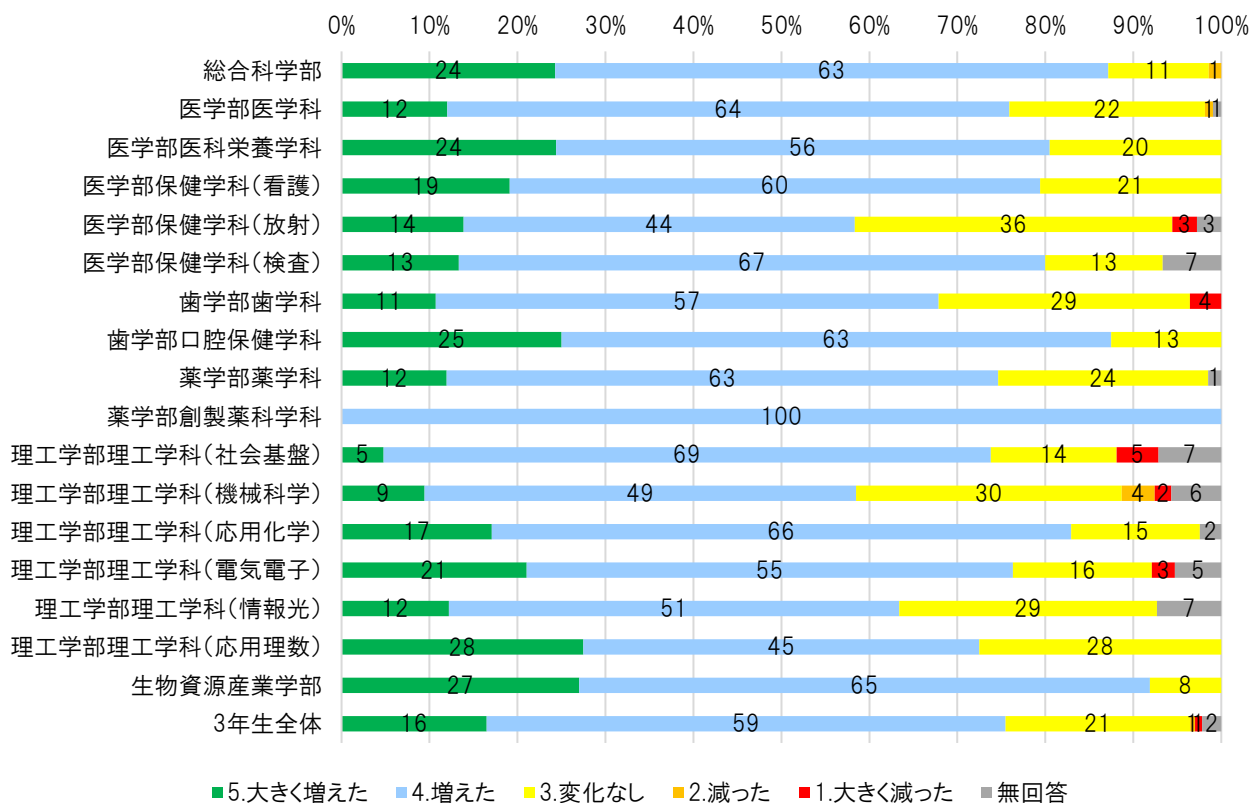
[62]職業人・社会の一員として求められる倫理観



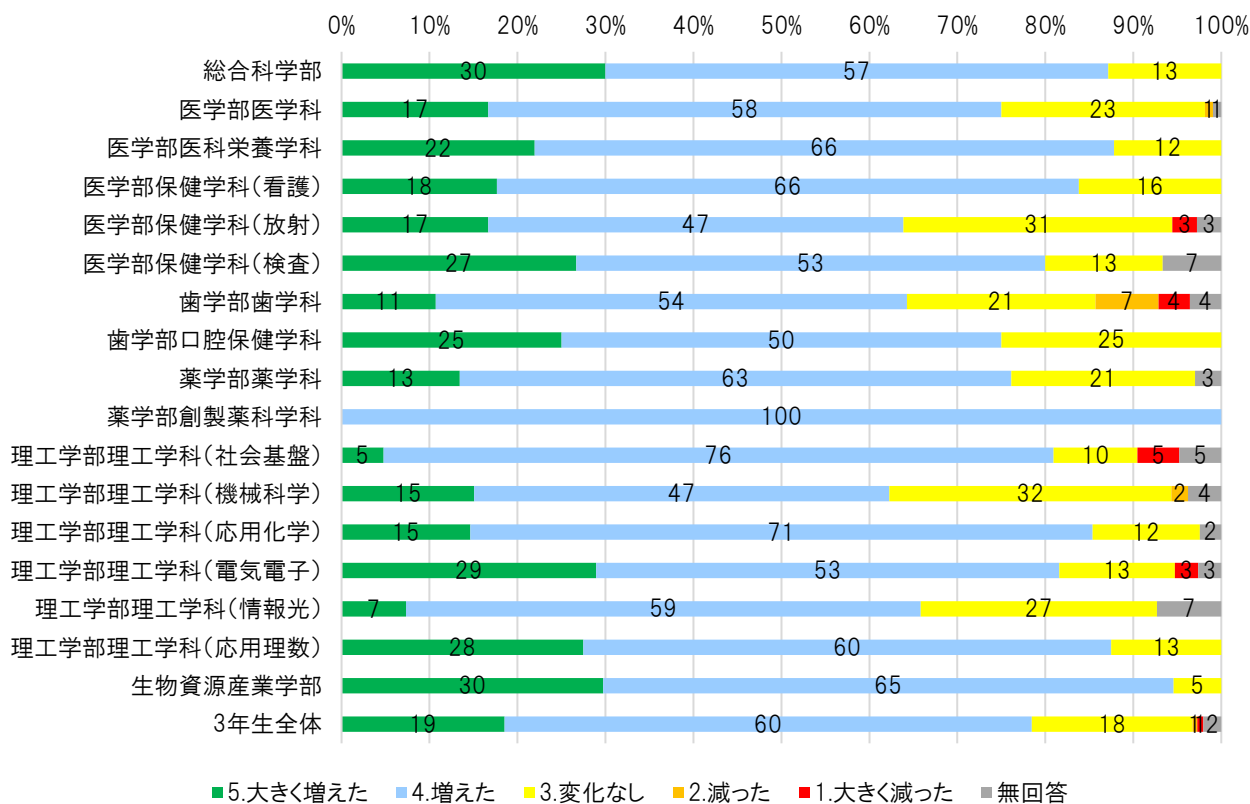
[63]生涯学び続け、教養・専門性を高める能力



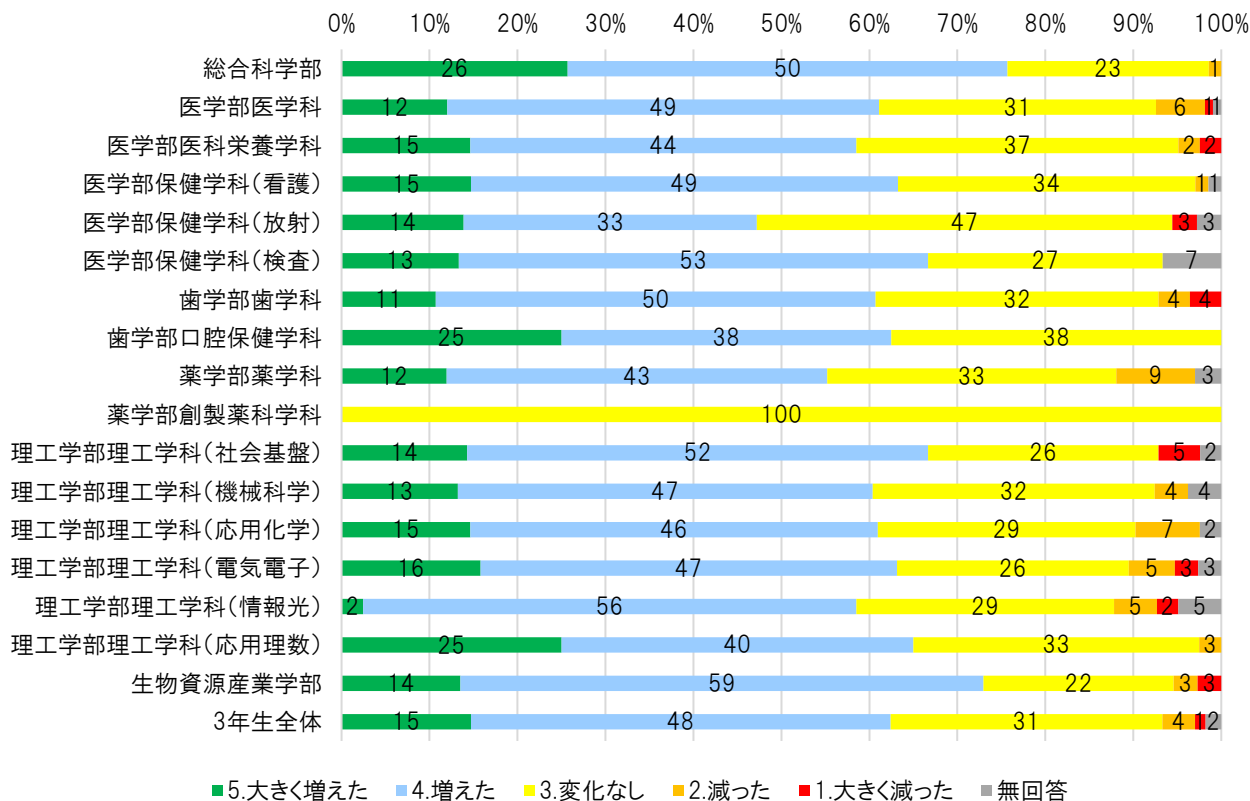
[64] 必要な情報を収集・取捨選択する能力



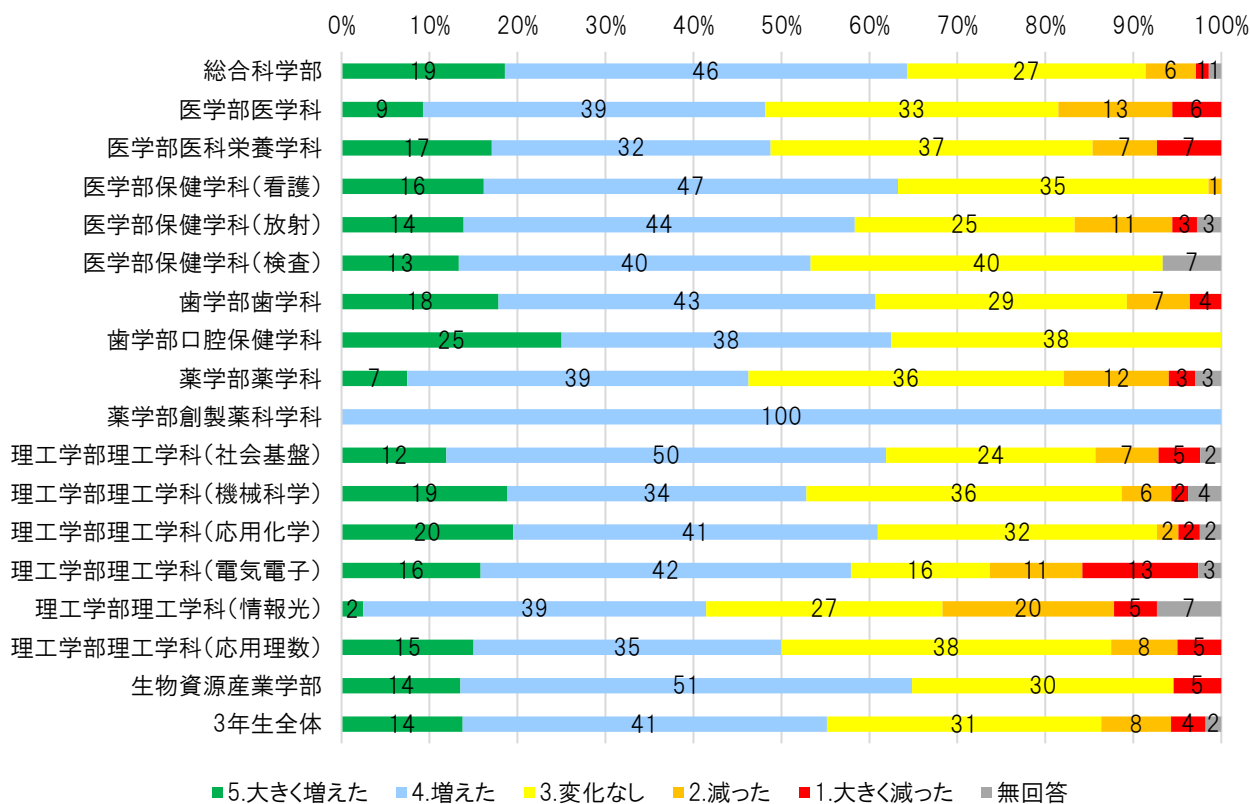
[65] データを読み、理解し、活用する能力



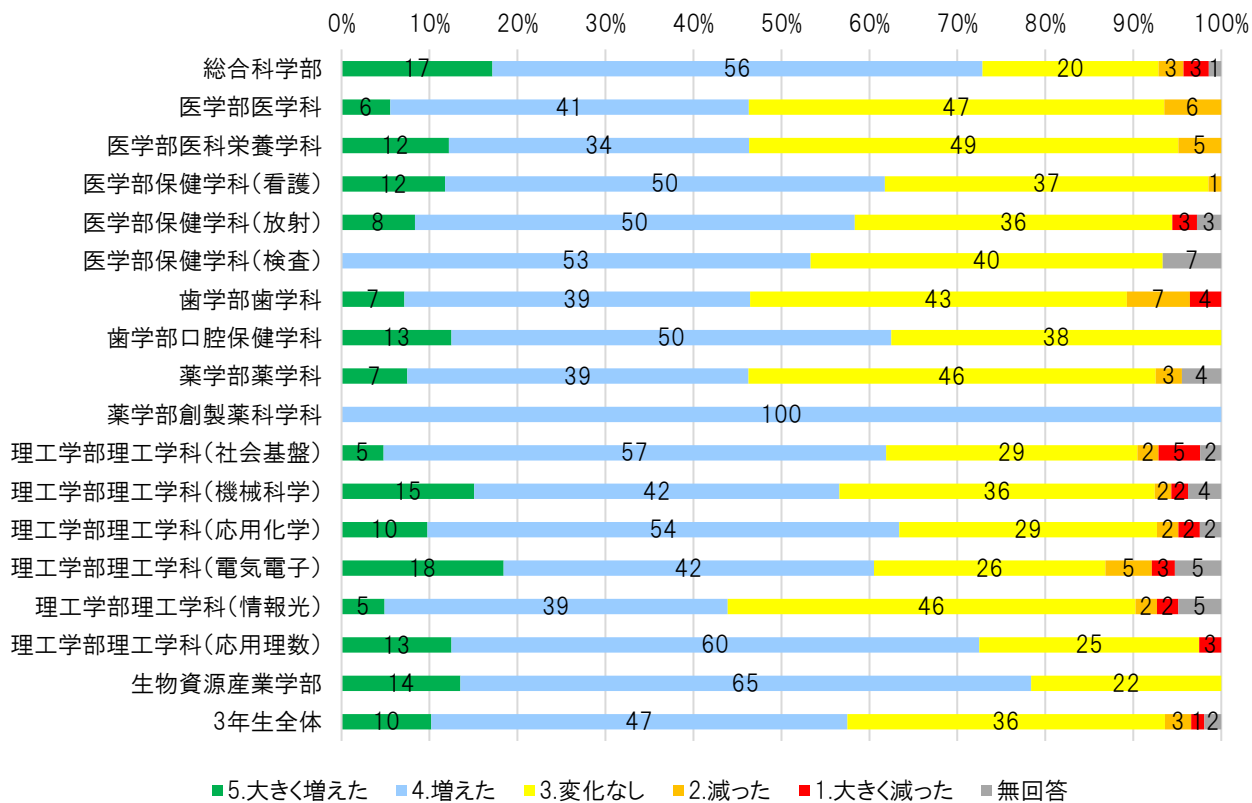
[66]新しいことに積極的に挑戦する姿勢



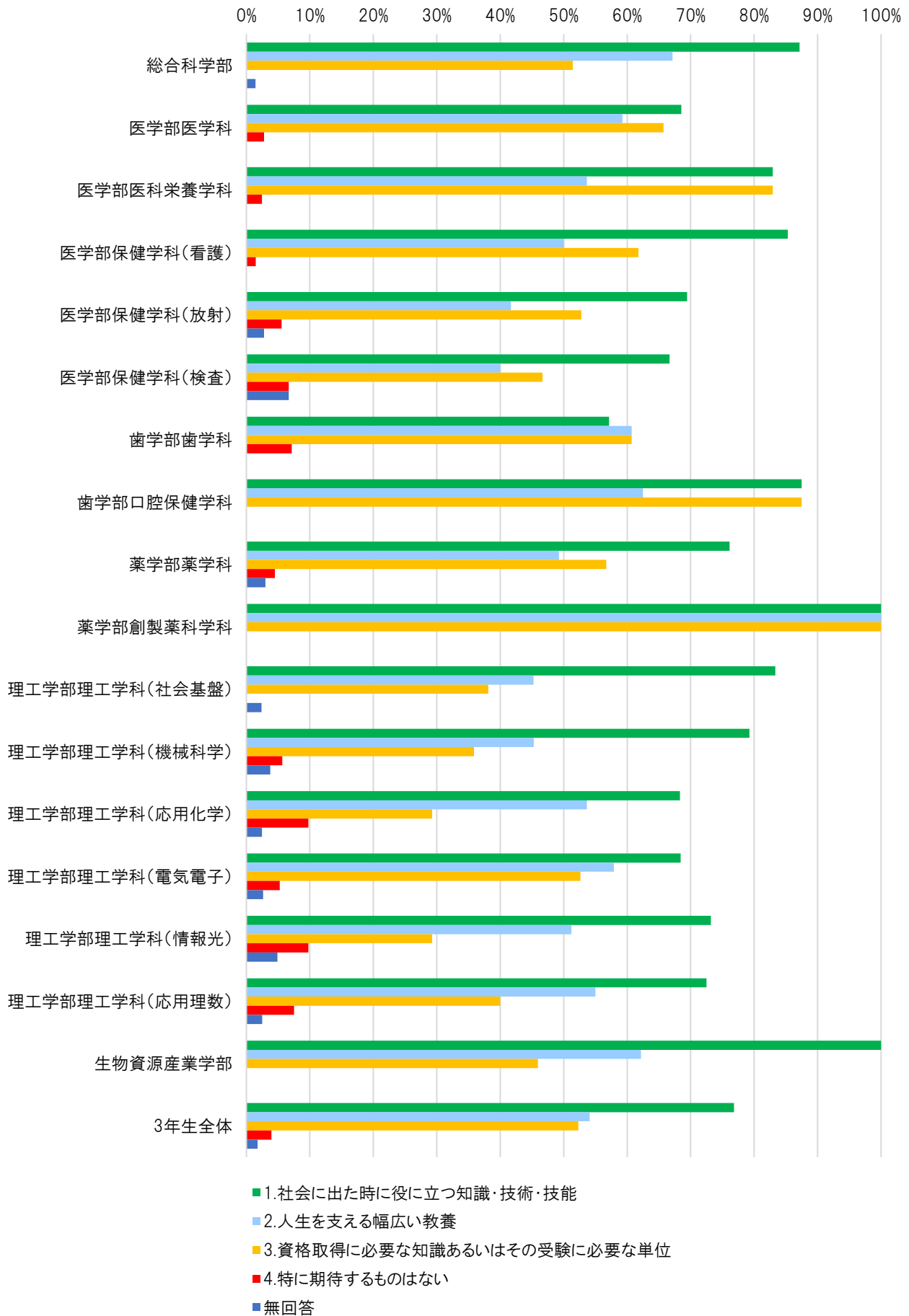
[67]ストレスに対処する能力



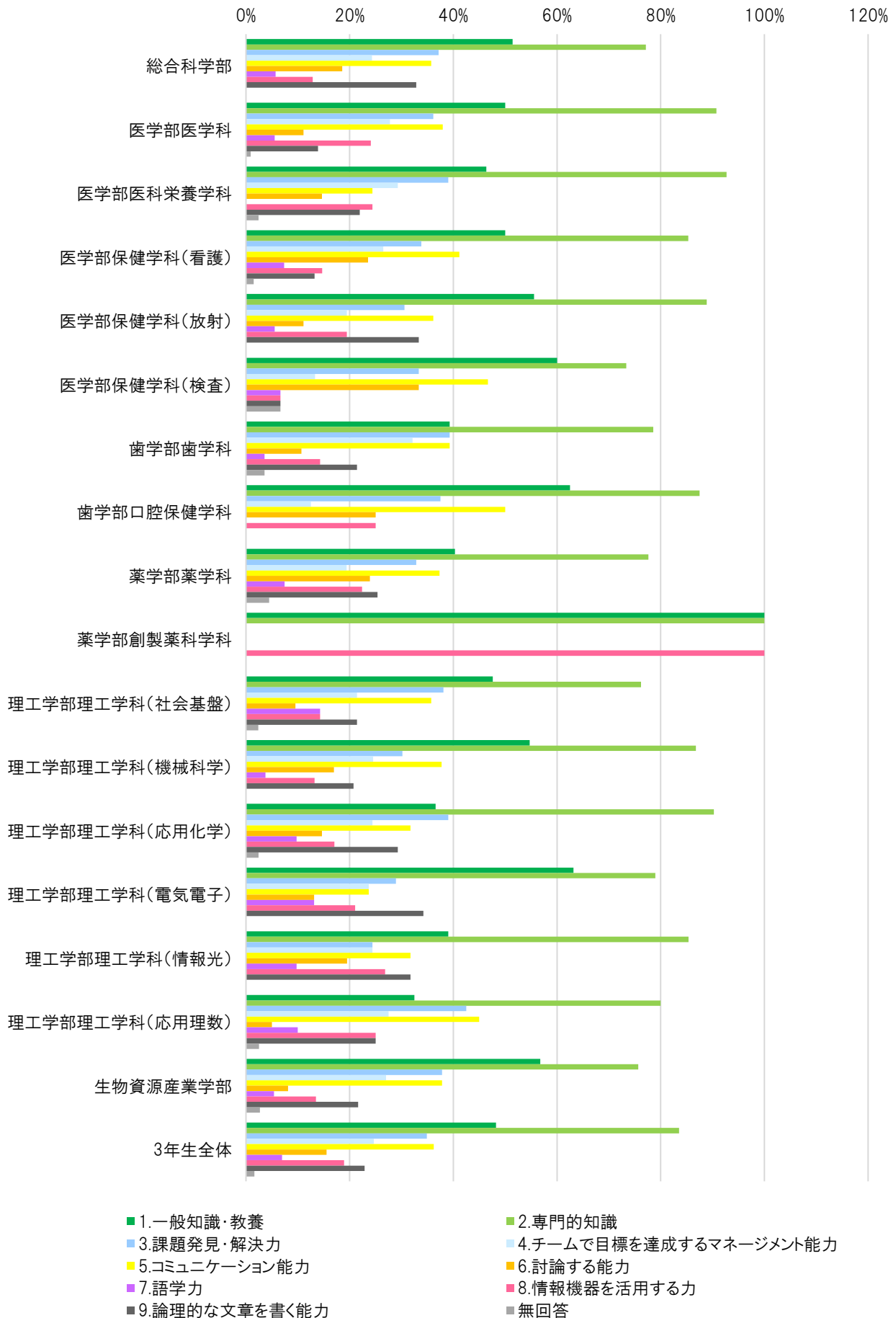
[68]柔軟に発想し、表現する能力



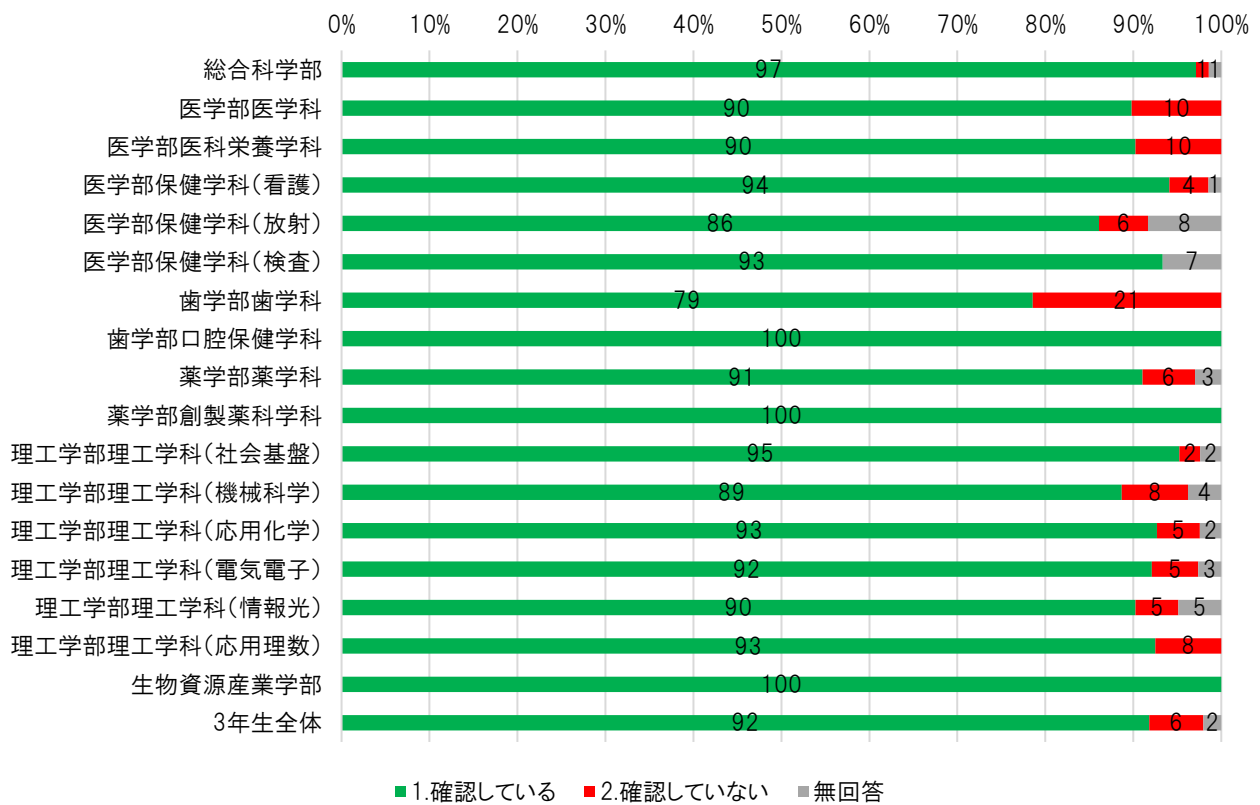
[69]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)



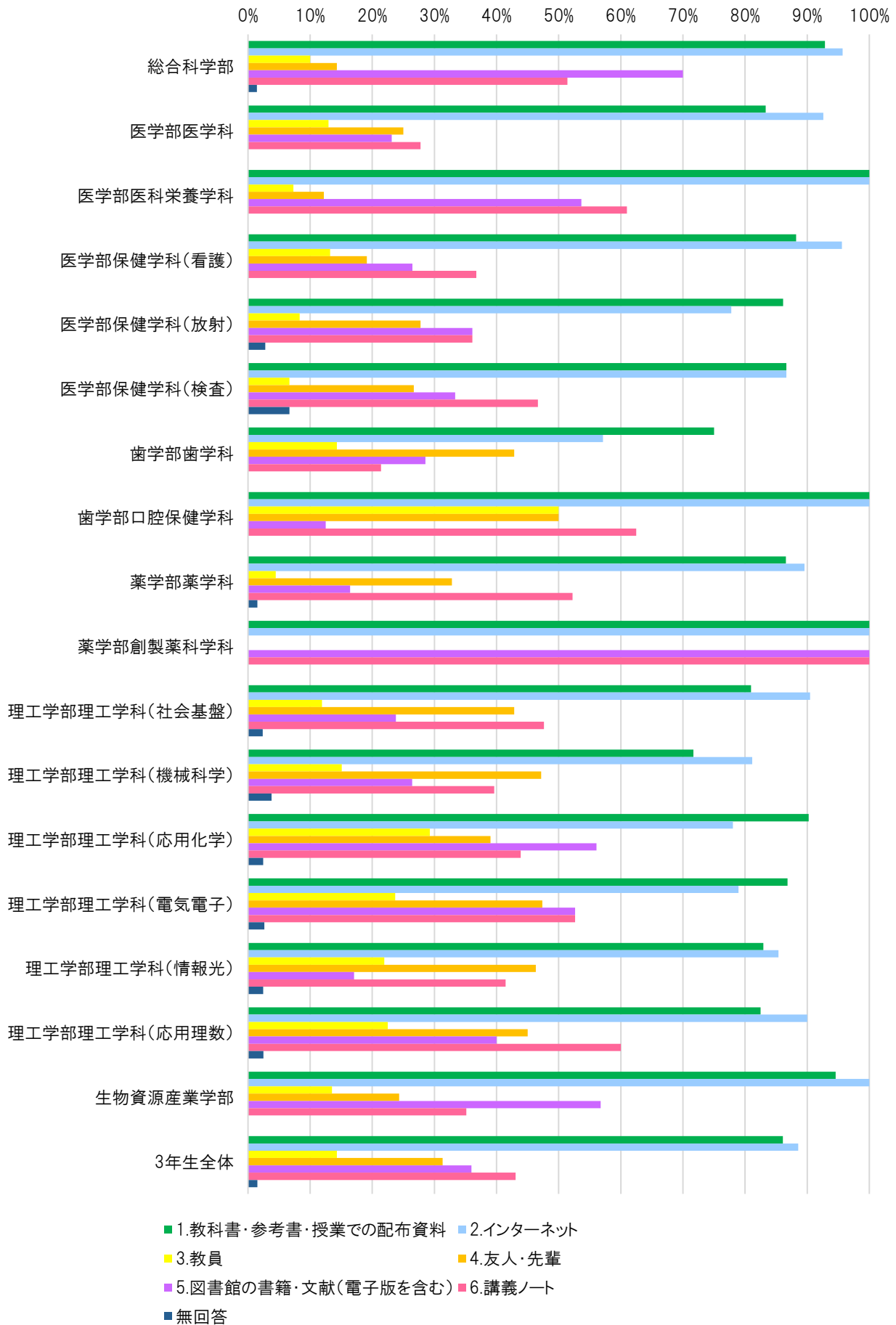
[70]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。



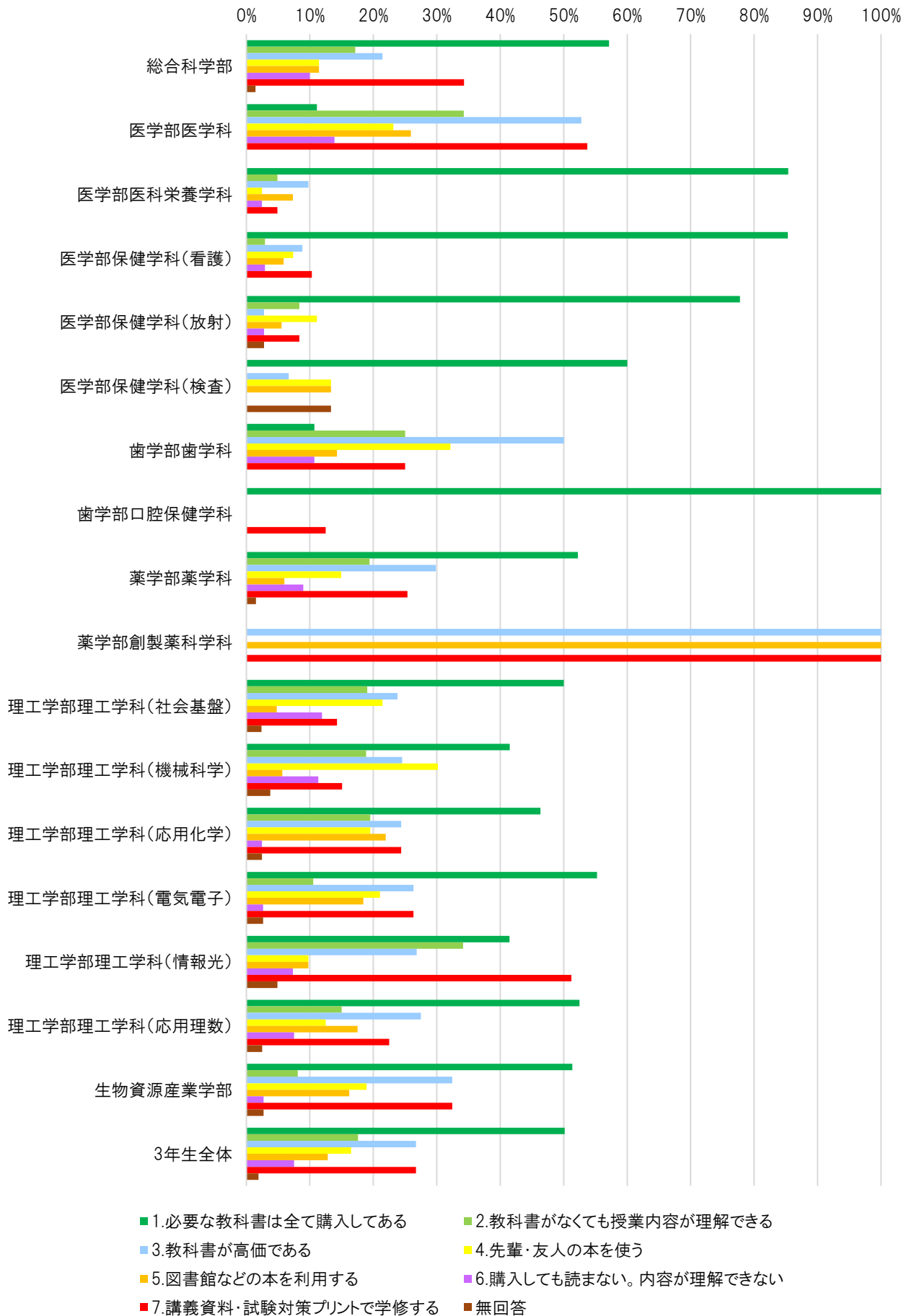
[71]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載していません。自身の「GPA」について確認していますか。



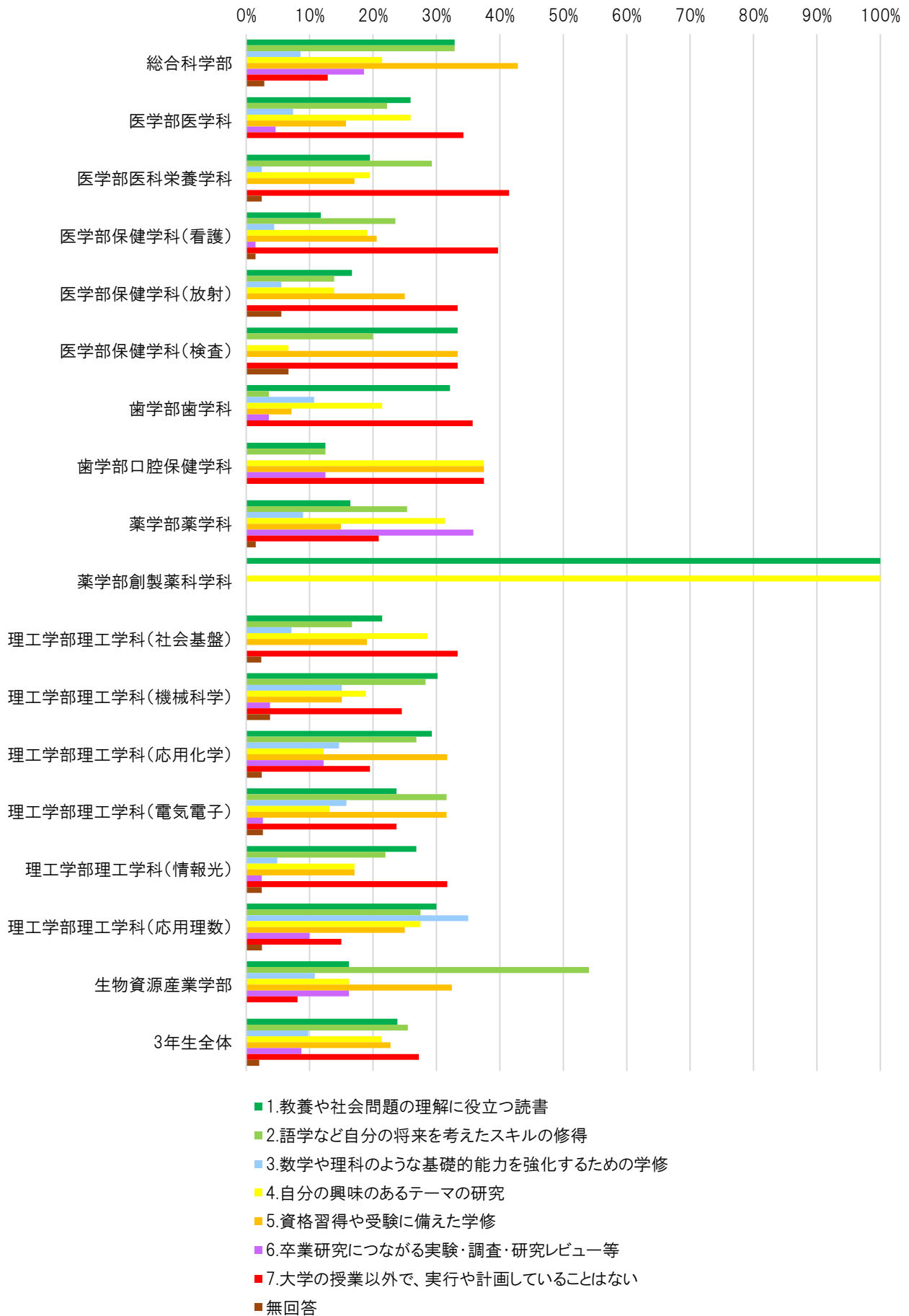
[72]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



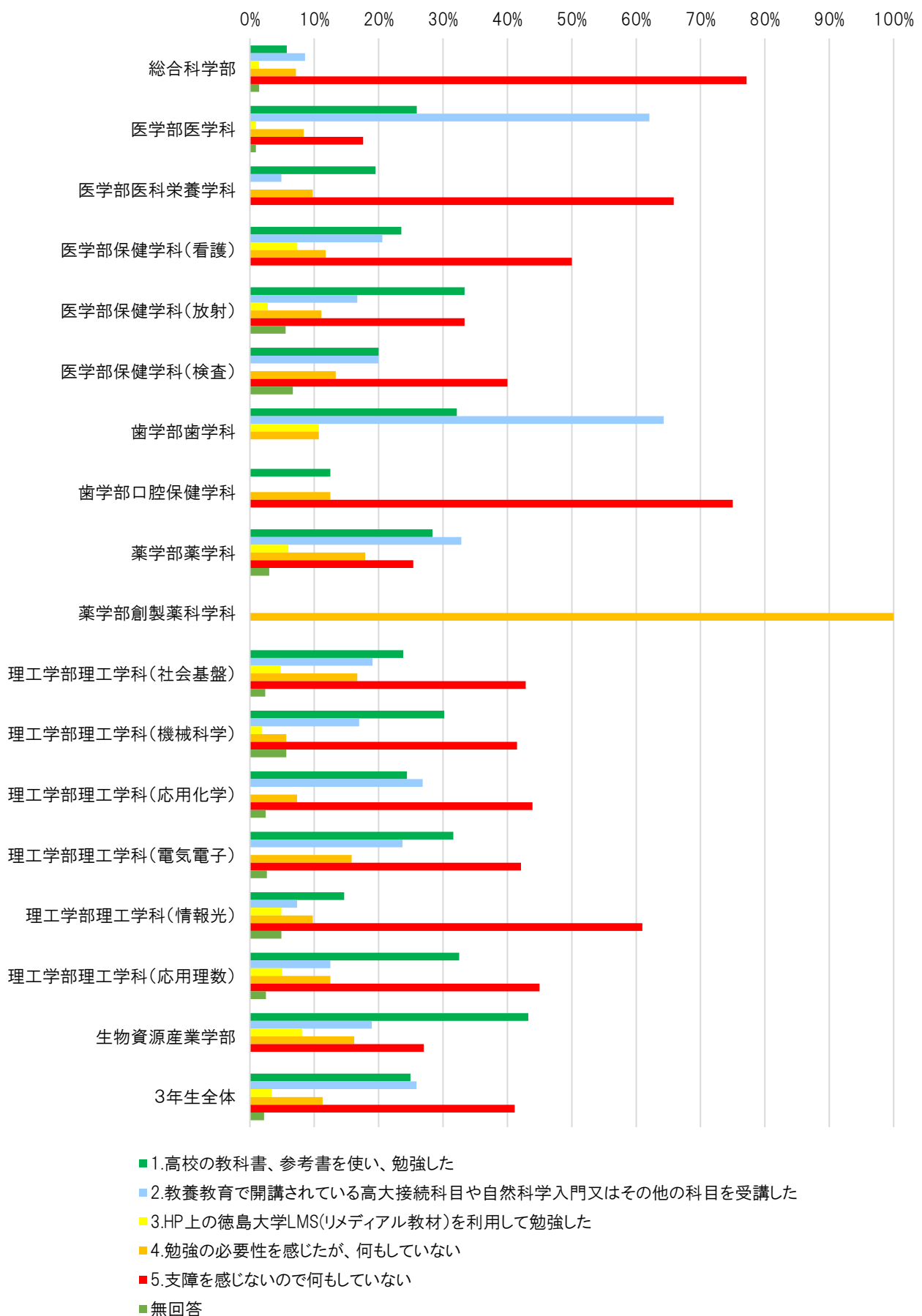
[73]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)



[74]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



[75]高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

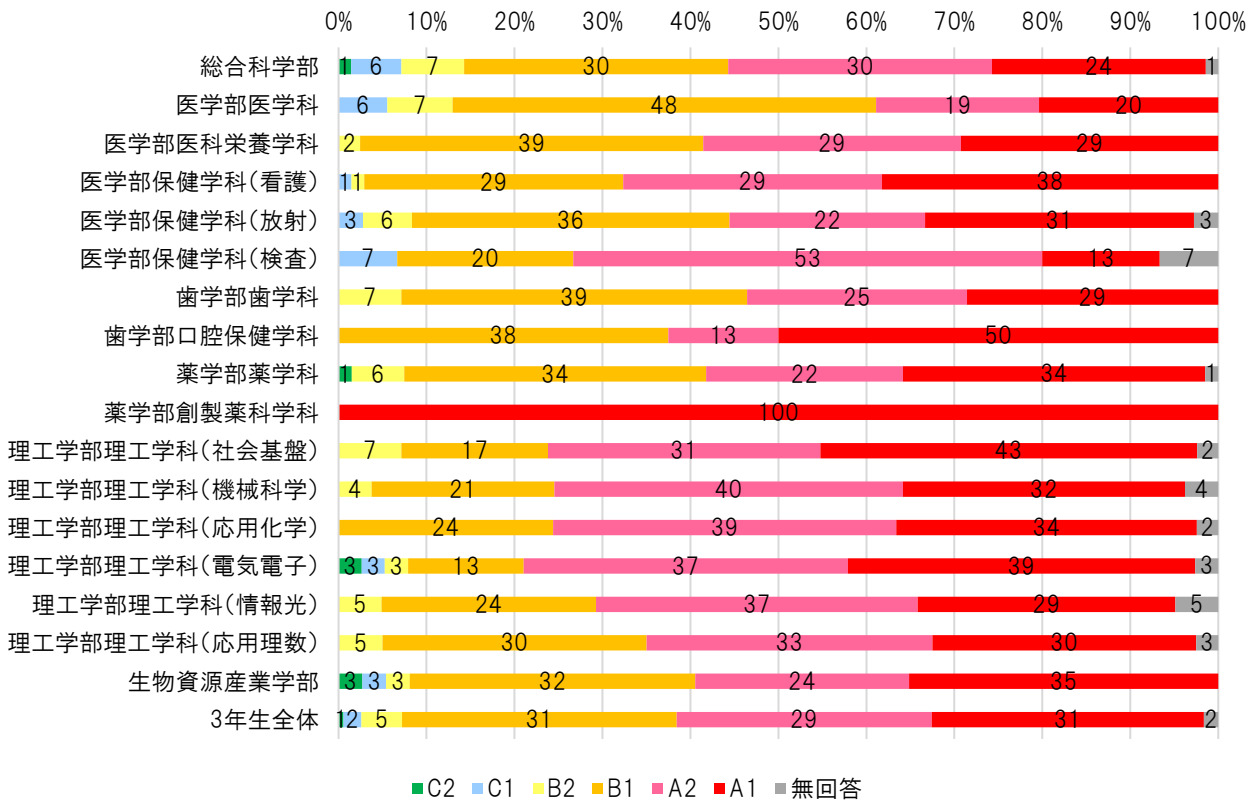


Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

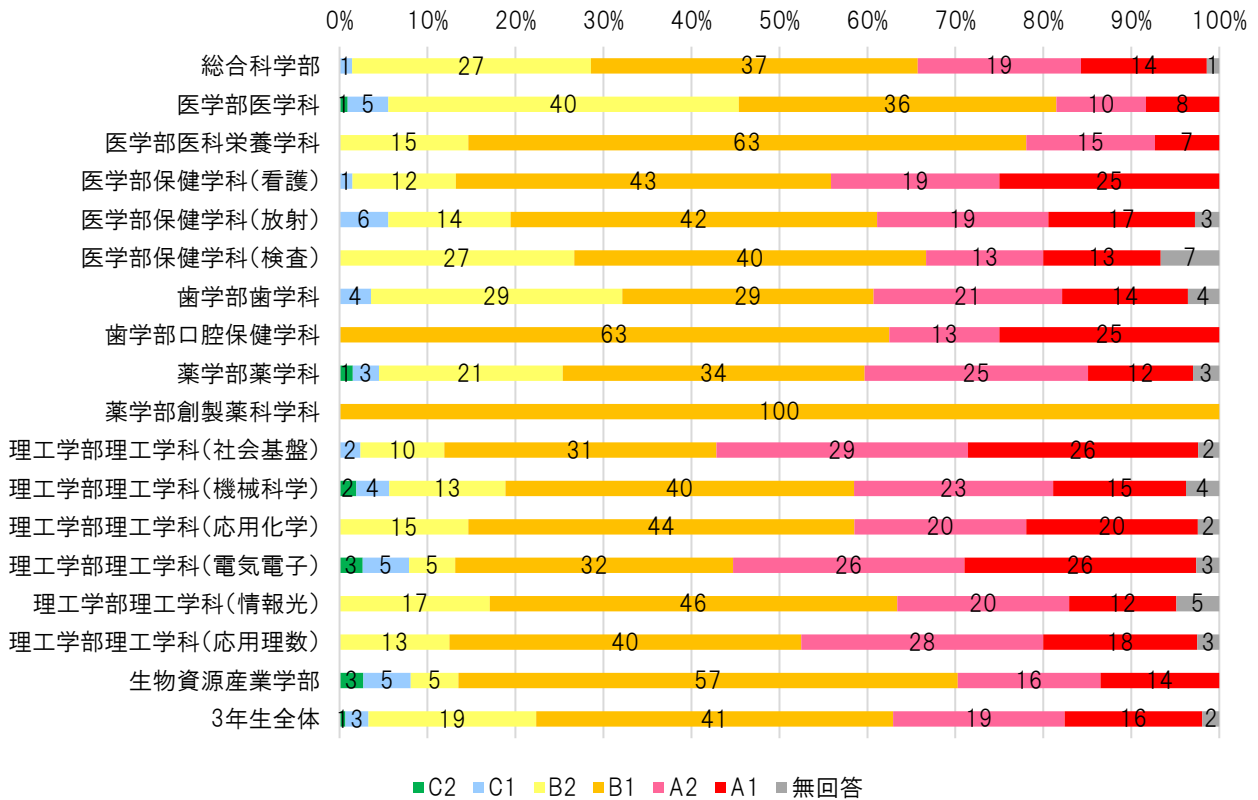
〔76〕聞く力

- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



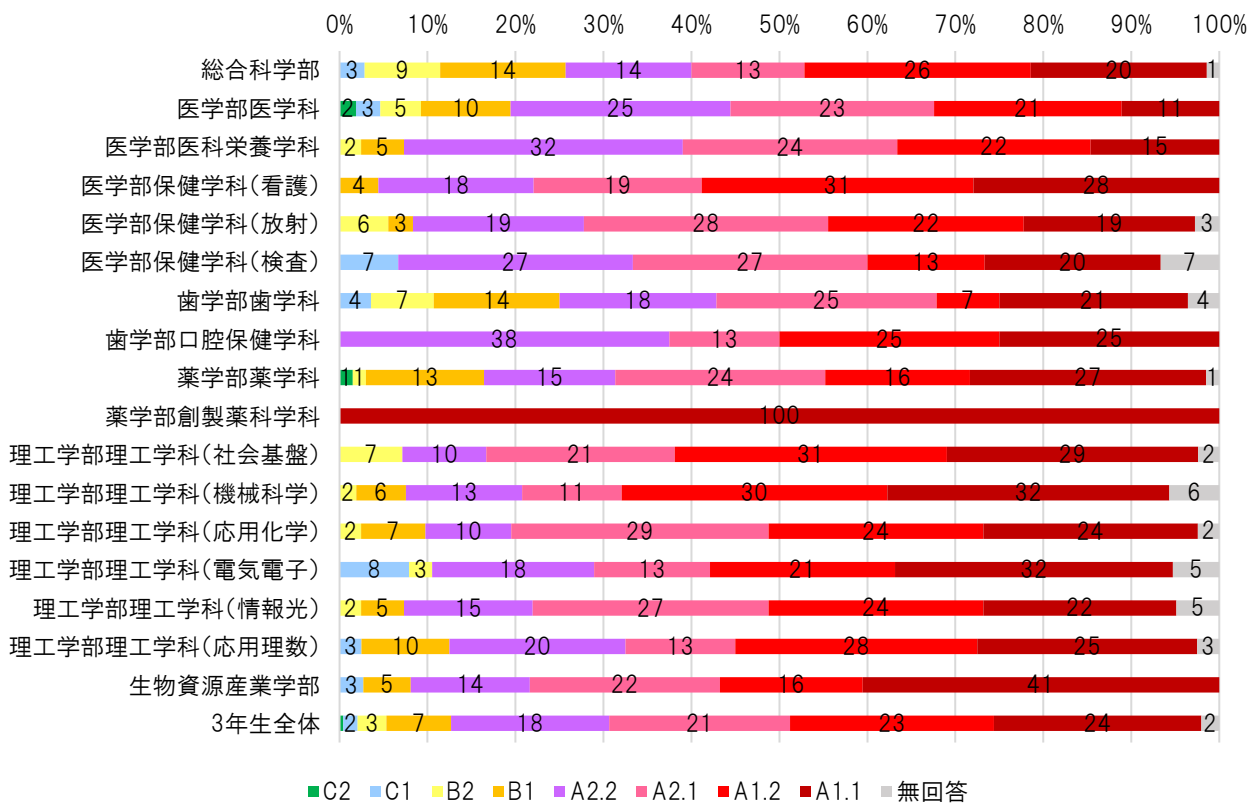
〔77〕読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
 A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
 B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
 B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
 C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
 C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。



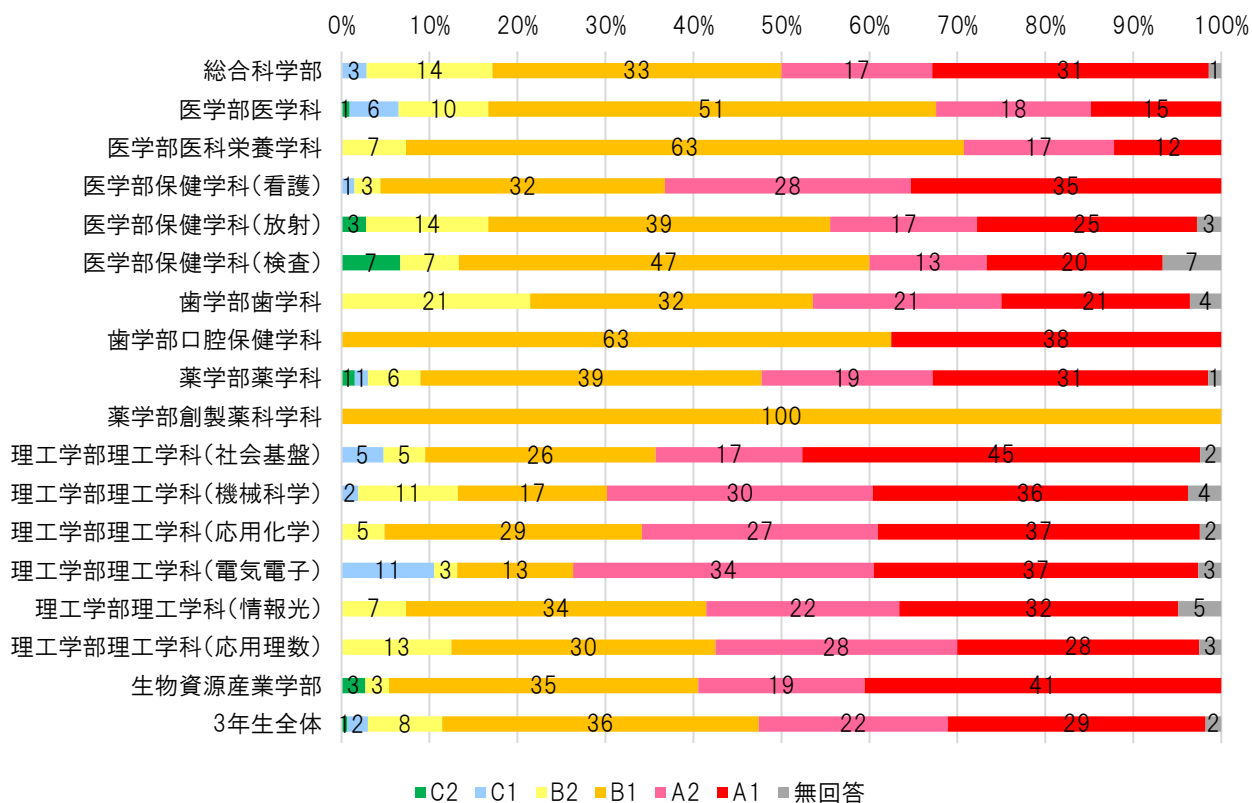
[78]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。



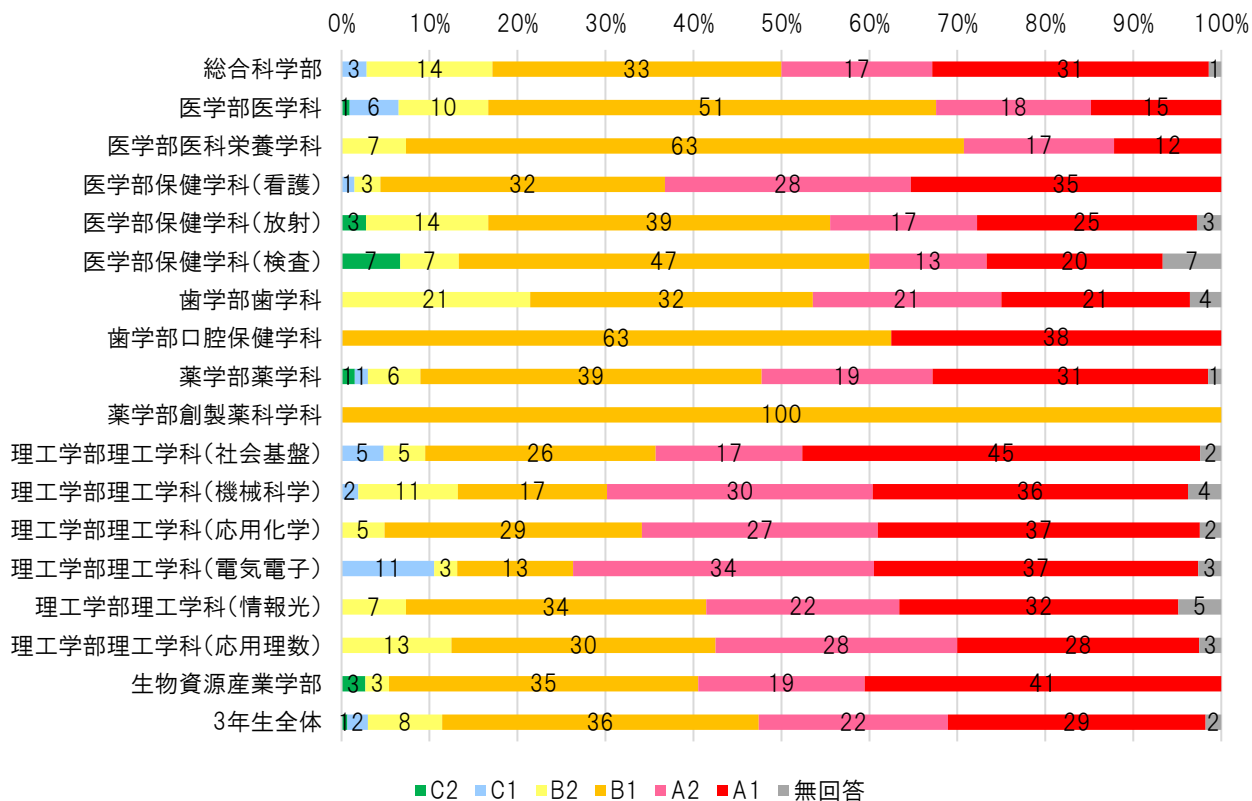
[79]表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

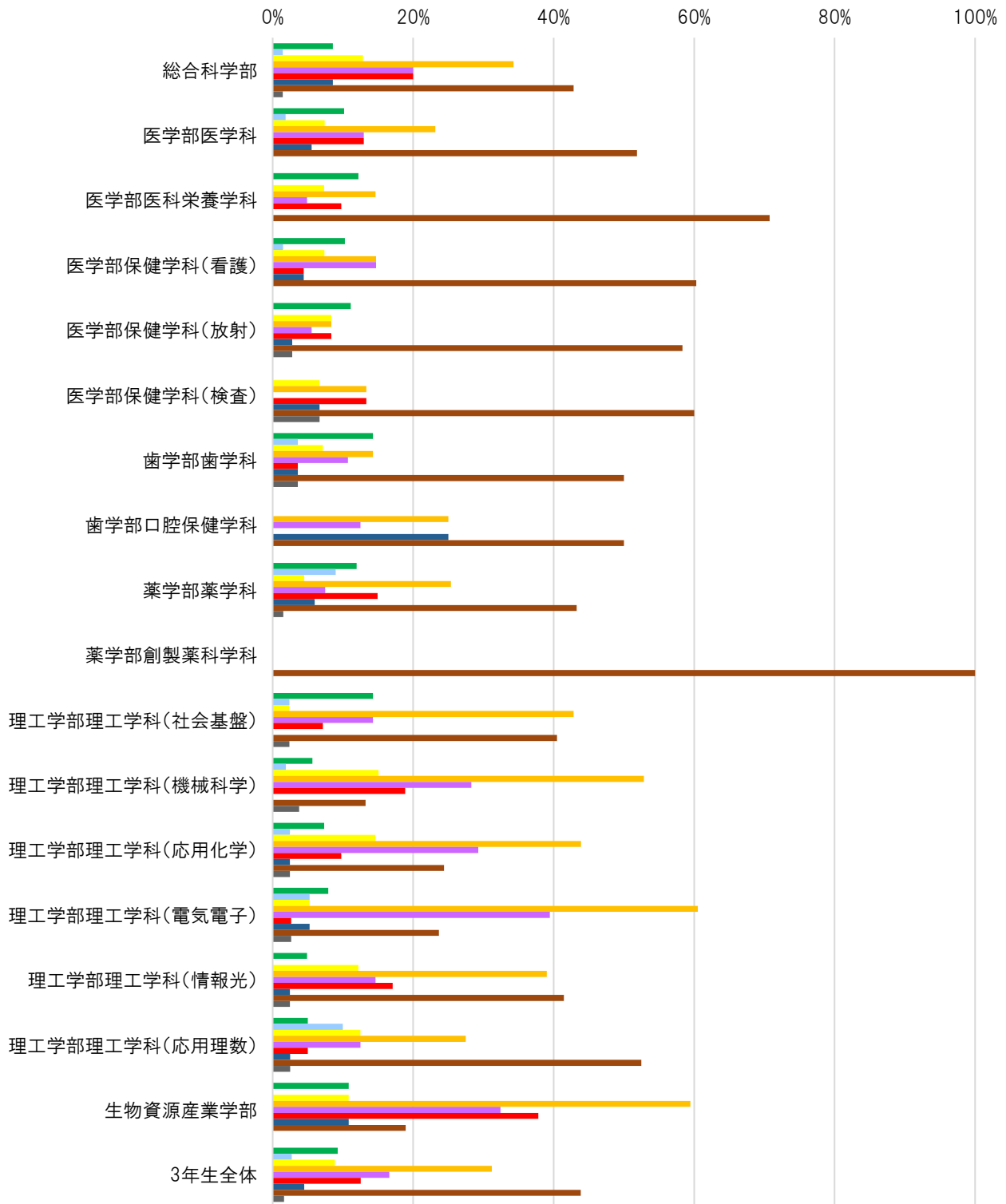


[80]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

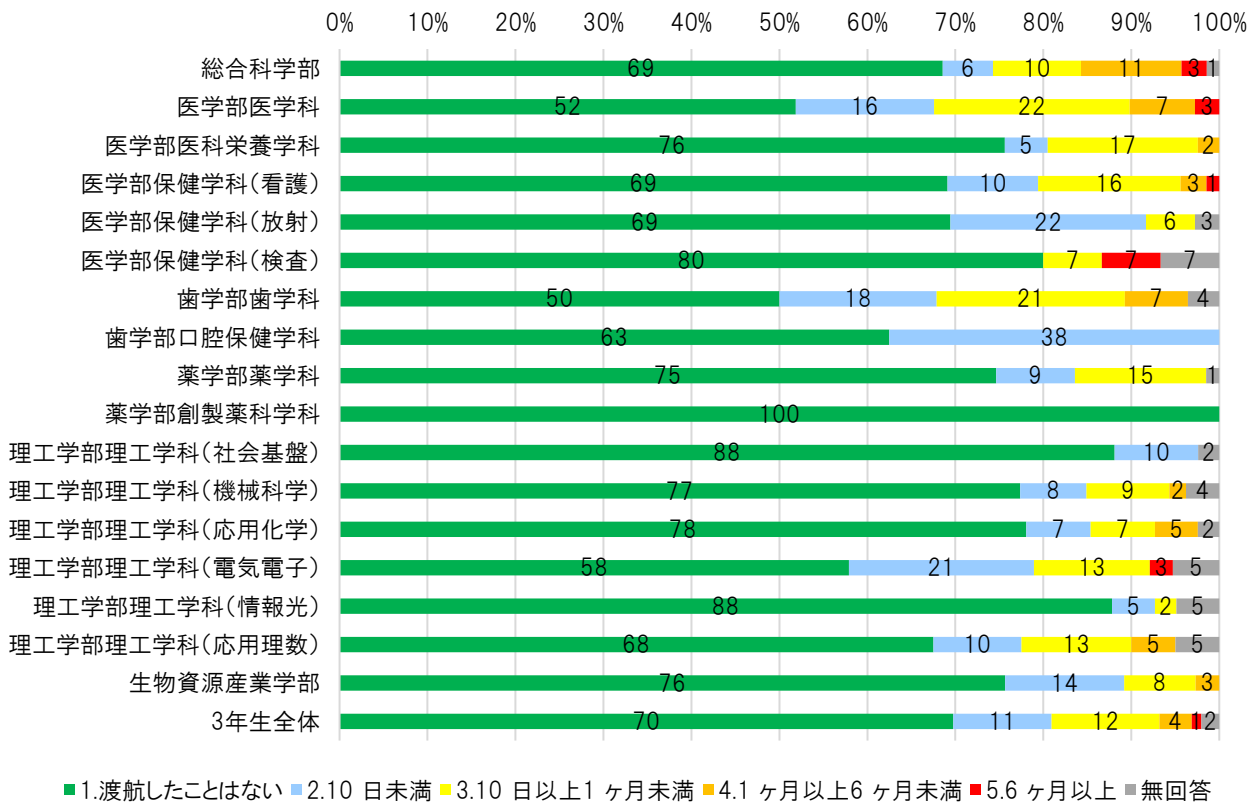


[81]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

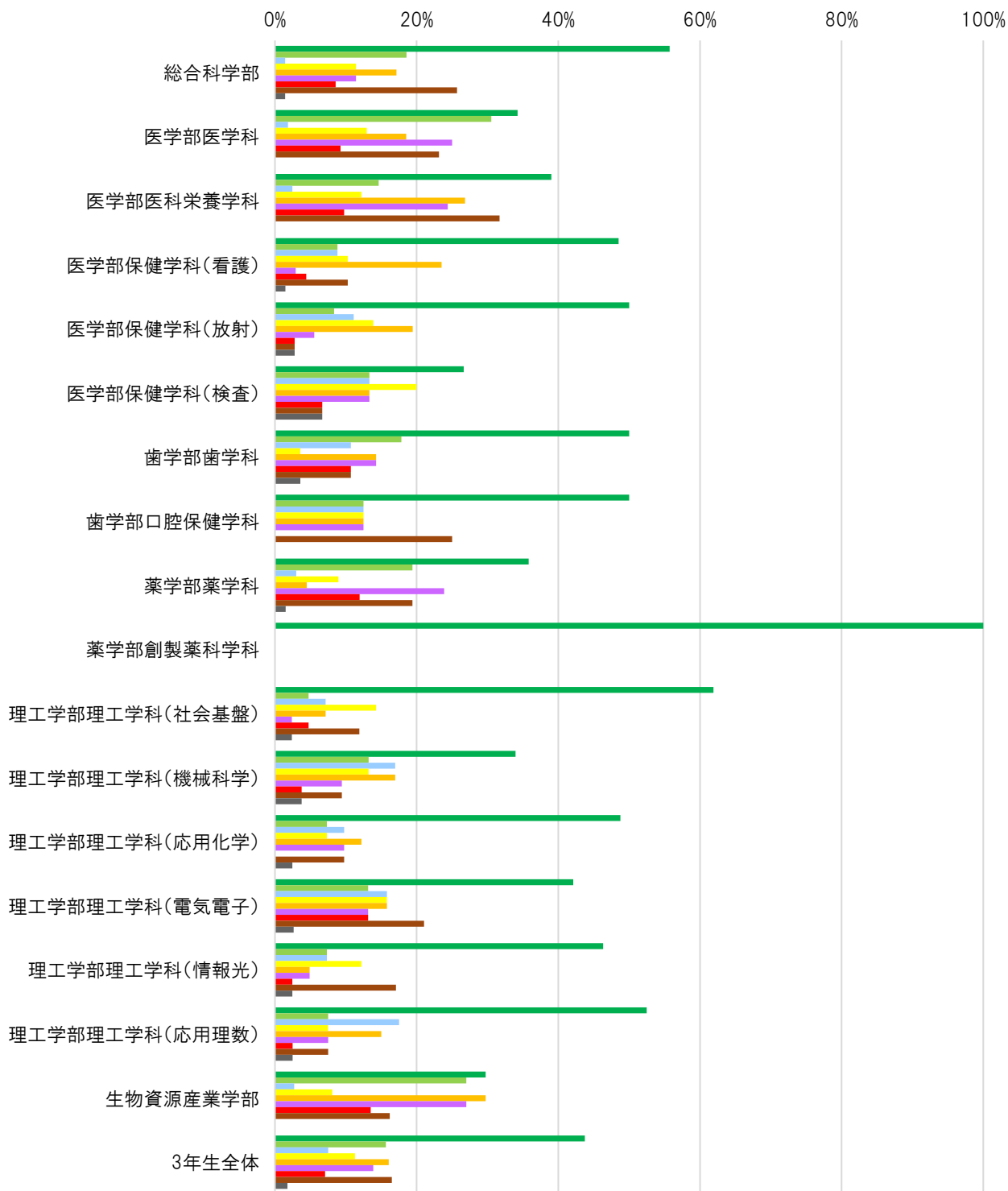


- 1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2. 英会話スクールを利用している
- 3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
- 4. TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している
- 5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
- 6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
- 7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
- 8. 特に何もしていない
- 無回答

[82]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



[83]徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

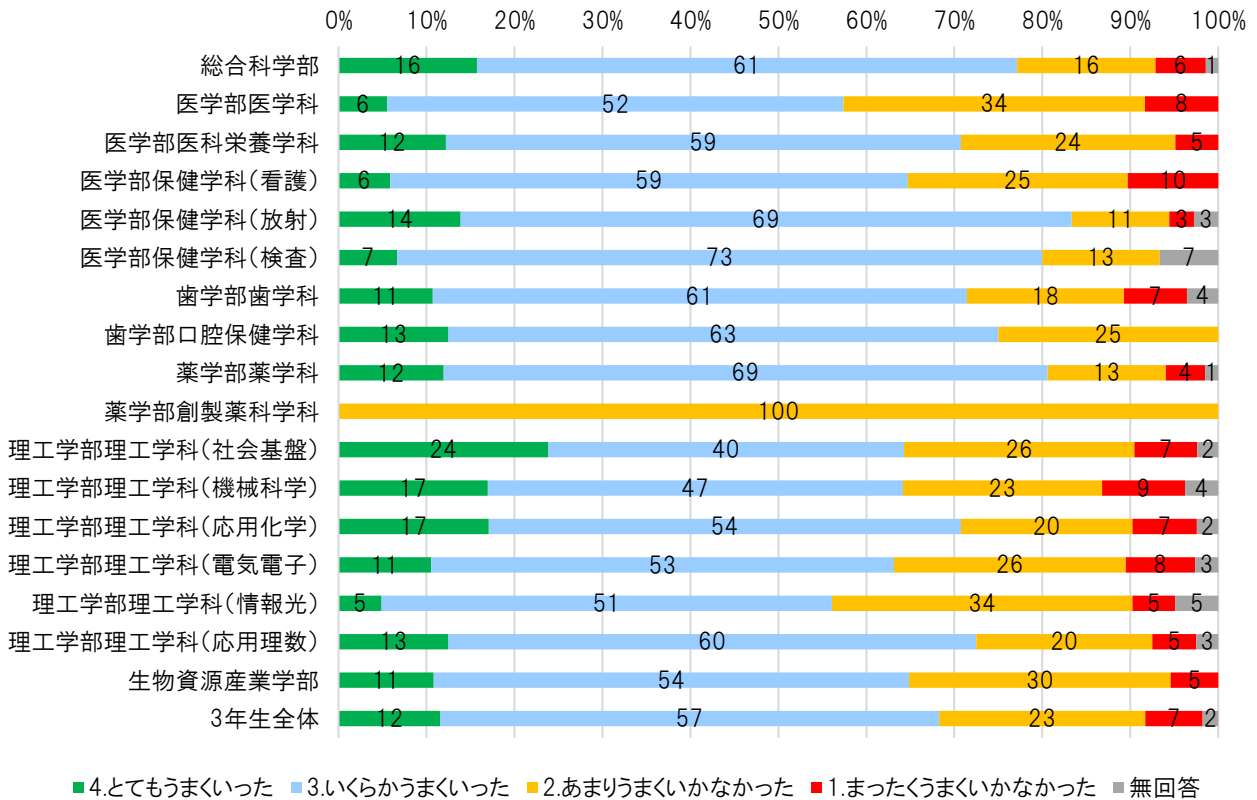


- 1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門教育の英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
- 8. 専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 無回答

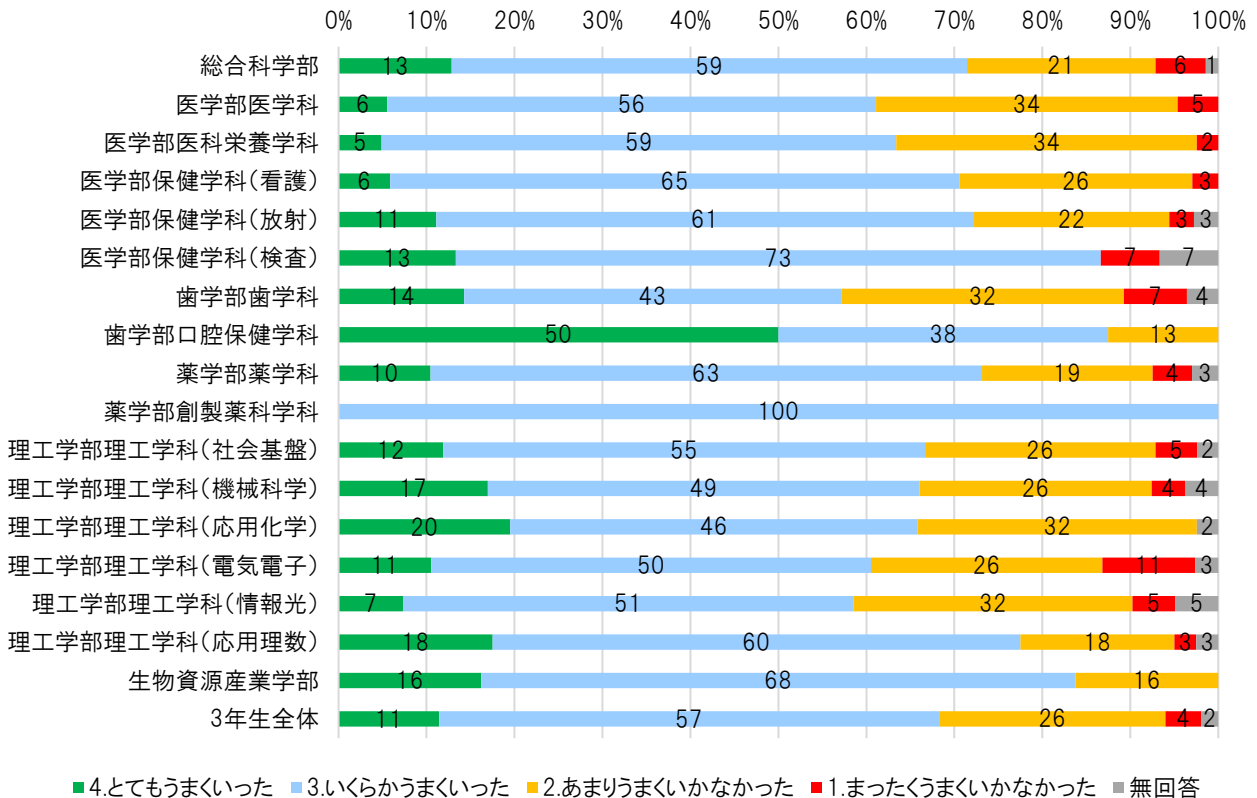
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことからはどれくらいまよくなりましたか

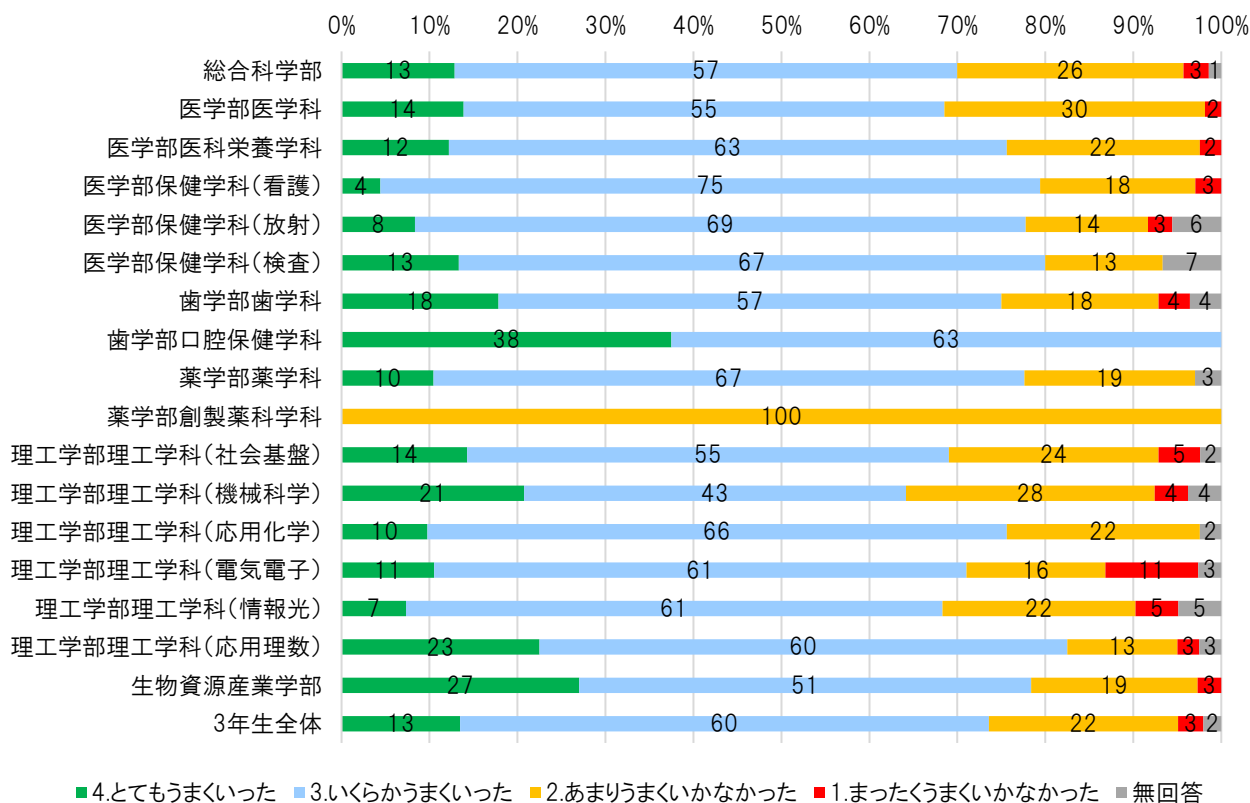
[84]大学の学生向けサービスを上手に利用する



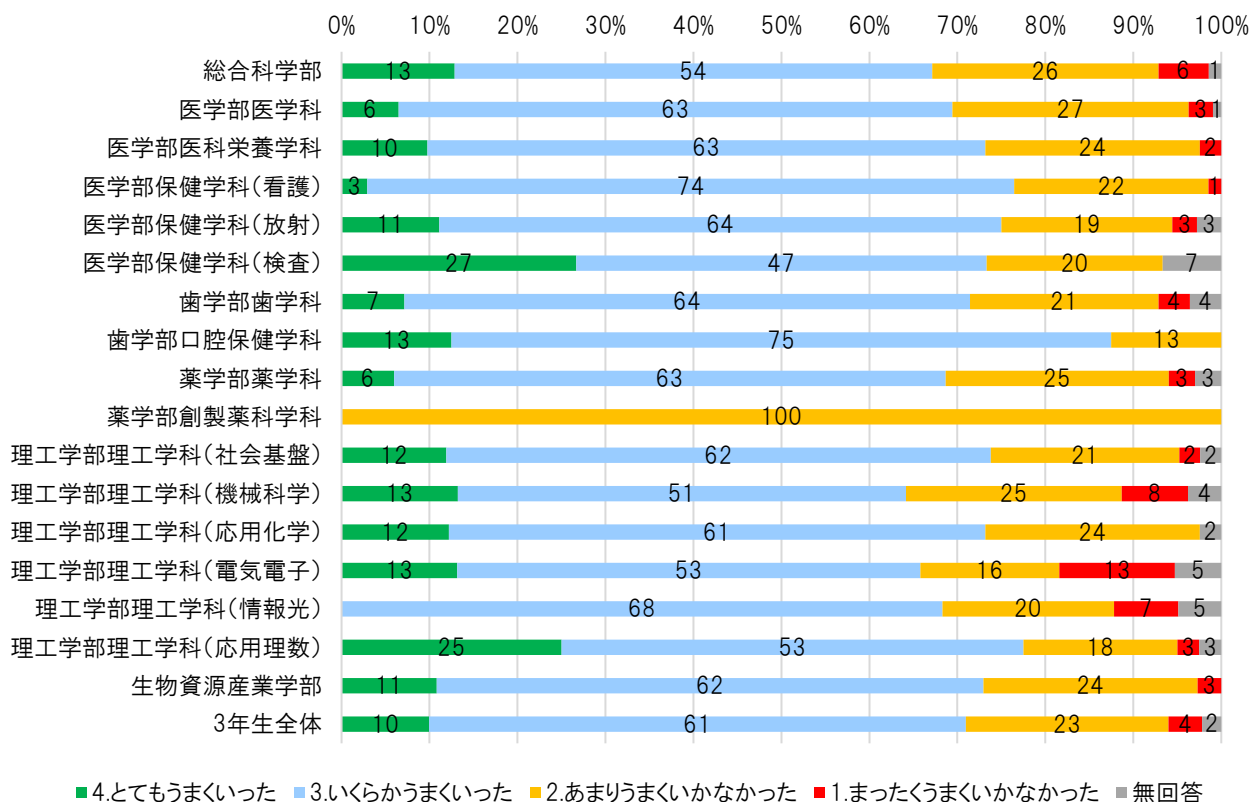
[85]大学教員の学問的な期待を理解する



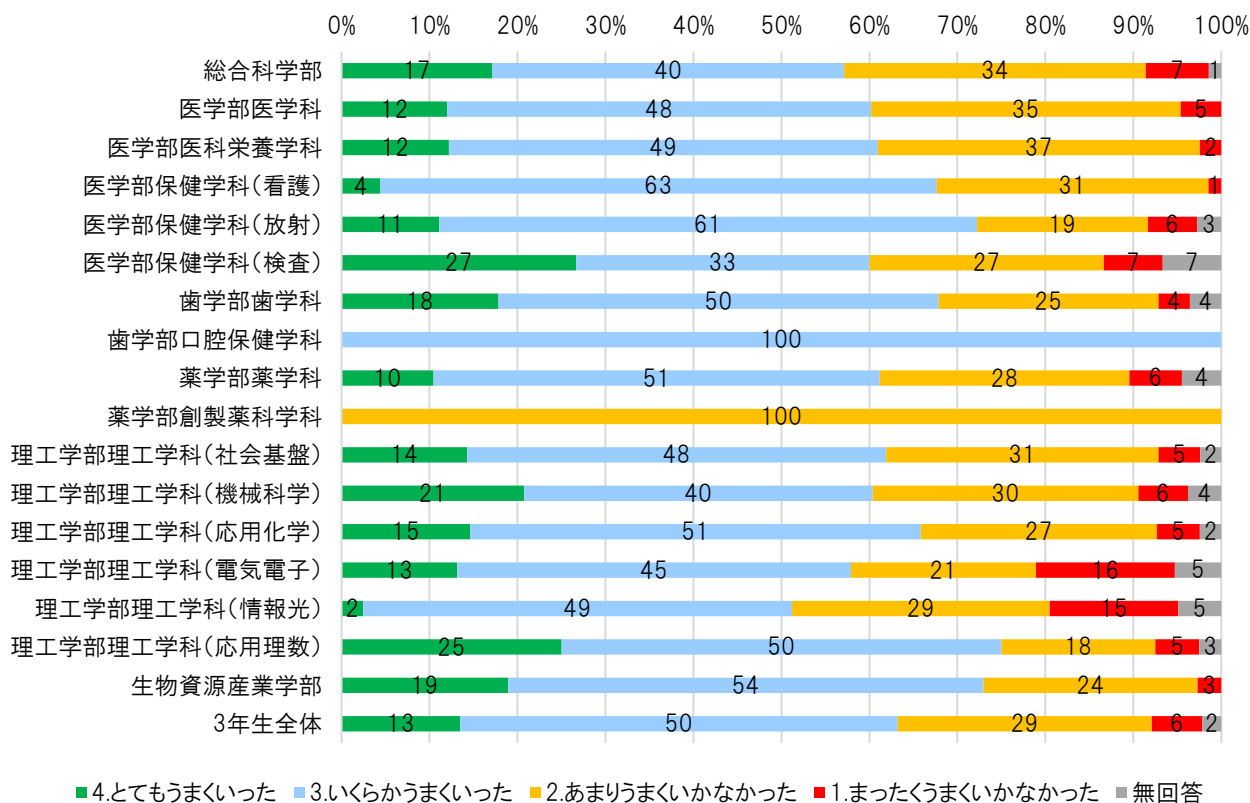
[86]効果的に学習する技能を修得する



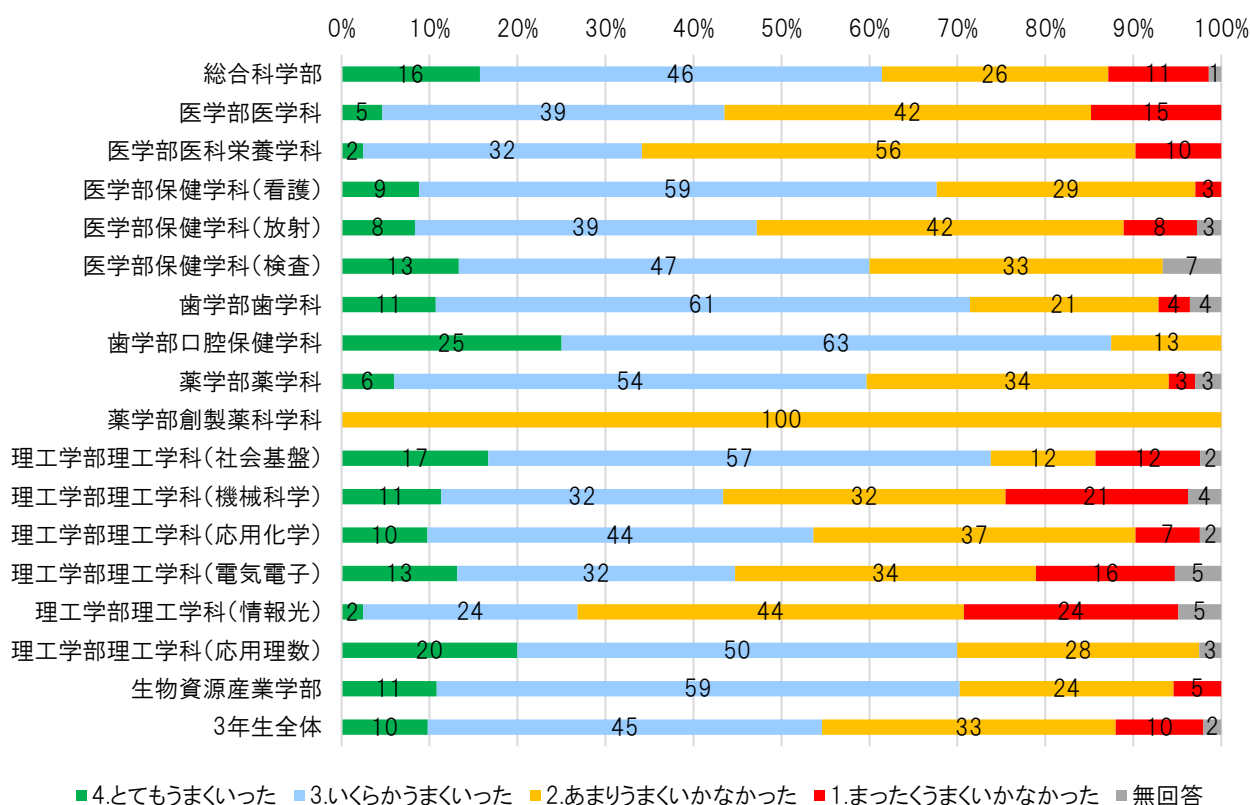
[87]大学が求める水準に応じて学習する



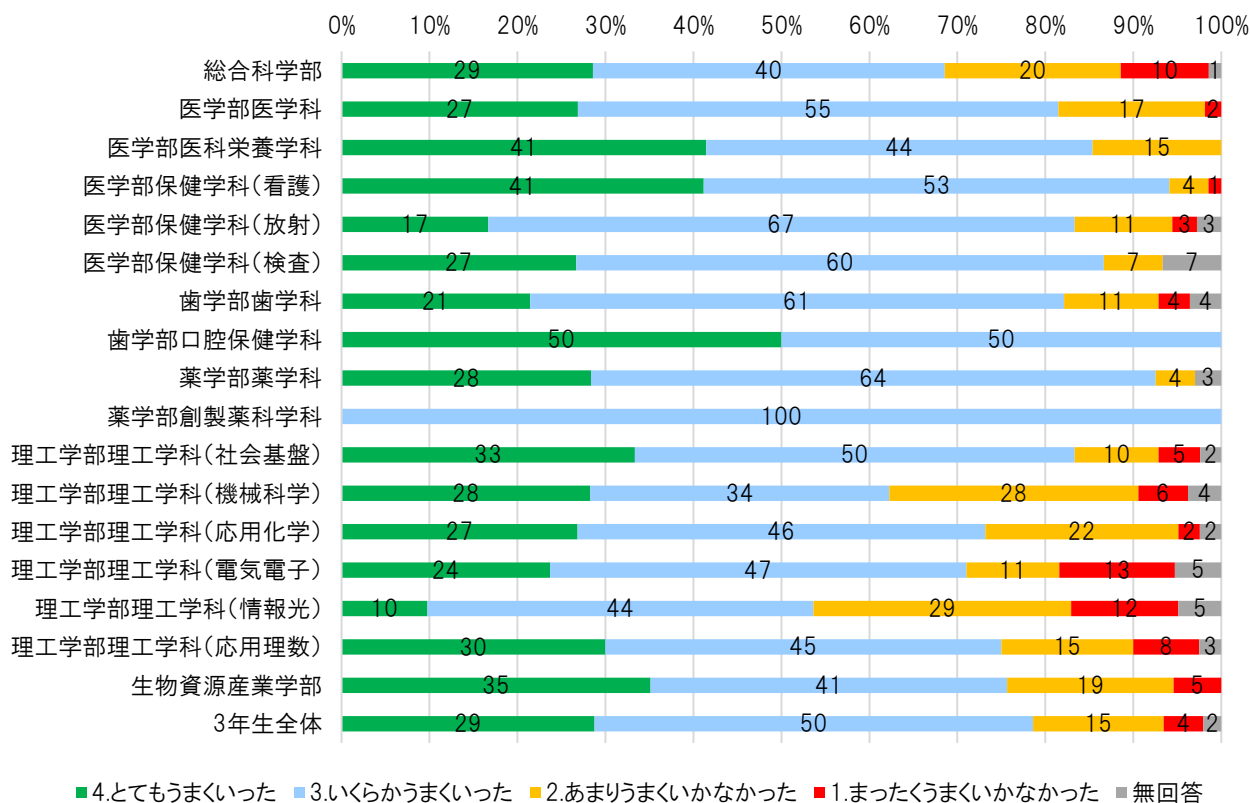
[88] 時間を効果的に使う



[89] 大学教員と顔見知りになる

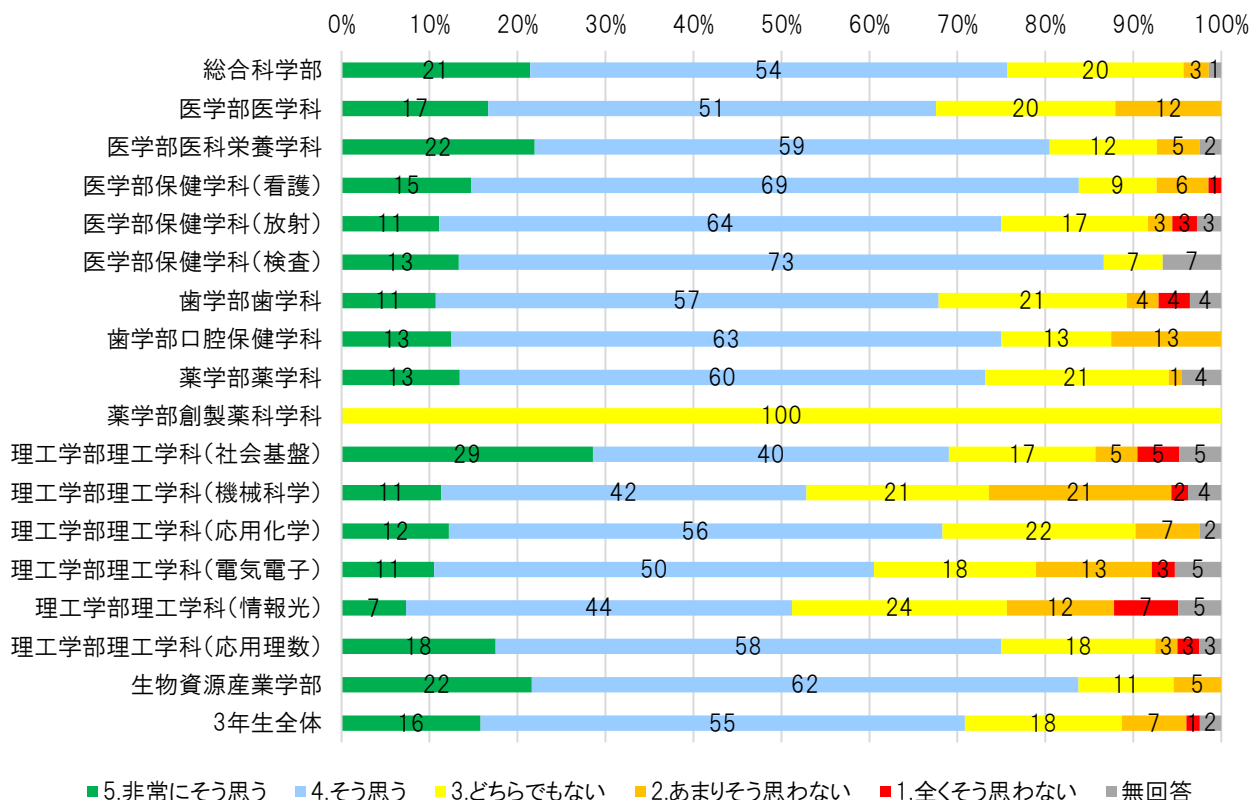


[90]他の学生との友情を深める

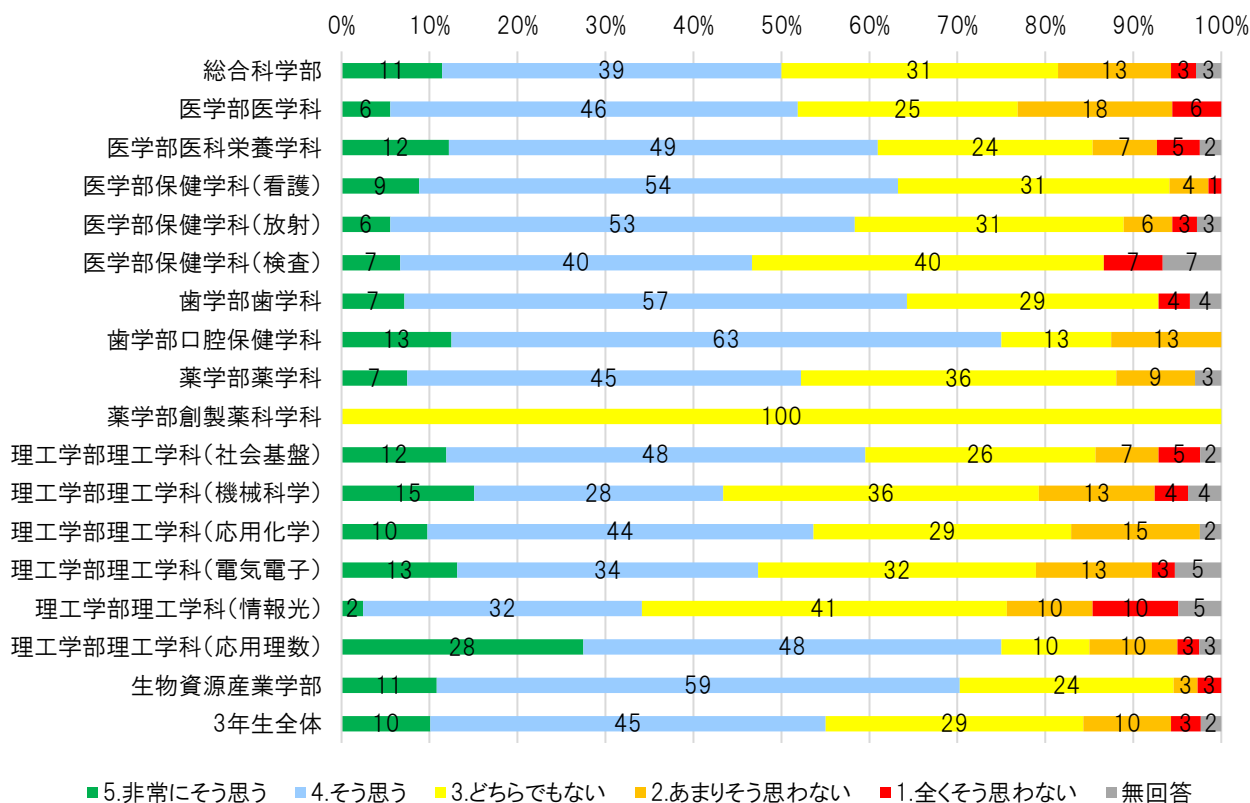


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

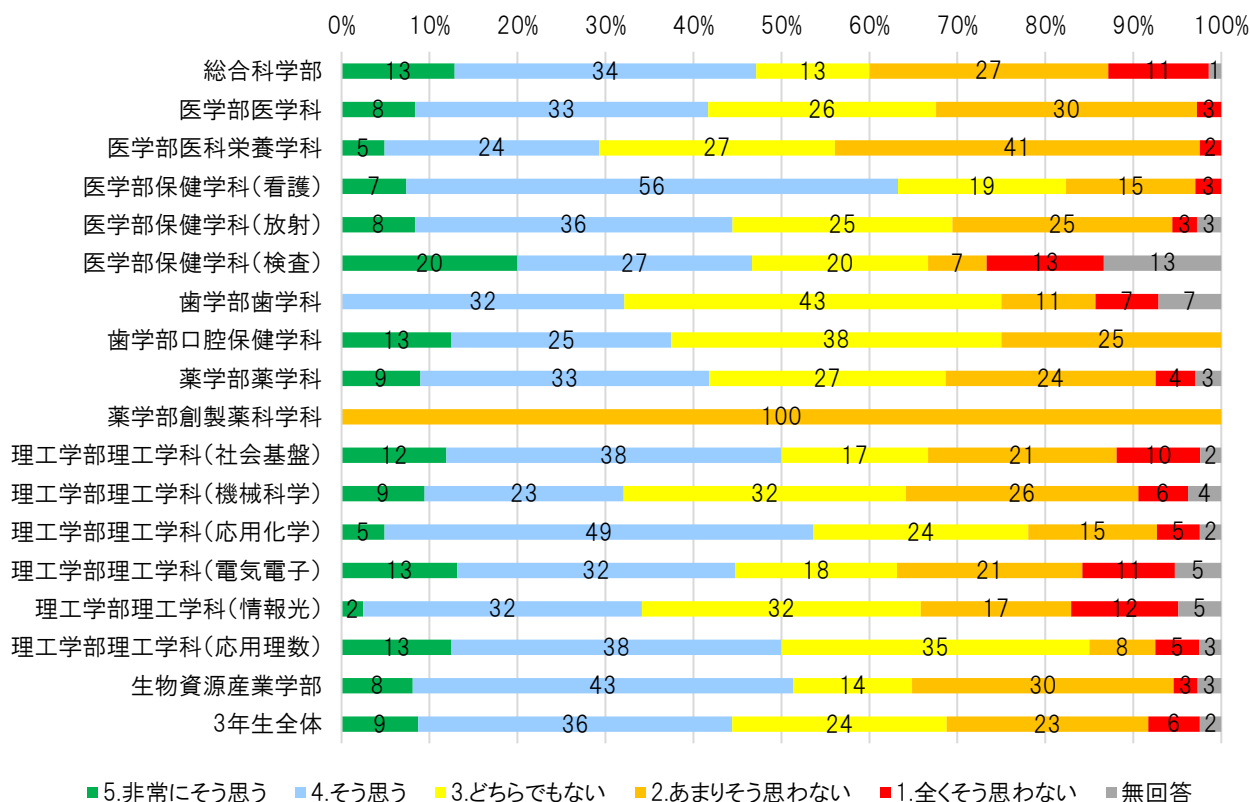
[91]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



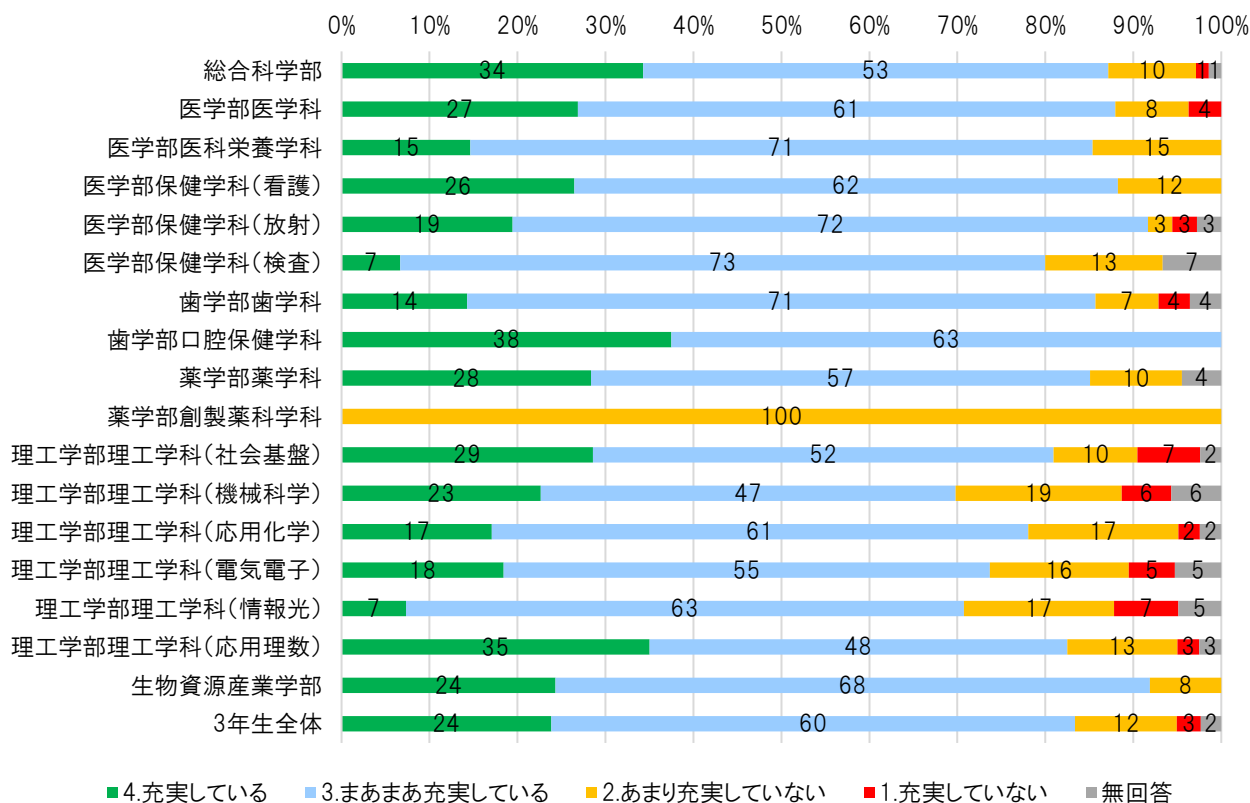
[92]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[93]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

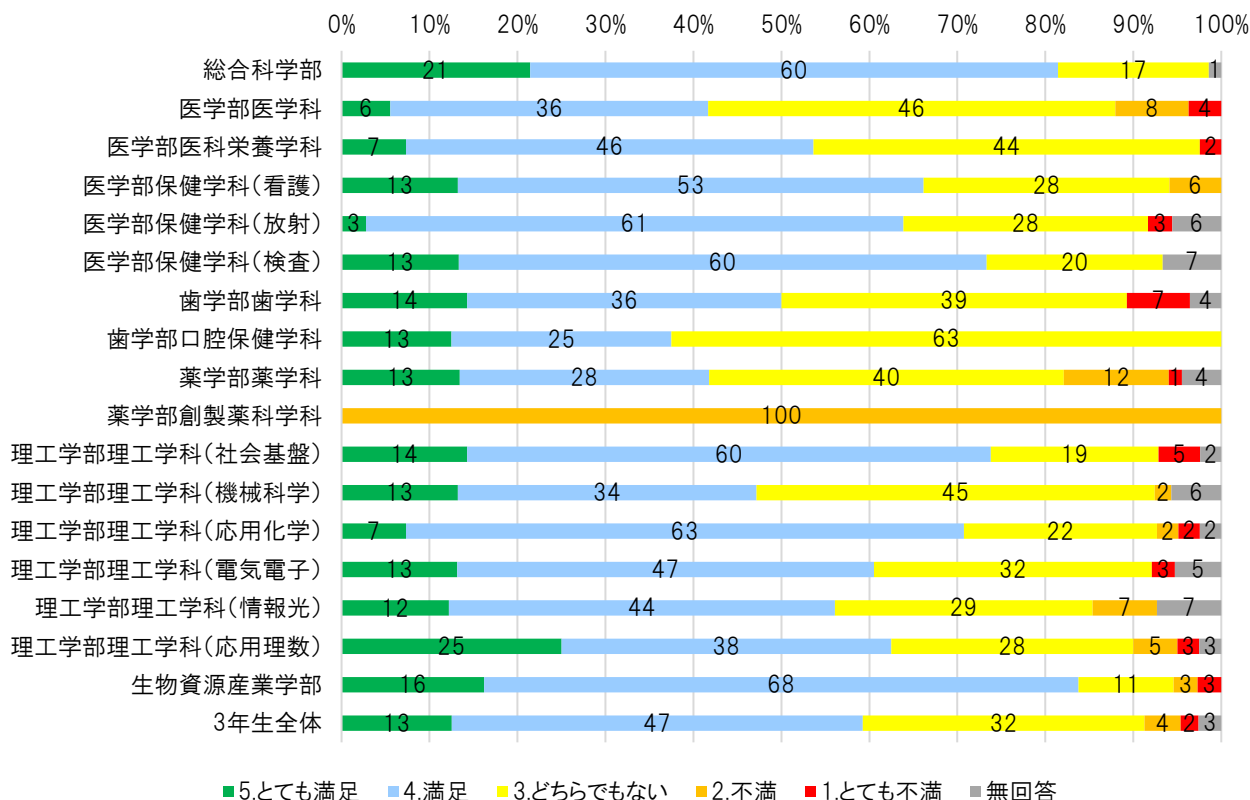


[94]あなたの学生生活は充実していますか。

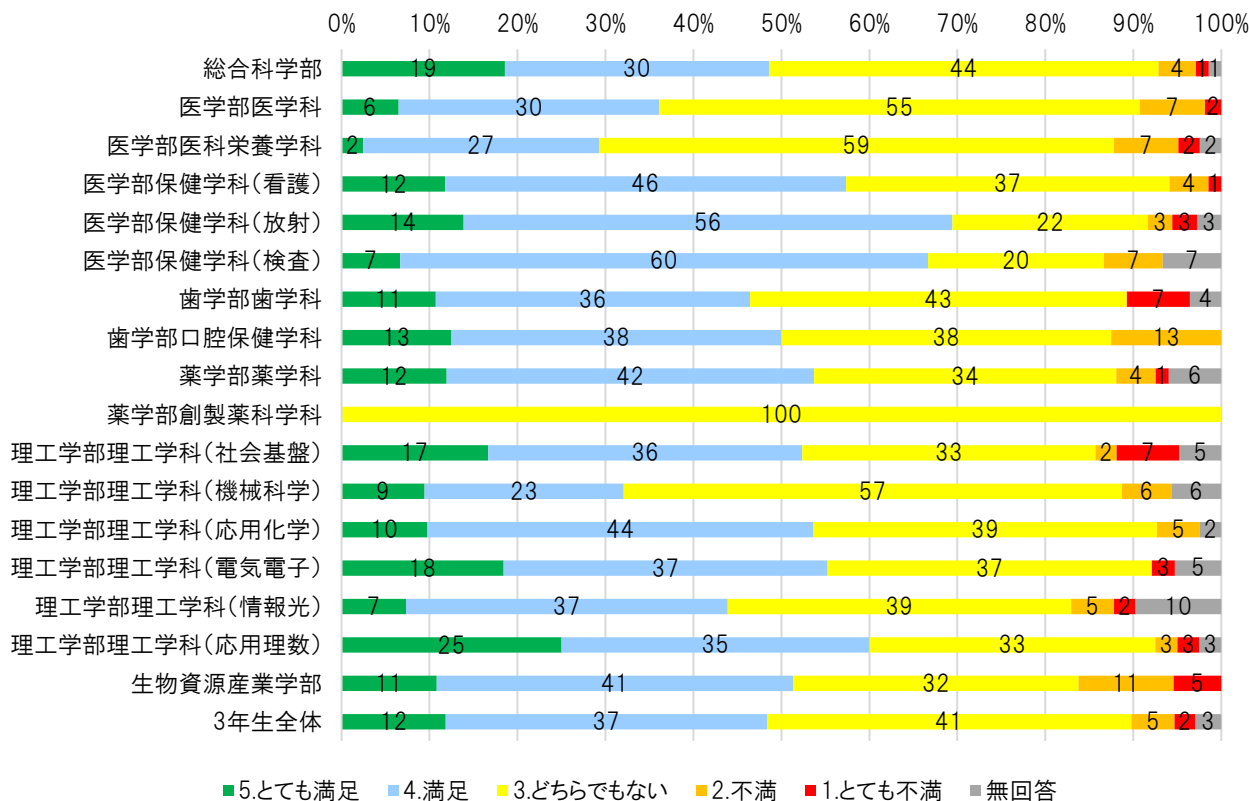


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

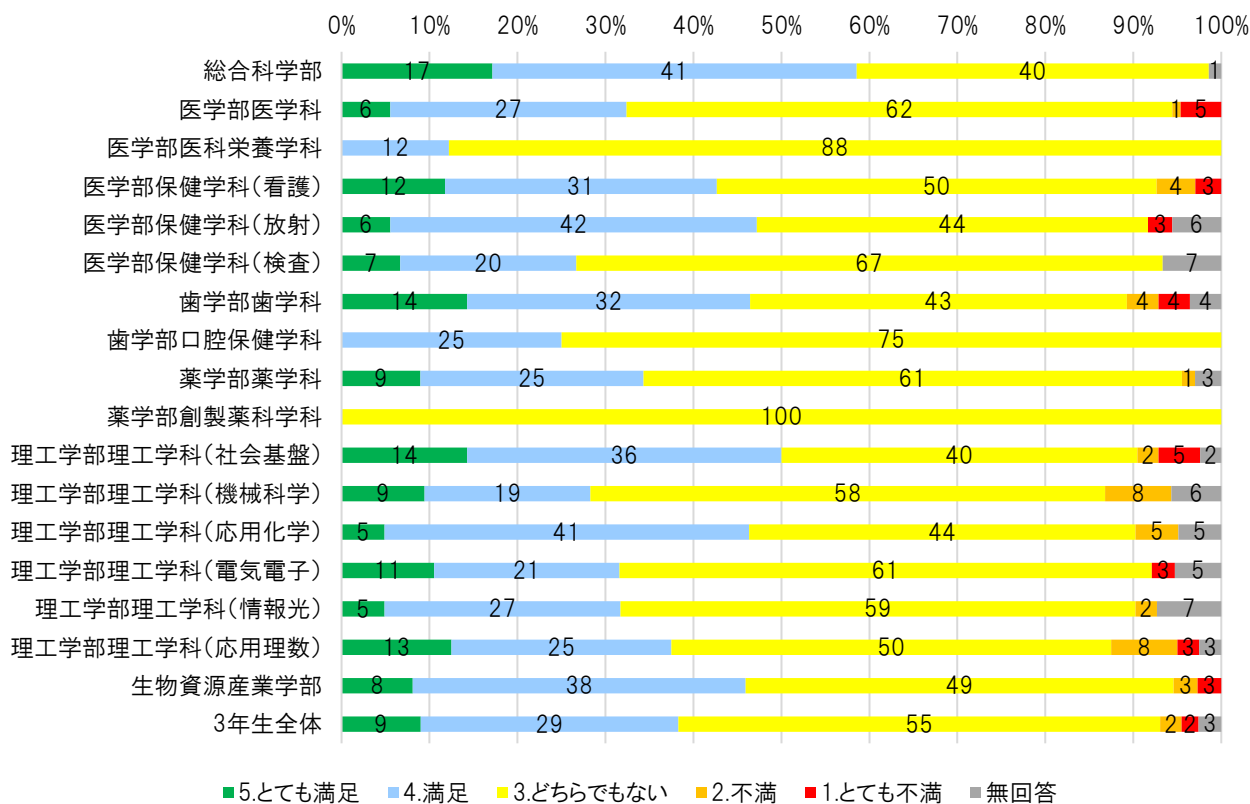
[95]共通教育あるいは教養教育の授業



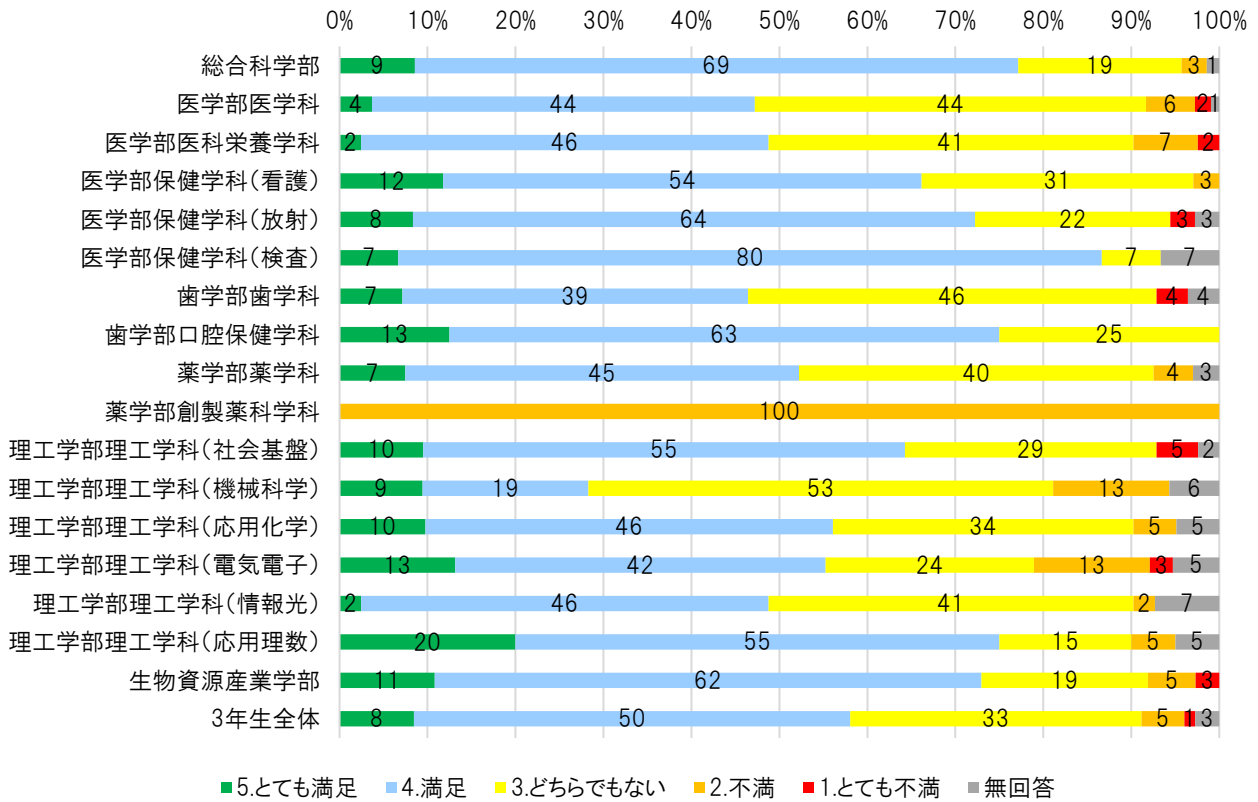
[96]1年生の時に受講した「SIH 道場～アクティブラーニング入門～」の授業



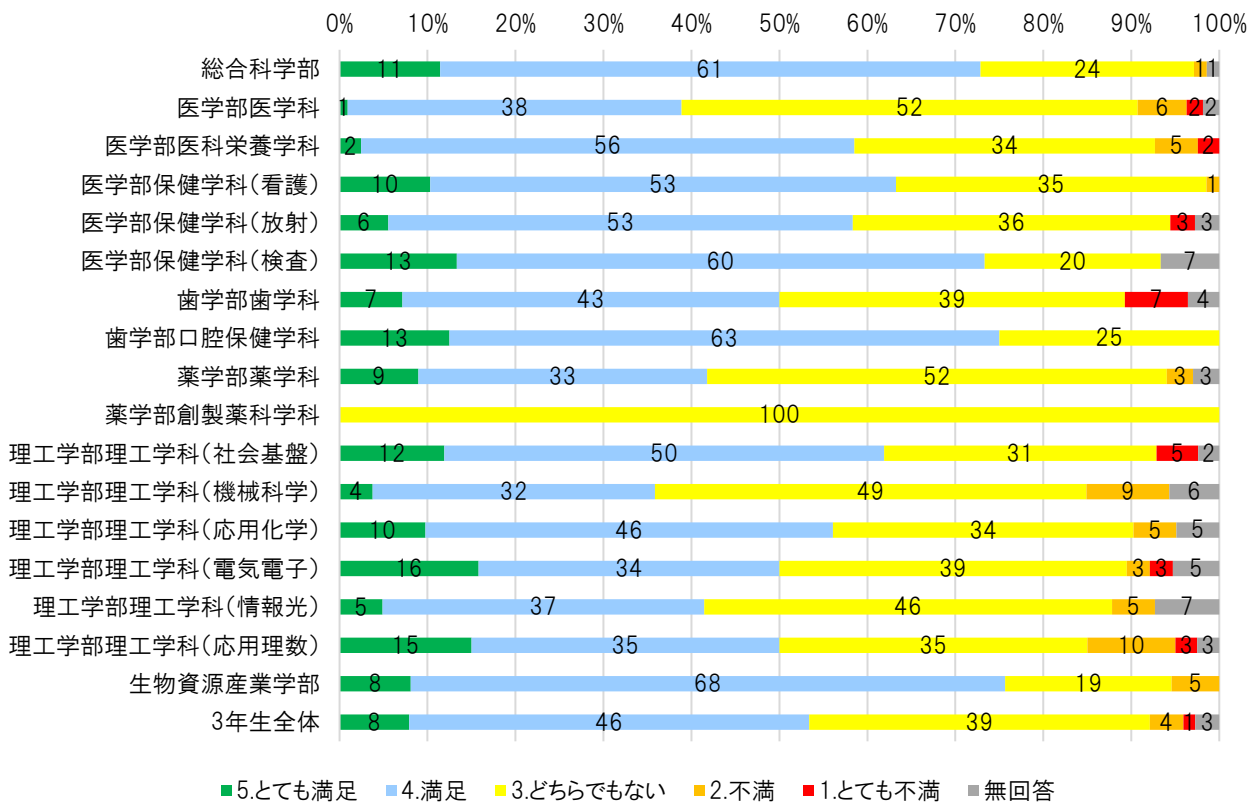
[97]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



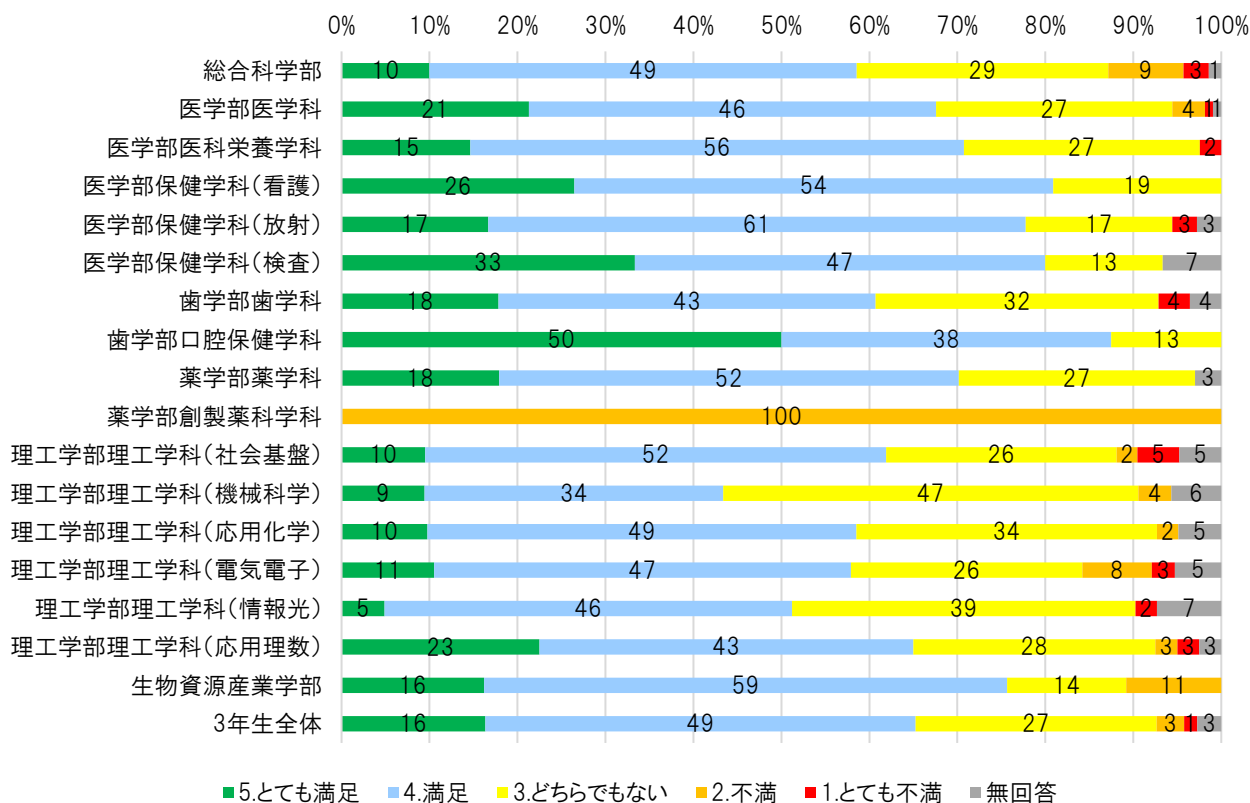
[98]授業の全体的な質



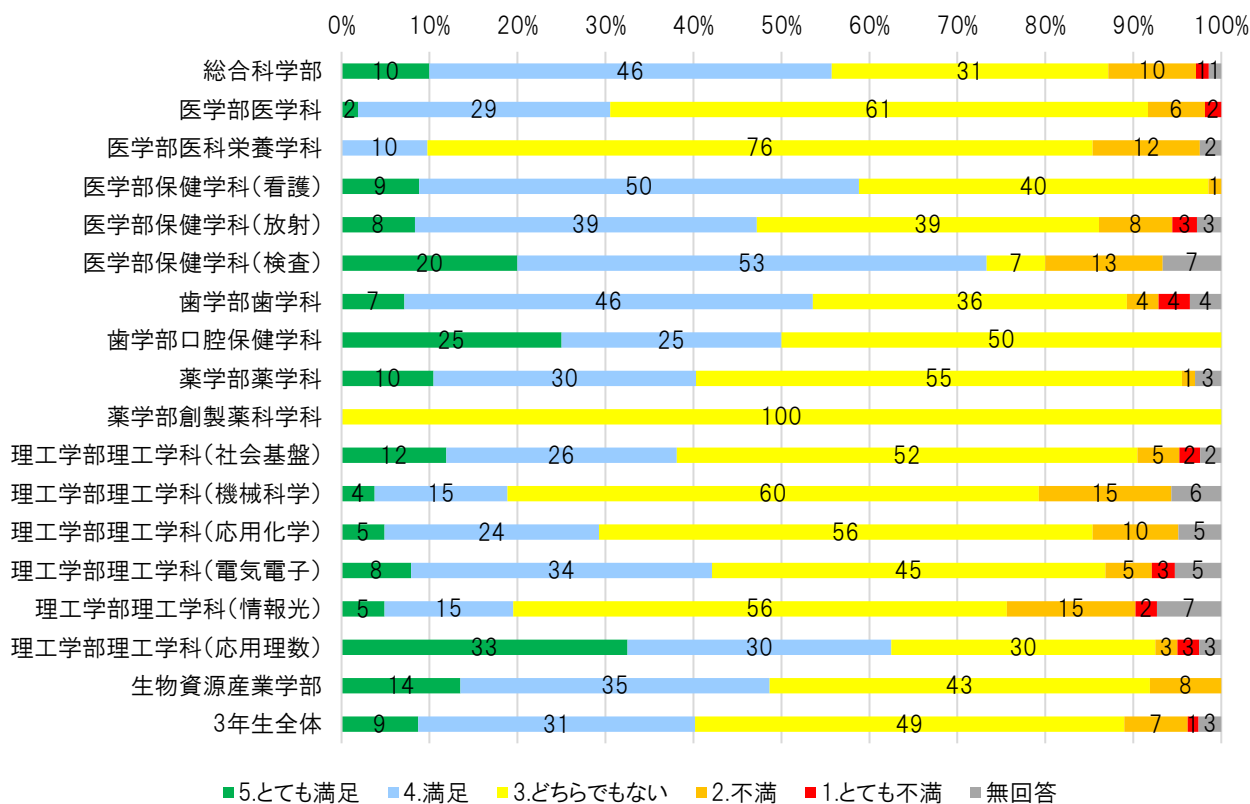
[99]生活と授業内容との関連



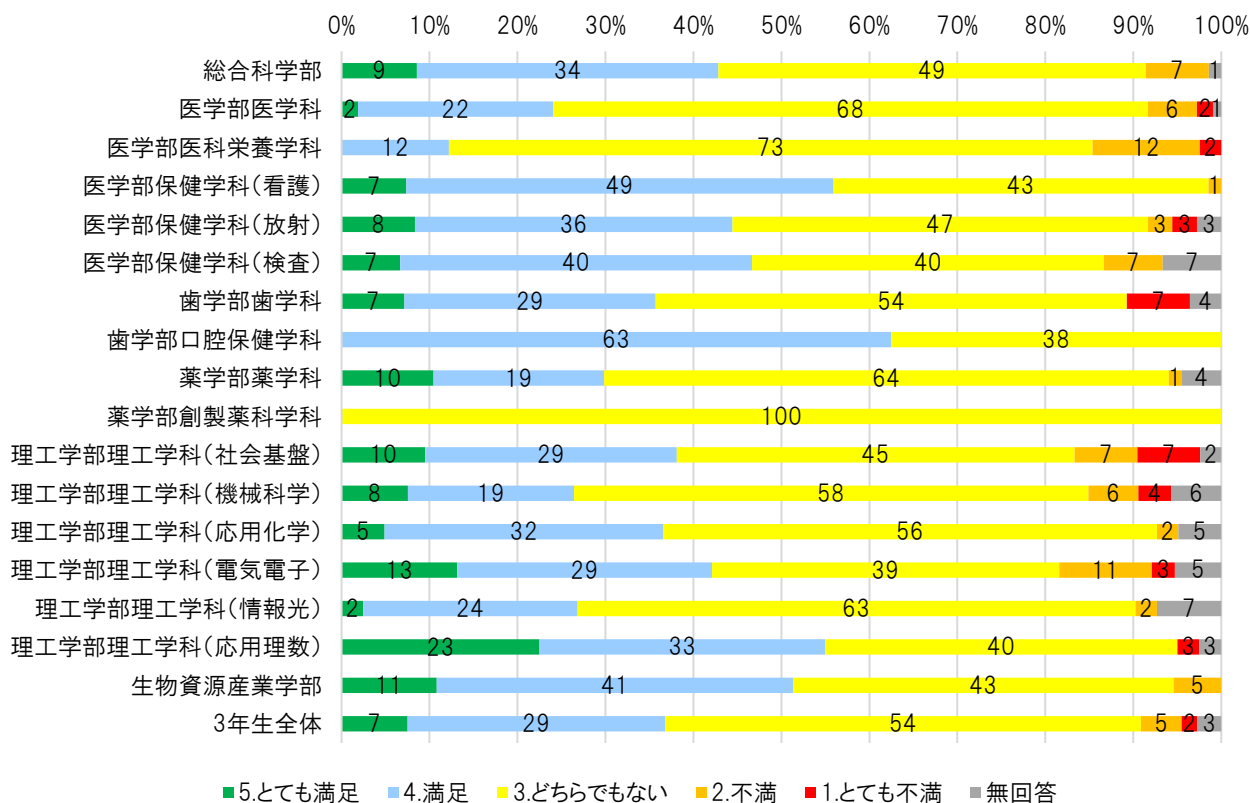
[100] 将来の仕事と授業内容の結びつき



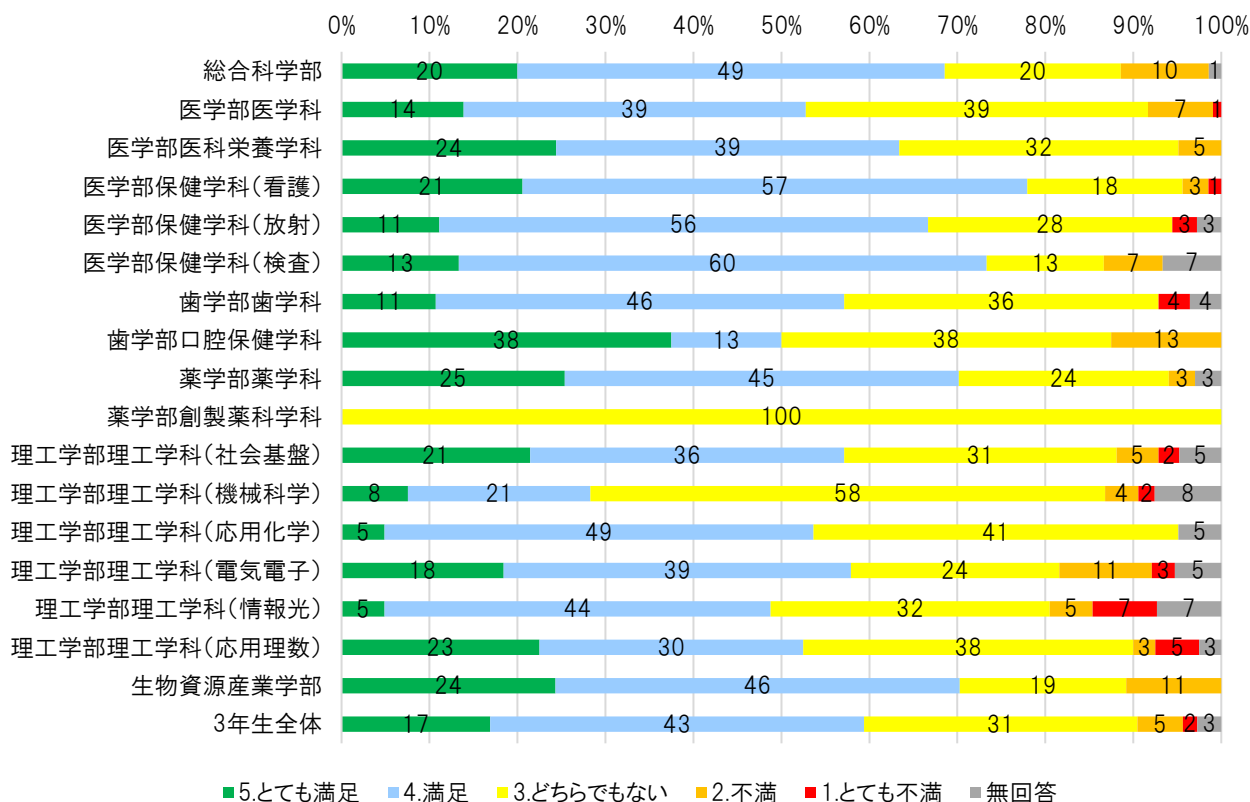
[101] 教員と話をする機会



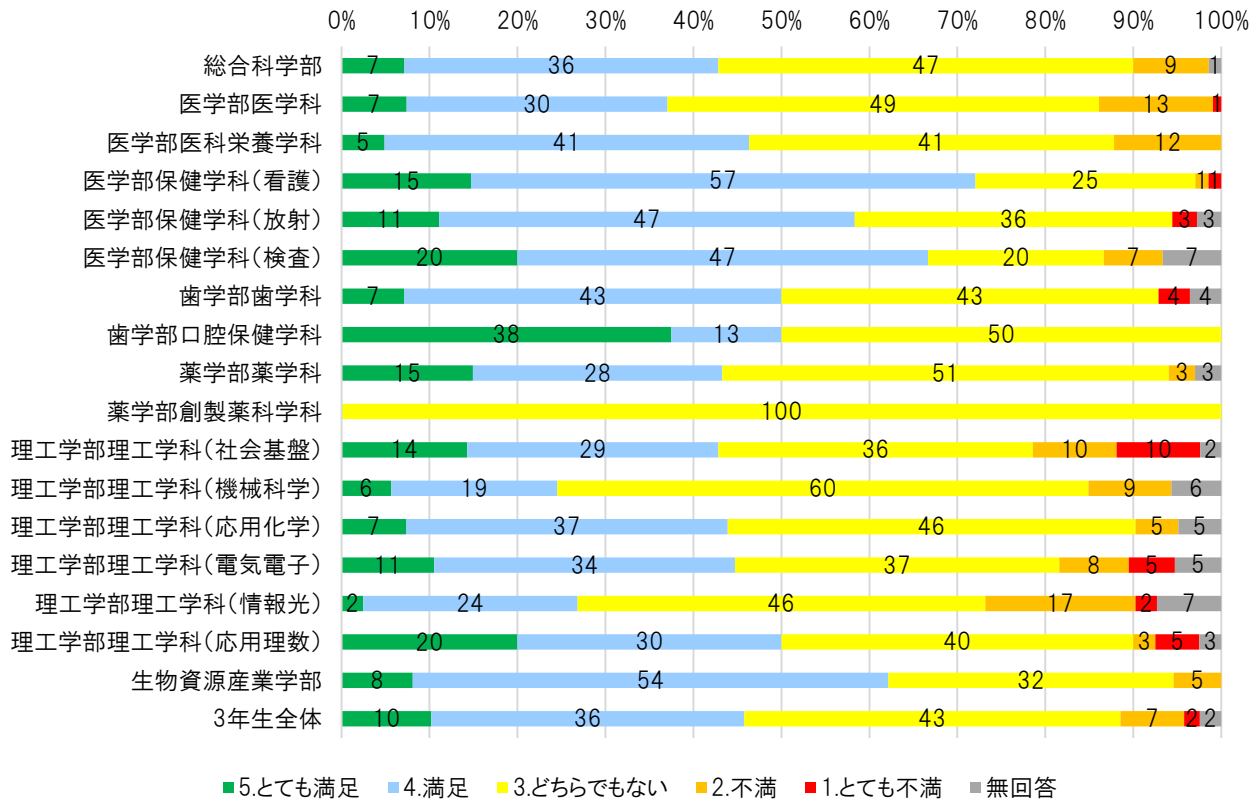
[102]学習支援や個別の学習指導



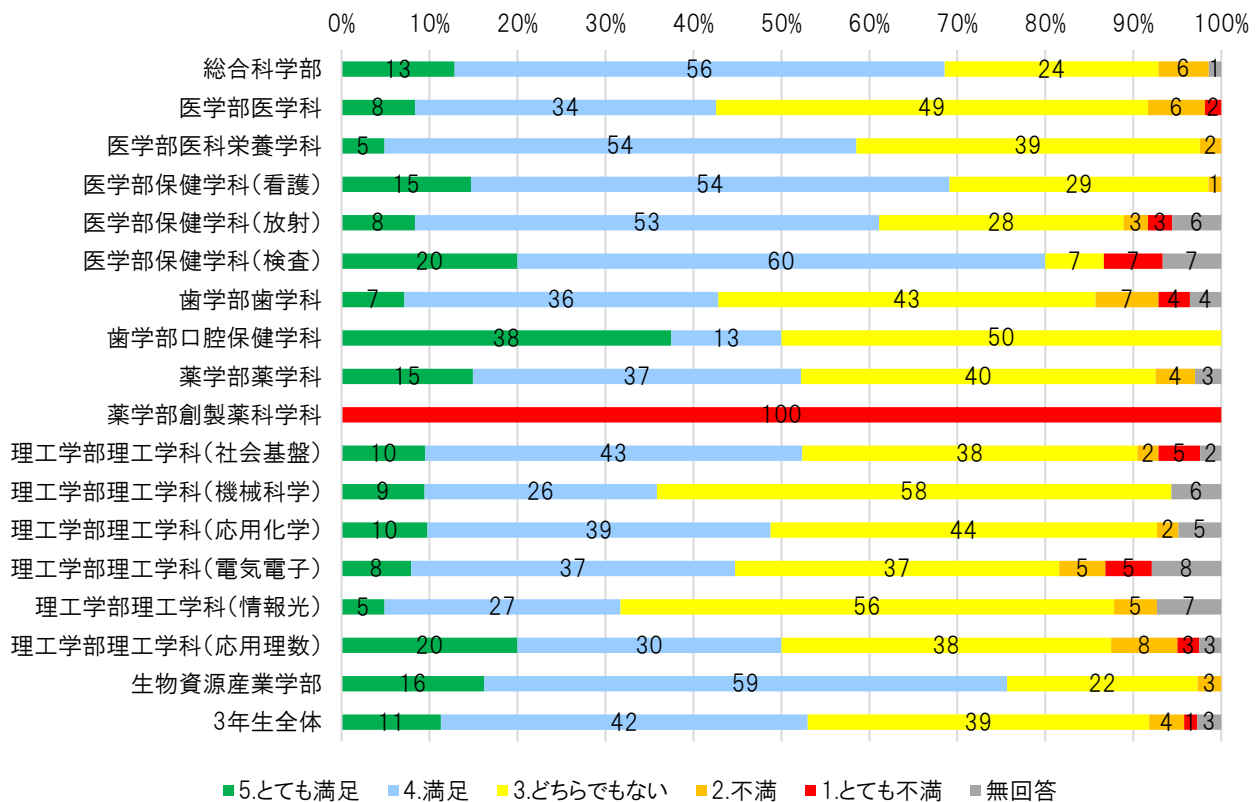
[103]他の学生と話をする機会



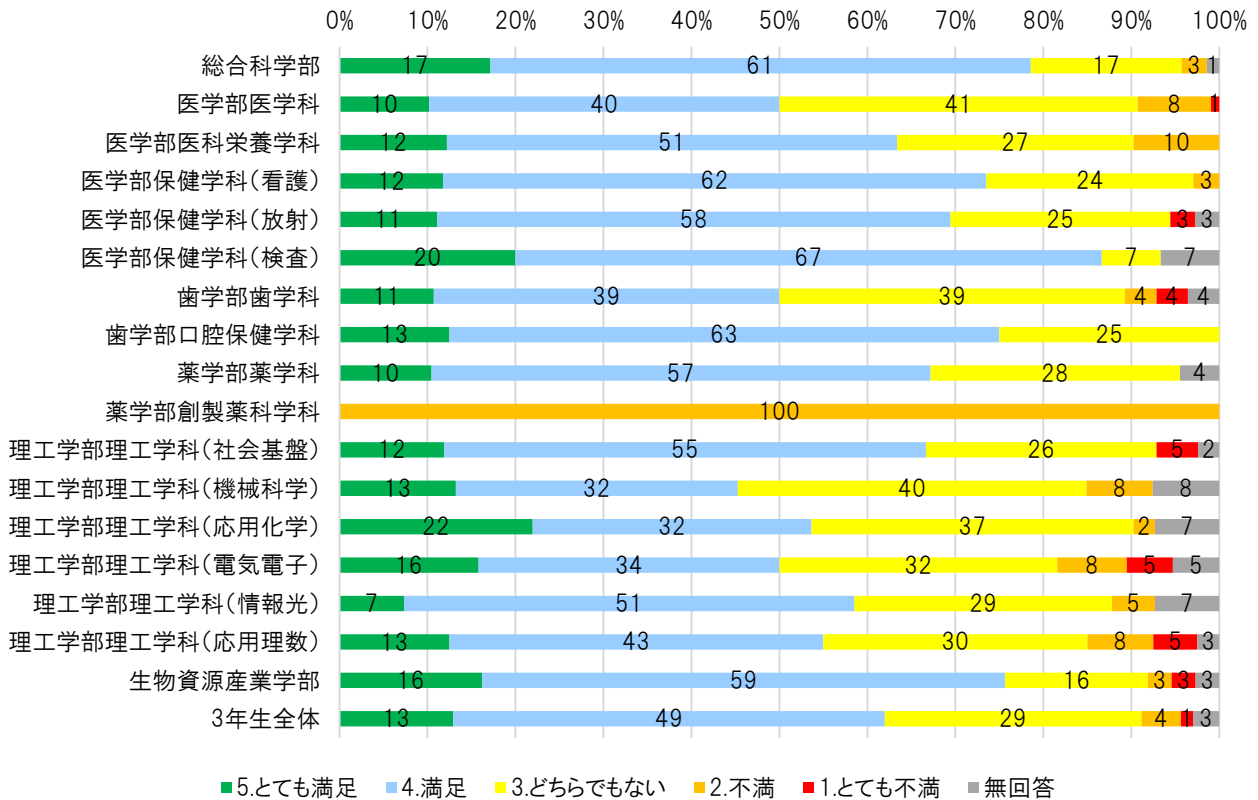
[104]大学のなかでの学生同士の一体感



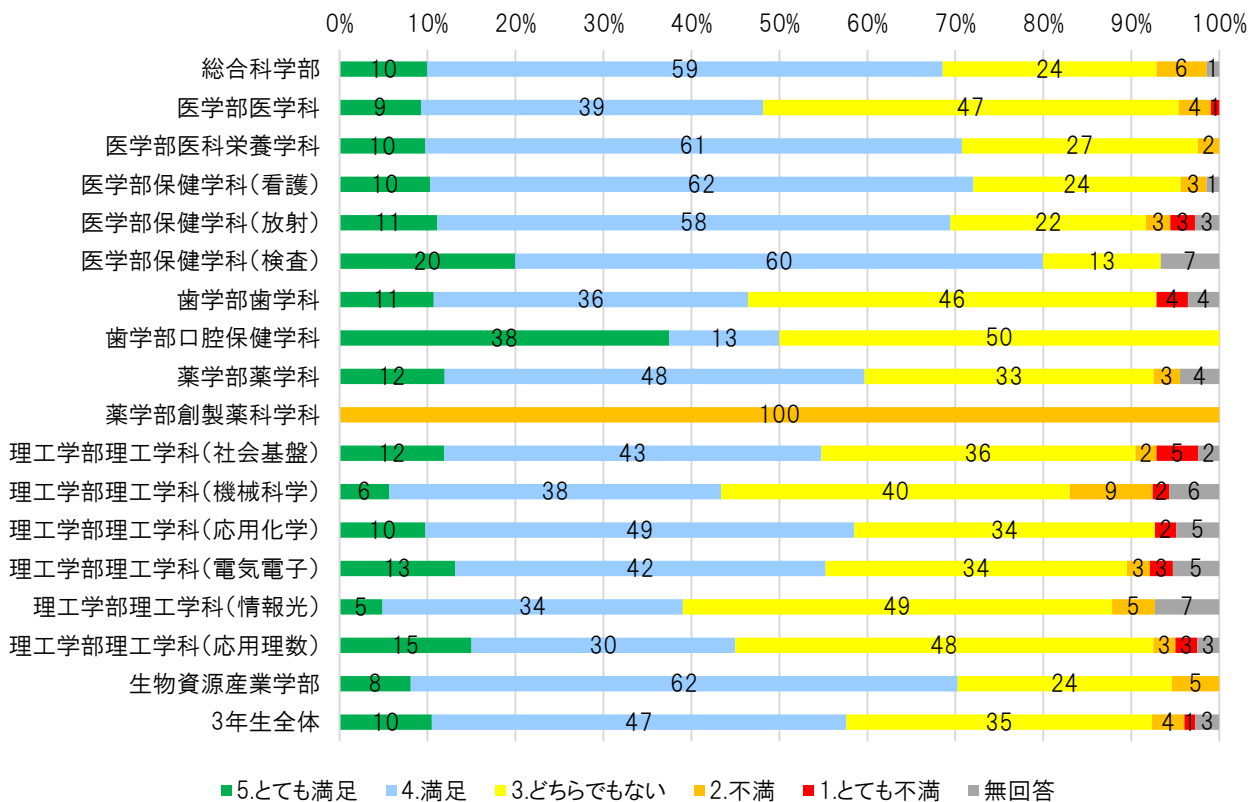
[105]多様な考え方を認め合う雰囲気



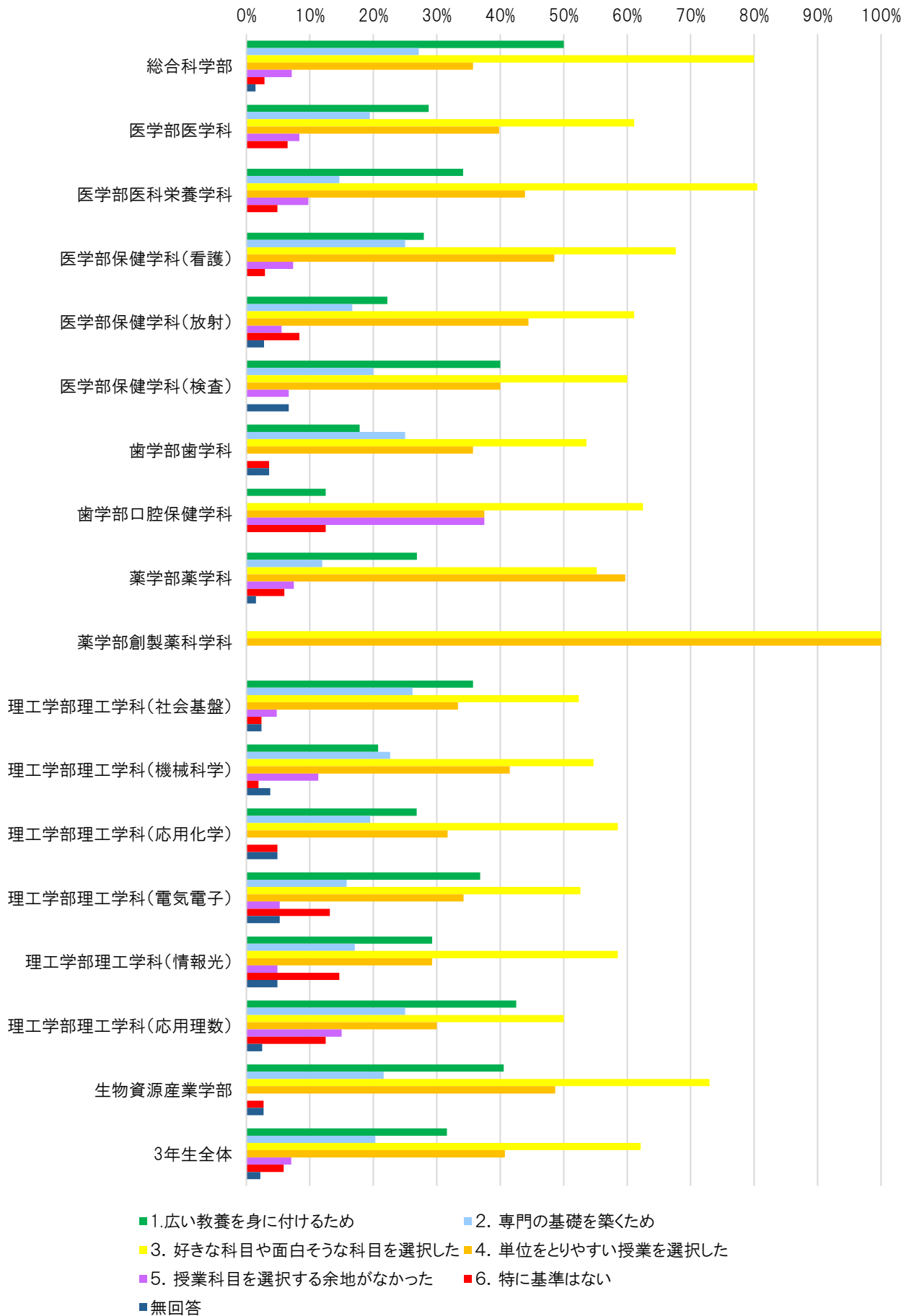
[106]大学での経験全般について



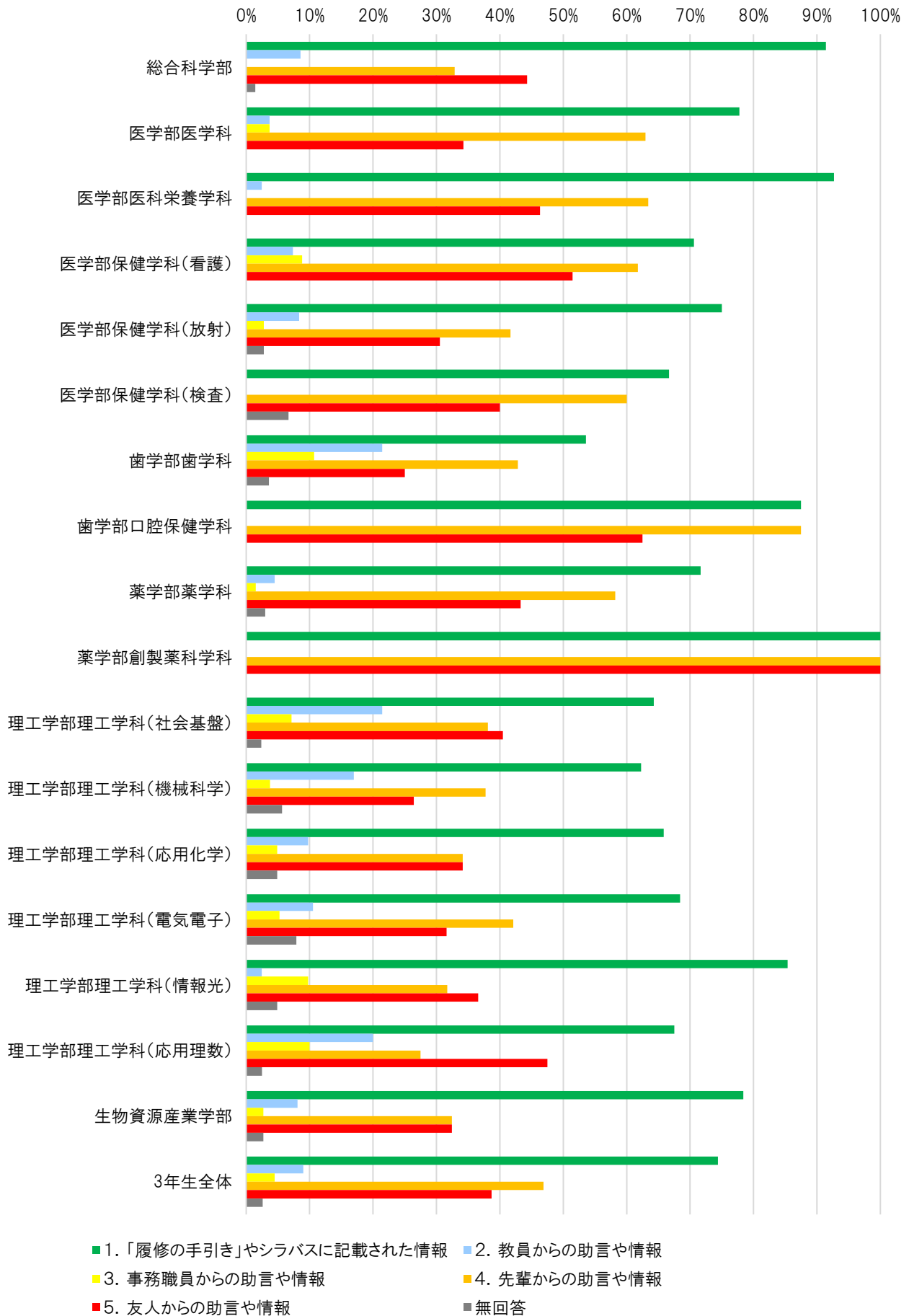
[107]1つの授業を履修する学生数



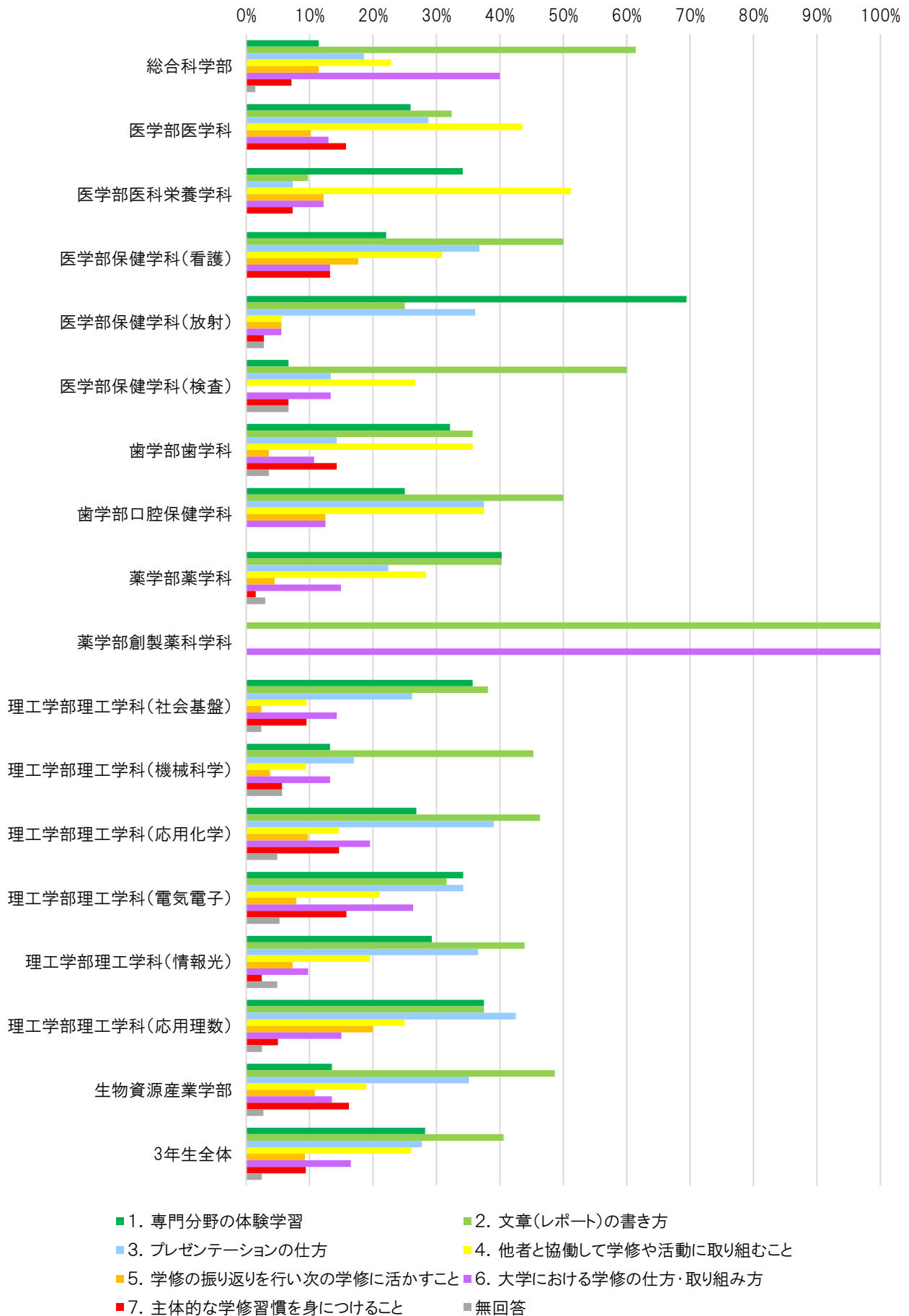
[108]教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



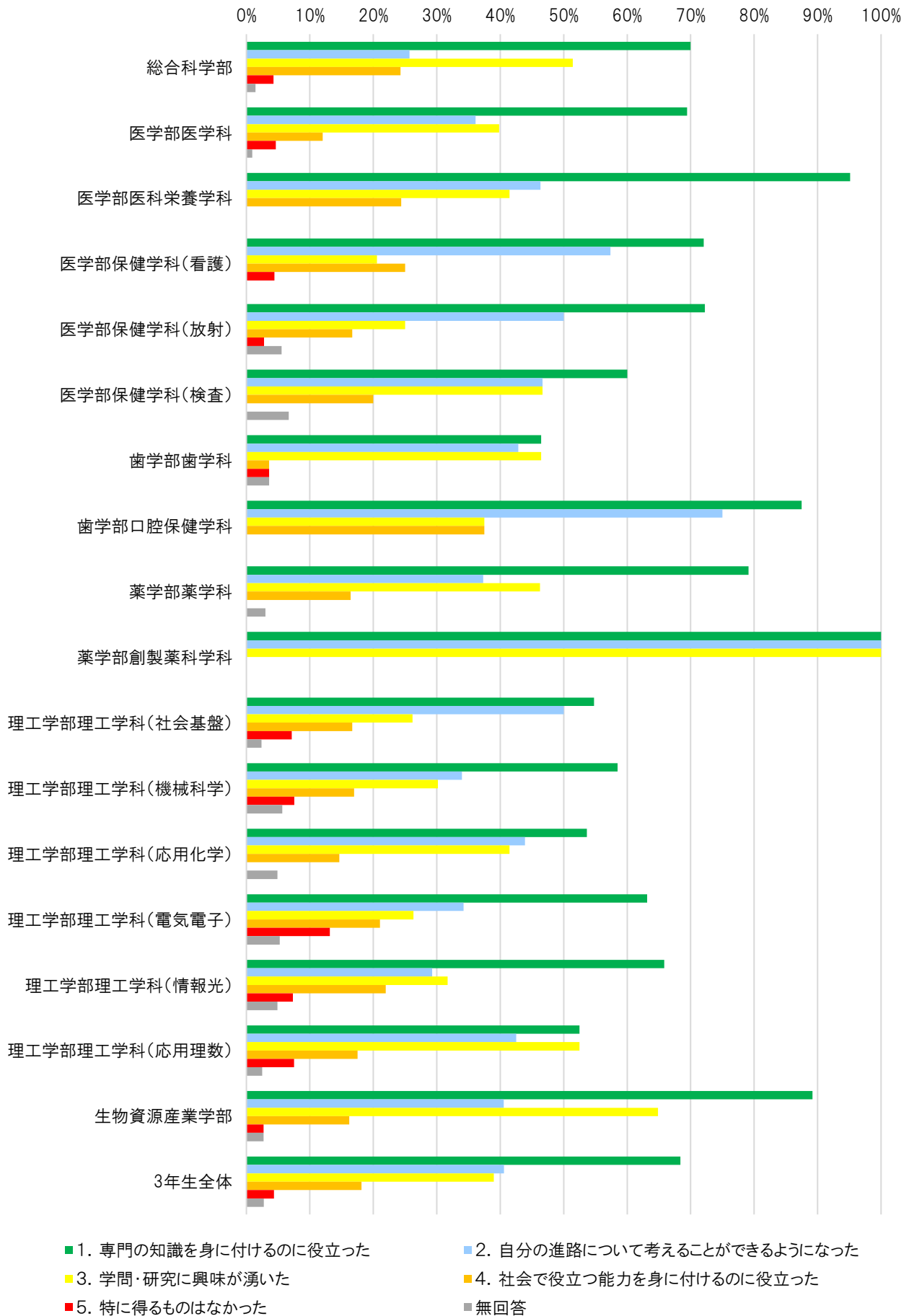
[109]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



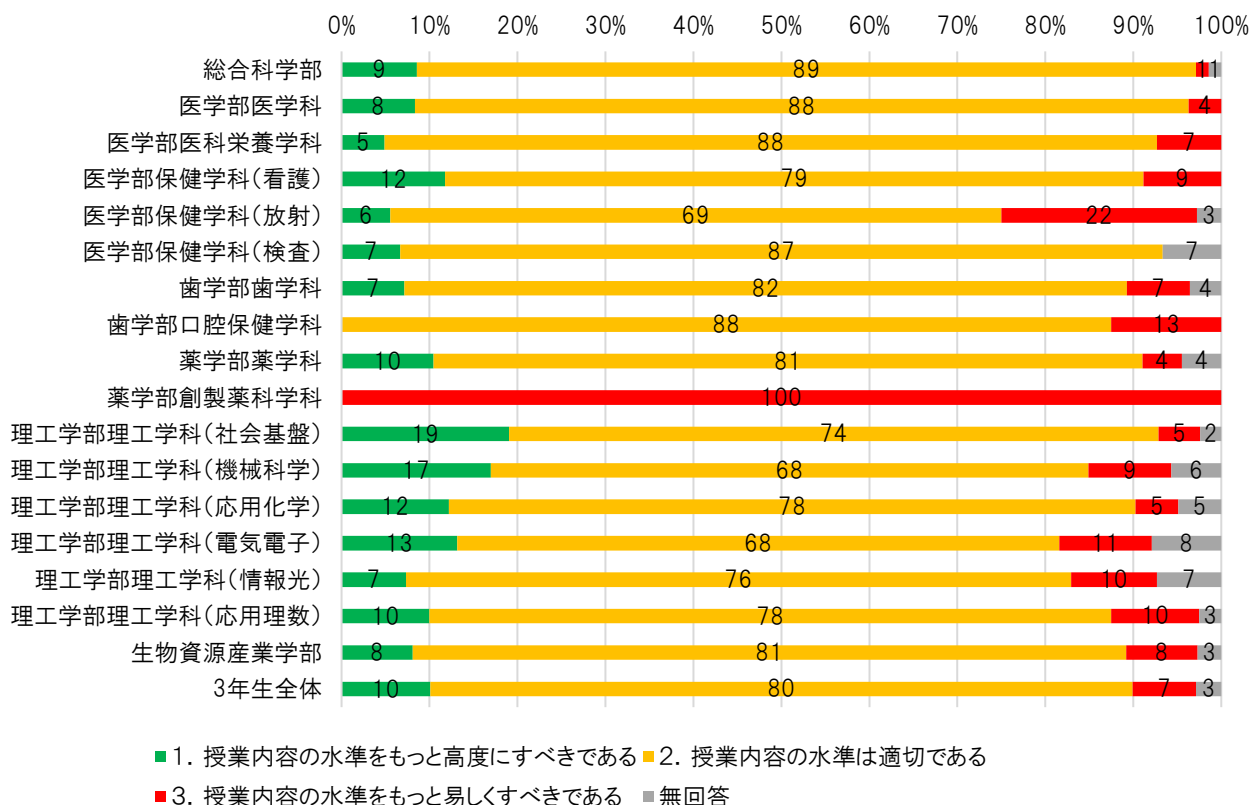
[110] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



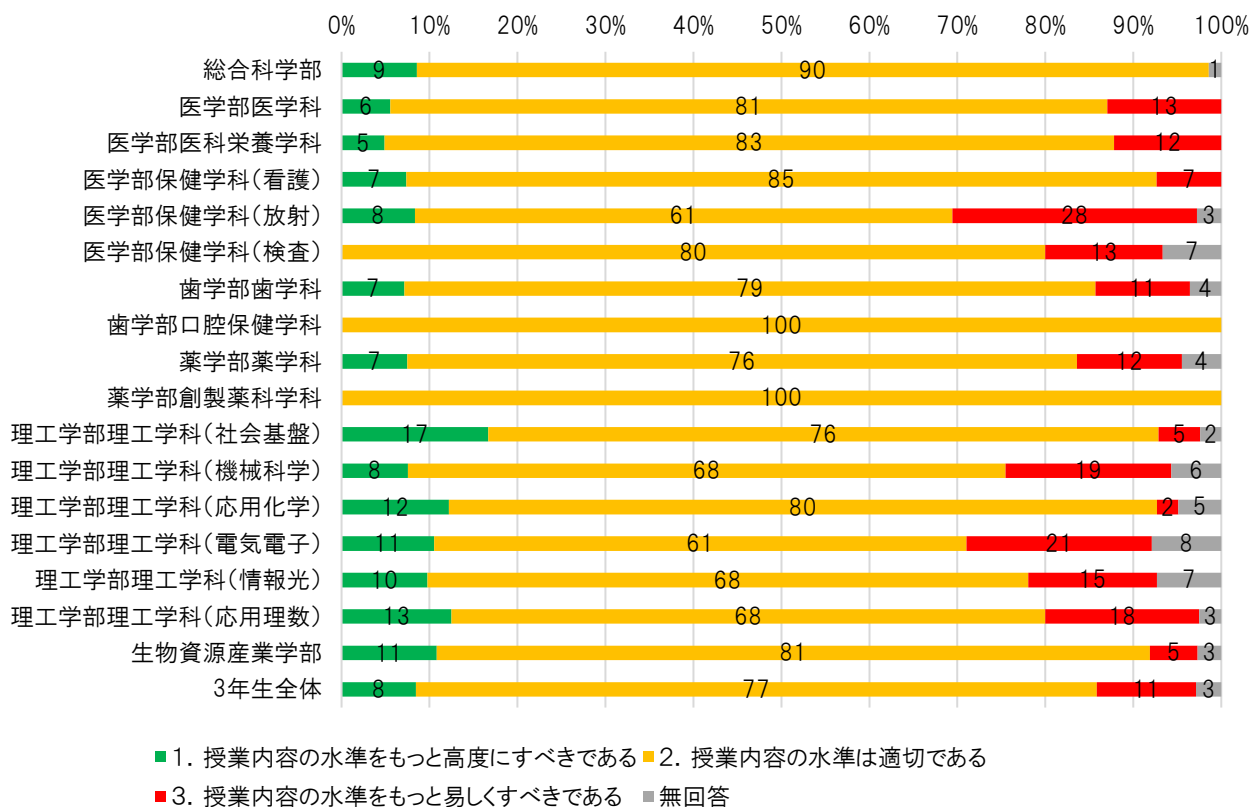
[111]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)



[112]教養教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

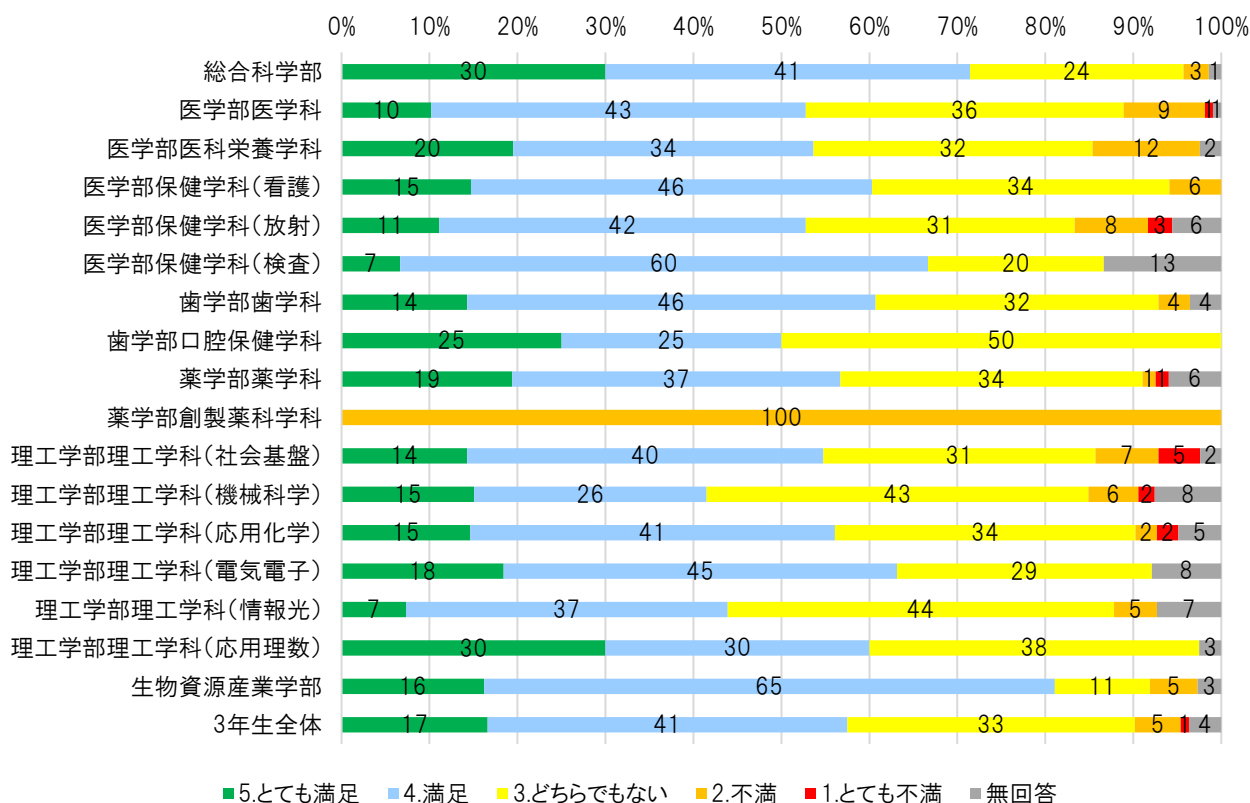


[113]専門教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

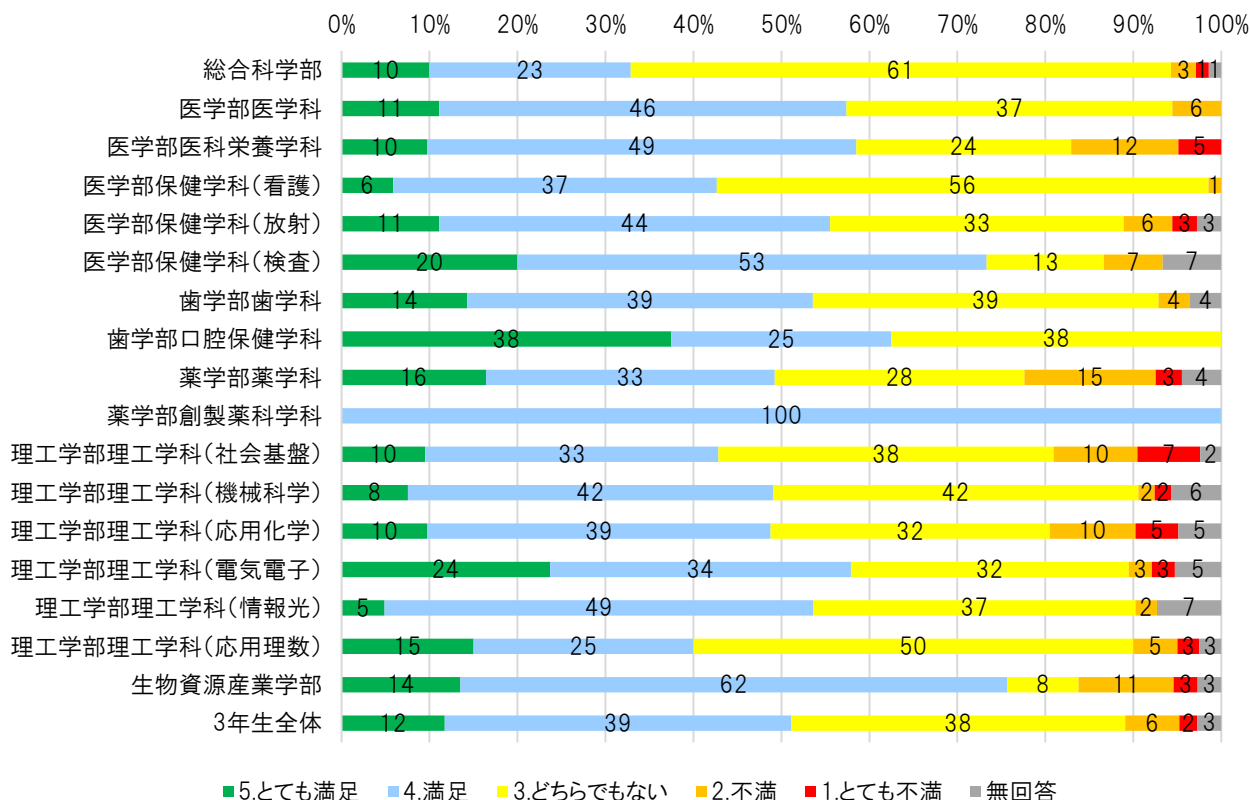


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

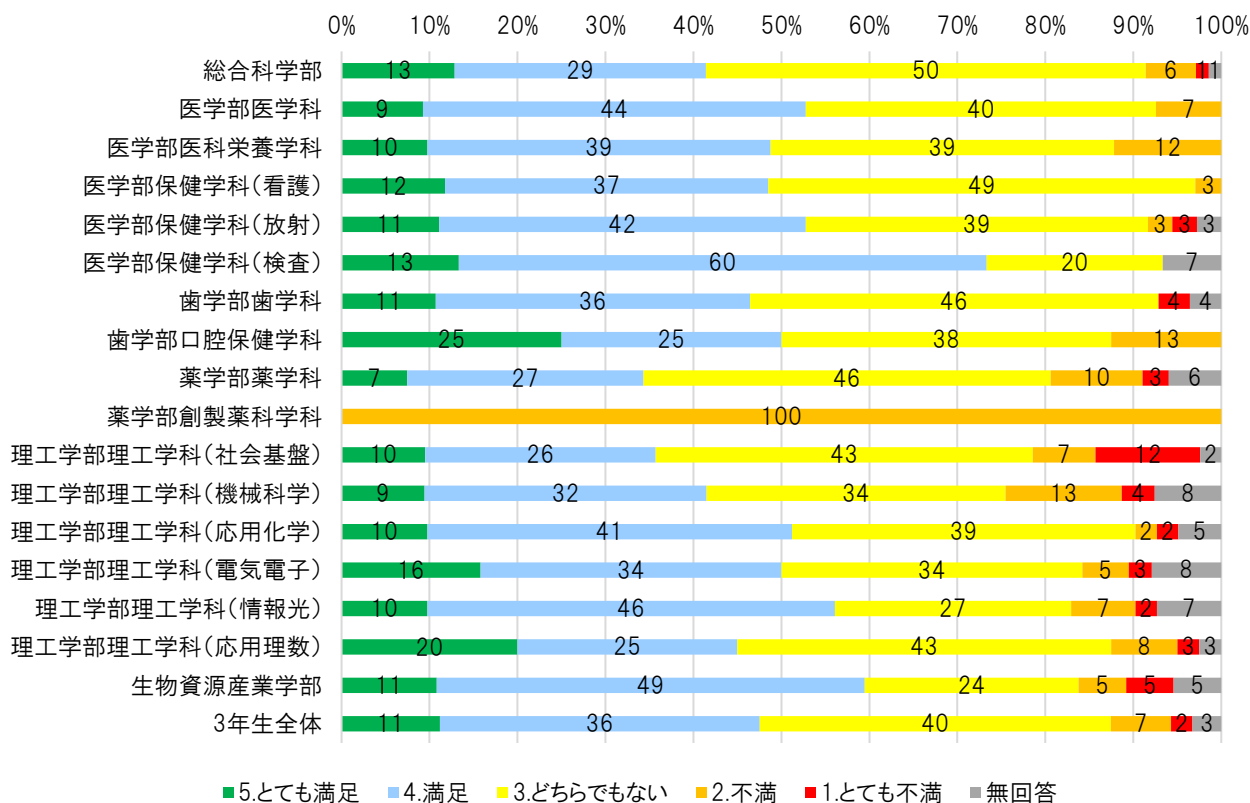
[114]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



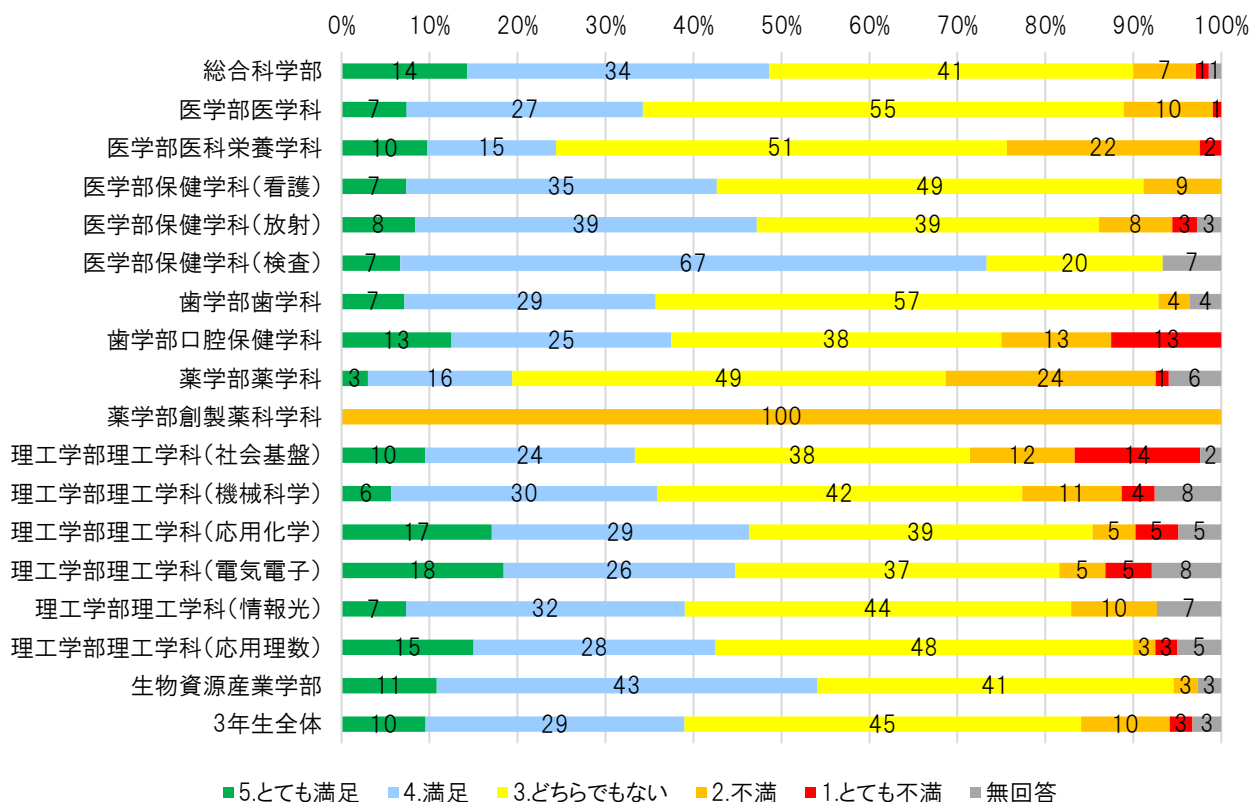
[115]実験室の設備や器具



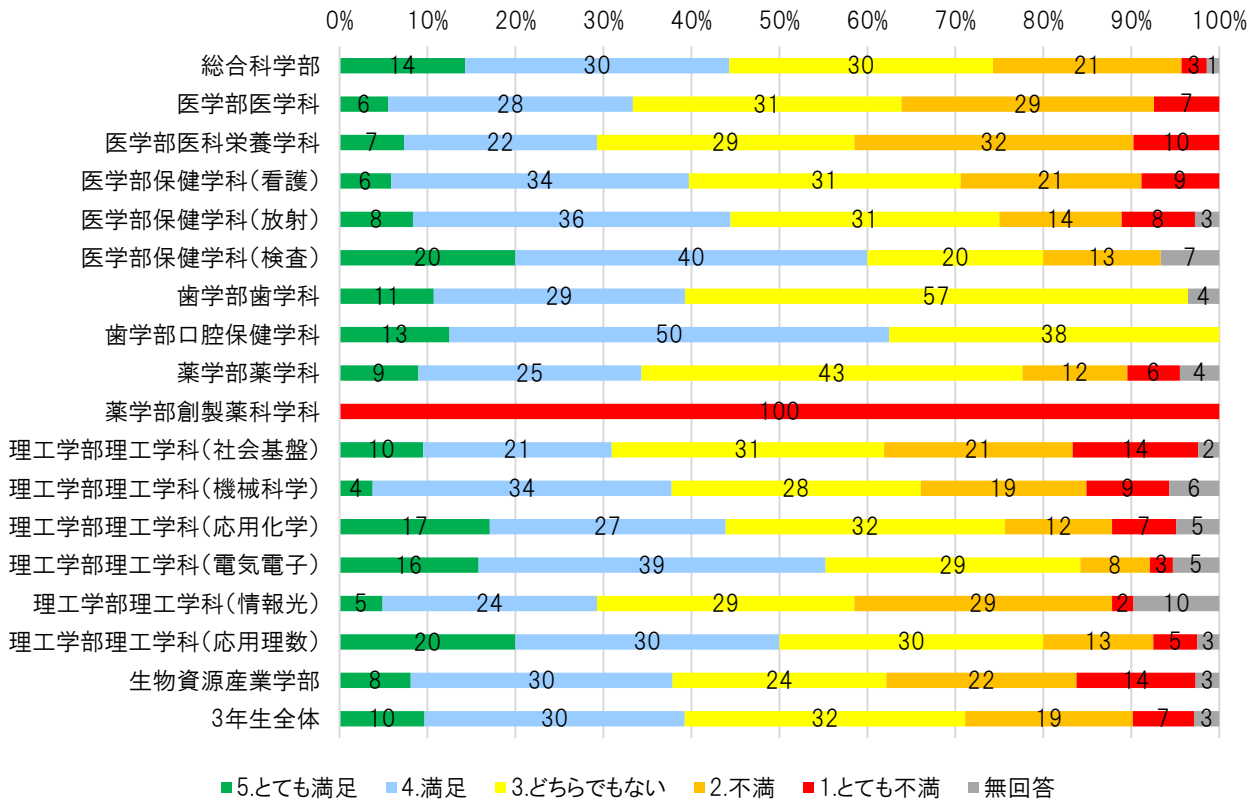
[116]コンピュータの施設や設備



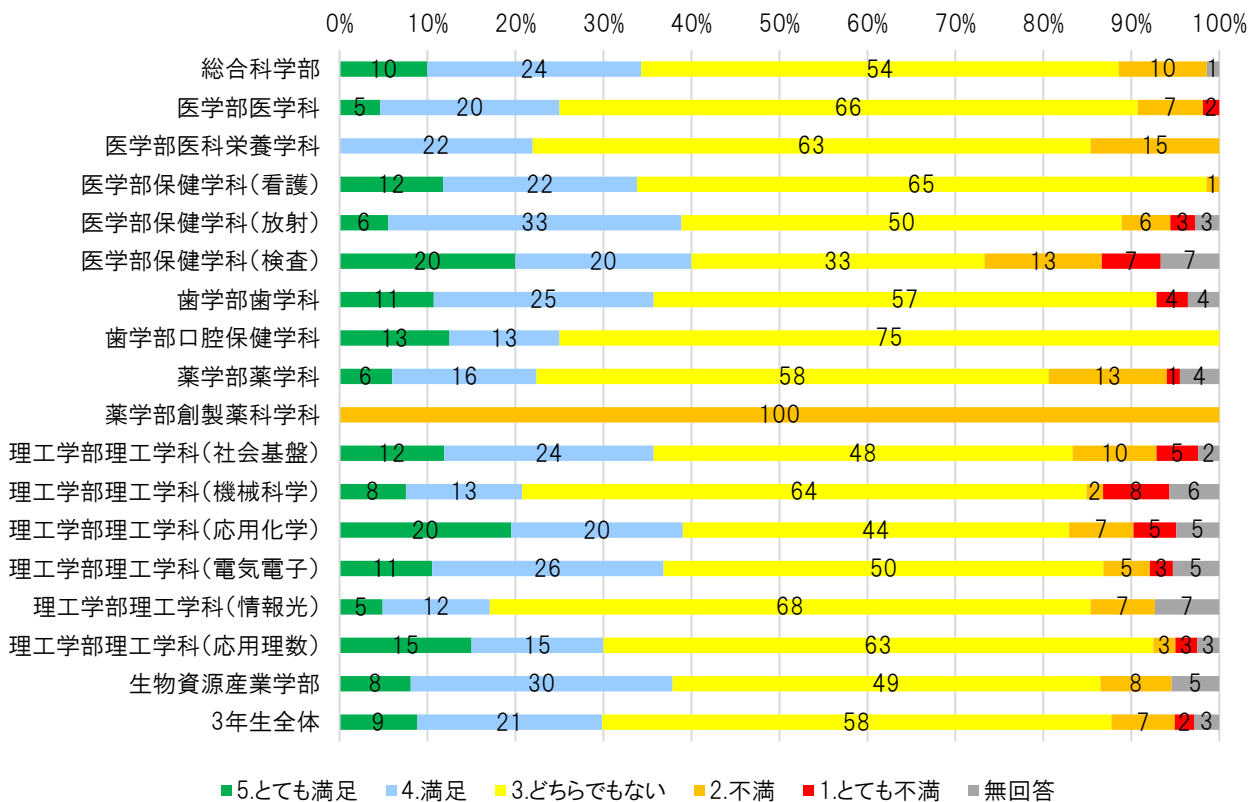
[117]コンピュータの訓練や援助



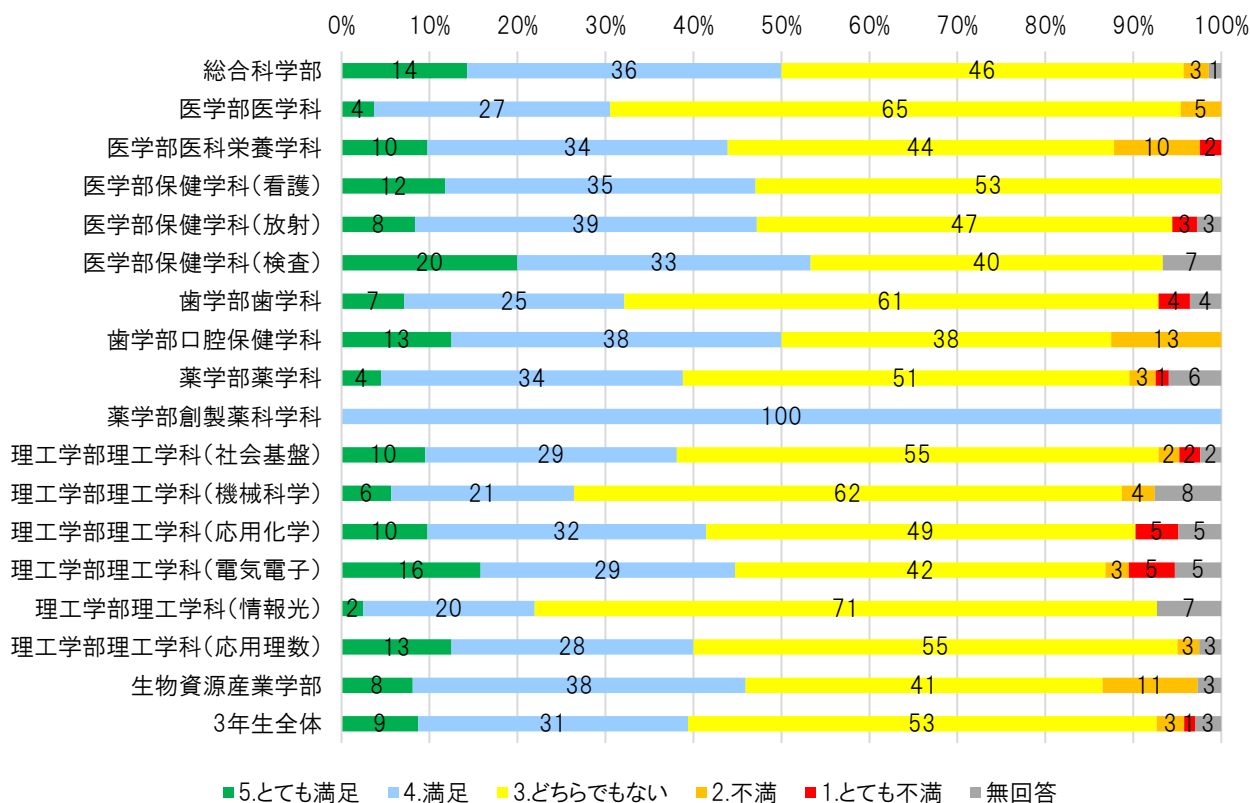
[118]インターネットの使いやすさ



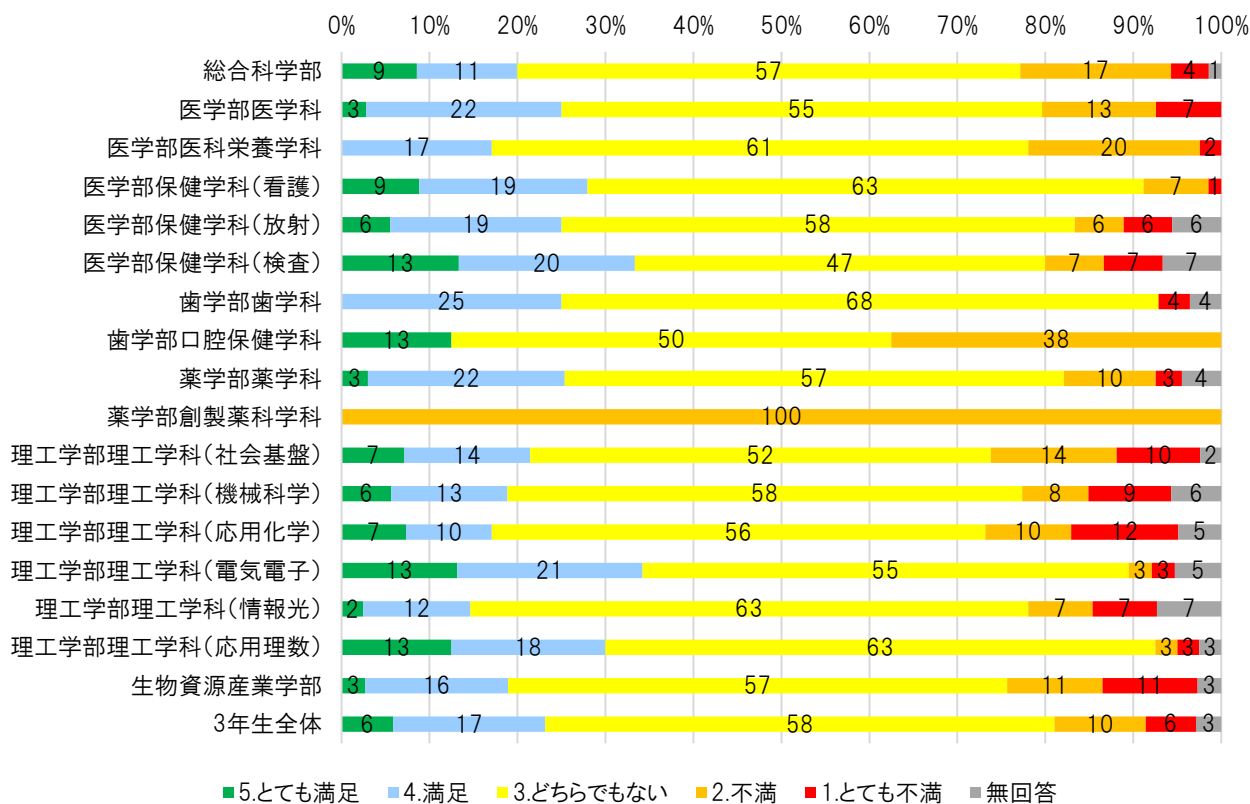
[119]奨学金など学費援助の制度



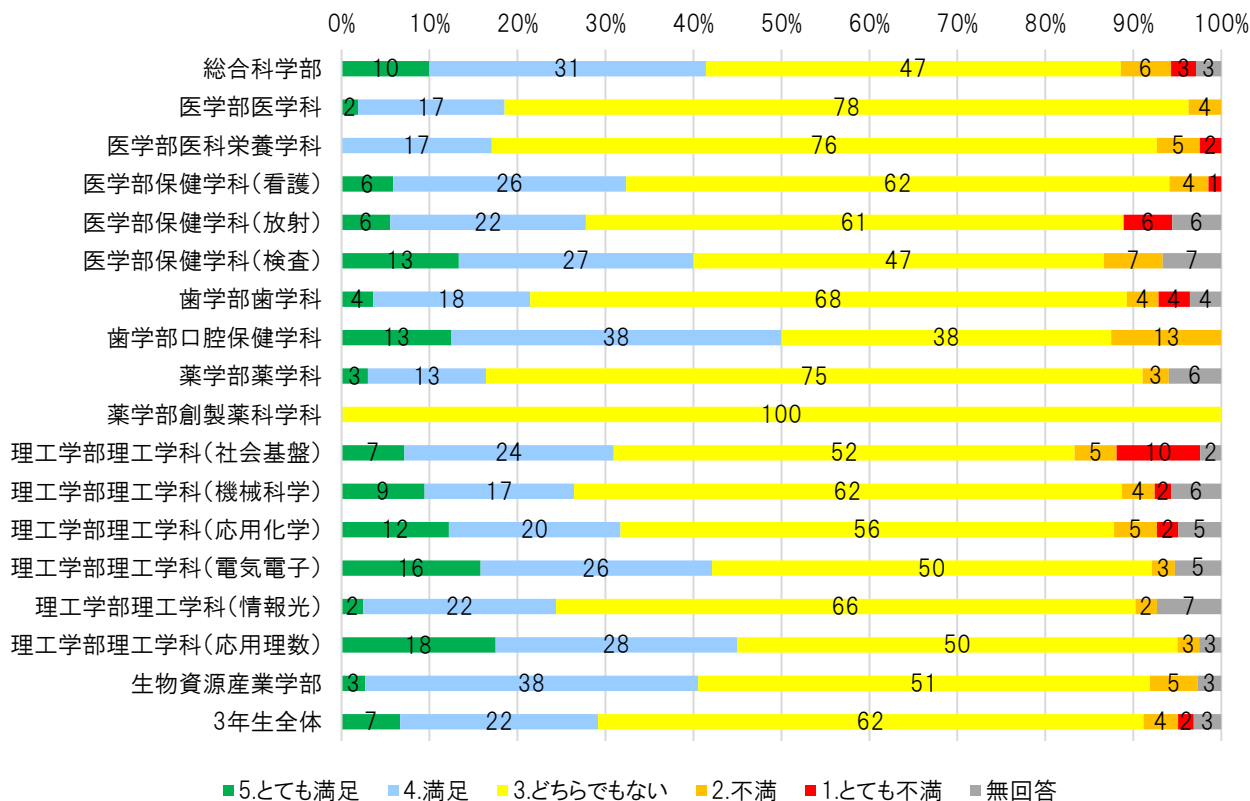
[120]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



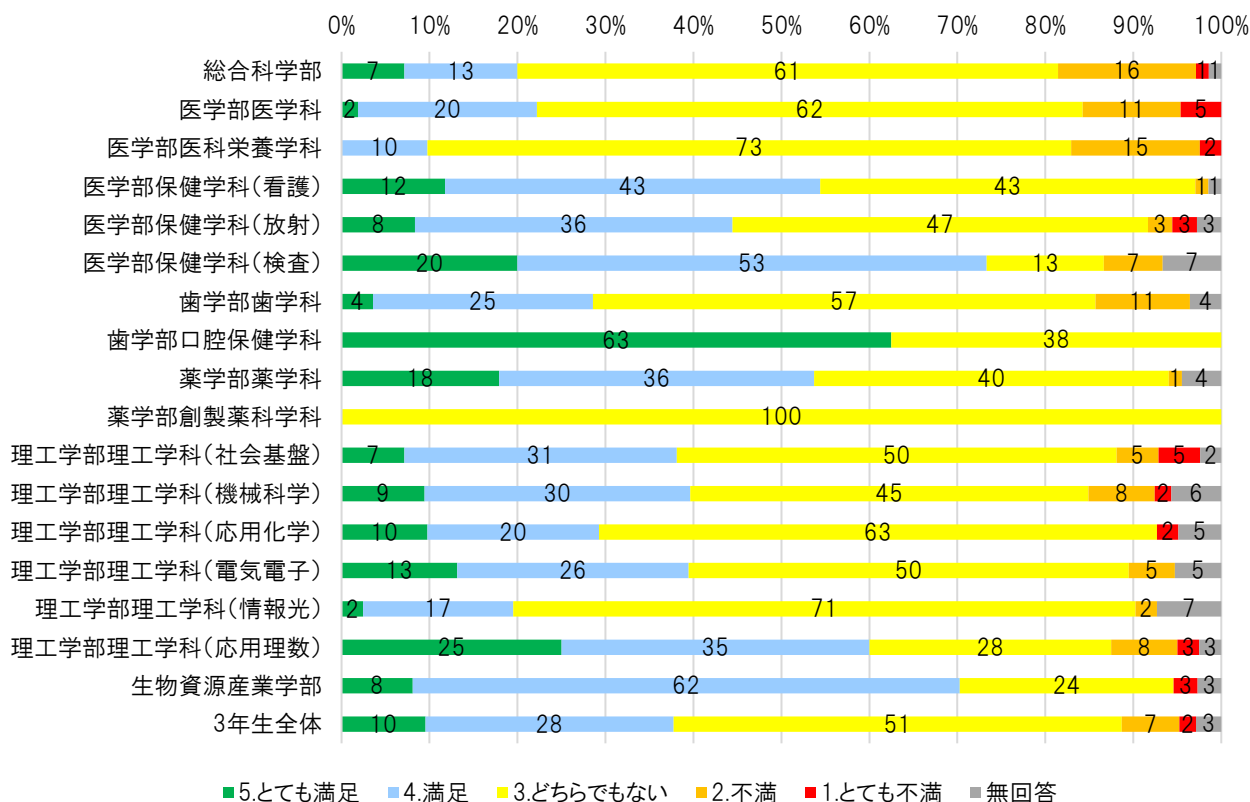
[121]レクリエーション施設(ジムの設備など)



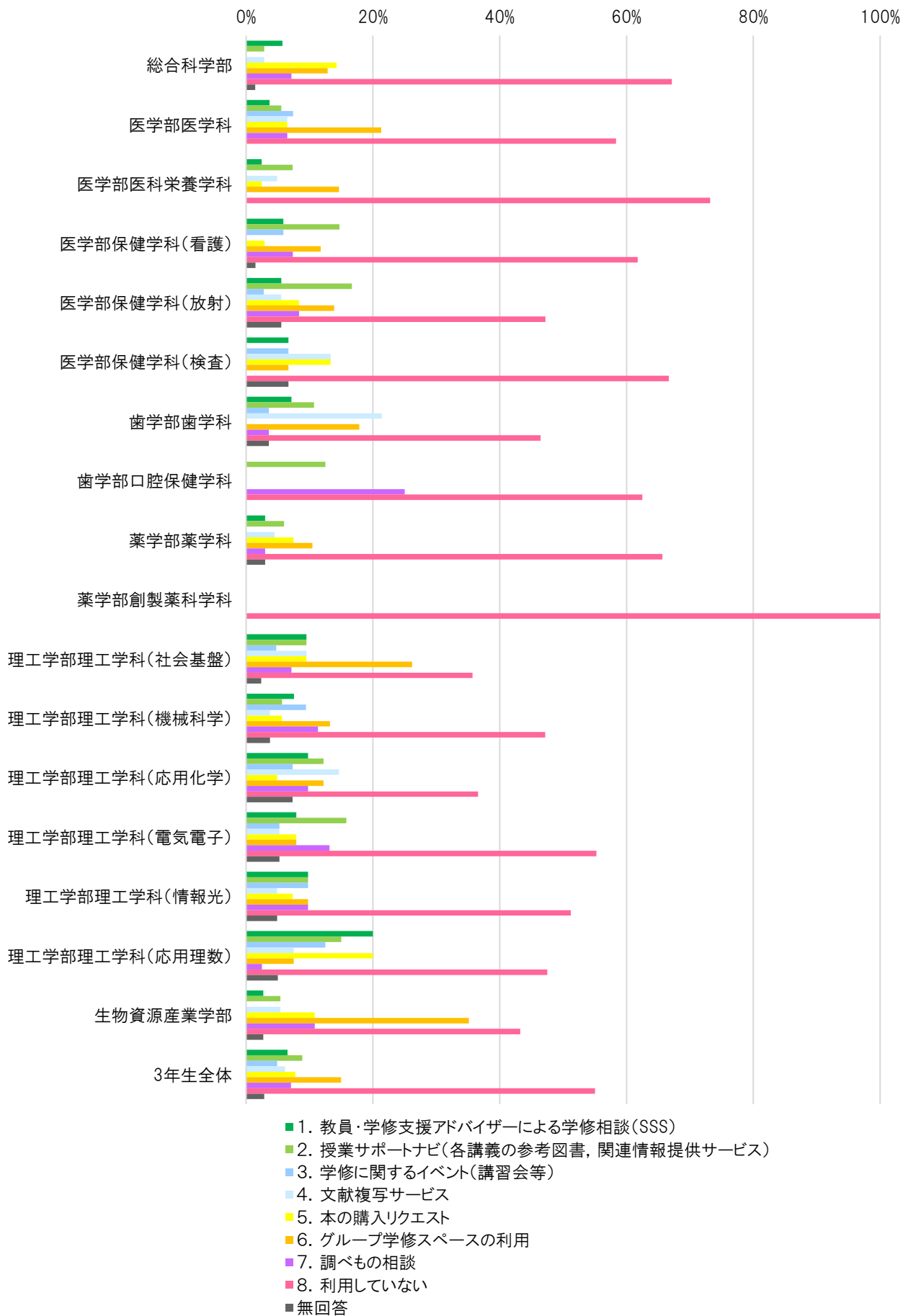
[122]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



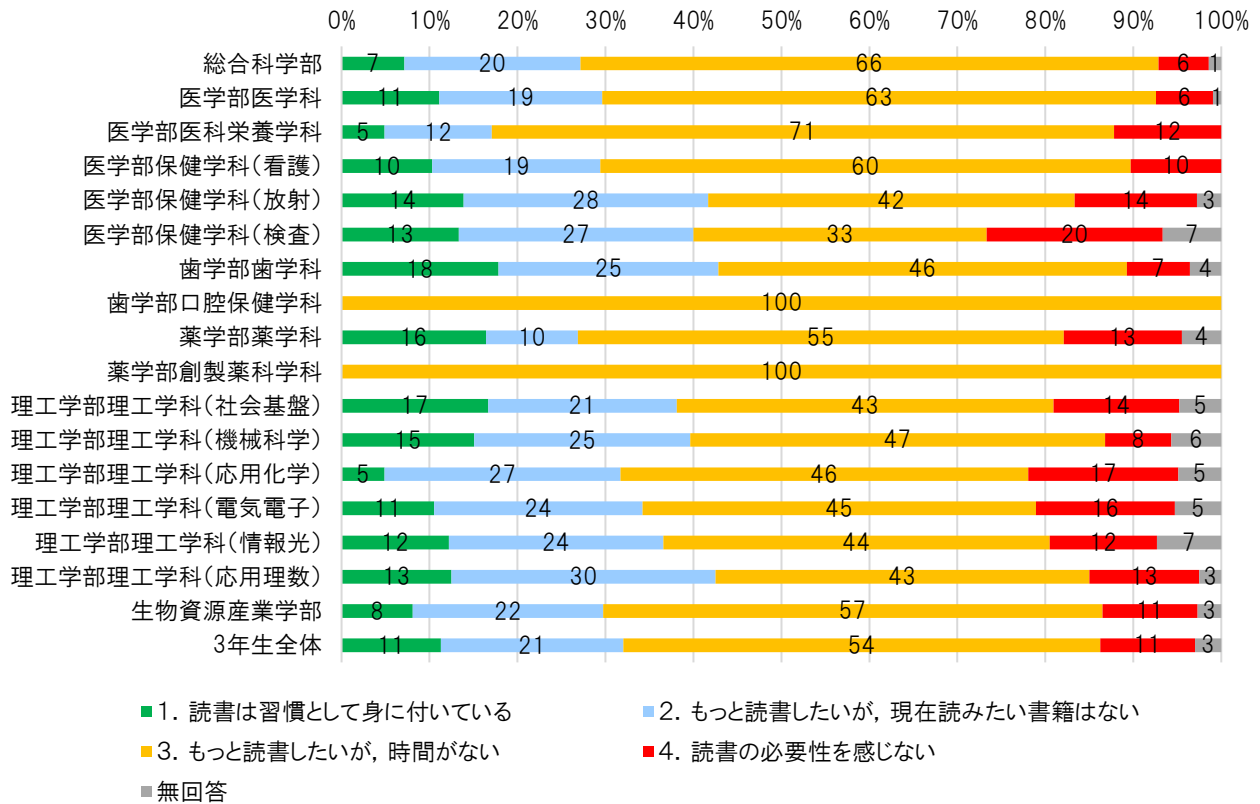
[123]クラス担任制度



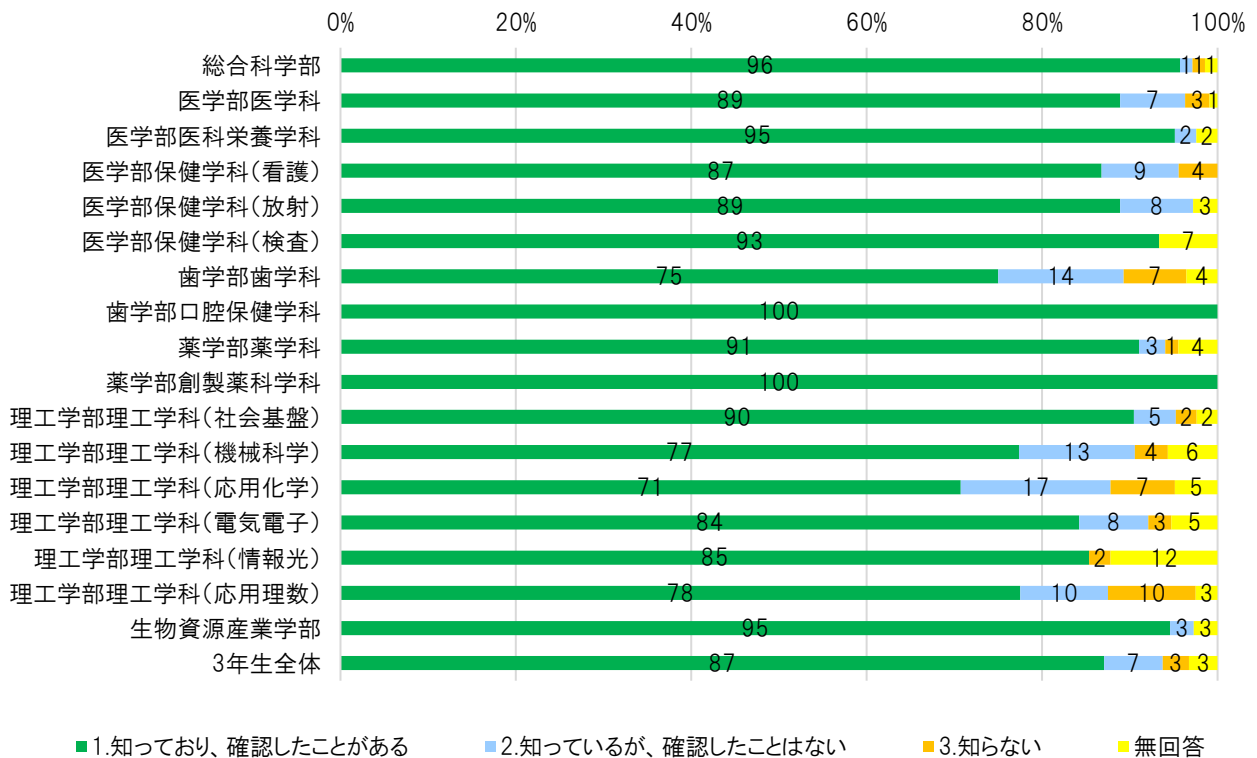
[124]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



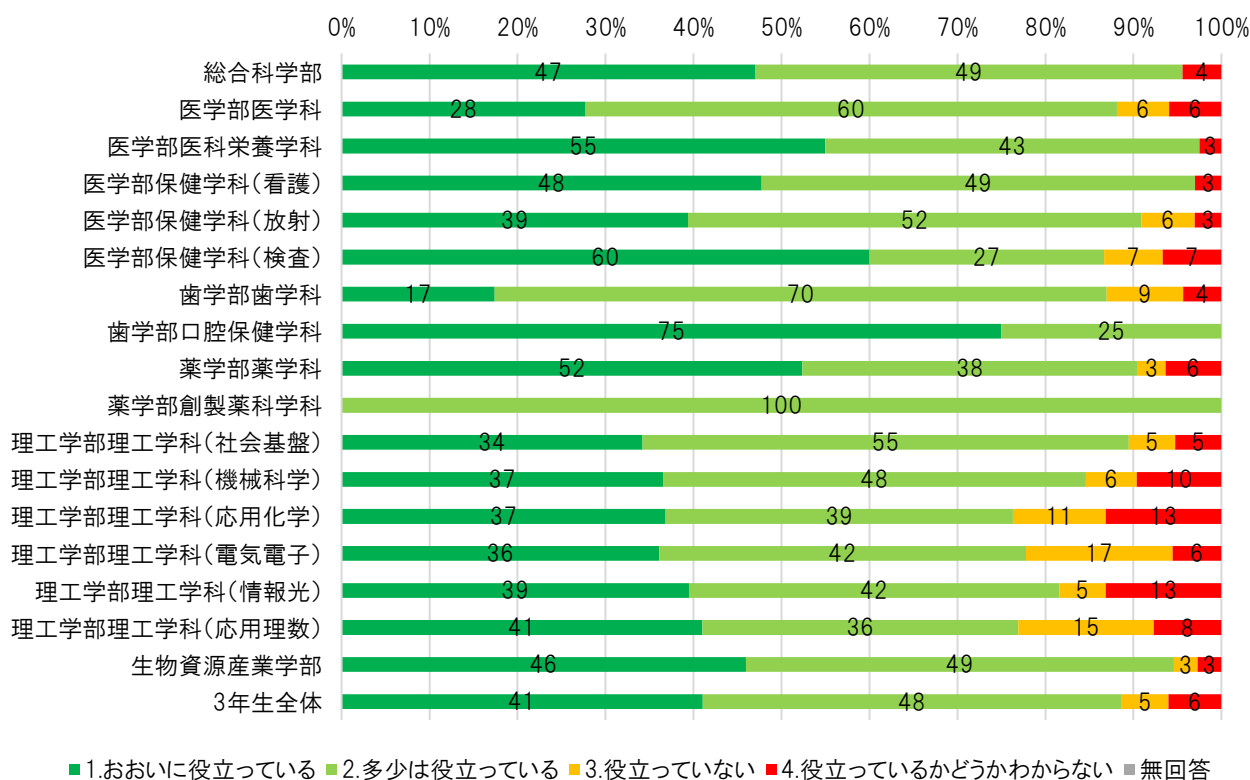
[125]あなたは、読書についてどのように考えていますか。



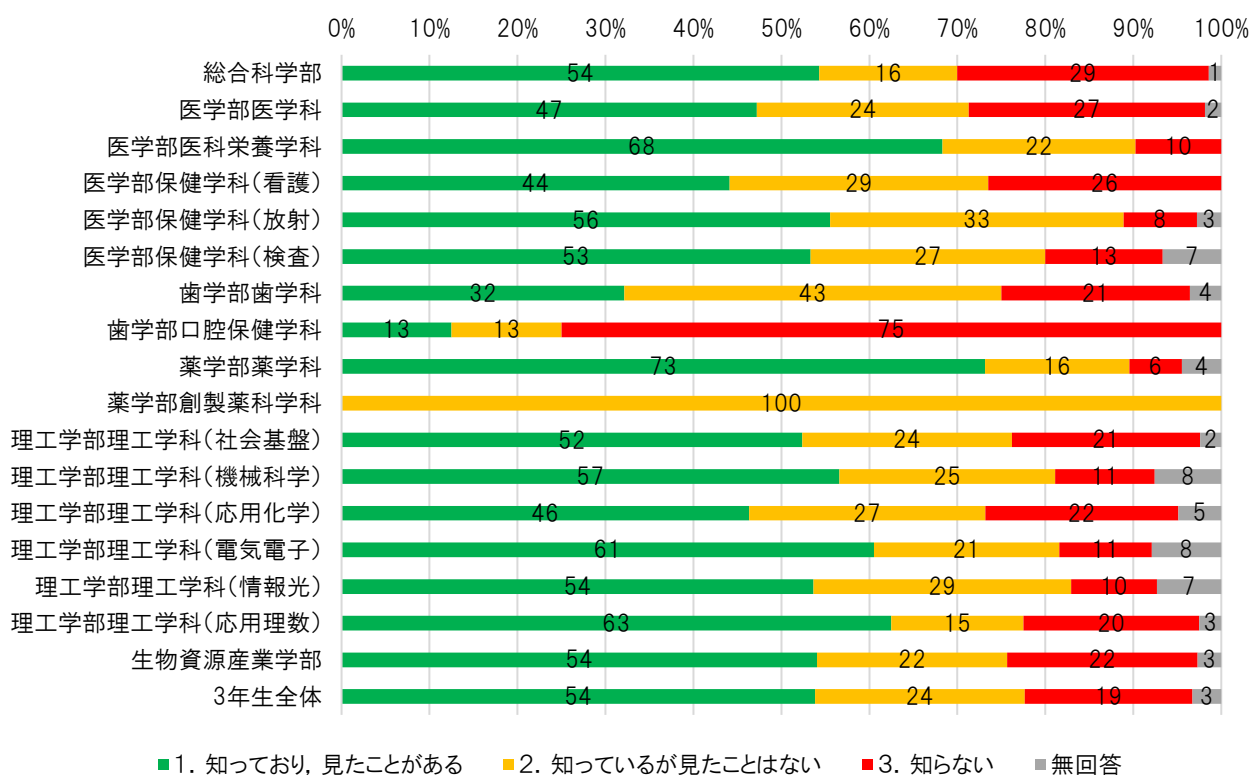
[126]自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。(ただし、受講者が10名以下の授業では、個人が特定されることのないよう成績分布は表示されません)。



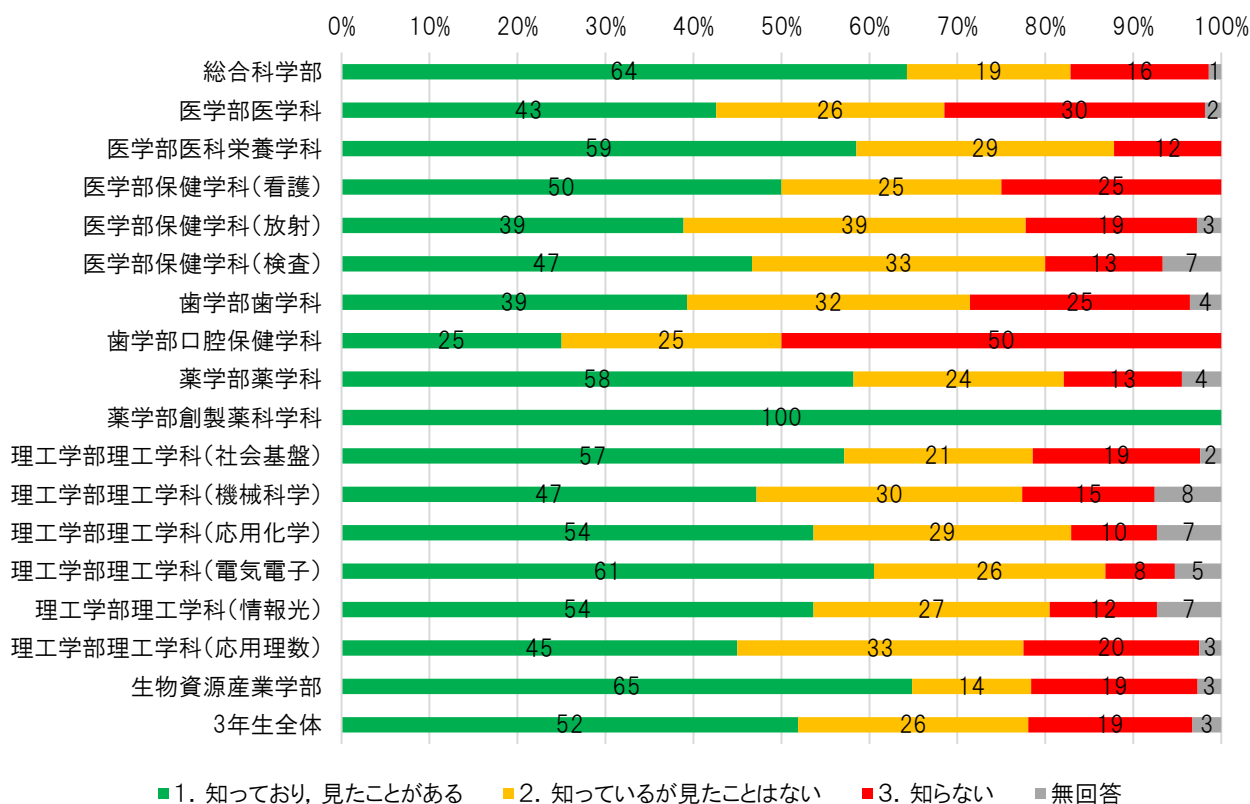
[127]問 126 で「1. 知っており、確認したことがある」を回答した人のみご回答ください。自分の成績や成績分布は、自身の成績の相対的な位置を把握することや今後の学修に役立っていますか。



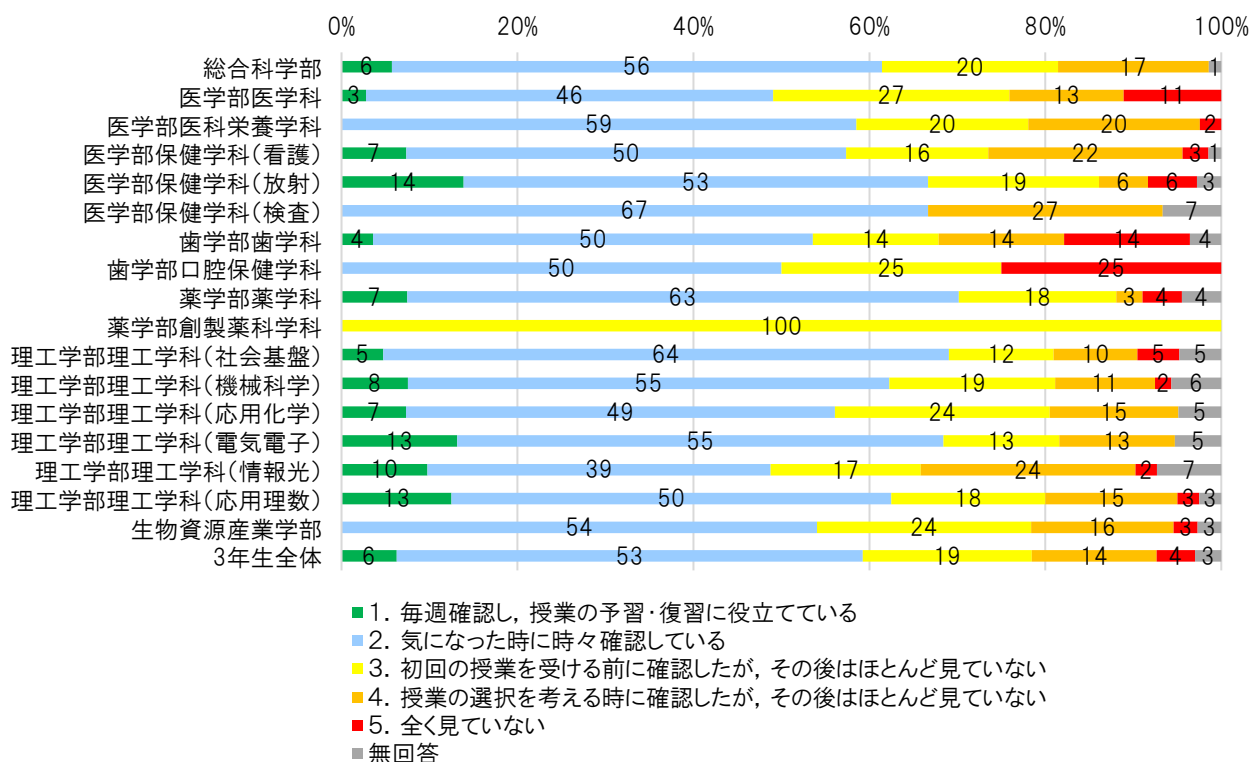
[128]あなたの所属する学科・コース・専攻で「カリキュラムマップ」が設定されていることを知っていますか。カリキュラムマップとは、卒業に必要な授業科目の配置や学修順序等を図示したもので、履修の手引きや徳島大学のウェブページ等で閲覧できます。



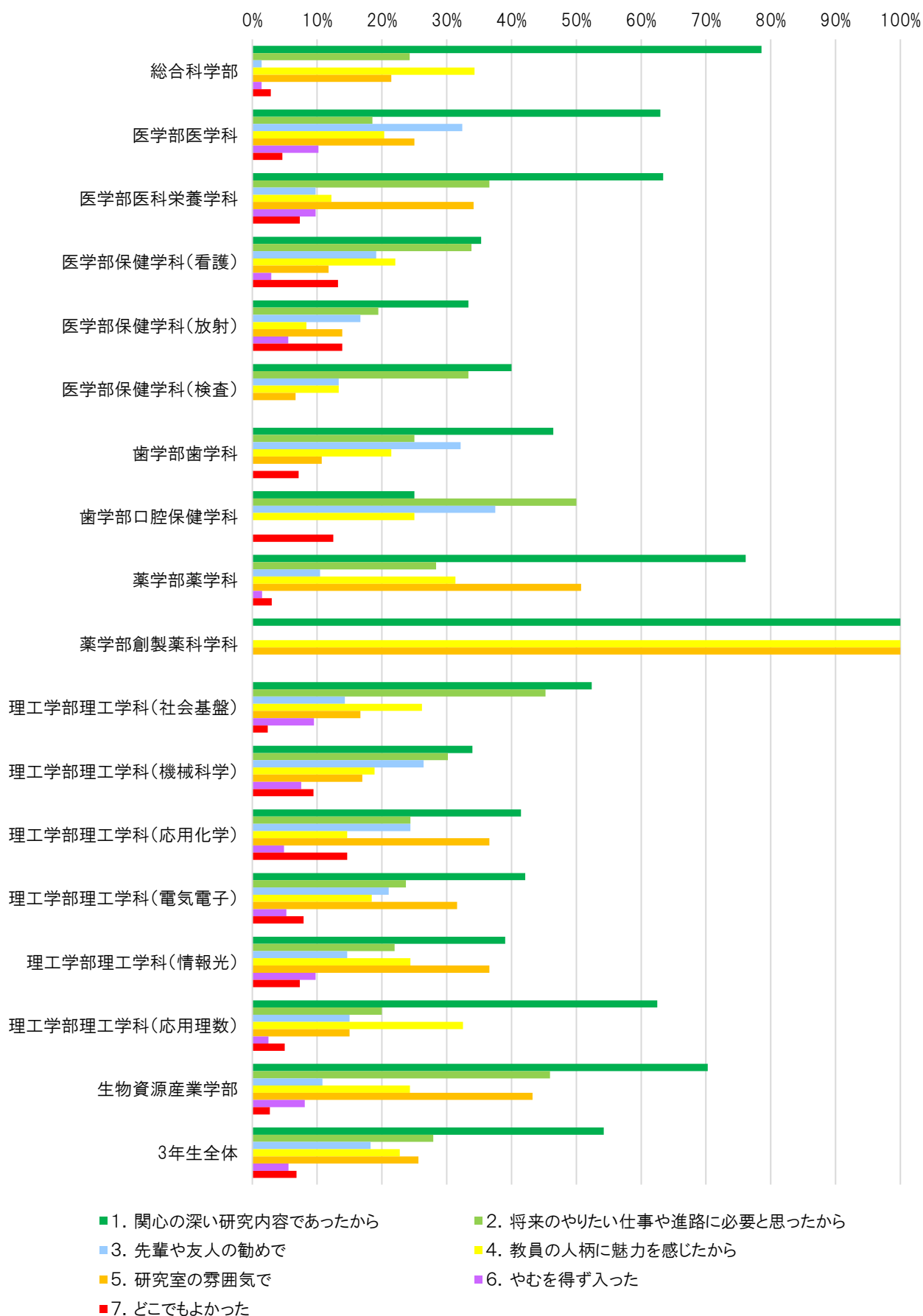
[129]徳島大学で開講されている授業科目に「科目ナンバリング」が付与されていることを知っていますか。科目ナンバリングとは、学部の授業科目を識別し、学問分野や難易度等を表すために付与された番号やアルファベットのことで、学修の段階や順序を整理し、科目選択の指針として役立つことができます。シラバスに記載されており、教務システム等で確認することができます。



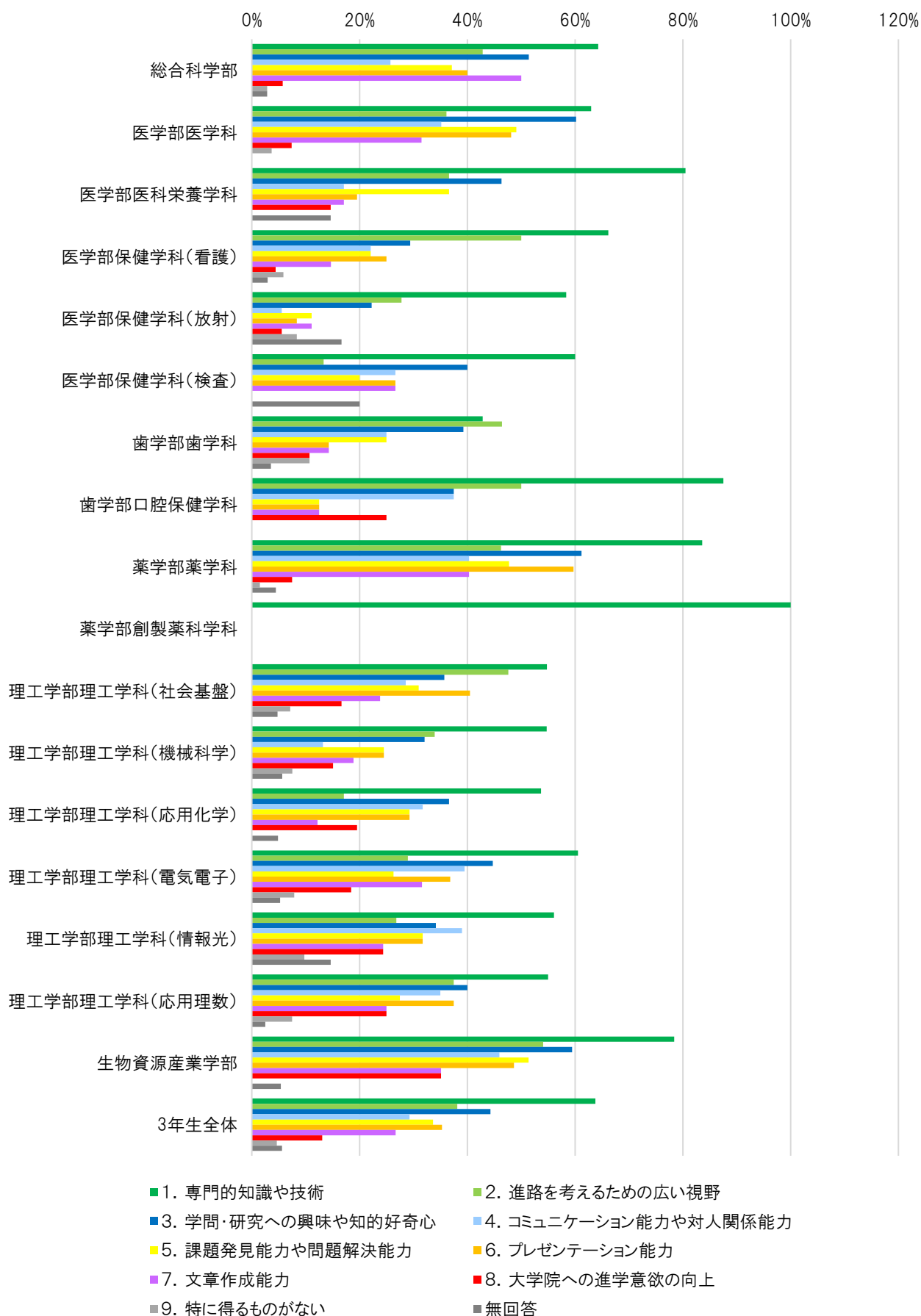
[130]シラバスはどのように利用していますか。



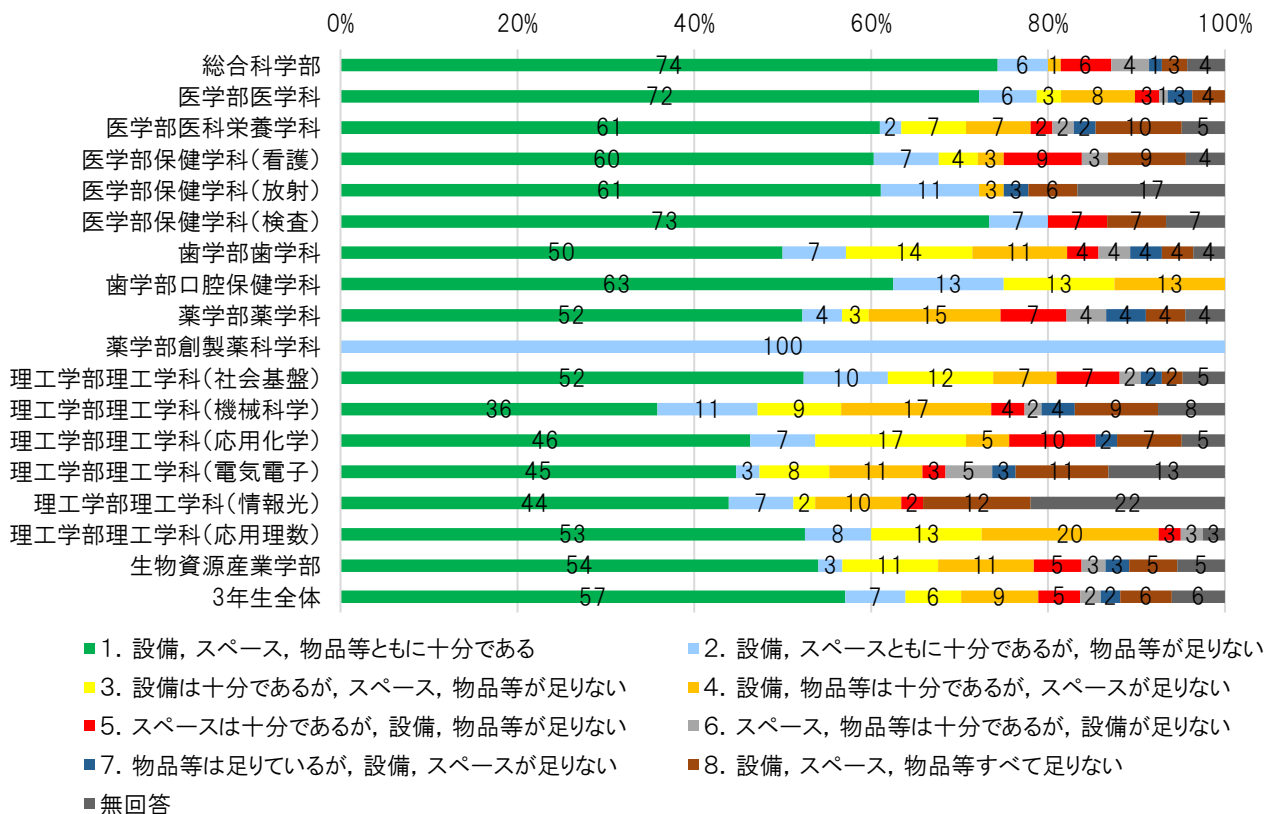
[131]卒業研究、医学研究実習(医学科)、看護研究(保健学科看護学専攻)、研究基礎ゼミ(歯学科)の研究室をどういう基準で決めましたか。(複数回答可)



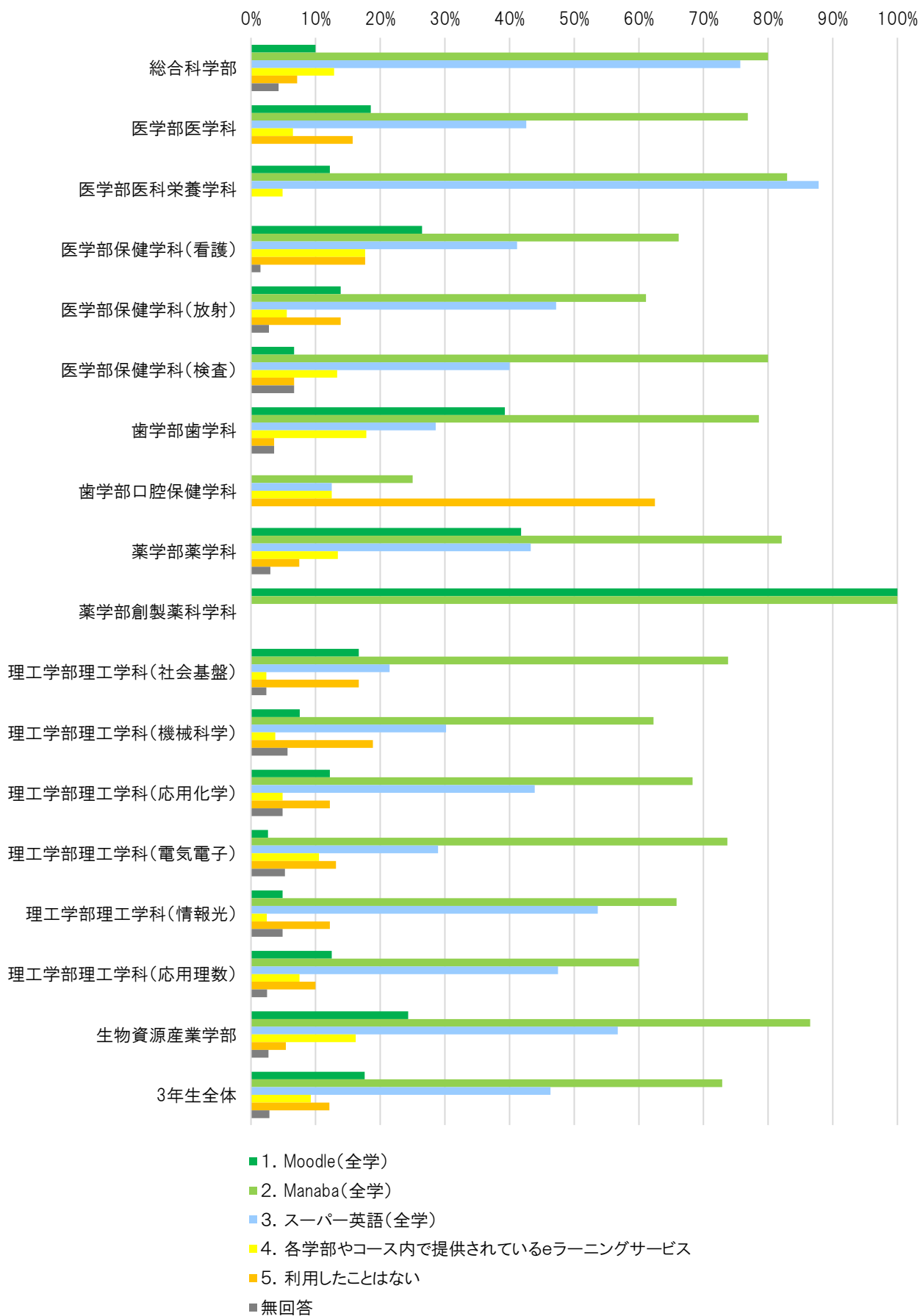
[132]卒業研究、医学研究実習(医学科)、看護研究(保健学科看護学専攻)、研究基礎ゼミ(歯学科)によって何が得られると思いますか。(複数回答可)



[133]研究を進めるための設備、スペース、物品等は確保されていますか。

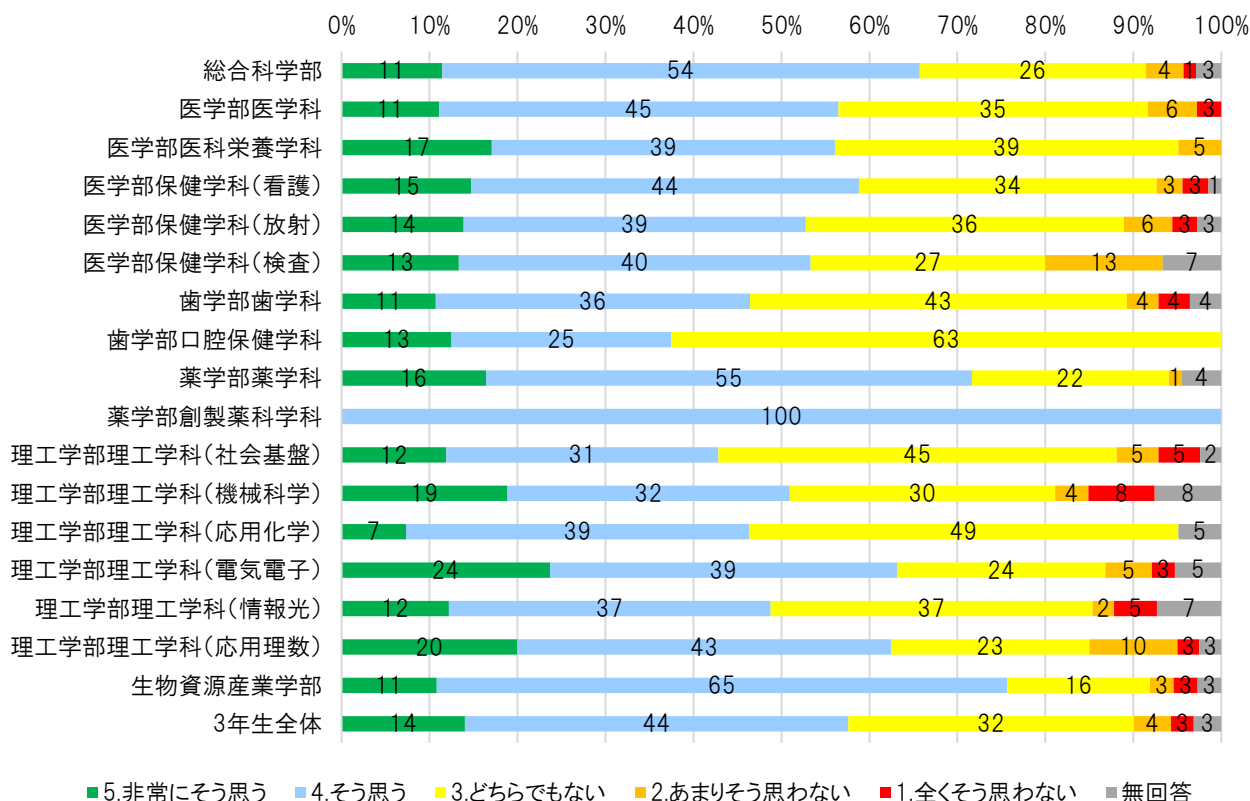


[134]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)。

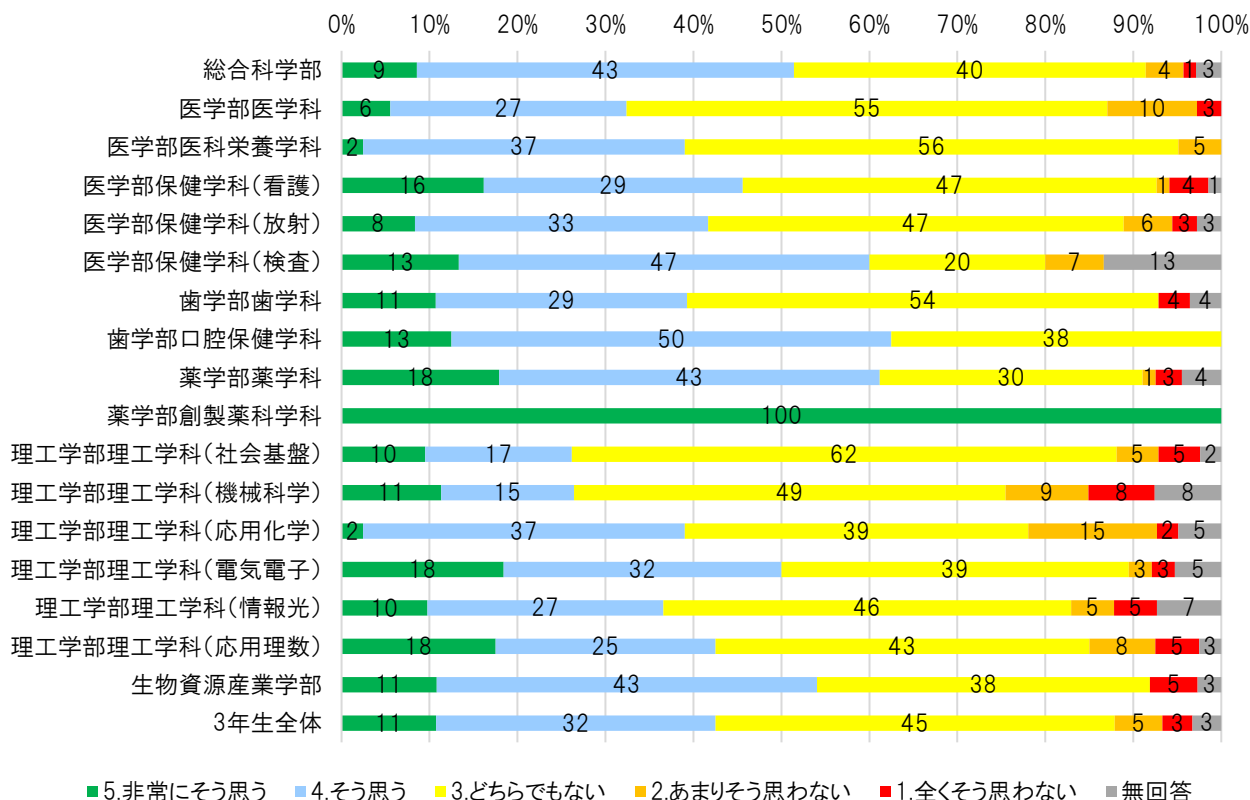


本学では、学生のみなさんに対して、上記のような e ラーニングサービスを提供しています。E ラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[135] 本学の e ラーニングサービスは、学修に役立つ

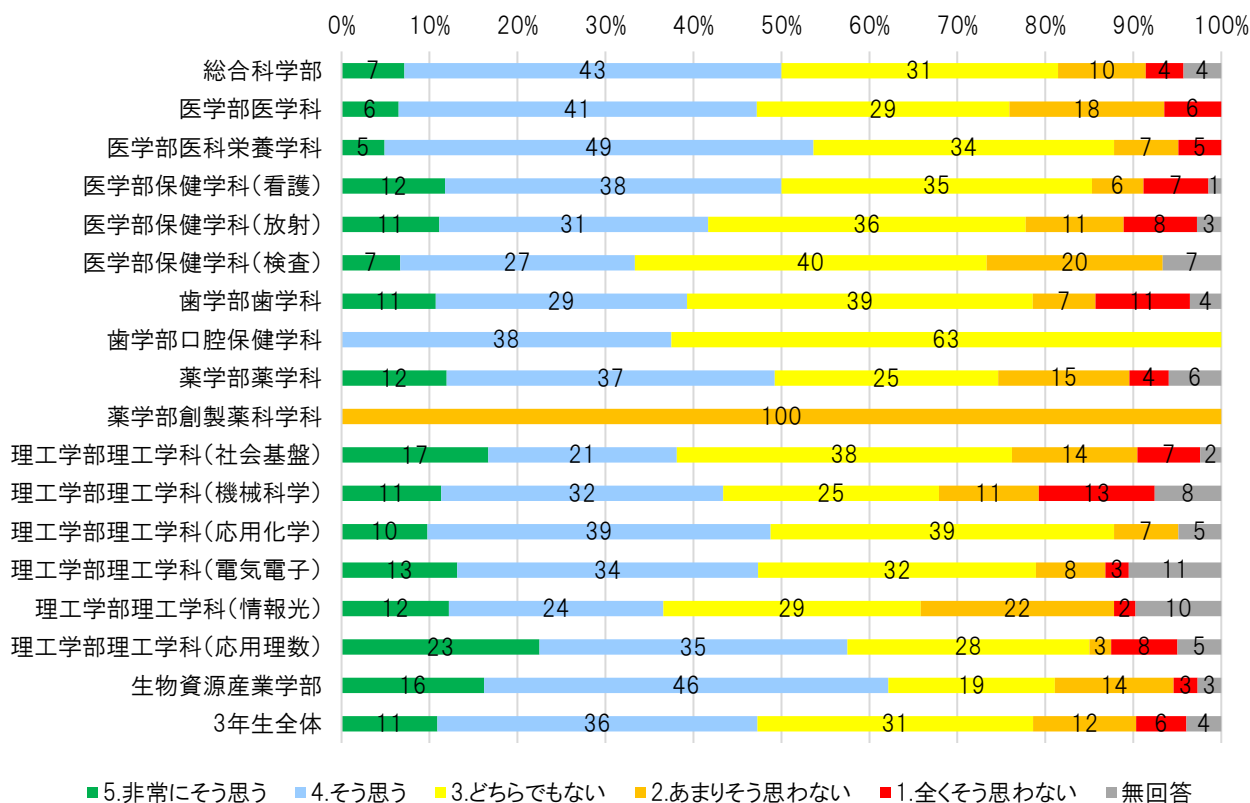


[136] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

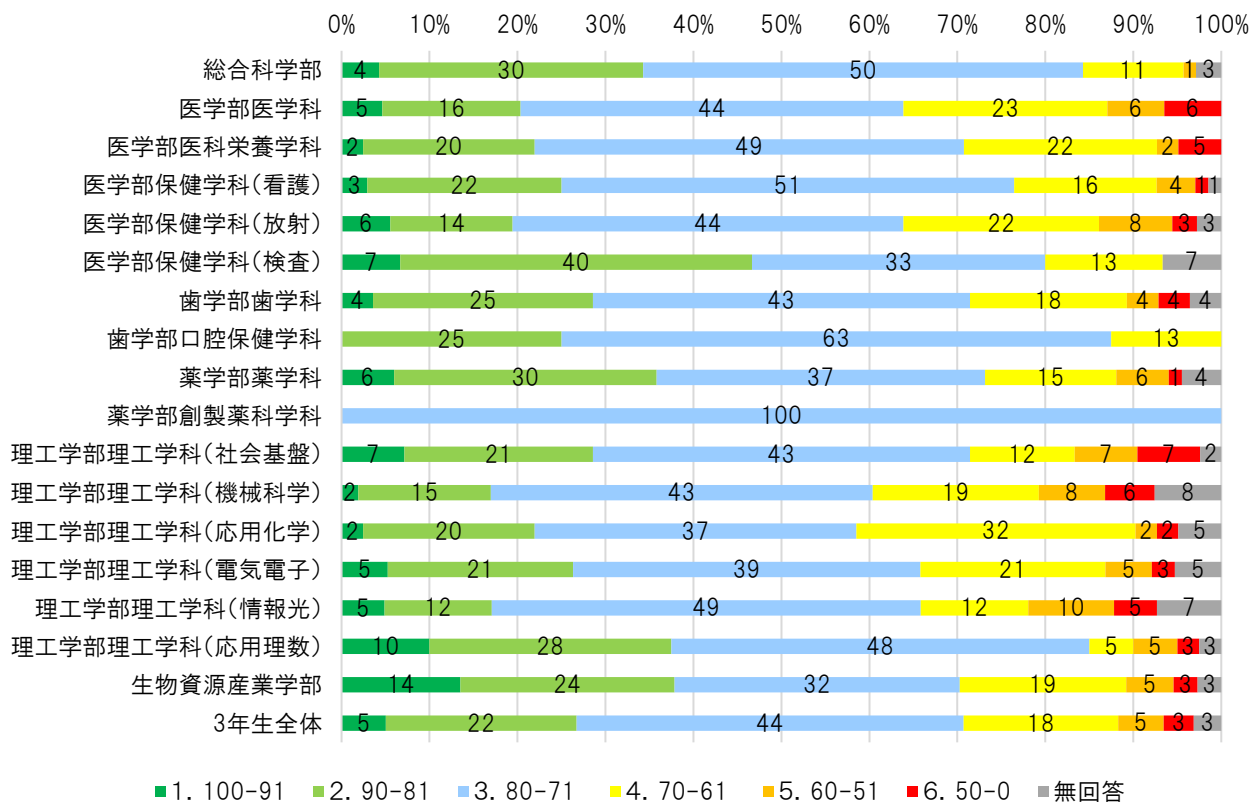


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。
この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[137]「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である

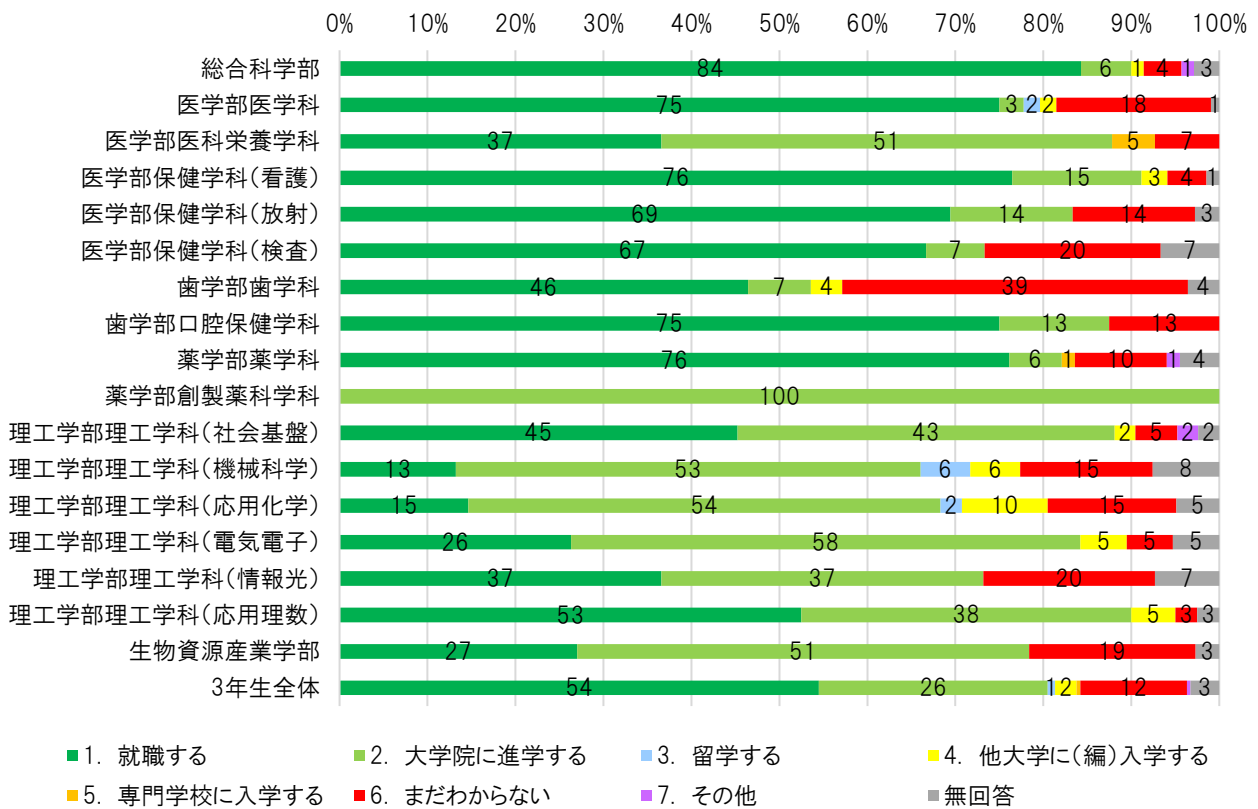


[138]大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



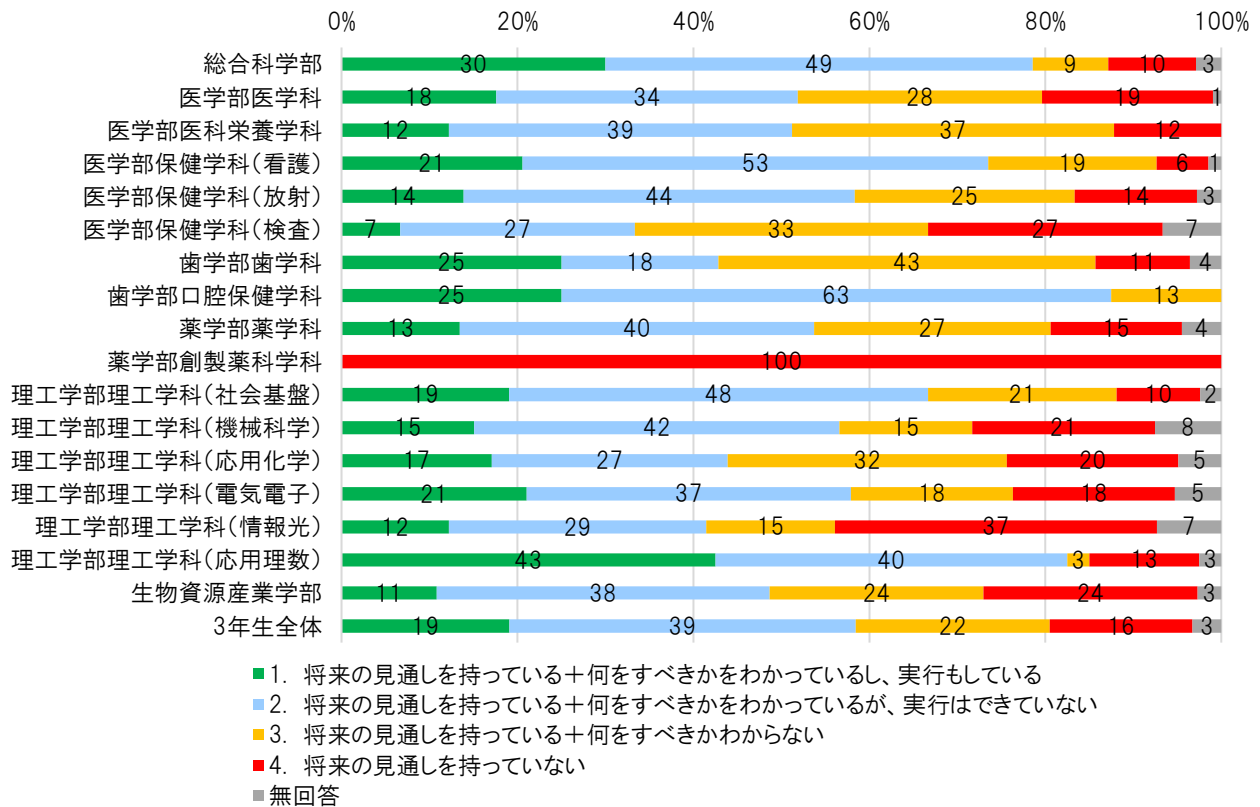
V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

[139]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



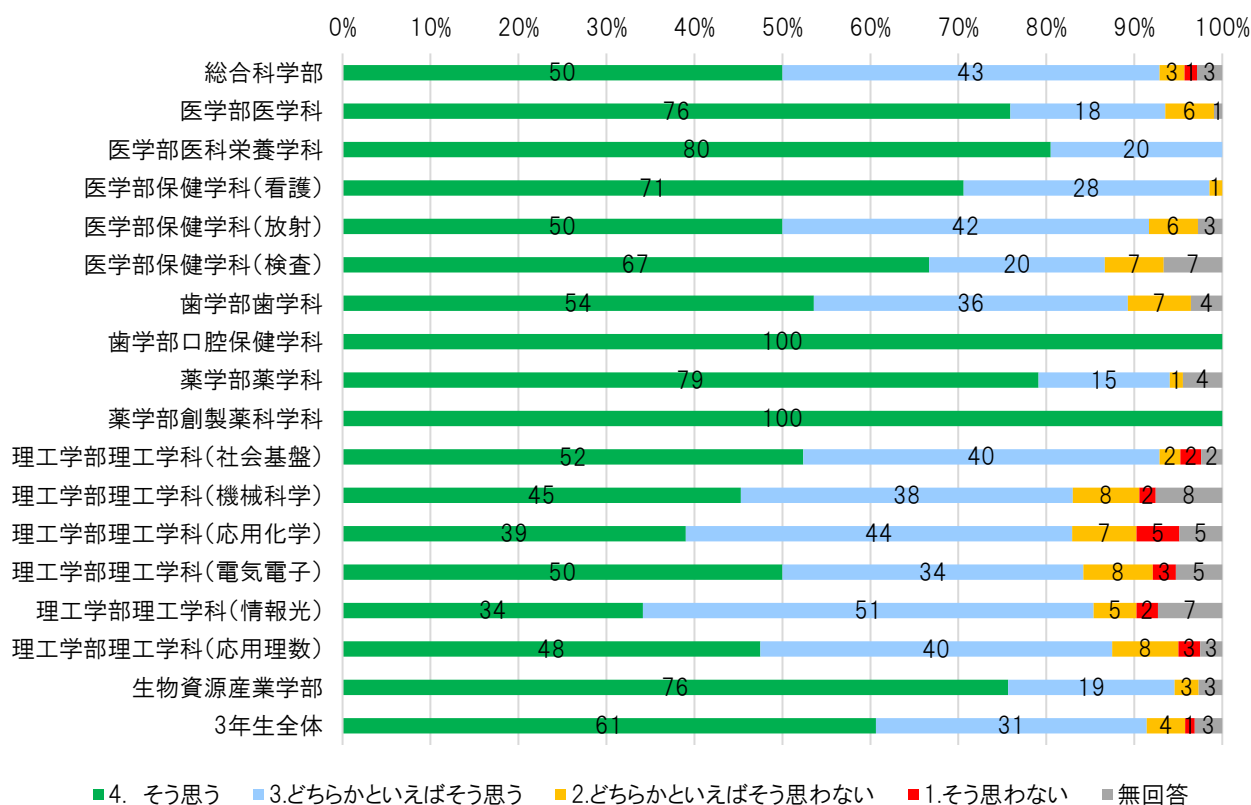
[140] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

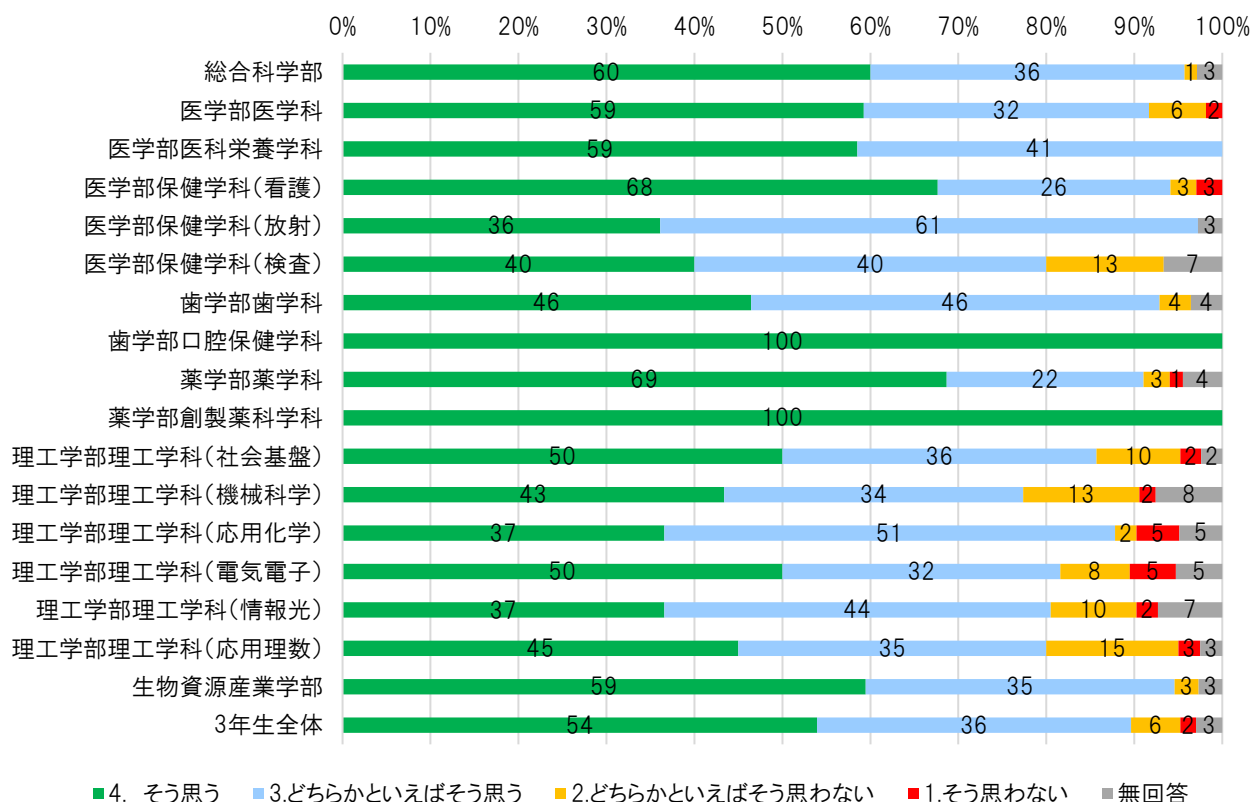


あなたが大学(学部)卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

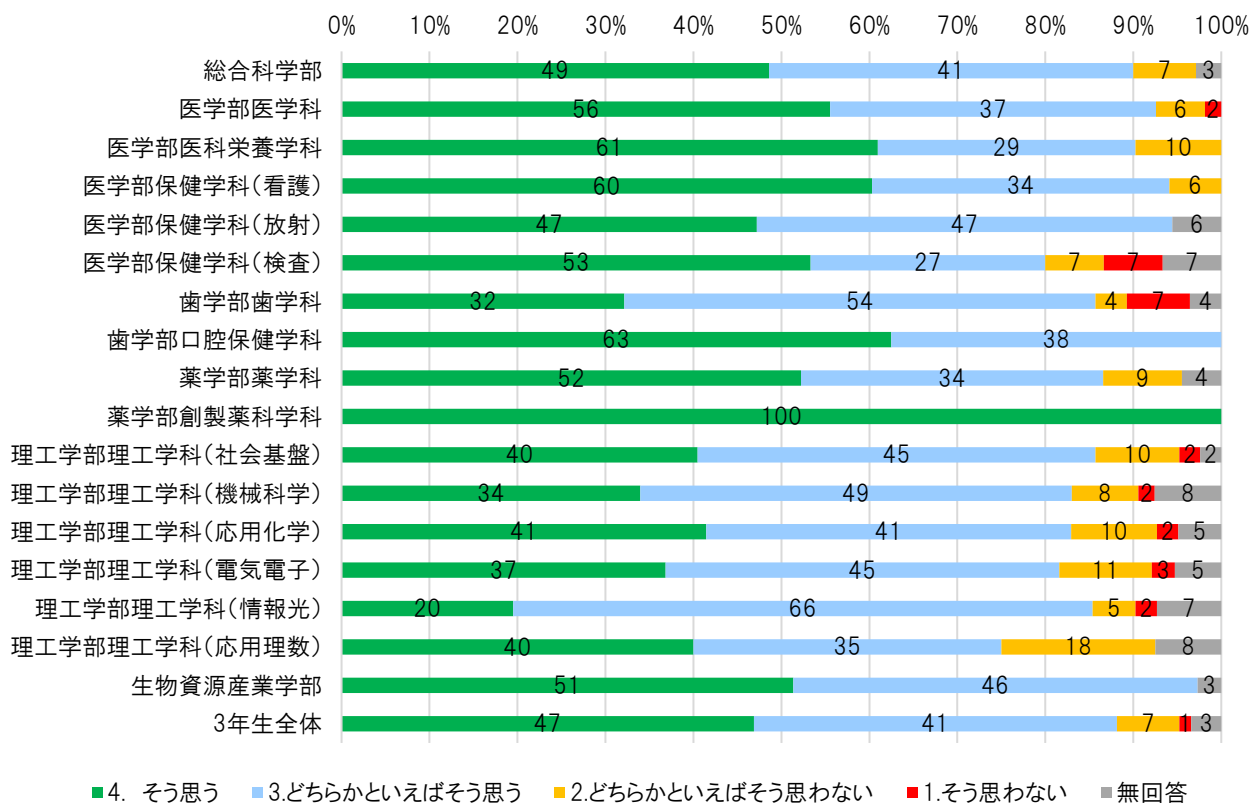
[141] 専門分野をしっかりと身につける



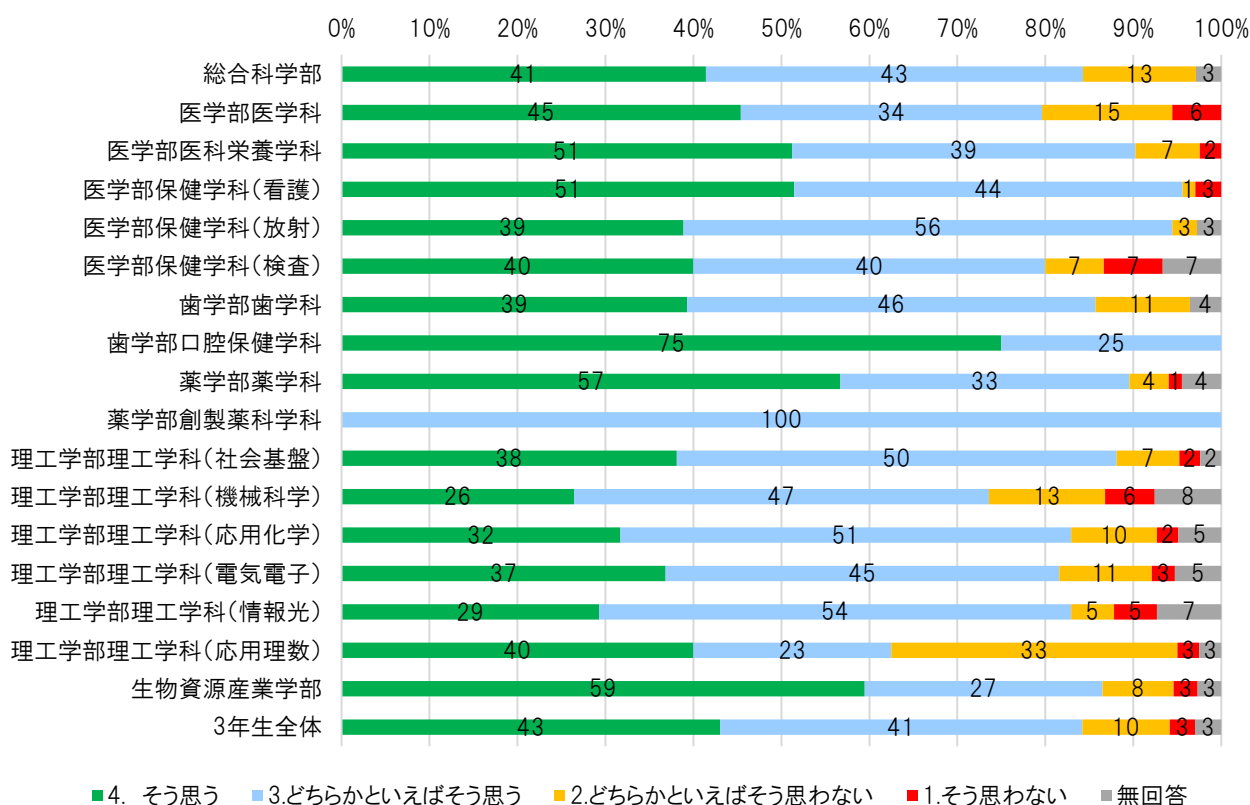
[142] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる



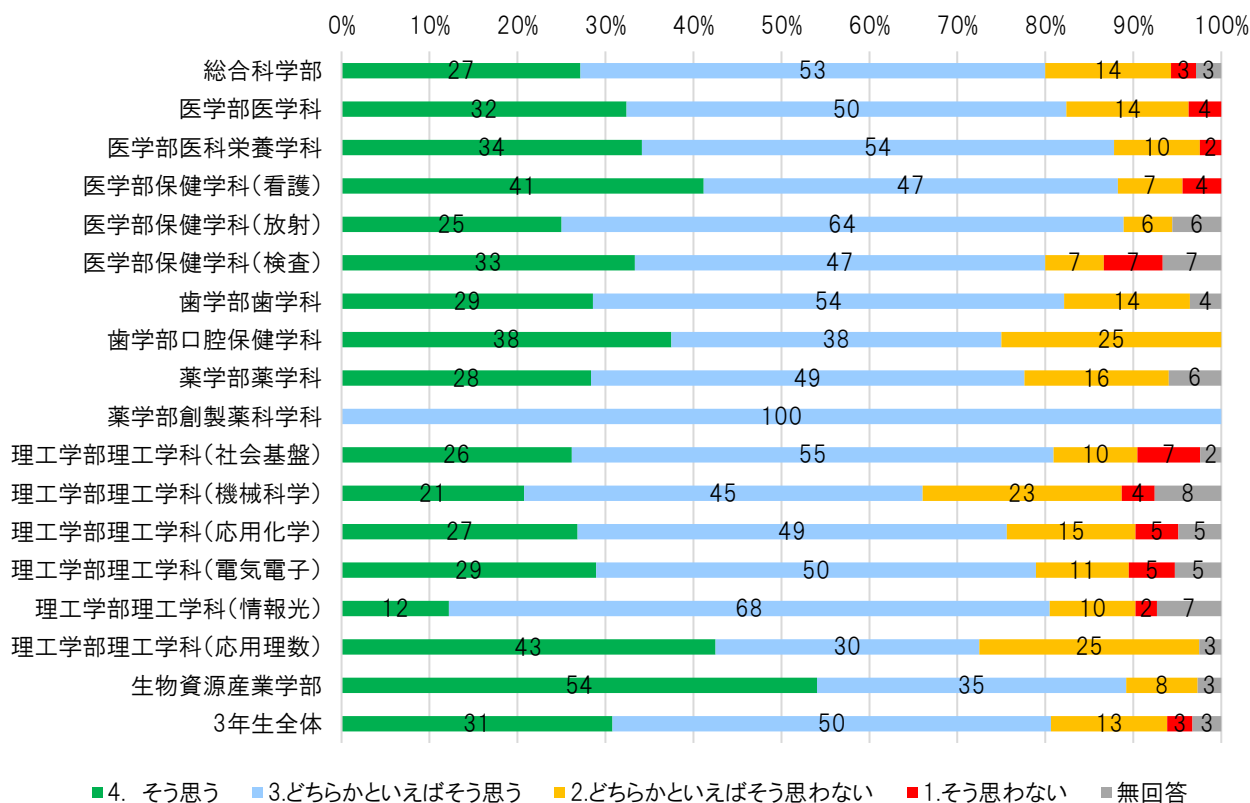
[143]就職意識の形成につながる教育を受ける



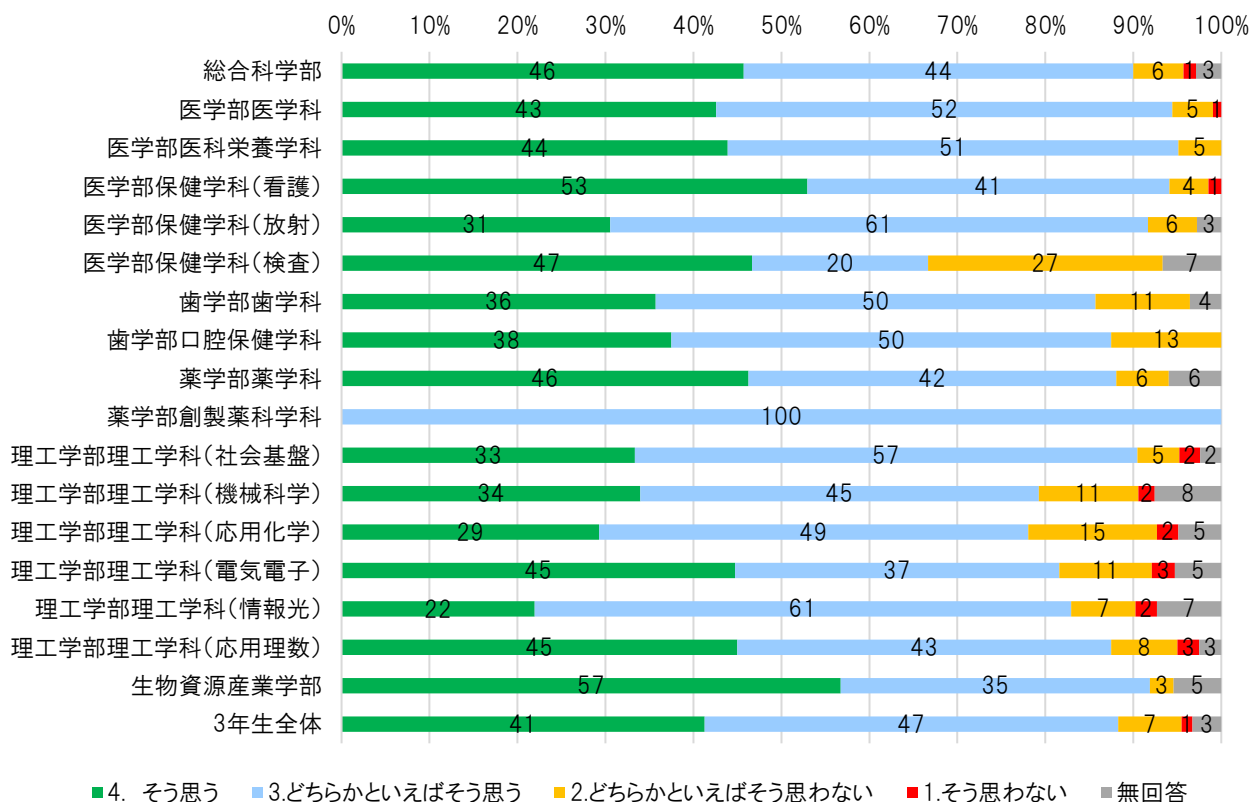
[144]企業での体験学習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ



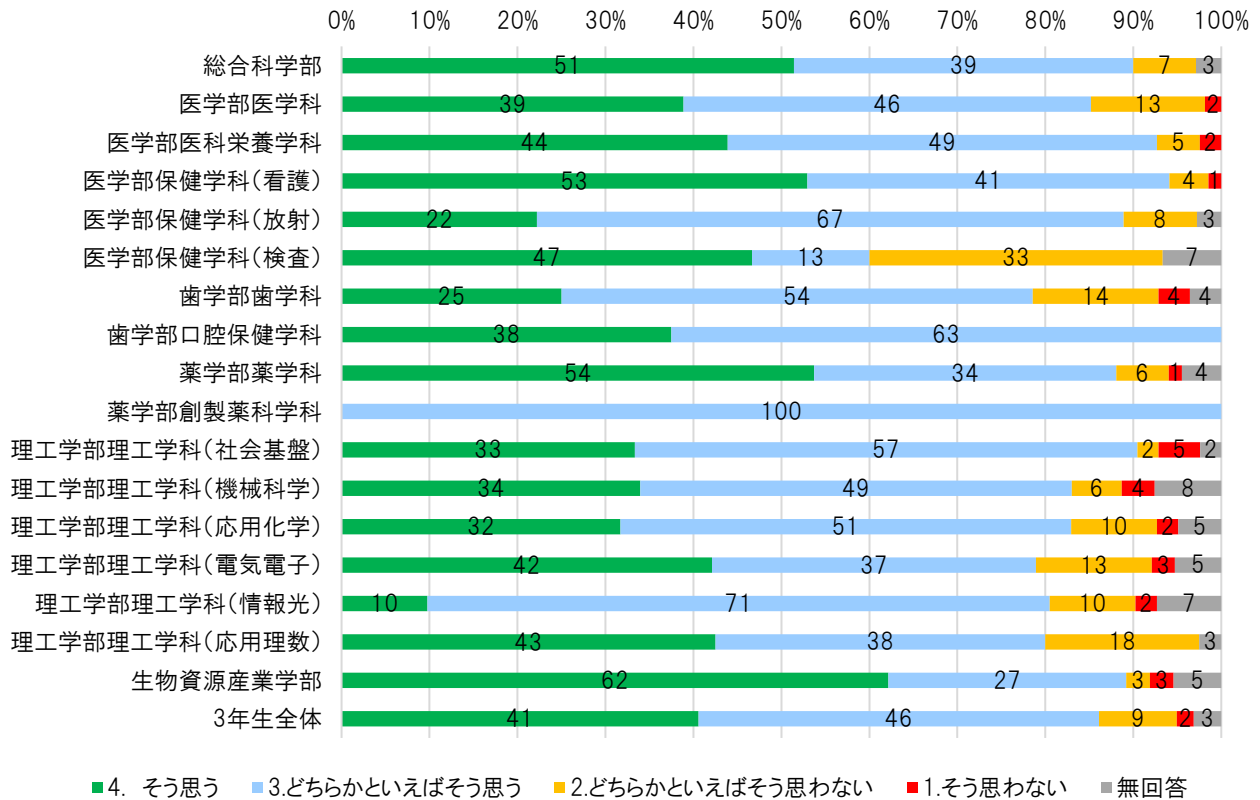
[145] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける



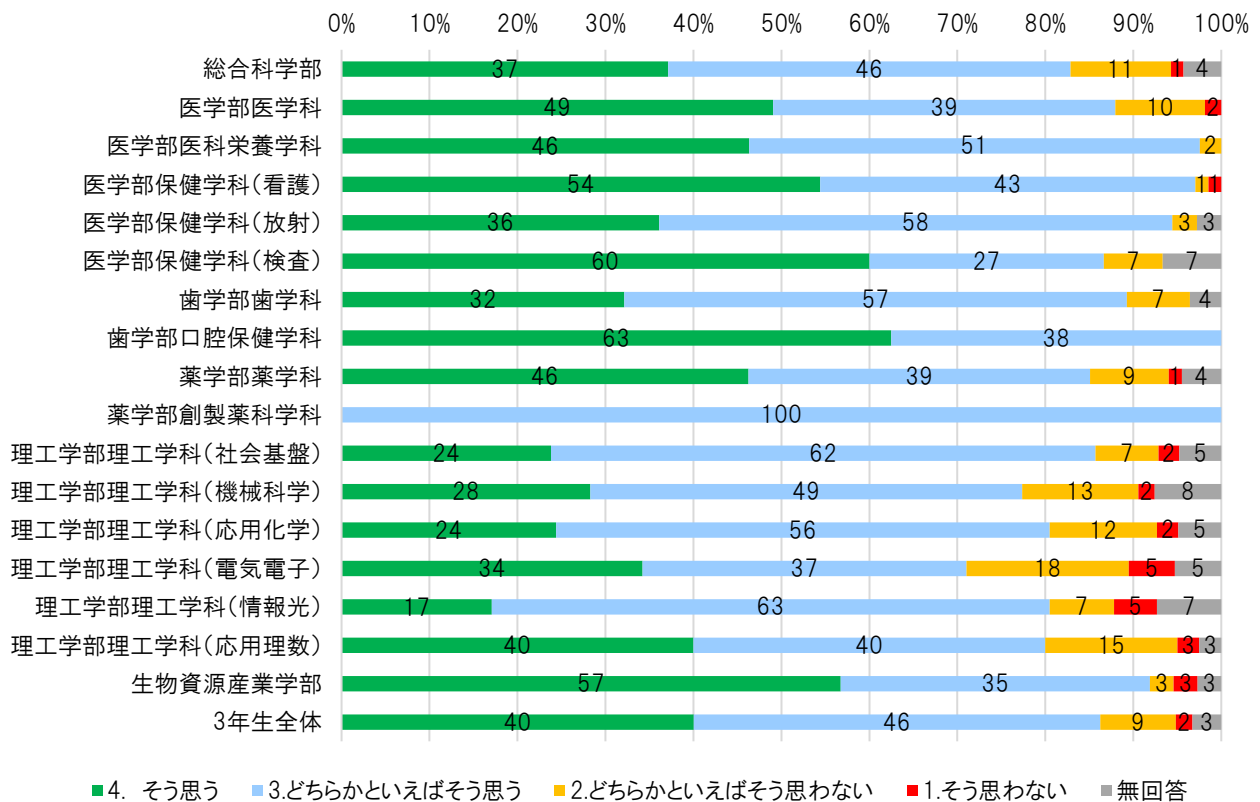
[146] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける



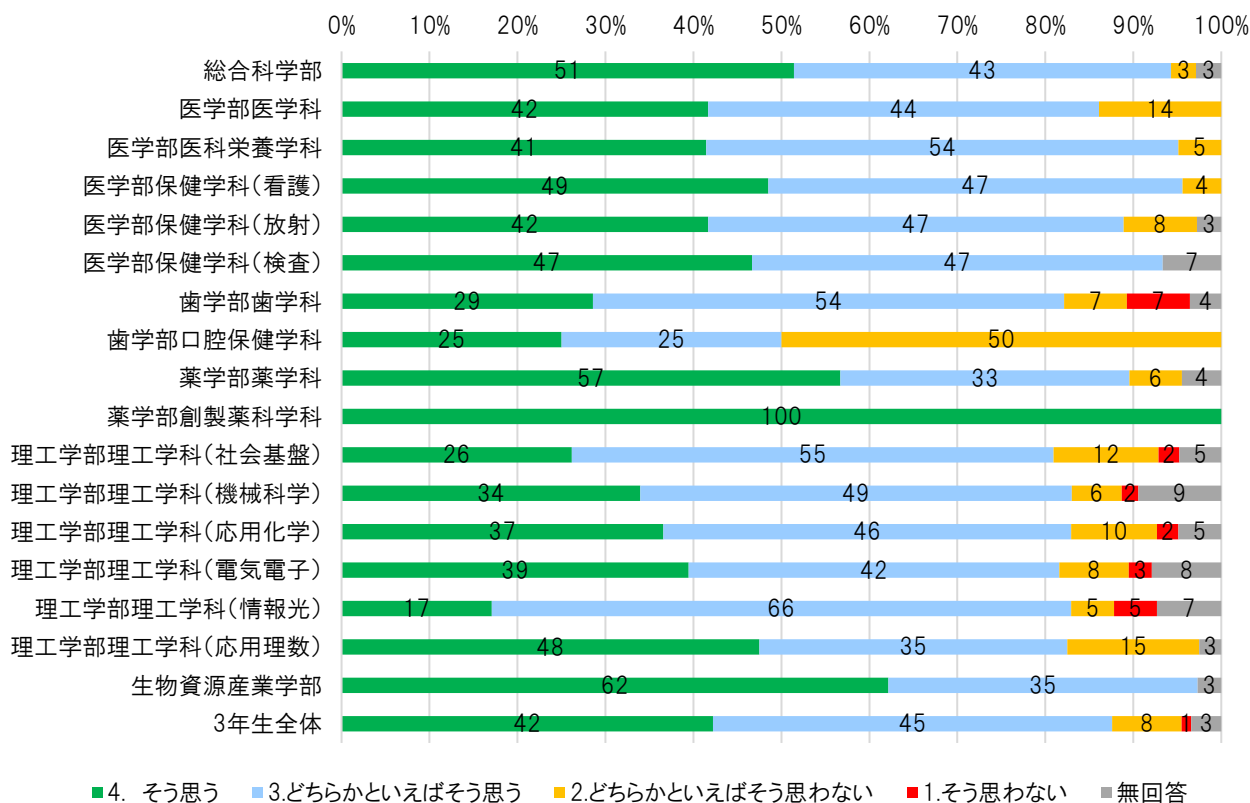
[147]ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける



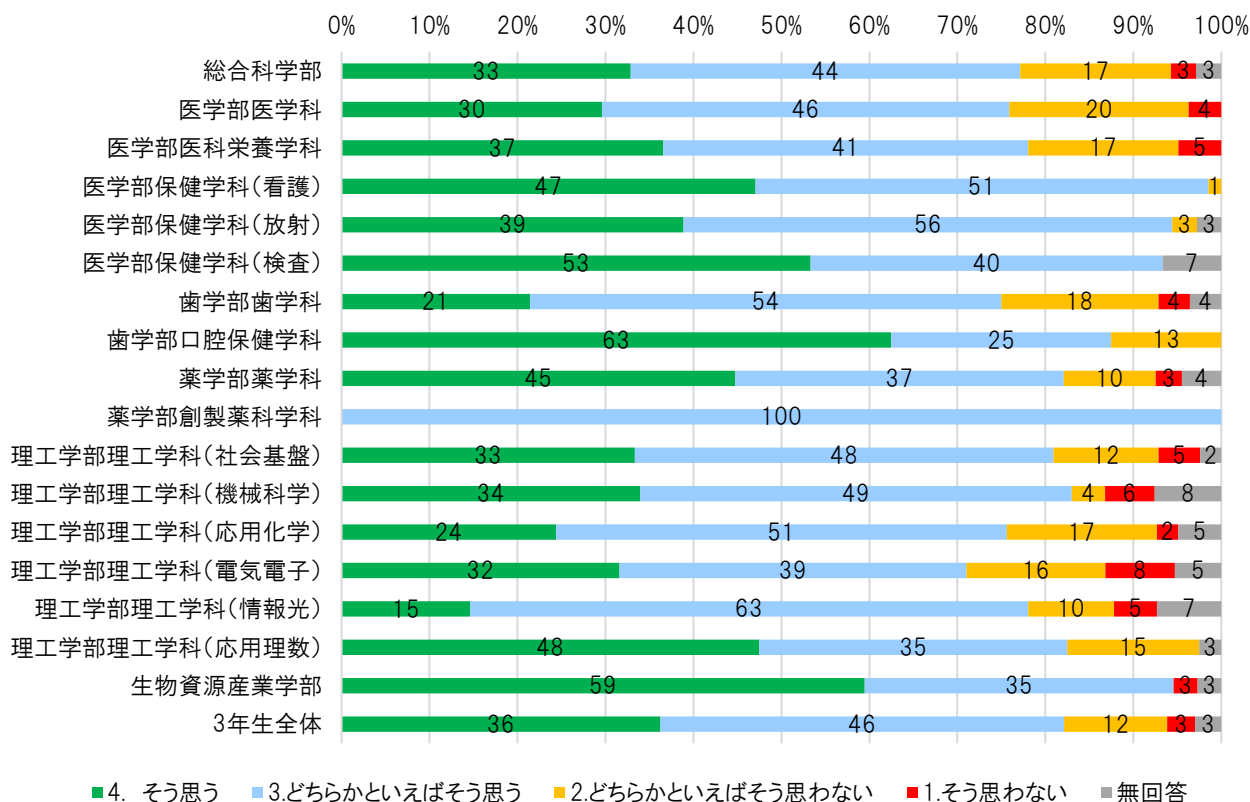
[148]実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける



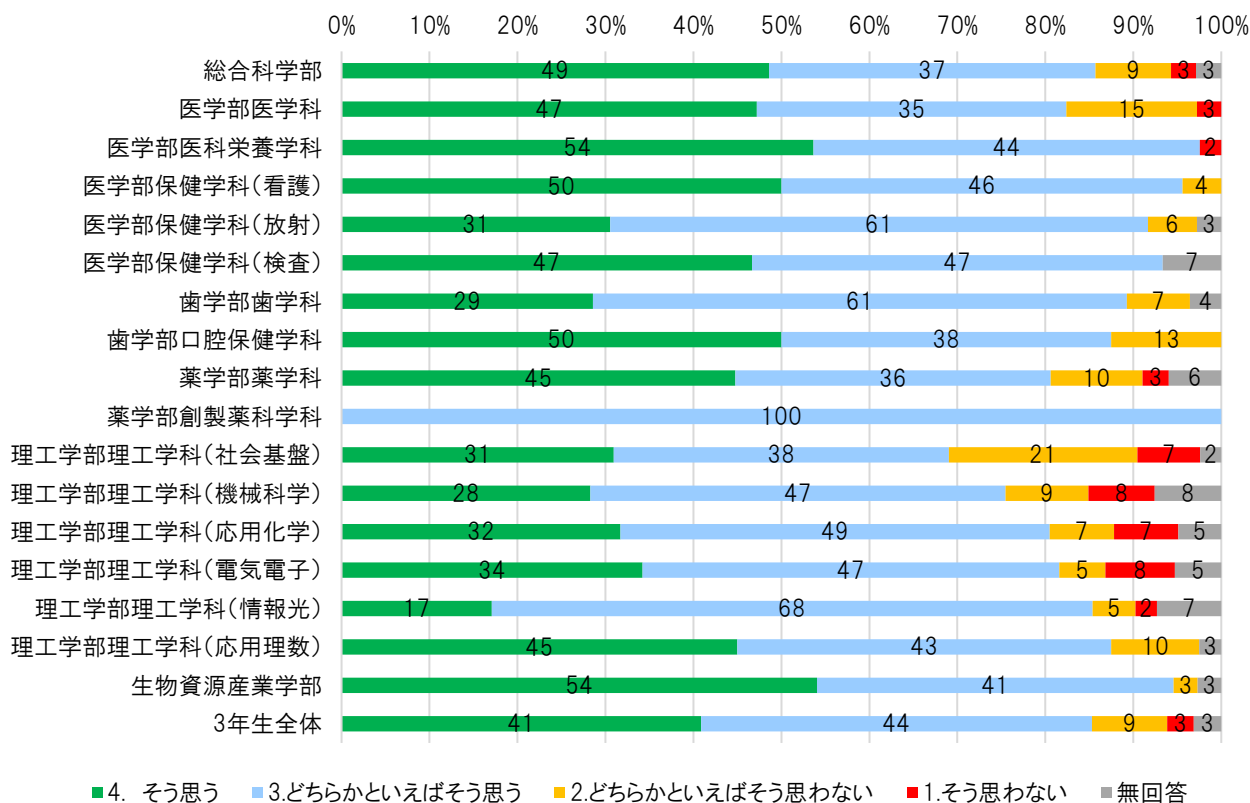
[149]レポートや論文指導により、文章作成能力を高める



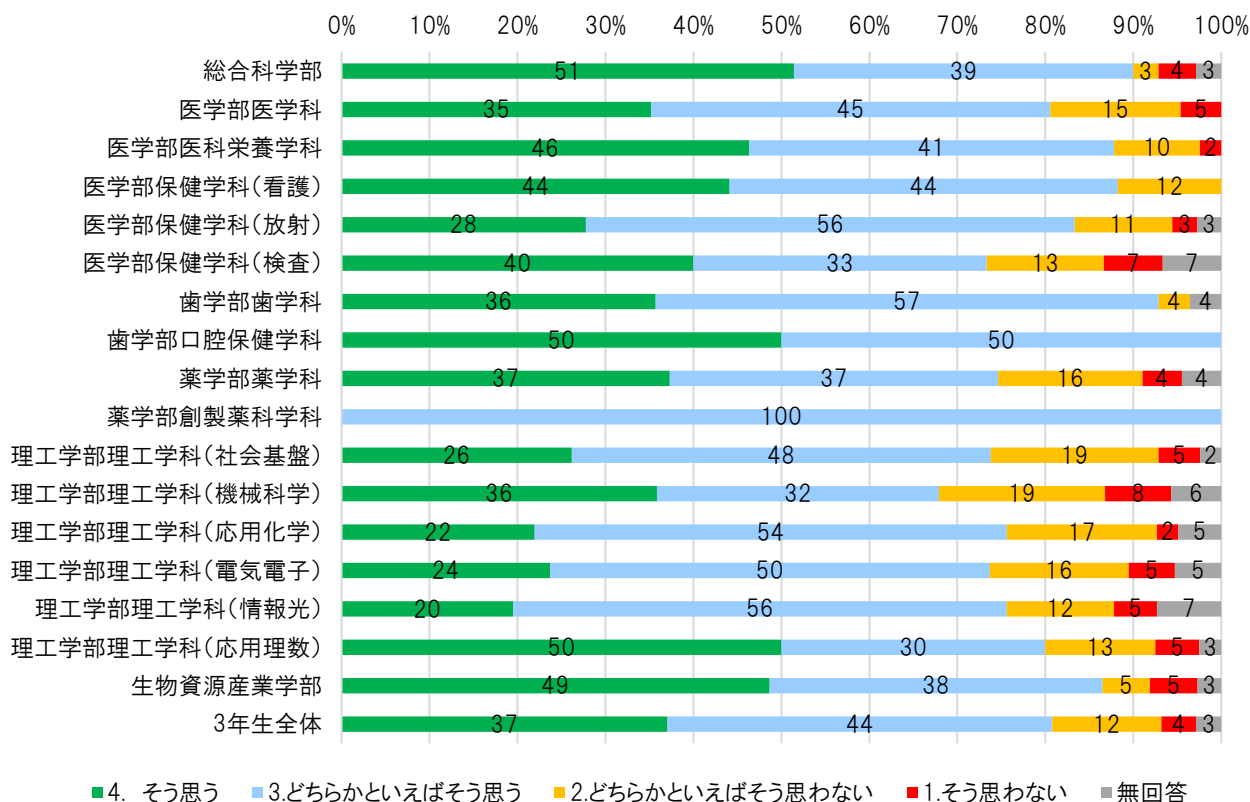
[150]卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する



[151]卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする



[152]本学の教職員以外の大人と話をする



第2章 学部等の現状と課題

1 総合科学部

今回の調査ではアンケート回答率が1年生55%（昨年54.3%、一昨年56.6%）、3年生41%（昨年35.4%、一昨年56.8%）であった。回答期間が履修登録期間後の10月1日以降であるため、学生が教務システムを確認しないことが、回答率が低迷している一因であると思われる。履修登録期間の開始と同時にアンケートを行うことで、回答率の向上が期待できる。来年度からはその方向での改善が望まれる。

今年は新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行された年であり、昨年までの遠隔授業中心の体制から、対面授業中心の体制への復帰が図られた。遠隔と対面の長所を組み合わせ、よりよい授業を提供できるよう、改善を継続することが必要である。

（設問3）「あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか」に対して、1年生の59%、3年生の50%が「家族または親せきと暮らしている」を選んでおり、総合科学部は地元からの進学率が高いことがうかがわれる。地域に貢献する学部として、引き続き教育研究に取り組むことが望まれる。

（設問4）「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」機会がどれくらいあったかを問うた設問において、体験的な学びの経験が「頻繁にあった」と「時々あった」を併せて1年生27%（昨年度27%、一昨年度15%）、3年生53%（昨年度40%、52%）であった。我々総合科学部の実践的な学習、地域社会との協働は1年生より徐々に増加する。特に地域創生コースの学生（1学年の内、大体4分の1）はこれらの学習を重視している。この点を踏まえれば、3年生の半数弱の学生が何らかの形で体験的な学びに触れているというのは順当と言えるだろう。

学生自身による文献調査（設問8）や定期的な小テスト・レポートを体験したか（設問9）については、「頻繁にあった」と回答した割合は、1年生で4年前の42%から3年前64%、一昨年63%、昨年61%へ、3年生で46%→60%→63%→70%へとコロナウイルスの感染拡大の下で数字を伸ばした後、一定の水準を保っている。これは今回の調査においても1年生67%、3年生同じく63%と前年と同程度または上回る数字を示した。これは対面授業の復活による日々の課題取り組みが学生に定着していることを表している。

「授業をつまらなく感じた」（設問28）ことが「頻繁にあった」「時々あった」と回答した1年生の割合が3年前から64%→63%→71%→69%（今回）と60～70%の間で推移している（ただしこれは他学部と比較すると低い方である）。授業や学問の意義を繰り返し学生に伝えることが必要だろう。

感染症による入構制限の影響としては、「授業課題のために図書館を利用しましたか」（設

問 20) について、「あまりなかった」「まったくない」の割合が1年生では3年前より 33% →42%→37%→54% (今年) と、コロナによる入構制限の撤廃にもかかわらず増加している (3年生も今年 44%。ただし、他学部と比べて低いわけではない)。2024 年度には、1年生の入学時オリエンテーションにおいて「図書館訪問」を取り入れることで、図書館の利用拡大を図る予定である。

その一方、「授業課題のために Web 上の情報を利用した」(設問 21)、「インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」(設問 22) では、1、3年生ともに一昨年から昨年に増加した傾向をそのまま反映し、今年も 100%に近い学生が何らかの形で携わっている。

また「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」(設問 35) では、2時間以下の割合が1年生で3年前の 19%から 4%→11%→15% (今年) へ、3年生でも 30%から 12% →32%→11% (今年) と推移している。とくに、3年生では学習時間が他学部と比べて少ない傾向が見られる。引き続き、課題を出すなど授業時間外の学習をさせるよう改善が望まれる。

一方で、コロナ禍により懸念された人と人とのつながりの希薄化については、コロナの終息に伴い改善がみられる。特に1年生にとって大学生活をスムーズに始めるにあたって対人関係はきわめて重要である。「大学教員と顔見知りになる」(設問 89) では「とてもうまくいった」「いづらかうまくいった」と回答した1年生は3年前 21%→17%→35%→64%で、対面授業復活の効果が顕著である。他学部でも同様の傾向が見られる。

「他の学生との友情を深める」(設問 90) も同様である。「とてもうまくいった」「いづらかうまくいった」は1年生で 51%→45%→74%→82% (今年) である。「あなたの学生生活は充実していますか」(設問 94) における「充実している」「まあまあ充実している」は1年生で 49%→63%→85%→85% (今年) へと回復した。なお、3年生に関しても 87%の学生が充実感を覚えており、良化が著しい。

授業の在り方に関連した要素としては、以下を指摘したい。「授業中に学生同士が議論をする」(設問 12) では「頻繁にあった」「時々あった」の回答が1年生で 73%、3年生で 91%であり、前回調査時 (85%、81%) と変わらず高い割合を示している。これは各教員がグループワークを積極的に導入したことによるだろう。

「授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした」(設問 24) に関しては、1年生は「頻繁にあった」「時々あった」の回答が3年前から 52%→52%→65% →73% (今年) となっている。それに対して3年生は 61%→76%→67%→69%。1年生の数字が向上している。引き続き、授業時間外の課題を出すなどして、授業時間外の学習交流

を促進したい。

大学における教育に対する期待（設問 69）や、大学の教育によって獲得が期待できる知識や能力（設問 70）に関して複数回答可で問うた設問について、1年生と3年生ともに「社会で役立つ知識、教養」が「人生を支える幅広い教養」よりもやや上回り、「実学志向」が見て取れる（他学部も同様の傾向である）。

求める知識については1年生、3年生とも「専門的知識」よりも「一般知識・教養」を選ぶ学生の方が多い。これは他学部にはあまり見られない傾向である。やはり人文社会系学部としての総合科学部を選ぶ学生の指向が反映されていると思われる。

異文化理解につながる外国語の修得や留学については、総合科学部で特に重視している学修である。それに関連した一連の問い（設問 76～83）では、聞く、読む、話す、書く技能におけるそれぞれの到達レベルについて、1年生については入学後から後期までの間に上昇をみせている。全学的な傾向として（おそらく日本の学生全体の傾向として）、「聞く力」はほどほどにあっても「話す力」はないと考えている学生が多いことが見て取られる。積極的に発信する能力を重視した語学教育のみならず、日本語であっても積極的に発信する態度を育てることが必要である。3年生では、1年生と比べて英語能力について高く回答した割合が多い。総合科学部における語学教育をさらに充実させ、学部の特徴をさらに伸ばすことが望まれる。

2 医学部医学科

医学部医学科生の学修に対する現状と課題は下記の通りである。

アンケートの回収率について：

医学科のアンケート回収率は1年生91%、3年生95%と昨年より大幅に増加した。授業開始前のオリエンテーションでアンケートの目的と意義について説明し、自らの意見が徳島大学の教育改善にむけたPDCAサイクルの一環となっていることを学生自身が理解できるように努めたことに一定の効果があったものと考えられる。また、アンケート回答期間、授業中にアンケートへ回答するよう繰り返しアナウンスしたことも大きな要因と思われる。今後もアンケートの意義の周知に務めるとともに、授業などで直接アンケートへの回答を呼びかける機会を作ることが有効と考えられる。

大学入学後の学修状況について：

1年生では実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ機会があったと回答している学生が62%であり、昨年の34%から大きく増加している。また、地域社

会が直面する問題を理解する能力や国民が直面する問題を理解する能力、他の人と協力して物事を遂行する能力、人間関係を構築する能力、コミュニケーション能力が増えたと回答している学生も昨年より増加している。コロナ禍で中断していた臨床現場見学や地域医療学習の再開が反映されていると考えられ、入学後、早い段階から同僚や他の医療職メンバーと信頼関係を築くことができるような実習の機会を増やした成果がでてきているものと思われる。一方、3年生では上記項目の増加を実感している学生は前年と同程度である。3年生のアンケート回答時は医学研究実習と座学が中心であり、直近に体外的な活動経験が乏しいことも一因と推測される。社会医学実習などが開始された後に上記項目の増加が期待される場所である。

授業時間以外に課題や予習、復習に11時間以上を費やしている学生は、1年生では23%と昨年より半減し、3年生でも14%と低い。日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出して向上を図っている学生も、1年生、3年生ともに半数程度にとどまっており、学修時間の不足が常態化している。アクティブラーニングの推進と併せて、予習・復習習慣や常に省察する習慣を涵養していくことが必要である。予習・復習時間が絶対的に不足している学生も一定数みられるが、学習時間の不足の原因はアンケートからは読み取れず、面談などで早い段階からの個別対応が必要と考えられる。

学生自身が文献や資料を調べる機会や授業中に学生同士が議論をする機会があったと回答している学生が1年生では90%と高いのに対し、医学研究実習を行っている3年生では78%と低く、約2割の学生が自主的な研究活動を実践できていないと考えられる。医学研究実習の到達目標を指導する教員にも学生にも繰り返し周知する必要がある。授業内容を理解できる科目の割合が70%以上と回答した学生は1年生で89%に上っているのに対し、3年生では59%と前年よりも大きく減少している。昨年度までは殆どが遠隔授業であったのに対し、今年度は原則対面授業に切り替えたことが影響している可能性があり、遠隔授業、対面授業双方の長所・短所を学生の理解度を指標に検証する必要がある。

英語の学習状況：

1年生では聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれの項目も向上が実感されておらず、3年生でも90%以上がBレベルまでの習熟度にとどまっている。1年生では現状で十分と思っている学生が5割を超えているが、3年生では30%台に減少し、もっと授業を増やしてほしい、ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい、専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい、といった希望を持つ学生が多い。その一方で、英語の勉強を特に何もしていないとの回答が50%を超えており、受動的

な学びの姿勢が浮かび上がる。専門教育の授業の枠組みの中で、英文論文を用いた実践的な英語教育や、医学英語の充実などのカリキュラム整備が必要と考えられる。

大学生活に対する満足度：

将来の仕事と授業内容との結びつきに「満足」と回答しているものは1年生で65%と比較的高く、SIH道場での基礎臨床早期体験実習など、早い段階から医療への意識付けを行ってきた効果が出ているものと思われる。自らの将来像を明確に描いて日々の学習に取り組めるよう、低学年から臨床現場での体験を充実させることを計画している。クラス担任制度に「満足」と応えている学生は1年生で38%と前年より増加しているが、3年生では22%と低い。1、2年生は基礎の教員が担任として定期的な面談を行っているが、3年生は医学研究実習の担当教員がメンターとなっており、担任としての役割を十分に認識していない教員も含まれていると推測される。各学年のクラス担任の役割を再度周知徹底し、学生の希望や不安を教員が十分に汲み上げられる体制の構築が必要である。

将来のことについて：

大学院進学を希望している学生が1年生で7%、3年生3%と少なく、専門医志向と研究離れが強まっている。Student Lab活動や医学研究実習で研究の魅力を伝えることと並行して、大学院進学のインセンティブや学位研究の経験によって修得される能力・資質が医師としてどのように役立つかを繰り返し説明していくことが必要と考えられる。3年生になっても将来に向けて何をすべきかわからない学生が半数近くおり、キャリア形成に対する具体的なアドバイスの継続が必要と思われる。卒業後の進路について教職員に対して個別に相談すると回答している学生が76%、本学の卒業生や先輩と話をすると回答が82%といずれも高いことから、学生が進路に関する情報を求めていることがうかがわれる。低学年から将来のキャリアについて教員や先輩医師と情報交換ができる機会を設けることも有効と考えられる。

3 医学部医科栄養学科

医学部医科栄養学科の学修に関する現状と課題は次の通りである。

アンケートの回収率について：

回答率については、1年生68%、3年生84%である。昨年度と比較して若干低下したが、全学科の平均と比較して高い回収率である。引き続き高い回答率を維持できるように指導（特に学生自らの意見が徳島大学の教育改善につながることを理解させる）していきたい。

大学入学後の学修状況について：

「実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」（問 4）、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」（問 5）、「学生が自分の考えや研究を発表する」（問 11）、「授業中に学生同士が議論をする」（問 12）について「頻繁にあった」と回答したものは、それぞれ 1 年次では 19%、17%、8%、19%であったが、3 年次では、71%、54%、46%、46%であった。両学年とも「頻繁にあった」と回答した率が昨年度より全体的に若干上昇した。

1 年生と 3 年生の違いは、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」ことを意識しながら専門課程の講義・実習を受けていることが示唆される。

「授業内容の理解の促進につながる方法」（問 19）については、1 年生では、課題演習、振り返り、グループワーク、質疑応答を挙げており、3 年生では、課題演習、グループワーク、振り返りを挙げている。1 年次では、自分の考え・研究を発表することや、議論をする機会が少ないが、専門課程の教育では、演習や実習などが増えることが、そのような機会の増加に寄与している。「授業時間外の授業課題や準備学習、復習をする時間」についても、1 週間あたり 11 時間以上と回答したものは 1 年次で 9%に対し、3 年次では 44%であった（問 35）。1 年次と比較し、3 年次では専門課程における講義・実習課題が多いためと示唆される。また、3 年次では昨年度（28%）のデータよりも大幅に増加した。

「授業課題のために Web 上の情報を利用した」ことが「頻繁にあった」とするものは、1 年次で 58%、3 年次では 85%であり（問 21）、昨年度同様にいずれも半数以上を占めており、引き続き「情報の活用と情報倫理」について理解度を高める必要があると思われる。

教員との関係性：

「教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした」（問 30）、「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」（問 32）、「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」（問 37）といった項目に関しては昨年度同様に利用頻度が低かった。しかしながら、1 年次に比べ 3 年次では頻度が若干増加しており、学年が進むにつれ専門科目の学習や進路について教員に相談する機会を求めていることがうかがえる。「キャリアカウンセリング」（問 122）、「クラス担任制度」（問 123）や「教員と話をする機会」（問 101）についても 1 年生および 3 年生ともに満足度は低く他学科と同程度であった。上記については、教職員・学生間のより密接なコミュニケーションの実践を検討していく必要がある。

入学後に変化した能力や知識に関して：

「専門分野や学科の知識」（問 44）の項目で 1 年次および 3 年次の 9 割程度の学生が増えたと回答している。「分析力や問題解決能力」（問 43）、「プレゼンテーションの能力」（問 56）、「卒業後に就職するための準備の度合い」（問 61）については、1 年次と比較して 3 年次の

学生で増えたと回答した者が昨年度同様に大幅に増加している。これは、専門教育の効果によるものと考えられる。一方で、「外国語の運用能力」（問 54）は1年次よりも3年次で増えたと回答した者が激減しており、外国語に関する教育の継続が重大な課題である。

英語の学習状況に関して：

1年次では「聞く力」、「会話力」、「表現力」、「書く」（問 76～80）のいずれも、入学前と現在で概ね自己評価は変わっていないが、3年次でも1年次と比べて大きな評価の向上が認められなかった。昨年の調査では、3年次では1年次と比べて概ね大きく低下していたが、学年が進むにつれて自己評価が低下する傾向にあると分析している。徳島大学における英語教育については、いずれの学年においても「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」（問 83）と回答している割合が最も多い。一方で3年次では「専門教育の英語の時間を増やしてほしい」と回答している学生が1年次よりもかなり多い傾向があった。令和2年度入学者からは「栄養英語」が必修となっているが、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」の割合が増加していた。引き続き推移を観察するとともに、講義内容についても検討したい。

大学生活に対する考えや満足度に関して：

学生生活が充実していると回答した学生が約9割と多かった。しかしながら、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」（問 93）、「教員と話をする機会」（問 101）、「学習支援や個別の学習指導」（問 102）といった項目で満足度が低いのは今後の課題と思われる。特に、1年次でこれらの項目の満足度が低い。「SIH 道場で学んだ内容」（問 110）では、「他者と協同して学習や活動に取り組むこと」が最も役に立つと高く評価されている。

本学の施設や学生支援制度に関して：

「レクリエーション施設」（問 121）、「キャリアカウンセリング」（問 122）といった項目で満足度が過半数を割っていた。「カリキュラムマップ」（問 128）や「ナンバリング」（問 129）について「知っており、見たことがある」と回答した者は、1年次で67%と84%、3年次では90%と88%といずれも前回調査よりも大幅に増加していた。昨年度の周知対策の効果の現れであると示唆される。引き続き周知活動を行いたい。卒業研究に関しては、研究を進めるための設備、スペース、物品等ともに十分だと評価している学生は63%であった。

「eラーニングサービスは、学修に役立っている」とするものが1年次で50%（問 131）、3年次で56%（問 134）であった。

大学教育全体の満足度：

1年次は85%（問 134）、3年次は93%（問 137）の学生が61点以上をつけていた。

「学部卒業後の進路」については、1年次の調査では33%が就職、31%が進学であったが

(問 135)、3年次の調査では37%が就職、51%が進学であった(問 138)。学年が進むにつれて、昨年度以上に大学院進学希望者が増加する傾向が窺えた。令和4年度以降、進学希望者の増加傾向が認められており、引き続き、注視したい。

4 医学部保健学科

保健学科学生の学修に関する現状と課題は次の通りである。

アンケート調査への回答率は95.7%(1年生93.9%、3年生97.5%)と良好であり、学生の実態を十分に反映していると云える。将来の仕事と授業内容の結びつきに対して「とても満足」「満足」と答えた学科平均の割合は、1年生で81%、3年生で79%と全学平均の64%と比べて比較的高い(設問 100)。大学教育に対して、学生の多くは「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」や「資格取得に必要な知識など」が得られることに期待し(設問 69)、大学で獲得を期待する知識・能力は、第一に「専門的知識」、次に「一般知識・教養」「コミュニケーション能力」の割合が高い(設問 70)。過去の調査結果と同様であり、専門的学問だけでなく、教養や汎用的技能の修得に期待していることがわかる。実際、入学した時点と比べて能力や知識が増えたと自己評価している項目を3年生の回答でみる(設問 42~68)と、「大きく増えた」または「増えた」と回答した割合の合計が6割以上であったのは、看護学専攻では「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「異文化の人々に関する知識」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「文章表現の能力」「コミュニケーションの能力」「プレゼンテーションの能力」「コンピュータの操作能力」「時間を効果的に利用する能力」「職業人・社会の一員として求められる倫理観」「生涯学び続け、教養・専門性を高める能力」「必要な情報を収集・取捨選択する能力」「データを読み、理解し、活用する能力」「新しいことに積極的に挑戦する姿勢」「ストレスに対処する能力」「柔軟に発想し、表現する能力」が、放射線技術科学専攻では「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「プレゼンテーションの能力」「数理的な能力」「コンピュータの操作能力」「時間を効果的に利用する能力」「データを読み、理解し、活用する能力」が、検査技術科学専攻では「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「文章表現の能力」「数理的な能力」「コンピュータの操作能力」「生涯学び続け、教養・専門性を高める能力」「必要な情報を収集・取捨選択する能力」「データを読み、理解し、活用する能力」「新しいことに積極的に挑戦する姿勢」であった。一方、「批判的に考える能力」「リーダーシップの能力」「異文化の人々と協力する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「外国語の運用能力」「グローバルな問題の理解」「卒業後に就職す

るための準備の度合い」は、すべての専攻で割合が6割に満たなかった。自身の能力を控えるために評価している学生も一定の割合で見られると思われるが、専攻別の学生の特徴と類推される項目も多く、学修成果を表現していると読み取れる興味深い結果である。

専門教育科目の難易度に関して授業内容の水準が適切と答えた3年次学生は、看護学専攻85%、放射線技術科学専攻61%、検査技術科学専攻80%であった(設問113)。難易度に関して特段の問題は無いと考えられる。ただし、放射線技術科学専攻では、もっと易しくすべき、との回答割合が28%と高い(全学の平均は11%)。さらに、放射線技術科学専攻において、授業内容を理解できる科目の割合が60%未満と回答した学生数が19%と前回の調査と同様、高い値である(設問18)。放射線技術科学専攻においては、教育プログラム評価委員会での分析や学生との個別の面談等を通して状況を把握する必要がある。授業内容の理解促進につながった授業方法として看護学専攻では「グループワーク」「課題演習」を挙げた学生が多く、次いで、「振り返り」「ディスカッション」「質疑応答」が高い割合になっている(設問19)。放射線技術科学専攻および検査技術科学専攻では「課題演習」に次いで、それぞれ、「グループワーク」「振り返り」および「質疑応答」「グループワーク」「振り返り」が高い割合になっている。アクティブ型授業を導入することで理解度を高める効果があることを明確に示している。「将来の見通しを持ち、何をすべきかわかっている」と答えた1年次と3年次の学生はそれぞれ63%と64%で、全学より高い特徴を持つ(それぞれ、設問137と設問140)。幅広い学修の促進を目的として、専門性を志向した学修方法を入学直後に提示し、将来像をイメージした「学修設計」の立案を指導している。学修計画に沿った学修ができるよう継続的に指導と支援を行っており、取り組みの浸透結果が現れている。

授業時間外において、授業課題や準備学習・復習を6時間以上実施したのは、1年生では21~56%(前回39~50%)、3年生では39~47%(前回33~63%)(設問35)、授業に関連しない勉強を1時間以上行ったのは、1年生では31~45%(前回25~46%)、3年生では34~45%(前回32~42%)(設問36)に留まっている。大学生としての必要な学習時間の確保は不十分である。一方で、現在の自分の学修時間や学修態度に満足していない学生の割合は、1年生で22~36%(前回26~61%)、3年生で18~28%(前回7~27%)(設問93)あり、自発的な学修意欲を高める適切な指導が効果的であろう。シラバスを毎週または気になったときに確認している3年次学生は約6割のみであり、ほとんどまたは全く見ていない学生が多い(設問130)。毎回の授業の予習・復習や自学自習の指示をシラバスに明示して初回の授業で説明するなど、シラバスを教育改善に活用する工夫が求められる。

1年次の「SIH道場」で学んだ内容のうち、3年次までの在学中の学修に役立っている項目は、看護学専攻と検査技術科学専攻では「文章(レポート)の書き方」、放射線技術科学専

攻では「専門分野の体験学習」が最も多く役立ったと回答している(設問 110)。期待通りの項目が挙げられている。

英語の学修では、大学で実施している英語教育で十分であると考えている保健学科学生が多い傾向にある(設問 83)。語学マイレージ・プログラムの導入による効果もあり、スーパー英語などの e ラーニングサービスを利用して学習している 1 年次学生が高い割合を維持している(設問 130)が、英語学習方法の周知や学習相談を促す対応も必要であろう。

大学教育全体の満足度は全学の平均とほぼ同じであり、学生は教育に概ね満足していると考えられる(設問 135、138)が、上述の個別の課題を解決させるなど、更なる学修活動の充実と教育課程・方法の改善を進める必要がある。

5 歯学部

はじめに：

昨年度と今年度の本調査において、2022 年度の回答率は歯学科 1 年生 67.6%、3 年生 77.5%、口腔保健学科歯学部 1 年生 86.7%、3 年生 53.3%であり、2023 年度の回答率は歯学科 1 年生 54%、3 年生 70%、口腔保健学科歯学部 1 年生 53%、3 年生 53%であった。今年度は、昨年度に比べて回答率が低かった。昨年度に比べて、本年度は新型コロナウイルス感染症の流行の影響はほとんどなく、学生とのコミュニケーション不足やアンケート回答に対する指導ができてなかったことが影響したと考えられる。毎年、アンケート回答における指導はオリエンテーションでの指導も含めて継続して行うことが必要である。

歯学部歯学科は、3 年生が 1 年半の教養課程を経て、2 年後期から 3 年後期までが基礎医学教育、5 年前期までが臨床医学教育と基礎実習、そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し、5 年後期から臨床実習、卒前に国家試験という流れであるが、昨年度入学生から新カリキュラムがスタートし、1 年間の教養課程を経て、2 年前期から 3 年前期までが基礎医学教育、4 年後期までが臨床医学教育と基礎実習、そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し、5 年前期から臨床実習、卒前に国家試験を受験するというカリキュラムに変更されている。したがって、1 年生は新カリキュラム、3 年生が旧カリキュラムで、3 年生は本アンケートの時点では、まだ基礎医学教育が終わった段階で、将来的な展望がまだ見えていない段階にいる。一方、口腔保健学科は 1 年次に教養教育を終えるが、すでに基礎医学教育も後期から始まっており、2 年次からは臨床教育や基礎実習も本格的に始まり、3 年後期には臨床実習に出ている。この両学科の課程の差は、今回のアンケートでも大きく影響していると感じられた。

学習状況：

「4. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」において、頻繁にあったと回答した学生が〔1年次：歯学科 50%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 36%・口腔保健学科 63%〕おり、1年次から実験や実習を体験的に学んだ学生が多い。「5. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」において、頻繁にあったと回答した学生が〔1年次：歯学科 10%・口腔保健学科 25%、3年次：歯学科 32%・口腔保健学科 63%〕と高学年になるについて専門的知識を学ぶ機会が当然のことながら増えている。それは、「6. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する」においても同様の傾向を示している〔1年次：歯学科 30%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 32%・口腔保健学科 50%〕。歯学科の場合は、3年次はまだ専門課程に入ったばかりなので、卒業時にはさらに高値を示すことが予想される。歯学部では、「7. 授業の一環でボラティア活動をする」は他学部比べて機会がないように思われる〔1年次：歯学科 0%・口腔保健学科 0%、3年次：歯学科 7%・口腔保健学科 0%〕。歯学部では両学科とも最終学年時に社会的なつながりを学ぶ実習があるが、低学年時ではその機会が少ないことから、今後はこのような機会を設けることも必要かもしれない。「8. 学生自身が文献や資料を調べる」において、ほとんどの学生がその機会があったが、頻繁にあったと回答する学生は〔1年次：歯学科 55%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 25%・口腔保健学科 13%〕で、慣れが生じたためか、その頻度が学年につれ、低くなっている。「10. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」において、その機会があった学生が〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 88%〕と他学部の学生に比べて高い値を示しており、学生定員が少ないことが有利に表れていると推察する。引き続きこれを維持していきたい。「11. 学生が自分の考えや研究を発表する」において、その機会が頻繁にあったと回答した学生が他学部比べて低い傾向にあり〔1年次：歯学科 5%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 7%・口腔保健学科 25%〕、学部専門教育において、学生が自分の考えを発表する機会を講義のなかで設けることも考える必要がある。また、「12. 授業中に学生同士が議論する」が〔1年次：歯学科 15%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 7%・口腔保健学科 25%〕や「13. 授業で検討するテーマを学生が設定する」が〔1年次：歯学科 5%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 11%・口腔保健学科 0%〕と同様に低い値を示している。そして、「18. 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか」については、その閾値を60%とすれば、〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 96%・口腔保健学科 100%〕で高い値を示している。「19. あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。」において、「課題演習」、「グループワーク」、「反転授業」、「振り返り」を上げており、

様々なスタイルの講義形態が増えていることを示しており、今後も継続して工夫していく必要がある。

大学の授業や授業外での経験：

「20. 授業課題のための図書館利用」では、利用している割合が〔1年次：歯学科 55%・口腔保健学科 63%、3年次：歯学科 61%・口腔保健学科 38%〕で例年と大差なかった。

「21. Web上の情報の利用」では、利用している割合が〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 91%・口腔保健学科 100%〕で例年と大差なかった。「22. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」では、利用している割合が〔1年次：歯学科 85%・口腔保健学科 88%、3年次：歯学科 85%・口腔保健学科 100%〕と高く、manaba や stream などが広く学修に活用されている実態を反映している。「33. 教員に親近感を感じた」では、〔1年次：歯学科 40%・口腔保健学科 51%、3年次：歯学科 61%・口腔保健学科 88%〕と専門課程に進級すると割合が増加し、学科定員が少なく実習が多いことから教員と接する時間が長いことの反映と考えられ、きめ細やかな学修指導に繋がりがやすすいと考えられる。他方、「28. 授業をつまらなく感じた」では、〔1年次：歯学科 66%・口腔保健学科 75%、3年次：歯学科 68%・口腔保健学科 63%〕と専門課程に進級しても数値が改善していない。さらに学年が進み臨床実地実習がメインになると学生の意欲が向上すると感じる教員も多く、アンケート対象学年を更に上の学年に拡大することも考える必要がある。

1週間に費やす活動時間：

「35. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」では、6時間以上とした割合が〔1年次：歯学科 70%・口腔保健学科 25%、3年次：歯学科 33%・口腔保健学科 25%〕と歯学科においては学年が進行すると減少する傾向があり、実習の増加にともなって準備学習や復習に時間を割けなくなっている可能性も考えられる。「38. 部活動や同好会に参加する」では、3時間以上とした割合が〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 63%、3年次：歯学科 61%・口腔保健学科 0%〕と口腔保健学科において学年進行にともない減少する傾向が認められ、歯科衛生士と社会福祉士の2つの資格取得を目指す学生が多いことから時間に余裕がなくなるためと考えられた。一方で、「39. 大学外でアルバイトや仕事をする」では、3時間以上とした割合が〔1年次：歯学科 65%・口腔保健学科 76%、3年次：歯学科 75%・口腔保健学科 100%〕と口腔保健学科では増加しており、限られる余裕時間をアルバイト等に集中させている可能性が考えられた。この点については、学生生活実態調査の収入

等のデータとの相関を検証することで、より高精度の分析が可能となると期待される。

能力・知識の変化：

「42. 一般的な教養」について増えたと答えたのは〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 76%、3年次：歯学科 78%・口腔保健学科 88%〕となっており、1年次は各学科とも昨年度の40%、62%より増加していた。これは各学科のSIH道場を含めた教養教育の見直しの効果と思われる。「43. 分析力や問題解決能力」が増えたと答えた学生は、〔1年次：歯学科 45%・口腔保健学科 63%、3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 100%〕で、昨年度の1年次の各学科の36%、38%より向上している。これも各学科のSIH道場を含めた教養教育の見直しの効果と思われる。また、「45. 批判的に考える能力」が増えたという学生は〔1年次：歯学科 40%・口腔保健学科 25%、3年次：歯学科 57%・口腔保健学科 76%〕と昨年度の1年次の各学科の60%、31%、3年次の各学科の71%、100%とともに減少しており、教養教育の見直しをはかり、教育プログラムの充実が必要と考える。「47. リーダーシップの能力」が増えたのは〔1年次：歯学科 35%・口腔保健学科 50%、3年次：歯学科 40%・口腔保健学科 75%〕で昨年度の口腔保健学科の各学年の8%、26%から大きく増加していた。これは口腔保健学科が昨年度新たに取り組んだ、リーダーシップの能力の向上が図れる教育プログラムが奏功したと思われる。「48. 人間関係を構築する能力」〔1年次：歯学科 75%・口腔保健学科 76%、3年次：歯学科 50%・口腔保健学科 63%〕、「49. 他の人と協力して物事を遂行する能力」〔1年次：歯学科 55%・口腔保健学科 63%、3年次：歯学科 57%・口腔保健学科 75%〕は1年次も3年次も昨年度と同程度で、今後、高学年に向けてこれら能力のさらなる向上につながるプログラムが必要である。「50. 異文化の人々と協力する能力」〔1年次：歯学科 20%・口腔保健学科 41%、3年次：歯学科 36%・口腔保健学科 50%〕、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科 30%・口腔保健学科 63%、3年次：歯学科 36%・口腔保健学科 76%〕は昨年度より口腔保健学科の各学年が各課題ともに大きく向上しており、これらの項目でも高い教育効果が確認できる。「52. 国民が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科 40%・口腔保健学科 50%、3年次：歯学科 39%・口腔保健学科 38%〕は、今年前半までのコロナ禍が影響して、フィールドワークや外国人との交流、人とのコミュニケーションが困難だった可能性があり、低い水準になっているが、次年度の向上を期待したい。「53. 文章表現の能力」、「54. 外国語の運用能力」、「55. コミュニケーションの能力」、「56. プレゼンテーションの能力」、「57. 数理的な能力」、「58. コンピュータの操作能力」において、昨年度は他学部より低めであったが今回は同程度と改善されていることから、これまでの対策が奏功していると思われる。「61. 卒業後に就職するための準

備の度合い」に関しては〔1年次:歯学科 40%・口腔保健学科 51%、3年次:歯学科 39%・口腔保健学科 88%〕となっており、昨年度の1年次の各学科の24%、15%より改善傾向を認めた。「63.生涯学び続け、教養・専門性を高める能力」に関しては、1年次に比べて3年次に格段に向上しており、本学部において、学生たちは職能および資格獲得を目指していることが反映されている。実際に、「70.大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」において“専門知識”が圧倒的に上位になっている。

英語の学習状況：

英語能力に関しては、聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれにおいても、ある一定の力（設問でB1以上：留学などが困難でない程度かと考えるレベル）を有する学生の割合は、入学後、3年次とやや向上している。マイレージ・プログラムや専門過程における英語教育の効果が少しずつ現れているのではないかと推測する。しかしながら、「81.どのように、英語の勉強を行っていますか」に対して、〔特に何もしていない〕と回答する3年次の歯学科、口腔保健学科の各学科の学生が50%と多く、英語学習に時間をとることが難しいことが窺える。また、82.の設問にある渡航経験では〔1年次：歯学科75%・口腔保健学科100%、3年次：歯学科55%・口腔保健学科100%〕が渡航したことがないと回答しており、渡航経験の少ない学生が多く、これは語学能力と密接に関連している。そのためか、「83.徳島大学における英語の授業についてどう思いますか」の答えに、〔教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である〕が筆頭になっている。将来、歯科医師あるいは歯科衛生士を目指す学生に、将来の英語能力の必要性を十分に理解してもらう努力が必要と考える。その方策として、卒後に大学院進学から海外への進出などの歯学部教員の事例を示すことや留学生との交流、外国人研究者の講演や招聘など、留学や海外赴任などキャリアパスの多様さを提示するとともに、交換プログラムや留学生との交流など、外国人との交流機会を増やすように今後努めたい。

大学生活に対するあなたの考えや満足度：

「84.大学の学生向けサービスを上手に利用する」については、歯学科の1年生、3年生は全学の平均的レベルである。ただ、口腔保健学科の1年生は「うまくいかなかった」傾向が高いものの、3年生では改善傾向が認められる。1年生では、学生向けサービスがどのようなものがあるのかなどを知らない可能性が考えられる。「85.大学教員の学問的な期待を理解する」については、歯学科および口腔保健学科の1年生ではともに「うまくいかなかった」傾向が高かった。教員の求めるレベルが高いのか、理解しづらい講義・実習内容なのか

もしれない。しかしながら、3年生の口腔保健学科では、「とてもうまくいった」が劇的に増加、「あまりうまくいかなかった」が減少しており、次の「86. 効果的に学習する技能を修得する」の結果からも、特に口腔保健学科では学修技能の修得ができる学生が増加していることが要因と考えられる。一方、歯学科では、これまでの各自の学修技能の修得法について、再考させる必要があるのかもしれない。「87. 大学が求める水準に応じて学習する」、「88. 時間を効果的に使う」については、特に口腔保健学科では良好な結果であり、歯学科においても総じて全学平均的なレベルである。「89. 大学教員と顔見知りになる」、「90. 他の学生との友情を深める」については、歯学部は少人数制でもあることから、特に3年生では良好な結果である。

大学に入学してから：

「91. 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる」「92. 日常的に自身の学習内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている」については、歯学科、口腔保健学科の1年生、3年生ともに全学平均的レベルとなっており、学修時間や学修態度の向上につながるような教育実践が功を奏しているものと考えられる。「93. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」〔1年次：歯学科 25%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 32%・口腔保健学科 38%〕学生は、あまり多くいない。また、「94. あなたの学生生活は充実していますか」について、〔1年次：歯学科 70%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 85%・口腔保健学科 100%〕と高いが、今後も充実した生活が送れていると実感できる教育プログラムをさらにブラッシュアップし、継続していくことが必要である。

本学の教育内容・環境への満足度：

「95. 共通教育あるいは教養教育の授業」に対しては満足と答えたものが、〔1年次：歯学科 40%・口腔保健学科 88%、3年次：歯学科 50%・口腔保健学科 38%〕と1年次の口腔保健学科を除き、全学の平均よりやや低いレベルである。また「96. 1年次 SIH 道場」は〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 47%・口腔保健学科 51%〕と1年次の口腔保健学科はやや低いが、その他は全学の平均と同程度である。「97. 初年次生を対象とした教育プログラム内容」の満足度は〔1年次：歯学科 35%・口腔保健学科 26%、3年次：歯学科 46%・口腔保健学科 25%〕と、全学の平均よりやや低い。「98. 授業の全体的な質」は〔1年次：歯学科 45%・口腔保健学科 51%、3年次：歯学科 46%・口腔保健学科 79%〕と3年次の口腔保健学科を除き、全学の平均よりやや低いレベルであり、授業の質の向上は今後の重要な課題と考える。実際に、「102. 学習支援や個別の学習指導」は〔1年次：

歯学科 25%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 36%・口腔保健学科 63%] となっており、3年次の口腔保健学科を除いて満足と回答する学生の割合が低く、上述の授業の質の向上も含めて満足度を向上させる工夫も必要と考える。

SIH道場に関しては、「110. SIH道場で学んだ内容のうち、役に立っている項目」では、1年次は〔専門の知識を身に付けるのに役立った〕、3年次では〔文章（レポート）の書き方〕や〔他者と協働して学習や活動に取り組むこと〕が目立っている。一方「111. 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができますか」とは、〔専門の知識を身に付けるのに役立った〕に加えて、〔自分の進路について考えることができるようになった〕と回答する学生が多い傾向が認められた。

「112. 教養教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか」では、適切と答えたものが、〔1年次：歯学科 55%・口腔保健学科 75%、3年次：歯学科 82%・口腔保健学科 88%〕となっており、1年次の歯学科では、より易しいものを求める傾向がある。また、「113. 専門教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか」では、適切と答えたものが〔1年次：歯学科 70%・口腔保健学科 88%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 100%〕となっており、専門教育の難易度は適切と感じる学生が大半である。専門教育では、モデルコアカリキュラムに準拠し、教育を行っていることもその要因と考える。

一方、「104. 大学のなかでの学生同士の一体感」では、〔1年次：歯学科 25%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 50%・口腔保健学科 51%〕、「105. 多様な考え方を認め合う雰囲気」では〔1年次：歯学科 40%・口腔保健学科 63%、3年次：歯学科 43%・口腔保健学科 51%〕と歯学科1年次学生は全学の平均より目立って低いレベルであり、学修においてクラス内の協力が得られる環境づくりが必要と思われる。

本学の設備や学生支援制度への満足度：

「114. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）」については〔1年次：歯学科 70%・口腔保健学科 88%、3年次：歯学科 60%・口腔保健学科 50%〕が満足と回答している。ただ、学年が上がると、〔満足している〕学生が減り、〔どちらでもない〕学生が増えることから、「118. インターネットの使いやすさ」が〔1年次：歯学科 65%、口腔保健学科 96%、3年次：ともに 100%〕であることを考慮すると、大学に慣れ、専門性も上がった結果、電子書籍や文献の利用が進んでいることが要因の一つと考えられる。

「115. 実験室の設備や器具」においては、とても満足～どちらでもないが〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 92%・口腔保健学科 100%〕となっており、特に目立った問題はなさそうである。「116. コンピュータの施設や設備」や「117. コンピュ

一タの訓練や援助」については〔1年次：歯学科 70%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 92%・口腔保健学科 74-87%〕と、ほとんどの学生が問題は無いようだが、15%程度の学生は不満を持っていることから、環境の公平性を保つという観点からその具体的な内容を精査し、改善に努める必要がある。

また、「120. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）」について不満のある学生は〔1年次：歯学科・口腔保健学科ともに 0%、3年次：歯学科 4%・口腔保健学科 13%〕と少なかったが、一方で、どちらでもない学生が〔1年次：歯学科 50%・口腔保健学科 88%、3年次：歯学科 61%・口腔保健学科 38%〕となっており、多くの学生が本サービスを受けていない可能性もあることから、アンケートの設問の改善が必要である。

カリキュラムマップ[128]や科目ナンバリング[129]に関しては、知っている学生が〔1年次：歯学科 65%・口腔保健学科 50%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 50%〕と少なく、継続して周知していく必要がある。また、「130. シラバス」については、〔1年次：歯学科・口腔保健学科とも 75%、3年次：歯学科 68%・口腔保健学科 75%〕おおよそ個々の必要に応じて活用されているが、それ以外は選択の際のみ、または全く見ていない学生もいる。各教員により講義中により詳細な予定表や注意事項が提示されているため、それに甘んじている可能性が考えられる。

「131. 3年次の基礎ゼミ（歯学科）、卒業研究（口腔保健学科）」については、〔関心の深い研究内容であった〕、〔将来のやりたい仕事や進路に必要と思った〕と回答した学生が半数近くあり、〔専門的知識や技術〕、〔進路を考えるための広い視野〕、〔学問・研究への興味や知的好奇心〕を得る機会となっているようだ。「133. 研究設備、スペース、物品等」については、50-60%の学生が十分と考えているが、それ以外は何らかの不足があると回答しているため、今後も充実を図っていきたい。

「131(1年次)、134(3年次). eラーニングサービスの利用の有無」については、歯学科では3年次で manaba を 80%の学生が利用しているが、1年次では manaba に加えて Moodle の利用が 50%に達している。一方、口腔保健学科の学生の利用は1年次で 10%程度、3年次でも 25%にとどまり、両学年の約 60%の学生が利用したことが無い。これはおそらく、講義で教員が使用しているシステムに依存している結果と考えられる。特記事項として、歯学科・口腔保健学科共にスーパー英語は 25%の学生が利用しており、自発的に取り組んでいるようだ。しかし「132(1年次)、135(3年次). eラーニングサービスは役立つか？」については歯学科で 50%程度、口腔保健学科で1年次 25%、3年次 38%が役に立つと回答していることから、利用率と満足度は同じではない。興味深いことに、「133、136. オンライン

学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか」については、歯学科で1年次 60%、3年次 40%であり、口腔保健学科では1年次 25%、3年次 63%が増やした方が良いと回答していることから、オンライン学習については学修効果の上がるような、内容の充実が求められていると考える。

授業評価アンケート・卒後進路：

「134（1年生）、137（3年生）. 授業評価アンケート」の設問は、「授業改善に必要な内容であると思わない」と答えたのは、〔1年次：歯学科 10%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 18%・口腔保健学科 0%〕であった。尚「135（1年生）、138（3年生）. 大学教育全体の満足度に評点を付けた場合 61 点以上」とした割合は、〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 90%・口腔保健学科 100%〕と高い評価を得ている。

「136（1年生）、139（3年生）. 卒後の進路」として、「就職する」が〔1年次：歯学科 5%・口腔保健学科 75%、3年次：歯学科 46%・口腔保健学科 75%〕であり、「大学院に進学する」は〔1年次：歯学科 15%・口腔保健学科 13%、3年次：歯学科 7%・口腔保健学科 13%〕、「留学する」が〔1年次：歯学科 5%・口腔保健学科 0%、3年次：歯学科 0%・口腔保健学科 0%〕であった。これらの結果から、歯学科の1年次から3年次にかけて卒後に就職しようと考えている学生が 5%から 46%に増加し、大学院を目指す学生が 15%から 7%に減少している点が気掛かりである。今後の歯学研究の発展を考えると、学生のリサーチマインドを高める環境作りが喫緊の課題と考える。在学中に望む教育としては、「141（3年生）. 専門分野をしっかりと身につける」、「142（3年生）. 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる」、「143（3年生）. 就職意識の形成につながる教育を受ける」といったところの割合が高かった。

6 薬学部

薬学部生の学修に関する現状と課題は以下のとおりである。

1) 対象学生

薬学部では、平成 30 年度より学科別募集となり、令和 3 年度より薬学科のみの募集となった。今回の調査対象である 3 年生は薬学科一本化の第 1 期生であり、1 年生は薬学科一本化の第 3 期生である。同一のカリキュラムの下で学年進行しており、ようやく 1 年生、3 年生のアンケート結果から得られる課題やその解決策を学部運営などに活用できる状況となってきた。

2) 大学入学後の学修状況

1年生において、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」〔問6〕機会が「時々あった」を加えると94%と突出しており、薬学科（全員国家試験受験資格を得られる）一本化の影響がみられる。「授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する」〔問6〕機会が頻繁にあったと答えた学生は、時々を含めれば96%と、昨年の93%と遜色がなかった。また、「定期的に小テストやレポートが課される」〔問9〕機会が頻繁にあったと回答している学生の割合については時々を含めれば99%であり、昨年の100%と遜色がなく、高値を維持していた。また、「教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」〔問10〕も時々を含めると92%であり、昨年の93%と遜色がなかった。学生と教員の距離が近いまま維持されているように感じられる。また「学生が自分の考えや研究を発表する〔問11:80%→87%〕」「授業中に学生同士が議論する〔問12:83%→84%〕」と高値を維持しており、新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却が感じられる。

また3年生においても上記の間6、問9～問12について時々を含めれば高い傾向がみられた。しかしながら、1年生と比べると低値である傾向が見受けられた。これは薬学科では3年次前期より卒業研究のために研究室配属を行っており、卒業研究を通じて同様の学修を進めているため、「講義」や「授業」でという問い掛けに対して、反応が稀薄であったからかもしれない。

履修登録について、1年生において、「取りたい授業を履修登録できなかった」と回答した学生は〔問15:20%〕であり、非常に多かった令和2年度に匹敵していた。入学時ガイダンスを通じた学部としての啓蒙や、教養教育院による履修方法の見直しやサポートなどが尚必要なようである。

授業内容の理解について、問19の授業内容の理解促進には、昨年度同様に1年生、3年生ともに課題演習を挙げている。これはレポート提出が増えたことに起因しているものと考えられた。今回の結果は1年生では、グループワークや課題解決型の授業である『コアDDS 講義』、『研究体験演習』を受講したことに起因しているものと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けていた問38や問39の部活やアルバイトに費やす時間が回復傾向にあった。

3) 入学後に身に付けた能力や知識

1年生において、問42の「一般的な教養」、問43の「分析力や問題解決能力」、問45の「批判的に考える能力」、問47の「リーダーシップの能力」、問48の「人間関係を構築する能力」において、入学後に大きく増えたと回答している学生が全体的に低値にとどまっていた。一方、問44の「専門分野や学科の知識」は半数の50%の学生が大きく増えたと回答していた。1年生では座学中心の講義が主となっていることから、このような傾向となったも

のと考えられる。

3年生では4月より研究室配属が行われ、卒業研究が開始されている。能動的な姿勢の涵養や、問題発見・解決能力の涵養を目指した教育を開始しているが、各項目で大きく増えたとする学生の顕著な増加は見られなかった。今後改善すべき課題であるといえる。

4) 英語の学習状況

英語に関しては例年と同様に、そのレベルは、学年があがるにつれて低くなる傾向が見られる。大学からの働きかけや、少人数での英語教育やネイティブスピーカーの教員による、継続的な授業を通じて改善していく必要性が今後もある。また、1年生において、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」〔問 83〕と回答する学生が最も多いが、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」、「もっと授業数を増やしてほしい」、「もっと少人数のクラスにしてほしい」、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」という学生もそれぞれ 10%程度存在しており、傾向は例年と変わらなかった。3年次から卒業研究が開始されることもあり、英語に対する高い意識づけがなされているように思われる。既に卒業研究が開始されている3年生については、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」が 20%を超えて増加するとともに、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」も増加傾向にあった。薬学科学学生は薬剤師国家試験受験資格が得られるため、グローバル化が進む中で将来外国人患者との接触が増えることが予想されており、英語でのコミュニケーション能力へのニーズが高まっていることがうかがえた。一方で、創製薬科学科3年生では比較的高かった「専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい」が薬学科のみとなって減少した。これは創製薬学科では学術論文を発表することを意識していたが、薬学科のみとなり、英語でのコミュニケーション力へのニーズが高まったためであると考えられる。

5) 大学生活に対する考えや満足度

1年生では、「効果的に学習する技能を修得すること」〔問 86〕、大学が求める水準に応じて学習すること〔問 87〕が「とてもうまくいった」又は「いづらかうまくいった」と回答した学生が8割を越えており、自分の学習状況について満足している学生が多かった。3年生では、問 86、問 87 が7割程度であり、満足している傾向が高かった。

また、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」〔問 93〕であるが、1年生は「非常にそう思う」が5%であり、「そう思う」と回答した学生は27%と、昨年度より若干減少した。否定的な回答をした学生は、振り返ってみた時、もう少しやりようがあったのではないかという反省も含まれているように思われる。3年生では、肯定的な回答をした学生が42%であり、昨年の約51%に対して減少した。一方で、「学生生活は充実しているか」

〔問 94〕に「充実している」と回答した学生が1年生、3年生に限らず約90%程度おり、従来の学生活動（課外活動やアルバイトなど）が活発になっていることを反映したものと考えられる。また、「教員と話をする機会」〔問 101〕、「他の学生と話をする機会」〔問 103〕、「大学のなかでの学生同士の一体感」〔問 104〕、「多様な考え方を認め合う雰囲気」〔問 105〕などは昨年度までは他学部と比べて高い傾向にあったが、本年度はほぼ同程度となった。これは、他の学部でも対面授業などが増加し、通常の対面式の授業形態に戻ったことを反映したものと考えている。

教養教育の授業の満足度については、1年生は3分の2以上の学生が満足しているとの回答であったが、3年生では大きく減少していた〔問 95 1年生69%、3年生41%〕。これは3年生では教養教育を受ける機会がないため、意識がそこになからかもしれない。1年生の教養教育科目の選択〔問 108〕は、「好きな科目や面白そうな科目を選択した」が「単位の取りやすい授業を選択した」よりも高く、好ましい結果となった。また、「授業科目を選択する余地がなかった」との回答は極めて少なく、履修登録の改善や教養教育院による履修方法の見直しなどが功を奏している。また、問 109 の教養教育科目の選択にあたり重視した情報源について、1年生では「履修の手引きやシラバスに記載された情報」とほぼ同じ割合で、「先輩からの助言や情報」や関連の「友人からの助言や情報」が重視されていた。教員・事務職員からの助言や情報がほとんど重視されていない状況は、例年通りであり、引き続き新入生オリエンテーションなどでの説明内容・方法やクラス担任による履修指導等を見直す必要があるとともに、履修の手引きやシラバスの充実を図るなどの改善が求められる。

問 110 のSIH道場で学んだ内容のうち、「他者と協働して学修や活動に取り組むこと」が役に立ったと感じている学生が昨年度から大幅に増加した。これは、薬学科のみとなり、在籍の学生のすべてが将来薬剤師となる可能性があり、他職種とチーム医療を展開する必要性を強く認識したからであると思われる。

問 112 の授業内容の難易度が適切と答えた学生は、1年生84%、3年生81%であり高い水準にあった。これは関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果と考えられる。

1年生〔問 135〕、3年生〔問 138〕の大学教育全体に対する満足度については、可以上が学年に依らず高い水準であった〔1年生94%、3年生95%〕。3年生に関しては、関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果と考えられる。

3年生に対する「研究を進めるための設備、スペース、物品等は確保されていますか」〔問133〕では、総じて満足度は高かったものの、研究スペースの不足を訴える意見も見られた。これは薬学部が6年制に移行して実収容人数が増加したにもかかわらず、施設の面積は実質増加していないことが主因であると考えられる。卒業研究で配属される学生数に応じて研究室のスペースを柔軟に変更するなど、大学側の学生サイドに立った対応が必要である。

薬学部では、令和3年度入学生から新6年制教育課程を開始した。新課程の教育効果が現れ始めた現3年生に対するアンケート結果から更なる学修改善に繋がる情報を得ていきたい。新課程では、単年度終了ではなく複数年度にまたがる複合的・階層的な薬学部独自の新しいカリキュラムを構築している。現時点では概ね好評のようであるが、学生の教育に対する満足度をさらに高め、学修意欲のさらなる向上がはかられるよう今後も検証していきたい。

7 理工学部

理工学部は2016年度に行われた工学部と総合科学部の改組により設置された。設置当初の構成は1学科（理工学科）のもとに6コース・4系（社会基盤デザインコース、機械科学コース、応用化学システムコース、電気電子システムコース、情報光システムコース・情報系、情報光システムコース・光系、応用理数コース・数理科学系、応用理数コース・自然科学系）が配置される体制であった。その後、2022年度に、情報光システムコース（情報系・光系）がそれぞれ知能情報コースと光システムコースへと、応用理数コース（数理科学系・自然科学系）のそれぞれが数理科学コースと自然科学コースへと改組された。さらに、2023年度に医光／医工融合プログラムが設置された。したがって、現在は1学科のもとに8コース・1プログラムが配置される体制となっている。

当該アンケートの実施時点において、当該アンケートの対象となった理工学部の1年生と3年生はそれぞれ理工学部の第8期生と第6期生となる。今年度における理工学部全体のアンケート回答率は1年生と3年生でそれぞれ46%と41%であった。昨年度は1年生と3年生でそれぞれ58%と41%であり、1年生の回収率が低下した。以下では、主な結果について述べる。なお〔〕内の数字はアンケートの質問項目の番号を示す。

<項目 I・通学時間と居住形態>

1年生では、片道の通学時間〔2〕は「30分未満」と回答した学生が81%であり、多くの学生が大学近隣から通学している状況であった。現在の居住形態〔3〕は「家族または親戚と暮らしている」と回答した学生が25%であり、残りのほぼ全て学生が「ひとり暮らし」あるいは「大学寮や合宿所」との回答であった。これは昨年度と同様の傾向であった。また、

3年生では、片道の通学時間〔2〕は「30分未満」と回答した学生が78%であり、多くの学生が大学近隣から通学している状況であった。現在の居住形態〔3〕は「家族または親戚と暮らしている」と回答した学生が29%であり、残りのほぼ全て学生が「ひとり暮らし」あるいは「大学寮や合宿所」との回答であった。昨年度と比較すると、「家族または親戚と暮らしている」学生が増加していた。

<項目 II・学習状況>

まず、授業内容を理解できる科目の割合〔18〕について着目した。1年生においては、全コースを対象とすると、今年度に「80%以上」と回答した学生は25%であり、昨年度より5ポイント増加した。また、今年度に「80%以上」あるいは「70%以上」と回答した学生の合計は68%であり、昨年度よりも2ポイント増加した。個々のコース・プログラムを対象とすると、「80%以上」と回答した学生が20%を下回るコース・プログラムは、昨年度では知能情報コースと光システムコースと自然科学コースの3つであったが、今年度では知能情報コースと医光／医工融合プログラムの2つであった。このことから、光システムコースと自然科学コースの取組みの成果が伺える。知能情報コースに関しては、「80%以上」あるいは「70%以上」と回答した学生の合計は、昨年度が60%、今年度が63%であり、3ポイントの改善が見られた。このことから、知能情報コースにおいてもその取組みの成果が伺える。医光／医工融合プログラムに関しては、今年度に新設されたことによる影響も多分にあると思われる。今年度の結果を踏まえ、来年度以降の取組みや改善の一助になればと考える。他方、3年生においては、全コースを対象とすると、今年度に「80%以上」と回答した学生は21%であり、昨年度と同様であったが、今年度に「80%以上」あるいは「70%以上」と回答した学生の合計は63%であり、昨年度よりも6ポイント減少した。各コースのさらなる取組みが必要になると感じられる。

次に、授業内容の理解の促進につながった方法〔19〕について着目した。今年度も昨年度と同様に全てのコース・プログラムの1年生と3年生の学生がともに突出して「課題演習」と回答している傾向にあった。これは、課題や演習を通じて学生の理解が促進されること、さらに、そのことを学生自身が実感していることを示している。授業内容に則した課題や演習を多く取り入れることの重要性が読み取れる。また、上記と同様の学生が「課題演習」に次いで「振り返り」と回答している傾向にあった。これは、授業中あるいは授業後に授業内容を振り返る機会を作ることによって学生の学んだ知識が整理されること、さらに、そのことを学生自身が実感していることを示している。インプットだけでなくアウトプットの機会を増やすことの重要性が読み取れる。

以下、着目した設問について順に述べる。

授業課題のために利用した資料や情報の入手方法に関しては、図書館の利用〔20〕において「頻繁にあった」と回答した1年生と3年生はそれぞれ17%と23%であり、3年生のほうがやや多かった一方、Webの利用〔21〕において「頻繁にあった」と回答した1年生と3年生はそれぞれ56%と53%であり、1年生のほうがやや多かった。両学年ともに授業課題のために利用した情報収集手段としては図書館よりもWebを活用する学生が多く見られた。しかしながら、インターネット上の情報の事実確認〔146〕において、1年生の30%~40%の学生が「まったくしなかった」あるいは「あまりしなかった」と回答している（3年生は未調査項目）。インターネットを利用するうえで、掲載された膨大な情報から適切な情報を収集する情報活用能力を高める必要性が示唆された。

授業時間以外における他学生との学習〔24〕において、「頻繁」あるいは「時々」と回答した今年度と昨年度の1年生の合計はそれぞれ85%と78%、同じく3年生の合計はそれぞれ70%と67%であり、両学年ともに今年度は昨年度より増加した。このことから、新型コロナウイルス感染症の蔓延による行動制限が緩和され、学生同士の交流が活発化していることがわかる。一方、授業時間外における教員との面談〔37〕において、「全然ない」あるいは「1時間未満」と回答した今年度と昨年度の1年生の合計はそれぞれ94%と91%、同じく3年生の合計はそれぞれ86%と88%であり、両学年ともに低いままであった。今後も学生と教員間の交流に関しては継続した対応が必要と思われる。

コミュニケーション能力〔55〕やプレゼンテーション能力〔56〕において、1年生よりも3年生のほうが同能力の向上を実感していることがわかる。この差はやはり経験数の違いにより生じたものと考えられる。学生は卒業後の進学先や就職先で確実にコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力は求められるため、それらの能力を高めることは重要となる。日々の大学生活において、学生間、学生と教員間、学生と職員間のコミュニケーションやプレゼンテーションの機会を実践の場と捉えて、さらにこれらの能力の向上を目指すべきであろう。

大学外でアルバイトや仕事をする〔39〕において、アルバイトや仕事に従事している今年度と昨年度の1年生の合計はそれぞれ66%と76%、同じく3年生の合計はそれぞれ79%と81%であった。また、アルバイトや仕事に費やす時間が「11時間以上」と回答した今年度と昨年度の1年生の合計はそれぞれ29%と32%、同じく3年生の合計はそれぞれ37%と34%であった。これらは今年度も昨年度も1年生より3年生のほうが多かった。また、コースによって差があるものの、全体としては今年度と昨年度の違いは大きくはなかった。これは、学生の保証人の経済状況や学生の大学生活への適応度などの影響が大きいと考えられ、今年度の5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に移行したことの影

響はさほどなかったように見受けられる。

<項目 III・英語の学習状況>

どのように英語の勉強を行っているか〔81〕において、昨年度の1年生は「授業で使用している教科書、英語論文を勉強している」と回答した学生が多い傾向にあったが、今年度の1年生は「TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している」と回答した学生が明らかに多くなった。1年生でも TOEIC や検定試験などを意識している学生が増加しているようである。一方、3年生は昨年度も今年度も同様に「TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している」と回答した学生が目立った。これは進学や就職の選考に直結しているためと考える。

<項目 IV・大学生活に対する満足度>

あなたの学生生活は充実していますか〔94〕において、「充実している」あるいは「まあまあ充実している」と回答した今年度と昨年度の1年生の合計はそれぞれ80%と83%となり、今年度は昨年度より3ポイント減少したものの、80%以上の学生が高い充実度を実感していることがわかる。同じく3年生の合計はそれぞれ76%と71%となり、今年度は昨年度より5ポイント増加した。これは、今年度の5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に引き下げられたため、本来の大学生活が送れるようになったことも影響したと思われる。

本学の設備にどの程度満足していますかという〔114〕から〔118〕までの質問において、図書館の設備〔114〕および実験室の設備や器具〔115〕に対しては、「とても満足」あるいは「満足」と回答した学生の合計は1年生も3年生も概ね50%以上であった一方で、コンピュータの施設や設備〔116〕およびインターネットの使いやすさ〔118〕に対しては、「とても満足」あるいは「満足」と回答した学生の合計は1年生も3年生もほとんどが50%以下であった。昨今は、コンピュータの性能の陳腐化が早まって久しいうえに、ネットワークは多数の学生が使用し、かつ、1名の学生が複数の機器をネットワークに接続するため、学生に不満が生じやすくなっている。さらに今後は、eラーニングサービスや電子教科書の導入などの教育環境のDX化が予想される。そのため、これらに対応したインフラの整備がますます必要になると予想される。

大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか〔135（1年生）、138（3年生）〕において、「71点以上」と回答した今年度と昨年度の1年生の合計はそれぞれ71%と65%、同じく3年生の合計はそれぞれ68%と59%であった。いずれも今年度のほうが昨年度より高くなった。今年度の5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に移行したことの効果もあると予想されるものの、各コースの取組みの成果も伺える。

<項目Ⅴ・将来のことについて（3年生）>

あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか〔139（3年生）〕において、「就職する」と回答した学生は、昨年度では電気電子システムコースの18%が最も少なかったが、今年度では機械科学コースの13%が最も少なかった。反対に、「大学院に進学する」、「留学する」、「他大学の（編）入学する」などと回答した学生は、昨年度と今年度を通じて多く存在する傾向にあった。学生の回答にはコースによる違いがあるものの、専門分野についてより深い学修や研究を行い、専門性の高い職を目指す学生や実践の場でスキルを身に付けようとする学生が多いことがわかった。

8 生物資源産業学部

生物資源産業学部において、今年度入学の1年次学生は、現役で本学部に入学者は80%（設問138）と高いが、第一志望で入学した率は39%（設問139）と低く、大学に入学することを優先に考えた学生が多いと思われる。また、住居形態（設問3）から、アパート・学生マンションでひとり暮らししている率は1年次学生67%、3年次学生49%であり、ひとり暮らししている率の高い1年次学生は徳島県外出身者が多い可能性が窺える。

実習などの体験的に学ぶ機会（設問4）について、1年次学生は「頻繁にあった」あるいは「時々あった」との回答が合わせて44%であるのに対し、3年次学生は92%とかなり高く、本学部の専門教育が体験的学修を重視した教育体系であることを学生が認識していると言える。学生自身が文献や資料を調べること（設問8）に対しては、1年次は「頻繁にあった」20%と「時々あった」61%を合わせると81%であり、3年次は「頻繁にあった」49%と「時々あった」38%を合わせて87%である。合わせた割合はあまり変わらないが、「頻繁にあった」とする率が3年次で高くなっている。つまり、高学年の専門科目の学修において文献検索が必要であり、自ら調べて論ずる術を修得していることが窺える。学生が自分の考えや研究を発表する機会（設問11）は、「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする回答率が、1年次67%→3年次81%と増加しているが、学生同士が議論する機会（設問12）が「頻繁にあった」とする率が、1年次27%→3年次11%、検討するテーマを学生が設定する機会（設問13）が「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする率が、1年次36%→3年次22%と減少していた。このことは、専門教育においてプレゼンテーションの機会が増えているにもかかわらず、そのテーマを自ら決めることや様々な議論が十分にできていないことが窺える。取りたい授業を履修できなかった（設問15）とする回答は、「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする率が1年次で50%、3年次は30%であった。1年次の履修において、専門科目は履修する科目が決まっているため、希望がかなわない可能性は低い、教養教育科目

においては抽選によって履修が左右されるため、取りたい授業が取れない状況がある。

授業課題のために、図書館の資料の利用(設問 20)を「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とするのは、1年次は47%、3年次は68%と増えてはいるが、Web上の情報の利用(設問 21)を「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とするのは、1年次は94%、3年次は98%と図書館の資料の利用に比べて圧倒的に高くなっている。また、レポートや宿題で、調べものをするときの情報源(設問 72)についても、1・3年次ともに、インターネットが最も多くなっている。このような傾向からWeb上の情報を用いる際には、その選択と利用については、正しい知識を持たせることが必要と考える。

授業時間外に他の学生と一緒に勉強あるいは授業内容を話す(設問 24)機会は、「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とするのは、1年次は83%、3年次は78%と前年度に比べて高くなっている。これは、コロナウイルス感染症の5類感染症移行の影響であると考えられる。授業の欠席(設問 26)については、1年次では「頻繁にあった」あるいは「時々あった」は25%であるのに対し、3年次は13%と低くなっている。高学年の専門科目の学修に対する心構えがみてとれる。

人との関わりに関する問い、すなわちリーダーシップ(設問 47)、人間関係の構築(設問 48)、協力して物事を遂行(設問 49)する能力については、「大きく増えた」あるいは「増えた」との回答率は、1・3年次ともに全体の平均値並みである。地域社会が直面する問題を理解する(設問 51)能力は、「大きく増えた」あるいは「増えた」とする回答が3年次は51%であるが、1年次は69%と高く、概ね本学部の理念に沿った学生であることが窺える。数理的能力(設問 57)について「大きく増えた」あるいは「増えた」との率は、1年次は40%、3年次は59%となり、数理的能力が若干構築されているようである。職業人・社会の一員としての倫理観(設問 62)、生涯学び続け、教養・専門性を高める能力(設問 63)は、「大きく増えた」あるいは「増えた」とする率が、1年次では各々58%、67%であるのに対し、3年次では各々82%、89%と高く、高学年で社会適応能力が形成されていると考えられる。大学教育に対して、1・3年次ともに、「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」を最も期待(設問 69)し、その中で「専門的知識」の獲得(設問 70)を最も期待しており、学部DPに即している。

レポートや宿題で、調べものの情報源(設問 72)は、1・3年次ともに、インターネットが最も多く、次いで教科書・参考書・授業での配布資料であった。設問 73より、1年次は70%程度が必要な教科書を購入しているが、3年次は50%程度であり、高学年ほど授業で使用する教科書を持たずに、授業に臨んでいる学生が多いことがわかった。高校で履修していない数学や理科を入学後どのように勉強したか(設問 75)の問いには、「高校の教科書、参

考書を使い、勉強した」、「教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した」とする率が、3年次は、それぞれ40%強、20%弱であり、1年次は40%弱、30%強と一部の学生は勉強をしていることが窺える。

英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点(設問76~80)から自己評価した場合、1・3年次ともに、A1~A2と回答した率が同じような傾向にあり、英語能力について学年によってあまり差がみられないようである。英語の勉強(設問81)に関しては、1・3年次ともに、「TOEICなどの参考書・問題集で勉強」が最も多く、次いで「授業で使用している教科書、英語論文を勉強」が多かった。英語の授業(設問83)については、1年次では、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」が一番多く、次いで「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」が多いが、3年次では、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」と「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」が同率で一番多く、学年によって考え方が異なっているようである。

効果的に学修する技能(設問86)、大学が求める水準までの学修(設問87)、時間を効果的に使う(設問88)については、その修得が「とてもうまくいった」あるいは「いくらかうまくいった」とする率は、1・3年次ともに全体の平均値並みである。教員と顔見知りになる(設問89)のが「とてもうまくいった」あるいは「いくらかうまくいった」とするのは、1年次は42%と少ないが、3年次は70%と高くなっており、教員との距離も近くなっている。他の学生との友情(設問90)を深めることについては、「とてもうまくいった」あるいは「いくらかうまくいった」とする率が、3年次は76%、1年次は84%と高かった。

専門分野について興味を持ち、意欲的に取り組んでいる(設問91)について、「非常にそう思う」あるいは「そう思う」が1年次は70%、3年次は84%であった。日常的に学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている(設問92)について、「非常にそう思う」あるいは「そう思う」が、1・3年次ともに70%と比較的高い。現在の自分の学修時間や学修態度に満足している(設問93)については、「非常にそう思う」あるいは「そう思う」の率が、1年次49%、3年次51%とほぼ半数が満足している。また、学生生活が「充実している」あるいは「まあまあ充実している」とする(設問94)率が、1年次96%、3年次92%と非常に高く、充実した大学生活が送れているようである。

授業に対しては、全体的な質(設問98)に「とても満足」あるいは「満足」とする率は、1年次65%、3年次73%であった。授業内容と日常生活との関連(設問99)に「とても満足」あるいは「満足」とする率は1年次で67%、3年次で76%、授業内容が将来の仕事に結びつくこと(設問100)については、1年次で71%、3年次で75%であった。教員と話をする

機会(設問 101)に、「とても満足」あるいは「満足」しているのは、1年次 52%、3年次 49%であった。他の学生と話をする機会(設問 103)について「とても満足」あるいは「満足」しているのは、1年次 78%、3年次 70%、また、大学のなかでの学生同士の一体感(設問 104)については、1年次は 53%、3年次は 62%であった。多様な考え方を認め合う雰囲気(設問 105)に、「とても満足」あるいは「満足」とするのは、1年次 74%、3年次 75%であった。いずれも、前年度に比べて高くなっており、対面でコミュニケーションが取りやすくなったためだと思われる。専門教育で何を学ぶことができると思うか(設問 111)について、1・3年次ともに「専門の知識を身に付けるのに役立った」が一番多く、次いで1年次は「自分の進路について考える事ができるようになった」、3年次は「学問・研究に興味湧いた」が多かった。専門教育科目の授業の難易度(設問 113)については、「授業内容の水準は適切である」とするのは、1年次 76%、3年次 81%であり、水準は適切であると考えている。

図書館の設備(設問 114)については、1・3年次ともに「とても満足」あるいは「満足」が 80%を超えており、満足度が高い。実験室の整備や器具(設問 115)について「とても満足」あるいは「満足」と感じているのは、1年次が 67%であるのに対し、3年次は 76%と高かった。コンピュータについては、施設や設備(設問 116)に「とても満足」あるいは「満足」は1年次 37%、3年次 60%であり、訓練や援助(設問 117)に「とても満足」あるいは「満足」は1年次 57%、3年次 54%であった。インターネットの使いやすさ(設問 118)に「とても満足」あるいは「満足」と感じているのは1年次 50%、3年次 38%であった。奨学金などの学費援助(設問 119)については、その制度に「とても満足」あるいは「満足」しているのは、1年次 36%、3年次 38%であった。心身の健康に関わる問題についての診療や相談(設問 120)については、1年次 36%、3年次 46%が「とても満足」あるいは「満足」としていた。キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)(設問 122)については、1年次 27%、3年次 41%が「とても満足」あるいは「満足」としていた。クラス担任制度(設問 123)については、1年次の 55%が「とても満足」あるいは「満足」とし、3年次は 70%と高かった。図書館の学修支援サービス(設問 124)については、1年生の約 36%、3年次の約 43%が利用していないと答えていた。読書は習慣として身につけている(設問 125)とする1年次は 9%、3年次は 8%であった。

1年次は、学部卒業後の進路(設問 136)で就職希望が 24%、大学院進学希望が 56%で、さらに将来の見通し(設問 137)を持っている学生は 87%(内訳:何をすべきかわかっている+実行している→13%、何をすべきかわかっている+実行はできていない→33%、何をすべきかわからない→41%)であった。3年次は、学部卒業後の進路(設問 139)で就職希望が 27%、大学院進学希望が 51%で、さらに将来の見通し(設問 140)を持っている学生は 73%

(内訳：何をすべきかわかっている＋実行している→11%、何をすべきかわかっている＋実行はできていない→38%、何をすべきかわからない→24%)であった。

3年次において、卒業研究を決めた基準(設問 131)は、「関心の深い研究内容」が最も多く、卒業研究で得られるもの(設問 132)には「専門的知識や技術」、「学問・研究への興味や知的好奇心」が最も多く挙げられ、研究によって何を得るべきかを認識できていることが窺える。研究環境(設問 133)として、設備、スペース、物品等ともに十分であるとする学生は54%であり、残りは、何らかの不足を感じている。また、大学在学中に経験したいこととして、専門分野をしっかりと身につける(設問 141)、専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる(設問 142)、就職意識の形成につながる教育を受ける(設問 143)に対して「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と考える率はそれぞれ95%、94%、97%と非常に高かった。さらに、課題解決の訓練(設問 146)、ディベートやプレゼンテーションの訓練(設問 147)、レポートや論文の指導を通じて、文章作成能力(設問 149)などを向上させたいと考えていることも読み取れた。

9 教養教育

平成28年に徳島大学の教養教育を担う部局として教養教育院が設立され、8年が過ぎた。教養教育院の現状と今後の課題を「令和5年度 学生の学修に関する実態調査」の結果をもとに、以下の4項目について考察する。

1. 徳島大学における教養教育

「大学に入学した時点と比べて一般的な教養が身に付いたか(問 42)」という問いでは、「大きく増えた」と回答した1年生が13%、3年生では18%だった(昨年度1年生11%、3年生17%)。昨年度とほぼ同じ数値であるが、昨年度と同様に学年進行とともに教養が身についたと回答した学生の割合が増えている。また、「文章表現の能力(問 53)」では、「大きく増えた」という回答が1年生で11%、3年生で13%であり、昨年度よりやや上昇している(昨年度1年生7%、3年生12%)。作文・レポートの能力の強化に関しては、入学前学習として令和3年度の新入生(現3年生)より「レポートの書き方講座」を行い、レポートの書き方について学ぶ機会を提供している。しかし受講している学部・学科は限られていることもあり、作文・レポート能力の教科は今後も大きな課題である。また「大学における教育に対して、何を期待しますか(問 69)」では、1、3年生とも1位は「社会に出て役に立つ知識・技術・技能」であり、次いで1年生では「資格取得に必要な知識」、「人生を支える幅広い教養」という順番だが、3年生では「人生を支える幅広い教養」、「資格取得に必要な知識」と2・3位が入れ替わっていた。大学生活を経て、教養を身に着けることの重要性

を意識してきたことも考えられる。「大学の教育で獲得できる知識・能力（問 70）」という問では、「一般知識・教養」と回答した1年生が58%、3年生が48%であったのに対し、「専門的な知識」という回答が、それぞれ78%、84%だった。これらは昨年度とほぼ同じ数値・傾向だった。学生は、大学で一般的な教養よりも専門的な知識を身につけたいと考えていることがうかがわれる。教養教育院としては、今後も学生に「人生を支える幅広い教養」として魅力的な授業を提供することが重要であると考えられる。

「大学の教育内容・環境に対する満足度（問 95）」では、教養教育に対する回答として、「とても満足」、「満足」と答えた割合の合計が、1年生で66%、3年生で45%だった。今年度から新型コロナウイルス感染症が第5類になり、教養教育の授業はほぼ対面で行われるようになった。そのため、教養教育の授業の多くがオンラインで行われた3年生に比べ、1年生の満足度が高かったと思われる。今後も、各学部のDPに合った内容で、学生が意義を感じ満足できるような教養教育の授業を展開していくことが重要である。

2. 教養教育科目の選択

教養教育の授業には「基礎科目群」や「外国語科目群」のようにクラスが指定されている授業もあるが、「教養科目群」や「創成科学科目群」では自分で所属する学部や学科の履修要件に合わせて自由に選択ができる授業も多い。その場合の「選択基準」を尋ねた問108（複数回答）では、「好きな科目や面白そうな科目」と回答した1年生が65%（昨年71%）、3年生が63%（昨年63%）と、昨年と同様に高い数値を示した。また「単位のとりやすい授業」という回答は1年生で44%（昨年42%）、3年生で41%（昨年43%）だった。「教養教育科目の選択に当たって重視した情報源（問109）」では、「履修の手引きやシラバス」が1年生で82%（昨年83%）、3年生で75%（昨年50%）と最も高く、「先輩からの助言や情報」が1年生で57%（昨年50%）、3年生で47%（昨年30%）だった。「友人からの助言や情報」という回答は「先輩からの助言や情報」よりいずれも約10%少なかった。今年度の1年生は昨年度と同様に、単位の取りやすい授業よりも自分の興味で授業を選んだ傾向がある。そのための情報源として、先輩や友人からの助言よりシラバスが優先されている。これは新型コロナウイルス感染症のため、先輩・友人からの助言を得る機会が少なかったことも考えられるが、教養教育院が推進しているシラバス内容の充実の成果（すべての教養科目のシラバスチェック等）も現れていると考えられる。また教養教育院は、新入生に対する履修相談会を複数回行い、新入生の教養教育の履修に関して助言を行っている。今後も履修相談、履修の手引きやシラバスの充実を通じて、学生の授業選択をサポートしていくことが重要であろう。

3. リメディアル教育

徳島大学の教養教育では、高校で数学や理科の科目で未履修、あるいは大学での学修に不安のある学生のために、リメディアル科目（数学、物理学、化学、生物学、英語）を高大接続科目として開講している。「高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後にどのように勉強したか（問 75）」という質問に対し、1、3年生ともほぼ同じ選択肢の順の回答となった。最も多かったのは、「支障を感じないので何もしていない」で、1年生、3年生でそれぞれ35%、42%（去年は37%、44%）だった。また、「高校の教科書、参考書を使い、勉強した」はそれぞれ1、3年生で26%、25%（去年は28%、27%）、「教養教育のリメディアル科目等を受講した」は26%、26%（去年は25%、22%）だった。これらの数値は昨年度からほとんど変化せず、1年生に関しては、学生自身の努力、あるいはリメディアル科目を利用することにより何らかの対応をしていることがわかる。他方「勉強の必要性を感じたが、何もしていない」という学生はそれぞれ13%、11%（昨年度は12%、11%）存在している。これらの学生は専門での学修に困難をきたす可能性もある。教養教育院は、新入生オリエンテーションで行われる理科・数学の高校復習テスト（希望した学部・学科のみ）の成績を学部へ報告し、学部は成績が不振な学生に対しリメディアル科目の受講を勧めているが、さらに学部と協力してこれらの学生に適切な働きかけを行う必要があると考えられる。

4. 語学教育

教養教育院では語学教育として、英語と初修外国語の授業を提供している。「(入学時と比較した) 外国語の運用能力 (問 54)」という問いでは、「大きく増えた」、「増えた」と回答した学生が、1年生 41%、3年生 35%であるのに対し、逆に「減った」、「大きく減った」がそれぞれの学年で12%、24%だった。これらの数値は昨年度とほぼ変わらない。大学入学試験対策としての英語学習から、大学での英語の学修へ切り替えが上手くできていない学生が少なからず存在すると考えられる。さらに学年進行とともに語学力が低下したと感じる学生がある程度（3年生の24%）存在することは大きな問題である。徳島大学は、全学で語学マイレージ・プログラムを展開して語学力の向上に努めているが、学部によっては、語学マイレージ・プログラムの修了が危うい学生も存在している。そのため、教養教育院では、学生の語学力の向上を目指したさまざまなプログラム（語学教育研究センターのプログラム等）を実施している。また昨年度より、英語の高大接続科目（リメディアル授業）も開講した。学生に対し、多くの学修機会を提供するとともに、いかにして語学学習に対

するモチベーションを持たせるかが大きな課題であると考えられる。

英語の「聞く、読む、会話、表現、書く」という技能の自己評価についての間 76-80 では、1年生は最低のレベル (A1) を選択した学生が、入学時と比べて10月の段階ではすべての技能で減少したものの、高いレベル (C2、C1) を選択した学生の割合にはほとんど変化が見られなかった。これは、入学後の英語学修により英語力のある程度の底上げは見られたが、高いレベルに達するほどではないと考えられる。3年生では、A1 を選択した学生の割合が昨年同様すべての技能で1年生より多く (1年生の1.2-1.8倍)、1年生の時の英語の技能が3年生では低下した、あるいは英語に対する自己評価が3年生では1年生より低くなったことが感じられる。「英語の学習方法 (問 81)」では、1年生は「授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強」が最も多く33%、「TOEICなどの参考書・問題集を購入して定期的に勉強」が28%となっていたが、「特に何もしていない」も30%だった。3年生では、驚いたことに「特に何もしていない」が最も多く45%と全体の半数近くであり、次の「TOEICなどの参考書・問題集を購入して定期的に勉強」が30%、それ以下は20%未満の結果であった。この結果から3年生ではあきらかに英語の学習が疎かになっていることが読み取れる (下記問 83 参照)。徳島大学では、1、3年生はTOEICやTOEFLという外国語技能検定試験を受けることになっている。しかし語学マイレージ・ポイントが700ポイントに達した学生が受験を止めるせいか、3年生での受験率が1年生に比べ極端に悪くなっている。今後は、高学年での語学教育の強化が急務であると考えられる。そのためには、教養教育と専門教育の英語の連続性をさらに強化する必要がある。

「徳島大学における英語の授業についての質問 (問 83)」では、1、3年生とも「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分」という回答が他の選択肢に比べ圧倒的に多く (ともに51%、45%)、学生は現在の大学の英語教育に満足していることがうかがえる。次いで1年生では、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やして欲しい」、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やして欲しい」がそれぞれ17%、15%と続いた。3年生では「専門教育の英語の会話」、「ネイティブスピーカー」がそれぞれ17%、16%だったが、「もっと授業数を増やして欲しい」および「専門教育の英語の時間を増やして欲しい」の合計が31%と高学年での英語教育を希望している様子がはっきり現れていた。これは問 76-80 であきらかになった、学年進行とともに英語の技能に自信がなくなってくることに對する学生の反応であろうと考えられる。

全体として、学生は大学で提供されている語学教育に満足をしているが、語学力や英語に対する意欲が入学後に低下したと感じている学生が特に高学年で多い。教養教育院としては、語学の授業内容の見直しや、語学教育研究センターのプログラムの充実、学部との連携

を図る等の必要があると考えられる。

10 FD (Faculty Development) の観点から

本年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、多くの授業が対面で実施されるようになった。その背景の1つとして、学生が卒業に必要な単位数のうち、オンライン授業に関する上限の特例措置が撤廃されたことで、年度当初は対面授業を推奨する方針が掲げられていたことがあると考える。しかし、学内の調査によってオンライン授業の数は上限に達することなく、今後は柔軟に授業方法を選択することができるようになると思う。授業の目的や内容を踏まえ、学生の学修効果を考えた際には、オンラインが効果的な場合もあり、オンラインや対面を戦略的に選択し、授業の中で組み合わせたり、オンライン環境を活かしたりした授業を展開していく必要がある。ここでは、学生が経験する授業に変化が起きたのか、また満足度に変化があったのかについて「1. 学生の授業での経験・満足度」について考察を行う。また、令和4年度から実施している「教学アンケート」の1つである、本学の教員を対象とした「教員アンケート」と、学生を対象とした本調査で統一した設問が設置されており、学生の自己評価、教員による他者評価を比較することができる。ここでは、比較可能な21項目に焦点を当てて、「2. 学生が身に着けた能力や知識」について考察する。

1. 学生の授業での経験・満足度

大学の授業における経験を問う設問(問4~33)では、令和4年度は令和3年度に比べて、「4. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ経験」、「20. 授業課題のために図書館の資料を利用した」、「24. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした」などの項目について、肯定的な回答の割合が10ポイント以上増加していたが、令和5年度と令和4年度ではほとんど差は見られなかった。この中で、3年生調査の「12. 授業中に学生同士が議論をする」については肯定的な回答の割合が、令和4年度から16ポイント上昇し70%、「26. 授業を欠席した」については肯定的な回答の割合が、9ポイント上昇し38%であった。1年生の調査においても「12. 授業中に学生同士が議論をする」については、肯定的な回答の割合は令和4年度から70%を超えており、令和5年度も76%であった。また、教育内容・環境に対する満足度を問う設問(問95~131)では、1年生の調査では多くの設問で令和4年度と比較して肯定的な回答の割合が高くなっていた。3年生の調査では令和5年度と令和4年度でほとんど差は見られなかった。

これらの結果から、対面授業が増加したことで、コロナ禍に課題となっていた「教員と学生、学生同士のコミュニケーション」がとりやすくなり、1年生の満足度の上昇につながっていたと考える。また、学生同士で議論を行う授業についても、1年生、3年生がともに増

加しており、対面授業のメリットを活かした授業が展開されるようになったことが窺える。全学FD推進プログラムもワークショップ型のプログラムは対面で実施しており、実際にアクティブラーニングを体験しながら授業設計の方法やティップスを修得できる機会を提供している。また、昼休みに気軽に参加できるFDプログラムとして実施している「授業について考えるランチセミナー」では、さまざまな具体事例を紹介し、実践者や学生に出演してもらうことで生の声を届けている。本学の多くの教職員が参加しており、引き続き開催していく予定である。

2. 学生が身に着けた能力や知識

上述の「教員アンケート」と本調査の設問では、21問の統一設問が設けられている。これらの21項目(42、43、44、45、47、48、49、51、52、53、54、55、56、60、62、63、64、65、66、67、68)は、本学の多くの学部・学科のDPに学習目標として掲げている項目や、企業が卒業時に求めている能力を示している。本調査では「入学時点と比べてこれらの知識や能力はどのように変化したか」を問う設問であり、教員アンケートでは回答者(教員)が指導する主な学生(学部・学科・学年)を想定したうえで「その学生は、これらの知識や能力は身につけていると思うか」を問う設問である。ことから、単純に比較して結論付けることはできないが、FDのアイデアを考える1つの資料になる。

まず、「5. 大きく増えた」、「4. 増えた」と回答した肯定的な回答の割合について1年と3年で比較したときに、13項目で3年の方が高く、8項目で1年の方が高かったが、その割合についてほとんど差はなかった。これは令和4年度とほぼ同じ傾向である。次に21項目の中で肯定的な回答の割合が高い5項目を抽出すると、1年、3年ともに「42. 一般的な教養」、「43. 分析力や問題解決能力」、「44. 専門分野や学科の知識」、「64. 必要な情報を収集・取捨選択する能力」、「65. データを読み、理解し、活用する能力」である。特に「42. 一般的な教養」や「44. 専門分野の理解」は肯定的な回答が80%以上である。教員アンケートにおいても、学生がどの程度見についたかを問う5件法の設問で、「5. とても身につけている」、「4. ある程度見につけている」と回答した肯定的な回答の割合が高い5項目は、学部、大学院共に本調査と全く同じ5項目であった。このことから、学生、教員共にこれらの能力は身につけていると感じていることが分かる。その要因として、これらの能力は大学で学習、研究していく上で根幹となる能力であり、それぞれの授業や課題等を通して育成しており、日常的に学生、教員が、学習、教育に取り組んでいる成果であると言える。

一方で、21項目の中で肯定的な回答の割合が低い5項目を抽出すると、1年生、3年生ともに「49. リーダーシップの能力」、「54. 外国語の運用能力」、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」、「52. 国民が直面する問題を理解する能力」、「60. グローバルな問題の理

解」である。教員アンケートにおいても、同設問の肯定的な回答の割合が低い5項目は、学部、大学院共に本調査と全く同じ5項目であった。これも令和4年度と同じ傾向であり、学部・学科のDPに学習成果として掲げているが個々の授業では育成することが明示されていない項目である。これらは学部・学科、大学としては、カリキュラム全体で育成していくことが求められる能力であると考ええる。

令和5年度は、教学アンケートで統一して掲げている21項目のうち、学生の学修に対する自己評価と教員から見た他者評価の肯定的な回答の割合が高い5項目、低い5項目がともに一致しているところが特徴的であると言える。高い5項目については、教員個人がそれぞれの授業の中で積極的に育成することに取組んでいる結果であり、低い5項目については、個別の授業ではなく学部・学科の教育プログラムで対応していく必要がある項目であると考ええる。全学FD推進プログラムでは、学部・学科の教育プログラムの評価・改善を目的としたミドルレベルのFDについても取り組んでおり、歯学部では、令和2年度から教務委員会委員、教育プログラム評価委員会委員、FD委員会委員が協働して、教育プログラムの評価・改善に向けた取組を実施している。上述した能力の育成は、授業の枠を超えて取組むものであり、個々の授業担当者の努力のみでは対応できないものである。歯学部のように複数の関係者が協働して取組むことが重要であり、徳島大学全学FD推進プログラムにおいても、ミドルレベルのFDとして、継続的に学部・学科の支援を行っていく予定である。

11 eラーニング

本項では、本学におけるICTを活用した学修の実質化について、eラーニングの活用という観点から、結果を概観し、併せて今後の課題について考える。eラーニングの利用実態、eラーニングの効果、環境整備等の順で見えていく。なお、今回の調査は1年生と3年生を対象におこなわれており、1年生の結果からは、教養教育を主にした利用の実態が、3年生の結果からは専門教育等の利用の実態を知ることが出来ると考える。なお、回答率が全体で6割前後であることから、全学的を対象に考察するに留める。ただし、特徴的な点がある場合は、個別の事例について触れる。

本調査全体から、ICTを活用した学修が本学においてある程度定着していると考えられる。今回の調査からは、学年や部局による差は見られないと考えられる。eラーニングのサービスは教育のインフラとなっており、学生は現状に一定満足していると思われる。一方で、有用性について明確な実感を持ってない（どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない）と回答した学生が、少数ではあるもののいることも事実である。このことは、学修へのICT利用が進む中、情報機器を使いこなしている学生と、なじめない学生が存在する二極

化の発生を示している。Chat GPT の出現に我々が驚いたように、情報通信技術は、今後も、ますます発展する。本学においても情報を活用する学修環境の整備に努めなければならない。また、活用に不安を感じる学生へのサポートを充実させなければならない。

e ラーニングの利用実態

まず、e ラーニングの利用実態から見てみる。問い 131（3 年生は問い 134）は、本学が提供する e ラーニングサービスの利用の傾向についての質問である。ここから e ラーニングの利用実態を知ることができる。1 年生と 3 年生の間に大きな傾向の違いはみられない。本学が提供する全学 LMS サービスである manaba に関して、1 年生、3 年生とも 7 割程度の学生が利用したと答えている。2020 年度以降は、COVID-19 感染拡大の影響を受け、ほとんどの学生が何らかの形で manaba を利用しており、利用を認識できていない学生の存在は、e ラーニング、LMS といった言葉に対する理解、つまり、情報リテラシーの実態の一端を示すと考えられる。また、1 年生、3 年生ともに 2 割程度の学生が Moodle を利用していると答えている。1 年生は四国地区の大学が共同で教養教育科目を提供している知プラ e 事業の利用と思われる。3 年生は、地プラ e 科目と、一部の専門科目の利用と思われる。この項目において、薬学部 1 年生で 5 割を超える学生が Moodle を利用している結果は特徴的である（地プラ e 科目の履修が推測される）。さらに、スーパー英語は、1 年生、3 年生ともに 4 割程度の学生が利用しており、語学マイレージ制度に対し一定の理解が得られていると思われる。一方で、高校との学修の接続を調べた問い 75 から本学のリメディアル教材の活用について知ることができる。1 年生、3 年生と傾向に違いは見られず、リメディアル教材を活用したと答えた学生は 1 割を下回っている。部局により多少差がみられ、推薦入学制度等の違いから生じていると想像される。高大接続の点から、入学前の学習の充実は必要であると思われる。

問い 130 以外の項目においても、e ラーニングの利用実態について知ることができる。授業の課題作成に Web を利用したかを調べた問い 21、および課題配布や提出にインターネットを利用したかを調べた問い 22 について確認する。どちらの回答からも、資料の配付・課題の提出や授業の調べ物に Web が広く活用されていることが分かる。調べ物としての Web の活用は、1 年生、3 年生どちらも 9 割以上の学生がおこなっている。資料の配付や課題の提出も、1 年生、3 年生とも 9 割以上の学生がインターネットを利用している。また、学修の情報源について調べた問い 72 では、1 年生と 3 年生ともにインターネットを各種の情報源の中から一番多く挙げており、9 程度の学生が情報源としている。学生にとって学修への ICT 活用は日常となっている。インターネットは有益なツールであるものの、フェイクニュースを見極める能力や、生成 AI 等を用いた安易なコピペによる剽窃をおこなわない倫理観

等、ネット利用におけるリテラシーの必要性はますます高まると考えられる。

eラーニングの効果

次に、eラーニングの利用によってもたらされる効果について確認する。コンピュータの操作能力の向上について調べた問い 58、情報を収集・取捨する能力の増減について調べた問い 64、データの理解や活用能力の増減について調べた問い 65 の3つの問いについて見る。いずれの質問も肯定的な答えは1年生と3年生の間で差は見られない。コンピュータの操作能力については8割前後の学生が、情報の収集・取捨選択の能力については7割以上の学生が、データの利活用の能力については7割以上の学生が増えたと答えている。コロナ禍以降、学修の中で日常的に情報機器を操作する必要に迫られたことから、多くの学生が操作能力や利活用能力の向上を意識したものと考えられる。以上のようなことから、本学のeラーニングの活用は、LMSの利用を中心に、普段の授業で利用されていることが分かる。eラーニングは、日常の授業の調べ物、資料の配付、課題の提出に広く活用されている実態が理解される。

また、学生はeラーニングを用いた学修をどのように捉えているかを見てみる。問い132（3年生は問い135）のeラーニングが学修に役立つかという問いに対し、1年生と3年生の間に変化はなく、6割以上の学生が役立つと答えている。学生はeラーニングを肯定的に捉えていることが分かる。問い133（3年生は問い136）のオンライン科目を今後増やした方が良いかどうかというeラーニングへの期待に対する質問について、1年生は5割程度、3年生は4割程度の学生が増やした方が良いと答えている。また、大学での教育において獲得を期待する能力について質問した問い70では、1年生と3年生の間で傾向に差は見られない。2割程度の学生が情報機器活用能力の獲得を挙げている。教養、専門知識、コミュニケーション能力、問題解決能力と比べるとやや低いものの、情報活用能力の習得に一定の対意欲が存在していることが分かる。問い132、問い133、問い70から、学生は本学のeラーニングのサービスに満足と期待していることが分かる。また、情報活用能力の必要性を理解していることも分かる。

eラーニングの環境整備

本学の提供するeラーニングについて、環境的な面から、学生がどのように受け止めているのかを見てみる。問い116の本学コンピュータ施設や設備の満足についての質問では、1年生と3年生のともに4割程度の学生が満足と答えており、1年生と3年生の間に差は見られない。3年生の方が、不満と答えた学年の割合が多いように思われる。問い117のコンピュータ利用の支援についての質問では、1年生と3年生のともに4割程度の学生が満足と答えている。3年生の方が、不満と答えた学年の割合が多いように思われる。問い118の

本学のインターネットの使いやすさについての質問は、1年生と3年生のともに4割程度の学生が満足と答えており、1年生と3年生の間に差は見られない。3年生の方が、不満と答えた学年の割合が多いように思われる。3つの問から、本学の情報機器の環境整備や支援体制に対し、多くの学生が現状に満足していることが分かる。本学は2019年度にBYODを実施し、今回の調査対象となった学生はBYOD導入以降に入学した学生である。一方で、3つの問いは、3年生になると不満と答える学生の数が増加しているように見える。これは、3年生になり大学に慣れることで、本学の各種のサービスを客観的に捉えられるようになることに依るのではないかと思われる。

12 附属図書館

読書傾向（問40）を見ると1週間に1時間以上読書をするという学生が、1、3年生共に25%程度となっている。読書についての考え（問125）では、「もっと読書をしたいが、時間がない」とした学生が、1、3年生共に50%前後みられ、学年であるにもかかわらず読書のための時間をとれない様子がうかがえる。また、読書の習慣のある学生が約10%いる一方で、読書の必要性を感じない学生も10%ほどいるため、読書習慣のある層を増やすとともに、無関心な層への読書推進の働きかけが継続的な課題である。特に「もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない」層については、図書展示・推薦図書の紹介などの広報活動により、読書への意識が高まる可能性がある。また、自分自身のための学修として実行や計画していること（問74）として、「教養や社会問題の理解に役立つ読書」とした学生が1、3年生共に20%強存在し、教科書、専門書以外の図書についても需要があることがうかがえる。

図書館の資料の利用（問20）については、1、3年生共に約半数の学生が授業課題のために図書館の資料を利用したことが「頻繁にあった」「時々あった」と回答している。調べ物をするときの情報源（問72）として図書館の書籍・文献（電子版を含む）をあげている学生の割合は35%前後となっている。また、附属図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）への満足度（問114）を見ると、1年生の85%、3年生の約60%が「とても満足」もしくは「満足」と回答している。授業課題解決のための場所として、調べものをするための情報源として図書館を利用し、図書館の設備等についても評価されていることがうかがえるが、3年生については、令和2年度以降のコロナ禍による図書館利用の制限の影響により、図書館サービスについて十分理解されていないことが考えられる。高学年の学生は、卒業研究等に向けて図書館の活用が有効となることから、より一層の利用支援の対策が必要である。

学修支援サービスの利用（問 124）については、昨年度と同様 1、3 年生共にグループ学修スペースの利用が最も多い。一方で、どのサービスも利用していないという学生が 1 年生で約 50%、3 年生で約 55%存在する。本設問には自学自習などを目的とした利用は含まれず、図書館の利用動向全体を示すものではないが、広報活動等により学修支援サービスの内容を周知することにより、利用動向の多様化と満足度の向上が図られる可能性がある。

なお、関連する質問として、教科書の購入（問 73）については、図書館などの本を利用する割合は 1 年生では数%と少ないが、3 年生で 10%弱となっており、教科書が高価であるとの回答が増加していることから、図書館の資料が活用されていると考えられる。また、英語の勉強（問 81）については、1、3 年生共に 10%前後が図書館等を活用して勉強していることから、図書館が一定の役割を果たしていることがうかがえる。

第3章 まとめと提言

学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに就学指導に資する基礎資料を得ることを目的とした本調査は、今回で9回目となった。これまでに「学生の学修に関する実態調査」として平成19、22、25、28年度と3年に一度実施され、令和元年度に行われた第5回調査以降、大学IRコンソーシアムの学生調査に参加し、1年生、3年生を対象に毎年実施している。第9回調査では、各種項目の質問文や選択肢の内容について見直しを行った。成績分布の確認についての認知度を問う設問では質問文と選択肢の内容をより簡潔にする修正を行い、カリキュラムマップと科目ナンバリングについて問う設問では、回答する学生にとってわかりやすい内容となるよう質問文の表現を見直すなど、より円滑かつ実質的なアンケートの実施が実現するよう調整を行った。

本調査の回答率は、1年生は60%で過去3回分と比較すると、減少している(第8回62.5%、第7回66.7%、第6回67.3%)。3年生は56%であり、過去3回分と比較すると増加している(第8回52.3%、第7回51.4%、第6回50.1%)。

1. 学生の卒業後の進路について

学部卒業後の進路については、1年生全体で7割程度の学生が就職又は進学を希望している。理工学部、生物資源産業学部の学生は、就職よりも大学院への進学を希望する傾向にある。総合科学部と医科栄養学科以外の医学部、歯学部口腔保健学科、薬学部においては大学院進学よりも就職を希望している学生が多い。こちらは例年似た傾向である。3年生になると全体の8割程度で就職または進学を希望しているが、1年生に比べ就職希望の割合が高くなっているのが特徴である。

本学においては大学院進学率が低いことが目下の課題である。大学院の内部進学者を増やすべく、現在、様々な対策について実施検討を行っている。広報面からは学部生の早い段階から大学院進学の意義、魅力の発信を行うなどのアプローチを試みているが、このほかにも、大学院の内部進学を決めた学生がどのような動機で意思決定を行ったのか、調査検証する必要があるだろう。

2. 大学教育への期待について

大学教育に何を期待するか(設問:69)について問うた質問では、1年生全体では「社会に出たとき役に立つ知識・技術・技能」が最も多く、次いで「資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位」、次いで「人生を支える幅広い教養」という結果となった。資格取得が必要な学部については、「資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位」が多い傾向にある。3年生で

は「人生を支える幅広い教養」を期待する意見が「資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位」を期待する意見より僅かに上回った。学年を経て、教養を重視する意見が増加することは重要な動向であろう。

大学の教育によって獲得が期待できる能力(設問:70)について問う設問では、1年生・3年生ともに「専門的知識」、「一般的知識教養」、「コミュニケーション能力」、「課題発見・解決力」、「チームで目標を達成するマネジメント能力」と続いた。これに対して「語学力」「討論する能力」「情報機器を活用する力」「論理的な文章を書く能力」を期待する意見はいずれの学年も 10～20%程度となっている。知識を身につけるだけでなく、これらを運用する能力を身につけることも重要であり、改善の余地がある。

3. 大学で身に付けた知識・能力について

全学のディプロマポリシーに関連した項目である「入学時と比べて能力や知識がどのように変化したか」(設問:42～64)について、1年生では、「リーダーシップの能力」62%、「地域社会が直面する問題を理解する能力」46%、「国民が直面する問題を理解する能力」46%、「外国語の運用能力」45%、「プレゼンテーション能力」44%、「グローバルな問題の理解」46%が入学時と「変化なし」と回答している。3年生は「リーダーシップの能力」51%、「地域社会が直面する問題を理解する能力」48%、「国民が直面する問題を理解する能力」50%、「グローバルな問題の理解」51%が入学時と「変化なし」と回答しており、おおよそ1年生と同様の傾向である。

本設問群についてはディプロマポリシーと関連付けた設問であることから、こちらの能力について知識や能力が増えたとの回答を得られるようなカリキュラムレベルでの対応が必要である。

4. 授業時間外学修について

1年生の1週間あたりの授業時間外学修(設問:35)について、「3～5時間」が 32%で最も多い。次いで「6～10 時間」27%である。1日あたり1時間以上(週7時間以上となる選択肢を選択した割合、選択肢構成の都合上「6～10 時間」以上を選んだ割合)授業時間外学修に取り組んでいる学生の割合は 43%程度、反対に週7時間未満である学生の割合は 57%ということになる。3年生は「3～5時間」が 27%で最も多く、次いで「1～2時間」22%、「6～10 時間」19%となっている。

大学設置基準において、授業時間外学修も含めた1単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することと規定されている。令和元年 12 月に大学教育委員会で制定した「授業時間外学修の増加と自学自修を促すための授業ガイドライン」を参考に、授業時間外学修を促す取組が求められる。

授業時間外学修に割く時間が少ない状況があるなかで、学生がどのようにその他の時間を費やしているかに注目される。週7時間以上費やしている割合について3年生の結果をみると、「部活や

同好会への参加」(設問 38)が 24%、「アルバイトや仕事」(設問 39)が 58%、「個人的な趣味活動(テレビやゲーム、映画観賞など)」(設問41)が52%となっている。「個人的な趣味活動」の割合が同程度の割合であることには留意すべきだが、「アルバイトや仕事」についての割合が高いことを鑑みると、経済的な困難が学生の学修時間確保を困難にする一つの要因となっている可能性がある。本学には奨学金の貸与や授業料免除の制度など学生支援の様々な制度がある。学生生活実態調査の結果も活用し、学生支援の方策を行き渡らせる工夫が求められる。

また学生支援の取組の一つである「オフィスアワーの活用」(設問 37)についても課題が残った。「全然ない」の割合が高く(1年生:81%、3年生:75%)、あまり活用されていないのが現状である。

またクラス担任制満足度について(設問:123)、1年生、3年生ともに5割の学生が「どちらでもない」と回答している。「満足した」と回答した学生の割合が4割程度、不満足であったとする学生が1割程度であることから、約半数の学生は満足・不満足の感想を持つことが無い、つまり活用していない状況にあるのではないだろうか。

「オフィスアワー」「クラス担任制」はいずれも学生が大学の環境に適応し、学習環境を整えるために重要な役割を担った制度である。「大学における学生生活の充実方策について(報告)―学生の立場に立った大学づくりを目指して―」(平成 12 年、文部科学省)では「入学の時点から卒業まで教員と学生が人格的にふれあい、修学上の助言や学生の個人的な相談に乗ることなどを通じて、教員が学生をきめ細かく指導するチュートリアル・システムを積極的に導入することが重要である。」とも述べられている。「教員に親近感を感じた」について(設問:33)、1年生は 64%の学生が「あまりなかった」「全くなかった」と回答しており、3年生は 59%の学生が「あまりなかった」「全くなかった」と回答している。学生に積極的に活用することを働きかけるとともに、支援を行う側の教員にも本制度の周知を行い、より実質的な取組となるようご協力いただくことが肝要となる。

5. 教養教育の授業について

教養教育科目の授業の難易度について(設問:112)、1年生は「適切」との回答が 80%、「もっと易しく」との回答が 11%、「もっと難しく」との回答が7%であった。3年生は「適切」との回答が 80%、「もっと易しく」が7%、「もっと難しく」が 10%であった。教養教育への満足度(設問 95)に関する設問においては、1年生の肯定的意見(「とても満足」と「満足」の回答を合わせたもの)は 66%、3年生の肯定的意見も 60%と、過半数に達している。「どちらでもない」の意見が3割程度であることを考慮すると、満足度の水準は高い状態にあると言えよう。教養教育科目の選択基準(設問:108)に関する設問では、1年生・3年生ともに「好きな科目や面白そうな科目」が最も多く、続いて「単位を取りやすい科目」、「広い教養を身に付けるため」という理由が挙げられている。所属学部によって教養教育科目の履修選択の自由度が異なることから、「単位の取りやすさ」が求められる現状があ

る。カリキュラムの見直しも視野に入れたプログラム評価の取組が求められる。

6. 専門教育の授業について

専門教育科目の授業の難易度について(設問:113)、1年生は授業内容の水準が「適切である」との回答が78%、「授業内容の水準をもっと高度にすべきである」との回答が7%、「もっと易しくすべきである」が13%、3年生では、「適切である」との回答が77%、「もっと高度にすべき」との回答が8%、「もっと易しくすべき」との回答が11%であった。

専門教育に対し概ね高い満足度が得られているが、専門教育科目の授業を受けて学ぶことができること(設問111)においては、「社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った」とする意見が全学的に20%程度と低い。日々の授業で学ぶ知識や技術がどのように社会とつながっているのか、社会との関連性についても説明を重ねる必要があるだろう。

7. カリキュラムマップと科目ナンバリングの認知度について

カリキュラムマップの認知度について「知っており、見たことがある」と回答した学生が1年生、3年生ともに5割程度であり、昨年度より微増となった。「知らない」と回答した学生は、昨年度は1年生39%、3年生26%であったが、今回の調査では1年生25%、3年生19%と、ともに改善した。

科目ナンバリングの認知度についても、「知っており、見たことがある」と回答した学生が、1年生、3年生ともに50%程度であり、1年生34%、3年生40%の認知度であった昨年度より知っている割合は増加した。「知らない」と回答した学生は、昨年度は1年生30%、3年生33%であったが、それぞれ23%・19%へと減少した。

令和4年度からカリキュラムマップや科目ナンバリングの認知度について、大学教育委員会で問題提起をしており、各部局で対応をした結果、少しずつではあるが改善の傾向がみられる。引き続き、新入生や年度当初のオリエンテーション等で周知を行い、長期的な学修の方向性の確認や年度毎の履修計画の立案に有益であることを理解してもらうよう努める必要がある。

8. 英語の学修について

どのように英語の勉強を行っていますか(設問:81)について、1年生は「授業で使用している教科書、英語論文を勉強」が32%と最も多く、続いて「特に何もしていない」30%、「TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している」28%となっている。3年生は、「特に何もしていない」が43%と最も多く、続いて「TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している」32%、「TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している」17%、「授業で使用している教科書、英語論文を勉強している」13%となっている。

本学の英語の授業についてどう思いますか(設問:83)について、1年生、3年生ともに、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」との回答が最も多く、続いて「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」となっている。3年生は「専門教育の英語の時間を増やしてほしい」「もっと授業数を増やしてほしい」との回答が続いている。

必修科目として英語を履修している1年生に対し、授業として英語を学習する機会が少ない3年生とでは英語の勉強へのモチベーションや勉強の取り組み方に違いが現れている。高学年次の語学の学修時間の確保は課題であり、英語の授業時間や専門英語の時間を増やしてほしいとの声が上がっていることから、対応策が求められる。「入学した時点と比べてあなたの能力がどのように変化しましたか」の設問の中の外国語の運用能力(設問 54)について、「変化なし」や「減った」「大きく減った」と回答した3年生が「増えた」「大きく増えた」より回答が多いこともその証左であろう。本学の語学マイレージ・プログラムの内容についても現在改善にむけた検討を行っている。対応策を実行した結果、どのように改善されていくか注視する必要がある。

9. eラーニングについて

本学ではeラーニングサービスとして、Moodle(全学対象、知プラe)、manaba(全学対象)、スーパー英語(全学対象)のほか、各学部やコースで提供されているものがある。eラーニングサービスの利用状況(設問 131)については、1年生は「manaba(全学)」が67%と最も多く、次いで「スーパー英語(全学)」41%、「Moodle(全学)」32%と続いた。これに対し3年生も利用したことがあるサービスの順位は同じであったが、「manaba(全学)」が74%、「スーパー英語(全学)」46%と1年生よりもやや割合が高い結果であった。一方「Moodle(全学)」は17%と、1年生より大きく低い結果となった。

「eラーニングサービスは学修に役立つ」について(設問1年生:132、3年生:135)、1年生では「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生が63%、3年生では58%となり、満足度は6割程度となっている。コロナ禍では遠隔授業におけるeラーニングサービスがなくてはならないものであったが、コロナ禍を経て対面授業が解禁された現在でもeラーニングは活用されている。Moodleを活用した知プラe事業では四国国立五大学間で共同した授業を展開し、単位取得を認めているなど、これを活用する学生にも大きなメリットが得られる仕組みである。大学側はeラーニングサービスの活用を広報しつつ、引き続き学生の満足度が高くなるようなサービスを提供することが求められる。

10. 授業評価アンケートについて

授業評価アンケートの設問は授業改善に必要な内容であるについて(設問:1年生:134、3年

生:137)、「非常にそう思う」「そう思う」との回答が、1年生では56%、3年生では47%となっている。「どちらでもない」とする意見が1年生は27%、3年生は31%で得られており、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」とする意見はそれぞれ15%・18%であることを考慮すると、授業評価アンケートへの協力が授業改善に直接結びついているかどうかわかりづらい状況であることがうかがえる。フィードバックを丁寧に行ったり、意見を受けて対応した結果を公表したりするなど、アンケートが授業改善に役立っていると実感してもらえるような対応が必要である。

11. 大学教育全体の満足度について

学生が大学教育全体の満足度について100点満点で回答した設問(設問:1年生:135、3年生:138)について、1年生では71点以上が72%、3年生では71%であった。概ね満足しているとの結果である。一方、成績でいうところの「優」「秀」の割合は1年生が31%、3年生は27%に留まっている。教育改善や学生支援について改善点を洗い出し、本学全体の教育の質向上を図る必要がある。

最期となりますが、この調査の実施及び報告書の発行に際して、ご支援、ご協力いただきました、河野副学長、各学部教務委員長、教養教育院、図書館並びに関係者の方々に深く感謝いたします。今回の調査が大学教育改革の根拠データとして広く活用されることを願います。

教育の質に関する専門委員会委員長
常山 幸一